

言語記述論集 第13号

言語記述論集 第13号

目次

カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言における口蓋垂音 鈴木 博之・四郎翁姆	1
アムドチベット語色卡[gSerkha] 方言（道孚県）におけるチベット文語形式 との音対応 語彙リストを添えて 鈴木 博之	13
ベトナム北部民謡 Quan Họ Bắc Ninh にみられる母音挿入の「ゆれ」 —音楽に潜む制約ベースの文法知識— 山岡 翔	67
アイク語の談話資料：スクンバンの作り方 山本 恭裕	83
ミャンマーの「鼠の婿選び」：ジンポー語による民話テキスト 倉部 慶太	99
ミャンマーの「蛇婿入り」：ジンポー語による民話テキスト 倉部 慶太	113
明治期の八重山語の語彙資料『海南諸島單語篇』 セリック ケナン・麻生 玲子・中澤 光平	139
レプチャ語ガントク方言の音韻体系試論 西田 文信	179
タヤ・マ (Drag-yab sMar) 語巴俄 (mBengo) 方言の語彙資料（日英対照） 鈴木 博之・才讓三周・四郎翁姆	189
下地皆愛方言のアクセント体系に関する予備的報告 セリック ケナン	215
漢語福清方言における動詞の部分重複について 陳 学雄	291
マルマ語版・ミナ「私は学校がすき」 藤原 敬介	317
【書評】星泉・海老原志穂・南太加・別所裕介（編）『チベット牧畜文化辞典 （チベット語・日本語）』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、 2020年、x1+448pp. 藤原 敬介	355
ナガミーズ語の名詞修飾 村上 武則	367

カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言における口蓋垂音

鈴木 博之

四郎翁姆

復旦大学

ボン大学

キーワード：カムチベット語、Minyag Rabgang 方言群、口蓋垂音、年代差、スタイル

1 はじめに

本稿では、カムチベット語 Minyag Rabgang (木雅熱崗) 方言群 Lhagang (塔公) 方言¹に認められる口蓋垂音について論じる。これまで、青年層を対象にした記述言語学的研究において、Lhagang 方言では口蓋垂音が弁別的にも、音声変異的にも用いられないものとして記述されてきた (鈴木 2006; 鈴木、四郎翁姆 2016)。ところが、老年層からの語りの収集過程において、口蓋垂音が弁別的に用いられていることが分かってきた (Suzuki & Sonam Wangmo 2017c, 2018, to appear)。

Lhagang 方言が属する Minyag Rabgang 方言群の記述研究では、口蓋垂音を音体系に認める方言があり、たとえば鈴木 (2007) や達珍拉姆 (2020) などが記述している。Lhagang 方言をめぐっては、Dawa Drolma (2016) が口蓋垂音を記述している。また、Lhagang 方言の分布地域を取り囲むように分布するアムドチベット語にも口蓋垂音が認められる (鈴木 2015; Suzuki & Sonam Wangmo 2016, 2019)。

このような背景を考慮に入れると、筆者の語彙・文法調査の対象としてきた若年層の話す Lhagang 方言は、「口蓋垂音を失った」のではないかと考える。チベット系諸言語における口蓋垂音をめぐっては、さまざまな論考があり、歴史言語学的に注目されている。チベット文化圏東部には多くの非チベット系チベット・ビルマ諸語が話されており (Roche & Suzuki 2017)、羌語支に分類される諸言語には、口蓋垂音を含む子音体系をもつ言語が多い (黄布凡 2012)。このため、同地域で話されるチベット系諸言語における口蓋垂音はこれらの言語との接触によると考える研究がある (孫宏開、王賢海 1987)。一方、チベット系諸言語の古期の音体系をある程度反映していると考えられるチベット文語 (以下「藏文」) 形式には規則として口蓋垂音を表記する体系がないことから、藏文成立時に参考とされた自然言語には口蓋垂音が体系的に存在しなかったであろうことが示唆される。しかしながら、チベット文化圏東部に分布するチベット系諸言語には、口蓋垂音を音体系に含むものが少なからず存在する。筆者は、次のような3つのタイプに分類できると考える。

¹ 中国四川省甘孜藏族自治州康定市塔公鎮塔公村で話される言語である。Lhagang 方言の社会言語学的特徴の概観については、Suzuki & Sonam Wangmo (2015ab, 2017a) を参照。文法特徴の概観については、鈴木、四郎翁姆 (2016) を参照。

1. 摩擦音のみ、もしくは摩擦音に加えて音節末子音としてのみ閉鎖音も現れるもの
アムドチベット語諸方言に認められる(格桑居冕、格桑央京 2002:192; Haller 2004:19; 王雙成 2012; 海老原 2019:18; Tsering Samdrup & Suzuki 2019:258)。ただし、音韻分析の方法によっては、軟口蓋摩擦音に帰納する分析もある(華侃、龍博甲 1993:3; 邵明園 2018:24)。
2. 閉鎖音、摩擦音について、相当程度限られた語彙形式の初頭子音として現れ、かつ方言間で各語形式の意味が共通することが多いもの
独立した方言記述の一部として、rNgawa (阿壩) 方言(孫宏開、王賢海 1987; 鈴木、イエシエムツォ 2006)、Babzo (包座) 方言(鈴木 2007b)、Kusngo (石壩子) 方言(華侃、尕藏他 1997)、Rangakha (新都橋) 方言(鈴木 2007a)、sKobsteng (格登) 方言(鈴木 2013b)、gSerkha (色卡) 方言(鈴木 2015)、Thamkhas (塔格) 方言(Suzuki & Sonam Wangmo 2017d)、Rithog (日頭) 方言(達珍拉姆 2020) など。総論として、孫天心(1995)、Suzuki (2009:89-90)、黄布凡(2012) などがある。
3. 比較的多くの語彙形式に現れるもの
程章方言(意西微薩・阿錯 2008) や Myigzur (尼汝) 方言(鈴木 2014) がある。後者については、口蓋垂音の音対応関係がほぼ明らかであり、藏文で単独の初頭子音 k, kh, g をもつ形式のほとんどが口蓋垂音と対応する。

以上のうち、第1のタイプは口蓋垂音に規則的な藏文対応形式を認めることができ、かつ借用語(漢語、モンゴル語など)にも認められることから、その出現は音変化や借用の結果であると考えられる。しかし、第2のタイプのように、一定程度共通する語彙形式に藏文形式にさかのぼれない口蓋垂音が認められるという事実から、藏文とは異なって、古期に口蓋垂音が弁別的であったのではないかと考えられる。本稿では、詳細な比較は行わないが、将来の比較研究に資するように、Lhagang 方言における口蓋垂音をまとめて記述しておきたい。

2 Lhagang 方言の音体系

以下に Lhagang 方言の音体系を、音節構造・子音・母音・声調に分けて掲げる。子音体系には口蓋垂音も含める。

音節構造

最大の音節構造(分節音の配列)は次のようである。

$${}^c C_i GVC$$

このうち C_i (初頭主子音) と V (音節核の母音) が必須であり、 $C_i V$ を音節の最小構成とする。 c には前気音及び前鼻音が現れ、 G には/w, j/が現れる。

子音

主子音 (C_i) 位置に現れる要素の一覧は以下のようなものである。

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋 前 後	軟口蓋	口蓋垂	声門
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t ^h		k ^h	q ^h	
	無声無気	p	t	t		k	q	ʔ
	有声	b	d	d		g	g	
破擦音	無声有気		ts ^h		tɕ ^h			
	無声無気		ts		tɕ			
	有声		dz		dʒ			
摩擦音	無声有気		s ^h		ɕ ^h			
	無声無気	ɸ	s	ɕ	ɕ	x		h
	有声		z		ʒ	ɣ	ʁ	ɦ
鼻音	有声	m	n		ɲ	ŋ		
	無声	m̥	n̥		ɲ̥	ŋ̥		
流音	有声		l	r				
	無声		l̥					
半母音	有声	w			j			

母音

舌位置による一覧は次のようである。

i	u	ɯ	u
e	ə	o	
ɛ		ɔ	
a		ɑ	

母音には長短および鼻母音/非鼻母音が弁別的である。母音の長短と鼻母音/非鼻母音は互いに独立している。

超分節音素

語単位として、次のピッチパターンが認められる。

ˉ: 高平

ˊ: 上昇

ˋ: 下降

ˊˋ: 上昇下降

3 Lhagang 方言の口蓋垂音

3.1 具体例

筆者の記述に基づく限り、Lhagang 方言の口蓋垂音は老年層の語りの中に現れる。それらの若年層における対応形式と対照して、以下に整理する²。

語義	口蓋垂音を含む形式	口蓋垂音を含まない形式
[鳥の名前]	$\bar{q}\bar{o} \text{ t}\bar{c}\bar{o} \text{ ru}$	$\bar{k}\bar{o} \text{ t}\bar{c}\bar{o} \text{ ru}$
にわとり	$\bar{q}^o \text{ }^n\text{Go}$	$\bar{k}^o \text{ }^n\text{go}$
かわいそうな	$\bar{q}^h\text{o}?$	$\bar{k}^h\text{o}?$
異なる	$\text{'fi}a \text{ k}^h\text{e} \text{ t}\bar{o} \text{ q}\bar{o}$	$\text{'fi}a \text{ k}^h\text{e} \text{ t}\bar{o} \text{ k}\bar{o}$
ヤマウズラ	$^h\text{s}\bar{o}?\text{ qa}$	$^h\text{s}\bar{o}?\text{ ka}$
泥水	$\text{'t}\bar{c}^h\text{tu} \text{ }^n\text{i: } ^n\text{da: } \text{q}\bar{o}$	$\text{'t}\bar{c}^h\text{tu} \text{ }^n\text{i: } ^n\text{da: } \text{k}\bar{o}$
満ちた	$\text{'q}\bar{o}$	$\text{'k}\bar{o}$
野うさぎ	$\text{'r}\bar{o} \text{ q}\bar{o:}$	$\text{'r}\bar{o} \text{ }^y\text{o:}$
勅令	$^h\text{qa} \text{ }^h\text{o}?$	$^h\text{ka} \text{ }^h\text{o}?$

ほかにも、フィラーや擬音語にも現れる口蓋垂音があるが、音声学的なものである可能性もある(鈴木、四郎翁姆 2020) ため、除外した³。以上の資料が示すのは、口蓋垂音はそれをもたない話者の発話では軟口蓋音として実現されるということである。調音方法は「野うさぎ」を除いて閉鎖音として対応する。「野うさぎ」の場合、口蓋垂閉鎖音が軟口蓋摩擦音として実現される点で例外であるように見える⁴。

なお、老年層の発話では、筆者の収集した物語の中に限ってみた場合、口蓋垂音と軟口蓋音の間に次のような疑似最小対を認めることができる。

対象音節	口蓋垂音系列	軟口蓋音系列
$\text{q}\bar{o} / \text{k}\bar{o}$	$\text{'q}\bar{o}$ 「満ちた」	$^h\text{k}\bar{o} \text{ }^m\text{ba}$ 「足」
$\text{q}^h\text{o} / \text{k}^h\text{o}$	$\bar{q}^h\text{o}?$ 「かわいそうな」	$\bar{k}^h\text{o}$ 「彼/彼女/それ」
qa / ka	$^h\text{s}\bar{o}?\text{ qa}$ 「ヤマウズラ」	$^h\text{ka: } \text{bo}$ 「白い」

以上の例を踏まえると、口蓋垂音は軟口蓋音と音韻対立が認められるといえるが、口蓋垂音

² Dawa Drolma (2016) では、Lhagang 方言に口蓋垂音が認められる例として、 $/q^h\bar{a}/$ 「苦い」を記述している。これに対応する筆者の記述における表記では、 $/k^h\bar{a} \text{ mo}/$ となる(Suzuki & Sonam Wangmo 2015b)。筆者の収集した語りの中には、これに対応する語彙が含まれていない。蔵文では *kha mo* であるから、筆者の記録した形式は蔵文と対応している。一方、Lhagang 方言の周辺で話されるアムドチベット語では、 $/q^h\bar{a} \text{ mo}/$ (Shingnyag 方言、Suzuki & Sonam Wangmo 2016 ; gSerKha 方言、鈴木 2015) となる。

³ たとえば、ぶたの鳴き声を表す擬音語は、カムチベット語の多くの方言で、口蓋垂摩擦音で実現される。擬音語のみに現れる音声現象は興味深いものの、それを音体系に含めないという判断から、本稿での議論の対象から外す。

⁴ なお、口蓋垂摩擦音は、先の子音体系に示したように、有声音のみが現れる。ただし、擬音語類に現れることがほとんどである。

が現れる音環境は広母音または後舌母音に限定されているように見える。これが資料の不足に起因するものであるか音環境の制約に起因するものであるかは、現段階では不明である。

また、物語の語り手は確かに以上の語を言い分けるが、青年層の話者が口蓋垂音を軟口蓋音で発音しても、老年層の話者がそれを訂正することは、これまでの観察の限り、認められない。むしろ、日常会話では口蓋垂音であるべき音を軟口蓋音で発音することもある。青年層や中年層が口蓋垂音であるべき音を軟口蓋音で発音する実態を受け入れている可能性もある。

3.2 口蓋垂音の位置づけと解釈

先に口蓋垂音系列と軟口蓋音系列が対応することを示した。口蓋垂音をもたない話者の場合は単純であるが、筆者の収集した物語の語り手は、口蓋垂音をもつ話者であっても、日常会話では口蓋垂音を軟口蓋音と発音することがある。この現象をどのように解釈できるだろうか。

筆者の観察によれば、口蓋垂音が必ず現れるのは語りの形式による時のみである。語りと日常会話ではスタイルが異なり、形態統語の面で若干の違いが認められることは報告されている (Suzuki & Sonam Wangmo 2017b、鈴木、四郎翁姆 2019) が、スタイルが音体系にも影響しているといえるかどうかが問題である。そこで考えたいのが、語りの伝承に音変化を考えるとという視点である。語りは口承であるから、現在の語り手が物語を聞き覚えたときの語り手すなわち現在の語り手よりも上の世代では、口蓋垂音は弁別的であって安定して発音されていたと考える。しかし、現在の語り手は日常会話において口蓋垂音を軟口蓋音で発音することがあり、弁別体系の一部をなしているとはいえない状況にある。この語り手から見て、2世代下にあたる第2著者を含む世代を調査対象として語彙を記録すると、そこには口蓋垂音が音声学的変異として現れることもなく、完全に軟口蓋音に合流したものと理解できる。その一方、Dawa Drolma (2016) の指摘する Lhagang 方言に口蓋垂音をもつ語が認められるという点は、その調査対象とされる中年層において口蓋垂音をもつ層が存在することになる。

以上に述べたことを、世代別に簡潔にまとめると、次のように示すことができる。

世代	口蓋垂音の状況
青年層	完全に軟口蓋音と合流して、音声学的変異としても現れない
中年層	完全に軟口蓋音と合流した話者とそうでない話者が共存
老年層	弁別的であったが、日常会話では軟口蓋音と合流を始めた
より上の世代	完全に弁別的であった

先に述べたように、Lhagang 方言の属する Minyag Rabgang 方言群にも、同方言の分布地域の周辺で話される言語にも、口蓋垂音はそれぞれの方言の音体系に認められる。Lhagang 方言のみが特別な音変化を経ているとあってよい環境にある。Lhagang 方言が他の方言と顕著に異なるのは、方言間の言語接触の深度である。Lhagang 方言はそもそも定住民の話す言語であり、分布地域が一定である。言語接触の対象となるのは牧畜民が話すアムドチベット語⁵であり、

⁵ たとえば、鈴木 (2015) の記述する gSerkha 方言や Suzuki & Sonam Wangmo (2016) の記述する Shingnyag 方言などがあげられる。各方言の地理的な位置関係については、付録の地図を参照。

Lhagang 方言の分布域である塔公村に定住する者も最近の 20 年間で増えてきている (Sonam Wangmo 2019) もの、Lhagang 方言母語話者との往来については、定住よりも以前から交易や宗教行事などを通じて行われている。その結果、Lhagang 方言内部に一定の社会言語学的差異が生じている (Suzuki & Sonam Wangmo 2015b, 2017a)。しかしながら、社会言語学的差異が認められたとしても、青年層ではいずれの変種においても口蓋垂音は認められない (Suzuki & Sonam Wangmo 2015b)。口蓋垂音の弁別機能の消失に言語接触が影響している可能性がある一方、それを直接の原因と決定づけるには証拠が足りない⁶。

言語接触が口蓋垂音を失わせるという可能性については、参考事例が 2 つある。1 つは Suzuki (2008) の Ketshal 方言⁷である。Suzuki (2008) の記述では、口蓋垂音について閉鎖音系列が認められない体系を提示している。しかし、この記述は 1 人の話者を対象にして行われた調査に基づいており、周辺の諸方言の記述 (華侃、尕藏他 1997; 鈴木 2010) や Ketshal 方言の方言区域で今なお用いられる言語にも口蓋垂閉鎖音系列が認められる⁸ことから見て、口蓋垂閉鎖音系列をもつほうが自然であり、特定の 1 方言がそれをもたない、という見方は歴史言語学的、特に地理言語学的に説明を与えることは困難である。ここで問題になるのが、Suzuki (2008) の調査協力者の言語環境である。この調査協力者は言語形成期を Sharkhog 方言の区域で居住したものの、その後故郷を離れ、母語を用いない期間が長かった。その間に主に使用してきたものは共通チベット語 (蔵文 *spyi-skad*) であり、それに口蓋垂音は認められない。長らく共通チベット語の影響を受けた結果、口蓋垂音が軟口蓋音に合流した、という変化を個人語 (idiolect) として認めると、この現象には説明がつく。

もう 1 つは、鈴木 (2013a) の記述する九寨溝風景區周辺のチベット系諸言語である。この記述で取り扱う 6 地点の方言⁹のうち、3 地点でのみ口蓋垂閉鎖音が認められる。これら 6 地点は、それぞれ方言の系統的近さがあると考えられており、音韻や語形式について、多くの改新を共有している。しかし、口蓋垂閉鎖音に着目すれば、有無が分かる。この違いを地理言語学的観点から見ると、各地点の方言域における主要交通路に面しているか、また、観光開発が進んでいるか否かで分かれる。往来が頻繁な地域で話される変種が口蓋垂閉鎖音を持っていない体系となっている。この分布を考えれば、口蓋垂閉鎖音について、存在する体系から存在しない体系に変化したものと理解でき、その変化の要因に頻繁な往来に際して生じる言語接触を求めることが可能である¹⁰。

⁶ むしろ、チベット系諸言語については、言語接触が音体系を複雑化する現象も認められる (鈴木 2018)。

⁷ 分布地点は中国四川省阿壩藏族羌族自治州松潘県十里郷である。Suzuki (2008) では Sharkhog 方言と呼んでいるが、本稿では自然村レベルでの地点を方言名として用い、村名で掲げる。

⁸ 第 1 著者の調査による。

⁹ 分布地点はすべて中国四川省阿壩藏族羌族自治州九寨溝県漳扎鎮内にある。

¹⁰ 同様の現象は、康定市に分布するカムチベット語にも認められるようである。Li & Suzuki (2020) の記述によると、同市東部の金湯河流域で話される Rongbrag 方言群に属する 2 つの方言は、口蓋垂音が子音体系に存在するものとそうでないものがあり、前者は主要交通路より遠い地域で話される。しかし、分布地域と口蓋垂音の有無の関連性については、調査を重ねて明らかにする必要がある。

以上に述べた2つの参考事例は、本来口蓋垂閉鎖音系列をもつ体系がそれをもたない体系の言語と長期にわたって併用という形で接触したことにより、失われたと解釈できる事例である。Lhagang 方言の場合、その直系にあたる上の世代の言語においても、共時的に接触している言語においても、口蓋垂閉鎖音系列が存在する点で、状況は同じではない。この点で Lhagang 方言の事例は、特筆に値するといえる。音変化の速度は単純に測ることができないが、共時的な状態として、世代差として認められる現象もある¹¹。Lhagang 方言については、語りと自然発話という発話のスタイルの違いが音形式の実現と関連していることから、その中に世代差を認めるといふ解釈を行い、世代差が生じた一因に言語接触を挙げることができるだろう。ここでいう言語接触は、互いの言語特徴が直接的かつ双方向的に影響を与えるのではなく、話者が多言語環境におかれることにより音体系が簡素化される、具体的には口蓋垂音の軟口蓋音への合流を促す要因というように解釈する。

4 まとめ

本稿では、筆者の記録した Lhagang 方言に認められる口蓋垂音をもつ語を記述し、口蓋垂音が存在しない音韻体系をもつ話者の場合の形式と対照した。そののち、口蓋垂音の現れについて整理し、発話のスタイルが関連していることを述べた。その現象を解釈するにあたって、現代の老年層の発話に見られる口蓋垂音が体系をなす一部であると考えよりは、むしろ口蓋垂音を失いゆく最初の世代ではないかと考えた。

Lhagang 方言の周辺に分布するチベット系諸言語・諸方言は、ほぼすべて口蓋垂音系列をもつ。この点を考えると、Lhagang 方言の音体系は特別であるように見える。しかしながら、Lhagang 方言はその社会言語学的環境から見て、地域方言として安定しているとは言えないため、そのような社会言語学的要因が口蓋垂音を失わせる一因であり、また、複数の音体系が並行して存在する状況を生み出す可能性にも言及した。

¹¹ チベット系諸言語については、鈴木(2011)におけるそり舌化母音についての議論がある。

付録：塔公鎮の自然村の分布

以下の地図は、Suzuki & Sonam Wangmo (2019:247) に基づく¹²。自然村のなかで、Lhagang と Thamkhas を除き、アムドチベット語の分布域である。Lhagang にはカムチベット語（本稿の記述対象）が分布し、Thamkhas にはカムチベット語とラゴン・チョユ語（Lhagang Choyu ; Suzuki & Sonam Wangmo 2017d）が分布する。



付記

本研究に際しては、2017-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (A) 「チベット文化圏東部の未記述言語の解明と地理言語学的研究」（研究代表者：鈴木博之、課題番号 17H04774）および 2018-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) 「高精細度広域地図による中国および隣接する多言語地域の地理言語学的研究」（研究代表者：遠藤光暁、課題番号 18H00670）の援助を受けている。

¹² ArcGIS online を用いて、第 1 著者が作成したものである。

参考文献

- 海老原志穂 (2019) 『アムド・チベット語文法』 ひつじ書房
- 鈴木博之 (2006) 「チベット語塔公 [Lhagang] 方言の方言特徴とその背景」『ニダバ』第 35 号 39-47 URI: <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045547>
- 鈴木博之 (2007a) 「カムチベット語康定・新都橋 [Rangakha] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 2 号 131-162 URI: <http://hdl.handle.net/10108/51094>
- 鈴木博之 (2007b) 「チベット語包座 [Babzo] 方言の音声分析とその方言特徴」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 74 号 101-120 URI: <http://hdl.handle.net/10108/42695>
- 鈴木博之 (2010) 「ヒャルチベット語松潘・大寨 [Astong] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 5 号 117-155 URI: <http://hdl.handle.net/10108/64040>
- 鈴木博之 (2011) 〈在音變過程中產生又消失的軟顎化元音——雲南德欽燕門鄉穀扎藏語之例——〉《京都大学言語学研究》第 30 号 35-49 URI: <http://hdl.handle.net/2433/159068>
- 鈴木博之 (2013a) 〈九寨溝口内外藏語語音面貌〉《亞洲語言論叢》9, 37-76
URI: <http://id.nii.ac.jp/1085/00001318/>
- 鈴木博之 (2013b) 「カムチベット語塔城・格登 [sKobsteng] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 8 号 123-161 URI: <http://hdl.handle.net/10108/75672>
- 鈴木博之 (2014) 〈尼汝藏語的小舌輔音與其藏文對應規律〉《東方語言學》第 14 輯 1-12
- 鈴木博之 (2015) 「カム地域のアムドチベット語・道孚県色卡 [gSerkha] 方言の音声記述」『京都大学言語学研究』第 34 号 89-107 doi: <https://doi.org/10.14989/218951>
- 鈴木博之 (2018) 「香格里拉市北部のカムチベット語諸方言の方言特徴とその形成」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 95 号 5-63 doi: <https://doi.org/10.15026/92458>
- 鈴木博之、イエシエムツォ (2006) 「アムドチベット語中阿壩 [rNgawa] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 1 号 59-88 URI: <http://hdl.handle.net/10108/51084>
- 鈴木博之、四郎翁姆 (2016) 「カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言の文法スケッチ」『言語記述論集』8, 21-90 URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00000897/>
- 鈴木博之、四郎翁姆 (2019) 「カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言における口承文芸の記録と言語分析」『言語記述論集』11, 17-38 URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00003018/>
- 鈴木博之、四郎翁姆 (2020) 「カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言における間投詞と談話標識」『言語記述論集』12, 31-41 URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00003694/>
- Dawa Drolma (2016) Investigating Minyag lexical features attested in Khams Tibetan in Minyag Rabgang: with a reference to the past and ongoing language shift. Paper presented at the 14th Seminar of the International Association for Tibetan Studies (Bergen).
- Haller, Felix (2004) *Dialekt und Erzählungen von Themchen: Sprachwissenschaftliche Beschreibung eines Nomadendialektes aus Nord-Amdo*. VGH Wissenschaftsverlag.

- Li, Chunmei & Hiroyuki Suzuki (2020) Affricate series in Jintang Tibetan (Darmdo Municipality, Sichuan). *Kyoto University Linguistic Research* 39, 1-22. doi: <https://doi.org/10.14989/261910>
- Roche, Gerald & Hiroyuki Suzuki (2017) Mapping the Linguistic Minorities of the Eastern Tibeto-sphere. *Studies in Asian Geolinguistics VI—“Means to Count Nouns” in Asian Languages—*, 28-42. URI: https://publication.aa-ken.jp/sag6_count_2017.pdf
- Sonam Wangmo (2019) A Tibetan village on the Sino-Tibetan borderland: A study of social organization, narrative and local identity in Lhagang. Doctoral dissertation, Universitetet i Oslo.
- Suzuki, Hiroyuki (2008) Nouveau regard sur les dialectes tibétains à l'est d'Aba : phonétique et classification du dialecte de Sharkhog [Songpan-Jiuzhaigou]. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 31.1, 85-108. doi: <https://10.15144/LTBA-31.1.85>
- Suzuki, Hiroyuki (2009) Origin of non-Tibetan words in Tibetan dialects of the Ethnic Corridor in West Sichuan. In Yasuhiko Nagano (ed.) *Issues in Tibeto-Burman Historical Linguistics*, 71-96, National Museum of Ethnology. doi: <https://doi.org/10.15021/00002558>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2015a) Quelques remarques linguistiques sur le tibétain de Lhagang, «l'endroit préféré par le Bodhisattva». *Revue d'études tibétaines* 32, 153-175. URI: http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_32_05.pdf
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2015b) Lhagang Tibetan of Minyag Rabgang Khams: Vocabulary of two sociolinguistic varieties. *Asian and African Languages and Linguistics (AALL)* 10, 245-286. URI: <http://hdl.handle.net/10108/85072>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2016) Vocabulary of Shingnyag Tibetan: A dialect of Amdo Tibetan spoken in Lhagang, Khams Minyag. *Asian and African Languages and Linguistics (AALL)* 11, 101-127. URI: <http://hdl.handle.net/10108/89211>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2017a) Language evolution and vitality of Lhagang Tibetan: a Tibetic language as a minority in Minyag Rabgang. *International Journal of the Sociology of Language* 245, 63-90. doi: <https://doi.org/10.1515/ijsl-2017-0003>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2017b) *King's pig*: A story in Lhagang Tibetan with a grammatical analysis in a narrative mode. *Himalayan Linguistics* 16.2, 129-163. doi: <https://doi.org/10.5070/H916233598>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2017c) *Prince's wife become a lark* in Lhagang Tibetan of Khams. *Kyoto University Linguistic Research* 36, 71-91. doi: <https://doi.org/10.14989/230688>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2017d) Lhagang Choyu wordlist with the Thamkhas dialect of Minyag Rabgang Khams (Lhagang, Dartsendo). *Asian and African Languages and Linguistics (AALL)* 12, 133-160. URI: <http://hdl.handle.net/10108/91144>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2018) Two folktales in Lhagang Tibetan (Minyag Rabgang Khams): *Three Birds* and *Lark and Partridge*. *Asian and African Languages and Linguistics*

(AALL) 13, 131-150. doi: <https://doi.org/10.15026/92954>

- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2019) Migration history of Amdo-speaking pastoralists in Lhagang, Khams Minyag, based on narratives and linguistic evidence. In Bianca Horlemann, Ute Wallenböck, & Jarmila Ptáčková (eds.) *Mapping Amdo: Dynamics of Power*, 203-222. Orientální ústav.
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (to appear) *White mDzomo*, a folktale in Lhagang Tibetan of Minyag Rabgang Khams.
- Tsering Samdrup & Hiroyuki Suzuki (2019) Humilifics in Mabzhi pastoralist speech of Amdo Tibetan. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42.2, 222-259. doi: <https://doi.org/10.1075/ltba.17008.sam>
- 華侃、尕藏他 [sKal-bzang-thar] (1997) 〈藏語松潘話的音系和語音的歷史演變〉《中國藏學》第2期 131-150
- 華侃、龍博甲 [Klu-'bum-rgyal] (1993) 《安多藏語口語詞典》甘肅民族出版社
- 黃布凡 (2012) 〈藏緬語的小舌音〉《語言學論叢》第四十五輯 157-174
- 格桑居冕 [sKal-bzang 'Gyur-med]、格桑央京 [sKal-bzang dByangs-can] (2002) 《藏語方言概論》民族出版社
- 邵明園 (2018) 《河西走廊瀕危藏語東納話研究》中山大學出版社
- 孫宏開、王賢海 (1987) 〈阿壩藏語語音中的幾個問題〉《民族語文》第2期 12-21
- 孫天心 (1995) 〈安多藏語的小舌輔音—藏語語音史上朝「立體對立」發展的一個個案研究〉《兩岸蒙古學藏學學術研討會論文集》495-516
- 達珍拉姆 [rTa-mgrin lHa-mo] (2020) 《藏語康定市日頭村話語音研究》中央民族大学學士論文
- 王雙成 (2012) 《藏語安多方言語音研究》中西書局
- 意西微薩·阿錯 [Ye-shes 'Od-gsal A-tshogs] (2008) 《程章藏語的音系》Paper presented at the Workshop on Tibeto-Burman Languages in Sichuan (Taipei) [In *Pre-workshop Proceedings*, 389-405].

Uvular sounds in Lhagang Tibetan

Hiroyuki SUZUKI

Sonam Wangmo

abstract

This article provides a list of words with a uvular initial in Lhagang Tibetan. Uvular sounds are only attested in narrative materials told by the elder generation. Our elicitation of words and sentences from speakers in the younger generation have not so far found any uvular sounds, even in their phonetic variation. The dialectal background of Lhagang Tibetan suggests that it might have had uvular sounds; hence, the present situation of Lhagang Tibetan implies that the target language spoken by the younger generation has lost uvular sounds and then been merged into velar counterparts.

The use of uvular sounds is primarily limited to speakers in the elder generation. Moreover, they appear especially in the course of storytelling, and not often in everyday conversation. For this phenomenon, we analyse that the elder generation is the first generation in which uvulars are disappearing. We point out that heavy language contact with other dialects is one of the crucial factors triggering their loss, focusing on the difference of the degree of losing uvulars among Lhagang Tibetan speakers in various generations.

受理日 2021 年 4 月 2 日

アムドチベット語色卡 [gSerkha] 方言 (道孚県) における チベット文語形式との音対応 語彙リストを添えて

鈴木 博之

復旦大学

キーワード：アムドチベット語、音声学、方言学、チベット文語対応形式、歴史言語学

1 はじめに

本稿は四川省甘孜 [dKar-mdzes] 族自治州道孚 [rTa'u] 県色卡 [gSer-kha] 郷で話されるアムドチベット語 gSerkha (色卡) 方言のチベット文語 (以下「藏文」) 形式との対応関係を明らかにする。これを通じて、gSerkha 方言の音声記述を扱う鈴木 (2015) の内容を補完する。また、本稿末尾に語彙資料 (約 2000 語) を付す。

1.1 gSerkha 方言の位置づけ

鈴木 (2015) において、gSerkha 方言を研究対象とする背景について当時の見解をまとめている。それについては繰り返さないが、その発表以降に進展した研究について、以下にまとめる。

gSerkha 方言は、チベット系諸言語 (Tibetic languages; Tournadre 2014 参照) のうち、アムドチベット語に属する方言である。アムドチベット語は、狭義での地域方言 (行政区分による地名に基づく方言) で分類することは困難である¹が、その歴史的発展を考えると、ツォワ (藏文 *tsho-ba*) という集団 (Tsering Samdrup & Suzuki 2017 参照) を考慮に入れることで、ある程度の分布地域を定めることができる。この分類を採用した研究は現時点では少なく²、Tsering Samdrup & Suzuki (2017)、Suzuki & Sonam Wangmo (2019)、Tournadre & Suzuki (2021) などが見られ、今後も研究の蓄積が必要である³。

ツォワを考慮に入れた場合、gSerkha 方言の話者は「メワ (藏文 *rMe-ba*)」というツォワと関連し、色卡郷に南接する康定 [Dar-mdo] 市塔公 [lHa-sgang] 鎮の Naglungma と呼ばれる牧民集団と近親関係にある (Suzuki & Sonam Wangmo 2019)。それぞれのアムドチベット語も極めて類似すると考えて問題ない。すなわち、gSerkha 方言は Naglungma の話す gSerchuka 方言や rDora dKarmo 方言⁴などと類似すると見てよい。

¹ しかしながら、個別に方言を指示するとき、行政区分に基づく名称を与えるという原則は、なお有効としている。「gSerkha 方言」という名称もまたしかりである。

² 先行研究におけるアムドチベット語の分類方法は、生活様式と言語特徴を重ね合わせたものが多数を占める (瞿靄堂、金效静 1981; 張濟川 1993; Cham-tshang Padma Lhun-grub 2009)。

³ Nicolas Tournadre との個人談話 (2018) によると、Tournadre 氏は 1990 年代という早い段階において、ツォワを考慮に入れた分類を計画していたという。

⁴ 分布地点の詳細は Suzuki & Sonam Wangmo (2019) および鈴木、四郎翁姆 (2021) を参照。

1.2 本稿の目的と構成

本稿の目的は、gSerkha 方言の音形式と蔵文形式の対応関係を明らかにすることである。蔵文と口語形式の対応関係は、チベット系諸言語の特徴を分析する伝統的な手法であり、西 (1986) や西田 (1987)、江荻 (2002)、張濟川 (2009:259-357) などの先行研究で、方言研究すなわち歴史言語学的研究に寄与する特徴が示されている。

一方で、Häsler (1999) などが述べるように、蔵文と口語形式の対応関係を明らかにすることが口語の記述研究においても必要な作業であると考えられるものもある。ただし注目すべき点分析の対象となる方言によって異なってきたり、必ずしも先行研究に扱われる蔵文との対応関係を見るだけでは十分でない。また、アムドチベット語においては、音節のおかれる環境によって音対応に異なりが現れるなど、一定の環境に場合分けして記述する必要もある。本稿では、この点に注意しつつ、歴史言語学的研究に寄与することを目的とし、要を得た記述を行う。

本稿の構成は次のようである。まず2節で gSerkha 方言の音体系の一覧を提示する。ついで、3節で gSerkha 方言の蔵文対応形式を記述し、考察を加える。

本稿で用いる音表記は、Tournadre & Suzuki (2021) に言及される *pandialectal phonetic description* に従う。具体的には、国際音声字母 (IPA) で規定されるもののほか、朱曉農 (2010) で明確に定義される主に中国で使用されている音声記号も断りなく用いる⁵。

gSerkha 方言の言語資料は筆者が 2014 年 2 月に華侃 主編 (2002) の語彙表に基づいて収集した一次資料を用いる。主たる調査協力者はドガク・タンジン [mDo-sngags bsTan-'dzin] さん (男性、20 代) で、色卡郷出身である。アイデンティティーとして牧畜民であるが、生活様式について見ると、言語形成期を遊牧民としてではなく、定住民として過ごしている。このほか、遊牧民として言語形成期を過ごした複数の gSerkha 方言話者からも随時調査協力を得た。

2 gSerkha 方言の音体系一覧

ここでは gSerkha 方言の音体系を音節構造、子音、母音の順に紹介する。なお、超分節音素は認められない。詳細は鈴木 (2015) を参照。

音節構造

音節構造は、鈴木 (2005) を参照して以下のように記述する。

$${}^c C_i GVC$$

このうち C_i (主子音) と V (音節核の母音) が必須である。

最初頭子音 c は特定の子音に限られ、通常は主子音よりも聞こえが低い。わたり音 G は /w/ に限定される。よって最大の初頭子音の構造は 3 子音連続となる。音声学的には $[CC_i]$ と記述で

⁵ Suzuki (2016) もあわせて参照。

きる最初頭子音が主子音と同様に明瞭に聞こえる事例がある⁶が、両者の間に弁別的な差異を見出すことはなく、加えて音声学的にゆれも認められるため、音節構造を表す上で表記の区別を設ける必要性は認められない。

音節核になる母音の位置には、1音節につき1つの母音が出現する。母音連続は1音節内で認めない。

末子音は特定の子音に限られる。母音と末子音の組み合わせには制限があり、詳細は表2を参照。

子音

音節構造の主子音位置に現れる音素の一覧は以下のようになる。

表1：gSerkha 方言の主子音 (C_i) となりうる子音一覧

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋 前 後	軟口蓋	口蓋垂	声門
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t ^h	c ^h	k ^h	q ^h	
	無声無気	p	t	t	c	k	q	ʔ
	有声	b	d	d̪	ɟ	g		
破擦音	無声有気		ts ^h		tɕ ^h			
	無声無気		ts		tɕ			
	有声		dz		dʒ			
摩擦音	無声有気		s ^h		ɕ ^h			
	無声無気	ɸ	s	ʃ	ɕ	x	χ	h
	有声		z		ʒ	ɣ		ɦ
鼻音	有声	m	n		ɳ	ŋ		
	無声	m̥	n̥		ɳ̥	ŋ̥		
流音	有声		l	r				
	無声		l̥					
半母音	有声	w			j			

音節初頭に現れる子音連続 (^CC_iG) のうち、^CC_i については、音の性質に基づいて、次のように分類できる。

1. 鼻音類 (前鼻音類)

- (a) 同時調音的鼻音 (狭義の前鼻音; 調音位置は C_i に一致)
- (b) 非同時調音的両唇鼻音 [m̥, m̥]

⁶ たとえば、^βni/ [βni] 「二」など。

2. 非鼻音類

- (a) 両唇閉鎖音 [p, b]
- (b) 両唇継続音 (摩擦音 [ɸ, β]、半母音 [w])
- (c) そり舌継続音 (摩擦音 [ʃ, ʒ]、流音 [r])
- (d) 軟口蓋摩擦音 [x, ɣ]
- (e) 口蓋垂摩擦音 [χ, ʁ]
- (f) 声門摩擦音 (前気音) [h, h̥]

母音

舌位置による分類では、/i, e, æ, a, ɐ, ɔ, o, u, ə/の母音が認められる。

すべての母音について、長短および鼻母音/非鼻母音の対立は認められない。

母音と末子音 (VC) の組み合わせには、次のものが認められる。

表2：音節核の母音と末子音の組み合わせ

母音 \ 末子音	なし	p	t	k	q	m	n	ŋ	l	r
i	○	—	○	○	—	○	○	○	○	—
e	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
æ	○	—	—	—	○	—	○	○	—	—
a	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
ɐ	○	—	—	—	○	—	○	○	○	—
ɔ	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
o	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
u	○	○	—	○	—	○	○	○	○	—
ə	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

末子音/k/と/q/は、母音/e/と/ə/について対立を形成する点に特に注目できる。

3 gSerkha 方言における蔵文と口語形式の対応関係

本節では、蔵文形式をもとに、gSerkha 方言と蔵文との音対応を記述する。ただし、記述はまず口語形式の初頭子音部分 (3.1) と母音+末子音部分 (3.2) の2種に分け、それぞれさらに下位区分を設けて議論する。最後に、音節全体にかかわる現象 (3.3) をまとめる。

蔵文は de Nebesky-Wojkowitz (1956) に基づく転写で示し、例語に続けて () に入れ、イタリック体で掲げる。チベット文字の表す音価は格桑居冕・格桑央京 (2004:379-390) を参照。

3.1 初頭子音部分

初頭子音は、それが語頭に位置するか語中に位置するかで若干の異なりが認められ、語中にくる場合には先行音節末の蔵文が後続の音節初頭に影響する事例がある。このため、まず初めに語頭に位置する例についてまとめ、そののち語中における例を取り上げる。

まず語頭位置に関して扱う項目としては、蔵文単子音字の音対応、蔵文阻害音基字に先行する子音字がつく形式の音対応、蔵文足字 y 対応形式、蔵文足字 r 対応形式、蔵文基字 l および足字 l, lh 対応形式、蔵文足字 w 対応形式、蔵文 s+ 鼻音字を含む形式、前鼻音を含む子音連続、そのほかの特徴に分ける。これに続き、語中位置における特記事項をまとめる。

3.1.1 単子音字の対応関係

以下、蔵文有気音字、非有気音閉鎖・破擦音字、摩擦音字、共鳴音字に分類して掲げる。

蔵文有気音字 kh, ch, th, ph, tsh は、一部の ph を除いてそれぞれ調音位置の対応する有気音で現れる。たとえば、以下のようなものである。

k ^h a 「口」 (<i>kha</i>)	p ^h u ron 「鳩」 (<i>phug ron</i>)
tɕ ^h ə 「水」 (<i>chu</i>)	tsh ^h a 「からい」 (<i>tsha</i>)
t ^h ap ka 「かまど」 (<i>thab ka</i>)	

蔵文 ph には無声声門摩擦音に対応する例がある。これらの現れる/h/は、/p^h/で実現しない。

haq 「ぶた」 (<i>phag</i>)	ham 「負ける」 (<i>pham</i>)
ha ma 「両親」 (<i>pha ma</i>)	hoq 「射とめる」 (<i>phog</i>)

蔵文非有気音閉鎖・破擦音字 k, g, c, j, t, d, p, b, ts, dz, Ø (=a chen) は、b および少数の p を除いてそれぞれ調音位置の対応する無声無気音で現れる。たとえば、以下のようなものである。

kɛ 「柱」 (<i>ka ba</i>)	pal ma 「蓮」 (<i>pad ma</i>)
ko zi 「衣服」 (<i>gos zan</i>)	tsan dan 「梅檀」 (<i>tsan dan</i>)
tɕoq tse 「テーブル」 (<i>cog rtse</i>)	tsa re tsa re 「めちゃくちゃの」 (<i>dza re dzo re</i>)
tɕa 「茶」 (<i>ja</i>)	
tar 「氷」 (<i>dar</i>)	ʔa ma 「母」 (<i>a ma</i>)

蔵文 Ø(=a chen) のうち、fia pʔa 「土ねずみ」 (*a bra*) は例外的対応といえる。

蔵文 b および少数の p は有声両唇接近音に対応する。

wa mo 「霜」 (<i>ba mo</i>)	wor mo 「ひざ」 (<i>pus mo</i>)
wo rək 「チベット族」 (<i>bod rigs</i>)	wa ɣa 「皮膚」 (<i>pags pa</i>)
wi 「子牛」 (<i>be'u</i>)	

蔵文摩擦音字 sh, zh, s, z, h, ' は、最後の ' を除き、蔵文の表す調音位置はそのまま⁷に、sh, s, h は有気音、zh, z は有声音に対応する。' については、有声軟口蓋摩擦音に対応する。たとえば、以下のようなものである。

⁷ アムドチベット語では、sh に /ʃ^h/ が対応する事例 (Suzuki et al. 2019) が多いが、gSerkha 方言はそうでない点で、注目に値する。

ʃ ^h a mo 「きのこ」 (<i>sha mo</i>)	zam ba 「橋」 (<i>zam ba</i>)
za ra 「目が見えない」 (<i>zhar ba</i>)	ha ko 「理解する」 (<i>ha go</i>)
s ^h a 「土」 (<i>sa</i>)	yo ma 「乳」 (<i>'o ma</i>)

蔵文共鳴音（鼻音、半母音）字 ng, ny, n, m, w, j は、w を除いてそれぞれ蔵文の表す音価のとおりに対応する。たとえば、以下のようなものである。

ŋa 「私（絶対格）」 (<i>nga</i>)	mar 「バター」 (<i>mar</i>)
ŋa 「魚」 (<i>nya</i>)	wa k ^h a 「水槽」 (<i>wa kha</i>)
na 「病気である」 (<i>na</i>)	jar 「上へ」 (<i>yar</i>)

蔵文 w の対応形式は、確認できた例が少ないが、ya 「狐」 (*wa*) のように有声軟口蓋摩擦音に対応するものもある。

3.1.2 蔵文阻害音基字に先行する子音字がつく形式との音対応

蔵文阻害音基字に先行する子音字がつく事例は非常に多く、また音対応が複雑である。以下に有声性と子音連続に大別して記述する。

有声性について

3.1.1 で見た音対応には、有声閉鎖・破擦音が現れない。これらは蔵文において、基字 g, j, d, b, dz に先行する子音字がある場合に現れる。先行子音字が m, ' かそれ以外かで分けて例をあげる。前者は鼻音が先行子音として現れ、後者は非鼻音が先行子音として現れる。

先行子音字が m, ' のもの

^m go 「頭」 (<i>mgo</i>)	ⁿ dam ⁿ joq 「泥」 (<i>'dam bag</i>)
ⁿ gu 「伝染する」 (<i>'go</i>)	^m bə 「虫」 (<i>'bu</i>)
^m dze 「男性器」 (<i>mje</i>)	^m dzo 「ゾ ⁸ 」 (<i>mdzo</i>)
ⁿ dzam bo 「つるつるの」 (<i>'jam po</i>)	ⁿ dzən 「ほおぼる」 (<i>'dzin</i>)
^m doq 「色」 (<i>mdog</i>)	

先行子音字が m, ' 以外のもの

^b go 「分かち合う」 (<i>bgo</i>)	^b dət 「悪魔」 (<i>bdud</i>)
^r ge ^r gen 「教師」 (<i>dge rgan</i>)	^h doŋ wo 「木」 (<i>sdong bo</i>)
^h ga mo 「妻」 (<i>dga' mo</i>)	^h ba ^r lap 「波」 (<i>rba rlabs</i>)
^r dzi ʃ ^h əl 「痕跡」 (<i>rjes shul</i>)	^r dza ma 「ポット」 (<i>rdza ma</i>)
^h dze 「蚤」 (<i>lji ba</i>)	

⁸ ヤクと牛の交配種の雄を指す。

ただし蔵文 sb の組み合わせは、^wr/に対応する例が認められる。

^wre wa 「蛙」 (*sbal ba*) ^wraɛŋ 「浸す」 (*sbang*)
^wrom 「太い」 (*sbom*)

これらには、蔵文に反映されない/r/が含まれる。この特徴は蔵文成立より時代をさかのぼる音特徴の留保と考えられる (Tournadre & Suzuki 2021) が、チベット・ビルマ諸語の再構形式にさかのぼるものでもないようである (Matisoff 2015 参照)。

また、蔵文 db の組み合わせは、^hy/に対応する。

^hyək 「空気」 (*dbugs*) ^hyæŋ 「権力」 (*dbang*)

基字が非有声閉鎖・破擦音の場合、無声音 (有気、無気) に対応する。

^hku xa 「口のきけない人」 (*lkugs pa*) ⁿthən ^hgam 「引き出し」 (*'then sgam*)
^hk^hɛl 「つむぐ」 (*'khal*) ^mthə mo 「親指」 (*mthe bong*)
^mk^hwar 「町」 (*mkhar*) ^hpəl 「発展させる」 (*spel*)
^htɕe 「湿った牛糞」 (*lci ba*) ^mp^hər 「飛ぶ」 (*'phur*)
^htɕ^hoq 「ゆがんだ」 (*'khyogs*) ^htsa wo 「さび」 (*gtsa'*)
^mtɕ^han joq 「脇」 (*mchan 'og*) ⁿts^hoŋ 「売る」 (*'tshong*)
^htar ga 「クルミ」 (*star ga*) ^mts^ho 「湖」 (*mtsho*)

ただし蔵文 sp の組み合わせは、^hs/に対応する例が多い。

^hsaj 「草地」 (*spang*) ^hsə 「毛」 (*spu*)

また、蔵文 dp の組み合わせは、^hχ/を含む形式に対応する例が多い。

^hwa wo 「英雄」 (*dpa' bo*) ^hon bo 「役人」 (*dpon po*)

摩擦音字の場合、先行子音の有無にかかわらず有声性の観点からは蔵文と口語形式の間に対応関係がある。以下に基字に先行子音字がある場合の例を掲げる。

^hɕæq 「解剖する」 (*gshags*) ^hsum 「三」 (*gsum*)
^wzə 「四」 (*bzhi*) ^hzan 「袈裟」 (*gzan*)

子音連続の構成について

子音連続の構成については、初頭子音の調音方法によって分類する必要がある。

まず、第1要素が鼻音の場合、上に見たように、蔵文先行子音字が m の場合は後続子音にかかわらず両唇鼻音が対応し、先行子音字が ' の場合は後続子音の調音位置と同じ位置の鼻音 (前

鼻音) が現れる。上で例を挙げなかった主たる子音が有気音の場合も同様であり、たとえば次のようである。

^m p ^h ər 「飛ぶ」 (<i>'phur</i>)	^h k ^h or lo 「車輪」 (<i>'khor lo</i>)
^m t ^h oŋ 「見える」 (<i>mt hong</i>)	^m ts ^h an mo 「夜中」 (<i>mtshan mo</i>)
^m k ^h we ma 「腎臓」 (<i>mkhal ma</i>)	^h ts ^h o wa 「生活」 (<i>'tsho ba</i>)

ただし、次のように、無声鼻音に対応する例も認められる。

noŋ 「飲む (命令)」 (<i>'thung</i>)	maq 「脈打つ」 (<i>'phag</i>)
---------------------------------	----------------------------

ここでは、初頭子音の調音位置について、蔵文におけるどのような先行子音字が gSerkha 方言の両唇音、そり舌音、軟口蓋～口蓋垂音、声門音といった先行子音に対応するのかを記述する。上で触れた個別の蔵文の組み合わせに認められる対応関係については以下で触れない。

蔵文前接字 b は両唇音に対応するが、閉鎖音か継続音かは蔵文からは予測しがたい。ただし、基字が摩擦音の場合は先行子音が両唇継続音となる。たとえば次のようである。

^p tson ^h k ^h æŋ 「監獄」 (<i>btson khang</i>)	^h tso ɣa 「汚い」 (<i>btsog pa</i>)
^b dət 「悪魔」 (<i>bdud</i>)	^w zə ^p tɕə 「40」 (<i>bzhi bcu</i>)

また、bk の組み合わせをはじめ、同じく両唇の調音となる m を含む mkh, mg の組み合わせについては、わたり音 G の位置に /w/ を含む形式に対応する例がある。

^p kwa 「命令」 (<i>bka'</i>)	^m gwa ra 「鍛冶屋」 (<i>mgar ba</i>)
^m k ^h war 「町」 (<i>mkhar</i>)	

蔵文頭字 r, s, l および蔵文前接字 d はそり舌音に対応するものが多い。

^s ta 「馬」 (<i>rta</i>)	^r got 「鷹」 (<i>rgod</i>)
^s ta 「見る」 (<i>lta</i>)	^r go 「門」 (<i>sgo</i>)
^s taq 「虎」 (<i>stag</i>)	^r gaŋ wa 「膀胱」 (<i>lgang ba</i>)
^s tɕe 「舌」 (<i>lce</i>)	^r gən ^m ɕum 「ぶどう」 (<i>dgun 'brum</i>)
^s ka ro 「白い」 (<i>dkar po</i>)	^r dzə ma 「眉毛」 (<i>rdzi ma</i>)

ただし、前気音に対応する例もあり、特に 2 音節語の初頭音節に現れる。

^h kar ma 「星」 (<i>skar ma</i>)	^h go ra 「竹垣」 (<i>sgo ra</i>)
^h ku xa 「唾者」 (<i>lkugs pa</i>)	^h gi pa 「育ちすぎの」 (<i>rgas pa</i>)
^h ka ju 「ボウル」 (<i>dkar yol</i>)	

蔵文前接字 g は軟口蓋～口蓋垂音に対応するものが多い。たとえば次のようである。

ʔtɕən 「小便」 (*gcin*)

$\text{ʔtɕə}^{\text{b}}\text{duk}$ 「傘」 (*spyi gdugs*)

ʔsor 「錐」 (*gsor*)

ʔzoq 「削る」 (*gzhog*)

ただし、少数ながら前気音に対応する例もある。

$\text{h}^{\text{t}}\text{oj}$ 「放つ」 (*gtong*)

$\text{h}^{\text{i}}\text{doj ma}$ 「梁」 (*gdung ma*)

$\text{h}^{\text{i}}\text{dan}$ 「座布団」 (*gdan*)

声門音、すなわち前気音は、上に述べたように、蔵文頭字 *r, s, l*、蔵文前接字 *d, g* のすべてに対応する。どの語が声門音になるかは予測できる性格のものではない。

3.1.3 蔵文足字 *y* 対応形式

蔵文足字 *y* 対応形式は大きく蔵文 *Py* 対応形式と *Ky* 対応形式に分かれる。蔵文 *Py* とは基字 *p, ph, b* に足字 *y* を伴う形式を含む形式についていい、蔵文 *Ky* とは基字 *k, kh, g* に足字 *y* を伴う形式を含む全ての対応形式についていう。

蔵文 *Py* は基本的に両唇継続音が先行する前部硬口蓋摩擦音に対応する。たとえば、以下のようである。

$\text{ʔtɕ}^{\text{h}}\text{e}$ 「開ける」 (*phyi*)

$\text{w}^{\text{z}}\text{ən}$ 「与える」 (*sbyin*)

ʔtɕa 「鶏」 (*bya*)

ただし前部硬口蓋破擦音に対応する例がある。たとえば、以下のようである。

$\text{ʔtɕet k}^{\text{h}}\text{a}$ 「初春」 (*dpyid ka*)

$\text{m}^{\text{d}}\text{zor}$ 「受け取る」 (*'byor*)

$\text{b}^{\text{d}}\text{zar}$ 「貼る」 (*sbyar*)

蔵文 *Ky* は基本的に硬口蓋閉鎖音に対応する。たとえば、以下のようである。

$\text{c}^{\text{h}}\text{er}$ 「持ち歩く」 (*khyer*)

$\text{b}^{\text{j}}\text{e tɕə ca}^{\text{b}}\text{dən}$ 「87」 (*brgyad cu gya bdun*)

$\text{h}^{\text{i}}\text{ja m}^{\text{t}}\text{s}^{\text{h}}\text{o}$ 「海」 (*rgya mtsho*)

ただし前部硬口蓋破擦音に対応する例がある。たとえば、以下のようである。

tɕæŋ 「壁」 (*gyang*)

$\text{h}^{\text{i}}\text{dza rək}$ 「漢族」 (*rgya rigs*)

3.1.4 蔵文足字 *r* 対応形式

蔵文足字 *r* を含む形式には、*Pr* (=pr, phr, br を含む形式)、*Kr* (=kr, khr, gr を含む形式)、*tr/dr* など閉鎖音を含むもののほか、*sr* などもある。*gSerkha* 方言では、*Pr, Kr, tr/dr, sr* で異なる対応関係を示す。それぞれ順にみていく。

まず、Pr 対応形式は両唇音を先行子音とするそり舌閉鎖音で現れるものが多数である。たとえば以下のようなものである。

ta ^p t ^h uk 「孤児」 (<i>dwa phrug</i>)	ϕ ^t el 「さる年」 (<i>sprel</i>)
p ^t əq 「岩石」 (<i>brag</i>)	m ^q i 「米」 (<i>'bras</i>)
b ^q el 「裂く」 (<i>dbral</i>)	

中には両唇音を先行子音とするそり舌摩擦音もしくは/r/で現れるものもある。これらは蔵文 spr, sbr に対応するものが多い。たとえば以下のようなものである。

ϕ ^ʂ ən 「雲」 (<i>sprin</i>)	^w ri 「蛇」 (<i>sbrul</i>)
ϕ ^ʂ i 「猿」 (<i>spre'u</i>)	^w ra 「黒テント」 (<i>sbra</i>)

例外として、^wro ra^ʂta 「味わう」 (*bro ra lta*)、^ʂjæq^wra 「雅拉雪山」 (*bzhag bra*) のように、蔵文 br に/^wr/が対応する例がある。

Kr 対応形式については、硬口蓋閉鎖音に対応するもの、前部硬口蓋破擦音に対応するもの、およびそり舌閉鎖音に対応するものの3種類がある。いずれに対応するかは音韻論的な基準では決まらないようである⁹。そり舌閉鎖音に対応するのは文化語彙が多く、読書音の影響が考えられる。

硬口蓋閉鎖音に対応する例は、以下のようなものである。

c ^h ət 「けん引する」 (<i>khrid</i>)	^ɲ jam 「傍」 (<i>'gram</i>)
co 「小麦」 (<i>gro</i>)	^ɲ jo 「行く [未完了]」 (<i>'gro</i>)

前部硬口蓋破擦音に対応する例は、以下のようなものである。

t ^ɕ hæq 「血」 (<i>khrag</i>)	^h tɕa 「髪」 (<i>skra</i>)
^m t ^ɕ hə ^ɣ ə ^ɣ ə 「胆嚢」 (<i>mkhris pa</i>)	

そり舌閉鎖音に対応する例は、以下のようなものである。

t ^h ə 「1万」 (<i>khri</i>)	tə ma 「影」 (<i>grib ma</i>)
p ^t a ^ɕ hi 「吉祥」 (<i>bkra shis</i>)	^b dəŋ 「数える」 (<i>bgrang</i>)

tr/dr 対応形式については、(ʔ)dr のみが確認されているが、そり舌閉鎖音に対応する。たとえば、以下のようなものである。

⁹ この現象は他のアムドチベット語 (王雙成 2012) のほか、カムチベット語 (鈴木 2018) やそのほかのチベット系諸言語 (仁増旺姆 2013) にも認められる。

tuk 「6」 (<i>drug</i>)	^u dɔ 「尋ねる [未完了]」 (<i>'dri</i>)
tæŋ ^ɸ c ^h oq 「おもての」 (<i>drang phyogs</i>)	^u dɛ 「鬼」 (<i>'dre</i>)

sr 対応形式については、基本的にそり舌摩擦音が対応する。たとえば、以下のようなものである。

ʂoq 「命」 (<i>srog</i>)	ʂam 「かわうそ」 (<i>sram</i>)
ʂæŋ mo 「妹」 (<i>srang mo</i>)	ʂa mo 「硬い」 (<i>sra mo</i>)

中には無声無気そり舌閉鎖音で現れるものもある。たとえば以下のようなものである。

^s tɔ 「火であぶる」 (<i>sro</i>)	^s tɔŋ 「守る」 (<i>srung</i>)
--	--

3.1.5 蔵文基字・足字 l、および lh 対応形式

gSerkha 方言では、基本的に蔵文 l には /l/ が対応する。たとえば、以下のようなものである。

lam 「道」 (<i>lam</i>)	lo 「年」 (<i>lo</i>)
la qa 「手」 (<i>lag pa</i>)	li p ^h oŋ 「体」 (<i>lus phung</i>)

gSerkha 方言では、蔵文 zl, sl を除き蔵文足字 l には何らかの先行子音を伴う /l/ が対応する。たとえば、以下のようなものである。

^ɸ lo ŋə 「茶色の牛」 (<i>glang ba</i>)	^ɸ la pa 「脳」 (<i>klad pa</i>)
^ɸ loŋ 「風」 (<i>rlung</i>)	^w la ma 「ラマ」 (<i>bla ma</i>)

蔵文 zl には /^ɸdz/ が対応する。たとえば、^ɸdzɔ 「月 (天体)」 (*zla ba*) のようである。

一方、蔵文 sl には前気音を伴う /^ɸl/ が対応する。蔵文 lh には前気音を伴わない /l/ が対応する。たとえば、以下のようなものである。

^h loq 「倒す」 (<i>slog</i>)	la 「神」 (<i>lha</i>)
^h loptʰa 「学校」 (<i>slob grwa</i>)	lot 「ゆるい」 (<i>lhod</i>)

ただし、^ɸam 「靴」 (*lham*) は例外といえる。

3.1.6 蔵文足字 w 対応形式

gSerkha 方言では、蔵文足字 w に対応する音形式は現れない。たとえば、以下のようなものである。

^s tʰa 「草」 (<i>rtswa</i>)	ra 「角 (つの)」 (<i>rwa</i>)
ʒa 「帽子」 (<i>zhwa</i>)	tʰa 「塩」 (<i>tshwa</i>)

3.1.7 蔵文鼻音字が基字となる形式

gSerkha 方言では、蔵文鼻音字が基字として単独で現れる場合は、それぞれの調音位置の有声鼻音が現れる。たとえば、以下のようなものである。

mə tik 「真珠」 (<i>mu tig</i>)	ŋa 「魚」 (<i>nya</i>)
na nəŋ 「去年」 (<i>na ning</i>)	ŋa 「私」 (<i>nga</i>)

蔵文鼻音字基字に先行子音字 s, r, l, d が存在するとき、その先行子音字の性質によらず鼻音部分が無声化することがある。たとえば、以下のようなものである。

ŋeŋ 「心臓」 (<i>snying</i>)	ʂŋa 「五」 (<i>lnga</i>)
ʂŋaq 「膿」 (<i>rnag</i>)	ʂŋi 「銀」 (<i>dngul</i>)

以上について、同一の語（形態素）が語中にくると自動的に有声音になる例もある。たとえば、pʰtʂo 「ŋa 「十五」 (*bco lnga*) のようである。

ただし、以上の条件でも有声音にのみ対応する例もある。また、先行子音字が g の場合は常に有声音に対応する。たとえば、以下のようなものである。

ʰne 「耳」 (<i>rna ba</i>)	ʰmot 「呪う」 (<i>dmod</i>)
ʰma 「傷」 (<i>rma</i>)	ʰnam 「天」 (<i>gnam</i>)
ʰŋinj ŋa 「古い」 (<i>rnying ba</i>)	ʰnan 「押しつける」 (<i>gnon</i>)

ただし、有声鼻音を主子音とするものに無声音の先行子音が現れる組み合わせも散見される。たとえば、以下のようなものである。

ˣŋer wa 「管家」 (<i>gnyer ba</i>)	ˣma ro 「赤い」 (<i>dmar po</i>)
----------------------------------	--------------------------------

蔵文鼻音字基字に先行子音字 m が存在するとき、基本的に両唇鼻音を初頭子音とする形式に対応する。たとえば、以下のようなものである。

ᵐna ma 「嫁」 (<i>mna' ma</i>)	ᵐŋa ru 「甘い」 (<i>mngar po</i>)
ᵐna ʂci 「誓う」 (<i>mna' skyel</i>)	ᵐŋaq 「派遣する」 (<i>mngag</i>)

以上に加えて、gSerkha 方言では、蔵文 m を初頭子音とする語が両唇鼻音を伴う前部硬口蓋鼻音/ᵐn/に対応するものがある。これらは蔵文で後続母音が i または e の場合に認められる。たとえば、以下のようなものである。

^mne 「火」 (*me*)

^mneŋ 「名前」 (*ming*)

^mnik 「目」 (*mig*)

^mnit 「飲み込む」 (*mid*)

^mno 「人」 (*mi*)

蔵文基字 *m* に先行子音字がある場合、^hni/に対応するものもある。たとえば、以下のようである。

^hnik s̄təəq 「蹄鉄」 (*rmig lcags*)

^hno lam 「夢」 (*rmi lam*)

これらの中には古蔵文において *my* とつづられていた語も含まれており、古蔵文の形式に対応関係を求めることもできる。なお、もともと蔵文で *my* を含む例は前部硬口蓋鼻音に対応し、たとえば、以下のようである。

^mno yə 「芽」 (*myu gu*)

^mɲuk ma 「竹」 (*smyug ma*)

さらに、^smon ba 「獵師」 (*rngon pa*) や ^snit 「しりがい」 (*rmed*) のような例外的音対応も少数ながら認められる。

3.1.8 そのほかの特徴

gSerkha 方言において特筆に値する事例に口蓋垂音の存在がある。口蓋垂音を主たる初頭子音としてもつ例は、一定の蔵文との対応関係を認めることができる。口蓋垂閉鎖音/^hq, q/は以下のような例に存在する。

^hve 「雪」 (*kha ba*)

qo qo 「凹の」 (*kong kong*)

^hve ta 「からす」 (*kha ta*)

^ha mo 「苦い」 (*kha mo*)

^hwe 「スープ」 (*khu ba*)

^ha wa 「渋い」 (*kha ba*)

^hap 「針」 (*khab*)

^hqoq 「抜く」 (*bkog*)

以上の例で口蓋垂閉鎖音はいずれも蔵文初頭子音 *k* または *kh* と対応している。これらの語のいくつかは、これまでのチベット語諸方言における口蓋垂閉鎖音をめぐり先行研究があげる例と重なるものがある (孫宏開・王賢海 1987、鈴木 2007ab, 2010, 2013, 2014、Suzuki 2009:89-90、鈴木・イエシエムツォ 2006、黄布凡 2012、王雙成 2012 など)¹⁰。蔵文の文字体系では書き分けられないが、口蓋垂閉鎖音と軟口蓋閉鎖音は対立していたことが示唆される。

口蓋垂摩擦音については、3.1.2 で述べた蔵文 *dp* 対応形式のほかにも若干例が認められるが、いずれも蔵文とよく対応するとはいえない。

¹⁰ ただし、*gSerkha* 方言の近隣に分布する *Lhagang* (塔公) 方言の口蓋垂音については、対応関係が異なるようである。鈴木、四郎翁姆 (2021) 参照。

χam 「靴」 (*lham*)

χe tsa 「唐辛子」 (? ?)

χe^wzo 「靴屋」 (*lham bzo*)

3.1.9 語中位置の場合の特記事項

語中位置の場合、特定の蔵文のつづりについて、先行音節末と後続音節初頭の間で音節を超えた音対応が認められる。

まず注目するのは、蔵文先行音節末子音字が後続音節の初頭子音になり、先行音節が開音節になるという現象である。

蔵文において先行音節末が g/gs で、かつ後続音節が pa/po の場合、次のように後続音節の初頭が軟口蓋阻害音/口蓋垂阻害音で現れ、かつ先行音節は開音節となる。

^ptɕ^ha qa 「肩」 (*phrag pa*)

^hjo χo 「召使」 (*g.yog po*)

la qa 「手」 (*lag pa*)

^hku xa 「唾者」 (*lkugs pa*)

wa χa 「皮膚」 (*pags pa*)

yu xa 「ふくろう」 (*'ug pa*)

^hcæ χa 「大便」 (*skyang pa*)

ju xo 「カラスムギ」 (*yug po*)

ma χa 「婿」 (*mag pa*)

ɕ^hu χa 「ビヤクシン」 (*shug pa*)

^mdo χa 「牧畜民」 (*'brog pa*)

ⁿth^a χa 「縄」 (*thag pa*)

第2音節の初頭子音の調音位置（口蓋垂音か軟口蓋音か）は第1音節単独の音対応（3.2.2 参照）にしたがって決まると考えられる。

蔵文において先行音節末が ng/ngs で、かつ後続音節が pa/ba の場合、次のように後続音節の初頭が軟口鼻音で現れ、かつ先行音節は開音節となる。

lo ŋa 「谷」 (*lung pa*)

^hk^hə ŋa 「家」 (*khang ba*)

ɕkə ŋa 「足」 (*rkang pa*)

ɕto ŋa 「空の」 (*stong ba*)

次に注目するのは、先行音節末子音が r で、かつ後続音節初頭子音字が p/b の場合、先行音節が開音節となり、後続音節初頭子音が /r/ と対応するというものである。

^she ra 「雹」 (*ser ba*)

ɣma ro 「赤い」 (*dmar po*)

^mgwa ra 「鍛冶屋」 (*mgar ba*)

^mdza ro 「粘つく」 (*'byar po*)

za ra 「視覚障害者」 (*zhar ba*)

ɣsa ra 「新しい」 (*gsar pa*)

zo ra 「鎌」 (*zor ba*)

ɕcə ru 「酸っぱい」 (*skyrur po*)

ɕka ro 「白い」 (*dkar po*)

^mŋa ru 「甘い」 (*mngar po*)

次に注目するのは、例は少数であるが、先行音節末子音が s で、かつ後続音節初頭子音字が p の場合、後続音節初頭子音が蔵文 sp と同じく /^hs/ と対応するというものである。

^hlaŋ ɸsa 「蒸気」 (*rlangs pa*)

^uni ɸsa 「第2」 (*gnyis pa*)

このタイプの音対応は相対的に少ない。

3.2 母音+末子音部分

ここでは、gSerkha 方言の蔵文母音 (a, i, u, e, o) + 後接字の対応形式について、後接字を伴わないとき、閉鎖音の後接字 (b, d, g) を伴うとき、鼻音の後接字 (m, n, ng) を伴うとき、それ以外の後接字 (r, l, s) を伴うときの4種に分類して掲げる。後接字に再後接字 s がつく場合があるが、口語形式に明確な対応関係を得られないため、以下では省略する¹¹。

/ で区切っているものは自由変異ではなく、語ごとに決まっている。すなわち、特定の語には1つの音形式が決まっており、口語形式と蔵文との対応関係が複数認める必要があるということである¹²。

3.2.1 蔵文後接字を伴わないとき

蔵文後接字を伴わないとき、すなわち蔵文において開音節形式 (#, ') となるの場合で、語末位置における基本的な対応関係は以下のように示すことができる。なお、末子音位置に現れる蔵文 ' は音価をもたないと考えられるため、ここに含める。

表3：蔵文開音節形式の音対応

V\C	# / '
a	a
i	ə
u	ə
e	e
o	o

たとえば、以下のようなものである。

^ha 「口」 (*kha*)

^hə 「誰」 (*su*)

^mda 「矢」 (*mda'*)

^ʃke 「首」 (*ske*)

^hə 「犬」 (*khyi*)

^mne 「火」 (*me*)

^{tʃ}ə 「水」 (*chu*)

^rdo 「石」 (*rdo*)

3.2.2 蔵文後接字が閉鎖音字のとき

蔵文後接字が閉鎖音字 (b, d, g) の場合の語末位置における基本的な対応関係は、以下のよう示すことができる。

¹¹ いずれも語末位置で現れる事例を記述する。語中位置の場合は 3.1.9 において記述してある。

¹² なぜそのようなことが起きているのかは共時的記述からでは不明な部分が多く、本稿では扱わない。

表4：蔵文後接字が閉鎖音字の形式の音対応

V\C	b	d	g
a	ap	at	æq / aq / əq / eq
i		it	ik / ək
u	əp / up	ət	uk
e	ep	et / it	ek / əq / eq
o	op	ot	oq

具体例としては、以下のものである。

^h dzap 「背」 (<i>rgyab</i>)	^s naq 「膿」 (<i>rmag</i>)
nəp 「西」 (<i>nub</i>)	p ^h eq 「おすぶた」 (<i>phag</i>)
lep lep 「平らな」 (<i>leb leb</i>)	^p təq 「岩石」 (<i>brag</i>)
ⁿ t ^h op 「手に入れる」 (<i>'thob</i>)	^m ɲik 「目」 (<i>mig</i>)
^s kat 「言語」 (<i>skad</i>)	ts ^h ək 「関節」 (<i>tshig</i>)
^b de ^s cit 「幸せな」 (<i>bde skyid</i>)	^m ɖuk 「龍」 (<i>'brug</i>)
lət 「肥料」 (<i>lud</i>)	^s tsek 「階」 (<i>rtseg</i>)
ɕ ^h et 「力」 (<i>shed</i>)	ʂəq 「やけどする」 (<i>sreg</i>)
^s ɲit 「しりがい」 (<i>rmed</i>)	ʒceq 「円寂」 (<i>gshegs</i>)
wot 「チベット人」 (<i>bod</i>)	ʂoq 「命」 (<i>srog</i>)
tɕ ^h æq 「血」 (<i>khrag</i>)	

語中位置の場合、3.1.9 で述べた「先行音節末が g/gs で、かつ後続音節が pa/ba」という条件下で、表4の対応と比べて、母音の質は表5のまま末子音/k, q/が脱落した形式に対応する。例については3.1.9を参照。ほかにも、末子音字 d の対応形式/t/が脱落する例が散見される。この場合でも、母音の質は表4に示したものと変化がない。たとえば以下のものである。

wo jik 「チベット文字」 (<i>bod yig</i>)	^s ka tɕ ^h a 「会話」 (<i>skad cha</i>)
------------------------------------	--

3.2.3 蔵文後接字が鼻音字のとき

蔵文後接字が鼻音字 (m, n, ng) の場合の語末位置における基本的な対応関係は、以下のよう
に示すことができる。

表5：蔵文後接字が鼻音字の形式の音対応

V\C	m	n	ng
a	am	an	aŋ / æŋ / əŋ
i	əm	ən	eŋ / əŋ
u	um / əm	ən	oŋ
e	em	en	eŋ
o	om	on	oŋ

たとえば、以下のものである。

^h nam 「天」 (<i>gnam</i>)	^u jon 「左」 (<i>g.yon</i>)
t ^h əm 「浸す」 (<i>thim</i>)	ʰsəŋ 「草地」 (<i>spang</i>)
^h sum 「三」 (<i>gsum</i>)	t ^h æŋ 「平原」 (<i>thang</i>)
rəm 「孵化する」 (<i>rum</i>)	ra k ^h əŋ 「牛小屋」 (<i>ra khang</i>)
ⁿ ts ^h em 「縫う」 (<i>'tshem</i>)	ŋeŋ 「心臓」 (<i>snying</i>)
tom 「熊」 (<i>dom</i>)	na nəŋ 「去年」 (<i>na ning</i>)
^s kan 「口蓋」 (<i>rkan</i>)	ŋoŋ ŋoŋ 「少ない」 (<i>nyung nyung</i>)
ʔtəŋ 「小便」 (<i>gcin</i>)	^m t ^h eŋ 「数珠の玉」 (<i>phreng</i>)
^b dən 「7」 (<i>bdun</i>)	^s toŋ 「千」 (<i>stong</i>)
ti tɕ ^h en 「祭り」 (<i>dus chen</i>)	

語中位置の場合、3.1.9 で述べた「先行音節末が ng/ngs で、かつ後続音節が pa/ba」という条件下で、表5の対応と比べて、母音の質は表5のまま末子音/ŋが脱落した形式に対応する。例については3.1.9を参照。

3.2.4 蔵文後接字がその他の子音字のとき

蔵文後接字がその他の子音字 (r, l, s) の場合の語末位置における基本的な対応関係は、以下のように示すことができる。

表6：蔵文後接字がその他の子音の形式の音対応

V\C	r	l	s
a	ar / ər	ɐ / əl / al	i
i	ər	i / əl	i
u	ər	i / əl	e
e	er	i / el	i / e
o	or	ol	u

たとえば、以下のものである。

tar 「氷」 (<i>dar</i>)	ʰcəl 「中間」 (<i>dkyil</i>)
ʰtɕər 「はさむ」 (<i>gcir</i>)	ʰŋi 「銀」 (<i>dngul</i>)
kər 「テント」 (<i>gur</i>)	tʰi 「騾馬」 (<i>drel</i>)
ʰser 「金 (きん)」 (<i>gser</i>)	ɕʰel 「ガラス」 (<i>shel</i>)
ʰsor 「錐」 (<i>gsor</i>)	ʰkol 「淹れる」 (<i>skol</i>)
wɛ 「羊毛」 (<i>bal</i>)	ᵐgo ʰŋi 「枕」 (<i>sngas</i>)
tʰel 「税」 (<i>khral</i>)	ʰŋi 「二」 (<i>gnyis</i>)
ŋal 「発酵する」 (<i>snyal</i>)	ɣwi 「ユー地方」 (<i>dbus</i>)
tsʰi 「脂肪油」 (<i>tshil</i>)	tɕʰu 「経文」 (<i>chos</i>)

語中位置の場合、3.1.9 で述べた「先行音節末が r で、かつ後続音節が p/b」という条件下で、表 6 の対応と比べて、母音の質は表 6 のまま末子音/rが脱落した形式に対応する。例については 3.1.9 を参照。

3.3 音節全体に関わる特徴

2 音節が縮約し 1 音節語になっている例が複数認められる。そのほとんどの例において、縮約後の音節の母音が /e/ もしくは /ɔ/ で現れている。たとえば以下のようなものである。

/e/をもつもの

qʰe 「雪」 (<i>kha ba</i>)	ᶦdzɛ 「蚤」 (<i>lji ba</i>)
ᶦne 「耳」 (<i>rna ba</i>)	ʰtse 「根」 (<i>rtsa ba</i>)
ʰtɕɛ 「湿った牛糞」 (<i>lci ba</i>)	ke 「柱」 (<i>ka ba</i>)
ɕʰe 「鹿」 (<i>shwa ba</i>)	tɕ 「網」 (<i>dra ba</i>)
ᵐle 「キバノロ」 (<i>gla ba</i>)	ᶦdɛ 「月 (年月)」 (<i>zla ba</i>)

/ɔ/をもつもの

ᶦdzɔ 「月 (天体)」 (<i>zla ba</i>)	ᶦgo 「黄羊」 (<i>dgo ba</i>)
tɔ 「煙」 (<i>du ba</i>)	tʰɔ 「金槌」 (<i>tho ba</i>)
hɔ 「腹」 (<i>pho ba</i>)	jo 「取っ手」 (<i>yu ba</i>)

以上の例において、/e/は表 3 を参考すれば分かるように、対応する蔵文の第 1 音節の形式に由来すると考えることはできない。よって、第 2 音節との縮約によって /e/ が現れると解釈することになる。加えて、/ɔ/ は以上のような音節の縮約によって生じている以外に蔵文との対応関係をもたない。そのため、表 2 を見ると明らかなように、末子音を伴う対応関係が認められないといえる。

また、初頭子音が単独の有気音字で蔵文末子音字が ng の例のいくつかは、gSerkha 方言において前鼻音が現れることがある。通常末子音字 ng の対応音/ŋ/も残るが、いくつかの例では脱落することもある。

^mt^hej wa 「数珠」 (*phreng ba*)

^ɰk^həŋa 「家」 (*khang ba*)

^rgon ^ɰk^hæŋ 「護法神殿」 (*mgon khang*)

la ^ɰk^hæ 「仏間」 (*lha khang*)

以上に挙げた例のうち、「家」「仏間」の例で完全に音節末鼻音が脱落する。ただし、/æŋ/、/aŋ/と記述される語は、その初頭子音が何であれ、音声学的な自由変異として音節末鼻音が先行母音を鼻母音化して脱落したり、何の影響も与えず脱落したりする事例が確認される。

この現象に類似するものに、^sh^oŋ mæ 「櫛」 (*so mang*) も含まれるだろう。この例では、蔵文第2音節の末子音が口語形式では脱落し、その代わりに第1音節末に鼻音が現れる形となっている。

4 まとめ

本稿では、カム地域で話されるアムドチベット語 gSerkha 方言について、その音形式を蔵文と対照することを通じて、同方言の音対応の特徴を明らかにした。

蔵文との対を通じて、共時的音体系のそれぞれの要素と蔵文との基本的な対応関係が明らかになった。蔵文の初頭子音連続、Kr の組み合わせ、および複数の母音字+末子音字の対応関係では、同一のつづりに対して複数の音対応が認められることが分かった。また、比較的規則的な音節の縮約が認められ、2音節語の音節間の分節音が互いに作用している事例なども存在することが判明した。

付記

gSerkha 方言の調査に当たっては昆明市の瑪吉阿米・香格里拉藏族風情宮の関係各位の協力を得た。ここに記して感謝の意を表す。

筆者による現地調査の一部については、2013-2016 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (B) 「言語多様性の記述を通して見る中国雲南省チベット語の方言形成の研究」 (研究代表者：鈴木博之、課題番号 25770167)、2016-2019 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (A) 「チベット・ビルマ語族の繋聯言語の記述とその古態析出に関する国際共同調査研究」 (研究代表者：長野泰彦、課題番号 16H02722)、2017-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (A) 「チベット文化圏東部の未記述言語の解明と地理言語学的研究」 (研究代表者：鈴木博之、課題番号 17H04774) および 2018-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) 「高精細度広域地図による中国および隣接する多言語地域の地理言語学的研究」 (研究代表者：遠藤光暁、課題番号 18H00670) の援助を受けている。

参考文献

- 鈴木博之 (2005) 「チベット語音節構造の研究」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 69 号 1-23
URI: <http://hdl.handle.net/10108/20212>
- 鈴木博之 (2007a) 「カムチベット語康定・新都橋 [Rangakha] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 2 号 131-162 URI: <http://hdl.handle.net/10108/51094>
- 鈴木博之 (2007b) 「チベット語包座 [Babzo] 方言の音声分析とその方言特徴」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 74 号 101-120 URI: <http://hdl.handle.net/10108/42695>
- 鈴木博之 (2010) 「ヒャルチベット語松潘・大寨 [Astong] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 5 号 117-155 URI: <http://hdl.handle.net/10108/64040>
- 鈴木博之 (2013) 「カムチベット語塔城・格登 [sKobsteng] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 8 号 123-161 URI: <http://hdl.handle.net/10108/75672>
- 鈴木博之 (2014) 〈尼汝藏語的小舌輔音與其藏文對應規律〉《東方語言學》第 14 輯 1-12
- 鈴木博之 (2015) 「カム地域のアムドチベット語・道孚県色卡 [gSerkha] 方言の音声記述」『京都大学言語学研究』第 34 号 89-107 doi: <https://doi.org/10.14989/218951>
- 鈴木博之 (2018) 「香格里拉市北部のカムチベット語諸方言の方言特徴とその形成」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 95 号 5-63 doi: <https://doi.org/10.15026/92458>
- 鈴木博之、イエシエムツォ (2006) 「アムドチベット語中阿壩 [rNgawa] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 1 号 59-88 URI: <http://hdl.handle.net/10108/51084>
- 鈴木博之、四郎翁姆 [bSod-nams dBang-mo] (2021) 「カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言における口蓋垂音」『言語記述論集』 13, 1-12
- 西義郎 (1986) 「現代チベット語方言の分類」『国立民族学博物館研究報告』 11 卷 4 号 837-900 + 1 地図 doi: <https://doi.org/10.15021/00004359>
- 西田龍雄 (1987) 「チベット語の変遷と文字」長野泰彦・立川武蔵編『チベットの言語と文化』 108-169 冬樹社
- Cham-tshang Padma Lhun-grub (2009) *A-mdo 'i yul-skad-kyi sgra-gdangs-la dpyad-pa*. 青海民族出版社
- Häsler, Katrin Louise (1999) *A grammar of the Tibetan Dege (Sde dge) dialect*. Selbstverlag.
- Matisoff, James A. (2015) *The Sino-Tibetan etymological dictionary and thesaurus*. The Regents of the University of California. Online: <https://stedt.berkeley.edu/dissemination/STEDT.pdf>
- de Nebesky-Wojkowitz, René (1956) *Oracles and demons of Tibet: The cult and iconography of the Tibetan protective deities*. 's-Gravenhage: Mouton.
- Suzuki, Hiroyuki (2009) Origin of non-Tibetan words in Tibetan dialects of the Ethnic Corridor in West Sichuan. In Yasuhiko Nagano (ed.) *Issues in Tibeto-Burman Historical Linguistics*, 71-96, National Museum of Ethnology. doi: <https://doi.org/10.15021/00002558>

- Suzuki, Hiroyuki (2016) In defense of prepalatal non-fricative sounds and symbols: towards the Tibetan dialectology. *Researches in Asian Languages* 10, 99-125. URI: <http://id.nii.ac.jp/1085/00002195/>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2019) Migration history of Amdo-speaking pastoralists in Lhagang, Khams Minyag, based on narratives and linguistic evidence. In Bianca Horlemann, Ute Wallenböck, & Jarmila Ptáčková (eds.) *Mapping Amdo: Dynamics of power*, 203-222.
- Suzuki, Hiroyuki, Tsering Samdrup, Niangwujia (Nyingbo-Gyal), Jixiancairang (Chaksham Tsering), and Sonam Wangmo (2019) /fj/ in Amdo Tibetan: Descriptive and historical approaches. *Journal of the Phonetics Society of Japan* 23, 76-82. doi: https://doi.org/10.24467/onseikenkyu.23.0_76
- Tournadre, Nicolas (2014) The Tibetic languages and their classification. In Thomas Owen-Smith & Nathan W. Hill (eds.) *Trans-Himalayan Linguistics: Historical and Descriptive Linguistics of the Himalayan Area*, 105-129. Walter de Gruyter.
- Tournadre, Nicolas & Hiroyuki Suzuki (2021) *The Tibetic languages: An Introduction to the family of languages derived from Old Tibetan*. (with the collaboration of Xavier Becker and Alain Brucelles for the cartography). Les Lacito Publications.
- Tsering Samdrup & Hiroyuki Suzuki (2017) Migration history and *tsowa* divisions as a supplemental approach to dialectology in Amdo Tibetan: A case study on Mangra County. *Studies in Asian Geolinguistics VII —Tone and Accent—*, 57-65. URI: https://publication.aa-ken.jp/sag7_tone_2017.pdf
- 華侃 主編 (2002) 《藏語安多方言詞匯》甘肅民族出版社
- 黃布凡 (2012) 〈藏緬語的小舌音〉《語言學論叢》第四十五輯 157-174
- 江荻 (2002) 《藏語語音史研究》民族出版社
- 格桑居冕 [sKal-bzang 'Gyur-med]、格桑央京 [sKal-bzang dByangs-can] (2004) 《實用藏文文法教程 [修訂本]》四川民族出版社
- 瞿靄堂、金效靜 (1981) 〈藏語方言的研究方法〉《西南民族學院學報》第 3 期 76-84
- 仁增旺姆 [Rig-'dzin dBang-mo] (2013) 《迭部藏語研究》中央民族大學出版社
- 孫宏開、王賢海 (1987) 〈阿壩藏語語音中的幾個問題〉《民族語文》第 2 期 12-21
- 王雙成 (2012) 《藏語安多方言語音研究》中西書局
- 張濟川 (1993) 〈藏語方言分類管見〉戴慶廈等編《民族語文論文集—慶祝馬學良先生八十壽辰文集》297-309 中央民族學院出版社
- 張濟川 (2009) 《藏語詞族研究—古代藏族如何豐富發展他們的詞匯》社會科學文獻出版社
- 朱曉農 (2010) 《語音學》商務印書館

付録：gSerkha 方言の語彙リスト

配列は華侃 主編 (2002) に準拠し¹³、名詞 (天文地理、人体、人物、家畜、その他の動物、植物、食物、衣料装飾、住居、生活用具、その他道具、文化教育、抽象物、位置方角、時間)、数詞、代名詞、形容詞、動詞¹⁴ の順である。

天文地理

天	^h nam	山	rə
太陽	ŋə ma	尾根	rə ^ŋ go
光	yot	谷	lo ŋa
月	^h dzɔ	がけ	kat k ^h a
星	^h kar ma	岩石	p ^t əq
流星	^h kar ^m da	洞窟	p ^t ə yə / p ^t əq p ^h uk
天気	^h nam ^m da	洞穴	toŋ
雲	ɸsən	川	tɕ ^h ə
雷	m ^ɔ duk	湖	m ^{ts} h ^o
風	v ^l oŋ	海	^h ja m ^{ts} h ^o
雨	^h nam / tɕ ^h ar wa	渡し場	tɕ ^h ə k ^h a
虹	ⁿ dza	貯水池	tɕ ^h ə ^m dzot
雪	q ^h e	井戸	tɕ ^h ə zom
雹	s ^h e ra	杭	təŋ ^h kop
霜	wa mo	土手	tɕ ^h ə ^h kər
露	zi tɕ ^h ə	道	lam
霧	m ^u ywa	平原	t ^h æŋ
氷	tar	沼	nɔ k ^h a
火	m ^ŋ e	土	s ^h a
煙	tɔ	畑	zəŋ
電気	v ^l oq	水田	tɕ ^h ə zəŋ
空気	v ^l oŋ / ^h luk / y ^o v ^l oŋ	乾燥地	rə zəŋ
蒸気	^h laŋ ɸsa	農区	roŋ wa
水害	tɕ ^h ə loq	牧区	m ^ɔ qo xwa
世界	ⁿ dzam ^h leŋ	半農半牧	m ^ɔ qo x ma roŋ
地	s ^h a	石	r ^ɔ do

¹³ ただし一部個別例について補足したものも含む。

¹⁴ gSerkha 方言には、動詞の語幹交替が認められる。ただし、本稿では原則的に未完了の形式を採用する。語幹交替の記述は別稿にゆずる。

砂	ʰɕi ma	炭	s ^h o wa
埃	s ^h a / t ^h ɔ wa	磁石	^h i do q ^h a len
泥	ⁿ dam ^ɲ joq	草木灰	^h i do t ^h e
水	tɕ ^h ə	朱砂	^m ts ^h e
波	^h i ba ^r lap	場所	s ^h a tɕ ^h a
泉	tɕ ^h ə ^m ɲək	長江	^m də tɕ ^h ə
温泉	ts ^h a tɕ ^h ə	黄河	^h i ma tɕ ^h ə
森	nəq ts ^h al	ラサ	la s ^h a
草地	ʰɕaŋ	ユー	ywi
鉱石	^h ter ^r do	ツアン	^h tsæŋ
金	ɣser	カム	k ^h am ba
銀	s ^h ɲi	アムド	?a ^m do
銅	zæŋ	ポタラ宮	po ta la
鉄	^h tɕæq	クンブム	s ^h ke ^m bəm
ダイヤ	^h tɕe ^r do	ラプラン	^h i la ^p tæŋ
鉛	za ɲi	西寧	zə leŋ
さび	^h tsa wo	町	^m k ^h war
アルミ	ha jəŋ	通り	tɔŋ wa
瑪瑙	ɣzə	村	^h i de wa / tɔŋ ts ^h o
黄銅	ræq	橋	zam ba
銅	tɕ ^h o	家	tɕ ^h əm ts ^h æŋ
煤	^h i do s ^h e	故郷	p ^h a jəl

人体

体	li p ^h oŋ	顔	k ^h a ɲo
頭	^m go	ほほ	^ɲ dzam ba
髪	^h tɕa	口	k ^h a
お下げ	^h tɕa lo	唇	k ^h a ^m tɕ ^h ə
額	t ^h o pa	あごひげ	k ^h a ʰɕə
眉毛	^r dzə ma	あご	ma ne
睫毛	^m ɲik ʰɕə	首	s ^h ke
目	^m ɲik	肩	p ^t ɕ ^h a qa
鼻	s ^h na	背	^h dzap
鼻の穴	s ^h na k ^h oŋ	脇	^m tɕ ^h an joq
耳	^h i ne	胸	p ^t æŋ

乳房	nə ma	脈	ʰtsa
乳	yo ma	腦	ʰla pa
腹	hɔ	骨	rə p ^h a
へそ	h ^h tje	脊椎	ʰge ⁿ dzæŋ
腰	ʰke pa	肋骨	ʰtsəm ma
尻	ɸoŋ ^ɰ go	關節	ts ^h ək
太もも	w ^w la	骨髓	ʰkæŋ
ひざ	wor mo	齒	s ^h o
下腿	ŋa ji	犬齒	ç ^h ə s ^h o
足	ʰkə ŋa	齒莖	ʰŋi
くるぶし	ʰkæŋ s ^h ək	舌	ʰtɕe
腕	la qa / ^h pɔŋ	口蓋	ʰkan
手	la qa	喉	m ⁿ i pa
腕	laq ^h ke	喉仏	ʔo ^m dət
指	m ⁿ dzə yə	肺	ʰlwa
手のひら	laq ^ɸ ci	心臟	ŋeŋ
親指	m ⁿ t ^h e mo	肝臟	m ⁿ tɕ ^h ən ba
小指	m ⁿ dzək tɕ ^h oŋ	脾臟	m ⁿ ts ^h er wa
爪	s ^h en mo	腎臟	m ⁿ k ^h wə ma
指紋	m ⁿ ts ^h o	胆嚢	m ⁿ tɕ ^h ə ^r ɸa
拳	k ^h ə ts ^h ər	胃	hɔ
肛門	h ^h cæq ɣoŋ	腸	ʰdzə ma
男性器	m ⁿ dze	大腸	ʰdzə ^h kar
睾丸	xək ^h do	小腸	ʰdzə nəq
女性器	ŋa ma	恥骨	h ^h ke pa
胎盤	wə roq	膀胱	r ^r gaŋ wa
皮膚	wa ɣa	大便	h ^h cæ ɣa
しわ	ʰŋer ma	小便	ɣtɕən
あざ	m ⁿ e	屁	ɸɕik rə
傷	ʰma	汗	ʰŋi tɕ ^h ə
傷口	ʰma k ^h a	痰	lə p ^h a
しみ	ʰma ^r dzə	つば	k ^h a tɕ ^h ə
白癬	ʰŋo	鼻水	ʰŋa tɕ ^h ə
肌	ç ^h a ^r nəq	涙	m ⁿ ɰik tɕ ^h ə
血	tɕ ^h æq	膿	ʰŋaq
筋肉	ʰdzə ^h ke	垢	tɕə maq

声 ^skat
死体 ro
命 ^ʃoq

寿命 ts^he

人物

人 ^mnə
人民 ^mnə məŋ
平民 mə s^her
チベット人 wo rək
漢族 ^hdza rək
蒙古族 s^hoq po
半漢半蔵 ^hdza ma wot
外国人 ^ɸç^hə ʀjal
子供 za zi
赤ん坊 çi ba
老人 ^hge ʀgi
老婦人 ^hga mo ^hge ʀgi
男 zə lə
女 zə mo
男女 ho mo
少年 ho ^hsar
少女 mo ^hsar
公務員 li ^ɸçit pa
商人 ⁿts^hoŋ wa
医者 man ba
農民 zeŋ wa
軍人 ^hmaq
牧民 ^mdo ɣa
牧人 ʀdzə ɣə
大工 ç^heŋ βzo
鍛冶屋 ^mgwa ra
船大工 tçə wa
狩人 ^smon ba
料理人 tçə ma
英雄 ɣwa wo

女英雄 ɣwa mo
独身 ^mnə ʀcæŋ
学者 jik ⁿdon ba
翻訳家 lo tsa wa
代表 ^skə ⁿts^həp
こじき ^skən ma
泥棒 ^skun ma
強盗 tçæ ɣa
病人 ne p^ha
仇 ^hdza wo
王 ^hdza lu
皇帝 ji ^htçə ^hdza lu
官 ɣon bo
首領 ⁿgo wa
友人 ro ɣwa
お供 ⁿjo roq
教師 ʀge ʀgen
仕立て屋 βzo wa
靴屋 ɣe βzo
石屋 ʀdo βzo
肉屋 ^ɸçan ba
俗人 mə ^sca
四肢障害者 ^hdza çuk / ^skæŋ ^hdza
盲人 za ra
聾啞者 ɣo na
禿げの人 ^hla ʀgəq
猫背の人 ^hgur loq
ばか者 ^hlen ba
口唇裂 k^ha ^ɸç^ho
狂人 ^mn̩on ba

どもる人	k ^h a dək kə	父の兄の妻	?a ne
口の利けない人	^h ku xa	父の弟	?a k ^h ə
主人	^f i do ɣo	父の弟の妻	?a ne
客	ⁿ d̥i wa	甥	ts ^h a wo
知り合い	ŋo ɕ ^h i nə	兄弟	ʔ _ɕ en di
知らない人	ŋo mə ɕ ^h i nə	姉妹	wo mo ^β ren di
下男	^f i jo ɣo	母の兄弟	?a zæŋ
下女	^f i joq mo	母の兄弟の妻	?a ne
祖先	p ^h a mi	母の姉妹	?a ne
祖父	?a m ⁿ ɛ	父の姉妹の夫	?a k ^h ə
祖母	?a ji	父の姉妹	?a ne
父	?a p ^h a	義理の父	?a zæŋ
母	?a ma	義理の母	?a ne
両親	ha ma	家族	tɕ ^h em ^β dəq
息子	zə lə	親戚	^f i ⁿ en ɲe / ɲe wa
息子の嫁	m ⁿ a ma	夫	^f i ga xu
娘	zə mo	妻	^f i ga mo
娘婿	ma ɣa	継母	ma ^β jar
孫息子	ts ^h a wo	継父	ha ^β jar
孫娘	ts ^h a mo	未亡人	juk sa ma
兄	?a ^r ja	子なしの女性	rap tɕ ^h at
姉	?a tɕe	双子	m ⁿ ts ^h i to
弟	ɕ ^h a ɲi	私生児	^f i da lə
妹	ɕæŋ mo	孤児	ta p ^t ʰuk
父の兄	?a k ^h ə		

家畜

家畜	^f i jə zoq	めすゾ	m ⁿ dzo mo
牛	zoq	子牛	wi
黄牛	^β lo ŋə	おす牛	^β jæq
水牛	tɕ ^h ə ^β læŋ	めす牛	m ⁿ də
ヤク	^β jæq	乳牛	^β zon ma
めすヤク	m ⁿ də	荷駄獣	k ^h al ma
子なしのめすヤク	ɕ ⁿ kam ma	湿牛糞	^h tɕe
ゾ	m ⁿ dzo	角	ra

ひづめ	s ^h uk k ^h i	ぶた	haq
皮	wɛ ɣa	めすぶた	haq ma
毛	ɸ _{sə}	おすぶた	p ^h ɛq
毛の色	ɸ _{sə} mdoq	子ぶた	haq p ^t huk
尾	s ^h ja ma	ぶた糞	haq h ^{cə} q
馬	s ^h ta	犬	c ^h ə
子馬	s ^h ti tse	めす犬	c ^h ə mo
荷馬	t ^h o rə	猟犬	ɕ ^h a c ^h ə
おす馬	s ^h ta p ^h o	犬糞	c ^h ə s ^{cə} q
めす馬	s ^h ta mo / r ^h gon ma	猫	li li
鬣	ze wa	うさぎ	rə ɣoŋ
馬糞	h ^h ti lə	鶏	ɸ _{ca}
羊	ra luk	おんどり	ɸ _{ca} p ^h o
綿羊	luk	めんどり	ɸ _{ca} mo
めす綿羊	ma mo	ひよこ	ɸ _{ca} p ^t huk
山羊	ra	とさか	t ^h o h ^{cə} q
子山羊	ra p ^t huk	翼	x ^{cə} o ɣa
子綿羊	luk p ^t huk	羽	h ^h do
羊毛	wɛ	鶏糞	ɸ _{ca} s ^{cə} q
羊糞	ri ma	鴨	ŋæ wa
騾馬	t ^h i	がちょう	ŋɛŋ pa
ロバ	kə rə / woŋ wə	鳩	p ^h u ron
らくだ	s ^h ja mo		

その他の動物

野獣	rə daq	熊/パンダ	tom
猛獣	ɣ ^h tɕæn h ^h zæn	ヒグマ	t ^h et moŋ
虎	s ^h taq	いのしし	haq h ^h got
獅子	s ^h ə h ^h ge	鹿	ɕ ^h e
龍	m ^h duk	黄羊	r ^h go
爪	w ^h rar mo	キバノロ	ɸ ^h le
猿	ɸ _{si}	麝香	ɸ ^h le s ^h tsə
象	h ^h læŋ tɕ ^h en	野ロバ	s ^{cə} ɛŋ
野牛	m ^h doŋ	かわうそ	ɕam
豹	h ^h zik	ヤマアラシ	haq h ^h got

ハリネズミ	ʳgæŋ	鸚鵡	ne tso
ねずみ	tsə ɣə	カッコウ	kʰu juk
土ねずみ	fiə pʰa	孔雀	fiə ma ɸca
ねずみ糞	ɸci hʰtuk	亀	ru wʳəl
リス	nɛq ɸci	蛇	wʳi
ジャッカル	mʳpʰa ra	蛙	wʳɛ wa / wʳɛ wʳɛ
狼	ɸcəŋ kʰə	トカゲ	tɛim fiə go ʳdoq
狐	ɣa	魚	ŋa
山猫	ɸcə	虫	mʳbə
鳥	ɸca	蚤	fiə dzɛ
鳥の巣	ɸca tsʰæŋ	しらみ	ɸʰik
鳥糞	ɸca sʳcəq	アブ	hʳcæq mʳbə
鷹	ʳgot	蚊	tuk bʳdɛ
とんび	tɸʰa / cʰa	蜘蛛	fiə də ka ra
はやぶさ	ɳlæq	蜘蛛の糸	fiə də ka ra tsʰæ
ハゲタカ	ɸca ʳgot	ムカデ	sʳkæŋ ʳja laq ʳja
ふくろう	ɣu xa	ミミズ	mʳbə rə naq
ツバメ	kʰa la juk	アリ	tɛoq ma
野生の雁	ŋæŋ ba	アリ塚	tɛoq tsʰæŋ
すずめ	ɸci ɣə / ɸci tsʰe	ミツバチ	fiə wæŋ ma
こうもり	ɸca ma ɸci	とんぼ	mʳbə wʳla ma
カササギ	sʳci ka tɸʰa mo	蝶	ɸcʰe ma lep tse
からす	qʰɛ ta	さそり	wə fiə də ɣa ra tsa
めじろ	rə ɸca		

植物

木	ɸʰeŋ / fiə doŋ wo	柳	tʰə ɣə
枝	ɸʰeŋ lo	柏	ɸʰu ɣa
苗	ɸʰeŋ pʰtʰuk	松	fiə doŋ ɸʰeŋ
幹	fiə doŋ wo	松脂	tʰæŋ tɸʰə
根	sʳtse	ポプラ	tʰa ɸʰeŋ
葉	lo ma	ぶな	sʳtaq ma
花	me toq	茶の木	tɸa ʳdoŋ
芯	næŋ ʳŋeŋ	梅檀	tsan dan
芽	mʳŋə ɣə	竹	mʳŋuk ma

とげ	ts ^h er ma	麦の殻	tʃa ma
果物	ɕ ^h ej toq	とうもろこし	ma ^ɾ mo lo toq
桃	k ^h am wə	綿	ʃsəl wə
梨	lə	大麻	s ^h a ma ra tsa
みかん	ts ^h a lə ma	野菜	ɕ ^h jo ts ^h əl / ts ^h ot ma
柿	ɕ ^h ej toq ʔa ma	大根	la puk
ぶどう	ɾgən ^m ɖum	唐辛子	ɣe tsa
はすの花	pal ma	たまねぎ	tsoŋ
冬虫夏草	m ^{bə} / ^{fi} jar ɕtsa ^{fi} gən ^m bə	にんにく	^{fi} go ɣa / ^{fi} gor loq
サフラン	kər kum	しょうが	ɕtɕa ^ɾ ga
サトウキビ	m ^ɲ uk ^{fi} ɖæŋ	ジャガイモ	jəŋ
胡桃	^h tar ga	豆	ʃen ma
タマリスク	ʃɕen ma	大豆	ʃen s ^h er
穀物	lo toq	蚕豆	^{fi} ja ʃen
食料	m ^ɖ ə rək	えんどう	ʃen ma
米	m ^ɖ i	落花生	wa tam
種	s ^h a wun / s ^h en	ゴマ	tik ^m ɖə
稲	m ^ɖ i s ^h oq / s ^h oq ma	草	ɕtsa
玄米	m ^ɖ ə ^{fi} doq	きのこ	ɕ ^h a mo / ɕ ^h o mæŋ
小麦	co	人参果	co ma
大麦	s ^h o wa	ひまわり	ɲə ma me toq
カラスムギ	ju xo	からし菜	ɕke ts ^h e
青稞 (裸麦の一種)	ni	米	m ^ɖ i
麦 (植物)	co s ^h oq		

食物

ごはん	za za	夕食	nup tɕ ^h ə
粥	m ^ɖ i t ^h uk / m ^ɖ i s ^h a	ミルクティー	yo tɕa
小麦粉	co wə wo ^ɾ dzin	肉	ɕ ^h a
パン	ko re	赤身	ɕ ^h a ^ɾ nəq
蒸しパン	ɕ ^h a moq	油	ɕ ^h um
餃子	t ^h en ɕ ^h ə	植物油	ɕ ^h um
乾物	ɕkam za ji ʃə	脂肪油	ts ^h i
朝食	næŋ tɕ ^h ə	バター	mar
昼食	tʃu dza	ヨーグルト	zo

チーズ	tɕ ^h ə ra	スープ	q ^h wɛ
初乳	ɸtə	酒	tɕ ^h æŋ
牛乳の膜	ɸtər ma	湯	tɕ ^h ə k ^h o
チーズケーキ	t ^h ət	茶	tɕa
ツアンパ	ɕtsam ba	タバコ	tə
牛肉	zoq ɕ ^h a	薬	ɕman
ソーセージ	ce ɾjə	麩	tɕo ɕpaq
塩	ts ^h a	ふたの餌	haq ze
砂糖	wɒæŋ	馬の餌	ɕta tɕ ^h əq
氷砂糖	ɕ ^h el ka ra	鼻タバコ	ɕna tə
酢	ɕcər k ^h ə	酒かす	tɕ ^h æŋ k ^h en
花椒	ɾjer ma	豆粉麵	t ^h ər / t ^h æŋ
卵	ɸca ɾgoŋ / ^h go ŋa		

衣料装飾

糸	ɕkə p ^h a	靴	ɣam
布	ri	ブーツ	ɾdzə ɕta
絹	tər ɕkət	シャツ	ts ^h əl len
サテン	ko zi	起毛ジャケット	p ^h əl s ^h at
プル	ɸsə p ^h tuk	ハンカチ	laq ɸɕ ^h ət
コート	ri la	櫛	s ^h oŋ mæ
袈裟	^h zan	カーテン	jo la
毛織物	^h go ɾna	装身具	^h dze tɕ ^h a
衣服	ko zi	宝石	no rə
チュバ	wot ku	珊瑚	ɸce rə
襟	koŋ wa	ジャスパー	ɰjə
袖	p ^h ə roŋ	真珠	mə tik
ボタン	^h jo xo	象牙	wa s ^h o
ズボン	tor ma	琥珀	ɸsu ɕ ^h i
スカート	ɕma ɕ ^h əm	イヤリング	ɾna loŋ
スカーフ	mgo ɕci	ネックレス	^h ke b ^h ər
帽子	za	指輪	m ^h dzu ɕci
ベルト	ɕke rəq	ブレスレット	laq ɕci
靴下	ɕkæŋ bə		

住居

枕	m ^o g ^o s ^{ɔ̃} ŋi	瓦	wa
布団	s ^{ɔ̃} t ^s a ^h d ^{an}	壁	t ^s æŋ
座布団	^h d ^{an}	丸太	ɕ ^h eŋ
家	ŋ ^h k ^h ə ŋa	板	ɕ ^h eŋ lep
屋根	ŋ ^h k ^h æŋ t ^h oq	柱	kə
宿屋	m ^o d ^o n ŋ ^h k ^h æŋ	門	r ^o go
軒	ra p ^h t ^s h ⁱ	門	r ^o go q ^h a
土台	h ^h t ^s ək ^h d ^{an}	玄関	r ^o go t ^s h ^{en}
キッチン	t ^s ə ŋ ^h k ^h æŋ	窓	s ^{ɔ̃} q ^a s ^{ɔ̃} q ^o ŋ
階層建築	t ^h oq ŋ ^h k ^h æŋ	階段	s ^{ɔ̃} ki
階上	ŋ ^h k ^h æŋ t ^h oq	梁	^h d ^o ŋ ma / ^h d ^o ŋ s ^{ɔ̃} ta
階下	ɕ ^h o joq	たる木	h ^h t ^s am
倉庫	m ^o d ^z ot ŋ ^h k ^h æŋ	ステップ	r ^o do s ^{ɔ̃} ki
牛小屋	ra k ^h əŋ / zoŋ ŋ ^h k ^h æŋ / zoq ra	テント	kər
ぶた小屋	haq t ^s h ^æ ŋ	牛毛テント	^w ra
馬小屋	s ^{ɔ̃} ta rə	竹垣	^h go ra
羊小屋	luk rə	庭	^h dum ra
鳥小屋	ɕ ^h ə t ^s h ^æ ŋ	トイレ	t ^s h ^{ap} ŋ ^h k ^h æŋ
レンガ	s ^h a r ^o paq		

生活用具

もの	s ^{ɔ̃} ŋe wo / s ^{ɔ̃} ŋo po	箒	ɕ ^h æq ma
テーブル	t ^s əoq tse	明かり	^h loq
いす	s ^{ɔ̃} kəp cæq / s ^{ɔ̃} kəp tæq	薪	m ^o bət ɕ ^h eŋ
ベッド	ŋə t ^h ə	炭	s ^h o
箱	r ^o gam	火打石	m ^o ŋe r ^o do
キャビネット	r ^o gam ^h dzom	ほくち	p ^h t ^s a wa
入れ物	r ^o gam t ^s h ^o ŋ	石灰	^h do zo
石鹸	taq ɕ ^h et	火箸	me s ^{ɔ̃} t ^s ei
芳香石鹸	t ^s ə zim taq ^h dzi	マッチ	m ^o bar zin
ガラス	ɕ ^h el	松明	ɕ ^h pe m ^o bar
鏡	ŋo s ^{ɔ̃} ta / ɕ ^h el ^h go	線香	ɕ ^h su

染料	ts ^h u / ts ^h on	針	q ^h ap
かまど	t ^h ap ka	錐	^m buk
鉄なべ	zaŋ / t ^h o	釘	^h tɕæŋ ⁿ dzer / ⁿ dzer ma
フライパン	t ^h o ko	はさみ	tsə ⁿ dəp
蒸し器	^h i mæŋ ts ^h əq	はしご	^s ki
ふた	k ^h a lep	傘	ɕɕə ^β duk
ナイフ	cə	鎖	^r go ^s tɕæq
柄杓	^s coq	鍵	^r de ^m ɲik
スプーン	t ^h ər ma	車輪	ɲk ^h or lo
しゃもじ	^s coq	棒	^h ju ɣa
木製椀	tɕa ni	鞍	^s ta ^r ga
ボウル	^h ka ju	馬籠頭	^m t ^h ər
皿	^h i der ma	馬腹帯	^h lo
箸	za t ^h ər	馬嚼子	ɕap
瓶	tam bi	あぶみ	jop tɕ ^h en
ポット	^r dza ma	蹄鉄	^h iɲik ^s tɕəq
甕	^r dza ma	馬槽	p ^h i
壺	tam bi	しりがい	^s ɲit
茶漉し	tɕa ts ^h əq	たづな	ɕam ^m da
魔法瓶	ts ^h a tam	鞭	^s ta ^s tɕəq
水がめ	tɕ ^h ə ^r ɲot	駄架	^h i jam ^ɲ gəl ^β zɪt
バケツ	tɕ ^h ə zom	くびき	^h iɲa ɕ ^h eŋ
木製盆	^h i zoŋ wa	牛の鼻輪	ɲa ^ɰ tɕə
臼	^h i goq ^h tən	指貫	^s tɕim mo
杵	^r do re	ピンセット	^ɲ dzaq tse
ひも	zo ^s ci	糊	^s co ma
三脚	^s kæŋ ^h sum	めがね	^m ɲik ra
吊りベルト	^h i ja loŋ	印鑑	t ^h el tse
秤	^r ja ma	牛皮繩	^m dɕe ŋa
お金	t ^h ə / ^h i gor mo	船	tə
資金	ma ^s tsa	電車	me ɲk ^h or
利息	^s cet ka	飛行機	^h i nam ɕɕa
商品	ts ^h oŋ ^r dzi	自転車	^s tɕəq ^s ta
定規	t ^h e ^s tse		

その他道具

道具	laq tɕ ^h a	碾き臼	tɕ ^h uk
斧	ɕta re	織機	n ^h t ^h əq tɕ ^h ə
金槌	t ^h ɔ	包丁	ɕta re
のみ	ɕ ^h eŋ tɕp	投石器	ɣor ^h do
鋸	s ^h əq le	ほら貝	toŋ s ^h kar
錐	ɣsor	矛	m ^h doŋ
やすり	s ^h oq ^h dar	的	m ^h ben
かな	m ^h bər len	鞞	cə ɕ ^h əp
墨斗	t ^h ək tɕ ^h i	銃	me ^h da
のり	ɕcən	弾	m ^h da
スコップ	ɕtɕəq k ^h em	弓	n ^h zə
鍬	t ^h oq ɣcəl / t ^h oŋ	矢	m ^h da
鉄の鍬	t ^h oŋ ɕtɕəq	わな	s ^h nə
備中鍬	ɕ ^h al	落とし穴	n ^h ə toŋ
鋤	s ^h ko ma	火薬	r ^h dzi / m ^h ne r ^h dzi
皮の袋	n ^h jo wa	毒	tuk
ガソリン	n ^h wæŋ s ^h nəm	網	tɕe
機械用油	m ^h t ^h əl nəm	磨き粉	laq ^h kor
かつぎ棒	n ^h t ^h əq ɕ ^h eŋ	機械	m ^h t ^h əl n ^h k ^h or
刃物の柄	jo	担保	ɣte ma
取っ手	jo	贈り物	laq ^h taq
くさび	n ^h dzer	ノート	tep
縄	n ^h ta ɣa	キルト	n ^h e t ^h əl
肥料	lət	マットレス	n ^h e ^h dan
鎌	zo ra	賞品	r ^h ga s ^h taq / ɕca r ^h ga
水槽	wa k ^h a		
ふるい	s ^h əq ma		

文化教育

文字	ji ke	絵	rə mo
手紙	m ^h p ^h ən jik / ji ke	本	ɣwi tɕ ^h a
字母	h ^h səl ɕcət / ka k ^h a	紙	ɕ ^h oq qə

ペン	^m ŋə kə	信仰	tat pa
インク	ʂnaq ts ^h a	神仏	la
学校	^h loɸ ʈa	女神	la mo
学問	jon dan	鬼	ⁿ ɖe
話	ʂka tɕ ^h a	女鬼	ⁿ ɖe mo
チベット語	wot ^h kat	悪魔	^b dət
チベット文語	wo jik	竜神	^ʂ lə
名前	^m ŋeŋ	仏陀	ʂ ^h æŋ ʀji
姓	ri ^m ŋeŋ	靈魂	ʀnam ɕ ^h i
記号	ʂtaq	魂	^w la
新聞	ts ^h əq ^h par	円寂	^x ɕeq
ニュース	^w da	天堂	la jəl
物語	^{fi} na ʎtam	来世	ts ^{he} ɸtɕ ^h ə ma
伝記	^{fi} nam t ^h ar	輪廻	ɸk ^h or wa
ことわざ	ʎtam ɣwi	運	^{fi} loŋ ʂta
笑い話	k ^h a ^m ts ^h ar	縁	li ^{fi} jo
なぞなぞ	k ^h et	善行	ʀge wa
声	ʂkat	凶兆	ʂti ŋen
歌	ʂlə	ラマ	^w la ma
民謡	la ʂzi	活仏	ɸtəl ^h kə / ^w la ma
踊り	p ^h to	僧院長	^m k ^h wan bo
将棋	^m ɖuk	僧侶	ʈa wa
さいころ	ɕ ^h o	尼	tɕo mo / ʔa ne
太鼓	ʂŋa	ボン教	won bo
どら	^m k ^h war ŋa	管家	^x ŋer wa
シンバル	tɕ ^h e ^w raŋ	還俗僧	ʂka loq
ベル	ʂŋa	施主	βzən ^b dəq
竹笛	^{fi} dza ʂlaŋ	茶の寄付	mæŋ tɕa
笛	^{fi} laŋ wə	魔術師	ʔa ^m tɕ ^h ot
鈴	ʈə lə	占い師	mo wa
ラッパ	^{fi} za ʂlaŋ	地獄	ʂŋal wa
映画	^{fi} loq ^w ŋan	閻魔	^x ɕən ^{fi} dzi / tɕ ^h u ʀjal
タンカ	t ^h æŋ k ^h a	寺	ʀgon ba / la ɸk ^h æ
お面	^m baq	経堂	la ɸk ^h æ
宗教	tɕ ^h u luk	経院	ʈa ts ^h aŋ
宗派	ʈum ^m t ^h a	護法神殿	ʀgon ɸk ^h æŋ

静修室	m ^h ts ^h am ŋ ^h k ^h æŋ	カタ	k ^h a dəq
六字真言	ma ^h r ^h nə / ma ^h r ^h nə m ^h du tʃuk	護身符箱	ϕ ^h cen ^h n ^h dot / ka wə
燃灯祭	ʂŋa m ^h tɕ ^h ot	放生	ts ^h e t ^h ar
焼香	ϕ ^h sæŋ	生命樹	w ^h la ɕ ^h eŋ
宝の甕	wum ba	呪文	ʂŋæq
白塔	m ^h tɕ ^h o ʂten	お経	rə tɕ ^h u
火葬	me m ^h tɕ ^h ot	数珠	m ^h t ^h eŋ wa
天葬	ϕ ^h ca ^h tor	仏像彫刻家	la ^h βzo wa
施食	ʒtor ma	金剛	fi ^h do r ^h dze
曼陀羅	h ^h cil ŋ ^h k ^h or	天蓋	fi ^h jal m ^h ts ^h an
マニ石	tɕ ^h u r ^h tsik	マニ車	ma ^h r ^h nə ŋ ^h k ^h or lo
墓	tər s ^h a	布施	βzən ba
仏像	ʂkə ^h ŋ ^h da		
バター灯	m ^h tɕ ^h or me		

抽象物

中国	tɔŋ go	吉祥	p ^h ta ɕ ^h i
地位	ko s ^h a	感謝	t ^h uk fi ^h dze tɕ ^h e / p ^h kwa dŋin tɕ ^h e
権力	fi ^h yæŋ	裂け目	sup kwa
生活	n ^h ts ^h o wa	痕跡	r ^h dzi ɕ ^h əl
給料	hoq	沈殿物	ʂŋək ma
分け前	ʂke	影	tə ma
工場	βzo tʃa	色	m ^h doq
市場	n ^h ts ^h oŋ ra	夢	fi ^h ŋə lam
税金	t ^h el	精神	w ^h lo
優待	han t ^h oq	考え	ϕ ^h sam ts ^h əl
用途	h ^h tɕot fi ^h go	外見	βzo ʂta
原因	r ^h ʒə m ^h ts ^h an	事情	li ʂka / ϕ ^h ca wa
答え	lan	方法	t ^h ap / p ^h kot pa
飢饉	mə ke	性格	fi ^h dzə wa
苦しみ	r ^h duŋ ŋ ^h el	力	ɕ ^h uk / ɕ ^h et
間違い	nor fi ^h dəl	命令	p ^h kwa
危険	n ^h en k ^h a	監獄	p ^h tson ŋ ^h k ^h æŋ
区別	ɕ ^h at par	うわさ	k ^h a ŋ ^h t ^h uk
空間	war ʒtsæŋ	罪	ni wa

契約	kan ^h dza	国家	ʔjal k ^h ap
裏地	nəŋ ma	経験	ŋam ŋoŋ
歯磨き粉	s ^h o ʔman	会議	ts ^h oq ⁿ də
裸足	ʔkaŋ ʔdzen	距離	t ^h aq ra
引き出し	ŋ ^h en ^h gam	歩行	ʔkaŋ t ^h aŋ
武器	m ^h ts ^h on tɕ ^h a		
勝利	ʔjal k ^h a		

位置方角

方向	ʔtɕ ^h oq	頂上	h ^h lat
東	ɕ ^h ar	上側	ʔtot / jar
南	lo	下側	jot / mar
西	nəp	上	t ^h oq
北	ɕæŋ	下	jot
中間	ʔcəl	下の方	jot
そば	ŋjam	高いところ	k ^h a
左	ʔjon	上のほう	ŋo
右	ʔji	ふもと	n ⁿ dap
前	ʔŋən	以上	jan tɕ ^h at
後	tə qa	以下	man tɕ ^h at
外側	ɕ ^h ə	上へ	jar
内側	næŋ	下へ	mar
隅	zər	上半身	k ^h oq ^h tot
先端	ʔtse	下半身	k ^h oq mat
周り	ŋk ^h or juk	端	m ^h a
近所	ŋe n ⁿ dap	底	m ^h əl / zəp
境界線	k ^h am m ^h ts ^h am / s ^h a m ^h ts ^h am		

時間

時間	ti ts ^h ot	明日	s ^h aŋ ŋin
今日	tæ reŋ	あさって	ʔnaŋ ŋin
昨日	k ^h e saŋ	しあさって	h ^h zi ŋin ka
おととい	k ^h e ŋin	今晚	to ʔgoŋ
さきおととい	k ^h a ʔzi ŋin ka	明日の晩	s ^h əŋ nəp / s ^h aŋ ʔgoŋ

昨日の晩	^m da ʳgoŋ	上旬	ʳda ^h tot
昼間	ŋin dər	中旬	ʳdɛ ^s cəl
朝	næŋ mo	下旬	ʳda ^m dʒuk
正午	ŋin koŋ	誕生日	^s ce ^s kər
夕方	ɕ ^h ə ʈo	年	lo
夜	ʳgoŋ mo	年齢	lo
夜中	^m ts ^h an mo	最近	ŋen tɕ ^h ər / tɕŋ s ^h aŋ
真夜中	^{fi} nam koŋ	今年	to ts ^h ək
晦日	^{fi} nam kaŋ	去年	na nəŋ
えと	lo ^s taq	おとどし	^{fi} zɪ nəŋ lo
ね	ɕɕə wa	来年	s ^h aŋ lo
うし	^{fi} læŋ	再来年	^{fi} naŋ lo
とら	^s taq	以前	^s ŋa mo
う	ju	昔	^{fi} na ti
たつ	^m dʒuk	今	ta ʳta
み	^w dəl	未来	ma ɣoŋ wa
うま	^s ta	はじめ	ŋgo ⁿ dʒot
ひつじ	luk	月曜日	^{fi} za ʳdɛ
さる	ɕtɕel	火曜日	^{fi} za mik mər
とり	ɕɕa	春	ɕtɕet k ^h a
いぬ	c ^h ə	夏	^w jar k ^h a
ぶた	p ^h aq	秋	^h ton k ^h a
日	ts ^h i	冬	ʳgən k ^h a
1日	ts ^h i ʒtɕik	新年	lo ^h sər
2日	ts ^h e ^ʳ ŋi	閏月	ʳda laq
月	ʳdɛ	冬至	ʳgən nə ʳdoq
午前	^s ŋa ʈo	夏至	^w jar nə ʳdoq
午後	ɕɕ ^h ə ʈo	日食	nə ⁿ dzən
1月	ʳdɛ taŋ bo	月食	ʳda ⁿ dzən
2月	ʳdɛ ^ʳ ŋi pa	祭り	ti tɕ ^h en
12月	ʳdɛ p ^t ɕə ʳŋi		

数字

一	ʔtɕik	五十	^f ŋa p ^t ɕə
二	^ɸ ni	五十四	^f ŋa p ^t ɕə ŋa βzə
三	^h sum	六十	tuk tɕə
四	βzə	六十五	tuk tɕə re ^r ŋa
五	^s ŋa	七十	^b dən tɕə
六	tuk	七十六	^b dən tɕə ton tuk
七	^b dən	八十	^b je tɕə
八	^b jat	八十七	^b je tɕə ca ^b dən
九	^r gə	九十	^r gə p ^t ɕɯ
十	p ^t ɕə	九十八	^r gə p ^t ɕɯ ko ^b jat
十一	p ^t ɕə ʔtɕik	九十九	^r gə p ^t ɕɯ ko ^r gə
十二	p ^t ɕə ^ɸ ni	百	^b ja
十三	p ^t ɕə ^h sum	百一	^b ja da ʔtɕik
十四	p ^t ɕi βzə	百八	^b ja da ^b jat
十五	p ^t ɕə ^r ŋa	八百八十	^b je ^b ja ^b je p ^t ɕə
十六	p ^t ɕə duk	千	^s toŋ
十七	p ^t ɕə ^b dən	万	t ^h ə
十八	p ^t ɕə ^b jat	十万	^m bum
十九	p ^t ɕə ^r gə	百万	ϕ ^{ce} wa
二十	ŋə ɕ ^h ə	千万	s ^h a ja
二十一	ŋə ɕ ^h ɯ ʔtɕik	一億	toŋ p ^t ɕ ^h ər
二十八	ŋə ɕ ^h ^b jat	半分	ϕ ^ɕ ^h e k ^h a
三十	s ^h um tɕə	第1	taŋ bo
三十二	s ^h um tɕə s ^h o ^ɸ ni	第2	^ɸ ni ϕ ^{sa}
三十八	s ^h um tɕə s ^h o ^b jat	両/2	to
四十	βzə p ^t ɕə		
四十三	βzə p ^t ɕə zɛ ^h sum		

数量詞

1 人	^m ŋə ʔtɕik	1 本の草	^s tɕa ^s kaŋ ʔtɕik
1 碗	ʔtɕik	1 粒の米	^m dʒi ^r doq ʔtɕik
1 腔	k ^h oq	1 つかみの野菜	ts ^h e nu ϕwa ra kəŋ

2 つかみの米	m ^d i h ^h par wa to	1 斗	p ^h tɛ kaŋ
1 杯	p ^h oŋ ʒtɛik	1 升	p ^h tɛ tɛ ^h oŋ kaŋ
1 桶の水	tɛ ^h ə zom kæŋ	1 里	le ^h war ʒtɛik
1 碗のごはん	m ^d i h ^h kar jol kæŋ	1 尺	t ^h e tse kaŋ
1 つかみの土	s ^h a ʒa ʒtɛik	1 咫	m ^h t ^h o kaŋ
1 時間	tɛ ^h ə ts ^h ot ʒtɛik	1 [指の幅の単位]	s ^h or kaŋ
1 輪の花	me toq ʒtɛik	1 [肘の長さの単位]	tɛ ^h ə kæŋ
1 文	ts ^h ik ʒtɛik	1 寸	ts ^h un kaŋ
1 そろいの靴	ɣam tɛ ^h a ʒtɛik	1 対の牛	tor ʒtɛik
1 対のウサギ	rə ɣoŋ tɛ ^h a ʒtɛik	1 元	f ⁱ gor mo ʒtɛik
1 群れの羊	luk tɛa ʒtɛik	1 角	toŋ ʒtɛik / mo kaŋ
1 区画の道路	lam tɛ ma ʒtɛik	1 分	h ^h kar ma kaŋ
1 節	ts ^h ik ʒtɛik	1 畝	mo ʒtɛik
1 日の旅程	n ^h in lam ʒtɛik	少しの間	jət tsəm
片方の靴	ɣam ja ʒtɛik	1 日	n ^h ən ʒtɛik
1 巻きの紙	f ⁱ dep ʒtɛik	1 夜	m ^h ts ^h an ʒtɛik
1 口の食事	za t ^h oq ʒtɛik	1 か月	r ^h de ʒtɛikk
1 枚の布	ri k ^h a kaŋ	1 年	lo ʒtɛik
1 かご	lan wo kaŋ	1 歳	lo ʒtɛik
1 セット	tɛ ^h ə ra kaŋ	一生	ts ^h e ʒtɛik / m ^h nə ts ^h e ʒtɛik
1 歳の馬	k ^h a ʒtɛik	1 歩	kom ba kaŋ
1 個の荷物	r ^h ap ʒtɛik	1 度	t ^h æŋ ʒtɛik
1 袋	k ^h uk ma kaŋ	1 声あげる	s ^h ka ʒtɛik ^h toŋ
1 隊	h ^h kor ʒtɛik	1 回打つ	ʒtɛik r ^h op
1 列の家	ŋ ^h k ^h æŋ ba ^h tar ʒtɛik	1 噛みする	k ^h am kaŋ m ^h dat s ^h o ʒtɛik ^h tap
1 串の玉	m ^h t ^h ɛŋ h ^h kor ʒtɛik	いくらか	k ^h a ɕ ^h i / ŋga zək
1 滴の油	t ^h ək pa ʒtɛik	いくつか	k ^h a ɕ ^h i / ŋga zək
2 階	s ^h tsek t ^h oq ^h n ⁱ	毎日	n ^h ən ^h ɔ
1 つの部屋	ŋ ^h k ^h æŋ mək ʒtɛik	それぞれ	re re
1 包み	n ^h t ^h əm ʒtɛik	1 倍	r ^h dap ʒtɛik
1 瓶の酒	ɕ ^h el tam kaŋ	毎晩	r ^h goŋ s ^h tar
1 つの泥	n ^h dam h ^h kor ʒtɛik	1 すくい	h ^h par wa
1 斤	r ^h ja ma kaŋ		
2 銭	zo to		

代名詞

私	ɲa	あれ (近)	te
私たち 2 人	wo ɲi ka	あれ (遠)	hu
私たち	ɲa ts ^h o	あれら	te ts ^h o
あなた	c ^h ot	あそこ	te na
あなた (敬称)	c ^h et	あの辺	te φ ^h oq
あなたたち 2 人	c ^h o ɲi / c ^h e ɲi	あのような	te s ^t ar
あなたたち	c ^h o ts ^h o / c ^h e ts ^h o	誰	s ^h ə
彼 (彼女)	k ^h o	誰ら	s ^h ə s ^h ə
彼ら 2 人	k ^h o ɲi	何	tɕ ^h ə zə
彼ら	k ^h o ts ^h o	どこ	kæŋ na
我々	ɲa raŋ ts ^h o	いつ	nam zək / nam zik
我々 2 人	ɲa raŋ ɲi	どのように	kaŋ ⁿ ɖa
皆	ts ^h aŋ ma	どれくらい	tɕ ^h ə ts ^h e
自分	raŋ	いくつ	tɕ ^h ə ts ^h e
他の人	vzan ba	そのほか	k ^h a k ^h a
これ	ⁿ də	おのおの	s ^h o s ^h o
これら	ⁿ də ts ^h o	一切	ts ^h aŋ ma
ここ	ⁿ də ʒtər / ⁿ də na	すべて	ts ^h aŋ ma
この辺	ⁿ di φ ^h oq	今回	ta t ^h æŋ
この 2 つ	ⁿ də ɲi k ^h a	いつか	s ^h kap ^h kap / ^m ts ^h am ^m ts ^h am
このような	ⁿ də ⁿ ɖa		

形容詞

大きい	tɕ ^h e	長い	rə ɲu
小さい	tɕ ^h oŋ	短い	t ^h oŋ t ^h oŋ
太い	wrom	遠い	t ^h aq reŋ
細い	^m t ^h a	近い	t ^h aq ɲe
高い	^m t ^h o	中間の	^m ɖæŋ wa
低い	ʒma	幅広い	r ^h ja xjə bo
凸の	^m bər ^m bər	狭い	toq po / r ^h ja tɕ ^h oŋ tɕ ^h oŋ
凹の	qo qo	広々した	jaŋ s ^h a
でこぼこの	^m ba re ^m bə re	狭窄の	toq toq

厚い	ⁿ tʰu χu	まぶしい	γot zer zer / γot tʰæŋ tʰæŋ
薄い	ʃap ʃap	暗い	mən naq
深い	zap mo	重い	^f dzi mo
浅い	ʃap ʃap	軽い	jæŋ mo
満ちた	kæŋ	速い	^m ʃo γa
空の	^s to ŋa	ゆっくりの	ka le
多い	ma ŋa	早い	^s ŋa
少ない	ŋoŋ ŋoŋ	遅い	ϕ ^h ə
四角い	βzə tə ma	鋭利な	^s ŋo
丸い	γor γor	鈍い	^s ŋo met
平たい	lep lep	澄んだ	tæŋ mo
尖った	^s tse tçen	濁った	ŋo qə
はげた	^s ca ^ŋ go / ^m go ^r do	太った	ts ^h on bo
水平の	^b de mo	肥えた	^r jaq
おもての	tæŋ ϕ ^h oq	やせた	ç ^h a ^s kam
うらの	^r doq ϕ ^h oq	乾いた	^s kam bo
命中した	ⁿ tʰik po / ⁿ tʰək mo	湿った	ʋlon ba
偏った	^u jon	濃い	ka ro
歪んだ	ⁿ tç ^h oq / ^u jo	希薄な	tæŋ mo
横の	^m tʰet	密な	ts ^h əq tam bo
縦の	tæŋ mo	疎な	ʃap ʃap
まっすぐな	tæŋ mo	硬い	ʃa mo
曲がった	coq coq / kuk kuk	軟らかい	^h ŋə mo
曲がりくねった	caq qe coq qe / ca qe co qe	粘つく	^m dza ro
黒い	naq po	つるつるの	ⁿ dzəm bo
真っ黒の	naq tʰæŋ tʰæŋ	ざらざらの	^s tsu po
白い	^s ka ro	滑る	^b dar
赤い	ɣma ro	きつい	^f dam / ^r dom
真っ赤の	ɣmar tʰək tʰək	ゆるい	lot
黄色い	s ^h e ro	固い	ʃa mo
真っ黄色の	s ^h er həŋ həŋ	乱れた	^s ŋoq ⁿ tʰəl / ^s ŋoq ⁿ duk
緑の	^r dzəŋ k ^h ə	めちゃくちゃの	tsa re tsa re
青い	^s ŋon bo	正しい	ⁿ dək / re
真っ青の	^s ŋo ç ^h ər ç ^h ər	誤った	nor / ^m tʰuk
灰色の	^s ca ^s ca	真の	ŋo ma / ^b den ba
明るい	ɣsə lo	にせの	^r dzən ma / ç ^h or ^p ca

生の	vlon ba	清潔な	ʒsar ma
新しい	ʒsa ra	汚い	ʔtso ʒa
古い	ʰŋiŋ ŋa	生きている	ʒson bu
よい	ŋan kə / jə ʒa	新鮮な	ʒsa ra / sʰo ma
悪い	ma ŋan kə / ʰdu xu	死んだ	ɕʰə wo
弱い	ʰdu xu	明確な	ʰse la
高い	koŋ tɕʰe bu	おいしい	zə bo
安い	koŋ kʰe mo	聞きよい	sʰŋan bo
育ちすぎの	ʰgi pa	見よい	sʰŋej ʳdʒe / sʰŋej ʳdʒe wo
年老いた	lo lon	うるさい	ʳdʒa tɕaŋ pa
若い	lo tɕʰoŋ	つらい	kʰaŋ
美しい	m̄dzi pʰo / jæŋ ma	退屈な	sʰem mə s̄cit pa
醜い	s̄tso ʒa	急ぎの	p̄tel ʰtsʰup
熱い	t̄o	色とりどりの	tʰa tʰa
寒い	ʰcʰæŋ	賢い	rə xa ʳno
暖かい	t̄o ʰdzam	愚かな	wlun
温暖な	t̄on bo	正直な	t̄æŋ mo / ʰden ba
涼しい	ʔsi mo	ずる賢い	s̄jo ʳjə
難しい	s̄ka mo	注意深い	z̄ip tsʰəŋ
簡単な	s̄tsa mo	和やかな	kʰa ʰdzam bo
芳しい	t̄ə zim	傲慢な	ŋa ʳjal
くさい	t̄ə ŋan	適当な	ʰtsʰam bo
おいしい	t̄ə ma zim	凶悪な	p̄tsan bo
酸っぱい	s̄cə ru	厳しい	ŋar wa
甘い	m̄ŋa ru	遠慮深い	m̄dzə m̄dze
にがい	qʰa mo	けちな	sʰer ŋa
辛い	kʰa tsʰa	まじめな	s̄kup jaŋ mo
塩辛い	tsʰa kʰə	怠惰な	s̄jo ʳjə / s̄kup ʰdzə mo
淡白な	tsʰa ŋoŋ	平凡な	s̄kuk s̄təŋ ʰtan
渋い	qʰa wa	行儀のよい	kʰa la ŋan bo
魚くさい	tɕʰaŋ t̄ə kʰa	がんばった	s̄tson ʰdʒi
脂っこい	jin ba loŋ pa / ʳdʒen kʰa loŋ pa	かわいそうな	s̄ŋej ʳdʒe
暇な	kʰom ba	うれしい	ʳga
忙しい	kʰom ba met	幸せな	ʰde s̄cit
裕福な	ʔɕʰu xu	平和な	ʰde ʰdzəŋ / ʰde mo
貧しい	xul wo	悲しい	ʳduk s̄j̄jal

精通した	^m k ^h i ba	近所の	ɲe
親切な	^m dza s ^t se	まあまあ	?a la pa la
嫌な	s ^h ən bo	珍しい	ja ^m ts ^h an
単独の	s ^ɛ caŋ ma		
崖の多い	v ^ɤ zar po		

動詞

愛する	r ^ɪ ga	閉ざす	s ^ɛ tsam
好きだ	r ^ɪ ga	編む	w ^ɪ la
固定する	ɸ ^ɪ tat	変わる	ɲ ^ɪ jər
淹れる	s ^ɛ kol	変える	ɲ ^ɪ jər
抜く	ɸ ^ɪ qoq	病気である	na
耕す	p ^ɪ tæq	繕う	təp / lan bo r ^ɪ jæq
壊して開ける	r ^ɪ gar	補修する	lan bo r ^ɪ jæq
整理する	ɲ ^ɪ dək	布施する	β ^ɤ zən ba s ^t e
振る	ɤ ^ɪ juk	拭く	ɸ ^ɪ ç ^h il də ɸ ^ɪ tɕe
負ける	ham	拭き消す	ɸ ^ɪ ç ^h il dər
拝む	ɸ ^ɪ ç ^h æq ⁿ ts ^h e	なぞかけをする	k ^h et
引っ越す	ɸ ^ɪ ɕo	答えを当てる	ɲ ^ɪ t ^h ək
移動させる	tç ^h er	裁断する	t ^ɪ a
助ける	roq ram	踏む	r ^ɪ dzə
結ぶ	r ^ɪ gæq	参加する	ɲ ^ɪ z ^ɪ uk
包む	ɲ ^ɪ dəl	隠す	s ^ɛ koŋ
秘密を守る	ɤ ^ɪ sæŋ	搔く	r ^ɪ dar / ^m t ^h uk
保護する	h ^ɪ tɔŋ / h ^ɪ tɔŋ s ^ɛ cop	はさみ込む	ⁿ dzuk
満腹になる	β ^ɤ zæq	検査する	ɸ ^ɪ çer
掘る	^m bər len r ^ɪ jæq / β ^ɤ zoq	縫い目を解く	ɸ ^ɪ çik
むく	ɸ ^ɪ çə	破壊する	ɸ ^ɪ çik
はぐ	ɸ ^ɪ çat	粉碎する	z ^ɪ ik
剥げる	koq	手で支える	s ^ɛ cor
暗唱する	w ^ɪ lo fia ⁿ dot	撒く	ɕe luk
背負う	k ^h ər	混ぜる	ⁿ dɕe
断食する	ɲeŋ ^ɲ ni h ^ɪ tɔŋ	ねじる	ⁿ dɕəq
強制する	p ^ɪ tsan ç ^h et ɸ ^ɪ çet	大食いする	k ^h a ^ɲ k ^h ol
比べる	r ^ɪ dər	味わう	w ^ɪ ro ra s ^t a

弁償する	ɬcin ba	吹き飛ばす	p ^h ə ji
歌う	len	打つ	ˈdoŋ
騒ぎたてる	ɣər ˈjæq	殴る	ɬtol
炒める	ɬŋo	完全に穴が開く	ˈdol
けんかする	k ^h a n ^h dze	刺し傷が痛む	ˈi ^h zer / ts ^h a
沈む	ˈdzi bo	急ぐ	n ^h det
量る	n ^h dzal / ts ^h at	よじる	p ^h kwel
ほめる	h ^h to tɕ ^h a	間違う	nor
支える	n ^h dəq	答える	k ^h i len
傘を開く	ˈjoŋ	ぶつ	ˈdoŋ
完成する	n ^h dəp	身振りで表す	laq w ^h da ɬ ^h et
盛る	ˈluk / p ^h tɕə	狩をする	ɬmon
持ちこたえる	tɕ ^h ət	撃つ	wu ˈjæq
認める	ŋo len	当てる	hoq
清める	taŋ ɬ ^h ik	けんかする	ˈjəq ri
食べる	za	散らかす	ɣtor
撒き散らす	ɣcar	分ける	n ^h ˈor
ほとぼしる	ɬcal	倒す	zoq
すりつぶす	ˈduŋ	引いてくる	len
持ち出す	n ^h dot / n ^h don	薪拾いをする	ɕ ^h en n ^h ˈə
タバコを吸う	n ^h ˈen	賭ける	ˈjen n ^h dzuk
鞭打つ	ˈdoŋ	脱穀する	ɬjəl li ɣtoŋ
出る	ɬtɕ ^h ə la ˈjo	居眠りする	ˈnil joŋ
取り出す	n ^h don	あくびする	ɬle mo ɬ ^h et
日が昇る	ɕ ^h ar	しゃっくりする	hə ra jit
出てくる	n ^h jo	おくびを出す	ˈgaq t ^h ət
掘り起こす	ɬ ^h et	開ける	ɬɕ ^h e
召し上がる	βzi / con	稲光がする	t ^h oq ˈjæq
着る	kon	雷が鳴る	m ^h duk ˈdza ˈdoq / m ^h duk ˈjæq
履く	kon	持ち歩く	ɕ ^h er
穴に通す	ˈjən	戦争に行く	ˈma ˈjæq
穴が開く	wuk	結び目を作る	m ^h də pa jet
穴を開ける	m ^h buk	いびきをかく	ɬjər n ^h ˈen
伝承する	ˈjət	くしゃみする	hap tɕ ^h ə ˈjæq
伝染する	n ^h gu	世話をする	ɕ ^h ət
吹く	hor	導く	ɕ ^h ət

(帽子を) かぶる	kon	渡る	^w gal
(布を) かぶる	^h tə	切れる	tɕ ^h at
(腕輪を) 身につける	jet	折れる	tɕ ^h æq
生まれる	^h t ^h oŋ	ちぎる	ʒtɕot
遅れる	^ŋ gor	折る	ʒtɕæq
さえぎる	^ŋ goq	積む	ʔsəŋ
倒れる	loq	隠れる	kap
倒す	^h loq	切り分ける	ʒtsap
つき砕く	^r doŋ	印を押す	^r duk
裏返す	^ŋ go m ^d zək ^h loq	飢える	^s toq
着く	ⁿ dzor / t ^h on	押しつける	^h nan
得る	ⁿ t ^h op	起こる	ⁿ dzoŋ
待つ	re ^r guk	発展する	^m p ^h e ^h gi
地が震える	s ^h a ^ŋ gi	発展させる	^h pel
頭を下げる	^m go ^h gər	怒る	ts ^h ə ɣa za
うなづく	^m go ^ŋ gi	誓う	^m na ^s ci
点火する	^m ne ^h ɣen	身震いする	ⁿ dar
燃える	^m bar	発酵する	^h al
灯す	^v loq ^h ɣen	熱がある	ts ^h a m ^t ɕ ^h əl
詰め物をする	^h dæŋ	心配する	^s co ^s naŋ ^ʔ ɕet
しおれる	^h ŋət	発芽する	^m ŋə kə ^m bi
ほおぼる	ⁿ dzən	罰する	tɕ ^h a p ^h a p ^t ɕat
落ちる	loŋ	翻す	p ^t ɕ ^h ə naŋ ^h loq
吊るす	^v zar	振り返る	?a loq ^r jæq
釣る	ⁿ dzə	反対する	ŋo ^r gol ^ʔ ɕet
転ぶ	loq	翻訳する	^b jər
重ねる	^h doq	反芻する	^r de ^r jæq
噛みつく	^r jæq	つむぐ	^h k ^h əl
なくす	wor	放置する	ⁿ dzoq
理解する	ɕ ^h i	入れる	^r jæq / lep
(肉が) 凍る	ⁿ q ^h eŋ	放牧する	zoq ⁿ ts ^h o
(手が) 凍る	^h gæŋ ⁿ q ^h eŋ k ^h əm	火をつける	^m ne ^h toŋ
動く	^ŋ gəl	飛ぶ	^m p ^h ər
ちょっと動く	^h gəl	分かち合う	^b go
読む	ⁿ don	分家する	^b go
ふさぐ	ⁿ ts ^h aŋ	分離する	ⁿ t ^h or

分かれさせる	ʔtor	関心を持つ	s ^h em k ^h ər φ _{çet}
狂う	m ^h o	閉める	ʔjop
縫う	n ^h ts ^h em	囲い込む	k ^h oq
塗る	ʔkət / φ _{çuk}	管理する	to tam φ _{çet}
孵る	rəm	灌漑する	luq
手を置く	ʔcor	跪く	wor mo p ^h tsuk
適合する	m ^h t ^h ən	転がる	n ^h dɛ loq n ^h dep
適合させる	φ _{tən}	年越しする	lo ʔsar ^h tæŋ
腐る	ri	渡る	ʔgi
かぶせる	n ^h gep	経る	s ^h oŋ
かぶる	kon	恥ずかしがる	ŋo ts ^h a
乾く	ʔkam	怖がる	ʔcæq
喉が渇く	n ^h gam	呼ぶ	m ^h bot
働く	li / li ʔka φ _{çet}	叫ぶ	ʔkat ʔjæq
市場へ行く	t ^h om naŋ n ^h jo	溶接する	ts ^h a la cət
風邪を引く	tɕ ^h am ba na	飲む	n ^h t ^h oŋ
あえてする	hot	適切である	n ^h dək
言う	φ _{çat}	閉じる	k ^h a ʔjæq
告訴する	cot ʔjæq	うらむ	n ^h k ^h on n ^h dzən φ _{çet}
切り分ける	p ^h tɕat	火であぶる	ʔto
切断する	ʔtɕot	なだめる	ɣər n ^h tɕ ^h at
切ってしまう	ʔtɕot	悔いる	n ^h jot pa φ _{çet}
刈る	m ^h dɕq	こぐ	ʔtæŋ
隔てる	cot	描く	p ^h tə
靴擦れを起こす	ʔnot	身ごもる	za zi ^b dat
与える	β _{zən}	疑う	to ɣa za
ついて行く	ʔdzi / n ^h det ts ^h e	払い戻す	ʔtat
耕す	n ^h dep	返却する	har ʔtat
つるす	n ^h dzən	交換する	ʔdze
いっぱいである	ts ^h aŋ	振る	ʔjuk
計る	ts ^h ot ^h paq φ _{çet}	帰る	loq
雇う	ʔla	帰らせる	n ^h loq
剃る	β _{zar}	思い出す	tan
風が吹く	v ^h loŋ ^h juk	答える	lan n ^h dep
つるす	n ^h gi	破壊する	nəp
電気を消す	ʔjæq	できる	ç ^h i

混ぜる	ϕse ^h ka	牛が鳴く	zoq ŋar
攪拌する	ʂŋoq	犬がほえる	c ^h ə zək
生きている	s ^h u	ぶたが鳴く	haq ŋi ze
支える	hso	羊が鳴く	luk ^m ba
手に入れる	n ^h op	虎がほえる	ʂtaq ŋar
水で混ぜる	r ^h dzə	狼がほえる	ϕcəŋ kə ŋə
(水が) 集まる	n ^h c ^h i	呼ばれる	m ^h neŋ ^m bot
積もる	hsoq	剥く	ϕc ^h e
(人が) 集まる	n ^h ts ^h oq	結氷する	tar t ^h c ^h æq
集める	n ^h ts ^h oq	結婚する	ʂton mo ji
搾り出す	ʒt ^h c ^h ər	ほどく	t ^h ol
搾る	βzo	お金を借りる	ʂjar
はさむ	ʒt ^h c ^h ər	ものを借りる	ʂjar
覚えている	t ^h an	浸す	w ^h ræŋ
預ける	p ^h t ^h col	禁じる	n ^h goq / p ^h kwæq
送る	ʂkər	浸す	t ^h əm
うらやむ	p ^h t ^h əq toq ϕc ^h et	入る	naŋ la ^h ʃo
忌む	n ^h dzem	びっくりさせる	t ^h oq
締めつける	p ^h t ^h c ^h ej	びっくりする	t ^h oq
はさむ	len	救う	ʂcop
選び出す	r ^h gəm	住む	fi ^h dot
減らす	hap	挙げる	coq
はさみで切る	p ^h t ^h e	のこぎりで切る	s ^h əq lə
語る	ϕcat	完全にする	n ^h dzom
落ちる	m ^h bap	巻く	fi ^h dəl
交換する	b ^h dze ri ϕc ^h et	縮む	n ^h k ^h əm
交付する	ϕt ^h ot	掘る	ʂku
交わる	fi ^h dək	邪魔する	n ^h t ^h oq
水を引く	r ^h duk	邪魔させる	n ^h t ^h oq
こげる	n ^h ts ^h ək	開ける	ϕc ^h e
噛む	mər	沸く	h ^h ku
教える	h ^h lop	開く	ka
鳥が鳴く	ϕca ʂkat t ^h æq	運転する	ʒtoŋ
猫が鳴く	li li t ^h æq	始める	n ^h go ʂtsom
ロバが鳴く	kə rə ŋar	開墾する	s ^h a r ^h got ^h loq
馬が鳴く	ʂta ^m ts ^h er	切り倒す	ʒt ^h cat

切る	ʔtɕot	耳が聞こえない	yon
見る	ʂta	抱きしめる	rəm
見せる	ʂton	漏らす	zəq
見える	m ^h oŋ / rək	混乱する	ʂtʉk
医者に見せる	man na ^h ton	濾す	ts ^h əq
かつぐ	k ^h ər	乱す	ʎ ^h tʉk
暖める	ʂo	転がす	ri ʎ ^h k ^h or
頼る	k ^h en	積み重ねる	ʂtsəq
ぬかずく	ɸ ^h æq n ^h ts ^h əl	日が沈む	nəp
咳をする	ʎ ^h lo fia na / ʎ ^h lo fia ^r jæq	しびれる	wrət
渴く	k ^h a ʂkom	叱る	ŋar
刻む	ʂku	埋める	ʂŋan
賛成する	ŋan	買う	ŋo
かじる	mɖat	売る	n ^h ts ^h oŋ
ほじくる	len	満ちる	p ^h kæŋ
ボタンをかける	ʎ ^r jo ʂo ʎ ^r joq	ない	me / met
暇である	k ^h om ba	燃え尽きる	ɸ ^h ə
泣く	ŋə	さえずる	ʎ ^r jæq
眠たい	ʂŋit joŋ	唇を軽く閉じる	zom
引く	n ^h ten	理解する	ha ko
排泄する	ʂcəq pa ^h toŋ	触れる	rəq
辛い	k ^h a ts ^h a	研ぐ	b ^h dar
漏れる	ʎaq	粉をひく	m ^h t ^h aq
来る	joŋ / ɸ ^h oq (IMPR)	つかむ	len
引っ張りあげる	len	持っておく	lon
年をとる	ʎgi	掻く	m ^h t ^h uk
手綱で制御する	k ^h a p ^h tsər	できる	t ^h əp
疲れる	ʂka	枯れる	ʂŋət
つなぐ	m ^h t ^h ət	凝固する	ʎ ^h c ^h æq
量る	ts ^h ot	絞る	ɸ ^h tɕər
乾かす	ʂkam	嘔吐する	ʂcuk
おしゃべりする	k ^h a b ^h da ji	這う	ʎgo
裂く	ki	這って歩く	ʎgo / ʎjo
ずぶぬれにする	ʎlon ba	山に登る	m ^h dzar
流れる	ɸ ^h car	木に登る	m ^h dzar
とっておく	zoq	叩いて音を出す	ʎdap

整列する	^h dək	追い出す	^b da
派遣する	^m ŋaq	取る	len
弧を描く	^h k ^h or	娶る	len
走る	^r juk	行く	ⁿ jo / ^{s^h} oŋ
茶を入れる	^w ræŋ	回復する	təq
賠償する	ⁿ dze	治癒する	təq
埋め合わせる	^r dəp	欠ける	tɕum
身につける	ⁿ t ^h əq	完全である	ts ^h aŋ
膨張する	^w ru	染める	ts ^h o ^h tso
衝突する	^r doŋ	叫ぶ	^h go xor / yor tər ^r jæq
木を切る	^p kwe	道を譲る	lam ɕ ^h e
浮く	hjaŋ	温める	tə
ほとぼしる	^m tɕ ^h ot	知り合う	ŋo ɕ ^h i
裂ける	ɕɕæq	投げる	^m p ^h en
破れる	t ^h et	溶ける	zə
壊れる	tɕ ^h æq	溶かす	βzə
傷つく	zik	もむ	^b dza
壊れる	tɕ ^h æq	耐える	ɕ ^h son
壊す	^p tɕæq	撒く	ɣtor
解剖する	ɣɕæq	小便する	ɣtɕən ^h tæŋ
敷く	ɣtoŋ	播種する	s ^h en ⁿ dep
手荒く扱う	t ^h əp ts ^h ot ɕɕet / ɕ ⁿ e t ^h oq	解散する	təl
だます	^m go ɕkor	ゆるめる	təl
レンガで造る	^s tsək	掃く	ɕ ^h æq
乗る	βzon	殺す	ɣsat
起きる	læŋ	ふるいにかける	^p tap
牽引する	ɕ ^h ət	日にさらす	ɕkam
負う	tɕ ^h at	日向ぼっこする	nə ma ɕaq
略奪する	^m t ^h oq	稲光が走る	ɣloq ⁿ ɕ ^h i
叩く	^r doŋ	傷つける	^h mi
振り上げる	^p ɕæq	相談する	cu ɕɕet
詮索する	ɣtɕoq	上がる	ⁿ jo
切り刻む	^h təp	射る	^m p ^h en
口づけする	po ji	射止める	hoq
軽んじる	tɕ ^h oŋ ^s ta βzet / ^m t ^h oŋ tɕ ^h oŋ ɕɕet	伸ばす	ɕcoŋ
要求する	zə wa	伸びる	ⁿ ar

伸びきる	ⁿ h ^{en}	裂く	^b d ^ɛ l
にじむ	ⁿ h ^{əm}	死ぬ	ɕ ^h ə
成長する	ɕ ⁱ	計算する	^b d ^ɑ q
さびる	h ^{tsa}	粉碎する	t ^h ol
腫れ物が大きくなる	^m bət	傷つける	ɕ ^{con} ɕ ^h or
産む	ɕ ⁱ	錠をする	ʀ ^{jæ} q
腹を立てる	k ^h oŋ t ^h o laŋ	崩壊する	ʀ ^{də} p
残される	la ^q	踏みつける	ʀ ^{dap}
昇る	ɕ ^h ar	持ち上げる	^p cæq
なくす	^m bor	涙を流す	ɕ ^h or
させる	ⁿ d ^z uk	横になる	ŋe
釈放する	ʒ ^{to} ŋ / ^h tæŋ	やけどする	ɕəq
試す	ts ^h ot ^h ta ^h ɕ ^{et}	逃げる	^m d ^o
である	jən / re	物乞いする	ɕ ^{cə}
収穫する	^p təq / ʒ ^{tə} t	着る	ɕ ^{tsə} q
受け取る	^m d ^z or	頭痛がする	^m go na / ^m go ^h zer
閉じる	hap	蹴る	ɕ ^{kæ} ŋ t ^h o ʀ ^{jæ} q
防御する	β ^{də} ʒ ^{so} q ʀ ^{jæ} q / β ^{də} ʒ ^{so} q t ^ɕ i	剃る	β ^z ar
守る	ɕ ^{to} ŋ	曇りである	^h nam ɕ ^{ɕən} jot
髪をとく	ɕ ^{cat}	晴れる	^h nam tæŋ
負ける	ham	夜が明ける	nam ʒ ^{si}
顔見知りである	ʀ ^{ji} jot	暗くなる	^h nam mən naq
調理される	ⁿ ts ^h u	なめる	ʀ ^{də} q
熟れる	ⁿ ts ^h u	担ぐ	^h lək / ^p t ^ɕ ^h a qa ^h ɕ ^h ər
やせる	ɕ ^{kam}	選ぶ	^b dam
数える	^b d ^ɑ ŋ / ɕ ^{tsə}	踊る	^p t ^o ɕ ^h am
ゆすぐ	ɕ ^{cal}	跳ねる	ʀ ^{dæ} ŋ
衰える	ŋam	脈打つ	^m ɑq
転落する	zəq / loŋ	貼る	^b d ^z ar
投げる	^m p ^h en	聞く	ŋan
かんぬきをする	ɕ ^{tɕæ} q	聞こえる	ⁿ t ^h or
結びつける	^p taq	止める	^m ts ^h am ⁿ d ^z oq
眠る	ŋe	知らせる	^b da ʀ ^{jæ} q
寝つく	ɕ ^{ŋət}	盗む	ɕ ^{kə}
吸う	ⁿ d ^{zə} p	投げる	^m p ^h en
話す	ɕ ^{cat}	吐く	^m p ^h en

押す	^m bet	したいと思う	ϕ ^{sam}
口実を設けて断る	k ^h a β ^z æq	似る	ⁿ da
退く	p ^t ç ^h ər nər	消化する	zə
飲みこむ	^m ɲit	消える	jal
引きずる	tət	下る	ⁿ dzəq
脱臼する	ts ^h ək ^m bət	削る	^v zəq
背負う	^r jam ^ɟ gel	気をつける	^h zaw ^h zap p ^t çi
掘る	^s ku	笑う	^r gwat / ^r gwat ç ^h or
切り出す	ⁿ don	書く	p ^t ə
曲がる	kuk	下痢する	ϕ ^ç e
曲げる	^ɟ guk	鼻をかむ	^m tç ^h it
終わる	ts ^h ar	目覚める	^s ɲi γə s ^h at
遊ぶ	^s tse mo ^s tse	恥ずかしがる	ŋo ts ^h a
忘れる	^b dzet	休む	me ço
違反する	^ɟ gel	刺繍する	χ ^t səq
餌をやる	^w luk	学ぶ	^h ɔp
におう	^s nom	燻製にする	t ^h əp
尋ねる	ⁿ də	探す	p ^t sə
握る	ⁿ dzə	押さえる	^h nan
ふさぐ	k ^h a ^ɟ gep	去勢する	p ^t çat
吸い込む	ⁿ dzəp	粉にする	^h ɲər
慣れる	lop	より分ける	ϕ ^ç ar
洗う	p ^ç ə	かゆい	za
好む	^r ga	育てる	χ ^s o
目が見えない	za ra	揺れる	^ɟ gi
下りる	ma ra ^ɟ jo	揺する	^ɟ gi / ^ɸ juk
産む	^s ci	噛む	s ^h o p ^t ap / s ^h o ⁿ dep
卵を産む	χ ^t æŋ	掬う	p ^t çə
雨が降る	^h nam wap	必要である	^r gu
怖がらせる	^s çəq χət	引き入れる	ç ^h ət
陥没する	^r dəp	頼る	^s ten
捧げる	^m bəl	あふれる	wo p ^t ç ^h ər
慕う	hep laŋ	秘密にする	χ ^s æŋ
信じる	ji tç ^h i	勝つ	k ^h e
思う	ϕ ^{sam}	迎える	ϕ ^s hə
思い出す	tan	抱擁する	ⁿ dzə

泳ぐ	ɕɛl	蒸す	vlaŋ ^h tsu ^ϕ ɕet
持っている	jot	知っている	ko
いる	jot	織る	n ^t haq
存在する	jot	指す	n ⁿ dzuk mo
出会う	t ^h uk	種をまく	p ^t ap
時間を決める	ti ts ^h ot p ^t kwæq	腫れる	h ^t ʈaŋ
越える	jol / wət	煮る	p ^t so
めまいがする	m ^g o jər ŋ ^k h ^{or}	杖をつく	n ^t h ^{en}
許可する	tɕ ^h oq m ^t ɕ ^h an t ^h op / tɕ ^h oq	願う	m ^o n lam n ⁿ dep
栽培する	r ^t mo	ひつつかむ	n ⁿ dzə
いる	jot	振り返る	k ^h a s ^k or
増える	s ⁿ on	角を曲がる	k ^h uk ^h kor
彫刻する	m ^b uk	移動する	ŋ ^k h ^{or}
刺す	n ⁿ dzer	移動させる	s ^k or
刺しこむ	r ^t jæq	詰める	p ^t ɕet / p ^t sət / r ^t də
瞬きする	m ⁿ ɪk r ^t dep	追いかける	n ⁿ det
抽出する	p ^t sək	準備する	tɕa ⁿ dək ^ϕ ɕet
摘む	n ^t s ^h oq	捉える	n ⁿ dzən
糊づけする	b ⁿ dzar	ついばむ	n ^t hə
立つ	laŋ	行く	n ⁿ jo
引っ張って開く	f ⁱ dæŋ	呪う	f ⁱ mon / f ⁱ mot
大きくなる	laq tɕ ^h æq	中に入る	n ⁿ dzəl
かさが増す	təq	穴を開ける	m ^b ək
腹が張る	w ^r u	酔う	β ^j æq
火をつける	m ⁿ e ɕ ^h or	座る	f ⁱ dot
風邪を引く	li ŋ ⁿ ɕ ^h æq	する	li
召集する	n ^t s ^h oq	夢を見る	f ⁱ ŋə lam
探し出す	s ⁿ ɪet	商売する	n ^t s ^h oŋ r ^t jæq
刺す	r ^t jæq	連れる	roq ^ϕ ɕet
覆う	n ⁿ gep	仕方	ϕ ^ɕ et ^h tæŋ
震える	r ^t gi	証明する	b ⁿ den ^h paŋ ^ϕ ɕet
奪い合う	m ^t h ^{oq} ri ^ϕ ɕet		

その他の品詞類

のみならず	mə ts ^h at	一緒に	m ^h am tə / tɛ wa
～を除いて	te ma ^s toq	必ず	jən ^ɣ tɛik men ^ɣ tɛik
ほとんど	p ^h el tɕ ^h er	～もまた	jaŋ
もちろん	lu	それから	te ni / ti na
たった今	ta tɕi / ta ri	再び	h ^l ar jaŋ
本来的に	^s tsa wa ni	少なくとも	ma m ^h a
そして	tæ	～まで	war tə / war ne
とても	ha tɕæ	もっとも	tɕ ^h i / ɕ ^h u
まだ	ta toŋ	最後に	m ^h a ma
今すぐ	m ^h ər tə / ^l jo ya	突然	h ^l o wər tə
～か	?e		

Sound correspondences of the gSerkha dialect forms of Amdo Tibetan (rTa'u County) with Literary Tibetan, accompanied with a wordlist

Hiroyuki SUZUKI

abstract

This article provides a systematic sound correspondence between Literary Tibetan forms and the gSerkha dialect of Amdo Tibetan. The gSerkha dialect belongs to the rMewa dialect group, spoken in gSerkha Township, rTa'u County, Kandze Tibetan Autonomous Prefecture, Sichuan Province, China. The principal description of the sound correspondence is divided into three parts: initial [consonants] (Section 3.1), rhyme [vowel + final consonants] (Section 3.2), and phenomena in a whole syllable (Section 3.3).

A Japanese-gSerkha wordlist (ca. 2000 words) is attached as an appendix at the end of the article.

受理日 2021 年 4 月 10 日

ベトナム北部民謡 *Quan Họ Bắc Ninh* にみられる母音挿入の「ゆれ」

——音楽に潜む制約ベースの文法知識——

山岡 翔*

京都大学大学院／日本学術振興会 (sho.yamaoka@gmail.com)

キーワード：ベトナム北部民謡、*Quan Họ Bắc Ninh*、母音挿入、制約相互作用、声調類型論

1 はじめに

「*Quan Họ Bắc Ninh*」とはベトナムの首都ハノイに隣接する *Bắc Ninh* 省（および *Bắc Giang* 省の一部）に分布する民謡である。この民謡は母音挿入が頻繁にみられる点が特徴的であるが、このような母音には歌詞として必須であると考えられるものと、必ずしも必須でないものの2種類が観察される。とくに後者の類の母音については歌い手により挿入される場合もあればされない場合もあり、一見無作為に挿入がおこっているように見える。しかし本稿で示す通り、後者の類の母音の実際に観察される挿入パターンは論理的に考えるパターンに比べずいぶん限定的である。本稿では、このような必ずしも歌詞として必須でないと考えられる母音挿入が、Zhang (2004) の主張する「Tone-bearing-ability と Tonal-complexity の衝突を緩和する方策」として、つまり、制約ベースの文法知識の反映として理解できうることを述べる。

本稿の構成はつぎのとおりである。2 節では本稿の議論の背景知識としてベトナム語ハノイ方言の音体系や *Quan Họ Bắc Ninh* についての背景的な情報を記述する。3 節では分析対象とその方法について述べる。4 節では分析結果を提示し、それに基づいた考察をおこなう。5 節はまとめと今後の展望である。

2 背景知識

2.1 *Quan Họ Bắc Ninh* の文化的背景

Quan Họ Bắc Ninh はいわゆる「歌垣」に位置づけられるベトナム北部の習俗である¹。現在の *Bắc Ninh* 省にあたる地域では、元来儀式的な交流を契機として村落間の結束関係を構

* 本稿の内容は言語記述研究会の第 106 回例会における発表「民謡から音韻的情報を引き出す試み——ベトナム北部民謡 *Quan họ Bắc Ninh* にみられる母音挿入に着目して」の議論がもとになっている。発表時には貴重なコメントをいただいた。また、本稿の読み合わせにおいて、鈴木博之氏と千田俊太郎先生から有益なコメントをいただいた。さらに、筆者が *Quan họ Bắc Ninh* という民謡に触れることができたのは CLB *Quan họ Bắc Ninh kinh bắc* のみなさまのおかげである。この場を借りて御礼申し上げたい。もちろん、本稿における誤謬はすべて筆者に帰する。

¹ この点については藤原敬介氏からいただいた助言を参考にしている。

築してきたとされるが、Quan Họ Bắc Ninh はそのような交流の媒介として機能してきたと考えられる (Lê Danh Khiêm 2006: 31)。交流の概略としては、催事を企画する側の村落から男性の歌い手を 5 名、その催事に誘われる側の村落から女性の歌い手を 5 名出し合い、男女ペアで求愛の歌謡をかけあう、といったものであった²。

2.2 ベトナム語ハノイ方言について

ここではベトナム北部の中心方言であるハノイ方言について概観する³。ハノイ方言は基本的に 1 音節が 1 形態素と一致するような音節基調の孤立語であるが、複数の音節にまたがるような形態音韻現象がきわめて少なく、孤立語の中でも音節の独立性が非常に高い言語であるといえるだろう。ハノイ方言の音節構造および音節構成素は図 1 のようになっている⁴。

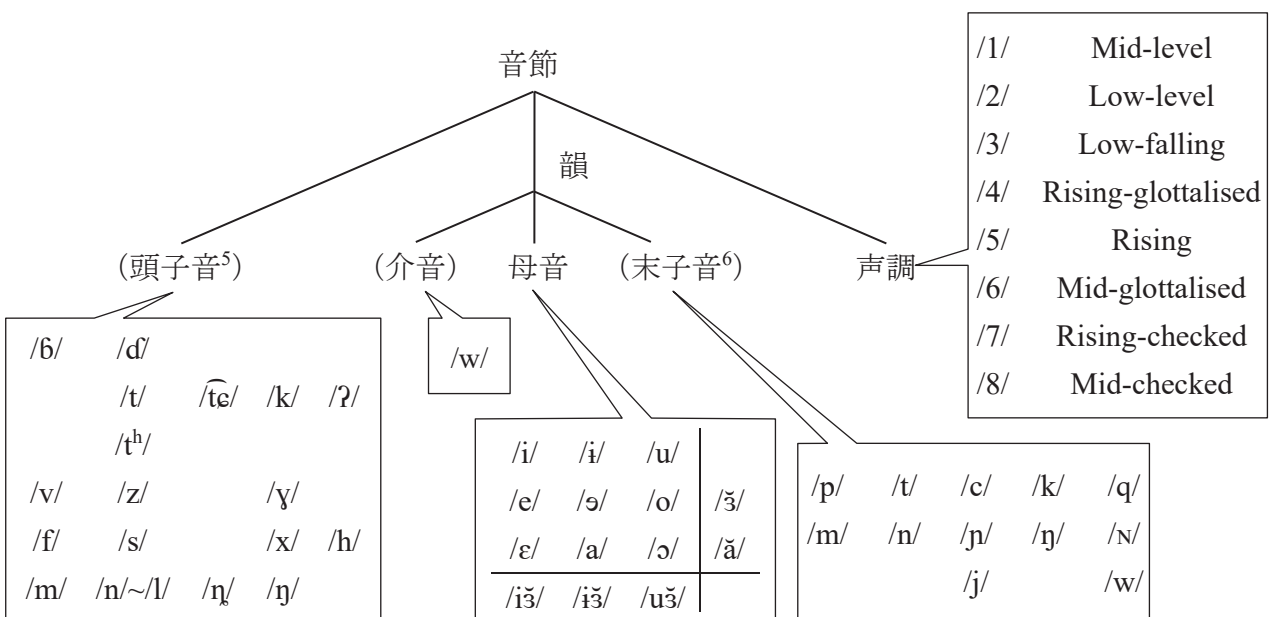


図 1 : ハノイ方言の音節構造と音節構成素

² 男女 5 名ずつをペアにする点は「陰陽五行思想」からきているともされるが、諸説あるようである。またこの民謡の名称である“Quan Họ”の起源についてもさまざまな解釈があり、統一の見解には至っていないようである。(Lê Danh Khiêm: 2006)

³ Quan Họ Bắc Ninh の分布地域である Bắc Ninh 省および Bắc Giang 省の方言の体系は、広母音 /ɛ/, /ɔ/ の音色に割れがおこっていたり、伝統的な発音において頭子音 /n/, /l/ の区別が完全に失われていたりしている点以外は、ハノイ方言とほぼ同じである。

⁴ この音節構造についての解釈は、筆者自身の音節構造についての研究 (山岡 2020) に立脚する。

⁵ 頭子音 /n/, /l/ については話者により調音のゆれがみられることがあり、やや中和傾向にあるといえる。詳細は山岡 (2019) を参照。

⁶ /q/, /N/ は通常両唇軟口蓋音 /kʰ/, /ŋm/ として表記されることが多いが、今回は簡便さのために /q/, /N/ と表記する。なお Gordina & Bystrov (1984: 237) の X 線画像をみると、これらの音の舌背側の狭窄は軟口蓋よりやや後ろにあることがわかるため、調音上決して不正確ではない表記である。

また、ハノイ方言の韻には等時性がみられる。とりわけ、(1) のように母音と末子音の長さの呼応する点が本稿では重要である。このような等時性は、韻の構造に関わらず一定の曲線声調を付与したいという音韻的動機と相関していると考えれば腑に落ちる。

- (1) /V/, /Vǃ/ → [VVV]
 /VC/, /Vǃ/ → [VVC]
 /ǃC/ → [VCC]
 */ǃ/

3 分析

3.1 分析方法

Quan Họ Bắc Ninh の歌詞には、しばしば言語的意味をもたない要素が含まれる。

- (2) *cây trúc xinh i tang tình là cây trúc mọc i*
 木 竹 美しい EV SCT SCT COP 木 竹 生える EV

(“Cây trúc xinh” 冒頭部)

(2) における太字部分がその要素にあたる。このような言語的意味をもたない要素は頭子音をもつもの (*tang, tình* など) と母音単独のもの (*i* など) にわかれる。前者はこの民謡を特徴づける楽器を模倣したような音であり、歌詞として必須である⁷。一方後者は有意味語のあとにしばしば現れる挿入的な音であり、歌詞として必ずしも必須でない。

ここで、Quan Họ Bắc Ninh は 1 番・2 番... のような、旋律の対応する繰り返し部分をもつ曲が多い。このような繰り返し同士を対応させると、後者のような挿入的な音を歌詞として必須のものとそうでないものに分類することができる。

⁷ Quan Họ Bắc Ninh は元来無伴奏形態で演奏された音楽であったため、楽器的な音も音声としてそのまま受容されたと考えられる (筆者未確認の Nguyễn Thế Khoa: 2019 にも同様の旨が記されているようである)。このような楽器音の模倣はジャズにおける “scat singing” に通じる部分があるため、本稿ではこれらの要素に SCT という語釈をふることにする。なお、Quan Họ Bắc Ninh においてみられるこれらの “scat” 的要素は、擬音語として辞書に掲載されるようなことはないため、あくまでこの音楽内においてのみ慣習的にもちいられる形式であると考えられる。



- 1 番 lán__i__ khuất i__
- 2 番 đánh__i__ tiếng__
- 3 番 trắng__i__ nước i__
- 4 番 đông__i__ liễu__

図 2 : “Nguyệt gác mái đình” の繰り返し部分の対応例 ⁸

たとえば図 2 のような対応をみると、左側の挿入母音 i は 1 番から 4 番を通して常に挿入されるが、右側の i は挿入される場合とされない場合があり一貫していない。つまりこの例の場合、左側の i は必須であるが右側の i は必須ではないことになる。本稿では繰り返し間でのこのようなふるまいの違いを頼りに、右側の i のような歌詞として必須でない挿入母音を抽出していく。

3.2 分析資料

Quan Họ Bắc Ninh は 2021 年現在、動画共有サイトにかなりの数のプロ民謡歌手によるミュージックビデオ (MV) があげられている。本稿ではそれらの動画を通して、前節で述べたような必須でない挿入母音の有無を様々な歌手のあいだで比較検討していく。

4 結果と考察

4.1 挿入パターンの限定性

まず分析結果を観察すると、論理的に考えうる挿入のパターンに対して、実際に観察されるパターンはずいぶん限定的であることがうかがえる。以下に挿入パターンの例を示していく。なお以降で示す例では、歌詞における母音・末子音の表記を (1) に示したような簡易な音声表記に統一する⁹。また各パターンがどの MV においてみられたのかをブラケット付きの数字で示す (この数字は本稿末尾に列挙した MV の番号に対応する)。

(3)	パターン A [6]	パターン B [1]	パターン C [3-5]	パターン D [2]
1 番	xw3tt i	xw3tt i	xw3tt i	xw3tt
2 番	tɪ3ŋ i	tɪ3ŋ	tɪ3ŋ	tɪ3ŋ
3 番	nɪ3k i	nɪ3k i	nɪ3k	nɪ3k
4 番	li3w	li3w	li3w	li3w

(“Nguyệt gác mái đình” より)

⁸ この譜面は、本稿末尾に示した動画 [1] にもとづいて筆者が作成したものである。なお、歌詞における音引きは直前の音節が複数の音符にまたがって引き延ばされることを示す。なお、本稿の議論において調 (キー) は重要でないため、以後旋律を示す際はすべてハ長調で示す。

⁹ 4.5 節で述べる通り、閉鎖末子音はこの民謡において鼻腔解放することがあるが、4.1-4.3 節ではひとまずこの情報を捨象して考える。

(3) は図 2 の右側の (必須でない) 挿入母音の実際に観察されるパターンを示している。この曲の場合、同じ対応箇所を 1-4 番を通して 4 回繰り返すため、論理的には $2^4 = 16$ 通りの挿入パターンが想定される。しかし、MV を通して観察された挿入パターンは (3) に示す A-D の 4 種類のパターンだけであった。

このような「挿入パターンの限定性」はほかの曲においても観察された。(4) に示した曲は 1 番につき 2 箇所母音の挿入されうる場所があり、それを 4 番まで繰り返すので、論理的には $2^8 = 256$ 通りの挿入パターンが考えられる。しかし、観察されるのは A・B の 2 つのパターンのみである。

(4)	パターン A [9, 10]		パターン B [7, 8]	
	挿入場所 1	挿入場所 2	挿入場所 1	挿入場所 2
1 番	hwaaa	t ^h əəm i	hwaaa	t ^h əəm i
2 番	teANN i	səŋŋ i	teANN i	səŋŋ i
3 番	ʔiʒw i	ŋaww i	ʔiʒw	ŋaww
4 番	veee	ŋaaa	veee	ŋaaa

(“Hoa thom buóm lượn” より)

(5) の曲は 1 番につき母音の挿入されうる箇所は 2 箇所、6 番までの繰り返しがある。しかし、この曲においてもパターンは限定的で A・B の 2 種類のみであった。

(5)	パターン A [12, 13]		パターン B [11]	
	挿入場所 1	挿入場所 2	挿入場所 1	挿入場所 2
1 番	buʒn	buʒn	buʒn	buʒn
2 番	majj ? ¹⁰	ŋiʒj ?	majj ?	ŋiʒj ?
3 番	ʒANN i	ŋiʒj ?	ʒANN i	ŋiʒj ?
4 番	miʒ	naŋŋ ə	miʒ	naŋŋ
5 番	kəʒn	kəəm	kəʒn	kəəm
6 番	tɕiʒ	ɣaaa	tɕiʒ	ɣaaa

(“Buôn bắc buôn dầu” より)

もし歌詞として必須でないこれらの母音の有無が完全に無作為なのであれば、実際にはもっと様々なパターンが観察されそうなものである。このような挿入パターンの限定性は、母音の挿入が無作為ではないことを示唆している。

¹⁰ この疑問符は直前の音が挿入母音として一番無標な i に似た音であるため、挿入母音の有無が判然としないことを示す。そのため、この記号を付した挿入箇所は本稿の分析対象に含まない。

4.2 挿入に関する含意性と階層

観察された挿入パターンをさらに分析すると、母音挿入の有無には含意性がかかわっていることがわかる。

(6)	パターン A [6]	パターン B [1]	パターン C [3-5]	パターン D [2]
1 番	xw3tt i	xw3tt i	xw3tt i	xw3tt
2 番	tɪ3ŋ i	tɪ3ŋ	tɪ3ŋ	tɪ3ŋ
3 番	nɪ3k i	nɪ3k i	nɪ3k	nɪ3k
4 番	li3w	li3w	li3w	li3w

(“Nguyệt gác mái đình” より : (3) の再掲)

上の A-D の挿入パターンは母音の挿入回数が多いものから少ないものへ、左から右へならべてある。A は 4 番のみ母音挿入がない。B はそれに加えて 2 番においても挿入がない。C はさらに 3 番においても挿入がない。そして D は 1 番においても挿入がない。つまり、あるパターンにおいて母音の挿入がない箇所は、それより右側の（挿入回数がすくない）パターンにおいても母音挿入は起こらない、という含意関係が見いだせるのである。このような含意関係から「4 番 > 2 番 > 3 番 > 1 番」のような含意階層が想定できる。

ここで、うえで述べた含意階層を挿入直前の音節の母音・末子音の種類に置き換えると、この階層にかかわるパラメータが浮かび上がる。(6) において太字下線を施した箇所は挿入箇所直前の音節の母音・末子音をあらわしている。よって、「4 番 > 2 番 > 3 番 > 1 番」という階層は「VVG > VVN > VVS > VSS」という階層に置き換えることができるが、この階層には挿入直前音節の「聞こえ度」と「音節核の長さ」がかかわっているように見える。

ほかの曲についても同様にみていこう。以下、「1 番の挿入場所 1」のことを「1-1」などと呼ぶことにすると、(7) の曲からは「1-1, 4-1, 4-2 > 3-1, 3-2 > 1-2, 2-1, 2-2」という 3 段階の含意階層がみいだせる。これを直前の母音・末子音の種類で置き換えると、「VVV > VVG, VGG > VVN, VNN」という階層が得られる。

(7)	パターン A [9, 10]		パターン B [7, 8]	
	挿入場所 1	挿入場所 2	挿入場所 1	挿入場所 2
1 番	hwaaa	t ^h əəm i	hwaaa	t ^h əəm i
2 番	teann i	səpɪ i	teann i	səpɪ i
3 番	?i3w i	ŋaww i	?i3w	ŋaww
4 番	veee	ŋaaa	veee	ŋaaa

(“Hoa thom bướm lượn” より : (4) の再掲)

また、疑問符を付した箇所を度外視すると、(8) の曲からは「1-1, 1-2, 4-1, 5-1, 5-2, 6-1, 6-2 > 4-2 > 3-1」という階層がみいだせる。これを同様に置き換えると「VVV, VVN > VNN」という階層が得られる。

(8)	パターン A [12, 13]		パターン B [11]	
	挿入場所 1	挿入場所 2	挿入場所 1	挿入場所 2
	1 番 bu3n	bu3n	bu3n	bu3n
	2 番 majj ?	ɲi3j ?	majj ?	ɲi3j ?
	3 番 baNN i	ɲi3j ?	baNN i	ɲi3j ?
	4 番 mi̯i3	naŋŋ ə	mi̯i3	naŋŋ
	5 番 kəɔn	kəɔm	kəɔn	kəɔm
	6 番 te̯i̯i3	ɣaaa	te̯i̯i3	ɣaaa

(“Buôn bác buôn dầu” より : (5) の再掲)

以上の考察により得られた階層を組み合わせると、「VVV > VVG, VGG > VVN > VNN, VVS > VSS」という階層になる。この階層をみるとやはり、不完全ではあるものの「聞こえ度 (V > G > N > S)」と「音節核の長さ (VVV > VVC > VCC)」がかかわっているように思える。よって、全体の階層を仮定するのであれば、つぎのような階層が考えられるだろう。

- (9) 母音挿入に関する母音・末子音の階層¹¹
 VVV > VVG > VGG > VVN > VNN > VVS > VSS

4.3 母音挿入と音調の複雑さ

ただし、(9) の含意階層に沿わない母音挿入パターンを示す曲も存在する。たとえば (10) に示す挿入パターンから想定される階層は「1-1, 2-1, 3-1, 4-1, 5-1 > 1-2, 3-2, 4-2」であるが、これを母音・末子音の種類に置き換えると、「VVG, VNN, VVS, VSS > VGG, VNN, VSS」となり、階層 (9) とは明らかに食い違う。

¹¹ VVG と VGG、および VNN と VVS の間に母音挿入におけるふるまいの差があることを示す明確なデータは、今回筆者が調査した範囲内では得られなかった。これは、本質的にこれら二つの間に階層の違いがないというより、階層内の周縁部（上端および下端）に位置するがために、そのふるまいに差が出にくいのではないかと考えている。VVG と VGG については「VVN > VNN かつ VVS > VSS」であることから VVG > VGG という階層が類推できるし、また VNN と VVS については「VGG > VVN」であることから VNN > VVS という階層が類推できるため、本稿ではこのようなデータの無い部分も補完した (9) のような階層を想定する。

(10)	パターン A [16]		パターン B [14, 15, 17, 18]	
	挿入場所 1	挿入場所 2	挿入場所 1	挿入場所 2
1 番	t̄amm a	xiqq ㊟	t̄amm	xiqq ㊟
2 番	d̄ɜɜj ¹² ㊟	vəəj ?	d̄ɜɜj	vəəj ?
3 番	ɣapp a	ŋaww ㊟	ɣapp	ŋaww ㊟
4 番	keet ㊟	ŋɜnn ㊟	keet	ŋɜnn ㊟
5 番	t ^h amm a	vəəj ?	t ^h amm	vəəj ?

(“Lý giao duyên” より)

ここで、前節までで見た挿入母音の例は主に、旋律が繰り返し間で完全に一致する例であった。たとえば、(6) の繰り返し部分は 1 番から 4 番を通して図 2 に示した旋律で歌われる。しかし、Quan Họ Bắc Ninh の旋律は繰り返し間で歌詞の声調（のとくに高低レジスター）が異なる場合、それにあわせて旋律も異なることがある。(10) の曲がまさにその例である。

・1番 t̄amm1(a) xiqq7_ ㊟

・2番 d̄ɜɜj5(㊟) v̄əəj5

・3番 ɣapp8(a) ŋaww1 ㊟

・4番 keet7(㊟) ŋɜnn1 ㊟

・5番 t^hamm5(a_) v̄əəj5

挿入箇所 1 挿入箇所 2

図 3 : “Lý giao duyên” の繰り返し部分の旋律と歌詞の対応¹³

¹² この音節の主母音は短母音の /ɜ/ であるが、4.5 節でのべる「音節核の延長」が起こっているため、母音が末子音より長く歌われている。

¹³ 挿入箇所 1 に母音が挿入されない場合は、直前の音節が譜面上挿入母音にあてられている音符まで引き延ばされる。

図 3 の譜面は (10) に示したふたつの挿入箇所を旋律を書きおこしたものであり、その前半部が挿入箇所 1 に、後半部が挿入箇所 2 にあたる。この曲の繰り返し部分は歌詞の声調番号（音声表記の末尾の数字）によりさまざまな旋律をとっていることがわかる。

図 3 の旋律をみると、挿入箇所 1 の旋律は音高が高々 1 回しか変化しない¹⁴。一方、挿入箇所 2 の旋律は音高が 2 回以上変化するものがほとんどである。つまり、挿入箇所 1 の旋律は挿入箇所 2 の旋律にくらべて、「音調が単純である¹⁵」といえるだろう。ここで (10) の挿入パターンをもう一度みると、パターン A は挿入箇所 1, 2 ともに母音が挿入されるが、パターン B では挿入箇所 1 には母音が挿入されていないため、「挿入箇所 1（単純な音調） > 挿入箇所 2（複雑な音調）」という含意関係が想定できる。そう考えると、Quan Họ Bắc Ninh の母音挿入の有無は「音調の複雑さ」というパラメータにも支配されていることがうかがえる。

ほかにも音調の複雑さが母音挿入の有無に影響している例が存在する。

(11)	パターン A [22]	パターン B [23]	パターン C [19-21]
1 番	nɔŋŋ i	nɔŋŋ	nɔŋŋ
2 番	hiiw	hiiw	hiiw
3 番	moot	moot i	moot
4 番	ɔoon	ɔoon	ɔoon
5 番	taaj ?	taaj ?	taaj ?

(“Nhật quê nhị lan” より)

この曲の挿入パターンは 3 通りある。まずパターン B とパターン C のみをみると、「1 番, 2 番, 4 番 > 3 番」という含意関係から、「VVG, VVN, VNN > VVS」という (9) に沿った階層が導ける。しかし、パターン A とパターン C をみると、「2 番, 3 番, 4 番 > 1 番」という含意関係から、「VVG, VVN, VVS > VNN」という (9) に沿わない階層が導かれてしまう。

この曲も声調により繰り返し部分の旋律が異なる。

¹⁴ 五線譜上において、旋律の音高は黒い丸の位置する高さで表現される。黒い丸が上にあるほど高い音であることを示す。また、譜面の横軸は経過時間に相当する。

¹⁵ 本稿のいう「音調が単純である」とは「音調ターゲットの数がすくない」ことを指す (cf. Zhang 2004)。

・1番 n3ɲɲ1_ i___ niw1_
 ・5番 taaj5___ laaj1_
 ・2番 hiiw4___ tipɲ2
 ・3番 moot8___ veee2
 ・4番 doon5___ t̄cooj2
 挿入箇所

図 4 : “Nhật quê nhĩ lan” の繰り返し部分の旋律と歌詞の対応 (パターン A [22])

上の譜面のように、この曲の繰り返し部分の旋律は挿入箇所の後ろの音節の声調により 2 種類に分かれている。ここで、1 番・5 番のとる旋律は 2 番・3 番・4 番のとる旋律に比べ音高の変化が大きくなっており、より複雑であることがわかる。つまり、(11) のパターン A も音調がより複雑な場合に母音を挿入しているといえるだろう。

以上より、複雑な音調における母音挿入は単純な音調における挿入を含意しているといえるので、次のような階層が想定できる。

- (12) 母音挿入に関する音調の階層
 単純な音調 > 複雑な音調

4.4 母音挿入の動機：分節音と音楽的音調の齟齬の解消

では、母音挿入に (9) や (12) の階層がかかわることはなにを意味するのであろうか。ここで参考になるのが Zhang (2004) が声調類型論の観点から主張している「Tone-bearing-ability と Tonal-complexity の衝突とその緩和」という音韻的な方略である。

まず Tone-bearing-ability とは、「ある韻がどれくらい音調ターゲットを担いやすいか」を表したパラメータである。たとえば、多くの言語では CV が曲線的音調を担うのであれば、CVV もそれと同等かあるいはそれより複雑な曲線的音調を担うという含意関係が観察される。同様に、CVO が曲線的音調を担うのであれば、CVR や CVV それと同等かあるいはそれより複雑な曲線的音調を担うことが多い。つまり、韻の種類により「CVV, CVR > CVO, CV」といったような音調の担いやすさに関する含意階層が想定できるが、この階層のパラメータこそが Tone-bearing-ability である。Tone-bearing-ability には「聞こえ度」と「声帯振動の持続時間」がかかわる。これは、聞こえ度が高い音ほど倍音構造がより頑強になるこ

とから *fo* の知覚が容易になり、かつ声帯振動の持続時間が長いほど調音に時間のかかる複雑な音調ターゲットを実現しやすくなるためである。

つぎに Tonal-complexity であるが、これは「音調の複雑さ」を表したパラメータである。多くの言語では、(rising, falling のような) contour-tone をもつのであれば、それより単純な音調である level-tone をもつという含意関係が観察される。さらに、(dipping, peaking のような) complex-tone をもつ場合、やはりそれより単純な contour-tone, level-tone をもつことが多い。つまり、音調の複雑さにより「complex-tone > contour-tone > level-tone」のような含意階層が想定できるわけであるが、これを Tonal-complexity とよぶのである。

ここで、Tone-bearing-ability の低い韻に対して複雑な音調を付与するような状況、つまり「Tone-bearing-ability と Tonal-Complexity が衝突した場合」を考える。Zhang (2004) によると、このような場合に各言語においてとられる方策は主に「忠実性の保持（韻と音調をそのまま保つ）／音調の弱化／韻の引き延ばし」の3種類にわかれる。衝突を少しでも「緩和しようとするなら音調の弱化により Tonal-complexity を小さくしたり、あるいは韻の引き延ばしにより Tone-bearing-ability を高くしたりするような方策がとられる一方、調音的（あるいは知覚的）困難を受け入れられるのなら衝突を緩和せず忠実に保つというような方策がとられるであろう。このような音韻におけるリスクとその回避方策は「制約ベースの音韻知識の反映」と理解できる。つまり、「入力音調や韻はできるだけ忠実に保たなくてはならない」という忠実性制約と「Tone-bearing-ability と Tonal-Complexity は衝突してはいけない」という有標性制約のどちらが優先されるかによりとられる方策が変わる、と理解できるのである。

Quan Họ Bắc Ninh の母音挿入もこのような制約ベースの文法知識の反映であると捉えることができる¹⁶。「民謡の創出」を「詞に音調を対応付ける行為」とすると想定すれば、自然言語と同様に Tone-bearing-ability と Tonal-Complexity の衝突が時としておこるはずである。

「母音の挿入」は「直前の音節に聞こえの高い持続部を補填すること」として捉えられるので、Tone-bearing-ability と Tonal-Complexity の衝突を直前の韻の Tone-bearing-ability を高くすることで緩和する方略として機能する、と考えることができるわけである。つまり、Quan Họ Bắc Ninh の母音挿入が起こる動機は「分節音と音楽的音調の齟齬の解消」であると結論付けられる。

¹⁶ ここでいう文法知識とは自然言語におけるそれと完全に同質でなく、あくまで音楽の領域においてのみ作用するような知識であると考えられる。というのも、ベトナム語の自然言語的側面において、音節のあとに母音を補填するような現象はみられないからである。ただし、Quan Họ Bắc Ninh における挿入母音のふるまいが最適性理論のような制約ベースの言語理論によりうまく説明されることや、(9) のような言語的階層とかかわっていることを考えると、ここでいう文法知識は自然言語における知識とも一定のつながりを有していると思われる。

4.5 母音挿入以外の方策

実は、Quan Họ Bắc Ninh には Tone-bearing-ability と Tonal-Complexity の衝突を緩和しうる母音挿入以外の方策も存在する。そのひとつは「閉鎖末子音の鼻腔開放」である。



・1 番	l3nn_ i_____	xw3t^n(i_____)
・2 番	dapn_ i_____	ti3ŋ (i_____)
・3 番	t3aŋ_ i_____	ni3k (i_____)
・4 番	d3NN_ i_____	li3w_____

図 5 : “Nguyệt gác mái đình” における閉鎖末子音の鼻腔開放

上の例の場合、閉鎖末子音は 1 番と 3 番に含まれるが、1 番についてのみ鼻腔開放がおこっている。1 番の歌詞を鼻腔開放なしで発音した [xw3tt] は (9) の階層上で Tone-bearing-ability が最も小さい韻となるため、音調を担うために鼻腔開放により Tone-bearing-ability を高くしていると理解できる。一方、3 番の歌詞の [ni3k] は [xw3tt] に比べると幾分 Tone-bearing-ability が高く、そのままでも十分音調を担うことができるため、鼻腔開放が起こっていないと考えられる。

また、機能語の歌詞に限定すれば「音節核の延長」という方策がとられる場合もある。



ŋwist **zaŋ**_____ laa tiŋ_ **zaŋ**

図 6 : “Nguyệt gác mái đình” における短母音の延長

上のフレーズにおいて、太字になっているふたつの語はともに単一の形式 /zǎŋ/ であるが、ひとつめは母音が末子音より長く、ふたつめは末子音が母音より長く歌われている。/zǎŋ/ は音節核が短母音であるため、本来は母音が末子音よりも短く [zaŋŋ] のように発音される語である。ここでふたつの /zǎŋ/ のとる旋律をみると、ひとつめの旋律はふたつめの旋律に比べ音高の変化が多く複雑である。つまり、ひとつめの /zǎŋ/ は複雑な音調を担えるように母音を末子音より長くすることで Tone-bearing-ability を高くしているが、ふたつめの /zǎŋ/ は音調が単純なのでそのままの韻を保持していると考えられる。

よって、一見異なる現象のように見える「母音挿入／閉鎖末子音の鼻腔開放／音節核の延長」は、Tone-bearing-ability と Tonal-complexity の齟齬を解消する手立てとして機能していると考えられることで、すべて制約ベースの文法知識の反映であると一般化することができる。

5 おわりに

本稿ではベトナム北部民謡 *Quan Họ Bắc Ninh* における歌詞として必須でない母音挿入が *Tone-bearing-ability* と *Tonal-complexity* の齟齬を解消する手立てとして機能していることを主張した。この主張の意義としてはまず、音楽の領域においてもある種の文法知識の反映とみなしうる現象が存在することを指摘した点にあるだろう。また、ベトナム語はその自然言語的ふるまいを見る限りにおいて「音節量」のような概念が想定されないが、民謡においては (9) のような「母音・末子音の聞こえと長さの階層」という、音節量に通じる概念が想定される点も非常に興味深い。

課題としては、個々の母音挿入の事例について具体的な制約とランキングをもちいて説明できなかった点がある。さらに細かい点としては、挿入母音の音色がどのように決まるのかという点や、旋律の音調と歌詞の声調の対応関係などについては不透明な部分が残っている。また、民謡において強くはたらいっていることがわかった *Tone-bearing-ability* や *Tonal-complexity* の階層が、ベトナム語の自然言語の分析になにかしら還元できることはあるのか、できるとすればどのように還元できるのかが、ベトナム語音韻研究において今後の展望として期待される点である。

略号一覧

COP: copula

EV: epenthesis vowel

SCT: scat

*f*₀: fundamental frequency

C: consonant

G: glide

N: nasal

O: obstruent

R: sonorant

S: stop

V: vowel

X > Y: Y の存在は X の存在を含意する

参考文献

Gordina, M. V, Bystrov, S. I. (1984) *Foneticheskiĭ stroĭ v'etnamskogo ĭazyka*. Nauka: Moskva.

Lê Danh Khiêm (2006) Nguồn gốc sinh hoạt văn hóa Quan họ. In: Lê Danh Khiêm (chủ biên) *Không gian văn hóa Quan họ*. Trung tâm Văn hóa Thông tin Tỉnh Bắc Ninh: Bắc Ninh.

Nguyễn Thế Khoa (2019) *Sân khấu - Truyền thống và hiện đại*. Nxb. Sân khấu: Hà Nội.

山岡翔 (2019) 「ベトナム語北部方言における [l], [n] 間の調音のゆれについて」修士論文, 京都大学.

山岡翔 (2020) 「ベトナム語ハノイ方言の音節構造について：介音の位置づけを基に」第 18 回文法研究ワークショップ：「音節構造の諸問題」口頭発表．東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2020 年 10 月 15 日．

Zhang Jie (2004) The role of contrast-specific and language-specific phonetics in contour tone distribution. In: Hayes, B., Kirchner, R., and Steriade, D. (eds.) *Phonetically Based Phonology*: 157-190.

データ抽出に利用したオンライン動画（最終閲覧日：2021 年 2 月 1 日）

Nguyệt gác mái đình:

- [1] <https://quanhobacninh.vn/video/nguyet-gac-mai-dinh-4/>
- [2] <https://quanhobacninh.vn/video/nguyet-gac-mai-dinh-8/>
- [3] <https://www.youtube.com/watch?v=aJsRIS2J7ng>
- [4] <https://www.youtube.com/watch?v=RbXYDsnKvnk>
- [5] <https://www.youtube.com/watch?v=UztYSJmqWzQ>
- [6] <https://www.youtube.com/watch?v=jzqtpRlwkT0>

Hoa thơm bướm lượn:

- [7] <https://www.youtube.com/watch?v=dQpt2gKeeCU>
- [8] <https://www.youtube.com/watch?v=s6F-yUGTxDU>
- [9] <https://www.youtube.com/watch?v=n-osddZtZew>
- [10] <https://www.youtube.com/watch?v=2wpLmNUZUM4>

Buôn bắc buôn dầu:

- [11] <https://www.youtube.com/watch?v=spfUt5dNMog>
- [12] <https://www.youtube.com/watch?v=nT3ncHM--9E>
- [13] <https://www.youtube.com/watch?v=Z9liBphus5M>

Lý giao duyên:

- [14] <https://www.youtube.com/watch?v=DRuArhuJF5E>
- [15] https://www.youtube.com/watch?v=CDFvg_Uu3ew
- [16] <https://www.youtube.com/watch?v=kEm1hPBwXNc>
- [17] <https://www.youtube.com/watch?v=-CxLU9QDOpY>
- [18] <https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=cFqito2tzvk&t=36s>

Nhật quế nhị lan:

- [19] https://www.youtube.com/watch?v=G_E4EYG3LZ4
- [20] <https://www.youtube.com/watch?v=Vc4QH-Io6Rs>

- [21] <https://www.youtube.com/watch?v=vCR8JVBCxnE>
- [22] <https://www.youtube.com/watch?v=-c3rj0AMPWI>
- [23] <https://www.youtube.com/watch?v=dIKSOGZ90mY>

受理日 2021 年 4 月 11 日

アイク語の談話資料：スクンバンの作り方

山本恭裕

東京外国語大学・kyoyamamoto@tufs.ac.jp

キーワード：アイク語、トリチェリ語族、パプア・ニューギニア、談話資料

1 はじめに

アイク語 (Ethnologue Code: ymo) はパプア・ニューギニア北西部サンダウン州に分布する未記述の消滅危機言語である。これまで唯一世に出ている 42 単語の語彙リストからトリチェリ語族に分類される (Laycock 1968, Hammarströmet al. 2020, Eberhard et al. 2021)。母語話者人口は 130 人程度で、アイク語話者たちはモナンディン地域の 6 つの集落に居住する (図 1)。全てのアイク語の話者は地域共通語であるトク・ピシンとの 2 言語使用を行っている。

本稿の目的は、言語資料として「スクンバンの作り方」というアイク語による談話をグロスと翻



図 1 アイク語の分布



図2 出来上がったスクンバン



図3 サゴヤシを削る様子

訳とともに提示することである。題名にある「スクンバン (*sku^mban*)」は、サゴヤシの樹幹から取り出したデンプンにお湯を加えて丸めた食べ物 (*sago pudding*) を指す¹ (図2)。スクンバンはアイク語話者たちにとって主食と呼べるものであり、1日に1、2度摂る食事はスクンバンと茹でた野菜から構成される。のちに提示する言語資料にもあるように、モナンディン地域ではサゴヤシからデンプンを抽出する作業は基本的に2人で、大抵の場合夫婦で行われる。男性(夫婦の場合は夫)がサゴヤシを切り倒し樹皮を剥ぎ、樹幹の芯を砕いていく(図3)。女性(夫婦の場合は妻)が砕かれた樹幹の芯を、サゴヤシの葉柄(アイク語で *papan*) で作った容器に入れる。そこに水を注ぎ入れてサゴヤシを揉むように洗い、その下に用意した別の容器に水とデンプンを貯めていく(図4、5)。このようにして取り出したデンプンからスクンバンを作るのも女性の役割である。サゴヤシから抽出されたデンプンはサンダウン州や隣の東セピック州などのパプア・ニューギニア低地で広く食べられており、上述した男女で異なる役割分担は他の地域でも見られる(Toyoda 2008: 24-26)。

サゴヤシは家の建材として使用されたり、また甲虫類の幼虫(アイク語で *luk*²、おそらくヤシオオオサゾウムシ (*Rhynchophorus ferrugineus*) の幼虫と思われる)の採集場所になったりと、アイク語話者たちの生活にとって重要な植物である。この言語資料は、アイク語話者たちの生活において重要な文化的側面を記録する目的も持つ。

¹ モナンディン地域を構成する残り3つの集落では、アイク語と系統的にとっても近いと思われるミリア語が話されている。ミリア語では、*sa^mban* がスクンバンと同じものを指示するのに用いられる。

² *luk* は比較的小さいものを指す。大きなものは *anal* と呼ぶ。



図4 サゴヤシを洗う容器



図5 削ったサゴヤシを洗う様子

2 アイク語のプロファイル

アイク語は3つの母音音素 /i, a, u/ と12の子音音素 /p, ^mb, m, t, ⁿd, n, k, ^ŋg, ^kŋ, s, l, r/ を持つ。閉鎖音は前鼻音化音と非前鼻音化音の2系列であり、前鼻音化音は発話開始位置やイントネーション句初頭において非前鼻音化有聲閉鎖音の異音で実現することが見られる³。母音について、[i] や [ə] が弱化母音あるいは挿入母音として現れる。/i, u/ は [i, u] 及び [j, w] の異音を持つ。アイク語では重子音が見られない。

主要な品詞クラスとして名詞、形容詞、動詞を同定できる。単数名詞には *feminine/masculine* の文法的性の区別がある。人間や大きな動物では、指示対象の実際の生物学的性によってどちらのクラスになるかが決定される。不明である場合などでは *feminine* として扱われる。それ以外の有生物や無生物を表現する単数名詞は一貫して *feminine* として振る舞う。複数形においては名詞に文法的性の区別はない。

形態的には接頭辞、接中辞、接尾辞を持つが、分析的な形態プロセスだけでなく融合的な特徴が見られる。その他の品詞と比べて動詞形態論が複雑であり、名詞句との文法関係が標示されるほか、ムードの情報が表現される。ただし今のところ名詞抱合は見られていない。

語順について、主要部前置が一貫して好まれる。他動詞節は A-V-O が基本語順で、名詞句内では修飾要素が主要部名詞に後続する (i.e. N-Adj)。ニューギニア地域では O-V, N-Adj という語順が広く分布し、アイク語のような主要部前置はトリチェリ語族にのみ強く見られる傾向である

³ 非前鼻音化有聲閉鎖音の異音の厳密な実現位置についてはまだ不明である。

(Donohue 2010)。一つの節に、形態論的に完全な複数の動詞が頻繁に現れる。隣接地域のパプア諸語に見られる主語同一性標示 (switch-reference marking) を含め medial と final verb のような動詞形態論的対立を持たない。

3 本文

本節では言語資料の本文を語釈、和訳とともに提示する。本言語資料の音声データは、2019年9月17日にパプア・ニューギニア、サンダウン州のモナンディン地域において行った調査によって得られた。話者は同地域出身の女性である。本人を含め彼女の正確な年齢について知るものはないが、恐らく40代と思われる。調査ではリニア PCM レコーダー (ZOOM H4n pro) にダイナミックマイク (SHURE PGA58) を接続し、音声 (44.1kHz/16bit) を取り込んだ。同日に他のアイク語話者の協力を得て本文を国際音声記号で書き起こした。後に、筆者が ELAN を用いて注釈付けを行った。

談話の表記には国際音声記号を用い、1段目に母音挿入など一定の音韻プロセスを経たレベルの表記を、2段目にそれらを経ていない音韻表記を、3段目に語釈を、4段目に和訳を示す。談話を構成する文の区切りは韻律特徴や統語構造、意味的なまとまりを基準としている。ちなみに、アイク語は書かれるということが普段全く、あるいはほとんどないが、話者たちはラテン文字を用いて自身の言語を書く知識を持っている。

本談話は練習などは行わず自然に語られたものの録音であるため、繰り返しや言い淀み、話者自身による訂正などが見られる。本稿ではこれらの修正は極力行わず、できるだけ実際に近い形で提示する。また、既に述べたように動詞はムードについて屈折することがわかっている。本談話では、現実ムードは注釈で明示せず、非現実ムードのみを注釈で明示する。

- (1) minak ⁿduak muai.
 m-na-k ⁿduak m-uai
 1SG.SBJ-talk-3SG.F.OBJ here 1SG.SBJ-sit
 私がここで話している⁴。

- (2) pil p^kŋara liau.
 p-il p-^kŋara liau
 1PL.SBJ-go 1PL.SBJ-cut sago.palm
 私たちはサゴヤシを切りに行く。

⁴ uai 'to stay' はここで継続アスペクトの意味を表現していると思われる。存在動詞や姿勢動詞を継続アスペクトとして使用する言語はパプア諸語で一般的である (Foley 1986: 144)。

- (3) p^kɲara pinis psikawak.
 p-^kɲara pinis p-skaua-k
 1PL.SBJ-cut PFV 1PL.SBJ-hit-3SG.F.OBJ
 サゴヤシを切って、それを叩いて砕く。
- (4) ptakau tukuauparm.
 p-takau tukuau+parm.
 1PL.SBJ-make stick+bed
 私たちは（サゴヤシを洗うための）容器を作る。
- (5) m^kɲara.
 m-^kɲara
 1SG.SBJ-cut
 私は切る。
- (6) jaja n^kɲara ^kɲara psikawak.
 iaia n-^kɲara ^kɲara p-skaua-k.
 dad 3SG.M.SBJ-cut PAUSE CUT PAUSE 1PL.SBJ-hit-3SG.F.OBJ
 夫がサゴヤシを切って砕く。
- (7) ptakau tukuauparm.
 p-takau tukuau+parm.
 1PL.SBJ-make stick+bed
 私たちは容器を作る。
- (8) wop mial mtakau tukuauparm.
 uup m-ial m-takau tukuau+parm.
 1SG 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-make stick+bed
 私が容器を作りに行く。
- (9) mla psikawak liau.
 m-la p-skaua-k liau
 1SG.SBJ-come 1PL.SBJ-hit-3SG.F.OBJ sago.palm
 私は（夫のところに）戻って、私たちがサゴヤシを砕く。
- (10) mial mi^ɔga^kɲau mial msi^ɔgak.
 m-ial m-^ɔga^kɲau m-ial m-si^ɔga-k
 1SG.SBJ-go [pause] 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ
 私は（砕いた）サゴを持って（洗い場に）行き、それを洗う。

- (11) mi^ŋgal msal papan mliak sulp.
 m-^ŋgal m-sal papan m-lia-k sulp
 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-put sago.petiole 1SG.SBJ-fill-3SG.F.OBJ water
 サゴヤシの葉柄で作った容器にサゴを入れ、それを水で満たす。
- (12) msa^kŋar minar pəpan.
 m-sa^kŋar m-nar papan
 1SG.SBJ-pour 1SG.SBJ-go.down sago.petiole
 私は容器に水を注ぐ⁵。
- (13) msi^ŋgak liau mparak uⁿdiu u^ŋgal
 m-si^ŋga-k liau m-para-k uⁿdiu u-^ŋgal
 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ sago.palm 1SG.SBJ-break-3SG.F.OBJ stem.of.sago 3SG.F.SBJ-put
 uwai
 u-uai
 3SG.F.SBJ-sit
 私はサゴを洗い、洗い終わったのを置いておく。
- (14) msi^ŋgak unɪmar.
 m-si^ŋga-k u-n<am>ar
 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ 3SG.F.SBJ-go.down<CONT>
 私はサゴを洗い、それらが⁵ (別の容器に) 落ちていく。
- (15) msi^ŋgak unar pinis
 m-si^ŋga-k u-nar pinis
 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ 3SG.F.SBJ-go.down PFV
 私は (サゴを) 洗い、それが下に落ちる⁶。
- (16) unar warku.
 u-nar u-arku
 3SG.F.SBJ-go.down 3SG.F.SBJ-stay
 サゴが落ちて、留まる。
- (17) liau par warku unuau putaituk wop smpa^ŋgak.
 liau par u-arku u-nuau putaituk uup s-m-pa^ŋga-k
 sago.palm top 3SG.F.SBJ-stay 3SG.F.SBJ-go.up full 1SG again-1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ
 下の容器が満たされて、そしたらまた別のを洗う。

⁵ ここで移動しているのは水であり話者は移動していないが、二つ目の動詞 *minar* には一人称単数の拘束人称形態素がついている。のちに見る例文 (51) も同様である。対照的に、例文 (14)、(15) では本来の移動物を指標する三人称単数女性の指標が表れている。

⁶ *pinis* 'PFV' はトク・ピシンからの借用。

- (18) mpa^ɔgak sulp ujal.
 m-pa^ɔga-k sulp u-ial
 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ water 3SG.F.SBJ-go
 私は洗う。水が³(容器に)行く。
- (19) smi^ɔga^kɲau sulp ula par smsa^kɲar unar
 s-m-^ɔga^kɲau sulp u-la par s-m-sa^kɲar u-nar
 again-1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ water 3SG.F.SBJ-come top again-1SG.SBJ-pour 3SG.F.SBJ-go.down
 papan.
 papan
 sago.petiole
 また私は水を持ち上げて、また容器に注ぐ。
- (20) msi^ɔgak nau.
 m-si^ɔga-k nau
 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ now
 そしてサゴを洗う⁷。
- (21) mial pinis mla mi^ɔga^kɲau mial taluk.
 m-ial pinis m-la m-^ɔga^kɲau m-ial taluk
 1SG.SBJ-go PFV 1SG.SBJ-come 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-go sago
 往復して砕いたサゴを持っていく。
- (22) smi^ɔga^kɲau minar kaluak mial msi^ɔgak.
 s-m-^ɔga^kɲau m-nar kaluak m-ial m-si^ɔga-k
 again-1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-go.down basket 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ
 再びカゴを持って下ってサゴを洗う。
- (23) mi^ɔga^kɲau mial taluk smial mi^ɔgal muai.
 m-^ɔga^kɲau m-ial taluk s-m-ial m-^ɔgal m-uai
 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-go sago again-1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-sit
 砕いたサゴを持って行って置いておく。
- (24) mi^ɔgal muai smsi^ɔgak
 m-^ɔgal m-uai s-m-si^ɔga-k
 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-sit again-1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ
 置いておいてまた洗う。

⁷ nau 'now' はトク・ピシンからの借用。

- (25) msi^ɔgak pinis.
 m-si^ɔga-k pinis
 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ PFV
 洗ってしまう。
- (26) mla mial marik liau anpinis.
 m-la m-ial m-ari-k liau an-pinis
 1SG.SBJ-come 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-look-3SG.F.OBJ sago PFV-PFV
 往復して、サゴ（の様子）を見る。
- (27) mi^ɔga^kɲau taluk miawak mial msi^ɔgak.
 m-^ɔga^kɲau taluk m-iaua-k m-ial m-si^ɔga-k
 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ sago 1SG.SBJ-carry-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-wash-3SG.F.OBJ
 砕いたサゴを取って運んで行って洗う。
- (28) nau pinis long em nau miliam.
 nau pinis long em nau m-liam
 now PFV LOC 3SG now 1SG.SBJ-go
 その作業が終わって私は移動する⁸。
- (29) miliam.
 m-liam
 1SG.SBJ-go
 私は移動する。
- (30) miliam pipa^ɔgak.
 m-liam p-pa^ɔga-k
 1SG.SBJ-go 1PL.SBJ-clean.up-3SG.F.OBJ
 片付けに行く（水を捨てる）。
- (31) pnau^ɔgak pla^mbalak pipa^ɔgak.
 p-nau^ɔga-k p-la^mbala-k p-pa^ɔga-k
 1PL.SBJ-take-3SG.F.OBJ 1PL.SBJ-clean-3SG.F.OBJ 1PL.SBJ-clean.up-3SG.F.OBJ
 （作業したところを）掃除する。
- (32) minikarik.
 m-nakari-k.
 1SG.SBJ-remove-3SG.F.OBJ.
 私は片付ける。

⁸ *miliam* ‘1SG.SBJ:go’ 以外はトク・ピシンの表現である。

- (33) liau minikarik.
 liau m-nakari-k.
 sago 1SG.SBJ-remove-3SG.F.OBJ.
 サゴを片付ける。
- (34) mi^ɔgal minar uⁿdiu mparak mi^ɔgal
 m-^ɔgal m-nar uⁿdiu m-para-k m-^ɔgal
 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-go.down stem.of.sago PAUSE 1SG.SBJ-break-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-put
 minar kuluak.
 m-nar kuluak
 1SG.SBJ-go.down sago
 幹をおいて (山を) 下る。
- (35) mi^ɔgal minar.
 m-^ɔgal m-nar
 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-go.down
 (それを) おいて (山を) 下る。
- (36) uwai.
 u-uai
 3SG.F.SBJ-sit
 (それは) そこに留まる。
- (37) mi^ɔga^kɲau liau mi^ɔgal minar uⁿdiu.
 m-^ɔga^kɲau liau m-^ɔgal m-nar uⁿdiu
 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ sago 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-go.down stem.of.sago
 私は (洗った) サゴを持って、幹は置いていく。
- (38) pimauruk pimala.
 p-mauru-k p-ma-la.
 1PL.SBJ-raise-3SG.F.OBJ 1PL.SBJ-EMPH-COME
 私たちはサゴを持って家に戻る。
- (39) mla mtakak waikau.
 m-la m-taka-k uaikau
 1SG.SBJ-come 1SG.SBJ-cut-3SG.F.OBJ leaf
 私は (器にする) 葉を切る。

- (47) mi^ŋga^kŋau sulp.
 m-^ŋga^kŋau sulp
 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ water
 私は水を用意する。
- (48) msa^kŋar unar waⁿduk.
 m-sa^kŋar u-nar u-aⁿdu-k
 1SG.SBJ-pour 3SG.F.SBJ-go.down 3SG.F.SBJ-and-3SG.F.OBJ
 それを全部注ぐ。
- (49) m^kŋanak niu, m^kŋawak niu.
 m-^kŋana-k niu m-^kŋaua-k niu
 1SG.SBJ-make.fire-3SG.F.OBJ fire 1SG.SBJ-make.fire-3SG.F.OBJ fire
 火をどんどん焚く⁹
- (50) m^kŋawak niu ujal usak.
 m-^kŋaua-k niu u-ial u-sak
 1SG.SBJ-make.fire-3SG.F.OBJ fire 3SG.F.SBJ-go 3SG.F.SBJ-boil
 火を焚いて水を沸騰させる。
- (51) mi^ŋga^kŋau liau mi^ŋgal minar waiput.
 m-^ŋga^kŋau liau m-^ŋgal m-nar uaiput
 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ sago 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-go.down tub
 サゴ（の粉）を取って桶に入れる。
- (52) tukuau taluktaluk tukuau t^ŋgalau.
 tukuau taluktaluk tukuau t^ŋgalau
 stick pull PAUSE stick cut.into.pieces
 棒で混ぜて、棒で細かくする¹⁰。
- (53) waija mi^ŋga^kŋau.
 uaiia m-^ŋga^kŋau
 strainer 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ
 私は濾し器を手にする。

⁹ *kŋana* と *kŋaua* は同一の語彙素の実現形と考えられるが、どのような形態（統語）特徴の違いがあるのかは不明である。

¹⁰ *taluktaluk* および *t^ŋgalau* が拘束人称形態素などを含むのかについては今のところ不明である。

- (54) mi^ɲga^kŋau mla mi^ɲga^kŋau pipia, mi^ɲga^kŋau
m-^ɲga^kŋau m-la m-^ɲga^kŋau pipia, m-^ɲga^kŋau
1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-come 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ strainer 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ
pipia mial mial pinis.
pipia m-ial m-ial pinis
strainer 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-go PFV
濾し器を取ってきて、サゴ（の粉）を濾していく。
- (55) aiku! aiku!
aiku aiku
no no
ちがう！ちがう！
- (56) wi mi^ɲga^kŋau pipia mial msa^kŋar muai pikiap.
ui m-^ɲga^kŋau pipia m-ial m-sa^kŋar m-uai pikiap
now 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ strainer 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-pour 1SG.SBJ-sit stone
そうしたら濾し器で濾して火のそば（*lit.* 石のところ）に置いておく。
- (57) mi^ɲga^kŋau nau mi^ɲga^kŋau mliak sulp asuŋ.
m-^ɲga^kŋau nau m-^ɲga^kŋau m-lia-k sulp asuŋ
1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ now PAUSE 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-fill-3SG.F.OBJ water bowl
私は水をボールに注ぐ。
- (58) mliak mliak mla sulp.
m-lia-k m-lia-k m-la sulp
1SG.SBJ-fill-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-fill-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-come PAUSE water
水を注ぐ注ぐ。
- (59) sku^mban uwa.
sku^mban u-ua
sago.pudding 3SG.F.SBJ-die
スクンバンができる。
- (60) uwa uwai waiput.
u-ua u-uai uaiput
3SG.F.SBJ-die PAUSE 3SG.F.SBJ-sit tub
（スクンバンが）桶にできている。

- (61) minupmak minukak mial mial.
 m-nupma-k m-nuka-k m-ial m-ial
 1SG.SBJ-halve-3SG.F.OBJ PAUSE 1SG.SBJ-halve-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-go 1SG.SBJ-go
 それを半分に切って切って切って。
- (62) mtakak mi^ɲgal msal waikau.
 m-taka-k m-^ɲgal m-sal uaikau
 1SG.SBJ-cut-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-put leaf
 切って葉の上に置く。
- (63) mku^mbul nau mtakak mtakak mtakak
 m-ku^mbul nau m-taka-k m-taka-k m-taka-k
 1SG.SBJ-spin now 1SG.SBJ-cut-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-cut-3SG.F.OBJ 1SG.SBJ-cut-3SG.F.OBJ
 mi^ɲgal muai waikau wasal mi^ɲga^kɲau
 m-^ɲgal m-uai uaikau u-asal m-^ɲga^kɲau
 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-sit leaf PAUSE 3SG.F.SBJ-stay PAUSE 1SG.SBJ-take.3SG.F.OBJ
 panipmɛn mtuklawak.
 panip-main m-tuklaua-k
 vegetable-PL 1SG.SBJ-cook-3SG.F.OBJ
 (スクンバンを) くるくるして葉の上にどんどん置いていって、そして野菜を調理する。
- (64) mtuklawak uwai wa^ɲduk.
 m-tuklaua-k u-uai u-a^ɲdu-k
 1SG.SBJ-cook-3SG.F.OBJ 3SG.F.SBJ-sit 3SG.F.SBJ-and-3SG.F.OBJ
 野菜を全部一緒に料理しておく。
- (65) usiar-mai msaup mau.
 u-siar-mai m-saup mau
 3SG.F.SBJ-turn-PFV 1SG.SBJ-call all
 野菜ができて、私はみんなを呼ぶ。
- (66) mla jep kaila!
 m-la iip kaila
 1SG.SBJ-come house 2PL.SBJ.come.IR
 みんな家のところに来て！
- (67) kal ^ɲgaik pu^kɲuam sku^mban.
 kal ^ɲgaik p-u^kɲuam sku^mban
 2PL.SBJ.come.IR 1PL 1PL.SBJ-eat.IR sago.pudding
 来てみんなでスクンバンを食べよう。

- (68) sku^mban panipmen mi^ɔgal minulawak pinis.
 sku^mban panip-main m-^ɔgal m-nulaua-k pinis
 sago.pudding vegetable-PL 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-put-3SG.F.OBJ PFV
 スクンバンと野菜をみんなに出す。
- (69) mi^ɔgal masal nau msaup mau, jaj warau jep ila, gaik
 m-^ɔgal m-asal nau m-saup mau iai uara-u iip i-la ^ɔgaik
 1SG.SBJ-put 1SG.SBJ-stay now 1SG.SBJ-call all dad child-3PL house 2PL.SBJ-come 1PL
 pu^kɲuam sku^mban nau.
 p-u^kɲuam sku^mban nau
 1PL.SBJ-eat.IR sago.pudding now
 食事を置いておいてみんなを呼ぶ、パパ、子供たち、こっちにおいで、スクンバンを食べ
 ましょう。
- (70) gaik pu^kɲuam sku^mban nau gaik pmai.
^ɔgaik p-u^kɲuam sku^mban nau ^ɔgaik p-mai
 1PL 1PL.SBJ-eat.IR sago.pudding now 1PL 1PL.SBJ-sit
 私たちは座ってスクンバンを食べる。
- (71) gaik pipmi.
^ɔgaik p-ipmi
 1PL 1PL.SBJ-sleep.IR
 私たちは眠りにいく。
- (72) dukum.
^ɔdukum
 end
 終わり。
- (73) anaiku.
 anaiku
 end
 終わり。

略号一覧

CONT = continuous, EMPH = emphatic, F = feminine, IR = irrealis mood, M = masculine, OBJ = object, PFV = perfective aspect, PL = plural, SG = singular, SBJ = subject, 1 = first person, 2 = second person, 3 = third person, < > = infix

謝辞

本稿は JSPS 科研費 20K13042、19KK0012 の成果の一部である。本稿の執筆に当たっては千田俊太郎氏から有益なコメントをいただいた。また、筆者を迎え入れ、精力的に調査に協力してくれたアイク語話者たちに深く感謝する。

参考文献

- Donohue, Mark. 2010. The Papuanness of Papua New Guinea's eastern highlands. In Billings, Loren and Nelleke Goudswaard (eds.), *Piakandatu ami Dr. Howard P. McKaughan*, 87-93. Linguistic Society of the Philippines and SIL Philippines.
- Eberhard, David M., Gary F. Simons, and Charles D. Fennig (eds.). 2021. *Ethnologue: Languages of the World. Twenty-third edition*. Dallas, Texas: SIL International. (<http://www.ethnologue.com>, Accessed on 2021-03-2.)
- Foley, William A. 1986. *The Papuan languages of New Guinea*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hammarström, Harald & Forkel, Robert & Haspelmath, Martin & Bank, Sebastian. 2020. *Glottolog* 4.2.1. Jena: Max Planck Institute for the Science of Human History. (<http://glottolog.org>, Accessed on 2021-03-02.)
- Laycock, Donald C. 1968. Languages of the Lumi subdistrict (West Sepik district), New Guinea. *Oceanic Linguistics* 7.1, 36-66.
- Toyoda, Yukio, Rieko Todo, and Hidekazu Toyohara. 2008. Sago as food in the Sepik area, Papua New Guinea. In Toyoda Yukio, *Anthropological studies of sago palm in Papua New Guinea*. Tokyo: Rikkyo University Centre for Aisan Area Studies.

受理日 2021 年 4 月 13 日

ミャンマーの「鼠の婿選び」：ジンポー語による民話テキスト*

倉部 慶太

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

キーワード：鼠の婿選び, 鼠の嫁入り, カチン人, ジンポー語, ミャンマー

1 はじめに

「鼠の婿選び」または「鼠の嫁入り」は、鼠の娘が天下一の婿のもとへ嫁ごうと、お日さま・雲・風・壁と次々に申し込むが、それぞれにさらに優れたものがあることが分かり、最後は同類の鼠のもとに嫁入りするという連鎖型の累積譚である。分相応なものとは結ばれる幸福を教訓として語る昔話であり(稲田・稲田編 2010: 162), 強いものが次々と循環し、強弱の関係は相対的なものであるとする「すくみの原理」が見られる(鵜野編 2016: 25)。この話型とモチーフはアジアを含む世界各地に流布しており、(1)に示した日中韓の話型に対応する。中国では漢族以外にワ・アチャン・カザフ・ダグールなどの人々にも伝わっている(立石 1999)。

(1) 日中韓の「鼠の婿選び」

- 日本：稲田編(1988)のIT 568「鼠の婿選び」
- 中国：丁(1986)の2031「いっそう強いものと一番強いもの」
- 韓国：崔(1976)のKT 37「鼠の婿探し」

古典では、鎌倉時代の仏教説話集『沙石集』の拾遺 69「鼠の婿選び」に見え、韓国では李朝中期の『於于野談』に、中国では明代の『応諧録』に類話がすでに見られる(松村 1915, 南方 1915, 稲田編 1988: 473-4, 稲田編 1998: 478-9, 稲田・稲田編 2010: 40, 162, 琴 2012, 鵜野編 2016: 25-6)。現存する最古のものはインドの『パンチャタントラ』に認められ、そこでは、僧が鼠を少女の姿に変え、よい夫に嫁がせるために、太陽・雲・風・山と次々に訪れるが、結局、鼠の姿に戻して鼠に嫁がせる(松村 1915, 立石 1999, 鵜野編 2016: 25-6)。

本稿では、筆者らのフィールドワークにより蒐集された、ミャンマー北部のカチン人に伝わる「鼠の少年サム・ノーと魚の娘ジャー・パン」(Yu ma Sam Naw hte Nga ma Ja Pan)と題する「鼠の婿選び」の類話を語釈とともに提示する。カチンの類話はほかの各地の類話と全体的によく対応する一方、細部に差異も認められる。例えば、日中韓では鼠または土竜が婿を探すことが多い一方(稲田編 1988: 473-4, 立石 1999, 琴 2012, 崔・巖編 2013: 173-6, 鵜野編 2016: 20-7), 本稿で提示するカチンの類話では婿探しをするのは魚である。また、日韓では両親が娘のかわりに婿を探す一方(鵜野編 2016: 20-2), カチンでは娘自身が婿を探すことが多い。登場する候補者

* 本稿は JSPS 科研費 JP20K13024 の助成を受けたものです。

やその順序についても各地でバリエーションが認められている (立石 1999)。日本で広く流布するタイプは、鼠または土竜 → 日 → 雲 → 風 → 壁 → 鼠または土竜の順に偉いと判明する。ほかにも候補者として月・雨・雷・空・石仏・地藏・柵・土手・土台・大地・山・岩山・材木・唐紙・縄・鞠・猫・川獺・牛などが知られている (立石 1999, 琴 2012, 鶴野編 2016: 24)。アイヌやダグールの類話では鼠や婚姻は関与せず, 「人間を滑らせた氷が偉い」にはじまり, 「木を切り倒した人間が一番偉い」に至る (稲田・稲田編 2010: 40)。次の (2) は, 立石 (1999) を参考にこの昔話のいくつかのバリエーションを主人公・候補者・登場する順序・最終的に偉いと判明するもの, にしたがってまとめたものである。出典は, 埼玉・大阪 (立石 1999), 韓国 (崔・巖編 2013: 173-6), 中国湖北・河北 (鶴野編 2016: 23-24), 雲南・カザフ・ワ・アチャン (立石 1999), カチン (本稿), アイヌ (稲田・稲田編 2010: 40) である。

(2) 「鼠の婿選び」のモチーフ

埼玉	大阪	韓国	湖北	河北	雲南	カザフ	ワ	アチャ	カチン	アイヌ
鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	魚	人
↓日	↓日	↓日	↓日	↓月	↓月	↓日	↓日	↓風神	↓日	↓氷
↓雲	↓月	↓雲	↓雲	↓雲	↓雲	↓月	↓雲	↓水牛	↓雲	↓日
↓風	↓雨	↓風	↓風	↓風	↓大壁	↓雲	↓風	↓人	↓風	↓雲
↓壁	↓風	↓石仏	↓塀	↓塀	鼠	↓風	↓壁	↓鼠	↓山	↓風
鼠	↓雷	鼠	鼠	↓鼠		↓山	鼠	↓猫	↓水牛	↓木
	↓壁			猫		鼠		鼠	↓縄	人
	鼠								鼠	

本稿で提示するカチンの動物昔話は, 筆者と現地コミュニティのメンバーが共同で行ったミャンマー北部におけるフィールドワークにより蒐集された昔話のうちの 1 つである。このコミュニティベースのドキュメンテーションにより得られた一次資料のうち 2,754 話は, 危機文化のデジタルアーカイブ PARADISEC で公開されている (Kurabe 2013, 2017)。このコレクションではそれぞれのアイテム (昔話など) に ID が付されている (e.g., KK1-0001)。本稿で提示する昔話が含まれるアイテムの ID は以下の KK1-0918 である。このアイテムでは, オリジナル音声, 書き起こし, 英訳, ELAN ファイルなどを公開している。

(3) KK1-0918

Keita Kurabe (depositor), K. Ja Bang (speaker). 2017. *Yu ma Sam Naw hte Nga ma Ja Pan (The rat boy Sam Naw and the fish girl Ja Pan) with English translation*. X-WAV/MPEG/XML. KK1-0918 at catalog.paradisec.org.au.
<https://dx.doi.org/10.4225/72/5989e6b53675b>

筆者らが蒐集した「鼠の婿選び」の類話には本稿で提示するものを含め以下のものがある。ID と話者の出身地を示すと (4) のようになる。話者がどのような経緯でこの昔話を知り得たか

をいま調べることはできないが、この昔話がカチン地域に広く分布していることが想像される。

(4) カチンの「鼠の婿選び」の類話

- KK1-0077 (Ding Lung Bum 村, Mali Nmai Wa Lawng 地方, カチン州北部)
- KK1-0254 (Gara Yang 村, Sama 地方, カチン州東部)
- KK1-0362 (Shaleng Hkyet Ga 村, Sumprabum 地方, カチン州北部)
- KK1-0918 (Gan Dau Yang 村, Sama 地方, カチン州東部)
- KK1-2446 (Naura Pa 村, Kutkai 地方, シャン州北部)

これらカチンの類話にもいくつかのバリエーションが認められる。次の (5) はこれらをまとめたものである (括弧内は登場人物名である)。例えば、本稿で提示する昔話 (KK1-0918) では魚が婿を探す一方、鼠が婿を探す話も見つかっている。また、候補者のモチーフについても前半部の日・雲・風・山は共通するけれども、後半部の水牛・縄・蔦・人は必ずしも一致しない。KK1-0254 では登場人物の名前は語られない一方、ほかの資料では娘は Ja Pan, 婿は Sam Naw と名づけられている。KK1-0077 では娘と婿に加えてほかの人物にも名前が与えられている。

(5) カチンの「鼠の婿選び」のモチーフ

KK1-0918	KK1-0362	KK1-2446	KK1-0254	KK1-0077
魚 (Ja Pan)	魚 (Ja Pan)	鼠 (Ja Pan)	鼠	魚 (Ja Pan)
↓日	↓日	↓日	↓日	↓日 (Jan Wa Zau Krip)
↓雲	↓雲	↓雲	↓雲	↓雲 (Summwi Ningli Naw)
↓風	↓風	↓風	↓風	↓風 (Nbung Bung Ga La)
↓山	↓山	↓山	↓山	↓山 (Shagawn Bum Tu)
↓水牛	↓水牛	↓水牛	↓鼠	↓木 (Shinglim Hpun)
↓縄	↓縄	↓縄	人	↓蔦 (Numru La Mung Yaw)
鼠 (Sam Naw)	鼠 (Sam Naw)	鼠 (Sam Naw)		鼠 (Sam Naw)

2 本文

本節ではカチンの「鼠の婿選び」の本文を提示する。本資料は 2017 年 2 月 13 日にミャンマーのカチン州ワインモー (Waingmaw) にて行った、筆者らのプロジェクトのメンバーによる対面調査で得られたものである。話者はガンダウヤン (Gandau Yang) 村出身の女性である。以下では、正書法表記・音素表記・語釈・和訳の順に提示する。和訳は可能なかぎり原語に即して行った。一部の言い誤りには、語り手以外の母語話者による確認のうえ修正を加えた。

(1) Ya ngai tsun na gaw Yu ma Sam Naw hte Nga Ma Ja Pan a maumwi re.

[yá? ɲay tsun=na]=gò yú-mà sam-no=thè? ɲá-mà jà pan=?à? màwmù y rê.
 now 1sg say=NMLZ=TOP rat-boy Sam Naw=COM fish-girl Ja Pan=GEN story COP
 いま私が話すのは鼠の少年サム・ノーと魚の娘ジャー・パンのお話です。

- (2) *Moi shawng de Yu ma Sam Naw gaw Nga ma Ja Pan hpe grai tsawm dum ai da.*

mòy ɕoŋ=dè? yú-mà sam-no=gò ɲá-mà jà pan=phé? grày tsòm
 before first=ALL rat-boy Sam Naw=TOP fish-girl Ja Pan=ACC very be.beautiful
dúm=?ay=dà?

feel=DECL=HS

昔々, 鼠の少年サム・ノーは魚の娘ジャー・パンをととても美しいと思ったそうだ。

- (3) *Dai shaloi “Shi hpe la na,” ngu jang she,*

day ɕəlóy “ɕi=phé? lá=na,” ɲú=jaŋ=ɕè?
 that when 3sg=ACC take=IRR say=when=then

そして「彼女を妻として迎えよう」というと、

- (4) *Nga ma Ja Pan gaw “Ngai gaw mungkan hta dankkung ai, tsawm htap ai, jin ai kaw she ngai wa na.”*

ɲá-mà jà pan=gò “ɲay=gò [mùŋkàn=thà? dàŋkhùŋ=?ay],
 fish-girl Ja Pan=TOP 1sg=TOP world=LOC be.glorious=NMLZ
[tsòm-thàp=?ay], [jín=?ay]=kó?=ɕè? ɲay wà=na.”

be.beautiful-be.ruddy=NMLZ be.strong=NMLZ=LOC=only 1sg marry=IRR

魚の娘ジャー・パンは「私は世界のなかで栄光があり, 美しく, 力強い人のところにだけ私は嫁ぎます。」

- (5) “*Shari shadang rawng ai kaw she ngai wa na,*” ngu nna,

“[ɕə̀rì-ɕə̀daŋ roŋ=?ay]=kó?=ɕè? ɲay wà=na,” ɲú=ɲná,
 dignity-propriety be.in=NMLZ=LOC=only 1sg marry=IRR say=SEQ

「威厳のある人のところにだけ私は嫁ぎます」といって、

- (6) *shawng nambat langai gaw ajan kaw “Nang kaw ngai wa na.”*

ɕoŋ námbát-ləŋây=gò ?ə-jan=kó? “naŋ=kó? ɲay wà=na.”

first number-1=TOP KIN-sun=LOC 2sg=LOC 1sg marry=IRR

一番はじめにお日さまのところで「あなたのところへ私は嫁ぎます。」

- (7) “*Nang gaw mungkan a dankkung ai, tsawm ai, htoi tu kabrim ai*”

“naŋ=gò mùŋkàn=?à? [dàŋkhùŋ=?ay], [tsòm=?ay],
 2sg=TOP world=GEN be.glorious=NMLZ be.beautiful=NMLZ
[thòy-tù-gə̀brim=?ay]”

be.luminous-shine-glitter=NMLZ

「あなたは世界の栄光のあるもの, 美しいもの, 輝くもの」

- (8) ngu nna “Wa na,” ngu da.
ŋú=nná “wà=na,” ŋú=?ay=dà?
 say=SEQ marry=IRR say=DECL=HS
 といって「嫁ぎます」といったそうだ。
- (9) Dai shaloi she ajan gaw “E, ngai gaw mungkan hta n jin ai.”
day ɛəlóy=ɛè? ?ə-jan=gò “?ê, ŋay=gò mùŋkàn=thà? ú-jín=?ay.”
 that when=then KIN-sun=TOP INTJ 1sg=TOP world=LOC NEG-be.strong=DECL
 するとお日さまは「いいえ、私は世界のなかで力強くありません。」
- (10) “N tsawm ai.”
“ń-tsôm=?ay.”
 NEG-be.beautiful=DECL
 「美しくありません。」
- (11) “Ngai nang hpe n hkap la lu ai,”
“ŋay naŋ=phé? ń-kháp-lá lù=?ay,”
 1sg 2sg=ACC NEG-receive-take get=DECL
 「私はあなたを受け入れることができません。」
- (12) ngu dí na bai ningdang kau dat ai da.
ŋú di=ná báy nùŋdán=káw-dàt=?ay=dà?
 say LV=SEQ again refuse=away-away=DECL=HS
 といってまた断ったそうだ。
- (13) Dai shaloi jan gaw “Ngai kade mai mayu ti mung,”
day ɛəlóy jan=gò “ŋay gədè may=məyu=tí?=mùŋ,”
 that when sun=TOP 1sg how.much shine=DESID=but=also
 そして、お日さまは「私がいくら輝きたくても」
- (14) “ngai hpe summwi hte shinggang kau kau re majaw,”
“ŋay=phé? summuy=thè? ɛìŋgàŋ=káw-káw re məjò,”
 1sg=ACC cloud=COM hinder=away-RED LV because
 「私を雲がいつも妨げるので」
- (15) “ngai mai mayu ai daram, ngai htoi mayu ai daram”
“[ŋay may=məyu=?ay] dərám, [ŋay thòy=məyu=?ay] dərám”
 1sg shine=DESID=NMLZ about 1sg shine=DESID=NMLZ about
 「私が輝きたいようには、私が光りたいようには」

(16) “ngai n lu htoi nngai,” ngu tsun ai da.

“ngay n̄-lû thòy=ɲɲ-ay,” ɲú tsun=?ay=dàʔ.

1sg NEG-get shine=1sg-DECL QUOT say=DECL=HS

「私は光ることができません」といったそうだ。

(17) Dai shaloi Nga ma Ja Pan gaw

day ɕəlóy ɲá-mà jà pan=gò

that when fish-girl Ja Pan=TOP

すると、魚の娘ジャー・パンは

(18) “E, deng gaw ngai summwi kaw she ngai wa sana,”

“ʔê, deŋ=gò ngay summuy=kóʔ=ɕèʔ ngay wà=sə-na,”

INTJ if.it.were=TOP 1sg cloud=LOC=only 1sg marry=CSM-IRR

「はい、それならば私は雲のところに私は嫁ぎます。」

(19) ngu nna summwi hpang de bai sa ai da.

ɲú=ɲná, summuy phaŋ=dèʔ báy sa=?ay=dàʔ.

say=SEQ cloud after=ALL again go=DECL=HS

とって雲のもとへまた行ったそうだ。

(20) Dai shaloi summwi hpe mung “Nang mungkan hta grai jin ai.”

day ɕəlóy summuy=phéʔ=mùŋ “naŋ mùŋkàn=thàʔ grày jín=?ay.”

that when cloud=ACC=also 2sg world=LOC very be.strong=DECL

そして、雲にも「あなたは世界のなかでとても力強いです。」

(21) “grai hpraw tsawm ai,” ngu nna

“grày phrò tsòm=?ay,” ɲú=ɲná

very be.white be.beautiful=DECL say=SEQ

「とても白く美しいです」とって、

(22) summwi hpang bai sa jang she,

summuy phaŋ báy sa=jaŋ=ɕèʔ,

cloud after again go=when=then

雲のもとへまた行くと、

(23) summwi mung “E, ngai mungkan hta n jin ai.”

summuy=mùŋ “ê, ngay mùŋkàn=thàʔ n̄-jín=?ay.”

cloud=also INTJ 1sg world=LOC NEG-be.strong=DECL

雲も「いいえ、私は世界のなかで力強くありません。」

(24) “Ngai tsawm mung n tsawm ai.”

“**ŋay tsòm=mùŋ ní-tsòm=?ay.**”

1sg be.beautiful=also NEG-be.beautiful=DECL

「私は美しくもありません。」

(25) “Shari shadang mung n nga ai.”

“**ɕərì-ɕədaŋ=mùŋ ní-ŋâ=?ay.**”

dignity-propriety=also NEG-be=DECL

「威厳もありません。」

(26) “Ngai kade sha nan nan re nga mayu ti mung,”

“**ŋay gədè=ɕà nàŋ-nàŋ re ɲà=məyu=tí=?mùŋ,**”

1sg how.much=only bear-RED LV be=DESID=but=also

「私はいくら耐えて(同じ場所に)いたくても」

(27) “nbung e ngai hpe shapoi kau kau re nna”

“**ñbuŋ=?è ŋay=phé? ɕə-póy=káw-káw re=ñná**”

wind=AGT 1sg=ACC CAUS-be.blown=away-RED LV=SEQ

「いつも風が私を吹き飛ばして」

(28) “ngai nga mayu ai shara kaw ngai n nga lu nngai,” ngu tsun ai da.

“**[ŋay ɲà=məyu=?ay] ɕərà=kó? ŋay ní-ŋâ lù=ŋŋ-ay,**” **ŋú tsun=?ay=dà?**

1sg be=DESID=NMLZ place=LOC 1sg NEG-be get=1sg-DECL QUOT say=DECL=HS

「私がいたい場所に私はいることができません」といったそうだ。

(29) Dai shaloi summwi hpe bai

day ɕəlóy summuy=phé? báy

that when cloud=ACC again

すると,(魚の娘ジャー・パンは)雲にまた

(30) “E, deng gaw ngai nbung kaw she bai wa na,”

“**ê, deŋ=gò ŋay ñbuŋ=kó=?ɕè? báy wà=na,**”

INTJ if.it.were=TOP 1sg wind=LOC=only again marry=IRR

「はい, そういうことであれば私は風のところにまたお嫁に行きます。」

(31) ngu nbung hpe bai san ai da.

ŋú ñbuŋ=phé? báy sán=?ay=dà?

say wind=ACC again ask=DECL=HS

とって風にまた尋ねたそうだ。

- (32) “Nbung, nang mungkan hta jin dik ai, grai tsawm htap ai, shari sadang rawng ai nbung re ndai,” ngu nna

“̀nbuŋ, naŋ [mùŋkàn=thà? jín=dìk=?ay], [grày tsòm-thàp=?ay],
 wind 2sg world=LOC be.strong=INTNS=DECL very be.beautiful-be.ruddy=NMLZ
[cə̀rì-cə̀daŋ roŋ=?ay] ̀nbuŋ ré=̀nd-ay,” ̀ŋú=̀nná
 dignity-proprietty be.in=NMLZ wind COP=2sg-DECL say=SEQ
 「風さん, あなたは世界のなかでとても強く, とても美しく, 威厳のある風です」といって

- (33) nbung hpe bai Nga ma Ja Pan bai san ai da.

̀nbuŋ=phé? báy ̀ŋá-mà jà pan báy sán=?ay=dà?
 wind=ACC again fish-girl Ja Pan again ask=DECL=HS
 風にまた魚の娘ジャー・パンはまた尋ねたそうだ。

- (34) Dai shaloi nbung gaw “E, ngai jin mung n jin nngai.”

day cə̀lóy ̀nbuŋ=gò “ê, ̀ŋay jín=mùŋ ̀n=jín=̀ŋŋ-ay.”
 that when wind=TOP INTJ 1sg be.strong=also NEG-be.strong=1sg-DECL
 そのとき, 風は「いいえ, 私は強くもありません。」

- (35) “Tsawm mung n tsawm nngai.”

“tsòm=mùŋ ̀n=tsòm=̀ŋŋ-ay.”
 be.beautiful=also NEG-be.beautiful=1sg-DECL
 「美しくもありません。」

- (36) “Shari sadang mung ngai n nga nngai,” ngu nna

“cə̀rì-cə̀daŋ=mùŋ ̀ŋay ̀n=̀ŋâ=̀ŋŋ-ay,” ̀ŋú=̀nná,
 dignity-proprietty=also 1sg NEG-be=1sg-DECL say=SEQ
 「威厳も私はありません」といって

- (37) “Ngai kade tsawm mayu, kade chyang mayu ti mung”

“̀ŋay gədè tsòm=mə̀yu, gədè cə̀ŋ=mə̀yu=tí=?mùŋ”
 1sg how.much be.beautiful=DESID how.much hurry=DESID=but=also
 「私がどれほど美しくなりたくても, どれほど急ぎたくても」

- (38) “ngai bum tawn hta ngai hkring mat mat re nngai.”

“̀ŋay bùm-ton=thà? ̀ŋay khriŋ=màt=màt re=̀ŋŋ-ay.”
 1sg mountain-lofty=LOC 1sg stop=COMPL-RED LV=1sg-DECL
 「私は高い山のところで私は止まってばかりいます。」

(39) “Hpun ni hta ngai hkring mat mat re nngai,”

“**phún=ni=thà? ɲay khriŋ=màt=màt re=ɲɲ-ay,**”

tree=PL=LOC 1sg stop=COMPL-RED LV=1sg-DECL

「木のところで私は止まってばかりいます。」

(40) ngu nna bai tsun ai da.

ɲú=ɲná báy tsun=?ay=dà?

say=SEQ again say=DECL=HS

とまたいったそうだ。

(41) Dai shaloi abum mung “Ngai kade tu kaba nga kaba mayu ti mung”

day ɕəlóy ?ə-bùm=mùŋ “ɲay gədè tu-gəbà-ɲà-gəbà=məyu=tí?=mùŋ”

that when KIN-mountain=also 1sg how.much grow-be.big-be-be.big=DESID=but=also

(次に山にたずねると) そのとき山も「私がどれほどそびえて大きくなりたくても」

(42) “ngai n lu kaba nngai.”

“**ɲay ń-lú gəbà=ɲɲ-ay.**”

1sg NEG-get be.big=1sg-DECL

「私は大きくなることができません。」

(43) “Ngai hpe dumsu u tang e daru kau nna”

“**ɲay=phé? dùmsu-?ù-taŋ=?è dərù?=káv=ɲná**”

1sg=ACC cow-buffalo-be.strong=AGT head.on=away=SEQ

「私に力強い水牛が頭でぶつかって」

(44) “ngai n mai kaba taw nngai,”

“**ɲay n-may gəbà=to=ɲɲ-ay,**”

1sg NEG-be.OK be.big=CONT=1sg-DECL

「私は大きくなることができていません。」

(45) ngu nna bum e bai tsun ai da.

ɲú=ɲná bùm=?è báy tsun=?ay=dà?

say=SEQ mountain=AGT again say=DECL=HS

と山はまたいったそうだ。

(46) Dai shaloi Nga ma Ja Pan gaw dumsu u tang kaw bai sa ai da.

day ɕəlóy ɲá-mà jà pan=gò dùmsu-?ù-taŋ=kó? báy sa=?ay=dà?

that when fish-girl Ja Pan=TOP cow-buffalo-be.strong=LOC again go=DECL=HS

そして魚の娘ジャー・パンは力強い水牛のところにまた行ったそうだ。

- (47) Dai shaloi “E, dumsu u tang e, nang gaw mungkan hta jin dik ai, tsawm dik ai, shari sadang rawng ai dumsu u la re ndai,”

day ɕəlóy “ʔê dùmsu-ʔù-taŋ=ʔè, naŋ=gò [mùŋkàn=thàʔ jín=dìk=ʔay],
 that when INTJ cow-buffalo-be.strong=SFP 2sg=TOP world=LOC be.strong=INTNS=NMLZ
[tsòm=dìk=ʔay], [ɕəri-ɕədaŋ roŋ=ʔay] dùmsu-ʔù-là ré=nd-ay,”
 be.beautiful=INTNS=NMLZ dignity-propriety be.in=NMLZ cow-buffalo-male COP=2sg-DECL
 そして「ねえ、水牛さん、あなたは世界のなかでとても強く、美しく、威厳のある雄牛です」

- (48) ngu nna dumsu hpe bai tsun ai da.

ŋú=nná dùmsu=phéʔ báy tsun=ʔay=dàʔ.
 say=SEQ cow=ACC again say=DECL=HS
 と水牛にまたいったそうだ。

- (49) Dumsu gaw “E, ngai nang hpe bai n lu la ai.”

dùmsu=gò “ʔê, ŋay naŋ=phéʔ báy n-lù lá=ʔay.”
 cow=TOP INTJ 1sg 2sg=ACC again NEG-get take=DECL
 水牛は「いいえ、私はあなたをお嫁にすることはできません。」

- (50) “Ngai jin mung n jin nngai.”

“ŋay jín=mùŋ n-jín=ŋŋ-ay.”
 1sg be.strong=also NEG-be.strong=1sg-DECL
 「私は強くもありません。」

- (51) “Ngai kam ai hku, ngai ra ai hku nga mayu ti mung”

“[ŋay kam=ʔay]=khu, [ŋay ràʔ=ʔay]=khu, ŋà=məyu=tí=mùŋ”
 1sg be.willing=NMLZ=like 1sg like=NMLZ=like be=DESID=but=also
 「私がやりたいように、私が好きなように、いたくても」

- (52) “u shoi sumri hte ngai hpe gyit shadang dang re majaw”

“ʔù-ɕoy-sumri=thèʔ ŋay=phéʔ gyit ɕə-dáŋ-dáŋ re məjò,”
 buffalo-nose.ring-rope=COM 1sg=ACC bind CAUS-be.obstructed-RED LV because
 「鼻輪の縄で私を縛って括り付けているので」

- (53) “ngai nga mayu ai, ngai hkawm mayu ai de n hkawm lu nngai.”

“[ŋay ŋà=məyu=ʔay], [ŋay khom=məyu=ʔay]=dèʔ n-khom lù-ŋŋ-ay.”
 1sg be=DESID=NMLZ 1sg walk=DESID=NMLZ=ACC NEG-walk get=1sg-DECL
 「私がいたいところ、私が歩きたいところへ歩くことができません。」

(54) “Nang hpe ngai n lu la ai,” ngu nna

“naŋ=phé? ɲay ú-lù lá=?ay,” ɲú=ɲná

2sg=ACC 1sg NEG-get take=DECL say=SEQ

「あなたを私はお嫁にすることはできません」といって

(55) dumsu u shoi sumri hpe bai tsun ai da.

dùmsu-ʔù-ɕoy-sumri=phé? báy tsun=?ay=dà?.

cow-buffalo-nose.ring-rope=ACC again say=DECL=HS

(魚の娘ジャー・パンは今度は縄のところに行き) 鼻輪の縄にまたいったそう。

(56) Dai shaloi nga ma ja pan gaw

day ɕəlóy ɲá-mà jà pan=gò

that when fish-girl Ja Pan=TOP

そして魚の娘ジャー・パンは

(57) “U shoi sumri e, ngai nang kaw she wa na.”

“ʔù-ɕoy-sumri=?è ɲay naŋ=kó=?çè? wà=na.”

buffalo-nose.ring-rope=SFP 1sg 2sg=LOC=only marry=IRR

「鼻輪の縄さん、私はあなたのところにだけお嫁に行きます。」

(58) “Nang grai jin ai.”

“naŋ grày jín-ʔay.”

2sg very be.strong=DECL

「あなたはとても強いです。」

(59) “Grai reng ai,” ngu nna u shoi sumri hpe bai tsun ai da.

“grày reŋ=?ay,” ɲú=ɲná ʔù-ɕoy-sumri=phé? báy tsun=?ay=dà?.

very be.splendid=DECL say=SEQ buffalo-nose.ring-rope=ACC again say=DECL=HS

「とても素晴らしいです」といって水牛の鼻輪の縄にまたいったそう。

(60) Dai shaloi u shoi sumri mung

day ɕəlóy ʔù-ɕoy-sumri=mùŋ

that when buffalo-nose.ring-rope=also

そのとき、鼻輪の縄も

(61) “E, ngai mung grai galu hkra, grai tsawm hkra, ngai nga mayu ti mung”

“ʔê, ɲay=mùŋ grày gəlù=khà, grày tsòm=khà, ɲay ɲà=məyu=tí=?mùŋ”

INTJ 1sg=also very be.long=till very be.beautiful=till 1sg be=DESID=but=also

「いいえ、私もとても長く、とても美しく、私はいたいけれども」

(62) “Yu ma Sam Naw e hkrai kawa di kau kau re nna”

“yú-mà sam-no=?è=khray gəwá dì?=káv-káv re=nná”

rat-boy Sam Naw=AGT=only bite cut=away-RED LV=SEQ

「鼠の少年サム・ノーだけが(私を)いつも噛み切ってしまうので」

(63) “ngai kam ai hku n nga lu nngai,” ngu nna tsun ai da.

“[ŋay kam=?ay]=khu ní-ŋâ lù=ŋŋ-ay,” ŋú=nná tsun=?ay=dà?.

1sg be.willing=NMLZ=like NEG-be get=1sg-DECL say=SEQ say=DECL=HS

「私は好きなようにいることができません」といったそうだ。

(64) Dai shaloi myi na shi n wa kam ai Yu ma Sam Naw kaw bai du wa.

day ɕəlóy myì=ná [ɕi ní-wâ kam=?ay] yú-mà sam-no=kó?

that when before=GEN 3sg NEG-marry be.willing=NMLZ rat-boy Sam Naw=LOC

báy dù=wà.

again arrive=VEN

こうして、最初の彼女が嫁入りしたくなかった鼠の少年サム・ノーのところにまた行ってきた。

(65) Re majaw shi myi na shi n ra ai Yu ma Sam Naw kaw bai wa mat ai da.

rê mǎjò, ɕi myì=ná [ɕi ní-rá=?ay] yú-mà sam-no=kó? báy

COP because 3sg before=GEN 3sg NEG-like=NMLZ rat-boy Sam Naw=LOC again

wà=màt=?ay=dà?.

marry=COMPL=DECL=HS

ので、彼女は最初の自分が好きでなかった鼠の少年サム・ノーのところに嫁入りしてしまっただ。

(66) Dai majaw ya du hkra “Shawng num hta n lai ai,” nga

day mǎjò yá? dù=khà “ɕoŋ-num=thà? ní-lây=?ay,” ŋa

that because now arrive=till first-wife=LOC NEG-go.beyond=DECL QUOT

だから今日まで「最初の奥さんは越えられない」という

(67) dai ga dingsa dai ya du hkra nan ai re da.

day gà dŋsà day yá? dù=khà nà=?ay rê=dà?.

that word old that now arrive=till persist=NMLZ COP=DECL

その古い言葉、それが今日まで残っているそうだ。

記号・略号

-	形態素境界	morpheme boundary
=	節語境界	clitic boundary
[]	名詞節	nominalized clause
1	1 人称	first person
2	2 人称	second person
3	3 人称	third person
sg	単数	singular
ACC	対格	accusative
AGT	動作主格	agentive
ALL	向格	allative
CAUS	使役	causative
COM	共格	comitative
COMPL	完了	completive
COP	コピュラ動詞	copula verb
CSM	変化相標識	change-of-state marker
DECL	叙述法	declarative
DESID	願望	desiderative
GEN	属格	genitive
HS	伝聞	hearsay
INTJ	間投詞	interjection
INTNS	強調	intensifier
IRR	非現実	irrealis
KIN	親族	kinship
LOC	場所格	locative
LV	軽動詞	light verb
NEG	否定	negative
NMLZ	名詞化辞	nominalizer
PL	複数	plural
QUOT	引用	quotative
RED	重複	reduplicant
SEQ	継起	sequential
SFP	文末助詞	sentence-final particle
TOP	主題	topic
VEN	来辞	venitive

参考文献

- 稲田浩二編 (1988) 『日本昔話通観 第 28 卷：日本昔話タイプ・インデックス』 京都：同朋舎出版.
- 稲田浩二編 (1998) 『日本昔話通観 研究篇 2：日本昔話と古典』 京都：同朋舎出版.
- 稲田浩二・稲田和子編 (2010) 『新版日本昔話ハンドブック』 東京：三省堂.
- 鶴野祐介編 (2016) 『日中韓の昔話：共通話型三〇選』 神奈川：みやび出版.
- 琴榮辰 (2012) 「『旬五志』に見える東アジアの共通説話：「桃太郎」・「鼠の嫁入り」の類話新資料をめぐって」『説話文学研究』 47: 220-231.
- Kurabe, Keita (2013) Kachin folktales told in Jinghpaw. Collection KK1 at catalog.paradisec.org.au [Open Access]. <https://dx.doi.org/10.4225/72/59888e8ab2122>
- Kurabe, Keita (2017) Kachin culture and history told in Jinghpaw. Collection KK2 at catalog.paradisec.org.au [Open Access]. <https://dx.doi.org/10.26278/5fa1707c5e77c>
- 崔仁鶴 (1976) 『韓国昔話の研究：その理論とタイプインデックス』 東京：弘文堂.
- 崔仁鶴・嚴鎔姫編 (2013) 『韓国昔話集成 第 1 巻』 東京：悠書館.
- 立石展大 (1999) 「日中「鼠の嫁入り」の比較研究」『説話・伝承学』 7: 82-95.
- 丁乃通 (1986) 『中国民間故事類型索引』 北京：中国民間文芸出版社.
- 野村純一 (2007) 「説話の来た道：北方民族と「鼠の嫁入り」」『地域学』 5: 45-74.
- 松村武雄 (1915) 「鼠の嫁入説話研究」『東洋学芸雑誌』 32.7: 68-74.
- 南方熊楠 (1915) 「鼠の嫁入の話に就て」『東洋学芸雑誌』 32.8: 71-72.

受理日 2021 年 4 月 13 日

ミャンマーの「蛇婿入り」：ジンポー語による民話テキスト*

倉部 慶太

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

キーワード：蛇婿入り, 異類婚姻譚, カチン人, ジンポー語, ミャンマー

1 はじめに

「蛇婿入り」は日本全土にわたって古くから伝承される日本の代表的な異類婚姻譚の1つである。蛇婿入譚は、日本 (IT 205), 中国 (ET 31), 朝鮮 (KT 200, 201) など¹, 水田稲作と龍蛇神信仰を持つ東アジアで根強く伝えられるほか、北東アジア, 東南アジア, メラネシアなどにも分布することが知られている (稲田編 1993: 224-231, 稲田編 2004: 29, 稲田・稲田 2010: 33, 鶴野編 2013: 162-163, 崔 1976: 220-222, 崔・巖 2013: 216-230)。日本の古典では奈良時代の『古事記』の三輪山神話などに神話として、『平家物語』などに伝説として記録される (稲田編 1998: 202-212, 稲田編 2004: 29, 稲田・稲田 2010: 32-33)。日本では平安時代初期から多様な話型が生まれており、稲田編 (1988) では9つのサブタイプが認められている (IT 205A から 205I)。代表的な話型として「針糸型」と「嫁入り型」がある。以下に稲田編 (1988) から話型とモチーフを引用する (pp.323-325)。

(1) 「針糸型」(IT 205A)

①娘のもとに毎晩見知らぬ若者が通ってきて明け方に帰っていき、娘はやせ衰える。②心配した親が娘に糸を通した針を若者の着物の裾に刺させ、翌朝糸をたどると、山奥の洞穴までつづき針の刺さった蛇がいる。

(2) 「嫁入り型」(IT 205D)

①爺が日照りに困って、田に水を入れてくれた者に三人娘の一人を嫁にやる、とひとりごとを言うと、蛇がすぐ水を入れてくれる。②爺が娘たちに頼むと、上の二人はことわるが末娘が承知し、針千本とひょうたん千個を持って、迎えに来た若者について出かける。③山奥の池についた若者が、いっしょに水底の家に入ろう、と誘うと、娘はひょうたんをみな投げこんで、これを沈めてくれたら入る、と言う。④娘は、若者が蛇の姿になってひょうたんを沈めようともがいているところへ針千本を投げて蛇を殺す。

* 本稿は JSPS 科研費 JP20K13024 の助成を受けたものです。

¹ 括弧内は、稲田編 (1988), Eberhard (1937), 崔 (1976) で用いられる、日本・中国・朝鮮の代表的な話型のタイプインデックスを指す。日本の類話は関 (1978-80) の 101A, 101B, 中国の類話は丁 (1986) の 433D および金 (2007) の 433D, 朝鮮の類話は崔・巖 (2013) の KT 201, 202 も参照。

「蛇婿入り」は中国にも流布している。中国の「蛇婿入り」にもいくつかの話型が知られ、「蛇郎と姉妹型」、「蛇退治型」、「始祖型」に分類される(楊 2014)。「蛇退治型」は日本の「針糸型」に対応する。中国では「蛇郎と姉妹型」(以下「蛇郎」)がもっとも広く流布している。²日中の「蛇婿入り」の大きな違いとして、日本では異類は退治される対象である一方、中国で広く知られる「蛇郎」では異類は娘に幸せをもたらすという点がある(志村 1983, 郭 1993, 楊 2014)。以下に郭(1993: 17)および楊(2014: 67)をもとに「蛇郎」の話型とモチーフを示す。

(3) 「蛇郎」

①蛇が自分の花を摘んだ爺に三人娘のうちの1人を嫁にくと頼む。②爺が娘たちに頼むと、上の二人はことわるが末娘が承知し、蛇の嫁となる。③皮を脱いで美青年となった蛇と妹は幸せに暮らす。④妬んだ姉たちは末娘を殺し、妹に偽装して蛇の妻になる。⑤死んだ末娘は様々な動物に変身し、姉たちを困らせる。⑥蛇が姉たちを殺し、生き返った末娘は蛇と幸せに暮らす。

「蛇婿入り」はミャンマーにも伝わっている。本稿では、筆者らが同国北部におけるフィールドワークにより蒐集した昔話のうち、カチン人に伝わる蛇婿入譚を語釈とともに提示する。カチンの「蛇婿入り」には少なくとも2つの話型が確認される。いま仮に蛇の鱗が金片に変わるタイプを「蛇鱗型」、末娘が蛇と報われるタイプを「末娘型」と呼ぶ。細部には様々なバリエーションが認められるものの、基本的に KK1-0148, KK1-1569, KK1-2851 は「蛇鱗型」であり、KK1-0047, KK1-1000, KK1-1032, KK1-1516, KK1-2470 は「末娘型」である。(筆者らがフィールドワークで蒐集した資料の大部分は、危機文化のデジタルアーカイブである PARADISEC にて公開している。KK1-0001 などの ID はこのコレクションにおける ID である。Kurabe 2013, Kurabe 2017 を参照。)

(4) 「蛇鱗型」(KK1-0148)

①母と娘が森で蛇に出くわし、蛇は毎晩娘のもとにやってくるようになる。②蛇は娘の家のまえで皮を脱ぎ若者になって家に入る。③明け方、蛇は金片になる鱗を落として帰る。④娘が蛇の抜け殻を焼き、元の姿に戻れなくなった蛇は娘と幸せに暮らす。⑤それを知った隣人の女は森で本物の蛇を捕まえてくる。⑥金片目当てに蛇を自分の娘と寝かせると、蛇は娘を呑む。

(5) 「末娘型」(KK1-0047)

①母親が果物を取ってくれた蛇に四人娘のうちの1人をやるという。②上の娘はことわるが末娘が承諾し、蛇の嫁となる。③蛇の国に行った末娘は金を手に入れるとともに、蛇は夜に青年となり娘を養う。④妬んだ姉たちは末娘を誘い出して穴に突き落とす。⑤穴が蛇の国と繋がっていたため、末娘は蛇の国に戻る。

² 朝鮮でも「針糸型」(KT 201)のほかに「蛇郎」に対応する「青大将髻」(KT 200)が知られる(崔 1976: 220-221, 崔・巖 2013: 216-227)。

中国と同様、カチンの「蛇婿入り」では、異類は退治される対象ではなく、異類との婚姻が娘に幸福をもたらす。娘と異類の幸せな婚姻に加え、蛇が皮を脱いで青年になるモチーフは中国の「蛇郎」に、蛇の抜け殻が焼かれるモチーフは朝鮮の「青大将髻」にも認められる。「蛇鱗型」にはいわゆる「隣の爺型」のモチーフが加えられている。「末娘型」は中国の「蛇郎」とよく対応する。「蛇鱗型」は倉部 (2020: 207-218) で紹介したため、本稿ではカチンの「蛇婿入り」のうち「末娘型」の本文を提示する。

ところで、日本・中国・朝鮮の「蛇婿入り」には蛇と娘の間に子どもが産まれるものがあり、その子どもが「鴨君の祖」(『古事記』) や一族の始祖(越後の五十嵐小文治, 豊後の緒方三郎) になるなど、始祖譚と結びつく例が指摘されている(稲田編 2004: 29, 野村 1994: 98)。また、節句酒や菖蒲湯で娘が蛇を下ろすという節句の由来を説く場合もある(稲田編 1988: 324, 野村 1994: 98)。子どもの誕生のモチーフは筆者らの蒐集したカチンの「蛇婿入り」には現れない。ただし、伝説上の龍蛇の娘と人間の青年から産まれた子どもがカチンの始祖となったという神話が伝えられている。伝統的な嫁入りの儀礼として、花嫁が蛇のにおいを清めるために力芝の間を通る Num shalai 「花嫁通し」と呼ばれる儀礼がある(e.g., KK1-0562, KK1-0740, 倉部 2020: 84-88)。

2 本文

本節ではカチンの「蛇婿入り」の本文を提示する。本資料は 2016 年 12 月 12 日にミャンマーのカチン州ミッチーナにて行った筆者による対面調査で得られたものである。話者はサドン(Sadon) 出身の女性(1948 年生) である。アーカイブにおける本資料の ID は KK1-0047 である。以下では、本資料を正書法・音素表記・語釈・和訳の順に提示する。本資料は自然に発話されたものを録音したため、繰り返しや言葉足らずの部分があるが、基本的にそのまま提示した。和訳は原語に即して行ったため、やや不自然な部分がある。フィラーは削除し、一部の言い誤りについて語り手以外の母語話者による確認のうえ修正を加えた。

(1) Ya lapu na maumwi hpe hkai mayu ai.

yá? læpu=ná màwmùy=phé? khay=məyu=?ay.

now snake=GEN story=ACC tell=DESID=DECL

いま蛇のお話を話したいです。

(2) Lapu La a lam.

læpu-la=?à? lam.

snake-man=GEN way

蛇婿の話。

(3) Ga baw gaw dai rai sa.

gà-bo=gò day ráy=s-á?.

word-head=TOP that COP=CSM-DECL

タイトルはそれです。

- (4) Moi shawng de kahtawng langai mi hta

mòy-ɕoŋ=dè? gəthòŋ ləŋây mi=thà?

before-before=ALL village one one=LOC

昔々, ある村に

- (5) gaida jan gaw Kasha num kasha mali lu ai da.

gàydá-jan=gò gəɕà num-gəɕà məli lù=?ay=dà?

widow-female=TOP child woman-child four get=DECL=HS

未亡人が4人の娘といたそう。

- (6) Dai num sha gaw, mali ni gaw

day num-ɕà=gò, məli=ni=gò

that woman-person=TOP four=PL=TOP

その女たちは, 4人は

- (7) magam bungli bungsi gaw grai kam galaw ai.

məgám-bùŋlì-bùŋsì=gò grày kam gəlo=?ay.

power-work-COUP=TOP very be.willing do=DECL

仕事はとても頑張った。

- (8) Rai ti mung kanu machyi nga ai shaloi

ráy=tí=?mùŋ [gənú məcí=?ŋà=?ay] ɕəlóy

COP=but=also mother be.sick=CONT=NMLZ when

しかし, 母親が病気の時,

- (9) namsi grai si ai da.

nàm-sì grày sì=?ay=dà?

forest-fruit very bear=DECL=HS

果物がとても実ったそう。

- (10) Shanhte a nta makau kaw namsi grai si ai.

ɕánthe=?à? níta məkaw=kó? nàm-sì grày sì=?ay.

3pl=GEN house beside=LOC forest-fruit very bear=DECL

彼らの家のそばに果物が実った。

- (11) Rai ti mung namsi n di ya lu ai da.

ráy=tí=?mùŋ nàm-sì ní-dí=?ya lù=?ay=dà?

COP=but=also forest-fruit NEG-pick=BEN get=DECL=HS

しかし, (娘たちは母に) 果物をとってやることができなかつたそう。

- (12) Dai ni, ma ni namsi n lu di ya ai da.

day=ni, mà=ni nàm-sì ñ-lû dì?=ya=?ay=dà?.

that=PL child=PL forest-fruit NEG-get pick=BEN=DECL=HS

その人たち, 娘たちは果物をとってやれなかったそうだ。

- (13) Dai grai tsaw ai majaw n lu di ya ai shaloi gaw

[[day grày tsò=?ay] mājò ñ-lû dì?=ya=?ay] ɕəlóy=gò

that very be.tall=NMLZ because NEG-get pick=BEN=NMLZ when=TOP

それがとても高かったのだからとってやれなかったとき

- (14) ndai kanu gaw tsun ai da.

nday gənù=gò tsun=?ay=dà?.

this mother=TOP say=DECL=HS

この母親はいったそうだ。

- (15) “Ngai grai machyi ai.”

“ngay grày məcí=?ay.”

1sg very be.sick=DECL

「私はとても具合が悪いです。」

- (16) “Grai n pyaw ai.”

“grày n-pyo=?ay.”

very NEG-be.pleasant=DECL

「とても気分が悪いです。」

- (17) “Namsi grai sha mayu ai.”

“nàm-sì grày ɕá=məyu=?ay.”

forest-fruit very eat=DESID=DECL

「果物がとても食べたいです。」

- (18) “Dai majaw ndai namsi di ya ai wa hpe gaw”

“day mājò [nday nàm-sì dì?=ya=?ay] wa=phé?=gò

that because this forest-fruit pick=BEN=NMLZ man=ACC=TOP

「だからこの果物をとってくれた人には」

- (19) “nye kasha ni hpe ngai jaw sha na.”

“nyé? gəɕà=ni=phé? ngay jò? ɕá=na.”

1sg.GEN child=PL=ACC 1sg give eat=IRR

「私の子どもたちを嫁がせます³。」

³ jò? ɕá 「嫁がせる」という意味のイディオム。ビルマ語の翻訳借用と思われる。

- (20) “Nye kasha, Ma Kaw ra yang Ma Kaw”
“nyé? gəcà, mà-kó? rà?=yàŋ mà-kó?”
 1sg.GEN child child-first.daughter like=when child-first.daughter
 「私の娘, 長女が好きなら長女」
- (21) “Ma Lu ra yang Ma Lu”
“mà-lú? rà?=yàŋ mà-lú?”
 child-second.daughter like=when child-second.daughter
 「次女が好きなら次女」
- (22) “Ma Roi ra yang Ma Roi”
“mà-roy rà?=yàŋ mà-roy”
 child-third.daughter like=when child-third.daughter
 「三女が好きなら三女」
- (23) “Ma Htu ra yang Ma Htu jaw sha na.”
“mà-thù? rà?=yàŋ mà-thù? jò? cǎ=na.”
 child-fourth.daughter like=when child-fourth.daughter give eat=IRR
 「四女が好きなら四女を嫁がせます。」
- (24) “Dai majaw ngai hpe namsi di ya na kahkri ra ai”
“day məjò [ŋay=phé? nàm-sì dì?=ya=na] gəkhri rà=?ay”
 that because 1sg=ACC forest-fruit pick=BEN=NMLZ son-in-law need=DECL
 「だから, 私に果物をとってくれる婿が必要です。」
- (25) ngu nna shi gaw dai hku chyu machyi let dai hku marawn nga ai da.
ŋú=nná cǐ=gò day=khu=cu məcí?=lèt day=khu mərón=ŋà=?ay=dà?
 say=SEQ 3sg=TOP that=like=only be.sick=SIM that=like shout=CONT=DECL=HS
 といって, 彼女はそのようにだけ病みながらそのように叫んでいたそうだ。
- (26) “Namsi di ya marit,” ngu nna marawn ai.
“nàm-sì dì?=ya=mə-rìt,” ŋú=nná mərón=?ay.
 forest-fruit pick=BEN=PL-IMP say=SEQ shout=DECL
 「果物をとってください」といって叫んだ。
- (27) Shaloi gaw lani mi na aten hta
ɬəlóy=gò lə-ní mi=ná ?ətèn=thà?
 then=TOP one-day one=GEN time=LOC
 すると, ある日

(28) lapu wa she, dai wa na hkrup ai da.

ləpu-wa=çè?, day wa nà=khrùp=?ay=dà?.

snake-man=then that man hear=unexpectedly=DECL=HS

蛇が, そいつが (母親の言葉を) 偶然に聞いたそうだ。

(29) Dai rai nna she, lapu dai gaw hpun dai de lung wa nna,

day ráy=inná=çè?, lapu day=gò phún day=dè? lùŋ=wà=inná,

that COP=SEQ=then snake that=TOP tree that=ALL climb=VEN=SEQ

そして, その蛇はその木に登ってきて

(30) shi a maitsan hte

çi=?à? màytsan=thè?

3sg=GEN tip.of.tail=COM

彼のしっぽの先で

(31) wo namsi dai hpe majoi mi maitsan hte kayet nna she,

?ó nàm-sì day=phé? məjoy mi màytsan=thè? gəyèt=inná=çè?,

there forest-fruit that=ACC naturally one tip.of.tail=COM hit=SEQ=then

その果物を簡単にしっぽの先でたたいて

(32) namsi ni yawng aru jahkrat ya ai da.

nàm-sì=ni yòŋ ?əru? jə-khràt=ya=?ay=dà?.

forest-fruit=PL all toss CAUS-fall=BEN=DECL=HS

果物すべてを投げ落としてやったそうだ。

(33) Shaloi gaw shan nau ni gaw dai hta nna

çəlóy=gò çán ?naw=ni=gò day thà?=inná

then=TOP 3du sister=PL=TOP that pick.up=SEQ

そして, 娘たちはそれを拾って

(34) kanu hpe dai hta jaw ai da.

gənù=phé? day thà? jò=?ay=dà?.

mother=ACC that pick.up give=DECL=HS

母にそれを拾って与えたそうだ。

(35) N dai lapu wa gaw dai shaloi gaw hto daw dap de...

nday lapu-wa=gò day çəlóy thó dò?-dàp=dè?...

this snake-man=TOP that when up.there fix-room=ALL

この蛇はそのときあちらの客間へ...⁴

⁴ daw dap 「客人を迎えるための囲炉裏のある客間」

- (36) anhte Jinghpaw ni gaw “dawdap” ngu ai langai mi...
?ánthe jìnpòhò? =ni=gò [dò?-dàp ɲú=?ay] ləŋây mi...
 1pl Jinghpaw=PL=TOP fix-room say=NMLZ one one
 私たちジンポー一人には「客間」と呼ぶひとつ(の部屋がある)...
- (37) manam dap de, dai de she shi gaw wa hkawan nna
mənàm-dàp=dè?, day=dè?=çè? çì=gò wà khəwàn=ɲná
 guest-room=ALL that=ALL=then 3sg=TOP come encircle=SEQ
 客室へ, そこへ彼は来てとぐろを巻いて
- (38) “Ngai gaw kahkri rai na sai”
“ɲay=gò gəkhri ráy=na=s-ay”
 1sg=TOP son-in-law COP=IRR=CSM-DECL
 「私は婿になるでしょう。」
- (39) ngu nna wa taw nga ai da.
ɲú=ɲná wà to=ɲà=?ay=dà?
 say=SEQ come lie.down=CONT=DECL=HS
 といってやって来て横たわっていたそう。
- (40) Wa hkawan nna taw nga ai.
wà khəwàn=ɲná to=ɲà=?ay.
 come encircle=SEQ lie.down=CONT=DECL
 やって来てとぐろを巻いて横たわっていたそう。
- (41) Shaloi gaw dai yan nu ni gaw tsun sai da.
çəlóy=gò day yán ?nû=ni=gò tsun=s-ay=dà?
 then=TOP that both mother=PL=TOP say=CSM-DECL=HS
 すると, その母娘たちはいったそう。
- (42) “E, ya kahkri tai na wa”
“?è [yá? gəkhri tay=na] wa”
 INTJ now son-in-law become=NMLZ man
 「はい, いま婿になる人」
- (43) “shinggyim masha gaw kadai mung namsi n sa di ya ai.”
“çìŋgyim-məçà=gò gəday=mùŋ nàm-sì n-sa dī?=ya=?ay.”
 human-person=TOP who=also forest-fruit NEG-go pick=BEN=DECL
 「人間は誰も来て果物をとってくれませんでした。」

- (44) “Ndai hkri lapu wa she sa di ya sai re majaw gaw”
“[nday khri ləpu-wa=çè? sa di? =ya=s-ay] rē məjò=gò
 this son-in-law snake-man=only go pick=BEN=CSM-NMLZ COP because=TOP
 「この婿の蛇だけが来てとってくれたので」
- (45) “hkri lapu hpe nye kasha ni gaw”
“khri ləpu=phé? nyé? gəçà=ni=gò”
 son-in-law snake=ACC 1sg.GEN child=PL=TOP
 「婿の蛇に私の娘たちは」
- (46) “langai n rai langai gaw jaw sha ra sai”
“ləŋây í-ráy ləŋây=gò jò? çá rà=s-ay”
 one NEG-COP one=TOP give eat need=CSM-DECL
 「ある 1 人でなければ別の 1 人は嫁がせなければなりません。」
- (47) ngu nna shan nu ni bawng ban sai da.
ŋú=nná çán ?nú=ni bəŋbàn=s-ay=dà?
 say=SEQ 3du mother=PL discuss=CSM-DECL=HS
 といって、彼ら母娘たちは話し合ったそうだ。
- (48) “E, ma yan nau ni e, nanhte myit su ra sai.”
“?è, mà yán ?naw=ni=?è, nánthe myit sú rà=s-ay.”
 INTJ child both sister=PL=SFP 2pl mind be.mature need=CSM-DECL
 「さあ、娘たちよ、あなたたちはお利口でなければなりません。」
- (49) “Dai majaw gaw e Ma Kaw mahtang wa u yaw”
“day məjò=gò ?è mà-kó? =məthàn wà=?ù? =?yô”
 that because=TOP INTJ child-first.daughter=CONTR marry=IMP=SFP
 「だから、はい、長女が嫁に行きなさいよ。」
- (50) ngu tsun ai da.
ŋú tsun=?ay=dà?
 QUOT say=DECL=HS
 といったそうだ。
- (51) “Anu hpe ndai ram ram namsi di ya ai gaw.”
“[?ə-?nú=phé? nday ram-ram nàm-sì di? =ya=ay]=gò.”
 KIN-mother=ACC this be.enough-RED forest-fruit pick=BEN=DECL=SFP
 「お母さんにこれほどたくさん果物をとってくれたのですよ。」

(52) “Anu na myit hta grai myit pyaw sai.”

“ʔə-ʔnû=ná myit=thàʔ gràʔ myit pyo=s-ay.”

KIN-mother=GEN mind=LOC very mind be.happy=CSM-DECL

「お母さんはとてもうれしいです。」

(53) “Dai majaw Ma Kaw wa u yaw,” ngu tsun ai.

“day məjò mà-kóʔ wà=ʔùʔ=ʔyô,” ɲú tsun=ʔay.

that because child-first.daughter marry=IMP=SFP QUOT say=DECL

「だから、長女が嫁に行きなさいよ」といった。

(54) “Yi! Anu e, hkrit ai law.”

“yî, ʔə-ʔnû=ʔè, khrit=ʔay=lô.”

INTJ KIN-mother=SFP fear=DECL=SFP

「えー！お母さん、怖いですよ。」

(55) “Ding re lapu kaw ngai gara hku wa na.”

“dɪŋ rê ləpu=kóʔ ɲay gərə=khu wà=na.”

like.this COP snake=LOC 1sg how=like marry=IRR

「このような蛇のところに私はどうやってお嫁に行けましょうか。」

(56) “N wa ai.”

“ń-wâ=ʔay.”

NEG-marry=DECL

「嫁には行きません。」

(57) “Ngai gaw n wa ai.”

“ɲay=gò ń-wâ=ʔay.”

1sg=TOP NEG-marry=DECL

「私は嫁には行きません。」

(58) “Si tim n wa ai,” ngu bai ningdang ai.

“si=tim ń-wâ=ʔay,” ɲú báʔ nɪŋdàŋ=ʔay.

die=but NEG-marry=DECL QUOT again refuse=DECL

「死んでも嫁には行きません」とまた反対した。

(59) “E, dai rai yang gara hku n di sai.”

“ʔè, day ráʔ=yàŋ gərə=khu n-di=s-ay.”

INTJ that COP=when how=like NEG-do=CSM-DECL

「はい、それではどうしようもありません。」

(60) “Ah Lu wa wa u yaw.”

“ʔə-lúʔ-wa wà=ʔùʔ=ʔyô.”

KIN-second.daughter-man marry=IMP=SFP

「次女, 嫁に行きなさいよ。」

(61) “Ah Lu, nang dai kahkri lapu kaw wa u yaw.”

“ʔə-lúʔ, naŋ day gəkhri læpu=kóʔ wà=ʔùʔ=ʔyô.”

KIN-second.daughter 2sg that son-in-law snake=LOC marry=IMP=SFP

「次女, あなたがその婿の蛇のところに嫁に行きなさいよ。」

(62) “Yi! Nu e, yu pyi n yu gwi ai.”

“yî, ʔnú=ʔè yu=pyi n-yu gúy=ʔay.”

INTJ mother=SFP see=even NEG-see dare=DECL

「えー！お母さん, 見るのも見る勇気がありません。」

(63) “Dai zawn re lapu kaw kaning re nna hkan nang hkawm na i.”

“day dzòn rê læpu=kóʔ gəníŋ ré=ñná kʰán-naŋ khom=na=ʔi.”

that like COP snake=LOC how COP=SEQ follow-follow walk=IRR=Q

「そのような蛇のところにどうしてついて行けますか。」

(64) “Wa na i.”

“wà=na=ʔi.”

marry=IRR=Q

「お嫁に行けますか。」

(65) “Ngai gaw n myit lu ai law.”

“ŋay=gò n-myít lù=ʔay=lô.”

1sg=TOP NEG-think get=DECL=SFP

「私には考えられませんよ。」

(66) “Nu e, si nga si mat u ga.”

“ʔnú=ʔè, si ŋa si=màt=ʔùʔgàʔ.”

mother=SFP die say die=COMPL=OPT

「お母さん, 死ぬというなら死んでください。」

(67) “Dai lapu kaw gaw n wa ai law.”

“day læpu=kóʔ=gò n-wà=ʔay=lô.”

that snake=LOC=TOP NEG-marry=DECL=SFP

「その蛇のところにはお嫁に行きませんよ。」

(68) Shaloi gaw kanu gaw Ma Roi hpe bai tsun ai da.

ɕəlóy=gò gənù=gò mà-roy=phé? báy tsun=?ay=dà?.
 then=TOP mother=TOP child-third.daughter=ACC again say=DECL=HS
 すると, 母は三女にまたいったそうだと。

(69) “Roi e, nang she myit su na sai.”

“roy=?è, naŋ=çè? myit sú=na=s-ay.”
 third.daughter=SFP 2sg=only mind be.mature=IRR=CSM-DECL
 「三女よ, あなたこそ利口でしょう。」

(70) “Dai majaw gaw”

“day mǎjò=gò”
 that because=TOP
 「だから」

(71) “ndai hkri lapu kaw hkan nang na hku di u yaw.”

“[nday khri ləpu=kó? khán-naŋ=na]=khu di=?ù=?yô.”
 this son-in-law snake=LOC follow-follow=NMLZ=like do=IMP=SFP
 「この婿の蛇のところについて行くようにしなさいよ。」

(72) “Anhte nang kaw gaw hkri lapu hpe woi nga ai gaw”

“[?ánthe ?nâŋ=kó?gò khri ləpu=phé? woy=ŋà=?ay]=gò”
 1pl here=LOC=TOP son-in-law snake=ACC lead=CONT=NMLZ=TOP
 「私たちはここ (この家) で婿の蛇を世話することは」

(73) “bai n byin ai.”

“báy n-byîn=?ay.”
 again NEG-happen=DECL
 「それもできません。」

(74) “Re majaw nang hkan nang u.”

“rê mǎjò naŋ khán-naŋ=?ù?.”
 COP because 2sg follow-follow=IMP
 「だから, あなたがついて行きなさい。」

(75) “Nu e, yu hkrit ai hte mu pyi n mu ga ai.”

“?nú=?è, [yu khrit=?ay]=thè? mù=pyi n-mû=ga=?ay.”
 mother=SFP see fear=NMLZ=COM see=even NEG-see=EXP=DECL
 「お母さん, 見るのも怖くて見たことさえありません。」

- (76) “Lapu kaw wa ai ngu ai gaw”
 “[ləpu=kóʔ wà=ʔay ɲú=ʔay]=gò”
 snake=LOC marry=DECL say=NMLZ=TOP
 「蛇のところに嫁に行くというのは」
- (77) “nang gaw ngai hpe sat ai she rai sai.”
 “[naŋ=gò ɲay=phéʔ sàt=ʔay]=çèʔ ráy=s-ay.”
 2sg=TOP 1sg=ACC kill=NMLZ=only COP=CSM-DECL
 「あなたが私を殺すのと同じです。」
- (78) “Nu e, nang pyi garai n si yang ngai she si ra sai”
 “ʔnú=ʔè, naŋ=pyi gərày n-si=yàŋ ɲay=çèʔ si rà=s-ay”
 mother=SFP 2sg=even still NEG-die=when 1sg=only die need=CSM-DECL
 「お母さん、あなたが死ぬ前に私が死んでしまいます。」
- (79) ngu nna n hkraw ai da.
 ɲú=ɲná ń-khró=ʔay=dàʔ.”
 say=SEQ NEG-agree=DECL=HS
 といって同意しなかったそうだ。
- (80) Re yang gaw kanu gaw myit htum nna
 ré=yàŋ=gò gə̀nú=gò myit thùm=ɲná
 COP=when=TOP mother=TOP mind be.ended=SEQ
 すると、母はがっかりして
- (81) Ma Htu hpe bai tsun ai.
 mà-thùʔ=phéʔ báy tsun=ʔay.
 child-fourth=ACC again say=DECL
 四女にまたいった。
- (82) “Htu e, nang sha myit n su yang gaw”
 “thùʔ=ʔè, naŋ=çà myit ń-sú=yàŋ=gò”
 fourth.daughter=SFP 2sg=only mind NEG-be.mature=when=TOP
 「四女よ、あなただけが利口でない」と
- (83) “kaning n di sa.”
 “gə̀níŋ n-di=s-áʔ.”
 how NEG-do=CSM-DECL
 「もうどうしようもありません。」

- (84) “Ya anu gaw tsun kau sai.”
“yá? ʔə-nû=gò tsun=káw=s-ay.”
 now KIN-mother=TOP say=away=CSM-DECL
 「いまお母さんはもう (蛇に) いてしまいました。」
- (85) “Ga sadi dat kau sai re majaw”
“[gà sadiʔ=dàt-káw=s-ay] rê mǝjò
 word promise=away-away=CSM-NMLZ COP because
 「約束してしまったので」
- (86) “ndai ga sadi gaw dung ra sai.”
“nday gà-sədiʔ=gò duŋ rà=s-ay.”
 this word-promise=TOP sit need=CSM-DECL
 「この約束はもう守らなければなりません。」
- (87) “Dai majaw, e Ah Htu, nang wa u yaw.”
“day mǝjò, ʔè ʔə-thúʔ, naŋ wà=ʔùʔ=ʔyô.”
 that because INTJ KIN-fourth.daughter 2sg marry=IMP=SFP
 「だから、四女、あなたがお嫁に行きなさいよ。」
- (88) “Hpung dim wa, nang ndai ahkri lapu kaw”
“phùŋdìm-wa, naŋ nday ʔə-khri ləpu=kóʔ”
 last.born.child-man 2sg this KIN-son-in-law snake=LOC
 「末娘、あなたがこの婿の蛇のところに」
- (89) “hkan nang u yaw,” ngu she
“khán-naŋ=ʔùʔ=ʔyô,” ŋú=çèʔ
 follow-follow=IMP=SFP say=then
 「ついて行きなさいよ」というと
- (90) “Mai ai le, Nu.”
“may=ʔay=lè, ʔnû.”
 be.OK=DECL=SFP mother
 「いいですよ、お母さん。」
- (91) “Ngai hkan nang yu na.”
“ŋay khán-naŋ=yu=na.”
 1sg follow-follow=CON=IRR
 「私がついて行ってみます。」

- (92) “Ndai lapu ni gara hku nga ai kun.”
“nday læpu=ni gərə=khu nà=?ay=kún.”
 this snake=PL how=like live=DECL=Q
 「この蛇たちはどのように暮らしているのでしょうか。」
- (93) “Ngai hkan nang na,” ngu,
“n̄ay khán-naŋ=na,” n̄ú,
 1sg follow-follow=IRR QUOT
 「私がついて行きます」と
- (94) shi gaw kana ni zawn astawm sha
çi=gò [gəna=ni dzòn ?á-tsôm=çà
 3sg=TOP sister=PL like ADV-be.well=ADV
 彼女は姉たちのようによく
- (95) myit htau li htau la nau n rawng ai majaw
myit thawli-thawla nàw n-roŋ=?ay] mājò
 mind be.careful-COUP too.much NEG-be.in=NMLZ because
 考えがあまりなかったので
- (96) nau kaji ai majaw
[nàw gəjì=?ay] mājò
 too.much be.small=NMLZ because
 まだ幼かったので
- (97) “Mai ai, kaja ai.”
“may=?ay, gəja=?ay.”
 be.OK=DECL be.good=DECL
 「大丈夫です, いいです。」
- (98) Shi gaw hkan nang ai.
çi=gò khán-naŋ=?ay.
 3sg=TOP follow-follow=DECL
 彼女はついて行った。
- (99) Hto lapu mungdan de shi gaw maitsan kaw jum nna she
thó læpu-múŋdan=dè? çi=gò màytšan=kó? jum=nná=çè?
 up.there snake-country=ALL 3sg=TOP tip.of.tail=LOC hold=SEQ=then
 あちらへ, 蛇の国へ, 彼女はしっぽの先をつかんで

(100) hto woi mat wa ai da.

thó woy=màt=wà=?ay=dà?

up.there lead=COMPL=VEN=DECL=HS

あちらへ, (蛇は四女を) 連れて行ってしまったそうだ。

(101) Maitsan kaw woi nna she, hto hka ni lai, bum ni lai,

màytsan=kó? woy=ùná=çè?, thó khà?=ni lày, bùm=ni lày,

tip.of.tail=LOC lead=SEQ=then up.there river=PL pass mountain=PL pass

しっぽの先で連れて行って, あの上方の川を越え, 山を越え

(102) re yang gaw, le lungpu lungkhrung kata de she

ré=yàng=gò, lé lùŋpu-lùŋkhrung kətà=dè?=çè?

COP=when=TOP down.there cave-rock inside=ALL=only

そうして, あの下方の岩のなかに

(103) wa woi ai da.

wà woy=?ay=dà?

come lead=DECL=HS

連れて行ったそうだ。

(104) Wo shanhte na shara kaw yawng arai hkrai da.

?ó çánthe=ná çərà=kó? yòŋ ?əráy=khray=dà?

there 3pl=GEN place=LOC all thing=alone=HS

その彼らの場所はすべてアレばかりだったそうだ。

(105) Ja hkrai hkrai.

jà=khray-khray.

gold=alone-RED

^{きん}
金ばかり。

(106) Panep ni nep da, yup ku ni galaw da,

pənép=ni nép=dá, ?yúp-ku=ni gəlo=dá,

mat=PL spread=RES sleep-bed=PL make=RES

絨毯も敷いてあり, ベッドも作ってあり

(107) ma hkra gaw ja hkrai da.

má?=khrà=gò jà=khray=dà?

be.exhausted=till=TOP gold=alone=HS

すべてが^{きん}金ばかりだったそうだ。

(108) Ja hkrai, ja hkrai, manu mana lu ai da.

jà=khray, jà=khray, mənù?mənà? lù=?ay=dà?.

gold=alone gold=alone a.lot get=DECL=HS

金ばかり, 金ばかり, たいそう持っていたそうだ。

(109) Rai jang she ndai lapu gaw shani shana...

ráy=jaŋ=ɛè? nday læpu=gò ɛəní-ɛəná?...

COP=when=then this snake=TOP day-night

そして, この蛇は昼夜...

(110) shani e gaw lapu tai nna, shana rai yang gaw

ɛəní=?è=gò læpu tay=ɲná, ɛəná? ráy=yàŋ=gò

day=LOC=TOP snake become=SEQ night COP=when=TOP

昼は蛇になり, 夜になると

(111) dai hku nna, shinggyim masha tai nna

day=khu=ɲná, ɕiŋgyim-məɕà tay=ɲná,

that=like=SEQ human-person become=SEQ

このように, 人間になって

(112) shi hpe atsawm sha, Ma Htu hpe woi nga ai da.

ɕi=phé? ?á-tsôm=ɕà, mà-thù?=phé? woy=ŋà=?ay=dà?.

3sg=ACC ADV-be.well=ADV child-fourth.daughter=ACC lead=CONT=DECL=HS

彼女を大切に, 四女を養ったそうだ。

(113) Woi nga nna nga taw ai shaloi

[woy=ŋà=ɲná ŋà=to=?ay] ɕəlóy

lead=CONT=SEQ live=CONT=NMLZ when

養って暮らしていたとき

(114) Ma Htu gaw lani mi hta tsun ai da.

mà-thù?=gò lə-ní mi=thà? tsun=?ay=dà?.

child-fourth.daughter=TOP one-day one=LOC say=DECL=HS

四女はある日いったそうだ。

(115) “E, ngai gaw nye nu hpe grai hkrum mayu ai law.”

“?è, ŋay=gò nyé? ?nú=phé? grày khrúm=məyu=?ay=lô.”

INTJ 1sg=TOP 1sg.GEN mother=ACC very meet=DESID=DECL=SFP

「ねえ, 私はお母さんにとっても会いたいですよ。」

- (116) “Nu hte wa woi hkrum rit le,” ngu ai.
“ʔnú=thèʔ wà woy khrúm=rít=lè,” ɲú=ʔay.
 mother=COM return lead meet=IMP=SFP say=DECL
 「連れて帰ってお母さんと会わせてくださいよ」といった。
- (117) “Mai ai, mai ai.”
“may=ʔay, may=ʔay.”
 be.OK=DECL be.OK=DECL
 「いいです, いいです。」
- (118) “Shaloi gaw nang ndai shingnoi kasha mung ja shingnoi re.”
“ɕəlóy=gò naɲ nday ɕíɲnóy-gəɕà=mùɲ jà-ɕíɲnóy rē.”
 then=TOP 2sg this basket-DIM=also gold-basket COP
 「では, あなた, この小籠^{きん}も金の籠です。」
- (119) “Ndai lahkawn ni laraw ni ma hkra”
“nday ləkhôn=ni ləróʔ=ni máʔ=khà”
 this bracelet=PL leggings=PL be.exhausted=till
 「この腕輪や脚絆をすべて」
- (120) “ja kachyi ni ma hkra nang chyi u yaw.”
“jà-kəci=ni máʔ=khà naɲ ci=ʔùʔ=ʔyô.”
 gold-necklace=PL be.exhausted=till 2sg wear=IMP=SFP
 「金^{きん}の首飾りをすべて身につけなさいよ。」
- (121) “Chyi nna she nye h pang bai hkan u”
“ci=ɲná=ɕèʔ nyéʔ phaɲ báy khán=ʔùʔ”
 wear=SEQ=then 1sg.GEN after again follow=IMP
 「身に着けて私のあとにまたついて来ててください。」
- (122) ngu nna she hkan nna she,
ɲú=ɲná=ɕèʔ khán=ɲná=ɕèʔ,
 say=SEQ=then follow=SEQ=then
 といって(娘が)ついて行って
- (123) hto kanu h pang bai woi mat wa ai da.
thó gənú phaɲ báy woy=màt=wà=ʔay=dàʔ.”
 up.there mother after again lead=COMPL=VEN=DECL=HS
 (蛇は)あの母のところへまた連れて行ってしまったそうだ。

- (124) Shaloi gaw kana ni gaw...
ɕəlóy=gò gəna=ni=gò...
 then=TOP sister=PL=TOP
 そして、姉たちは...
- (125) Shana daw de du jang gaw, shana de du jang gaw...
ɕəná?-dò=dè? dù=jaŋ=gò, ɕəná?=dè? dù=jaŋ=gò
 night-part=ALL arrive=when=TOP night-part=ALL arrive=when=TOP
 夜になると、夜になると...
- (126) ndai lapu gaw shana rai jang gaw masha tai,
nday ləpu=gò ɕəná? ráy=jaŋ=gò məɕà tay,
 this snake=TOP night COP=when=TOP person become
 この蛇は夜になると人になり
- (127) shani rai jang gaw lapu tai nna...
ɕəní ráy=jaŋ=gò ləpu tay=ɲná,
 day COP=when=TOP snake become=SEQ
 昼になると蛇になって...
- (128) Shana rai yang gaw, koi, grai tsawm ai.
ɕəná? ráy=yàŋ=gò, kòy, grày tsòm=?ay.
 night COP=when=TOP INTJ very be.beautiful=DECL
 夜になると、まあ、とても美しい。
- (129) Hkan hkan nya nya manu mana tsawm ai.
khàngānnyányá mənù?mənà? tsòm=?ay
 awesomely a.lot be.beautiful=DECL
 驚くほどに美しい⁵。
- (130) Rai jang she shan nau ni gaw manawn sai da.
ráy=jaŋ=ɕè? ɕán ?naw=ni=gò mənón=s-ay=dà?
 COP=when=then 3du sister=PL=TOP be.jealous=CSM-DECL=HS
 そして、姉たちは妬んだそうだ。
- (131) “Aga, Ma Htu wa ai ndai ning she re hka wa!”
“?əgá [mə-thù? wà=?ay] ?nìŋ=ɕè? rē=kha=wa.”
 INTJ child-fourth.daughter marry=NMLZ thus=only COP=EXCL=SPF
 「まあ、四女が嫁に行ったところはこのようであったか。」

⁵ hkan hkan nya nya はビルマ語の語彙挿入 (lexical insertion) である。

(132) “Anhte shut sai lu.”

“ʔánthe shút=s-ay=lu.”

1pl make.mistake=CSM-DECL=SFP

「私たちが間違っていましたよ。」

(133) “Ngai wa shut kau sai lu.”

“ŋay wà shút=káw=s-ay=lu.”

1sg marry make.mistake=away=CSM-DECL=SFP

「私は嫁ぐ場所を間違ってしまったよ。」

(134) Langai mung “Ngai mung shut sai law.”

lɔŋgâ=mùŋ “ŋay=mùŋ shút=s-ay=lô.”

one=also 1sg=also make.mistake=CSM-DECL=SFP

別の1人も「私も間違いましたよ。」

(135) “Ngai wa na she re wa.”

“ŋay wà=na=çè? rê=wa.”

1sg marry=NMLZ=only COP=SFP

「私が嫁いだのに。」

(136) Langai mi mung “Ngai she wa na wa.”

lɔŋgâ mi=mùŋ “ŋay=çè? wà=na=wa.”

one one=also 1sg=only marry=NMLZ=SFP

別の1人も「私こそ嫁に行ったのに。」

(137) “Ga, ya grai shut sai.”

“gá, yá? grày shút=s-ay.”

INTJ now very make.mistake=CSM-DECL

「ああ、いまとても間違ってしまった。」

(138) Dai hku myit nna shan nau ni gaw yup sai da.

day=khu myít=nná çán ʔnaw=ni=gò ʔyúp=s-ay=dà?

that=like think=SEQ 3du sister=PL=TOP sleep=CSM-DECL=HS

そのように思って彼ら娘たちは寝たそうだ。

(139) Rai tim marai lahkawng gaw

ráy=tím mərəy ləkhôŋ=gò

COP=but CLF 2=TOP

しかし、2人は

- (140) ndai Ma Lu hte Ma Roi ngu yan lahkawng gaw
nday mà-lú?=thè? mà-roy ɲú yán ləkhôŋ=gò
 this child-second.daughter=COM child-third.daughter say both 2=TOP
 この次女と三女という 2 人は
- (141) shan gaw bawng ban nna she,
ɕán=gò bəŋbàn=ɲná=ɕè?,
 3du=TOP discuss=SEQ=then
 彼女ら 2 人は話し合って
- (142) H pang shani gaw da, Ma Htu hpe lahpaw sa woi htat na...
phaŋ-ɕəni=gò=dà? mà-thù?=phé? ləphó sa woy thət=na...
 next-day=TOP=HS child-fourth.daughter=ACC banana.leaf go lead pick.up=IRR
 翌日はだそうだが、四女を連れて行ってバナナの葉⁶を拾う... (と姉たちは誘った。)
- (143) Shi gaw moi lahpaw grai htat wa jang re...
ɕi=gò mòy ləphó grày thət=wà=jaŋ rē...
 3sg=TOP before banana.leaf very pick.up=VEN=when COP
 彼女 (四女) は昔、バナナの葉をよく拾ってきたので...
- (144) Dai majaw “Lahpaw htat nna anhte lahpaw ni hpa ni lu jang gaw,”
day məjò “ləphó thət=ɲná ?ánthe ləphó=ni pha=ni lù=jaŋ=gò,
 that because banana.leaf pick.up=SEQ 1pl banana.leaf=PL what=PL get=when=TOP
 だから「バナナの葉を拾って私たちがバナナの葉やら何やらを手に入れたら」
- (145) “ndai kaw anhte pyaw poi galaw ga,” ngu nna,
“nday=kó? ?ánthe pyo-póy gəlo=gà?” ɲú=ɲná,
 this=LOC 1pl be.happy-festival do=HORT say=SEQ
 「ここで楽しい祭りを行いましょう」といって
- (146) lapu hpe mung tsun re nna, kanu hpe mung tsun re she,
lapu=phé?=mùŋ tsun ré=ɲná gənu=phé?=mùŋ tsun ré=ɕè?,
 snake=ACC=also say LV=SEQ mother=ACC=also say LV=then
 蛇にもいって、母にもいって
- (147) “Mai ai, mai ai,” ngu nna she woi sa mat wa ai da.
“may=?ay, may=?ay,” ɲú=ɲná=ɕè? woy sa=mət=wà=?ay=dà?
 be.OK=DECL be.OK=DECL say=SEQ=then lead go=COMPL=VEN=DECL=HS
 (蛇と母は)「よいです、よいです」といったので (姉たちは四女を) 連れて行ったそう。

⁶ 食べ物用の皿や包みとして使用する。

(148) Hto woi sa mat wa ai shaloi gaw

[thó woy sa=màt=wà=?ay] ɛəlóy=gò

up.there lead go=COMPL=VEN=NMLZ when=TOP

遠くに連れて行ったとき

(149) langa tawng gaw ntsa de bang da, lawu de gaw akrawk...

ləŋá-toŋ=gò n̄tsa=dè? baŋ=dá, ləwú?=dè?=gò ?əkrók...

wild.plantain-block=TOP above=ALL put=RES below=ALL=TOP form.round.hole

(姉たちは落とし穴を作るために) バナナの房は (地面の穴の開いているところの) 上に置いておいて, その下は穴が開いていた...

(150) Hku grai sung na she le hka de du mat wa ai baw.

[khu grày sùŋ=nná=ɛè? lé khà?=dè? dù=màt=wà=?ay] bò?.

hole very be.deep=SEQ=then down river=ALL arrive=COMPL=VEN=NMLZ kind

穴がとても深くて, (最終的には) 下が川までつながっているような種類 (の穴)。

(151) Ginlawng hku dai kaw she shan nau gaw hpang de re nna,

gìŋlɔŋ-khu day=kó?=ɛè? ɛán ?naw=gò phaŋ=dè? ré=nná,

cavity-khu that=LOC=then 3du sister=TOP after=ALL COP=SEQ

その (隠された) 空洞のところで 2 人の姉は (四女の) 後ろにいて

(152) Ma Htu hpe "Shawng u, shawng u, nang shawng u," ngu she,

mà-thù?=phé? "ɛoŋ=?ù?, ɛoŋ=?ù?, naŋ ɛoŋ=?ù?," ŋú=ɛè?,

child-fourth.daughter=ACC go.first=IMP go.first=IMP 2sg go.first=IMP say=then

四女に「先に行きなさい, 先に行きなさい, あなたは先に行きなさい」といって

(153) Ma Htu lapu na madu jan shawng, shawng, shawng yang gaw,

mà-thù?, ləpu=ná mədù?-jan ɛoŋ, ɛoŋ, ɛoŋ=yàŋ=gò,

child-fourth.daughter snake=GEN host-female go.first go.first go.first=when=TOP

四女, 蛇の嫁は先に行って, 先に行って, 先に行くと

(154) dai kanawn hku de di hkrat mat wa ai da.

day kənon-khu=dè? di? khràt=màt=wà=?ay=dà?.

that cavity-hole=ALL be.detached fall=COMPL=VEN=DECL=HS

その空洞に落ちてしまったそうだ。

(155) "Lawan hkye la rit law."

"ləwan khyé lá=rit=ló."

quickly save take=IMP=SFP

(四女が) 「早く助けてよ。」

- (156) “Lawan hkye la rit law,” ngu tim
“ləwan khyé lá=rít=lô,” ɲú=tím
 quickly save take=IMP=SFP say=but
 「早く助けてよ」といっても
- (157) shan nau gaw, “Ha! si sai, hpa n ra ai.”
ɕán ʔnaw=gò “hâ, si=s-ay, pha ní-râ=ʔay.”
 3du sister=TOP INTJ die=CSM-DECL what NEG-need=DECL
 2人の姉は「ああ、死んだ、何もいない。」
- (158) “An nau gaw ya ndai lapu kaw an nau mahtang wa ga.”
“ʔán ʔnaw=gò yáʔ nday læpu=kóʔ ʔán ʔnaw=məthàŋ wà=gàʔ.”
 1du sister=TOP now this snake=LOC 1du sister=CONTR marry=HORT
 「私たち2人はいまこの蛇のところに私たち2人が嫁に行きましょう。」
- (159) “Ya Ma Htu n nga sai,” ngu dai hku tsun ai da.
“yáʔ mà-thùʔ ní-ŋâ=s-ay,” ɲú day=khu tsun=ʔay=dàʔ.
 now child-fourth.daughter NEG-be=CSM-DECL QUOT that=like say=DECL=HS
 「いま四女はもういません」とそのようにいったそうだ。
- (160) Rai yang she, ndai lapu gaw
ráy=yàŋ=ɕèʔ, nday læpu=gò
 COP=when=then that snake=TOP
 そして、この蛇は
- (161) shana gaw masha tai, shani gaw lapu tai re she,
ɕənáʔ=gò məɕà tay, ɕəní=gò læpu tay ré=ɕèʔ,
 night=TOP person become day=TOP snake become LV=then
 夜に人になり、昼に蛇になって
- (162) shi gaw “Ma Htu hkrat sai.”
ɕi=gò “mà-thùʔ khràt=s-ay.”
 3sg=TOP child-fourth.daughter fall=CSM-DECL
 彼は「四女が(穴に)落ちてしまった。」
- (163) “Ma Htu n nga sai,” ngu jang
“mà-thùʔ ní-ŋâ=s-ay,” ɲú=jaŋ
 child-fourth.daughter NEG-be=CSM-DECL say=when
 「四女はもういない」といって

(164) shi gaw shanhte ga de dai hku wa she...

ɕi=gò ɕánthe gá=dè? day=khu wà=ɕè...

3sg=TOP 3pl land=ALL that=like return=then

彼は彼らの(住む)土地にそのように帰って...

(165) dai dumraw hku hte shanhte ga gaw matut da ai da.

day dùmro-khu=thè? ɕánthe gá=gò mətút=dá=?ay=dà?.

that cavity-hole=COM 3pl land=TOP be.connected=RES=DECL=HS

(実は) その(四女が落ちた)穴は彼ら(蛇)の国と繋がっていたそう。

(166) Matut ai hku re da.

[mətút=?ay] khu rê=dà?.

be.connect=NMLZ hole COP=HS

繋がっている穴だったそう。

(167) Dai hku re nna she, Ma Htu hpe sa hkye la nna,

day=khu ré=nná=ɕè? mà-thù?=phé? sa khyé lá=nná

that=like COP=SEQ=then child-fourth.daughter=ACC go save take=SEQ

そのようになっていて,(蛇は)四女のところに行って(穴から)助け出して

(168) Ma Htu hpe prat tup...

mà-thù?=phé? prát-túp...

child-fourth.daughte=ACC period-be.full

四女を生涯...

(169) Dai kanu hte mung n hkrum sa.

day gə̀nù=thè?=mùŋ ń-khrúm=s-á?.

that mother=COM=also NEG-meet=CSM-DECL

(彼らは)その母とももう会わなかった。

(170) Kana ni hte mung n hkrum sa.

gə̀na=ni=thè?=mùŋ ń-khrúm=s-á?.

sister=PL=COM=also NEG-meet=CSM-DECL

姉たちとももう会わなかった。

(171) prat tup dai lapu jan grai pyaw nna woi nga ai da.

prát-túp day læpu-jan grày pyo=nná woy=ŋà=?ay=dà?.

period-be.full that snake-wife very be.happy=SEQ lead=CONT=DECL=HS

生涯その蛇の嫁はたいへん幸せで(蛇は娘を)養ったそう。

(172) Maumwi dai kaw htum sai.

màwmù? day=kó? thùm=s-ay.

story that=LOC be.ended=CSM-DECL

お話はここでおしまい。

記号・略号

-	形態素境界	morpheme boundary	EXCL	感嘆法	exclamative
=	節語境界	clitic boundary	EXP	経験	experiential
[]	名詞節	nominalized clause	GEN	属格	genitive
1	1 人称	first person	HORT	勧誘法	hortative
2	2 人称	second person	HS	伝聞	hearsay
3	3 人称	third person	IMP	命令法	imperative
sg	単数	singular	INTJ	間投詞	interjection
ACC	対格	accusative	IRR	非現実	irrealis
ADV	副詞化	adverbializer	KIN	親族	kinship
ALL	向格	allative	LOC	場所格	locative
BEN	受益	benefactive	LV	軽動詞	light verb
CAUS	使役	causative	NEG	否定	negative
CLF	類別詞	classifier	NMLZ	名詞化辞	nominalizer
COM	共格	comitative	OPT	祈願法	optative
COMPL	完了	completive	PL	複数	plural
CON	動能	conative	Q	疑問	question
CONT	継続	continuous	QUOT	引用	quotative
CONTR	対比	contrastive	RED	重複	reduplicant
COP	コピュラ	copula verb	RES	結果相	resultative
COUP	対語	couplet	SEQ	継起	sequential
CSM	変化相	change-of-state	SFP	文末助詞	sentence-final particle
DECL	叙述法	declarative	SIM	同時	simultaneous
DESID	願望	desiderative	TOP	主題	topic
DIM	指小辞	diminutive	VEN	来辞	venitive

参考文献

稲田浩二編 (1988) 『日本昔話通観 第 28 卷：日本昔話タイプ・インデックス』 京都：同朋舎出版.

- 稲田浩二編 (1993) 『日本昔話通観 研究篇 1』 京都：同朋舎出版.
- 稲田浩二編 (1998) 『日本昔話通観 研究篇 2』 京都：同朋舎出版.
- 稲田浩二編 (2004) 『世界昔話ハンドブック』 東京：三省堂.
- 稲田浩二・稲田和子編 (2010) 『新版日本昔話ハンドブック』 東京：三省堂.
- 鵜野祐介編 (2016) 『日中韓の昔話：共通話型三〇選』 神奈川：みやび出版.
- Eberhard, Wolfram (1937) *Typen Chinesischer Volksmärchen*. Helsinki: Academia Scientiarum Fennica.
- 郭富光 (1993) 「異類婚姻譚の中日比較：中国遼寧省の伝承をめぐって」『論究日本文学』 59: 13-23.
- 金栄華 (2007) 『民間故事類型索引』 台北：中国口伝文学学会.
- Kurabe, Keita (2013) Kachin folktales told in Jinghpaw. Collection KK1 at catalog.paradisec.org.au [Open Access]. <https://dx.doi.org/10.4225/72/59888e8ab2122>
- Kurabe, Keita (2017) Kachin culture and history told in Jinghpaw. Collection KK2 at catalog.paradisec.org.au [Open Access]. <https://dx.doi.org/10.26278/5fa1707c5e77c>
- 倉部慶太 (2020) 『ジンポー語読本』 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 崔仁鶴 (1976) 『韓国昔話の研究：その理論とタイプインデックス』 東京：弘文堂.
- 崔仁鶴・巖鎔姫編 (2013) 『韓国昔話集成 第2巻』 東京：悠書館.
- 志村三喜 (1983) 「イ族の伝承文芸」 飯倉照平 (編) 『雲南の民族文化』 東京：研文出版.
- 関敬吾 (1978-80) 『日本昔話大成 第2巻』 東京：角川書店.
- 丁乃通 (1986) 『中国民間故事類型索引』 北京：中国民間文芸出版社.
- 野村純一 (1994) 「蛇婿入り」『日本大百科全書 第21巻』 東京：小学館.
- 楊静芳 (2014) 「中日昔話における蛇婿の比較：「蛇婿と姉妹型」を中心に」『口承文芸研究』 37: 65-87.

受理日 2021 年 4 月 13 日

明治期の八重山語の語彙資料『海南諸島單語篇』*

セリック・ケナン

国立国語研究所・kcelik@ninjal.ac.jp

麻生玲子

名桜大学・r.aso@meio-u.ac.jp

中澤光平

東京大学・kohein@l.u-tokyo.ac.jp

キーワード：八重山語、語彙資料、明治時代、田代安定

本稿では、明治期の八重山語（石垣島方言）の語彙資料の手書き原稿の翻刻を提示する。『海南諸島單語篇』（副題『沖縄懸下八重山島單語』）と題する本資料は植物学者の田代安定が1880年代に実施した実地調査に基づいて作成したもので、現在、東京大学理学図書館で保管されている。この資料は収録語数が800語を超えており、また、表記が八重山語の重要な音韻的対立を反映している。このように、八重山語の纏まった正確な語彙資料として最古のものであると考えられる。このため、八重山語の研究および研究史にとって極めて重要な価値がある。

1 はじめに

先島諸島で話される南琉球諸語は書き言葉を持たず、それを書き留めた歴史的な文献がほとんど存在しない。そのため、南琉球諸語の古い時代の言語状態を知る際は、比較言語学・歴史言語学の手法によって導き出される推定に頼らざるを得ないが、比較方法を用いて過去に起こったであろう言語変化を特定できても、これらの変化が生起した絶対的な年代付けは困難である。八重山語諸方言のまとまった（相対的に）古い文献としては、1930年に出た『八重山語彙』（宮良 1930）が琉球諸語の記述研究の分野ではよく知られているものの、この文献で伺い知ることができるのは、せいぜい数代前の八重山語の姿である¹。

先島諸語に関するより古い文献を調べると、宮古語の親族語彙を報告する論文（田代 1888）や、八重山語と日本語が同系統であることを論じる論文（田代 1894）が出てくる。この2本の論文の著者は田代安定という植物学者で、1880年代（明治10年代）に数回に渡って八重山の現地調査を行った人物である（齊藤 2006, 中生 2011）。調査内容は言語に限らないが、1894年の論文では八重山の言語について「20冊余り」の報告書を東京大学に提出していることを明記している。そして、この報告書は現存しており、先行研究では保管場所の情報と共に明確に言

* 本研究は MEXT 科研費 19H05353、JSPS 科研費 19K13174 の助成を受けたものです。本稿の執筆にあたり、古本氏から有益なコメントを多くいただきました。感謝を申し上げます。

¹ 現在、八重山諸方言を流暢に話せるのはおよそ1920年代から1930年代までに生まれた世代なので、現在研究されている八重山語は言語習得がおよそ1950年代までに完了した話者の言葉である。

及されている (三木 1980, 齊藤 2006)。しかし驚くことに、琉球諸語の研究分野ではこれまで全く知られてこなかった。

『海南諸島單語篇』と題する本報告書は、1880 年代の八重山語の語彙資料である。約 800 語を収録し、音韻的対立を正確に反映しているという点で量的にも質的にも優れている。さらに、八重山語の詳細かつ正確な語彙資料としておそらく最古のものであると考えられる。どのような話者を調査したか記録からは読み取れないが、明治期以前に言語習得した話者の言語状態が記されている可能性があり、このため、極めて貴重な資料であると言える。1 点しか存在せず、20 世紀以降、現在までの琉球諸語に関する先行研究で言及されてこなかったことから、今後の琉球諸語研究に資する資料として本稿では『海南諸島單語篇』に関する簡単な解説を述べた後、翻刻を提示する。

2 田代安定と八重山の調査

本節では田代安定 (タシロ アンテイ/ヤササダ、1857 - 1928) の生涯と彼の八重山調査履歴について、三木 (1980)、齊藤 (2006)、中生 (2011)、國吉 (2012)、名越 (2017) を参考に簡単に紹介する。

2.1 田代安定 (年表)

- 1857 (安政 4) 年：現在の鹿児島県鹿児島市加治屋町に生まれる。
- 1869 (明治 2) 年：フランス語学者の柴田圭三に師事。
- 1872 (明治 5) 年：薩摩藩の藩校の造士館に入学、フランス語の助教も兼ねる。
- 1874 (明治 7) 年：上京し、田中芳男のもとで植物学を学ぶ。その翌年から当時の内務省管轄の博物館掛として勤務。
- 1881 (明治 14) 年：奄美大島と沖縄諸島での植物調査を農商務省から依頼される。
- 1885 (明治 18) 年：八重山の長期的調査が始まる。
- 1886 (明治 19) 年：12 月より八重山の再度の長期的調査が始まる。
- 1888 (明治 21) 年：帝国大学に『海南諸島調査書』の報告書を提出。
- 1895 (明治 28) 年：台湾での仕事を命ぜられる (1924 年まで続く)。
- 1928 (昭和 3) 年：71 歳で逝去。

2.2 田代安定の沖縄及び八重山調査

田代安定の沖縄および八重山の調査の概要を簡単に述べる。田代は、農商務省の依頼により、1881 (明治 14) 年に奄美大島、1882 (明治 15) 年に沖縄で調査を行った。1882 年の調査の際には八重山まで足を延ばしたようであるが、八重山の詳細な調査につながった直接的な出来事は 1884 (明治 17) 年のことである。ロシアのペテルブルグで開催された園芸博覧会に参加した帰り、ヨーロッパを走るの汽車の中で「フランスが先島諸島を領土とする予定である」という話を乗客から聞いたことによる。この話に危機感を覚えた田代は、帰国直後に先島の海防に関する建議書を提出した。これによって、翌年から 1 年半の八重山での (基礎) 調査を命じられ、

1885 (明治 18) 年 7 月から翌年の 5 月まで八重山に滞在し八重山諸島に関する調査を行った。調査は多岐にわたり、各島実地測量をはじめ、炭脈調査、戸籍調査、地理調査、山林調査、貢租制度調査、村吏旧慣制度調査、旧慣諸例規調査、諸風俗習慣調査、史跡上の諸考証探査、業務上に於ける諸調査、物産調査、農業調査、マラリアに関する調査を実施・報告し、さらに植民開拓上に於ける目途予定、将来殖産興業上に関する目途についても報告している。

その後、1886 (明治 19) 年 12 月から翌年の 12 月まで今度は人類学と植物調査の依頼を受け、帝国大学の調査員として再度八重山に渡航し調査を行い、後に報告書を帝国大学に提出している。この報告書は『海南諸島調査書』と称しており、様々な内容を扱う複数の原稿からなっている。その中で『海南諸島單語篇』(副題は『沖繩懸下八重山島單語』)という題で八重山語の語彙集を収めた成果が含まれている。この語彙集自体には日付の記載が見られないが、田代は報告書の目録を東京帝国大学の総長に 1888 (明治 21) 年の 7 月に渡していることが分かっている(三木 1980:110) ので、1888 年のものであることが分かる(なお、同『海南諸島調査書』の『沖繩縣取調附圖』には「明治廿一年七月一日」の記載がある)。

その後、田代は八重山の言語と宗教を扱った論文を『東京人類學會雜誌』で発表しており、その中で八重山の言語について 20 冊もの報告書を提出していることを明記している²。それにも拘らず、管見の限り、本資料は後の琉球諸語の研究分野で一度も取り上げられたことがない。例えば、琉球諸語に関する研究の文献リストを網羅的に集めた平山 (1983) では『東京人類學會雜誌』で発表された田代の一連の論文は列挙されているものの、『海南諸島單語篇』はリストから外れている。

3 『海南諸島單語篇』の語彙資料

3.1 資料概要

『海南諸島單語篇』は縦 25 cm の 1 冊の和綴じ本の形態を取っており、表紙を含めておよそ 100 頁から成る。縦書きの手書き原稿である。下の図 1 と図 2 で確認できるように、原稿の大部分がインクで書かれているが、鉛筆による修正や追加が処々に見られる。

² 「言語ノコハ予か編纂スル所ノ書類二十餘冊帝國大學人類學教室ニ藏メアレバ」(田代 1894:230)。

内地語	先祖	家族	親類	近親	遠房	嫡宗	次門	血統	苗裔
Japan 日本									
ハ重山島語	グワンソン	カゾク	スニルイ <small>一名</small> ウヤク	ツカウヤク	トウウヤク	チヤツケ	ズナンキ	ツースバ	シソン
Yayamanajima I.	Sinran.	Kazoku.	Sunruia uyaku	Tsuka-uyaku.	Tou-uyaku.	Chachake.	Numanki.	Jausuru.	Sison

図1 ローマ字入り頁例

津路	浮礁	暗礁	礁	海程	水路	津渡	海峡	海門	港畧	湾
津路	浮礁 海と頭 出たモ	暗礁 海中隠 ルモノ	礁	海程 舟が航海中 海を云	水路 舟が海を 行路線	津渡	海峡	海門	港畧	湾
フ カ ー ヲ	フ チ バ タ 又 ア タ ク イ ソ	ヨ ー ネ	イ ゲ ー ル ポ ー 無 し	ピ シ ス ク イ シ	ピ シ ス ク イ シ	フ ナ ミ ツ イ	ワ タ ニ ヂ ヤ ー	ミ ナ ト フ ツ ウ	ミ ナ ト	コ グ ミ ミ ナ ト

図2 鉛筆訂正入り頁例

各頁は横線によって縦4段に分かれている。それぞれの段には上から順に「内地語」「Japanese L.」「八重山島語」「Yaeyamajima L.」の名称が与えられている(図1)。最上段に日本語の項目が記され、3段目にはその項目に対する八重山語の片仮名表記が記されている。日本語の項目には2種類あり、すなわち、行頭から始まる本項目と、それに関連する、1字下げた下位項目が区別されている。所によっては、最下段に八重山語のローマ字表記も記入されている。2段目は原稿全体に渡って空となっているが、段の名称から日本語の項目のローマ字表記を入れる予定があったと推測される。それに加えて、幾つかの項目に対して簡潔な備考が記されている。語彙は品詞と意味分類によって整理されている。使用されている分類範疇を(1)に示す。

(1) 分類範疇(出現順番)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
a.	実名詞	第二門天地部	第一類天文	其一
b.				其二歳時
c.			第二類地理	其三海陸
d.				其三居處
e.	実名詞	第一門人倫部	第一類家倫	其一家族
f.			第二類	其一人品の上
g.	形容詞	普通形容詞	雑部	

調査の概要や話者の情報が記されていないので、田代がどの方言を書き記したのかが分からない(または複数の方言を報告している可能性も考えられる)。しかし、本資料で記されている語形は石垣島で話されている現在の方言とよく一致している。図3に「虹」と「男」の例を挙げる(紺碧色のラベルは本資料と完全一致する語形である)³。そのため、本資料で収録されている方言は石垣島の方言であると推測できる。田代自身は「八重山語」すなわち「八重山諸島で話される言葉」ではなく、「八重山島語」すなわち「八重山島、すなわち石垣島で話される言葉」と記入していることもこの推測を支持する。そして、石垣島の方言であるとする、権威が最も高く、島の中心部で話される方言が記述の対象となったと考えられるので、本資料で収められている方言は石垣^{しか}四箇方言であると推測される。

最後に、資料の量について簡単に述べておく。『海南諸島單語篇』では合計819点の日本語の項目に対して、829点の八重山語の語形が収録されている(1つの項目に対して複数の語形が収録されていることや、八重山語の語形が記されていない項目も存在する)。語数としては纏まっている資料だと言えるが、(後の震災の影響などで)元の報告書の大部分が散逸・消失している可能性が高い。なぜなら、2.2節で触れたように、田代は八重山語の報告書を「20冊余り」も提出したと明記しているほか、彼が提出した目録の中に「海南諸島單語篇(十一冊内訳は宮古、八

³ 語彙データは戦前編集された『八重山語彙』(宮良 1930)による。それに加えて、石垣(2013)、セリック・ケナンほか(2021)、西岡(2000)、加治工(2020)、仲原(2004)、加治工(1998)、前大(2002)、中川・セリック(2020)、与那国方言辞典編集委員会(2019)とLAJ136・LAJ259のデータも使用した。語形をIPA表記で統一した。



図3 八重山諸方言における「虹」と「男」

重山、沖縄、奄美の各人倫身体部名詞および天地歳時部名詞などである」とされているからである(三木 1980:110)⁴。論文の中で「20冊余り」としているのは『海南諸島調査書』全体の冊数を指していると思われるが、目録からすると東京大学で保管されている資料は『海南諸島單語篇』の一部でしかないことが明らかである。第一に、奄美、沖縄、宮古に関する語彙が全く見られない。第二に、身体に関する語彙がない。第三に、分類の番号を追ってみると明らかに欠けている分類範疇がある。例えば、「第二類地理」はいきなり「其三海陸」から始まっており、また、その次の分類は同じ番号の「其三居處」となっている。「其三居處」はおそらく、異なる類または門の分類であると考えられるが、その分類が見当たらない。このように、東京大学に提出された報告書の一部が散逸または消失していると考えざるをえない。東京大学の資料は複数の冊子を1冊に纏めたものであろうが、提出された冊子がそれぞれ20頁であったと低く見積もっても、語彙に関する元の報告書は220頁にも及んでいたことになる。つまり、現在東京大学で保管されている資料は元の報告書の2分の1以下に過ぎない可能性がある。報告書の一部しか伝わっていない原因については関東大震災などが挙げられる。

3.2 資料の表記について

『海南諸島單語篇』の詳細な分析は別稿に譲るが、本資料の解読を助けるため、使用される表記の主な特徴について簡単に述べる。

現在の石垣方言は a, i, u, e, o, i, ə の7つの母音を有している(宮城 2003)⁵。a, i, u, e, o は日本語の a, i, u, e, o とおおよそ同じであり、[tu]・[ti]などの音節を除いてこれらの母音を片仮名で書き表すには別段問題がない。しかし、それに対して、i は日本語にない母音であるため、それに対応する片仮名がなく、そのまま書き表すことができない⁶。表1に示すように、田代はこの i の母音に対して様々な工夫をしてそれを正確に書き表そうとしている。なお、i が含まれる音節に対して「ズ」を添えることがあるが、これは摩擦音を伴う音声的な実現(すなわち「プズィ」[p^hi]・「グィズ」[g^hi])を表そうとしているためであると考えられる。

続いて、/ri/の音節に対して「ルゝ」の表記が見られるが、これはラ行の震え音としての音声的な実現を表していると思われる(2)。平山(1988:694-695)で指摘されているように、現代の石垣方言でも/ri/の音節は子音が強い顫動を伴う発音がよく観察されており、田代の観察と全く一致している。震え音がきちんと記されていることは田代安定の観察の鋭さを物語っている。

- (2) a. モルゝ [muri] 「岡」
b. アールゝ [a:ri] 「東」

最後に、多くの項目の書き起こしの中に「ゝ」という記号が使われている。(3)で分かるように、この記号は形態素や文節の境界を示していると思われる(例では対応する現代石垣方言の語形

⁴ 八重山だけではなく、奄美、沖縄と宮古の語彙も収録されていたとすれば、報告書の題名に選択された「海南諸島」の用語も納得がいく。ちなみに、他のテーマに関する報告書も宮古、沖縄なども扱っている。

⁵ 本稿では宮城(2003)の表記法に従うが、i と ə の代わりに i と ə を使用する。なお、音韻表記を / / で示す。

⁶ ë は i 終わりの語の主題形にしか現れないため、ここでは問題にならない。

表1 『海南諸島単語篇』における i の表記

音節	表記	表記例	現代石垣方言 (音韻表記)	
/pi/	プイ	プイーゴト	/pi:gutu/	「火事」
	ピイ	ピイト	/pitu/	「人」
	プズイ	プズイ	/pi:/	「火」
/mi/	ムイ	ウムイ	/umi/	「海」
/tsi/	ツイ	マツイヤマ	/matsijama/	「松林」
/dzi/	ズイ	パナレズイマ	/panarisima/	「離島」
/si/	スイ	ニスイ	/nisi/	「北」
/ri/	リイ	ピイトリイモノ	/piturimunu/	「一人者」
/ki/	クイ	テンウクイ	/tinki/	「天気」
	クイウ	ツクイウ	/tsiki/	「月」
	クウイ	バガ、ツクウイ	/bagatsiki/	「新月」
/gi/	グイ	ホーグイボス	/po:gibusi/	「箒星」
	グイズ	モーグイズ	/mo:gi/	「虹」

を示している)。つまり、田代は単に語形を調査しただけではなく、形態的な分析まで行っていたことが窺える。

- (3) a. ガスイ、ドシ /gasidusi/ 「凶年」 < /gasi/ 「餓死」 + /tusi/ 「年」
 b. スサ、ナム /sisanan/ 「白波」 < /sisa/ 「白い」 + /nan/ 「波」
 c. ボドドイノ、ストモデ /bududuinu situmudi/ 「一昨日の朝」

3.3 翻刻凡例

翻刻の基本的な方針は次の通りである。

- 原本の順番通りに翻刻を行った。
- インクで書かれたものは黒で記し、鉛筆で書かれたものを灰色で記した。
- 訂正箇所、すなわち削られた箇所を打消し線（「~~ツクイ~~」）で示した。
- 本項目は行頭から掲載し、下位項目は1文字下げて掲載した。
- 備考は [] に入れて示した。
- 判読できなかった文字を □ の記号で示した。
- 片仮名表記に関して、当時の日本語の表記法に則って拗音（「キャ」「チャ」の「ャ」等）または補助文字（/ki/ を表す「くいズ」の「いズ」等）が大きく書かれることがある。本原稿では、周辺の文字の大きさと比較して、できる限り原稿の大きさに従って翻刻を行った。
- 原文の明らかな誤字で、翻刻の間違いでない箇所を [sic] で示した。

3.4 翻刻

(表紙)

八重山列島天地歳時部名詞

海南諸島單語篇

(次次ページ)

實名詞部天地門

沖縄懸下八重山島言語篇

(次次ページ)

沖縄懸下八重山島言語篇

田代安定 編集

實名詞

第二門 天地部

第一類 天文

其一

内地語

八重山島語

天

テン

天氣

テンウクイ

晴天

イー、テンウクイ 又

セー、テン

曇天

フマイル、テンウクイ

雨天

アマ、テンウクイ 又

ウッテン

日即チ太陽

テダ

アサヒ
旭日

アサア、テダ

ユウヒ
落日

イル、テダ

ヒノヒカリ
日光

テダノピカル

ヒカゲ
日影

テダノカイ

月即チ太陰

ツクイウ 又

テダノサナ

新月

ミカ、ヅクウイ

	バガ、ツクウイ
半月	ファン、ツイクイ
望月	マル、ツイクイ
月光	ツクイノ、ピカル
月影	ツクイノ、カイ
日暈	ツタオテダノ、サナ
月暈	ツクイノサナ
日蝕	テダノヤホ [日ノ(災難)ノ義]
月蝕	ツクイノヤホ [月ノ災難ノ義]
星 ^{ホシ}	プスイ
彗星 ^{ホ、キボシ}	ホーグイボス
銀河 ^{アマノガハラ}	ツィンカーラ
雲	ホモ
霧 ^{キリ}	クイリユ
霞 ^{カスミ}	クイリユ
ユウヤケ	ユーネンヤクイ
アサヤケ	アサヤクイ
雷	カンナル
電	プリー
虹 ^{ニジ}	モーグイズ
雨	アミ
梅雨 ^{ツユ}	ナガアミ
霪雨 ^{ナガアメ}	ナガアミ
細雨	
大雨	ウプ、アミ
驟雨 ^{ニワカアメ}	アタアミ 又 ニワカノアミ
風	カズイ
順風	ジユンプー
逆風	ムカウ、カズイ
涼風	スダ、カズイ
寒風	ピーサ、カズイ
暴風	アラ、カズイ
大風	タイフー
四飊 ^{ツジカゼ}	イノー、カズイ
東風	アール、カズイ
西風	イール、カズイ

南風	パイ、カズィ
北風	ニスィ、カズィ
煙	キムブル、
露	チュー
霧	ユクィ [雪ノ義]
霜	[(此語無シ)]
雪	[(同前)]
氷	[(同前)]
影 即ち物影	カイ
暗	フファサ
明	アカル
方位	ホーガク
四方	シポー
東	アール、
西	イール、
南	パイ
北	ニスィ
乾	カ—ラダイン井
長	ウシトラ
巽	タツミ
坤	ピツシサル

其二 歳時

内地語	八重山島語
季候	パダモツ
寒	ピーシャ
暑	アツア
温	ニフサ
涼	スダスサ
乾	カーラグ
湿	シスメル、
四節	シ、ツ
春	ファル
夏	ナツ
秋	アクィ
冬	フユ

正月	シヨングワツ
二月	ニングワツ
三月	サングワツ
四月	シングワツ
五月	ゴングワツ
六月	ロクングワツ
七月	シツングワツ
八月	ハツングワツ
九月	クングワツ
十月	ジユングワツ
十一月	ジユー、イチン、グワツ
十二月	ジユーニン、グワツ
潤月	ウルツクヒ 又 ヨル、ツクヒ
月初 <small>即ち上旬</small>	ツクィ、ファジメ
月半 <small>即ち中旬</small>	ツクィ、ナカ
月末 [sic] <small>即ち下旬</small>	ツクィ、スィー
去月	イクダ、ツクィ
来月	タ、ツクィ
毎月	マイ、ツクィ
隔月	ツクィ、ヘダテ
今月	コン、ツクィ
年	トス
終歳 <small>即ち一年中</small>	ネンチユー
毎年	マイトスィ 又 トシドシ
隔年	ピトトスィゴシ 又 イチニンゴシ
今年	コトス
昨年	コズウ
一昨年	ミーテナテ
一作々年	ヨーテナテ
來年	エーン
來々年	(前) ^三 年 メー、サン子ン
先年	セシン子ン [土族]
往昔	ムカシ
太古	ヲホムカシ又ムカシ

豊年	ヨガホードシ
凶年	ガスィ、ドシ
日	ピー
今日	キウ
昨日	キヌー
一昨日	ボドドイ
<small>サキヲト</small> 大前日	ヨーカナテ
明日	ヨノーヒアツツア
明後日	アスト
明後々日	メー、ヨーカ
先日	コノーレ
毎日	マイ、ニツイ
隔日	ピトィゴス
終日	イツィ、ニチ
半日	パンニツイ
翌日	アツツア
翌々日	アサツテ
長日	ナーサールピニツイ
短日	インツカサールピニツイ
吉日	イーピニツイ
凶日	ヤナピニツイ
朔日	ツイタツイ
晦日	サーンジユーニツ
元日	グワンニツ
除日	トスイノピー 又 トスイノユー
祭日	マツル、ビー
日数	ピィカズィ
朝	ストモデ
早朝	ストモデ
<small>アカツキ</small> 暁天	アカツク
日出時	テダノアガロール、トクィ
今朝	キウストモデ
明朝	アッチヤノストモデ
明後朝	アストノストモデ
昨朝	クィノ、ストモデ
一昨朝	ボドドイノ、ストモデ

毎朝	ストメテゴト 又 マイアサ
隔朝	
<small>ヒル</small> 昼	ピヂール
昼間	ピーヨ マ ルー ⁷
上午即チ十一時	ヨツスン ⁸
正午即チ十二時	コ、ノツ、ジブン
下午即チ一時	ピローマ
<small>ヒルジブン</small> 午際	ピローマズィブン
<small>ヒルノヤツ</small> 日 昃 即チ十二時	ヤツジブン
<small>ナハツキ</small> 中 晡 即チ三時	ナ、ヅィジブン
黄昏	ヨ子 ン
日没時	ピニツィノイルジブン
薄暮 [sic]	ヨーイルジブン
夕	ユニ子 ン
今夕	キウノ、ユニ ン
昨夕	アツア、ユニ ン
一昨夕	アストノ、ユニ ン
明夕	アツアーノヨー
明後夕	アストノ、ヨー
夜	ヨール
夜半即チ深夜	ヤファン 又 ヨナカ
終夜	ヨーヂユー
今夜	キユーノヨー 又 ニッカ
昨夜	ユベ ー
一昨夜	キヌノヨー
明夜	アツアノヨー
明後夜	アストノ、ヨー
翌晩	ナーアツアノ、ヨル
翌々晩	ナーアストノヨー
毎夜	マイヨル
隔夜	ピトヨーゴス

⁷ 「ルー」は「ル、」にも見える。

⁸ 次の項目からすると、「ヨツジブン」の誤りと思われる。

夜間	ヨーヂユー	
暗夜	ヤミノヨー	
明夜	アツアノヨー	
時	トクィ	
一時間	ピトトクィ	
半時	パントクヒ	
小半時		
暫時	イットクィ 又 アターサマ	
先刻	クィサ	
只今	タバイマ 又 ナマ	
<small>ノチホド</small> 後刻	アトカラ	
<small>マツケ</small> 刻下	ヤガテ	
一日	ツイタチ	
二日	フツカ	
三日	ヲメツカ	mekka
四日	ヨツカ	
五日	イツカ	
六日	ムイカ	
七日	ナンカ	
八日	ヤウカ	
九日	コ、ノカ	
十日	トウカ	
十一日	ジウイツィ 又 トッカピトイ [下等]	
十二日	シウネニ 又 トツカフツカ	
十三日	シウサン 又 トッカミズカ	
十四日	シウシ 又 トッカヨーカ	
十五日	シウンゴニツイ 又 トカイツカ	
十六日	日日シウロクニ 又 トッカムイカ	
十七日	シウシチニツイ 又	

	トッカナンカ
十八日	シウパチニツイ 又 トッカヤウカ
十九日	トッカコ、ノカ 又 シウクニツイ
廿日	パツカ
廿一日	ニシウイツィ 又 パツカピトイ
廿二日	同 又 パツカフツカ
廿三日	同 又 パツカムイカ
廿四日	同 パツカヨーカ
廿五日	ニシウゴニツイ 同
廿六日	ニシウロク 同
廿七日	同 同
廿八日	同 同
廿九日	同 同
卅日	サンシウニツイ
卅一日	サンシウイチニツイ
四十日	同 又 スンジウニツイ
五十日	同 又 ゴンシウニツイ
六十日	同
七十日	
八十日	
九十日	同 又 クンジウニツイ
百日	ヒャクニツイ 又 ピャークニツイ

百一日	又 ピャークヒトイ	
百二日		
貳百日		
三百日		
甲乙	クウークウー キイ 、キイ	Kwū Kwū
丙丁		piwū piwu
戊巳	ツチツチ	tutwu tutwu
庚辛	カ子カ子	Kane Kane
壬癸	ミヅィミヅィ	Midsu Midsu
子	子ー	gni gni
丑	ウシ	wusu
寅	トラ	tora
卯		wū
辰	ツィタツ	tatu
巳	ヲツカ	Mivvu
午	ミズカ	nma
未	ヨ一カ	pitsu
申	イツカ	sarru
酉	ムイカ	torru
戌	ナヌカ	yin
亥	ヤウカ	bizuu

第二類 地理

其三 海陸

内地語	八重山島語
地	ヅィー
陸	リク 又 アゲ
世界	シカイ
天下	テンガスィタ
國	クニ
島	スイマ
巨島	ヲフズィマ
小島	ゴマスイマ

洲嶼	パナレズィマ
海	ウムィ 又
沖	ヲホウムィ ヲキ 又 ヲキヅィ
内海	ウツウウムィ
大洋	ダイカイ 又 ヲホウムィ
海面	ウムィノ、ウイ
海底	ウムィノ、スク
浅海	アサ、ウムィ
深海	フカ、ウムィ
泥海	ドル、ウムィ
砂海	イノーウムィ 又 スナウムィ
江	[無し]
湾	ヨダニ ミナト
港	ミナト
海門	ミナトフツウ ⁹
海峡	ミジヨ [(溝ノ義)]
津渡	ワタンヂヤー
<small>フナミチ</small> 水路即ち舟ノ通行スル路線	フナミツイ
<small>カイシ</small> 海程即ち航海中ノ海上ヲ云	
礁	ピシ
<small>カクレセ</small> 暗礁海中ニ隠ル、モノ	ゼシ スイイシ
浮礁海上ニ顕出スルモノ	イテールピ ー 無シ
洲渾	ヨーネニー
<small>フチ</small> 淵	ヲッチョバタ 又 アタクォ サフカーラ
海岸	ウミノパタ
磯碕	
海濱	パマ
砂濱	
洲嘴	ヨー子ノサクィ
汀瀉	ガタバル
海潮	
満潮	ンチスー

⁹ 「港口」。

退潮 <small>オホシホ</small>	ピシスー
大汎 <small>コシホ</small>	ソーツプソー
小汎 <small>シホドキ</small>	ナマレソー
潮候	スードクィ
波濤 <small>ナミ</small>	ナムィ
平波	トレウムイ 又
	ナダカウムィ
微波	ゴマナミ
風波	アラナミ
狂浪	ヲホナミ
逆浪	ゴボレナムィ
白浪	スサ、ナム
飛瀾	ナムィノパナ
波響	ナムィノヲト
海嘯 <small>ツナミ</small>	
水	ミヅウ
清水	カイシヤルミヅ 又
	アマミヅ
濁水	ニゴリミヅ
泥水	ドルミヅ
鹹水	ソーミヅ
冷水	ピー、ミツ
流水	
渚水 <small>タマリミヅ</small>	タマルミズィ
泉源	モト
川口	カワラノフチ
川	カーラ
砂川	イノーガーラ
泥川	ドルガーラ
溪川	イザーカーラ
溝渠 <small>ミソ</small>	
沼澤	
瀑布	サーラ、ミズィ
池	
堤塘	
井 即チ井水	カー
深井	フカ、カー

浅井	
清水井	アマミツ、カー
鹹井	ソーミツ、カー
涸井	ウリ、カー
廃井	ステ、カー
涸井	ピス、カー
洞孔地底ニ深く凹陷スルモノ	イザー
岩窟地上ニアル洞窟ヲ云	ガマ
山	ヤマ
深山	フカヤマ
大山	ウホ、ヤマ
小山	コヤマ 又 ハヤマ
岩山	イシヤマ
高山	タカヤマ
峯嶽	
山巔	ツツ
山麓	サンノシタ
山腹	サンノナカバ
森	ヤマ [海南諸島森林共ニ「ヤマ」(山)ト總稱シ別ニ山森林ノ三物 ヲ區別スルノ語ヲ用ヒス故ニ「ヤマ」と云フトキハ専ラ林ニ當ル]
林即山林	ヤマ
雑木林	ゾーキヤマ
松林	マツィヤマ
竹林	タケヤマ
仕立林	シタテヤマ
村林	ムラヤマ
岡陵即チ阜丘ヲ總テ云フ	モル、
高陵	タカモル
草丘	
石岡	
原野	ノバル
平原	ピスノー
曠原即廣野	ピロバル
砂原	イノーノー
荒蕪	アラノー
土地	ヂー

平地	ピスイチ
高地	タカツィ
低地	ヒクヂー
湿地	シタルヂー
乾地	カーラヂー
砂地	イノーヂー
泥地	ドルヅィ
石地	イシヤラヅィ
^{コヘチ} 肥壤	
瘠地	パグィヂー
土	ツソ 又 ンタ
壤土	サパ、ンタ
粘土	モツィ、ンタ 又イーンタ
肥土	
瘠土	ヤナ、ンタ
砂	イノー、ンタ
^{サカ} 坂	サカ 又 フィラ
^{タカキサカ} 高坂	タカフィラ
^{ケワシイサカ} 險坂	サカフィラ
^{トウゲ} 嶺	
谿谷	ヤマノフタナカ
^{ハシ} 砦橋	パシ
^{ホリ} 塹濠	
道路	
大道	
小逕	
山路	
坦道	
險道	
田地 即水田	
肥田	
瘠田	
^{アゼ} 阡陌	
塩田	
^{ハタケ} 隴圃	

薯圃

菜圃

粟圃

麥圃

廃圃

ウチバタケ
宅園

牧場

マキ

火

プズィ

炭火

タン

燃火

モエビ

憐火

マヅ¹⁰ムノ、プイ キジモナービウキィナ

火事

プィーゴト

灰

パイ

木灰

タン

石灰

ウールノパイ

煤

ス、

炭

タン

木炭

石炭

イシタン

塵芥

フク日イ [(ホコリノㇿ也)]

其三 居處

内地語

八重山語

城

グスク

城跡

グスクアト

城壁

トヲ^ミ
噺¹¹

ヤクシヨ
公署

ヨクラ
厩倉

村役所

バンシヨ

訟嶽

コヰメ

セイサツ
榜札

パイフダ (張札ノ義[sic])

寺

テラ

¹⁰ 「ヅ」のようにも見える。

¹¹ 第一字の字体が少し異なるが、入力可能な文字に置き換えた。

祠堂	
拜殿	
神祠	
ヤシキ 第宅	
別荘	パタケヤー
假宅	ヤ ー バイ
本宅	
家屋	ヤー
大厦	
小屋	
美屋	
陋屋	
瓦屋	カーラヤー
茆屋	ガヤブキ 又 ガヤヤー
倉庫	
本房	
厨房	
正房	
便房	
ネヤ 子舎	
ヲシイレ 窩裡	
ベツヤ 子亭	

(表紙)

八重山列島人倫身體部名詞
海南諸島單語篇

(次次ページ)

實名詞 人倫部

沖縄懸下八重山島言語篇

(次次ページ)

沖縄懸下八重山島言語篇

田代安定 編輯

實名詞

第一門 人倫部

第一類 家倫

其一 家族

内地語 Japanese

ヒト

人

ヲトコ

男

ヲメ

女

ヲヤ

親

リョウシン

両親

マ、ヲヤ

繼親

シニタルヲヤ

亡親

チ、

父

ヤウフ

養親

マ、チ、

繼父即子母ノ入夫

ヲヤブン

義父

ハ、

母

八重山島語

ピイト¹²

ビギドン

ミードン

ウヤ

フタウヤ

マ、ヲヤ

スنداウヤ

シウー

ヤスナイビギケエー

マ、ビギケエー

アッパ

[一名] ブネー

Yaeyamajima L.

Pito.

Bigidon

Midon

Uya

Futa-uya.

Mama-oya.

Sunda-oya.

Shiū.

Yasunai-bikē.

Mama-bikē.

Appa.

¹² 現代石垣方言は/pitu/。「ピィ」は pi の音節を表していると推測されるが、適切な記号がなかったからか、ローマ字の表記は pi のままである。

ヤウボ 養母	ヤスナイブネー	Yasunai-bunē.
マ、ハ、 継母	マ、ブネー	Mama-bunē.
コ 子	ク	Ku.
實子	ナジッホアー	
ヤウシ 養子	ヤスナイホアー	Yasunai-hoā.
マ、コ 継子	マ、ホアー	Mama-hoā.
カクレゴ 私生兒	グンボー	
ヲトコノコ 男子	ビギドンホアー	Bigidon-hoā.
チアクシ 嫡子	チヤクス	Chiakusu.
次子	ズナン	Zunan
三男	サンナン	San-nan
季子	ナスツキルリイ ト書スナラン]	Nasskuiri. [記スル克ハス文字は生ミ切
ヲンナノコ 女子	ミドンホアー	Midon-hoā.
マゴ 孫	マー	Mā.
ヒマゴ 曾孫	ボタマー	Bota-mā.
ヒ、マゴ 玄孫	ミーマー	Mi.
チ、 祖父	ウシュマイ	Ushumai.
バ、 祖母	ンミー	Nmī.
ヒ、チ、 曾祖父	ウホウショマイ	N[sic]houshumai.
ヒ、バ、 曾祖母	ウホンミー	Uhonmī.
ヒ、チ、 高祖父	ウホウショマイ	Uho-ushomai.
ヲ、チ 諸父即チ「ヲチ」ノ総称ニテ伯父其他ヲ含ム	ボジヤ	Boja
オホヲチ 従王父	ウホ、ジヤ	
ソウリウヲチ 伯父	ウホ、ジヤ	Uho-bojiya.
ツギノヲチ 叔父	ウホ、ジヤ	Uho-bojiya.
スヘノヲチ 季父	ボジャーマ	Bojiāma.
ヲ、バ 伯叔母	ボバ	Boba.
オホヲチヨメ 従王母	ウホボバ	
ソウリウヲバ 伯母	ウホ、バ	Uho-boba.
ツギノヲバ 叔母	ウホ、バ	Uho-boba.
スヘノヲバ 季母	ボバーマ	Bo-bāma.
ケウダイ 兄弟	ケウダイ	𑄀𑄁𑄂𑄃𑄄Kiodai.
ヲンナケウダイ 姉妹	ボナリイイ	Bonariri.
アニ 兄	アニ	Ani.
カシラアニ 長兄	シヂヤ	Shijia.

ナカアニ 仲兄	ナカッチヤ	Nakats <u>tt</u> cha
スヘノアニ 季兄	シジアーマ	Shijiāma.
アネ 姉	アンマ	Anma.
カシラアネ 長姉	ウホアンマ	Uho-anma.
ナカノアネ 仲姉	ナカアンマ	Naka-anma.
スエノアネ 季姉	アンマーマ	Amnmāma.
ヲトヲト 弟	ヲト、	Ototo.
カシラノヲトヲト 長弟	シビヤヲト、	Shijia-ototo.
ナカノヲトヲト 仲弟	ナカヲト、	Naka-ototo.
スヘノヲトヲト 季弟	ヲト、ウーマ	Otodo-ūma.
イモト 妹	ヲト、ボナルリィ	Ototobonar <u>tt</u> ri.
長妹	ヲト、ボナルリィ	Ototobonar <u>tt</u> ri.
仲妹	ヲト、ボナルリィ	Ototobonar <u>tt</u> ri.
季妹	ヲト、ボナルリィ	Ototobonar <u>tt</u> ri.
イトコ 従兄弟	イチユク	Ichuku.
フタイイトコ 再従兄弟	フタイチユク	Futa-ichuku.
三従兄弟	ミイ、チユク	Mi-ichuku.
ヲンナイトコ 従姉妹	ミードンイチユク	Mīdon-ichuku.
フタヲンナイトコ 再従姉妹	フタイチユク	Futa-ichuku.
ミヲンナイトコ 三従姉妹	ミーイチユク	Mi-ichuku
ヲイ 甥	ボイ	Boi.
メイ 姪	ボイ	Boi.
フウフ 夫婦	ホーフ	Hōfu.
ヲツト 夫	ボド	Bo oBodo
マヘノヲツト 先夫	サギボト	
ナキヲツト 亡夫	スンダボド	Sunda-bodo.
ノチノヲツト 後夫		
妻	トヅ	Todu
サキノサイ 先妻	サギェトヅ	Sagi-todu.
ナキツマ 亡妻	スンダトヅ	Sunda-todu.
ノチノツマ 後妻	アト、ヅ 又 マタトヅ	No Ato-todu.
シウト 舅	シストウヤ	Shiuto-uya
シウトメ 姑	シストウヤ	Shiuto-uya
岳父 (妻ノ父)	同	"
兵 [sic] 母 (妻ノ母)	同	"
コシウト 小舅	ストパラ	

コシウトメ 小姑	ストパラ	
アニヨメ 嫂	ヤンマー	Yanmā.
ヲト、ヨメ 嬪	ヤンマーマ	Yanmāma.
ムコ 婿	ムク	Muku.
ハナムコ 新郎	ミィムク	
ヨメ 婦	ヨメ	Yome.
ハナヨメ 新婦	アイナマ	
内地語 Japan 日 L.	八重山島語	Yaeyamajima L.
グワンソ 元祖	グワンソ	Gwanso.
先祖	シンゾ	Sinzu.
家族	カゾク	Kazoku.
親類	スルルイ	Sunrui or uyaku
チカキシムルイ 近親	[一名] ウヤク	uyaku
トホキシムルイ 遠房	ツカウヤク	Tsuka-uyaku.
チャクケ 嫡宗	トウウヤク	Tou-uyaku.
ジナンケ 次門	チヤッケ	Chakke.
チスチ 血統	ズナンキ	Zunanki.
シソン 苗裔	ツースズ	Tsūsuzu.
系圖	シソン	Sison
イエガラ 門地	キーズ	Kīzu.
カトク 家督	イガラ	Igara.
ウチ 氏	カトク	Katoku.
ミヤウジ 姓	ウヅ	Uzu.
ナノルリ 苗字	シ	Shi.
通称	ナノルリイ	Nanoruri.
分家	ヤラビナー	Yarabinā.
	バガルリィヤー	Bagariyā.

第二類

其一 人品ノ上

内地語 Japanese	八重山島語	Yaeyamajima.
ラウジン 老人	ウイピイト	Wipit.
チヌ 翁	ウシユマイ	Wshumai.
	[平民ニハ「アボジイ」ト云フ]	
バヌ 媼	ンミ	Nmi.

[平民ニハ「アーパ」ト云フ]

壮年	サカ、リィ、トス	Sakaritosu
<small>ワカキヒト</small> 青年凡十五	バカトス	Baka-tosu.
<small>ワカキヲトコ</small> 若男	バガビギドン	Baga-bigidon.
<small>ワカキヤンナ</small> 幼婦	バガミードン	Baga-mīdon.
美少年即姣童	アッパリファーナマ	Appari-fānama.
美女子	アッパリミートンナー	Appari-mīdon-nā.
<small>ワラベ</small> 兒童	ヤラビ	Yarabi.
童男	ビギドンファー	Bigidon-fā.
童女	ミードンファー	Midon-fā.
<small>コドモ</small> 子供	ヤラビノメー	Yarabi-no-mē.
小兒	ファーナマ 又	ƳFānama or
<small>アカゴ</small> 赤子	ヤラビーマ	Yarabīma.
	アカフアーナマ 又	Akafānama or
	アカグ	
<small>チノミゴ</small> 乳兒	ツーノミィファー	
<small>フタゴ</small> 孿兒	フダグ	
<small>カクシゴ</small> 私生兒	グンボー [牛房ノ儀]	
<small>ステゴ</small> 棄子	シテファー	
<small>トシウエ</small> 長年	トスウイ	
<small>トシノタ</small> 年下	トス、タ	
<small>ドウネン</small> 同年	ドウニン 又	
	ピイト、ス 又	
	ピイトツツ	
朋友	ホーユ 又	
	ドス	
親友	クンイドス 又	
	シンユウ	
<small>ヲホヲトコ</small> 大男	ヲホヅニ	
<small>チュウノヲトコ</small> 中男	ナカホド	
<small>コヲトコ</small> 小男	ゴマビキドン	
	[一名] ピビジヤ [山羊ノ儀]	
<small>オホヤンナ</small> 大女	ヲホミードン	
<small>チュウノヤンナ</small> 中女	ナカミードン	
<small>コヤンナ</small> 小女	ゴマミードン	
<small>セダカ</small> 長人	タキダカ	
<small>セビクシ</small> 矮人	シピイク	

コヘタルヒト 肥人	コイボッタ
ヤセタルヒト 瘠人	ヨウンガラー 又
	ヤセ
美人	アッパリ 又
	アハリ
ウツクシキヲトコ 美男子	カイビギドン 又
	テッパナビラーマ 又
	アッパリビギドン
ウツクシキヲナ 美婦人	カイメーラビ 又
	天下一 又
	アッパリファー
醜人	ヲッカイシヤーリーイ、ピイト
ミニクキヲトコ 醜男	ヲッカイビギドン
ミニクキヲナ 醜婦	ヲッカイミードン
鰥	ピイトリイモノ 又
	ヤズマリイ
寡	ピイトリイモノ 又
	ヤズマリイ
ミナシゴ 孤	クズマリイ
ヒトリモノ 獨	ピイトルリイモノ
盲目	ミツクツア
ヲシ 啞子	アバミ
ツンボ 聾者	ミントウラー
セムシ 偃僂	パトンニ [鳩胸ト云フ儀]
カタリ 跛人	アイグ [棒ヲ携ヘルト云フ儀「アイグ」トハ棒ノ事ナリ]
イザリ 膝行	ツボスアラギイ
アシブト	ウフパン [大足ノ儀]
ライビャウニン 癩漢	ライビウー
乞食	モノクヤー
馬鹿	プリモノ
狂人	マーボラー
癲癩	ウスダマ
病人	ビウニン
多病者	ビウジヤモノ 又
	ヤンプトキ
壮健者	ガンゾウモノ 又 [「ガンゾウ」トハ岩ト云儀]
	タツシヤ 達者

善人	イーピイト 又 ジンニン
悪人	ヤナピイト アクニン
賢人	キンズン [士族ノミニ限ル平民間ニ此語ナシ]
愚人	グジン [右同]
仁者	ジンシャ [右同]
不仁者	フジンシャ [右同]
孝行人	コッコズン [士平共ニ云]
不孝行人	フコウズン [右同]
忠人	チヨウズン
不忠人	フチヨウジン
勉強者	マイフナアー
<small>ナマケモノ</small> 懶惰者	ギフナアー
<small>ゴウゼウモノ</small> 剛性者	ギイコウーモノ
<small>ヨクビヤウニン</small> 臆病人	ヨクビヤウニン
正直人	シウーズキイ

(表紙)

八重山列島普通形容詞

海南諸島單語篇

(次次ページ)

形容詞部

沖縄懸下八重山島言單語篇

(次次ページ)

沖縄懸下八重山島單語篇

田代安定 編輯

形容詞

普通形容詞

雑部

内地語

八重山島語

(一) 高キ

タカキ

Takaki

高キ岡又高山

タカモル、 又

タカサン

(二) 高サ

タカサ

Takasa

山ノ高サヨ

サンノタカソー

山ノ高サハ

サンノ、タカサヤ

高ク

タカク

高々ト

タカータカ

低キ

ピクサ 又

マラサ

低キ樹

ピクサ、キ

低サ

ピクサ 又

マラサ

此家ノ低サハ

低ク

マラサ

低クアル

低々ト

マラサ—マラサピサーピサ

低々トシタ人

深キ	フカサ	Fukasa
深キ井	フカ、カー	
深サ	フカサ	
海ノ深サ		
深ク	フカーク	
深ク堀レ		
深々ト	フカーフカ	
フカフカトシタ池		
浅キ	アサ	
アサキ海		
浅サ	アサ、	
此井ノ浅サヨ		
浅ク	アサ一タ	
アサク耕セ		
浅々ト	アサーアサ	
アサアサト堀レ		
厚キ		
アツキ板		
厚サ	アツツア	
厚ク	アツーク	
厚々ト	アツアツ	
薄キ	ピス	
薄サ	ピイスサ 又	
	ウィサ	
薄ク	ピスササ	
薄々ト	ピスーピス	
濃キ	カタ	
濃サ	カタサ	
濃ク	カターク	
濃々ト	カターカタ	
稀キ	ゼウウスサル	
稀サ	アハサ	
稀ク	アハク	
稀々ト	アハクアハク	
大ナル又太キ	ウホキヲッキ 又	
	ウヅサウフ 又	

	オホキナ マイシヤ	
大サ又太サ	ウフサ 又	
	マイサ シヤ	
大ク又太ク	ウホサ又マイタサ ?マイク	
太々ト	マイマイ	
小キ又細キ又小サナル	ゴマサ	
小サ	イミ メゴマサル	
小ク	ゴマサク	
小々ト	ゴーマーゴマ	
長キ	ナガ	
長サ	ナーサ	
長ク	ナーナ	
長々ト	ナガーナガ	
短キ	インツカサル 又	
	ツカサ	
短サ	同インツカサ	
短ク	イツカサ	
短々ト	イツカサイツカサ	
白キ	スソサル	
白サ	スソサ	
白ク	スソースソー	
	シルク スソー サ スソー ス スソー	
白々ト	スソースソ	
	スソ スソ	
黄色ノ	ク オル ズウンイルノ	
黄サ	クズゥイルサ	
黄ク	タイル サクズウンクズウン	
黄々ト	クズゥインクズゥイン	Kzuin-Kzuin ¹³
黒キ	フフヲ	
黒色ノ	フフヲイルノ	
黒ク	フフヲーフヲ	
黒々ト	フフヲフフヲ	
赤キ	アカ	
赤色ノ	アカイルノ	
赤サ	アカサ	

¹³ このローマ字表記は k^ʔin.k^ʔin のような音声的実現を示唆している。

赤ク	アカク
赤々ト	アカーアッカー
青キ	アウ
青色ノ	アウイルノ
青サ	アウーサ
青ク	アウク
青々ト	アウーアウ
清キ	キリー 又 カイシャル
清サ	キリー 又 カイシヤ
清ク	キリー
美キ	チヨラサ リッパ 又 カイサシャ
美ク	ミグト 又 チウラタ リッパ
酸キ	スーサル
酸サ	スーサ
酸ク	スーサ
甜キ	アマサル
甜サ	アマサ
甜ク	アマタサ
辛キ	カラサール
辛サ	カラサ
辛ク	カラタサ
苦キ	ンガサール
苦サ	ンガサー
苦ク	ンガタサ 又 ンガーンガ
鹹キ	サタ スーカラサル
カラサ	サタ スーカラサカ
カラク	サタラ スーカラサ
香バシキ	カバサル 又 イーネウイ
香サ	カバサ
香シク	カバシタサ 又 イーネウイ

臭キ	フサ、ル
臭サ	フサ、
臭ク	フサク
腥キ	ナマフサ、
ナマグサ、	ナマフサ、
ナマグサク	ナマフサ、
ケブキ	キフスツサル
ケブタサ	キフツサ
ケブタク	キフスウサ
眩ユキ	ミープトルサル
マバユサ	ミープトルサ
マバユク	同上
愛ラシキ	カナ シ サール、 又
	アツタラサール
カハイラサ	カナサ 又
	アツタラサ
カハイラシク	カナ シ タサ 又
	アツタラサ
睦キ	ムツマサル
ムツマシサ	ムツマサ 又
	イーナカ
ムツマシク	ムツマ シ タサル
心易キ	ドーヤツサ
ヨキ	ミシヤ イー
悪キ	ヤニ シ ヤナ 又
	ヤナモノ
面白キ	ウムツサ
^{ウレシ} 嬉キ	サニツシヤ 又
	ウリツシヤ
辱キ	プコーラサ
難有キ	プ ヨ ー ラサ プヨ ー ニハイ [中等] 又 [一般]
	スデカホー [上等]
快キ	イーコ、ツ
稀少ナル	マレナルモノ
憐レナル	アハレナモノ 又
	チクズ ッ モン グ ル サ リシャル
残念ナル	ザンネンナモ 又

	クオズッタネーモノ
悲シキ	カナシイ
氣ノ毒ナル	ドーダ サドーングリシヤ
四カクキ	スカク 又 スボウユカド
円キ	マルキ 又 モルモノ
廣サ	ピソサ
狭サ	シバサ
尖タル	トガリ
曲タル	マガルモノ
直ナル	マス、クナル
同ジキ	ヨノモノ
同シカラサル	ネユンモノ
似タル	ネヤールモノ
似ザル	ネユシモノ ¹⁴
中程ノ	ナカゴルノ
軽キ	カルサ
重キ	ンブサル
重キ物	ンブサルモノ
別ナル	ビツモノ
常ノ	ツニノ
肥タル	パンタル 又 クワイタル
瘠タル	ヤシタル 又 ヤーウガリタル
高價ナル	タカダイ
下直ナル	ヤスダイ
誠ノ	マクトノ
詐リノ	イツワリノ 又 ユクレモノ
立派ナル	デッパ 又 ミグト 又 カイシヤ
丁寧ナル	テーニーナル

¹⁴ 「ネユシ」と書かれているようだが、「ネユン」の間違いである。

深切ナル	シンヂツナル
不敬ナル	ツゝスメ、ネンモノ 又 ボリーナモノ
情ノアル	ジヨウアル 又 ナサキノモノ
情ノナキ	ジヨウネンモノ
強キ	ヅウサ
弱キ	ユウサ
柔カナル	ヤハラサナル
粗末ナル	ヤナモノ 又 ソマツナモノ
アラキ	アラサ
脆キ	サパサ
硬キ	ゴーフサ
堅キ	カタサ
平??ナル	
古キ	ホルキ
新シキ	ミーモノ 又 ミーサールモノ
意地ノ悪キ	ヤナクンジヨウ
キタナキ	クイタナサ 又 ヤナー
忽体ナキ	
可笑キ	ヲカシモノ
ヲカシキモノ	バラウモノ
不思議ナル	ピルマシーモノ
珍シキ	シズラシーナル
イフウ 異様ナル	イフーナ
恠シキ	アヤスサルモノ
餘議ナキ	ユンドクルナヘ
眠サ	ネビーブサヲ

参考文献

- 石垣實佳 (2013) 『メーラムニ用語便覧』 南山舎.
- 加治工真市 (1998) 「古見方言の基礎語彙」 『沖縄芸術の科学: 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要』 10, 265-320.
- 加治工真市 (2020) 『鳩間方言辞典』 国立国語研究所.
- 國吉まこも (2012) 「1885年田代安定の八重山調査と沖縄県の尖閣諸島調査」 『地域研究』 (10), 11-24.
- 齊藤郁子 (2006) 「田代安定の学問と資料」 『沖縄文化研究』 (32), 275-322.
- セリック・ケナン、麻生玲子、中澤光平、中川奈津子 (2021) 「川平方言語彙集」 『川平村の歴史』 川平公民館 pp. 410-439.
- 田代安定 (1888) 「沖縄懸下宮古島及沖縄島對譯方言集」 『東京人類學會雜誌』 3 (29), 323-328.
- 田代安定 (1894) 「八重山群島住民ノ言語及ヒ崇教」 『東京人類學會雜誌』 9 (96), 229-232.
- 中生勝美 (2011) 「田代安定伝序説-人類学前史としての応用博物学」 『現代史研究』 (7), 129-164.
- 中川奈津子、セリック・ケナン (2020) 「南琉球八重山語白保方言の語彙リスト: 名詞を中心に」 『琉球の方言』 44, 283-306.
- 仲原穰 (2004) 「八重山小浜方言の音韻」 『沖縄芸術の科学: 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要』 16, 259-287.
- 名越護 (2017) 『田代安定: 南島植物学、民俗学の泰斗』 南方新社.
- 西岡敏 (2000) 「石垣島北部方言の体言基礎語彙」 『琉球の方言』 (24), 37-56.
- 平山輝男 (1983) 『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』 桜楓社.
- 平山輝男 (1988) 『南琉球の方言基礎語彙』 桜楓社.
- 前大用安 (2002) 『西表方言集』 前大用安.
- 三木健 (1980) 『八重山近代民衆史』 三一書房.
- 宮城信勇 (2003) 『石垣方言辞典』 沖縄タイムス社.
- 宮良当壮 (1930) 『八重山語彙: 附八重山語總説』 東洋文庫叢刊 (第2) 東洋文庫.
- 与那国方言辞典編集委員会 (2019) 『どうなんむぬい辞典』 与那国町役場.

受理日 2021年4月13日

管見の限り Campbell (1840) が最古のレプチャ語に関する記録である。Grierson (1909: 233) にその記述があり、レプチャ語を “non Pronominalized Himalayan group of Tibeto-Burman sub-family” に属するものとしている。Benedict (1972) は ““Himalayan” group of “Tibetan-Kanauri (Bodish-Himalaya)” branch of Tibeto-Burman sub-family” としている。Shafer (1955)、Forrest (1962)、Bodman (1988) などもレプチャ語の系統関係について論じている。長野 (1992: 995) では「語彙は、チベット語からの借用が多いが、中核的な語彙については、むしろ、北アッサム語群やクキ・チン語との並行性が目立つ」としている。しかしながら今に至るまでレプチャ語のチベット=ビルマ語派における言語的地位は未詳である。音韻に関しては Sinha (1966)、Sprigg (1966a, 1966b)、Rischel (1967)、Bodman (1989) などがあるが、それぞれ個別の音韻論に関する諸問題を扱っており、音韻体系全体を示してはいない。就中、Sinha (1966) は二重母音や声調の存在を認める点で特徴的である。この言語は Plaisier (2006) で初めて文法の全容が明らかになったが、当該書には依拠したデータがどの方言であるかについての記載がない³。また、シッキム州の社会言語学的調査の報告として Turin (2011) がある。

2 調査

本稿の依拠するレプチャ語のデータは、筆者が 2018 年 11 月にインドのシッキム州で収集したものである。調査協力者としてシッキム州ガントク在住レプチャ語ガントク方言の生え抜きである L 氏 (1963 年生まれ) にご協力頂いた。同氏は調査時に至るまで日常的にこの言語を使用している。同氏の第一言語であるレプチャ語の他にネパール語、ヒンディー語、英語の会話能力を、デンジョンケの聴取能力を有する。調査はガントク市にて媒介言語としてはネパール語を用いた。

3 音素及び音節

3.1 音素目録

以下に、レプチャ語ガントク方言の子音、母音の各音素を示す。なお本言語には声調は存在しない。

3.1.1 子音

子音は以下の 32 個の音素が確認される。

		labial	dental, alveolar	retroflex	palatal	velar	glottal
stops	unaspirated	p [p]	t [t]	tr [ʈ]	c [c]	k [k]	? [ʔ]
	aspirated	ph [pʰ]	th [tʰ]	thr [ʈʰ]	ch [cʰ]	kh [kʰ]	
	voiced	b [b]	d [d]	dr [ɖ]		g [g]	

³ Plaisier 氏の私信によればダージリン県とシッキム州の発音双方で通用する音素を提示したという。

affricates	unaspirated		ts [ts]				
	aspirated		tsh [ts ^h]				
fricatives	voiceless	f [f]	s [s], sh [ʃ]				
	voiced	v [v]	z [z], j [ʒ]				
nasals	voiced	m [m]	n [n]		ny [ɲ]	ng [ŋ]	
laterals	voiced		l [l]				
approximant	voiced	w [w]	r [ɹ]		y [j]		
	voiceless						h [h]

3.1.2 単母音

単母音は以下の 10 個の音素が確認される。

i u[u~i] u
 e o
 ə
 ε ɔ
 a

3.2 音節構造

レプチャ語ガントク方言の音節は、C1C2C3VC4 である。このうち C1 と V が必須要素である。C2 は/y, l, r/, C3 は/y/, C4 は/k, ng, t, n, p, m, r, l/が現れる。C1C2C3 の共起関係は以下の通りである（✓は結合関係が存在することを示す）。

表 1：音節頭部の子音結合関係

C1/C2C3	y	r	ry	l	ly
?	✓				
k	✓	✓			
kh	✓				
g	✓	✓	✓	✓	✓
ng		✓	✓		
t	✓				
th	✓				

d	✓				
p	✓	✓	✓	✓	✓
ph	✓				
f	✓	✓	✓	✓	✓
b	✓	✓	✓	✓	✓
m	✓	✓	✓	✓	✓
r	✓				
l	✓				
h	✓	✓	✓	✓	✓
v	✓				

4 音声的記述

各音素について音声学的特徴と例を挙げておく。

/p/ [p]: 無声無気両唇閉鎖音 (voiceless unaspirated bilabial stop)

語例: /pə/ [pə] <線香>、/po/ [po] <竹>、/pənka/ [pənka] <専門家>

/t/ [t]: 無声無気歯茎閉鎖音 (voiceless unaspirated alveolar stop)

語例: /tə/ [tə] <高い>、/tu/ [tu] <洗う>、/ting/ [tiŋ] <分ける>

/tr/ [t̠]: 無声無気そり舌閉鎖音 (voiceless unaspirated retroflex stop)

語例: /tre/ [t̠e] <ラバ>、/trat/ [t̠at̠] <破る>、/trokchi/ [t̠ok̠ʰi] <ありがとう>

/c/ [c]: 無声無気硬口蓋閉鎖音 (voiceless unaspirated palatal stop)

語例: /cə/ [cə] <行く>、/cim/ [cim] <弱い>、/cəng/ [cəŋ] <南>

/k/ [k]: 無声無気軟口蓋閉鎖音 (voiceless unaspirated velar stop)

語例: /kə/ [kə] <手>、/ka/ [ka] <～のために>、/kup/ [kup̠] <乳幼児>

/ʔ/ [ʔ]: 声門閉鎖音 (glottal stop)

語例: /ə/ [ʔə] <暖かい>、/ap/ [ʔap̠] <絞る>、/ok/ [ʔok̠] <恥ずかしがり屋な>

/ph/ [pʰ]: 無声有気両唇閉鎖音 (voiceless aspirated bilabial stop)

語例: /phə/ [pʰə] <息を吸う>、/pʰopʰo/ [pʰopho] <時々>、/phur/ [pʰur] <鉱物>

/th/ [tʰ]: 無声有気歯茎閉鎖音 (voiceless aspirated alveolar stop)

語例: /thət/ [tʰət̠] <真実>、/thal/ [tʰal] <上の方向へ>、/tham/ [tʰam] <事柄>

/thr/ [tʰ̠]: 無声有気そり舌閉鎖音 (voiceless aspirated retroflex stop)

語例: /thri/ [tʰi] <とげ>、/throm/ [tʰom] <市場>、/thim/ [tʰim] <法律>

/ch/ [cʰ]: 有声無気硬口蓋閉鎖音 (voiceless aspirated palatal stop)

語例: /chət/ [cʰət̠] <計算する>、/chul/ [cʰul] <下の方へ>、/cho/ [cʰo] <最善の>

/kh/ [kʰ]: 無声有気軟口蓋閉鎖音 (voiceless aspirated velar stop)

語例: /khamri/ [kʰamri] <こんにちは>、/khu/ [kʰu] <(一)片>、/khek/ [kʰek̠] <凍る>

/b/ [b]: 有声無気両唇閉鎖音 (voiced unaspirated bilabial stop)

語例: /bam/ [bam]<名詞化接辞>、/bər/ [bɛɪ]<満タンの>、/bol/ [bol]<沸す>

/d/ [d]: 有声無気歯茎閉鎖音 (voiced unaspirated alveolar stop)

語例: /də/ [dɛ]<湖>、/da/ [da]<眠る>、/duk/ [duk̄]<切れ目を入れる>

/dr/ [ḍ]: 有声無気そり舌閉鎖音 (voiced unaspirated retroflex stop)

語例: /dri/ [ḍi]<場所>、/dre/ [ḍɛ]<土地の神様>、/dram/ [ḍam]<割る>

/g/ [g]: 有声無気軟口蓋閉鎖音 (voiced unaspirated velar stop)

語例: /gəl/ [gɛl]<消える>、/gap/ [gɛp̄]<お辞儀をする>、/gun/ [gun]<からの>

/ts/ [ts]: 無声無気歯茎破擦音 (voiceless unaspirated alveolar affricate)

語例: /tsa/ [tsa]<曲げる>、/tsar/ [tsaɪ]<温める>、/tsək/ [tsɛk̄]<からの>

/tsh/ [tsh]: 無声有気歯茎破擦音 (voiceless aspirated alveolar affricate)

語例: /tsha/ [tsha]<いらいらする>、/tsho/ [tsho]<お供え物>、/tshuk/ [tshuk̄]<語>

/f/ [f]: 無声唇歯摩擦音 (voiceless labiodental fricative)

語例: /far/ [faɪ]<値段>、/fo/ [fo]<歯>、/fal/ [fal]<終わる>

/s/ [s]: 無声歯茎摩擦音 (voiceless alveolar fricative)

語例: /sə/ [sɛ]<～と>、/saka/ [saka]<鹿>、/sam/ [sam]<気持ち>

/sh/ [ʃ]: 無声後部歯茎摩擦音 (voiceless postalveolar fricative)

語例: /shə/ [ʃɛ]<やつれた>、/sha/ [ʃa]<洗う>、/shap/ [ʃɛp̄]<終わる>

/v/ [v]: 有声唇歯摩擦音 (voiced labiodental fricative)

語例: /vi/ [vi]<血>、/vam/ [vam]<歌>、/vəm/ [vɛm]<塩>

/z/ [z]: 有声歯茎摩擦音 (voiced alveolar fricative)

語例: /zo/ [zo]<食べる>、/zuk/ [zuk̄]<作る>、/zang/ [zɛŋ]<～のような>

/j/ [ʒ]: 有声後部歯茎摩擦音 (voiced postalveolar fricative)

語例: /jam/ [ʒam]<集まる>、/jer/ [ʒɛɪ]<金 (きん)>、/jel/ [ʒɛl]<理解する>

/m/ [m]: 有声両唇鼻音 (voiced bilabial nasal)

語例: /mə/ [mɛ]<否定辞>、/mik/ [mik̄]<目>、/malmal/ [malmal]<困難>

/n/ [n]: 有声歯茎鼻音 (voiced alveolar nasal)

語例: /na/ [na]<行く>、/nam/ [nam]<寿命>、/nɔr/ [nɔɪ]<季節>

/ny/ [ɲ]: 有声硬口蓋鼻音 (voiced palatal nasal)

語例: /nyim/ [ɲim]<日>、/nyo/ [ɲo]<広大な>、/nyak/ [ɲak̄]<頂上>

/ng/ [ŋ]: 有声軟口蓋鼻音 (voiced velar nasal)

語例: /ngu/ [ŋu]<魚>、/ngam/ [ŋam]<頷く>、/ngak/ [ŋak̄]<観る>

/r/ [ɹ]: 有声無気振え音 (voiced unaspirated trill)

語例: /ra/ [ra]<野生の>、/ring/ [ɹiŋ]<言語>、/rɔŋ/ [ɹɔŋ]<レプチャ族の>

/w/ [w]: 有声円唇化唇軟口蓋接近音 (voiced rounded labial-velar approximant)

語例: /wə/ [wɛ]<価値のある>、/wong/ [wɔŋ]<十分な>、/womu/ [womu]<ジャッカル>

/l/ [l]: 有声歯茎側面接近音 (voiced alveolar lateral approximant)

語例: /lan/ [lan]<メッセージ>、/lavo/ [lavo]<月>、/lapan/ [lapan]<先生>

/y/[j]: 有声硬口蓋接近音 (voiced palatal approximant)

語例: /ya/ [ja]<知っている>、/yu/ [ju]<妻>、/yong/ [joŋ]<質問>

/h/[h]: 無声声門摩擦音 (voiceless glottal fricative)

語例: /hə/ [hə]<片づける>、/ha/ [ha]<何>、/han/ [han]<元来>

子音と母音の共起関係は表 2 のようにまとめられる。

表 2 : 子音と母音の共起関係

	i	e	ɛ	a	ɔ	o	u	ʊ	ə
p	✓		✓	✓		✓		✓	✓
py				✓					
pr				✓			✓		
pry				✓					
pl	✓			✓					✓
ply				✓					✓
t	✓			✓		✓	✓	✓	✓
ty				✓					
tr	✓		✓	✓	✓		✓		
c	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓
k	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ky					✓				
kr	✓					✓			
kry						✓			
kl	✓		✓	✓	✓	✓	✓		✓
kly									✓
ʔ	✓			✓	✓	✓	✓	✓	✓
ʔy				✓			✓		✓
ph	✓	✓		✓		✓		✓	✓
phy				✓		✓	✓		
th	✓		✓	✓	✓	✓	✓		✓
thy	✓		✓		✓	✓		✓	
thr	✓	✓			✓	✓			
ch	✓		✓		✓	✓	✓	✓	✓
kh	✓	✓		✓			✓	✓	
khy				✓			✓		

kl	✓			✓	✓	✓	✓	✓	✓
b	✓			✓		✓	✓	✓	✓
by				✓			✓		
br	✓		✓	✓					
bry				✓					
bl			✓	✓		✓			
bly	✓			✓		✓	✓	✓	
d	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
dy	✓		✓	✓				✓	✓
dr	✓	✓		✓					✓
g			✓	✓		✓	✓	✓	✓
gy			✓			✓	✓		✓
gr				✓		✓		✓	✓
gry				✓		✓			✓
gl	✓				✓			✓	
gly				✓					✓
ts				✓	✓		✓	✓	
tsh				✓	✓	✓	✓	✓	
f	✓			✓	✓	✓			✓
fy			✓			✓		✓	
fr	✓			✓	✓		✓		✓
fry				✓	✓		✓		✓
fl	✓		✓	✓		✓			✓
fly				✓	✓		✓		✓
s				✓	✓	✓	✓	✓	✓
sh	✓	✓	✓	✓			✓		✓
v	✓	✓		✓	✓		✓		✓
vy			✓						
z				✓	✓	✓	✓		✓
j	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
m	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓
my				✓	✓				
mr			✓	✓			✓		✓
mry				✓					
ml							✓		
mly				✓			✓		
n				✓	✓		✓	✓	✓
ny	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
ng				✓	✓	✓	✓	✓	

ngr				✓	✓		✓		✓
ngry				✓					✓
l	✓		✓	✓			✓		✓
ly			✓	✓	✓		✓		✓
w					✓	✓	✓		✓
r	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ry				✓	✓				✓
y			✓	✓	✓	✓		✓	✓
h	✓		✓	✓				✓	✓
hy				✓	✓	✓	✓		
hr	✓		✓	✓	✓	✓	✓		
hry				✓		✓			
hl			✓	✓			✓		
hly				✓					

5 小結

本稿ではレプチャ語ガントク方言の概要を報告した。レプチャ語における方言的差異に関しては先行研究では全く触れられていない。今後はブータンやネパールにおいて収集したデータとの比較からレプチャ語の方言分布についても考察する予定である。また語種の判別を行った上で借用語音韻論や他の TB 諸語の語形との比較についても調査を進めていく。

謝辞

本稿にコメントを下さった鈴木博之さん、村上武則さんに感謝いたします。筆者の質問にお答えくださった Heleen Plaisier さんに御礼申し上げます。

参考文献

- Benedict, Paul K. (1972) *Sino-Tibetan: a Conspectus*. New York & Cambridge: Cambridge University Press.
- Bodman, Nicholas. C. (1988) “On the place of Lepcha in Sino-Tibetan. A lexical comparison “. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area*. 11(1): 1-26.
- Bodman, Nicholas. C. (1989) “Some remarks on Lepcha vowels”. In David Bradley et al. eds. *Prosodic Analysis and Asian Linguistics. To honour R. K. Sprigg*. Canberra: Pacific Linguistics. pp.137-141.
- Campbell, Archibald (1840) “Note on the Lepchas of Sikkim, with a vocabulary of their language”. *Journal of the Asiatic Society of Bengal*. 9: 379-393.

- Forrest, R.A.D. (1962) “The linguistic position of Róng (Lepcha)”. *Journal of the American Oriental Society*. 82: 331-335.
- Grierson, George Abraham, ed. (1909) *Linguistic Survey of India (Vol. III, Part I, Tibeto-Burman Family: General Introduction, Specimens of the Tibetan Dialects, the Himalayan Dialects and the North Assam Group)*, Calcutta: Superintendent of Government Printing, India.
- 長野泰彦 (1992) 「レプチャ語」 『言語学大辞典』 4: 995-997. 東京: 三省堂.
- Shafer, Robert (1955) “Classification of the Sino-Tibetan languages”. *Word*. 11: 94-111.
- Rischel, Jørgen (1967) Introduction to the Phonetic Transcriptions. In Halfdan Siiger. *The Lepchas: Culture and Religion of a Himalayan People Part 2*. Copenhagen : National Museum of Denmark. pp.15-29.
- Sinha, Prabhakar (1966) *A Descriptive Grammar of Lepcha: a Thesis submitted to the University of Poona for the Degree of Doctor of Philosophy*. Poona: Decan College Post-Graduate & Research Institute.
- Sprigg, Richard. K. (1966a) “The glottal stop and glottal constriction in Lepcha and borrowing from Tibetan”. *Bulletin of Tibetology*. 3:5-14.
- Sprigg, Richard. K. (1966b) “Lepcha and Balti-Tibetan: tonal or non-tonal language ?” *Asia Major new series*. 12(2): 185-201.
- Turin, Mark (2011) “Results from the linguistic survey of Sikkim: Mother tongues in education”. In Anna Balikci-Denjongpa and Alex McKay eds. *Buddhist Himalaya: Studies in religion, history and culture*, II: 127-142. Namgyal Institute of Tibetology.
- Plaisier, Heleen (2006) *A Grammar of Lepcha*. Leiden & Boston: Brill.

受理日 2021年4月13日

タヤ・マ (Drag-yab sMar) 語巴俄 (mBengo) 方言の語彙資料 (日英対照)

鈴木 博之 才讓三周 四郎翁姆
復旦大学 ロンドン大学 SOAS ボン大学

キーワード：チベット・ビルマ諸語、羌語群、チャムド、基本語彙

1 はじめに

本稿では、タヤ・マ (Drag-yab sMar) 語巴俄 (mBengo) 方言の語彙資料 (約 500 語) を提示する。見出し語は日本語・英語を併記し、意味分類に基づいて配列する。加えて、借用語と認められる語形式には、来源を示す。

タヤ・マ語は、チベット自治区昌都 [Chab-mdo]¹ 市察雅 [Brag-g.yab] 県に分布するチベット・ビルマ系言語の 1 つであり、羌語群に属すると考えられる (Tashi Nyima & Suzuki 2019)。分布域は察雅県香堆 [Byams-mdun] 鎮、榮周 [Rong-grub] 郷、擴達 [Khu-da] 郷、宗沙 [rDzong-gsar] 郷、阿孜 [A-tshur] 郷、白日 [dPal-ri] 郷が報告されている。本稿で記述するのは、白日郷巴俄 [’Be-ngo] 村で話される方言で、mBengo 方言と呼ぶ。分布地点については、図 1 を参照。

香堆鎮で話されるタヤ・マ語 (Razi 方言) は、語彙資料が公開されている (Suzuki et al. 2018)。また、dKon-mchog rGyal-mtshan (2018) はタヤ・マ語の諸相を記述している。一方、察雅県のカムチベット語を取り扱う先行研究には、Phukhang & Schwieger (1982) や Schwieger (1989) などがあるが、それらにタヤ・マ語に関する記述は認められない。

タヤ・マ語の南には姉妹言語にあたるラロン・マ (Larong sMar) 語² の分布域がある。その周辺はカムチベット語の分布域によって囲まれている。タヤ・マ語とラロン・マ語の分布域の間にもカムチベット語の分布域を挟んでいる。詳細は Tashi Nyima & Suzuki (2019) を参照。

mBengo 方言の資料収集は、第 2・第 3 著者が 2018 年昌都市内で行った。発話協力者は若年層に属する男性 1 名で、察雅県白日郷巴俄村出身である。やりとりにはカムチベット語を用い、準備された語彙調査票と文例集 (Nagano & Prins 2013) に従って、カムチベット語から mBengo 方言への口頭翻訳を通じて記録した。

語彙集の見出しの順序は、Nagano & Prins (2013) で使用した語彙集に基づく。同様の構成をとる語彙集には、Suzuki et al. (2018) のラモ語 (Kewa 方言)、ラロン・マ語 (Phagpa 方言)、タヤ・マ語 (Razi 方言) の対照語彙と、Suzuki et al. (2021) のラモ語 (Lamei 方言) のものがある。

¹ チベットの地名など固有名詞で漢字で音写されているものには、[] 内にチベット文語 (藏文) 形式を添える。なお、藏文は de Nebesky-Wojkowitz (1956) に基づく転写方法を用いる。

² ラロン・マ語の概要については、Zhao (2018) を参照。

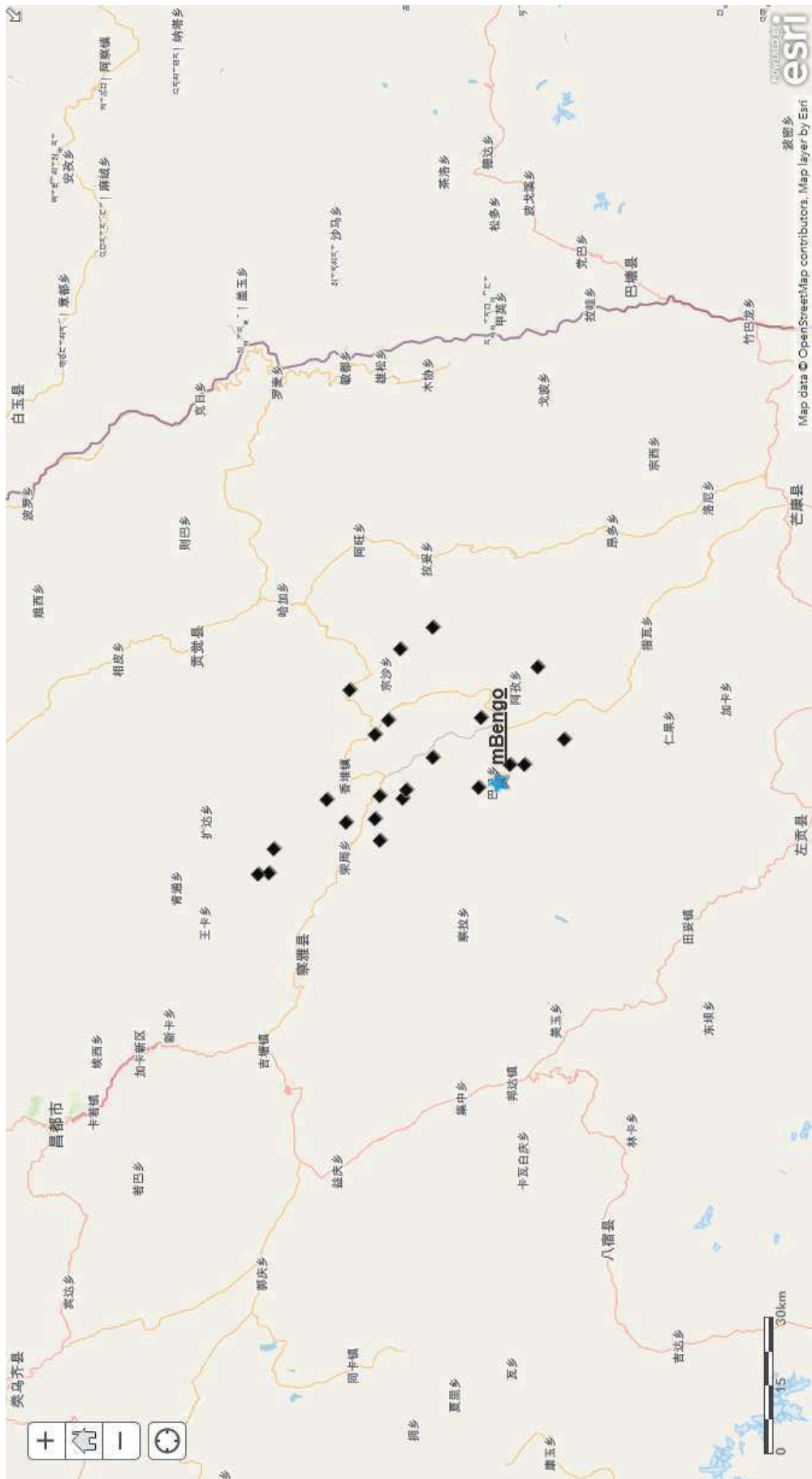


図1：タヤ・マ語の分布地域と巴俄村の位置

2 mBengo 方言の音体系

タヤ・マ語 mBengo 方言の音体系は以下のように整理できる。音節構造、子音体系、母音体系、声調に分けて掲げる。

本稿で用いる音表記は、分節音については、国際音声字母 (IPA) で規定されるもののほか、朱曉農 (2010) で明確に定義される主に中国で使用されている音声記号も断りなく用いる³。超分節音については、Suzuki & Sonam Wangmo (2019) の方法を基本に、必要に応じて拡張したものをを用いる。

2.1 音節構造

音節構造は、鈴木 (2005) を参照して以下のように記述する。

$${}^c C_i G V$$

このうち C_i (主子音) と V (音節核の母音) が必須である。

2.2 子音

音節構造の主子音位置に現れる音素の一覧は以下ようになる。

		A	B	C	D	E	F	G	H*
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t ^h			k ^h	q ^h	
	無声無気	p	t	t			k	q	ʔ
	有声	b	d	d̪			g	g	
破擦音	無声有気		ts ^h		tɕ ^h	†cç ^h			
	無声無気		ts		tɕ	†cç			
	有声		dz		dʒ				
摩擦音	無声		s		ɕ	ç	x	χ	h
	有声		z		ʒ	j	ɣ	ʙ	ɦ
鼻音	有声	m	n		ɳ		ŋ	ɴ	
	無声	m̥	n̥		ɳ̥		ŋ̥		
流音	有声		l	r					
	無声		l̥						
半母音	有声	w				j			

* A: 両唇; B: 歯-歯茎; C: そり舌; D: 前部硬口蓋; E: 硬口蓋; F: 軟口蓋; G: 口蓋垂; H: 声門

以上の体系について特に注意が必要なものは、以下の点である。

³ チベット系諸言語における音表記については、Suzuki (2016) を参照。

- † のついた音は、チベット系諸言語からの借用語にのみ認められる⁴。ただし、本来語でも前部硬口蓋破擦音の自由変異として現れることがある。
- 硬口蓋摩擦音は自由変異として前部軟口蓋における摩擦を伴う事例も認められる。

2.3 母音

母音には、舌位置の対立と口母音/鼻母音、非きしみ音/きしみ音による特徴に分かれる。

口母音	i	e	ɛ	a	ɑ	ɔ	o	u	ɯ	ɥ	ə	ɐ
鼻母音	ĩ	ẽ	ɛ̃	ã	ã̃	õ	õ̃	ũ		ũ̃	ã̃	ẽ̃
きしみ口母音		ɛ̣	ɛ̣	ɑ̣	ɑ̣	ɔ̣		ụ		ɯ̣	ə̣	ɐ̣
きしみ鼻母音					ạ̃							

以上の体系について特に注意が必要なのは、以下の点である。

- きしみ音の音声実現には、きしみ音のほかに、音節末における軽い声門閉鎖音 [ʔ] や歯茎における閉鎖 [ɲ] として現れるものがある。これらは自由変異とみなすことができる。
- きしみ鼻母音は、記録した資料の中には例が少ない。

2.4 声調

語声調で2種類が区別される：高 (´) と低 (˘)。

声調を担う領域は語頭から2音節目までで、それ以降は弁別的な高さはなく、低平であることが多い。多音節語で1音節目のみに弁別的な声調が現れる場合、1音節目ののちに (´) で示す。

一方で、複合語については、1つの語の中で成分(形態素)ごとに上述の規則が適用された声調を担うことがある。語ごとに決まっているようであり、表記 (´) は音韻論的に重要である。

3 語彙リスト

見出し語は日本語とし、続いて英訳、タヤ・マ語 mBengo 方言の形式、備考の順で配列する。備考欄では、借用語の来歴と動詞形態について述べる。同一の見出し語に複数の語形が与えられる場合、/ で区切り、かつ改行して掲げる。なお、語彙表には以下の略号を用いる⁵。

1	1 人称	E	向自己	S3	第3 音節
2	2 人称	EXV	存在動詞	S4	第4 音節
3	3 人称	NEG	否定	SEN	感知
Chn	漢語	S1	第1 音節	STM	判断
CPV	判断動詞	S2	第2 音節	WrT	...	チベット文語形式

⁴ この音特徴は、昌都を中心とする地域で話される諸言語に認められる。

⁵ 証拠性の体系についての詳細は、Suzuki & Tashi Nyima (2021) を参照。

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
頭	head	ʼjɔ̃	
髪	hair	ʼwɔ̃' mo	
脳	brain	ʼjə wa	
額	forehead	ʼtʰu pɛ	WrT <i>thod pa</i>
目	eye	na	
眼球	eyeball	na	
涙	tear	ʼmə ɣa pə	
盲目の	blind	ʼkʰə mu	
鼻	nose	ʼna pa	WrT <i>sna pa</i>
鼻水	nasal mucus	na' ne pa	
耳	ear	na tɕu	WrT <i>rna cog</i>
口	mouth	ʼçi	
唇	lip	ʰtɕʰo	WrT <i>mchu</i>
舌	tongue	ʰndɛ	
歯	tooth	ʼçu	
虫歯	tooth decay	ʼçu nə ʼru tsʰə nə	
唾	saliva	ʰndzɛ	
痰	sputum	ʰndzɛ ʼtʰə sə	
呼吸	respiration	na mu' qʰə ʼtɔ̃ sə	
声	voice	ʰkə tu	
咳	cough	ʰtsɔ̃' rə	
くしゃみ	sneeze	ʼnɛ ʰtsɔ̃ rə rə	
あくび	yawn	ʼni ʰndə rə	
げっぷ	burp	ʼa nə	
あご	chin	ʼma nə	WrT <i>ma ne</i>
顔	face	ʼkʰa ŋo	WrT <i>kha ngo</i>
恥じる	be ashamed	ʼŋo tsʰɛ	WrT <i>ngo tsha</i>
頬	cheek	ʼkʰa ŋo	WrT <i>kha ngo</i>
口ひげ	moustache	ʼkʰa' pu	WrT <i>kha spu</i>
あごひげ	beard	ʰdzə wu	WrT <i>rgya bo</i>
首	neck	ʼkə ʰdu	
うなじ	nape	ʼkə ʰdu	
手首	wrist	ʼla ʰpa	WrT <i>lag pa</i>
手	arm	ʼla ʰpa	WrT <i>lag pa</i>
手のひら	palm	ʼla ʰpa	WrT <i>lag pa</i>
指	finger	ʼçə ɕu ʱgə	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
爪	nail	^ɱ dzɯ	
拳	nuckle	^h ʉ' ts ^h ɯ	WrT <i>khu tshur</i>
胸	breast	'tã ^ɰ gu	WrT <i>brang mgo</i>
乳	milk	'ɣə	
肋骨	rib	'tɕ ^h ə rɔ	
肺	lung	^h lɔ wa	WrT <i>glo ba</i>
心臓	heart	'ɲe	
腹	belly	'wu	
内臓	viscera	'wu	
腸	intestine	' ^h dzɯ ma	WrT <i>rgyu ma</i>
胃	stomach	^h pə k ^h a	WrT <i>pho kha</i>
肝臓	liver	^h tɕ ^h ĩ ^ɱ ba	WrT <i>mchin pa</i>
背	back	^h gɛ pa	WrT <i>sgal ba</i>
腰	waist	^h ke pa	WrT <i>rked pa</i>
牛糞	cattle dung	' ^h tɕə	
馬糞	horse dung	' ^h ra lɥ	S2-WrT <i>lud</i>
トイレ	lavatory	'tɕĩ k ^h a	
膝	knee	^h pe mo	WrT <i>pus mo</i>
脚	leg	'ɲgu	
下腿	lower leg	^h tɕĩ ^ɱ ba	
ふくらはぎ	calf	^h tɕĩ ^ɱ ba	
足	foot	^h kɔ ^ɱ ba	WrT <i>rkang pa</i>
体	body	^h zu po	WrT <i>gzugs po</i>
死体	dead	'mə ɲa 'ru	S3-WrT <i>ro</i>
毛	hair	^h mo	
皮膚	skin	'po pe	WrT <i>pags pa</i>
ほくろ	mole	^h mɛ	WrT <i>sme ba</i>
膿	pus	^h mɛ	WrT <i>rma</i>
汗	sweat	'ts ^h ə 'tə k ^h e	
骨	bone	'tɕ ^h ə rɔ	
権力	power	' ^h wã tɕ ^h e	WrT <i>dbang cha</i>
見る	look	^h ta ɲɛ	1SG の形式
聞く	listen	^h ə sa ɲɛ	1SG の形式
聞こえる	hear	'ha ^h tə go	
笑う	laugh	' ^h rə	
泣く	weep	'qwə	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
叫ぶ	shout	ʼfio ^{fi} d̥a ʼkə le	
服	clothes	ʼti t ^h ō	
上着	jacket	ʼnō ^{fi} d̥za	WrT <i>nang rgyan</i>
チベット服	Tibetan robe	ʼpə kə	WrT <i>bod gos</i>
袖	sleeve	ṽpu ji ʼre t ^h i	
着る	put on	ʼrə ^ŋ go	
脱ぐ	put off	ʼji m ^{ph} ə t̥ā	
帽子	hat	ʼd̥e	
雨傘	umbrella	ṽnə ʼfi d̥u rə ṽts ^h ə	
ズボン	trousers	ṽñ ^{mb} ə	
ベルト	belt	ṽñ ^{mb} ə	
襟	collar	ʼt̥ū nd o kə wɛ	
靴	shoe	ʼʔə t ^h ə	
裸足	bare foot	ṽna ɕu	
綿の布	cotton cloth	ʼt̥ū nd o	
亜麻	hemp	ʼt̥ū nd o ʼpa t ^h ã ^ŋ gə re	
羊毛	wool	ʼfi d̥za ts ^h ə	
櫛	comb	ʼh ^t a t ^h a	
指輪	ring	ʼŋge ja	
ネックレス	necklace	ṽh ^{ku} tu le ʼt ^h a ʼɕi	
装飾品	accessory	ṽfi d̥zɛ̃ tɛ ^h a	WrT <i>rgyan cha</i>
はさみ	scissors	ṽtɛ̃ nd e	
針	needle	ʼja	
食べ物	food	ʼza mɛ	WrT <i>za ma</i>
米	rice	ṽŋd̥ɛ	WrT <i>'bras</i>
小麦	wheat	ʼto	WrT <i>gro</i>
大麦	barley	ʼx̥a	
豆	bean	ʼh ^s a mɛ	WrT <i>sran ma</i>
小麦粉	flour	ʼfi d̥a la	
ツアンパ	tsampa	ʼwɛ	
じゃがいも	potato	ʼxwa qwa	
肉	meat	ṽt ^h ja	
たまねぎ	onion	ʼh ^t sa wa	
にんにく	garlic	ʼfi go pɛ	WrT <i>sgog pa</i>
野菜	vegetable	ʼts ^h ə mɛ	WrT <i>tshod ma</i>
りんご	apple	ʼku ɕi	WrT <i>ku shu</i>

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
桃	peach	ʔ ^h ã ^m bu	WrT <i>kham bu</i>
種	seed	ʔxa	
魚	fish	ʔnə	
卵	egg	ʔ ^h go nɛ	WrT <i>sgo nga</i>
塩	salt	ʔts ^h ɑ	
蜂蜜	honey	ʔ ^h ba wõ	
油	oil	ʔnə na	WrT <i>snum nag</i>
脂肪	fat	ʔtsɛ	
バター	butter	ʔwa	
チーズ	cheese	ʔk ^h u	
牛乳	cow milk	ʔχɛ	
ヨーグルト	yoghurt	ʔta wɛ	
水	water	ʔtɕə	
茶	tea	ʔdzə	
粥	porridge	ʔ ^h u ^h pa	
酒	alcohol	ʔʔa rɔ	WrT <i>a rag</i>
酔う	be drunk	ʔfiə rɛ	
煮る	cook	ʔto zõ	1SG の形式
コック	cook	ʔ ^h jo po	
揚げる	fry	ʔto zõ	1SG の形式
沸騰させる	boil	ʔti tsõ	1SG の形式
熟れる	be ripen	ʔmə ta ʔ ^h ə wa	
食べる	eat	ʔja ⁿ dzo	
なめる	lick	ʔti ^h dõ	1SG の形式
噛む	chew	ʔni ^h kã	
飲む	drink	ʔfiə ⁿ t ^h õ	
吸う	suck	ʔja kõ	
唾を吐く	spit	ʔ ⁿ dza ^h ki ʔta rã	1SG の形式
腹が減る	be hungry	ʔfiə zə ʔra	
喉が渴く	be thirsty	ʔji yi	
味	taste	ʔtu wa	WrT <i>bro ba</i>
おいしい	be tasty	ʔʔa ⁿ de ju nə	
甘い	sweet	ʔʔa ji ʔ ^h u ⁿ nə	
からい	hot	ʔtɕe ʔʔa ^h dza nə	
苦い	bitter	ʔʔa ^h q ^h ɑ nə	
酸っぱい	sour	ʔkə ni ɕi ʔa	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
腐る	rotten	ʼmə ʈa fia	
家	house	ˉtɕe	
村	village	ʼtɔ̃ ^m bɛ	WrT <i>grong ba</i>
家を建てる	build a house	ˉtɕe nə ʼkə ^h pɔ̃	1SG の形式
門	gate	ʼlɛ	
柱	pillar	ʼka wa	WrT <i>ka ba</i>
梁	beam	ˉ ^h dɔ̃ ma	WrT <i>gdung ma</i>
土壁	wall	ʼtɕa	
窓	window	ʼk ^h o tɕ ^h u	
火	fire	ʼmo	
煙	smoke	ʼmə xui ^h gə lə	
灰	ash	ˉtɕ ^h iʼ k ^h o k ^h ɔ̃	
炭	charcoal	ˉ ^h tsa ʈ ^h a	
火を消す	extinguish the fire	ʼmo nə ˉsa tū	1SG の形式
燃える	burn	ʼti pa lɔ̃	
テーブル	table	ʼto tsə	Chn <i>zhuozi</i>
椅子	chair	ˉ ^h kə tɕa	WrT <i>rkub kyag</i>
クッション	cushion	ˉ ^h dɛ̃	WrT <i>gdan</i>
座る	sit	ʼnə ⁿ dzwɛ̃	1SG の形式
ベッド	bed	ʼɲe sa	WrT <i>nyal sa</i>
枕	pillow	ʼkɔ̃ʼ k ^h ə ɕɔ̃	
横になる	lay	ˉna ˉji pɛ	
寝る	sleep	ˉ ^h ɲi ʼme	
いびきをかく	snore	ʼta ku ʼɲa pe ʼkə rə	
夢	dream	ˉmə lɛ̃	WrT <i>rmi lam</i>
夢を見る	dream a dream	ˉmə lɛ̃ ʼtə le	WrT <i>rmi lam</i>
立ちあがる	stand up	ʼtə ʼsə re	
井戸	well	ˉtɕə dzɛ̃	
閉める	close	ˉ ^h aʼ tɕi ˉ ⁿ da kū	1SG の形式
開く	open	ˉ ^h aʼ tɕi ʼtə ʼpə lū	1SG の形式
道具	instrument	ʼla tɕ ^h a	WrT <i>lag cha</i>
鏡	mirror	ˉɕi ^h gu	WrT <i>shel sgo</i>
ガラス	glass	ˉɕi ^h gu	WrT <i>shel sgo</i>
皿	dish	ʼts ^h e ^h du	WrT <i>tshal sder</i>
スプーン	spoon	ʼk ^h ə t ^h ə	WrT <i>khem thur</i>
甕	pot	ˉ ^h dza q ^h o	WrT <i>rdza khog</i>

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
水をくむ	fetch water	ˈtɕə ˈtə ɣõ	1SG の形式
ひしゃく	ladle	ˈʃaw' tsə	Chn <i>shaozi</i>
注ぐ	pour	ˈtə tʰõ	1SG の形式
ナイフ	knife	ˈçə ˈtɕã tɕã	
柄	handle	ˈjo wa	WrT <i>yo ba</i>
刃	blade	ˈçə	
ハンマー	hammer	ˈhə wa	WrT <i>tho ba</i>
釘	nail	ˈndzə rɛ	WrT <i>'dzer ba</i>
鋸	saw	ˈso' le	WrT <i>sog le</i>
斧	axe	ˈhta ri	WrT <i>sta re</i>
鎌	sickle	ˈzə fiɛ	WrT <i>zor ba</i>
ショベル	shovel	ˈndzə mɛ	WrT <i>'jag ma</i>
埃	dust	ˈtʰɛ	WrT <i>thal</i>
拭く	wipe	ˈnda ɕa ˈtə' ŋu	
箱	box	ˈko zɛ ˈtʰe kʰa ɕã	
蓋	lid	ˈkʰa' tɕʰu	
かご	basket	ˈza ɕi	
縄	rope	ˈndɕ	
棒	rod	ˈpə ʰiɣu	
はしご	ladder	ˈfiɕa	
成長する	grow	ˈfiɕi ze ra	
生きている	alive	ˈhsõ mbo	WrT <i>gson po</i>
太った	fat	ˈntʰja ˈkə ʰiɕa	
やせた	thin	ˈtʰə wa ˈrã	
疲れた	tired	ˈhka le	
病気	sickness	ˈna kʰa ˈru	
風邪をひく	catch a cold	ˈrẽ	
けがをする	be injured	ˈfi mɛ ˈwa	S1-WrT <i>rma</i>
痛い	have an ache	ˈza	
かゆい	itchy	ˈzə na ˈntʰsʰə' nə	
薬	medicine	ˈmɕ	
医者にかかる	see a doctor	ˈfiɕa	
殺す	kill	ˈsa	
死ぬ	die	ˈlə si	
神	deity	ˈlɛ	WrT <i>lha</i>
殴り合う	fight	ˈndza ˈndza nə	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
口げんかする	quarrel	ʔ ^h a h ^t su ^h ɰ ^h gu	
勝つ	win	ʔ ^h na k ^h i sə	
負ける	lose	ʔ ^h pa	WrT <i>pham</i>
逃げる	escape	ʔ ^h ts ^h ɛ	
追いかける	pursue	ʔə t ^h ə ʔ ^h ts ^h ɛ ʔ ^h rə h ^h kwə rə	
劍	sword	ʔ ^h ra	
弓	bow	ʔ ^h t ^h pa	
矢	arrow	ʔ ^h t ^h pa	
人	human being	ʔ ^h mə ɰɛ	
男	man	ʔ ^h ɛi pɛ	WrT <i>skyes pa</i>
女	woman	ʔ ^h ma	
赤ん坊	baby	ʔ ^h za ʔ ^h tɛ̃ tɛ̃	
子供	child	ʔ ^h tɛ̃ ^h pa tɛ̃ ^h u	
男の子	boy	ʔ ^h za	
女の子	girl	ʔ ^h ma te ʔ ^h tɛ̃ tɛ̃	
女子	lady	ʔ ^h ma te ʔ ^h kwi ʔ ^h tɛ̃ tɛ̃	
老人	old man	ʔ ^h kwi ʔ ^h tɛ̃ ʔ ^h ɛ	
父	father	ʔ ^h pa pa	
母	mother	ʔ ^h pa ma	
父母	parents	ʔ ^h pa pa ʔ ^h pa ma	
祖父	grand-father	ʔ ^h pa ɰi	
祖母	grand-mother	ʔ ^h pa wa	
父方のおじ	paternal uncle	ʔ ^h pa k ^h ɰ	
母方のおじ	maternal uncle	ʔ ^h pa ja	
父方のおば	paternal aunt	ʔ ^h pa nɔ	
息子	son	ʔ ^h za ma	
娘	daughter	ʔ ^h ma	
兄弟姉妹	sibling	ʔ ^h tə k ^h ɰ pə	
姉	elder sister	ʔ ^h mī nã	
夫	husband	ʔ ^h ɰa ^h dzũ ^h ʔ ^h dzɜ	
妻	wife	ʔ ^h ɰa ^h dzũ ^h ʔ ^h dzɜ ʔ ^h ma	
嫁	bride	ʔ ^h ɛɰ	
結婚	wedding	ʔ ^h za ts ^h pa	
使用人	servant	ʔ ^h ɰjɔ ^h pə	WrT <i>g.yog po</i>
村落	village	ʔ ^h di	WrT <i>sde</i>
銃を撃つ	shoot a gun	ʔ ^h mə ʔ ^h de ʔ ^h t ^h pa k ^h ɛ	S1S2-WrT <i>me mda'</i>

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
矢を射る	shoot an arrow	ʰtʰa kʰe	
田畑	field	ʰdi	
仕事	work	ʰle kʰe	WrT <i>las ka</i>
休憩する	take a rest	ʰme ʰsu ʰtə kʰã	S1S2-WrT <i>mal gso</i> 1SG の形式
田を耕す	plough	ʰne kʰe ʰle le ʰxa qe	
皮をむく	peel	ʰpa pe ʰxu tʰã	S1S2-WrT <i>pags pa</i> 1SG の形式
行く	go	ʰhẽ	1SG の形式
来る	come	ʰru ʰru ʰnde	
出ていく	go out	ʰna po ʰne le	
入る	enter	ʰna je ʰtə ʰtə ʰnde	
曲がる	turn	ʰtʰe ʰtʰe ʰdze	
曲がった	bent	ʰtʰa ʰrã rã	
到着する	arrive	ʰxu ʰrə ʰtse	
止まる	stop	ʰnə ʰdze	
歩く	walk	ʰci	
走る	run	ʰta ʰdzu ʰkʰẽ	1SG の形式
速い	quick	ʰta ʰdzu ʰkʰe	
遅い	slow	ʰka li	WrT <i>ga le</i>
這う	crawl	ʰta ʰdzɯ	
乗る	ride	ʰna ʰdze	
道	road	ʰrə	
橋	bridge	ʰzə ʰmbe	WrT <i>zam pa</i>
車	car	ʰga tẽ	
船	ship	ʰtʰe ʰi tʰa	
言葉	language	ʰtã	
話す	speak	ʰtã ʰtõ	
言う	say	ʰmə ʰta rə	
尋ねる	ask	ʰtʰi mə ʰta	
うそをつく	tell a lie	ʰna ʰgu na	
書く	write	ʰti rã	1SG の形式
呼ぶ	call	ʰtã ʰtõ	
名前	name	ʰmi	
遊ぶ	play	ʰtsi mu ʰtõ	WrT <i>rtsed mo gtong</i>
歌う	sing	ʰzɛ ʰtõ	WrT <i>gzhaz gtong</i>

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
踊る	dance	ʼfi _{zɛ} ʼ tə ʼtʰa pʰe	S1-WrT <i>gzhas</i>
売る	sell	ʼtʰəʼ jō	1SG の形式
買う	buy	ʼrəʼ tō	1SG の形式
商売	business	ʼpʰu sa ʰtso ʼte ŋə na	
価格	price	ʼyoʼ tsʰə	
安い	cheap	ʼkō ʼtɕã tɕã	S1-WrT <i>gong</i>
紙幣	money	ʼta fiē	Chn <i>dayang</i>
貸す	lend	ʼti fi _{zō}	1SG の形式
借りる	borrow	ʼti fi _{zō}	1SG の形式
送る	send	ʼtʰə ra	
出会う	meet	ʼrə ri fi _{dã}	1SG の形式
待つ	wait	ʼkʰi ʼkə gə nə	
殴る	hit	ʼtʰə rə nō	1SG の形式
助ける	help	ʼnɕu ʰtō	1SG の形式
噛みつく	bite	ʼtʰə n _{dzə} ʼmɛ	
取る	fetch	ʼrə fi _{gō}	1SG の形式
手にする	take	ʼtʰə tɕʰō	1SG の形式
捕まえる	catch	ʼrə tsʰã	1SG の形式
放す	release	ʼna ʰtɕã	
投げる	throw	ʼti ʰtɕə ʼpʰe	
盛りつける	serve	ʼfi _{zə} ʰtã	
投げ捨てる	throw away	ʼtə ju ʰkō	1SG の形式
押す	push	ʼtʰə fiə ʼdō	1SG の形式
押しつける	press	ʼni ʼtɕʰa rã	1SG の形式
引く	pull	ʼrə tɕʰō	1SG の形式
背負う	carry on the back	ʼfi _{gɛ} pɛ kə ʼtʰə tɕʰō	S1S2-WrT <i>sgal pa</i> 1SG の形式
蹴る	kick	ʼma tsʰe ʼtʰə rɛ nə	
踏む	tread	ʼni ʼtɕʰa rã	1SG の形式
使う	use	ʼje na tə ʰtɕə ʰtō	
便利な	convenient	ʼna kã	
入れる	put into	ʼji tsʰa ʰkã	
探す	look for	ʰtsɛ	WrT <i>btsal</i>
見つける	find	ʼkʰeʼ tə	
置く	put	ʼkʰəʼ ɕə	
開ける	open	ʼtʰə ʼpə lō	1SG の形式

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
掛ける	hang	ʔ ^h ə 'çi ^h tã	1SG の形式
する	do	'tə 'lɛ lã	
壊す	destroy	'mə ^h tɕɔ	
直す	repair	'tə 'lɛ lã	
裂く	split	'çi 'te ^ɰ gɛ	
曲がる	curve	'nə ^ɰ gɯ	
折りたたむ	fold	'ri ^h ʔ ^h a k ^h ã	
洗う	wash	'nə ^{fi} ɸõ	1SG の形式
締める	fasten	'ri ^{fi} da mə	
緩める	unfasten	ʔ ^h u ^h kõ	1SG の形式
かぶる	wear	'ri ^{fi} da mə	
腫れる	swell	'tə ra	
つなぐ	connect	't ^h ə 'rə põ	1SG の形式
切り落とす	cut down	'nə ^h ʔ ^h a põ	1SG の形式
切れる	be broken	'nə ^h k ^h a ^h tã	1SG の形式
混ぜる	mix	'ti ^h ʔ ^h i ʔõ	1SG の形式
掘る	dig	'ti ^h qõ	1SG の形式
始める	begin	'ɰgu ^h ts ^h ə k ^h e	
停止する	stop	ʔ ^h ts ^h ẽ' ja ɕõ	
動く	move	ʔ ^h ə ^N ge ^N ge	
跳ねる	bound	'ndi ^h ʔ ^h ts ^h ẽ ts ^h ẽ	
上る	go up	^{fi} ga	
昇る	rise	'we jə	
下る	go down	'nã ^h ʔo	
水に浸す	soak	ʔ ^h ɕə' na 'ni ^h po	
乾いた	dry	'ra rã	
選ぶ	choose	^{fi} da' mõ	
考慮する	consider	^h sa nə 'tə ^h tõ	1SG の形式
知っている	know	'sɔ	
忘れる	forget	'ji ^{fi} mo	
教える	teach	ʔ ^h i' zã	1SG の形式
学ぶ	learn	'ji ki 'te ja nə	
恐れる	fear	'sa na jə	
好きである	like	'fiə ^{fi} ga	S2-WrT <i>dga'</i>
けちな	stingy	'ja 'mə ts ^h a	
うれしい	glad	ʔ ^h sẽ 'fiə ^{fi} ga	S1S3-WrT <i>sems dga'</i>

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
悲しい	sad	ˈsẽ ˈzə na ˈji ˈdu	
奇妙な	curious	ˈntʰa mo	WrT <i>mtshar mo</i>
腹を立てる	angry	ˈtsʰə pɛ ˈje ˈdzẽ	S1S2-WrT <i>tshig pa</i>
忙しい	busy	ˈtẽ ˈnɔ ˈzə na ˈŋkʰa	S1S2-WrT <i>don dag</i> 1SG の形式
賢い	wise	ˈfi dʒa po mə	
心	heart	ˈmə ɲɛ ˈsõ	
天	sky	ˈna ˈŋkʰɛ	WrT <i>nam mkha'</i>
天気	weather	ˈfi na ˈçi tə ˈŋə tɕʰã	S1S2-WrT <i>gnam gshis</i>
雲	cloud	ˈfi dũ	
霧	fog	ˈna wɛ ˈtə ˈhɔə sə	
雨	rain	ˈmu ˈna nə	
雨が降る	it rains	ˈmu so ˈna ˈna nə	
雷	thunder	ˈnɔ ˈre ˈlə	S1-WrT <i>'brug</i>
稲妻	lightning	ˈfi la ˈhʰtsa ˈla	
虹	rainbow	ˈnde ˈna ˈça ˈsə	
雪	snow	ˈwɛ	
氷	ice	ˈndzã	
溶ける	dissolve	ˈna ˈnɔ	
太陽	sun	ˈni	
月	moon	ˈfi li	
星	star	ˈhka mɛ	WrT <i>skar ma</i>
影	shadow	ˈtə nɔ	WrT <i>grib nag</i>
明らかな	clear	ˈhʰtə ˈhʰsi rə	
暗い	dark	ˈmə nɔ	WrT <i>mun nag</i>
静かな	calm	ˈfi dʒã ˈtẽ tẽ	
熱い	hot	ˈtsʰa ˈmo	
寒い	cold	ˈzə na ˈndzã ˈnə	
暖かい	warm	ˈsq nɔ ˈzã ˈnə	
山	mountain	ˈrə ˈŋgu	WrT <i>ri mgo</i>
谷	valley	ˈrə ˈŋgu fia ˈpa la na ˈŋkʰe tɕʰa	S1S2-WrT <i>ri mgo</i>
森	forest	ˈnɔ	WrT <i>nags</i>
平原	plain	ˈsa nã / ˈsa ɕɕʰɛ ˈwə tʰã	S1S2-WrT <i>sa cha</i>
湖	lake	ˈntʰu	WrT <i>mtsho</i>
川	river	ˈtɕə ˈla kʰɛ ˈwə ˈfi rə	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
水	water	ˈtɕə	
泡	bubble	ˈwo tʰɔ ˈwo tʰɔ tɕʰa	
沈む	sink	ˈnə rɑ	
浮く	float	ˈfi du	
流れる	flow	ˈza nə ˈnɛ ˈda	
滝	waterfall	ˈtɕə ˈnə ˈda rə	
岸	bank	ˈtɕʰu ˈɟo ɣə ˈkʰɛ	WrT <i>chu mgo yi khad</i>
石山	stone mountain	ˈrə ˈɟu	WrT <i>ri mgo</i>
波	wave	ˈtɕə ˈza nə ˈfia tu sə	
石	stone	ˈfi du	WrT <i>rdo</i>
砂	sand	ˈtɕʰ mɛ	WrT <i>bye ma</i>
土	earth	ˈndzɔ	
鉄	iron	ˈhɕɕ kʰu	S1-WrT <i>lcags</i>
金	gold	ˈhɕə	WrT <i>gser</i>
銀	silver	ˈfi ɟu	WrT <i>dngul</i>
銅	copper	ˈza	WrT <i>zangs</i>
松	pine	ˈhsɔ nã ˈfi bɔ ˈnə	
木	tree	ˈtsʰi	
草	grass	ˈru	
幹	trunk	ˈfi dʒi pa ˈzə na ˈnə tsʰa	
木の皮	bark	ˈpa pɛ	WrT <i>pags pa</i>
枝	twig	ˈza lã ɣə ˈpə tsʰi tsʰɛ	
葉	leaf	ˈla mjɔ	
とげ	thorn	ˈntsʰɔ	
花	flower	ˈmə tɔ	WrT <i>me tog</i>
根	root	ˈkɑ jə	
生長する	grow	ˈtə tsʰə	
枯れる	wither	ˈnə ˈŋə	
動物	animal	ˈtsʰɛ ˈmo ˈda nə	
家畜	domestic animal	ˈfi ɟu ˈnə	
野生の獣	wild animal	ˈsã tɕɛ	WrT <i>sems can</i>
牛	cattle	ˈzɔ	WrT <i>zog</i>
鳥	bird	ˈɕa	WrT <i>bya</i>
魚	fish	ˈɳə	WrT <i>nya</i>
虫	insect	ˈmbə ˈdɔ	
犬	dog	ˈkʰɔ	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
馬	horse	ʼfi re	
口バ	donkey	ʼkə rə	WrT <i>ku ru</i>
騾馬	mule	ʼtɕ	WrT <i>drel</i>
ヤク	yak	ʼfi də	
ゾ	mdzo	ʼn dɔ	
山羊	goat	ʼn tsʰə	
ぶた	pig	ʼpʰɔ	WrT <i>phag</i>
鶏	chicken	ʼŋə dza	
虎	tiger	ʼh tɔ	WrT <i>stag</i>
熊	bear	ʼtō	WrT <i>dom</i>
狼	wolf	ʼfi dɛ	
鹿	deer	ʼɕa bɛ	WrT <i>shwa ba</i>
大猿	ape	ʼməʼ fi gə	WrT <i>mi rgod</i>
猿	monkey	ʼʔaʰ ki	
うさぎ	hare	ʼn dɔʼ wa	
ねずみ	mouse	ʼn tsʰɔ	
象	elephant	ʼfi lā tɕʰi	WrT <i>glang chen</i>
鶴	crane	ʼpʰə ro	
からす	crow	ʼkʰa tɛ	WrT <i>khwa ta</i>
ふくろう	owl	ʼfi u pa	WrT <i>'ug pa</i>
蝶	butterfly	ʼŋə tso	
蟻	ant	ʼtə lōʼ fi dze tsʰa sã	
蜜蜂	bee	ʼza	
ハエ	fly	ʼm bəʼ naʼ na	S3S4-WrT <i>nag nag</i>
蚤	flea	ʼfi waʼ lə	
しらみ	louse	ʼnaʼ tɔ sə	
蛙	frog	ʼdəʼ fi bɛ	
角	horn	ʼfi tʰɔ	
毛	body hair	ʼmɔ	
皮	skin	ʼpa pɛ	WrT <i>pags pa</i>
爪	claw	ʼfi jɛ	
ひづめ	hoof	ʼh tɕə wa	
尾	tail	ʼfi na mɛ	
嘴	peck	ʼn tɕʰə wa	
羽	wing	ʼfi de mə ja	
羽毛	feather	ʼfi da tɕ	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
鳥の巢	bird's nest	ʼɕaʼ kə ʼtsʰu ʼtə kʰe	
飛ぶ	fly	ʼŋwaʼ rə	
泳ぐ	swim	ʼtɕə ʰtɕa kʰe	
卵を産む	lay an egg	ʰi go ŋɛ ʼkʰe tɕʰa	S1S2-WrT <i>sgo nga</i>
円形の	circle	ʼqwa ʰqwa ʼtə ʰqe	
鋭利な	sharp	ʰlãʼ rə	
鈍い	dull	ʼtʰə wa ʼma xa	
なめらかな	smooth	ʼsa tɔ	
平らな	flat	ʼtə tɔ fiɛ	
もの	thing	ʰidzwa	
大きい	big	ʼza nə ʰtãʼ rə	
高い	high	ʼza nə ʼtə ʰtə nə	
小さい	small	ʼne ʰtɕã nə	
太い	large	ʼza nə ʼwu ʰta rə	
長い	long	ʼza nə ʼtə ʰti	
短い	short	ʼtɕã tɕã tɕa	
やせた	thin	ʼkʰə rã sə	
厚い	thick	ʼza nə ʰta nə	
薄い	thin	ʼtɕã tɕã	
色	colour	ʰndɔ	WrT <i>mdog</i>
赤い	red	ʼne ŋjɔ	
青い	blue	ʼŋə ŋjɔ	WrT <i>sngo sngo</i>
黄色い	yellow	ʼnə nə	
白い	white	ʼtʰə ʼtʰɔ	
灰色の	gray	ʰɕa ʰɕɛ	WrT <i>skya skya</i>
黒い	black	ʼna nã	
染める	dye	ʼtsʰə ʼtə ʰqe	
声	voice	ʰkə tʰu	
におい	smell	ʼtə mɛ	WrT <i>dri ma</i>
強い	strong	ʼɕə ʰtãʼ rə	S1-WrT <i>shugs</i>
弱い	weak	ʼɕə ʼtɕãʼ nə	S1-WrT <i>shugs</i>
正しい	right	ʼtsʰe tɛ ʼtɕʰã	
よい	good	ʼpa ta ŋa pə tɕʰə	
悪い	bad	ʰidɔ rə	
簡単な	easy	ʼle ʰde mo ŋə tɕʰə	
難しい	hard	ʼle ʼɣə ʼŋə tɕʰə	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
きつい	tight	ʼpa ta ŋa pə tɕʰə	
ゆるい	loose	ʼʔə la ŋə tɕʰə	
やわらかい	smooth	ʼdz̥ã m̥bu	WrT <i>'jam po</i>
ざらざらの	rough	ʰtswɑ ŋə pə tɕʰə	
古い	old	ʰiŋiʼ pɛ	WrT <i>rnying pa</i>
新しい	new	ʰsa h̥pɛ	WrT <i>gsar pa</i>
美しい	beautiful	ʼza nə ʱŋweʼ ŋə tɕʰə	
醜い	ugly	ʰi d̥ãʼ ŋə pə tɕʰə	
清潔な	clean	ʰtsã mɛ ŋə tɕʰə	S1S2-WrT <i>gtsang ma</i>
汚い	dirty	ʰtsɔ pɛ ŋə tɕʰə	S1S2-WrT <i>btsog pa</i>
硬い	hard	ʼza nə ʱgɛʼ ŋə tɕʰə	
やわらかい	soft	ʼwa l̥ə l̥ə tɕʰə	
前	front	ʼna ji ʰsu	
後ろ	back	ʼfiɑ pɛ	
側面	side	ʰh̥a pə kʰə tə	
中間	middle	ʰtɕi kʰə	S1-WrT <i>dkyil</i>
上	upper	ʰi gaʼ ji	S1-WrT <i>sgang</i>
下	lower	ʼfiɛ ji	S1-WrT <i>'og</i>
中	inside	ʼna ji fiə	
外	outside	ʰpuʼ ji	
右	right	ʰtə kʰə nə	
左	left	ʼju kʰə pʰə	
近い	near	ʼkʰa tə nə	
遠い	far	ʼtʰa ri	
高い	high	ʼza nə ʰtə n̥tʰu	
低い	short	ʼza nə ʼni mɛ	
深い	deep	ʼkʰa tə nə	
浅い	shallow	ʼt̥ã tɕɛ ŋə pə tɕʰə	
一緒に	together	ʼtɕ	
満ちた	full	ʼtə kʰa	
空の	vacant	ʰto fi bɛ	WrT <i>stong pa</i>
方向	direction	ʼtʰe	
明け方	dawn	ʰnaʼ ŋə ʼŋa tsʰi	
朝	morning	ʰnaʼ ŋə	
正午	noon	ʼŋi ka	WrT <i>nyin dkar</i>
夕方	evening	ʼkō tu	WrT <i>dgong dro</i>

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
夜	night	ʰᵐtsʰḗ	WrT <i>mtshan</i>
真夜中	midnight	ʼkõ ʰdzɯ	
早い	early	ᵐnaʼ ŋo	
遅い	late	ᵐnaʼ ŋo ŋa ᵐtsʰi wa	
今	now	ʼfia tɕʰə	
先に	firstly	ᵐŋĩʼ tɕə̃	
後で	later	ʼlə jɛ	
常に	always	ʼfiɗuʼ tʰə ʼŋu na	
ときどき	sometimes	ʼtɕe xe tɕe xe	
今日	today	ʼʔə tɕʰã	
昨日	yesterday	ʼri tsʰa	
明日	tomorrow	ᵐse	
あさって	day after tomorrow	ʼsã ʰnɔ	
毎日	everyday	ʼfiɗuʼ tʰə ʼŋu na	
日にち	date	ʼtsʰi pɛ	WrT <i>tshes pa</i>
週	week	ᵐcĩ tɕʰi	Chn <i>xingqi</i>
月	month	ʰna da wɛ	WrT <i>zla ba</i>
年	year	ᵐkwi	
年齢	year-old	ᵐkwi	
春	spring	ʰfiʒaʼ kʰɛ	WrT <i>dbyar kha</i>
夏	summer	ʰfiʒaʼ kʰɛ	WrT <i>dbyar kha</i>
秋	autumn	ʰtũʼ kʰɛ	WrT <i>ston kha</i>
冬	winter	ʰᵐtsʰo ŋgu	
数字	number	ʼtɕa xu	WrT <i>grangs ka</i>
一	one	ʼtə qʰa	
二	two	ᵐni	
三	three	ʼsũ	
四	four	ʼfiɣə	
五	five	ʼŋa	
六	six	ᵐtɕʰu	
七	seven	ᵐnẽ	
八	eight	ʰtɕə	
九	nine	ᵐNɔ	
十	ten	ʼfia qõ	
十一	eleven	ʼfia tɕ	
十二	twelve	ʼfia ni	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
十三	thirteen	ʼfia s̄q̄	
十四	fourteen	ʼfia ^{fi} γə	
十五	fifteen	ʼja ŋa	
十六	sixteen	ʼfia tɕ ^h u	
十七	seventeen	ʼfia n̄e	
十八	eighteen	ʼfia ^h ɕɛ	
十九	nineteen	ʼfia ^N gə	
二十	twenty	ʼna	
二十一	twenty-one	ʼŋi ɕu ^h tsa ^h ɕi	WrT <i>nyi shu rtsa gcig</i>
二十二	twenty-two	ʼŋi ɕu ^h tsa ^{fi} ŋi	WrT <i>nyi shu rtsa gnyis</i>
二十三	twenty-three	ʼŋi ɕu ^h tsa ^h sū	WrT <i>nyi shu rtsa gsum</i>
三十	thirty	ʼsū' ɕu	WrT <i>sum cu</i>
四十	fourty	ʼfiye ^h ɕu	WrT <i>bzhi bcu</i>
五十	fifty	ʼfiŋa ^h ɕu	WrT <i>lŋa bcu</i>
六十	sixty	ʼtu ^h tɕu	WrT <i>drug cu</i>
七十	seventy	ʼfi ^h d̄i tɕu	WrT <i>bdun cu</i>
八十	eighty	ʼfi ^h dza tɕu	WrT <i>brgyad cu</i>
九十	ninety	ʼfi ^h gu ^h tɕu	WrT <i>dgu bcu</i>
百	hundred	ʼfi ^h dzə	
二百	two hundred	ʼnə ^{fi} dzə	
三百	three hundred	ʼsɔ̄ rɛ̄	
千	thousand	ʼhɕɕi ^h tō	WrT <i>gcig stong</i>
二千	two thousand	ʼh ^h tō ʼt ^h a ^{fi} ŋi	WrT <i>stong phrag gnyis</i>
三千	three thousand	ʼh ^h tō ʼt ^h a ^h sō	WrT <i>stong phrag gsum</i>
万	ten thousand	ʼt ^h ə ʼtə ^h k ^h a	S1-WrT <i>khri</i>
二万	twenty thousand	ʼt ^h ə ^{fi} ŋi	S1-WrT <i>khri</i>
十万	hundred thousand	ʼt ^h ə ʼfia qō	S1-WrT <i>khri</i>
百万	million	ʼt ^h ə ^{fi} dzə	S1-WrT <i>khri</i>
一回	time	ʼtɛ̄ xe ʼnə ma	
倍	time	ʼla pu	
それぞれ	each	ʼh ^h tɕi' ^h k ^h ɛ	
第一	first	ʼʔa ʼtā ^m bū	WrT <i>ang dang po</i>
第二	second	ʼna pɛ	
第三	third	ʼsɔ̄ xɛ̄	
最後	last	ʼna ʼna jɛ̄	
すべて	whole	ʼto	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
みんな	all	ˈra re ˈto	
完全な	complete	ˈfi dʌ' te ˈto	
半分	half	ˈtɕʰi' kʰɛ	WrT <i>phyed ka</i>
量る	weigh	ˈfi dʌ tsʰa ˈhɬũ	
秤	scale	ˈfi dʒa mɛ	WrT <i>rgya ma</i>
重い	heavy	ˈfi dʒa	
軽い	light	ˈfi jə	
多い	many	ˈzə na	
少ない	a few	ˈja ja mə kʰã	
私	I (1SG)	ˈŋə	
私たち	we (1PL)	ˈra' tɕe	
私たち 2人	we two	ˈra' ni	
あなた	you (2SG)	ˈna	
あなたたち	you (2PL)	ˈna' tɕe	
彼/彼女/それ	he/she/it (3SG)	ˈŋõ	
自分	self	ˈrã' rã	WrT <i>rang rang</i>
これ	this	ˈje	
あれ	that	ˈtɕʰo	
この	this (thing)	ˈʔə na qʰa	
あの	that (thing)	ˈkʰɛ' xuu qʰa	
ここ	here	ˈʔə qʰa nə	
あそこ	there	ˈkʰɛ' xuu tʰa	
誰	who	ˈsuu	
何	what	ˈtə	
どれ	where	ˈndu	
どんな	how	ˈndu	
どこ	where	ˈndə rə	
いつ	when	ˈndu' ta	
どれくらい	how many	ˈndu' ta	
いくつか	some	ˈndə rə	
与える	give	ˈrə ra	
いろいろな	various	ˈndɕɛ 'mə ndɕɛ	WrT <i>'dra mi 'dra</i>
おそらく	probably	ˈmə re mə tsə	S3S4-WrT <i>ma tshad</i>
まだ	yet	ˈʔa ka	
さっき	just before	ˈʔa tɕʰo	
一緒に	together	ˈto	

語義	Meaning	mBengo 方言	N.B.
		/ 'tɔ' rə zɛ	
である	be (CPV.E)	'ŋo	
である	be (CPV.STM)	'tɛ ^h ɔ̃	
でない	not be (CPV.STM.NEG)	'ma tɛ ^h ɔ̃	
ある	be (EXV.E)	'k ^h ɑ	
ある	be (EXV.STM)	' ⁿ dzo	
ある	be (EXV.SEN)	'ŋe	
できる	can	'wa	
同じ	same	' ^h tɕi ^h pə	WrT <i>gcig pu</i>
別の	different	'mə ⁿ dɛ	WrT <i>mi 'dra</i>
話す	talk	'sɑ	
ありがとう	thank you	' ^h da t ^h a k ^h ɛ	

付記

本研究に際しては、2017-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (A) 「チベット文化圏東部の未記述言語の解明と地理言語学的研究」(研究代表者: 鈴木博之、課題番号 17H04774) および 2018-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) 「高精細度広域地図による中国および隣接する多言語地域の地理言語学的研究」(研究代表者: 遠藤光暁、課題番号 18H00670) の援助を受けている。

参考文献

- 鈴木博之 (2005) 「チベット語音節構造の研究」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 69 号 1-23
 URI: <http://hdl.handle.net/10108/20212>
- dKon-mchog rGyal-mtshan (2018) *Khams Brag-g.yab sMar-skad-la thog-mar dpyad-pa*. 西藏大學 碩士論文
- Nagano, Yasuhiko & Marielle Prins (2013) *rGyalrongic languages database*. Online: <https://htq.minpaku.ac.jp/databases/rGyalrong/>
- de Nebesky-Wojkowitz, René (1956) *Oracles and demons of Tibet: The cult and iconography of the Tibetan protective deities*. 's-Gravenhage: Mouton.
- Phukhang, J.K. & Peter Schwieger (1982) *Erzählgut aus A-mdo und Brag-g.yab*. Sankt-Augustin: VGH Wissenschaftsverlag.
- Schwieger, Peter (1989) *Tibetisches Erzählgut aus Brag-g.yab : Texte mit Übersetzungen, grammatischem Abriß und Glossar*. Bonn: VGH Wissenschaftsverlag.

- Suzuki, Hiroyuki (2016) In defense of prepalatal non-fricative sounds and symbols: towards the Tibetan dialectology. *Researches in Asian Languages* 10, 99-125.
Online: <http://id.nii.ac.jp/1085/00002195/>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2019) An outline of the sound structure of Lhagang Choyu: A newly recognised highly endangered language in Khams Minyag. *Revue d'études tibétaines* 48, 99-151. Online: http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_48_05.pdf
- Suzuki, Hiroyuki, Sonam Wangmo & Tsering Samdrup (2021) Lamei, another dialect of Lamo (mDzogong, TAR): Vocabulary and sentence structure. In Yasuhiko Nagano & Takumi Ikeda (eds) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 4: Link languages and archetypes in Tibeto-Burman*, 25-69. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University.
- Suzuki, Hiroyuki & Tashi Nyima (2021) Evidential system of copulative and existential verbs in Lamo. In Yasuhiko Nagano & Takumi Ikeda (eds) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 4: Link languages and archetypes in Tibeto-Burman*, 259-287. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University.
- Suzuki, Hiroyuki, Tsering Samdrup & Sonam Wangmo (2018) Contrastive word list of three non-Tibetic languages of Chamdo——Lamo, Larong sMar, and Drag-yab sMar——. *Kyoto University Linguistic Research* 37, 79-104. doi: <https://doi.org/10.14989/240980>
- Tashi Nyima & Hiroyuki Suzuki (2019) Newly recognised languages in Chamdo: Geography, culture, history, and language. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42.1, 38-82. doi: <https://doi.org/10.1075/ltba.18004.nyi>
- Zhao, Haoliang (2018) A brief introduction to Zlarong, a newly recognized language in Mdzo sgang, TAR. *Proceedings of the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics*, 1053-1060. Online: <http://hdl.handle.net/2433/235318>
- 朱曉農 (2010) 《語音學》商務印書館

Wordlist of the mBengo dialect of Drag-yab sMar (Japanese-English)

Hiroyuki SUZUKI

Tsering Samdrup

Sonam Wangmo

abstract

This article primarily provides a wordlist of Drag-yab sMar (mBengo dialect), a Tibeto-Burman language spoken in dPalri Township, Drag-yab County, Chamdo Municipality, Tibet Autonomous Region. The word list contains around 500 words, arranged by semantic fields, in the order of Japanese-English-mBengo. The information of the lexical borrowing is also attached when necessary.

受理日 2021 年 4 月 13 日

下地皆愛方言のアクセント体系に関する予備的報告*

セリック・ケナン

国立国語研究所・kcelik@ninjal.ac.jp

キーワード：宮古語、下地皆愛方言、アクセント体系、複合アクセント法則

本稿では、調査結果に基づき、南琉球宮古語^{しもじみなあい}下地皆愛方言のアクセント体系に関する予備的報告を行う。具体的に次の3点を明らかにする。すなわち、第一に、宮古語の他の方言と同様に各アクセント型の実現を正しく記述するために「韻律語」という韻律的単位を想定する必要がある。第二に、単純名詞の環境では2つの対立するパターンしか観察されないのにもかかわらず、複合アクセント法則が適用される、生産的に作られる複合語においては3つの対立するパターンが現れる。その結果、皆愛方言のアクセント体系は3種類のアクセント型が区別されると分析しなければならない。なお、各名詞のアクセント型の所属を明らかにするための新しい調査パラダイムを提示する。第三に、各アクセント型の音韻的な解釈を提案する。第四に、名詞に関する所属語彙の情報を付録の形で提示する。

1 はじめに

南琉球宮古語に所属する多良間方言が2型ではなく、3型のアクセント体系を持つという発見(松森 2010)以来、宮古諸方言のアクセント体系に関する記述的研究はすさまじい速さで成果を挙げてきた。特に、宮古諸方言のアクセント体系を正しく記述するために、文節とモーラ(あるいは音節)の間に位置し、「韻律語」と名付けられた韻律的単位が必要であることが分かってから(五十嵐 2015, 2016b)、その新しい理論的な枠組みを駆使して数多くの研究成果が蓄積されてきた(例えば Matsumori (2019)、セリック (2020a,c) 等)。

その中で各方言における「韻律語」の実態が今もなお議論の対象となっている。従来の研究は韻律語の統一的な定義を想定した上で、宮古語の複数の方言のアクセント体系を捉えようとしてきた(五十嵐 2016b)。しかし、個別方言の記述を深めたごく最近での研究では、韻律語の韻律的な位置付けが方言ごとに異なる可能性があるという指摘が見られる(セリック・青井 印刷中)。よって、個別の方言を対象とした精密な記述を通して、各方言の内部的な基準を明らかにし、韻律語の実態を吟味する必要がある。

さらに、宮古諸方言のアクセント体系のもう一つの重要な特徴として広範囲に渡るアクセント型の中和現象がある。「中和現象」とは、音韻的に対立する2つのアクセント型が特定の環境

* 本研究は JSPS 科研費 19K13174、20H01259 の助成を受けたものです。本稿の執筆にあたり、山岡翔氏から有益なコメントを多くいただきました。特に各アクセント型の音韻的な解釈は山岡氏の指摘によるところが多くて、ここで感謝の意を表します。なお、いつも調査に協力してくださる長間三夫氏と友利京子氏に心より感謝を申し上げます。

において同じ実現を示し、区別されなくなる現象のことを指し、日本本土諸方言を含めて多くの方言で観察される（東京方言の「鼻」と「花」の単独の発音などはその例である）。このようにアクセント型の中和は決して珍しい現象ではないが、宮古諸方言で観察される中和は広範囲に渡って起きているばかりでなく、環境によって中和するアクセント型の組み合わせが変わったりするなど、非常に複雑な現象となっている。

しかしその中でも極端な例が報告されている。与那覇方言は3つのアクセント型（a型・b型・c型）が対立すると分析されている（松森 2013）が、想定されているa型とb型の中和範囲が異様に広い。つまり、3つのアクセント型の対立は複合語の前部要素の位置でしか観察されない（ただし、b型とc型の2拍名詞はこの環境で中和する）。これに対して、単純名詞のどの環境でもa型とb型は全く同じ実現を示しており、完全に中和している。言い換えると、a型とb型の単純名詞（名詞語根）は単純名詞としてどの環境でも同じ音調を示し、全く区別されないものの、複合語のパターンを元に異なるアクセント型に所属していると分析されている。

このような分析がなされているのは「複合アクセント法則」、すなわち複合語全体のアクセントが前部要素のアクセント型によって決まるといふ法則がその方言において成立していると考えられているからである。確かに「複合アクセント法則」が成立していれば、複合語全体の音調を前部要素の特性として解釈することができる。そして、複合語において3種類の異なる音調が観察されるならば、その必然の結果として、これらの複合語における前部要素はお互い対立する3種類のアクセント型に分かれるということになる。

この議論は筋がよく通っていると言える。しかし、与那覇方言についてデータがほぼ公表されていないこともあり、この方言が3型のアクセント体系を持っているという決定的な証明には至っていない。先行研究の問題点として、第一に、前提となる「複合アクセント法則」は独立の根拠で実証されていない、第二に、調べられた複合語の数が明らかにされていないため、なされている一般化の妥当性については評価しづらい¹、第三に、調べられた複合語は生産的な過程によって生成された複合語ではなく、「水瓶」のように（琉球の伝統的な農業社会において）日常的な物を指すなど、語彙的に登録されている可能性のある複合語である、の3点が挙げられる。つまり、異なる分析として、語彙的な複合語はその音調と共にレキシコンに登録されていると想定することができ、その場合、複合語で観察される3つの対立するパターンは前部要素の特性としてではなく、複合語自体の特徴として解釈することができる。その結果、単純名詞においてアクセント型の3項対立を認める必要性がなくなる。どの分析が妥当であるかを決定するためには、生産的に形成される複合語のみを対象とした上で、健全な一般化ができるように十分なデータを収集する必要がある。

以上のことを踏まえて、本研究では宮古語の個別方言である下地皆愛方言を取り上げ、その方言のアクセント体系の精密な記述を目指しつつ予備的な報告を行う。特に、皆愛方言に焦点を当てるのは与那覇方言と同じ問題があるからである。つまり、単純名詞は2つのパターンシ

¹ 松森 (2013) はデータの数を記しておらず、調べられたアクセント資料も公表していないので、どれぐらいのデータに基づいて一般化がなされているのかを知ることができない。その結果、提案されている分析に不透明性が生じてしまい、結論が正しくてもその妥当性が評価しにくくなっている。

か観察されないのに対して、複合語は3つのパターンが観察される(セリック 2020a)。従って、本稿では、皆愛方言に即した調査パラダイムを考案・駆使しながら、そのアクセント体系に関する予備的な分析を提示する。

2 背景

2.1 皆愛方言

皆愛方言は南琉球宮古語の一方言であり、宮古島の下地地域に位置する皆愛集落で伝統的に話されている。皆愛集落は、平良方面からの一家に加えて上地集落と与那覇集落からの移住者で近世末期にできたという(畑 1983)。セリック (2018:97) で指摘されているように、皆愛方言は上地方言に近いと、上地集落からの移住者の方が多く、彼らが話していた方言が今日の皆愛方言のベースになったと推測することができる。

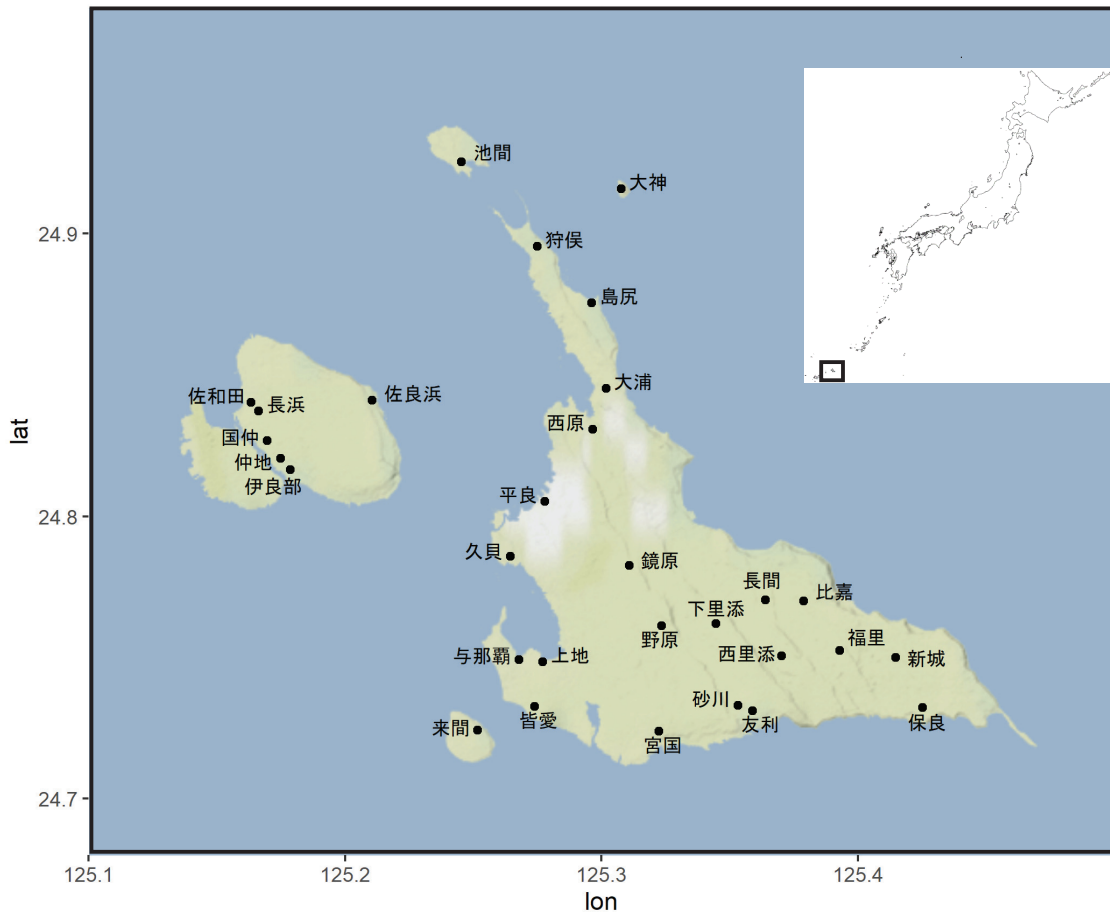


図1 宮古諸島の位置と宮古島の集落

皆愛方言の主な先行研究は文法の簡略記述・テキスト・語彙集を収録したセリック (2018) とアクセント体系の予備的結果を報告したセリック (2020a:187-198) がある。音素体系を (1) に挙げる。

- (1) 皆愛方言の音素体系²(セリック 2018:98)
 子音: p, b, m, f, v, t, d, n, ts, dz, s, z, r, j, k, g, h
 母音: i, ɨ, u, a
 長母音: i:, ɨ:, u:, a:, o:

音調(高音調・低音調)付与の単位は拍である。音調付与の対象となる分節音は母音、音節の核を成しうる m、n、v、f、s の子音と二重子音の前半である。アクセント体系に関する予備的結果については次節で述べる。

2.2 皆愛方言のアクセント体系に関する予備的結果

セリック (2020a) は 2 拍から 4 拍の単純名詞を対象に「単独発話」³、「X=INC=FOC ...」、「X=GEN 話 =ACC ...」、「X=DIR=INC ...」(X は対象語) の 4 つの環境における音調を調べた結果、少なくとも 2 つのアクセント型が対立することを示した。(2)に示すように⁴、ピッチの下降の位置によってアクセント型の明瞭な対立が観察される。(2)においてピッチの下降がより早い位置で実現する型は「c 型」、それに比べてピッチの下降が 1 拍分遅い型は「ab 型」と名付けられる。

- (2) a. ka:=n]kai=mai ... 「井戸へも...」(ab 型)
 b. ka:=n]kai=mai ... 「皮へも...」(ab 型)
 c. naka =]nkai=mai ... 「中へも...」(c 型)
 セリック (2020a:190) より

このように、単純名詞において少なくとも 2 つのアクセント型が対立することが明らかにされたが、十分な数の梓文について調べられてこなかったため、各アクセント型の特徴については一般化がなされていない。また、皆愛方言における韻律語という韻律的単位の必要性やその実態についても明らかにされていない。

次に、2 つの構成要素から成る複合語の音調に関する結果が報告されている。複合語は単純名詞と違って、3 つの異なる音調が観察される (3)。「平板型」の複合語はそれ自体を含む文節にピッチの下降が実現せず、高く発音されている。これに対して、「下降 2 型」と「下降 1 型」の複合語はそれ自体を含む文節にピッチの下降が実現する。具体的に言うと、下降 2 型では後部

² 本稿で採用している表記については次の点に注意されたい。破摩子音は 2 文字で表記しているが、1 つの音素である。ただし、これに対して、[ç, ʒ, tç, dz] と 1 文字で書いている音声はそれぞれ /sj, zj, tsj, dzj/ のように子音とグライドの連続として解釈される。長母音は母音の連続としてみなさないため、V: の表記を採用している。なお、/v/ が短子音である場合 [v] として実現し、それを w で表記している。

³ 単独発話では、文末の下降イントネーションが被さるため、アクセント型の中和が非単独環境に比べより広範囲に起きる。アクセント型の対立を主眼に置いている本稿では、単独発話の音調は扱わない。

⁴ 本稿で掲げる例においては、アクセント型を上付きの小文字で、接語境界を「=」、複合語境界を「+」、接辞境界を「-」で表し、ピッチの局所的な下降と上昇を「[]」の記号で示す。なお、接続形、つまり、対象の語が入っている文節の後に述語などが続くアクセント資料は対象の語が含まれる文節以外の部分を省略し、「...」の記号を添える。

要素のところ、下降 1 型では前部要素のところピッチの下降が実現する。

- (3) a. 平板型 : kadzi + fukɔ = nu panas =]su ... 「台風の話...」
 b. 下降 2 型 : sani + wa: =]nu panas = su ... 「種豚の話...」
 c. 下降 1 型 : ka:]ra + ja: = nu panas = su ... 「瓦葺の家の話を...」
 セリック (2020a:195) より

ここで特に注目されるのは平板型と下降 2 型の複合語の前部要素である。なぜならば、(3ab)に挙がっている複合語の前部要素は同じ ab 型に属しているからである。つまり、単純名詞の環境では同じ ab 型と認定されながらも、語によっては複合語の前部要素になると 2 つの異なる音調が観察される。このような分裂をどのように解釈するべきかが問題となる。

セリック (2020a) ではこの問題に対して答えを与えていないが、41 語の複合語を調べた結果、「平板型」と「下降 2 型」の分裂の分布が琉球祖語で再建される前部要素の系列⁵(服部 1959, 1979a,b)(大山 1962)(松森 1998, 2000a,b, 2010, 2012)(五十嵐 2016a, 2018) に沿っている傾向があることを示している。具体的に言うと、A 系列と B 系列の単純名詞は同じ ab 型の音調で実現しており、完全に合流しているように見える一方、A 系列の前部要素を含む複合語は平板型、B 系列の前部要素を含む複合語は下降 2 型になる傾向が認められる (セリック 2020a:196-198)。

このように、複合語に見られる「平板型」と「下降 2 型」の対立が明らかに古い言語状態の保持であると解釈できる。しかし、共時的な観点ではこの対立をどのように分析できるかは必ずしも自明ではない。例えば、皆愛方言では「複合アクセント法則」(上野 2012:50) が成立していれば、複合語全体の音調が前部要素のアクセント型で決まるということになるので、平板型と下降 2 型の対立を前部要素のアクセント型の対立 (a 型・b 型) として分析できる。しかし、これに対して、複合語の中で語彙化した語があると想定することもできよう。つまり、複合語そのものが音調の情報と共に語彙目録に登録されているという言語状況も考えられる。前者の解釈を採用した場合、つまり、単純名詞レベルで a 型と b 型の対立が指定されると分析した場合、「単純名詞の全環境」という非常に広い中和環境を想定する必要が生じる。そして、当然の結果として、a 型と b 型の所属の習得が「複合語の前部要素」という非常に狭い環境に基づいていなければならない。

以上、先行研究の予備的結果について述べたが、未解決の問題として、A. 韻律語の単位の認定、B. 共時的に対立するアクセント型の数、C. 各アクセント型の実現およびその音韻的な解釈、の 3 点の問題が挙げられる。本稿では、各アクセント型の実現および韻律語の認定を 4 節で、アクセント型の数を 5 節で、そして、アクセント型の音韻的な解釈を 6 節で扱う。

⁵ 「系列」は日本語のアクセント史における「類」と同じ概念である。その定義は次の通りである。「現代諸方言と文献資料(とりわけ、平安末期の漢和辞典である『類聚名義抄』日本語アクセントの再建の声点表示)における単語アクセントの対応に基づいて祖体系に立てられるアクセントの対立グループを「類」と呼ぶが、その所属語彙(その対応を実現している単語)が「類別語彙」である」上野 (2006:3-4)。

3 データ

本稿で使うデータは皆愛方言の母語話者である友利京子氏（昭和 23 年生）の協力の下でエリシテーション調査の形で得られた。これまで、4666 点のアクセント資料を収集している⁶。データの詳細は各節で述べる。

皆愛方言のアクセント資料について 2 つの注意点がある。第一に、皆愛方言では、発話頭が高く始まるため、発話頭における高いピッチの記号は記入しない。第二に、文節の末尾拍に句境界の高音調（以下「句末高音調」）が挿入されることが多い⁷。この高音調は先行する拍が低ければ、通常の高さで実現する (4a)。しかし、先行する拍が既に高ければ、より高い値で実現する傾向が見られる (4b)。本稿のアクセント資料では、文節の末尾拍に置かれる句境界音調を次のように表す。通常の高さで実現する句境界音調を「 $\acute{\circ}$ 」、で、通常より高い値で実現する句末高音調を「 $\acute{\circ}$ 」でマークする。なお、アクセント型の実現を「[]」の記号で記述しきれない音調は音声的な実現に即して国際音声記号を使用する。

- (4) a. ávvá + wá: = nù = dú ... 「脂 + 豚 = NOM = FOC ...」
 b. áká + máj = nú = dǔ ... 「赤 + 米 = NOM = FOC ...」

=dǔ 琉球祖語の系列情報は「日琉語類別語彙（19 年 05 月 17 日版）」（五十嵐 2016a）による。系列は上付きの大文字で示す。

4 皆愛方言における単純名詞のアクセント型の実現と韻律語の認定

4.1 宮古諸方言における「韻律語」の単位

宮古諸方言（多良間、池間、与那覇、狩俣^{かりまた}など）におけるアクセント型の実現を正しく記述するためには「韻律語」（Prosodic Word）という韻律範疇を想定する必要がある（松森 2013, 2015）⁸（五十嵐 2015, 2016b）（Igarashi et al. 2018）。これまでの研究はこの単位が 2 モーラ以上の形態素によって形成される（言い換えれば 1 モーラの形態素は韻律語を形成しない）としている点で一致している（松森 2014, 青井 2016, 五十嵐 2015, 2016b）。五十嵐 (2016b) はさらに、多良間方言と池間方言を対照した研究において、韻律語を「2 モーラ以上の語根・接語が写像される韻律的単位」と定義している。以下、3 つのアクセント型（a 型・b 型・c 型）が区別される多良間方言の例を紹介しながら、韻律語の定義を簡単に説明していく。

多良間方言の c 型名詞の音調を (5) に挙げる。c 型名詞のアクセントは発話頭の表層の実現においてピッチの局所的な下降によって実現する。しかし、環境によってピッチの下降の位置が変動する。2 拍の接語が付いた環境や、複合語の前部要素になる場合、ピッチの下降が名詞語

⁶ その他に同じ皆愛方言の母語話者である長間三夫氏（昭和 30 年生）の協力も得ており、これまで 1763 点のアクセント資料を収録している。二人の話者の間ではアクセント型の実現が一致していることが確認できたが、友利京子氏の語彙の方がより保守的な所属を示している。本稿では、アクセント資料がより豊富にあり、また、通時的な所属がより安定している友利京子氏のデータのみを使う。

⁷ 上地方言についても同様の現象が指摘されている（Matsumori 2019:62）。池間西原方言も同様の現象が確認できている（調査ノート）。

⁸ 松森 (2013) では「音調領域」と仮に呼ばれていた。

根の末尾拍の直前に実現する (5ab)。これに対して、1 拍接語または 1 拍接語の連鎖が付く環境では、ピッチの下降が文節の末尾拍の直前にまで遅れて実現する (5dc)。しかし、1 拍接語の後にさらに 2 拍の接語を付けてみると、ピッチの下降が文節の末尾拍にまで遅れず、1 拍接語の直前に、すなわち、名詞語根の直後に実現する (5e)。

- (5) a. fu]ni^c = mai ... 「船 = INC ...」
 b. fu]ni^c + kuɡ₁ = mai ... 「船 + 漕ぎ = INC ...」
 c. funi^c =]nu ... 「船 = NOM ...」
 d. funi^c = nu =]du ... 「船 = NOM = FOC ...」
 e. funi^c =]nu = gami = du ... 「船 = NOM = EMPH = FOC ...」

これらの違いを説明するために、文節の構造に従って異なる韻律構造が想定される。(5ab)の比較から、2 拍以上の接語が名詞語根と同じ韻律的単位を形成すると考えることができる。一方、1 拍接語や 1 拍接語の連鎖が付くとピッチの下降が遅れるため、1 拍接語と 1 拍接語の連鎖が先行の韻律的単位に組み込まれると解釈できる。つまり、(6) に示す韻律構造を想定することができる。例で「()」でかこってある単位は「韻律語」と呼ばれる単位である。このように韻律語を導入することによって、ピッチの変動の位置を正しく記述することが初めて可能となる。ここでは、多良間方言の c 型の実現について「1 番目の韻律語の末尾拍の直前にピッチの下降が実現する」と一般化ができる。

- (6) a. (fu]ni^c) = (mai) ... 「船 = INC ...」
 b. (fu]ni^c) + (kuɡ₁) = (mai) ... 「船 + 漕ぎ = INC ...」
 c. (funi^c =]nu) ... 「船 = NOM ...」
 d. (funi^c = nu =]du) ... 「船 = NOM = FOC ...」
 e. (funi^c =]nu) = (gami = du) ... 「船 = NOM = EMPH = FOC ...」

そのアクセント体系が記述されたこれまでのどの方言でも韻律語の単位が必要であることが示された (与那覇: 松森 (2013)、池間: 五十嵐 (2016b)、Igarashi et al. (2018)、多良間: 五十嵐 (2015)、狩俣: 松森 (2015)、上地: Matsumori (2019)、水納島: セリック (2020a))。従って、皆愛方言についてもそのアクセント体系を記述する上で韻律語という単位が必要となる可能性が高い。

4.2 単純名詞のアクセント型の実現と韻律語の認定

本節では、単純名詞の音調に関する調査結果を報告し、アクセント型の実現パターンを整理し、韻律語の単位が必要であることを示す。

4.2.1 データ

調査内容は次の通りである。2 拍から 4 拍までの名詞のうち、共時的なアクセント型 (ab 型対 c 型) および琉球祖語の系列 (A、B、C) を考慮して (7) に挙げる語を選び出し、これらの音調を (8) に示す枠文で調べた。

- (7) **midz**^{ab/A} 「水」、**ma**^{ab/A} 「米」、**a:**^{ab/B} 「粟」、**ami**^{ab/B} 「雨」、**ja:**^{ab/B} 「家」、**ki:**^{ab/B} 「木」、**mm**^{ab/B} 「芋」、**mug**^{ab/B} 「麦」、**s**^{ab/B}**ma**^{ab/B} 「島」、**im**^{c/C} 「海」、**nabi**^{c/C} 「鍋」、**tida**^{c/C} 「太陽」、**budu**^{ab/A} 「踊り」、**ts**^{ab/A}**gus**^{ab/A} 「膝」、**kagam**^{ab/B} 「鏡」、**kamats**^{ab/B} 「頬」、**adan**^{c/C} 「阿檀」、**fusu**^{c/C} 「葉」、**o:**^{c/C}**g**^{c/C} 「扇」、**sanag**^{c/C} 「禪」、**mnagu:**^{ab/A} 「砂」、**san**^{ab/A}**çin**^{ab/A} 「三味線」、**ço:**^{c/C}**gats**^{c/C} 「正月」、**so:**^c**min**^c 「素麺」、

- (8) 対象枠文 (X は対象語)

- a. 1 拍接語・1 拍接語の連鎖

X = nu panas = su ... 「X = GEN 話 = ACC ...」

X = nu = du ... 「X = NOM = FOC ...」

X = ju ... 「X = ACC ...」

X = ju = du ... 「X = ACC = FOC ...」

- b. 2 拍以上の接語・2 拍以上の接語と 1 拍接語の連鎖

X = nkai ... 「X = DIR ...」

X = nkai = du ... 「X = DIR = FOC ...」

X = kara ... 「X = ABL ...」

X = kara = du ... 「X = ABL = FOC ...」

X = mai = du ... 「X = INC = FOC ...」

- c. 2 拍以上の接語の連鎖

X = nkai = mai ... 「X = DIR = INC ...」

X = kara = mai ... 「X = ABL = INC ...」

- d. 1 拍接語と 2 拍接語の連鎖

X = ju = mai ... 「X = ACC = INC ...」

同じアクセント型の所属語彙は同じ実現を示しているため、**midz**^{ab/A} 「水」、**mug**^{ab/B} 「麦」、**nabi**^{c/C} 「鍋」(2 拍名詞)、および **budu**^{ab/A} 「踊り」、**kagam**^{ab/B} 「鏡」、**o:**^{c/C}**g**^{c/C} 「扇」(3 拍名詞) を代表例にして議論を進める。

4.2.2 アクセント型の実現

まず、1 拍接語、または 1 拍接語の連鎖が付いた 2 拍名詞の音調を見てみる。2 拍名詞の音調を(9)に示す。いずれの枠文においても 2 つの異なるパターンが観察される。1 つ目のパターンでは、対象語を含む文節がピッチの変動がなく全体に渡って高く発音されている(9abcd-i,ii)⁹。2 つ目のパターンでは、対象語を含む文節の中にピッチの下降が実現する。具体的に言うと、1 拍接語が付くと文節の末尾拍の直前にピッチの下降が実現している(9a-iii)。これに対して、1 拍接語の連鎖が付くと文節の次末尾拍の直前にピッチの下降が実現する(9bd-iii)。対格接語 =ju が付いた枠文では、他とは異なるパターンが観察される(9c-iii)が、この場合、文節の末尾拍に付与される句境界の高音調がアクセント型の実現に干渉していると指摘できる。つまり、3 モーラ句にたいして c 型のアクセント音調と句末高音調を付与するには、音調を担う部分の長さ(モーラ数)が足りないので、ここでは音調が弱化していると考えられる。句境界の高音調が挿入されていない発音だと、(9a-iii)と同じように、文節の末尾拍の直前におけるピッチの下降が観察される(10)。

- (9) a. (i) midz₁ = nu panas =]su ... 「水^{ab/A} = GEN 話 = ACC ...」
 (ii) mug₁ = nu panas =]su ... 「麦^{ab/B} = GEN 話 = ACC ...」
 (iii) nabi =]nu panas = su ... 「鍋^{c/C} = GEN 話 = ACC ...」
 b. (i) midz₁ = nu = du ... 「水^{ab/A} = NOM = FOC ...」
 (ii) mug₁ = nu = du ... 「麦^{ab/B} = NOM = FOC ...」
 (iii) nabi =]nu = du ... 「鍋^{c/c} = NOM = FOC ...」
 c. (i) mit = tsú ... 「水^{ab/A} = ACC ...」
 (ii) mug₁ = zú ... 「麦^{ab/B} = ACC ...」
 (iii) nábj = ū' ... 「鍋^{c/c} = ACC ...」¹⁰
 d. (i) mit = tsu = dú ... 「水^{ab/A} = ACC = FOC ...」
 (ii) mug₁ = zu = dú ... 「麦^{ab/B} = ACC = FOC ...」
 (iii) nabj = u]: = dú ... 「鍋^{c/c} = ACC = FOC ...」
 (10) im =]mu ... 「海^{c/C} = ACC ...」

3 拍名詞は 2 拍名詞とほぼ同じパターンを示している(11)。つまり、名詞によって 2 つのパターンが現れており、1 つ目のパターンでは(当該の文節において)ピッチの下降が観察されな

⁹ 「X^{ab} = GEN 話 = ACC ...」の枠文において後続する文節にピッチの下降が観察されるが、これは対象の名詞とは関係しない現象である。皆愛方言では多良間方言と同様に「X = nu Y」(X の Y)という構造だと、Y のアクセント型とは無関係に Y によって形成される韻律語にアクセント音調が付与される。panas =]su 「話 = ACC」に観察されるピッチの下降はこのアクセント音調の付与による。なお、以下の議論で分かるように、音韻的には/pana]s=su/が正しい可能性がある。無声音に低音調があるにしても、その観察ことが難しいため、ここでは一貫して panas =]su と表記する。

¹⁰ 対格の接語 =ju は短母音終わりの名詞に付くと C₁=ju > C₁zu, Ci=ju > Cju:, Ca=ju > Co:, Cu=ju > Cu: のように融合する。ただ、名詞が ts₁, dz₁, s₁ や fu に終わる場合、ts₁=ju > ttsu, dz₁=ju > ddzu, s₁=ju > ssu, fu=ju > ffu となり、また、子音終わりの場合は m=ju > mmu, n=ju > nnu, v=ju > vvu となる。

い(11abcd-i,ii)。これに対して、2つ目のパターンではピッチの下降が観察される(11abcd-iii)。ただし、下降の位置に着目すると、2拍名詞とは次の違いがあることが分かる。すなわち、1拍接語が付く環境では、文末の末尾拍の直前ではなく、文節の次末尾拍の直前にピッチが下降する(11ac-iii)。4拍名詞は3拍名詞と全く同じなので、データの提示を省略する。

- (11) a. (i) $\text{budu}\eta = \text{nu panas} =]\text{su} \dots$ 「踊り^{ab/A} = GEN 話 = ACC ...」
 (ii) $\text{kagan} = \text{nu panas} =]\text{su} \dots$ 「鏡^{ab/B} = GEN 話 = ACC ...」
 (iii) $\text{o:}]\text{g}\eta = \text{nu panas} = \text{su} \dots$ 「扇^{c/C} = GEN 話 = ACC ...」
 b. (i) $\text{budu}\eta = \text{nu} = \text{du} \dots$ 「踊り^{ab/A} = NOM = FOC ...」
 (ii) $\text{kagam} = \text{nu} = \text{du} \dots$ 「鏡^{ab/B} = NOM = FOC ...」
 (iii) $\text{o:}]\text{g}\eta =]\text{nu} = \text{du} \dots$ 「扇^{c/C} = NOM = FOC ...」
 c. (i) $\text{budu}\eta = \text{z}\acute{\text{u}} \dots$ 「踊り^{ab/A} = ACC ...」
 (ii) $\text{kagam} = \text{m}\acute{\text{u}} \dots$ 「鏡^{ab/B} = ACC ...」
 (iii) $\text{o:}]\text{g}\eta = \text{zu} \dots$ 「扇^{c/C} = ACC ...」
 d. (i) $\text{budu}\eta = \text{zu} = \text{d}\acute{\text{u}} \dots$ 「踊り^{ab/A} = ACC = FOC ...」
 (ii) $\text{kagam} = \text{mu} = \text{d}\acute{\text{u}} \dots$ 「鏡^{ab/B} = ACC = FOC ...」
 (iii) $\text{o:}]\text{g}\eta =]\text{zu} = \text{d}\acute{\text{u}} \dots$ 「扇^{c/C} = ACC = FOC ...」

次に、2拍以上の接語、または2拍以上の接語と1拍接語の連鎖を含む粹文の音調をしてみる。2拍名詞の音調を(12)に示す。2拍以上の接語が付く全ての環境では、どのアクセント型でもピッチの下降が観察される。= kara 「ABL」や= mai 「INC」が付く環境では、ab型とc型の名詞が同じパターンを示しており、文節末の次末尾拍の直前にピッチの下降が実現する(12cde-i,ii,iii)。つまり、この環境ではab型とc型の対立が中和している。しかし、これに対して、= nkai 「DIR」が付く粹文では、ab型とc型が対立している。具体的に言うと、ab型の名詞は他の粹文と同様に文節末の次末尾拍の直前にピッチの下降が実現する(12ab-i,ii)。一方、c型の名詞は焦点接語の有無とは関係なく、ピッチの下降位置が固定しており、最初に付く= nkai 「DIR」の直前に実現する(12ab-iii)。

- (12) a. (i) $\text{midz}\eta = \text{n}]\text{ka}\acute{\text{i}} \dots$ 「水^{ab/A} = DIR ...」
 (ii) $\text{mug}\eta = \text{n}]\text{ka}\acute{\text{i}} \dots$ 「麦^{ab/B} = DIR ...」
 (iii) $\text{nabi} =]\text{nka}\acute{\text{i}} \dots$ 「鍋^{c/C} = DIR ...」
 b. (i) $\text{midz}\eta = \text{nka}]\text{i} = \text{du} \dots$ 「水^{ab/A} = DIR = FOC ...」
 (ii) $\text{mug}\eta = \text{nka}]\text{i} = \text{d}\acute{\text{u}} \dots$ 「麦^{ab/B} = DIR = FOC ...」
 (iii) $\text{nabi} =]\text{nkai} = \text{d}\acute{\text{u}} \dots$ 「鍋^{c/C} = DIR = FOC ...」
 c. (i) $\text{midz}\eta =]\text{kar}\acute{\text{a}} \dots$ 「水^{ab/A} = ABL ...」
 (ii) $\text{mug}\eta =]\text{kar}\acute{\text{a}} \dots$ 「麦^{ab/B} = ABL ...」
 (iii) $\text{nabi} =]\text{kar}\acute{\text{a}} \dots$ 「鍋^{c/C} = ABL ...」
 d. (i) $\text{midz}\eta = \text{ka}]\text{ra} = \text{d}\acute{\text{u}} \dots$ 「水^{ab/A} = ABL = FOC ...」

- | | | |
|--------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| (ii) | mug ₁ = ka]ra = dú ... | 「麦 ^{ab/B} = ABL = FOC ...」 |
| (iii) | nabi = ka]ra = dú ... | 「鍋 ^{c/C} = ABL = FOC ...」 |
| e. (i) | midz ₁ = ma]i = dú ... | 「水 ^{ab/A} = INC = FOC ...」 |
| (ii) | mug ₁ = ma]i = dú ... | 「麦 ^{ab/B} = INC = FOC ...」 |
| (iii) | nabi = ma]i = dú ... | 「鍋 ^{c/C} = INC = FOC ...」 |

続いて、(11)と同じ環境における3拍名詞の音調を(13)に示す。まず、2拍名詞と違って、どの枠文においても ab 型と c 型が対立している。次に、ab 型の3拍名詞は2拍名詞と同じパターンを示しており、文節の次末拍の直前にピッチの下降が実現する(13abcde-i,ii)。しかし、これに対して、c 型の3拍名詞は =kara と =mai を含む枠文において c 型の2拍名詞とは異なる音調を示している。つまり、ピッチの下降位置が固定しており、名詞語根の末尾拍の直前に実現している。=nkai を含む枠文も同様である。

- | | | |
|-------------|------------------------------------|---|
| (13) a. (i) | budu ₁ = n]kaí ... | 「踊り ^{ab/A} = DIR ...」 |
| (ii) | kagam =]kaí ... | 「鏡 ^{ab/B} = DIR ...」 ¹¹ |
| (iii) | o:]g ₁ = nkaí ... | 「扇 ^{c/C} = DIR ...」 |
| b. (i) | budu ₁ = nka]i = dú ... | 「踊り ^{ab/A} = DIR = FOC ...」 |
| (ii) | kagam = ka]i = dú ... | 「鏡 ^{ab/B} = DIR = FOC ...」 |
| (iii) | o:]g ₁ = nkai = dú ... | 「扇 ^{c/C} = DIR = FOC ...」 |
| c. (i) | budu ₁ =]kará ... | 「踊り ^{ab/A} = ABL ...」 |
| (ii) | kagam =]kará ... | 「鏡 ^{ab/B} = ABL ...」 |
| (iii) | o:]g ₁ = kará ... | 「扇 ^{c/C} = ABL ...」 |
| d. (i) | budu ₁ = ka]ra = du ... | 「踊り ^{ab/A} = ABL = FOC ...」 |
| (ii) | kagam = ka]ra = dú ... | 「鏡 ^{ab/B} = ABL = FOC ...」 |
| (iii) | o:]g ₁ = kara = dú ... | 「扇 ^{c/C} = ABL = FOC ...」 |
| e. (i) | budu ₁ = ma]i = dú ... | 「踊り ^{ab/A} = INC = FOC ...」 |
| (ii) | kagam = ma]i = dú ... | 「鏡 ^{ab/B} = INC = FOC ...」 |
| (iii) | o:]g ₁ = mai = dú ... | 「扇 ^{c/C} = INC = FOC ...」 |

以上見てきたように、接語によって異なるパターンが観察される。ab 型と c 型が対立する環境 (=nkai を含む枠文) と中和する環境 (=kara や =mai を含む枠文) の違いは一見接語の長さ (3 拍の =nkai 対 2 拍の =kara、=mai) に起因するように見える。しかし、宮古諸方言の =nkai 「DIR」が特殊な韻律的振る舞いを示していることがよく知られている (与那覇: 松森 (2013:76)、多良間: 松森 (2014:15-16) 五十嵐 (2015:11-12)、上地: Matsumori (2019:64)、水納島: セリック (2020a:174)、池間西原: 調査ノート)。つまり、=nkai 「DIR」は 1 拍接語

¹¹ 鼻音終わりの語に =nkai が付くと、後続の鼻音、つまり接語の最初の分節が削除される。ここでは、基底形の //kagam = nkai// から [kagamkai]、または後続の子音と同化した [kagan]kai の表層形になる。

と 2 拍接語の連鎖と同じ振る舞いを示しており、**n** の部分が先行する韻律語に組み込まれるのに対して、残りの **kai** の部分が独自の韻律語を形成する（水納島方言の例を(14)に挙げる）。よって、皆愛方言についても同様である可能性が高く、そのため、=**nkai** の振る舞いを解釈する前に 1 拍接語と 2 拍以上の連鎖の音調を調べる必要がある。

- (14) a. (funi^c =]n) = (mai = du) ... 「船水 = DAT = INC = FOC ...」
 b. (funi^c =]n)(ke: = du) ... 「船 = DIR = FOC ...」
 セリック (2020a:170,174) より

続いて、2 拍以上の接語の連鎖を含む枠文の音調を(15)と(16)に示す。まず、2 拍名詞についてアクセント型の対立及び中和の条件は(12)と同じである。すなわち、最初の接語が =**nkai** であれば、ab 型と c 型が対立し、一方、最初の接語が =**kara** であれば、ab 型と c 型が中和する。従って、アクセント型の対立や中和は最初の接語に起因していることが分かる。続いて、最初の接語が =**nkai** である環境では、=**nkai** が単独に付く環境(12a)と同じ位置にピッチの下降が見られる(15a)。例えば、ab 型の場合は最初の接語である =**nkai** の次末拍の直前にピッチの下降が現れる(15a-i,ii)。このパターンは下降の絶対的な位置からすると(12a)と同じであるものの、相対的に見ると、つまり文節末から数えれば、下降の位置が異なっている。=**kara** を含む枠文についても、同様の違いがあると指摘できる。つまり、(15b)における下降の位置が =**kara** が単独に付く環境(12c)と同じであるが、文節末から数えれば、位置が異なっている。

- (15) a. (i) midz₁ = n]kai = maí ... 「水^{ab/A} = DIR = INC ...」
 (ii) mug₁ = n]kai = maí ... 「麦^{ab/B} = DIR = INC ...」
 (iii) nabi =]nkai = maí ... 「鍋^{c/C} = DIR = INC ...」
 b. (i) midz₁ =]kara = maí ... 「水^{ab/A} = ABL = INC ...」
 (ii) mug₁ =]kara = maí ... 「麦^{ab/B} = ABL = INC ...」
 (iii) nabi =]kara = maí ... 「鍋^{c/C} = ABL = INC ...」
- (16) a. (i) budu₁ = n]kai = maí ... 「踊^{ab/A} = DIR = INC ...」
 (ii) kagan =]kai = maí ... 「鏡^{ab/B} = DIR = INC ...」
 (iii) o:]g₁ = nkai = maí ... 「扇^{c/C} = DIR = INC ...」
 b. (i) budu₁ =]kara = maí ... 「踊^{ab/A} = ABL = INC ...」
 (ii) kagam =]kara = maí ... 「鏡^{ab/B} = ABL = INC ...」
 (iii) o:]g₁ = kara = maí ... 「扇^{c/C} = ABL = INC ...」

最後に 1 拍接語と 2 拍接語の連鎖を含む枠文の音調を見てみよう。まず、2 拍名詞の音調を(17)に示す。この環境では、ab 型と c 型が対立する。ab 型は文節末の次末拍の直前にピッチの下降が実現する(17ab)。これに対して、c 型は文節末の次次末拍(17c)の直前にピッチの下降が見られる。ちなみに、これらのパターンは =**nkai** が付くときと全く同じである。そのため、皆愛方言でも =**nkai** が 1 拍接語と 2 拍接語の連鎖と同じ韻律的構造を持っていると解釈

できる。

- (17) a. mit = tsu =]maí ... 「水^{ab/A} = ACC = INC ...」
 b. mugɿ = zu =]maí ... 「麦^{ab/B} = ACC = INC ...」
 c. nabj = u]: = maí ... 「鍋^{c/C} = ACC = INC ...」

次に、3拍名詞の音調を(18)に示す。3拍の ab 型名詞は2拍名詞と同じパターンを示しており、文節の次末拍の直前にピッチの下降が実現する。3拍の c 型名詞は文節末から数えて4つ目の拍の直前にピッチの下降が観察される。

- (18) a. buduɿ = zu =]maí ... 「踊り^{ab/A} = ACC = INC ...」
 b. kagam = mu =]maí ... 「鏡^{ab/B} = ACC = INC ...」
 c. o:]gɿ = zu = maí ... 「扇^{c/C} = ACC = INC ...」

以上、各梓文におけるアクセント型の実現を見てきたが、次節では韻律的構造の解釈について述べる。

4.2.3 韻律的解釈

単純名詞の実現を表1、表2、表3に纏める¹²。なお、前節で論じたように、=nkai が1拍接語と2拍接語の連鎖と同じ韻律的構造を持つと考えられるため、(韻律的な観点では) =nkai を1拍接語と2拍接語の連鎖として見なして議論を進める。

諸表で確認できるように環境によってピッチの下降の位置がずれることがある。このずれに着目すれば各文節の韻律的構造を明らかにすることができる。以下、3拍・4拍の c 型名詞と ab 型名詞を順番に見ていく。

3拍・4拍の c 型の名詞に2拍の接語が付くと、ピッチの下降の位置が一定しており、名詞語根の末尾拍(3拍名詞)あるいは次末拍(4拍名詞)の前にある(表2(fgh)、表3(fgh))。しかし、1拍接語(4拍名詞)、または1拍接語の連鎖(3拍・4拍名詞)が付くと、ピッチの下降が右へとずれていく(表2(b)、表3(ab))。ただし、1拍接語の後に2拍以上の接語が続くと、下降のずれが阻止される。具体的に言うと、3拍名詞はピッチの下降がずれない(表2(cde))。4拍名詞はピッチの下降が1拍分しかずれない(表3(cde))。

次に、ab 型の名詞の実現を見てみよう。まず、ピッチの下降が現れる環境が必ず2拍の接語を含んでいることが分かる(表1(cdefgh)、表2(cdefgh)、表3(cdefgh))。次に、ピッチの下降がずれる環境を見ると次の通りである。つまり、2拍接語に2拍の接語が付くと、ピッチの下降の位置が最初の2拍接語の次末拍の前で一定しており、2番目の2拍接語がない環境と同じである(表1(cefh)、表2(cefh)、表3(cefh))。しかし、2拍接語の後に1拍の接語が続くと、ピッチの下降が1拍分右へとずれていく(表1(dg)、表2(dg)、表3(dg))。

¹² 句末高音調はアクセント型の指定とは無関係であるため、記入していない。

表1 2拍名詞の実現 (影付きのセルは中和環境)

環境	ab 型	c 型
a. X=nu、X=ju	$\mu\mu = \mu$	$\mu\mu =]\mu$
b. X=nu=du、X=ju=du	$\mu\mu = \mu = \mu$	$\mu\mu =]\mu = \mu$
c. X=ju=mai、X=nkai	$\mu\mu = \mu =]\mu\mu$	$\mu\mu =]\mu = \mu\mu$
d. X=nkai=du	$\mu\mu = \mu = \mu]\mu = \mu$	$\mu\mu =]\mu = \mu\mu = \mu$
e. X=nkai=mai	$\mu\mu = \mu =]\mu\mu = \mu\mu$	$\mu\mu =]\mu = \mu\mu = \mu\mu$
f. X=kara	$\mu\mu =]\mu\mu$	$\mu\mu =]\mu\mu$
g. X=kara=du、X=mai=du	$\mu\mu = \mu]\mu = \mu$	$\mu\mu = \mu]\mu = \mu$
h. X=kara=mai	$\mu\mu =]\mu\mu = \mu\mu$	$\mu\mu =]\mu\mu = \mu\mu$

表2 3拍名詞の実現

環境	ab 型	c 型
a. X=nu、X=ju	$\mu\mu\mu = \mu$	$\mu\mu]\mu = \mu$
b. X=nu=du、X=ju=du	$\mu\mu\mu = \mu = \mu$	$\mu\mu\mu =]\mu = \mu$
c. X=ju=mai、X=nkai	$\mu\mu\mu = \mu =]\mu\mu$	$\mu\mu]\mu = \mu = \mu\mu$
d. X=nkai=du	$\mu\mu\mu = \mu = \mu]\mu = \mu$	$\mu\mu]\mu = \mu = \mu\mu = \mu$
e. X=nkai=mai	$\mu\mu\mu = \mu =]\mu\mu = \mu\mu$	$\mu\mu]\mu = \mu = \mu\mu = \mu\mu$
f. X=kara	$\mu\mu\mu =]\mu\mu$	$\mu\mu]\mu = \mu\mu$
g. X=kara=du、X=mai=du	$\mu\mu\mu = \mu]\mu = \mu$	$\mu\mu]\mu = \mu\mu = \mu$
h. X=kara=mai	$\mu\mu\mu =]\mu\mu = \mu\mu$	$\mu\mu]\mu = \mu\mu = \mu\mu$

表3 4拍名詞の実現

環境	ab 型	c 型
a. X=nu、X=ju	$\mu\mu\mu\mu = \mu$	$\mu\mu\mu]\mu = \mu$
b. X=nu=du、X=ju=du	$\mu\mu\mu\mu = \mu = \mu$	$\mu\mu\mu\mu =]\mu = \mu$
c. X=ju=mai、X=nkai	$\mu\mu\mu\mu = \mu =]\mu\mu$	$\mu\mu\mu]\mu = \mu = \mu\mu$
d. X=nkai=du	$\mu\mu\mu\mu = \mu = \mu]\mu = \mu$	$\mu\mu\mu]\mu = \mu = \mu\mu = \mu$
e. X=nkai=mai	$\mu\mu\mu\mu = \mu =]\mu\mu = \mu\mu$	$\mu\mu\mu]\mu = \mu = \mu\mu = \mu\mu$
f. X=kara	$\mu\mu\mu\mu =]\mu\mu$	$\mu\mu]\mu\mu = \mu\mu$
g. X=kara=du、X=mai=du	$\mu\mu\mu\mu = \mu]\mu = \mu$	$\mu\mu]\mu\mu = \mu\mu = \mu$
h. X=kara=mai	$\mu\mu\mu\mu =]\mu\mu = \mu\mu$	$\mu\mu]\mu\mu = \mu\mu = \mu\mu$

これまでの観察を次のようにまとめることができる。第一に、ピッチの下降のずれは1拍接語、または1拍接語の連鎖が付く環境に限って起こる。第二に、ab型のピッチの下降が実現するのは、必ず2拍の接語が文節に含まなければならない。別の観点で言い換えると、1拍接語の連鎖が付くと、2拍の接語が付く時と同じ長さの文節が形成されるのにも関わらず、ピッチの下降が現れない。この2点から、1拍接語および1拍接語の連鎖と2拍以上の接語が異なる韻律構造を持っていると解釈せざるを得ない。つまり、ピッチの下降の有無とその位置を正しく記述するためには文節とは別の単位を想定する必要がある。

表4 枠文別の韻律構造 (4拍名詞)

環境	ab型	c型
a. X=nu、X=ju	(μμμμ=μ)	(μμμ]μ=μ)
b. X=nu=du、X=ju=du	(μμμμ=μ=μ)	(μμμμ=]μ=μ)
c. X=ju=mai、X=nkai	(μμμμ=μ)=(]μμ)	(μμμ]μ=μ)=(μμ)
d. X=nkai=du	(μμμμ=μ)=(μ]μ=μ)	(μμμ]μ=μ)=(μμ=μ)
e. X=nkai=mai	(μμμμ=μ)=(]μμ)=(μμ)	(μμμ]μ=μ)=(μμ)=(μμ)
f. X=kara	(μμμμ)=(]μμ)	(μμ]μμ)=(μμ)
g. X=kara=du、X=mai=du	(μμμμ)=(μ]μ=μ)	(μμ]μμ)=(μμ=μ)
h. X=kara=mai	(μμμμ)=(]μμ)=(μμ)	(μμ]μμ)=(μμ)=(μμ)

そこで、宮古の他の方言と同じように2拍以上の語根・接語によって形成される「韻律語」という単位を導入すると、各アクセント型の実現を簡単に説明できるようになる。つまり、表4のような韻律的構造を想定すると、各アクセント型の表層の音調について次のように(暫時的に)一般化することができる(19)。

(19) 各アクセント型の暫時的解釈

- a. c型は1番目の韻律語にピッチの下降が指定されている。
- b. ab型は2番目の韻律語にピッチの下降が指定されている。
- c. ピッチの下降は韻律語の次末拍の直前に実現する。

それに加えて、それぞれの一般化について(20)の特殊なケースを記す必要がある。

- (20) a. 1番目の韻律語が2拍である場合はc型のピッチの下降が2番目の韻律語に実現する。その結果、ab型との中和が起こる。
- b. 2番目の韻律語がない場合はab型のピッチの下降が実現しない¹³。
- c. ピッチの下降が指定されている韻律語が文節の1番目の韻律語で、かつ3拍である場

¹³ 1番目の韻律語が2拍で、次の韻律語がない場合は、c型でもピッチの下降が実現しないことが予測される。しかし、裸格がないため、文末イントネーションが被さる文末以外の環境では、そのような条件が中々成立しない。c型の2拍の副詞や副詞として使われるc型の2拍名詞を調べる必要がある。

合は、ピッチの下降が韻律語の末尾拍の直前に実現する。

韻律語を想定することが複合語の音調との比較からも支持される。つまり、2つの拍名詞から成る複合語は2拍の名詞と2拍の接語と同じ韻律的な振る舞いを示している。ab型の mug]「麦」と2番目の韻律語に下降の指定がある mami + gi:「豆 + 木」の比較を(21)(22)に示す。

- (21) a. (mug]) = (ka]ra = dú) ... 「麦 = ABL = FOC ...」
 b. (mami) + (gi:] = jú) ... 「豆 + 木 = ACC」
- (22) a. (mug]) = (]kara) = (maí) ... 「麦 = ABL = INC ...」
 b. (mami) + (]gi:] = (kará) ... 「豆 + 木 = ABL」

以上、皆愛方言について韻律語という単位が必要であることを論じた。その暫時的な定義を(23)に示す。この定義では、単純名詞や2拍以上の接語だけでなく、複合語の構成要素もそれぞれ1つの韻律語を形成することに注意されたい。

(23) 韻律語の定義

「韻律語は2拍以上の語彙的語根・接語によって形成される単位である」

韻律語を想定することにより、各アクセント型の音韻的な解釈が可能となる。しかし、2.2節で述べたように複合語で観察される音調パターンが単純名詞より多く、そのため、もし複合アクセント法則が成立しているのであれば、単純名詞において3種類のアクセント型が対立する可能性が残されている。従って、単純名詞のアクセント型の音韻的な解釈を行う前に複合語の詳細な調査結果を経て、対立するアクセント型の数を確認する必要がある。次節では、複合語の詳細な調査結果に基づき、皆愛方言の単純名詞は少なくとも3種類のアクセント型が区別されることを示す。

5 皆愛方言の（少なくとも）3型のアクセント体系

本節の本題に入る前に、前節で明らかにした韻律語を使って表層の音調をより簡潔に記述できる方法を導入する。以下では、対象の語を含む文節におけるピッチの下降の有無とその位置に着目して表層の音調を次のように記述する。すなわち、ピッチの下降がないパターンを F0 で表し、ピッチの下降が実現するパターンを、下降が実現する韻律語の位置番号を使って F1、F2、F3 などのように表す¹⁴。単純環境と複合語環境の例を(24)(25)に示す。

- (24) a. F1 : (s]ga]ma = nu) (panas = su) ... 「洲鎌 = GEN 話 = ACC ...」
 b. F1 : (s]ga]ma = n)(kai = dú) ... 「洲鎌 = DIR = FOC ...」

¹⁴ F は Falling の略である。このノーテーションは音声学の f0「基本周波数」とや f1-f3「第1-3 フォーマント」と混同されかねないため、望ましくない側面はある。しかし、適切かつ見やすいという条件を満たす他のノーテーションを思いつくことができなかつたため、本稿では、暫時的に F0 などをを用いる。

- c. F2 : (pssara = n)(ka]i = dú) ... 「平良 = DIR = FOC ...」
 d. F0 : (pssara = nu) (panas =]su)¹⁵... 「平良 = GEN 話 = ACC ...」
- (25) a. F1 : (s]ga]ma) + (bikidun = nu) (panas = su) ... 「洲鎌 + 男 = GEN 話 = ACC ...」
 b. F2 : (tumu] + (bikidu]n = nu) (panas = su) ... 「友利 + 男 = GEN 話 = ACC ...」
 c. F0 : (uidz] + (bikidun = nu) (panas =]su) ... 「上地 + 男 = GEN 話 = ACC ...」

1節と 2.2で指摘したように、複合語において3つのパターンが観察されるとしても、これらのパターンは前部要素のアクセント型の対立に起因するとはただちには判断できない。つまり、複合語で観察されるパターンは完全に前部要素によって決まるということをまず実証する必要がある。このため、語彙的に登録されていそうな複合語ではなく、生産的に形成される複合語を調査対象とするべきである。本節では、生産的に形成される複合語の複数の調査パラダイムを実施した上で、複合アクセント法則が成立していることを示す。それによって、皆愛方言の単純名詞は3つのアクセント型が区別されると結論付ける（ただし、地名名詞では4項のアクセント対立が見られる）。

なお、本節で扱う「複合語」は「2つの名詞語根、または名詞語根と単一形態的動詞の転成名詞から構成される語」のように定義される。ここでいう「名詞語根」は名詞の形態素（つまり、共時的体系においてそりより分解できない意味の最小単位）である。

5.1 地名の調査パラダイム

宮古語における地名名詞は複合語の前部要素になりやすい。例えば、後部要素が人間を表す名詞であれば、複合語を幾らでも作ることができる(26)(27)。このため、地名名詞は生産的に形成される複合語の音調を調べるために非常によく適していると言える。地名をこのように使った研究は存在する(松森 2015)ものの、十分な数の複合語が調べられたわけではない。ここでは、地名の調査パラダイムを確立させて十分な数の複合語の調査結果を報告・分析する。

- (26) a. tarama + p]tu 「多良間+人（多良間島出身の人）」
 b. tarama + munu 「多良間+者（多良間島出身の人）」
 c. tarama + midum 「多良間+女（多良間島出身の女性）」
 d. tarama + uja 「多良間+父（多良間島出身の中年の男性）」
 e. tarama + ffa 「多良間+子（多良間島出身の子供）」
 等々

¹⁵ panas =]su に観察される下降は対象の名詞である pssara のアクセント型とは無関係である（注9を参照されたい）。(pssara = nu) においては下降が実現しないため、F0のパターンに該当する。次の例においても同様である。

5.1.1 データ

対象の地名と後部要素に使った名詞を(27)(28)に挙げる。地名と後部要素の各組合せを $X+Y=nu\ panas=su \dots$ 「 $X+Y=GEN$ 話 = $ACC \dots$ 」の枠文で調べた。それに加えて、それぞれの地名について単純名詞の環境における音調を $X=nu\ panas=su \dots$ 「 $X=GEN$ 話 = $ACC \dots$ 」(以下「単純1」と $X=nkai=du \dots$ 「 $X=DIR=FOC \dots$ 」(以下「単純2」)の枠文で調べた。

(27) 調査対象の地名 (24 語)

irav	「伊良部」 <small>いらぶ</small>	junapa	「与那覇」 <small>よなほ</small>	kaɣmata	「狩俣」 <small>かりまた</small>
kanittsa	「カニツァ」 <small>かみつ</small>	nudzakɣ	「久松」 <small>ひさまつ</small>	sɣgama	「洲鎌」 <small>すがま</small>
tarama	「多良間」 <small>たらま</small>	uruka	「砂川」 <small>うるか</small>	tanani:	「棚根」 <small>たなね</small>
ffima	「来間」 <small>くりま</small>	tumuɣ	「友利」 <small>ともり</small>	mja:ku	「宮古」 <small>みやこ</small>
mja:gun	「宮国」 <small>みやくに</small>	jamatu	「大和 (本土)」 <small>やまと</small>	aragusɣku	「新城」 <small>あらぐすく</small>
sɣmadzɣ:	「島尻」 <small>しまじり</small>	ikima	「池間」 <small>いけま</small>	ka:mtsɣ	「川満」 <small>かわみつ</small>
uidzɣ	「上地」 <small>うえち</small>	pssara	「平良」 <small>ひらら</small>	bura	「保良」 <small>ぼら</small>
ja:ma	「八重山」 <small>やえやま</small>	isarafugu	「石原窪」 <small>いさらふぐ</small>	nna:ɣ	「皆愛」 <small>みなあい</small>

(28) 調査対象の後部要素 (9 語)

- a. ab 型: bikidum^{ab} 「男」、ffa^{ab} 「子供」、futsɣ^{ab} 「語」、midum^{ab} 「女」、mmari^{ab} 「生まれ」
- b. c 型: adza^c 「兄」、anga^c 「姉」、ffa-gama^c 「子供-DIM」、munuɣ^c 「語」

5.1.2 調査結果

地名を含む複合語の調査結果を表5に示す(データが欠落している場合はセルを空白のままにしている)。これらの複合語において3つの異なるパターンが観察された(29)。すなわち、ピッチの下降が実現しないパターン(29c)、ピッチの下降が1番目の韻律語に実現するパターン(29a)、ピッチの下降が2番目の韻律語に実現するパターン(29b)が現れる。

- (29) a. F1 : (sɣga]ma) + (bikidun = nu) (panas = su) ... 「洲鎌 + 男 = GEN 話 = ACC ...」
- b. F2 : (tumuɣ] + (bikidu]n = nu) (panas = su) ... 「友利 + 男 = GEN 話 = ACC ...」
- c. F0 : (uidzɣ] + (bikidun = nu) (panas =]su) ... 「上地 + 男 = GEN 話 = ACC ...」

それぞれのパターンの分布を見ると、まず、後部要素のアクセント型が複合語全体の音調に参与していないことが分かる。その理由は次の2点にある。第一に、同じ後部要素でも複合語によって音調が異なる。第二に、後部要素のアクセント型が変わっても、複合語の音調が変わらない。これに対して、複合語全体の音調が前部要素に依存することが言える。なぜならば、前部要素を固定するとどのような後部要素でも同じ音調が観察されるからである。このように、複合語全体の音調が前部要素によって決定されるので、少なくとも地名を前部要素にした複合語においては複合アクセント法則が成立していると解釈できる。そして、前部要素によって3つの

表5 地名を含む複合語の音調
(影付きセルは発音間違いと思われる)

	男 ^{ab}	子供 ^{ab}	語 ^{ab}	女 ^{ab}	生 ^{ab}	兄 ^c	姉 ^c	子 ^c	語 ^c
上地	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0
棚根	F0	F0	F0	F0	F0	F2	F0	F0	F0
平良	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0
保良	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0	F0
八重山	F0	F0	F0	F0	F2	F0	F0	F2	F0
宮古	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
皆愛	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	
伊良部	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
狩俣	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
来間	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
友利	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
宮国	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
大和	F2	F2	F2	F0	F2	F2	F2	F2	F2
新城	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
島尻	F2		F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
池間	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
川満	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2	F2
カニツツァ	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1
洲鎌	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1
多良間	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1
久松	F1	F1	F1	F1	F2	F1	F1	F1	F1
与那覇	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1
砂川	F2	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1
石原窪	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	F1	

異なるパターンが観察されるため、これらの前部要素が3つの異なるアクセント型に所属していると想定せざるを得ない。すなわち、皆愛方言は3型のアクセント体系を持つと結論できる。

しかし、単純名詞の環境における音調を見るとそれほど簡単な話ではないことが分かる。複合語の前部要素と単純名詞の環境における地名の音調を表6に示す。

上の4節で確認したように、単純名詞の環境では2つのパターンしか観察されない。ただし、さらに詳しく見ると、次の通りである。複合語の環境でF1のパターンを示す語は単純名詞の環境でも一貫してF1(つまりc型の音調)を示している(30)。同様に、複合語の環境でF0のパターンを示す語は単純名詞の環境では一貫してab型のパターンを示している。具体的に言うと、

表6 地名を含む複合語の音調：複合語と単純環境の比較

	複合語	単純 1	単純 2
上地	F0	F0	F2
棚根	F0	F0	F2
平良	F0	F0	F2
保良	F0	F0	F2
八重山	F0	F0	F2
宮古	F2	F0	F2
皆愛	F2	F0	F2
伊良部	F2	F1	F1
狩俣	F2	F1	F1
来間	F2	F1	F1
友利	F2	F1	F1
宮国	F2	F1	F1
大和	F2	F1	F1
新城	F2	F1	F1
島尻	F2	F1	F1
池間	F2		F1
川満	F2	F1	F1
カニツツァ	F1	F1	F1
洲鎌	F1	F1	F1
多良間	F1	F1	F1
久松	F1	F1	F1
与那覇	F1	F1	F1
砂川	F1	F1	F1
石原窪	F1	F1	F1

1つの韻律語が形成される単純1の環境ではF0(31a)、2つ以上の韻律語が形成される単純2の環境ではF2のパターンを示している(30b)。

- (30) a. F1 : (s₁gama = nu) (panas = su) ... 「洲鎌 = GEN 話 = ACC ...」(単純1)
 b. F1 : (s₁ga]ma = n)(kai = dú) ... 「洲鎌 = DIR = FOC ...」(単純2)
- (31) a. F0 : (pssara = nu) (panas =]su) ... 「平良 = GEN 話 = ACC ...」(単純1)
 b. F2 : (pssara = n)(ka]i = dú) ... 「平良 = DIR = FOC ...」(単純2)

しかし、これに対して複合語の環境で F2 のパターンを示す語は単純名詞の環境においては一貫しないパターンを示している。一部の語は F1 (つまり、c 型のパターン) で実現している(32a)。一方、もう一部の語は F0・F2 (つまり、ab 型のパターン) で現れる(32b)。

- (32) a. (i) F1 : (tumu]₁ = nu) (panas = su) ... 「友利 = GEN 話 = ACC ...」 (単純 1)
 (ii) F1 : (tumu]₁ = n)(kai = dú) ... 「友利 = DIR = FOC ...」 (単純 2)
 b. (i) F0 : (nnaṛ] = nu) (panas =]su) ... 「皆愛 = GEN 話 = ACC ...」 (単純 1)
 (ii) F2 : (nnaṛ] = n)(ka]i = du) ... 「皆愛 = DIR = FOC ...」 (単純 2)

単純名詞の環境では 2 つのパターン、複合アクセント法則が成立している複合語の環境では 3 つのパターンが観察されるが、単純名詞と複合語のパターンの組み合わせからすると、4 つもの異なるカテゴリーを想定せざるを得ない。つまり、データを素直に分析すれば、表 7 に示す 4 つのアクセント類を立てなければならない。

表7 皆愛方言のアクセント型

型	単純 1	単純 2	複合語
a	F0	F2	F0
b1	F0	F2	F2
b2	F1	F1	F2
c	F1	F1	F1

しかし、4 つのアクセント型を想定するべきかに当たっては詳細な議論が必要である。宮古語の中で 4 型のアクセント体系が既に実証されており (多良間仲筋方言、(セリック 2021))、その可能性は十分にあると考えられる。ただし、多良間仲筋方言で想定される 4 つのアクセント型は音調の上で対立している(33)。これに対して、皆愛方言では表層のレベルで最大 3 つの音調しか対立していないため、多良間仲筋方言とは状況が大きく違う。つまり、皆愛方言について 4 型のアクセント体系を認めた場合、音調の対立に加えて「環境別の指定」というさらなる対立変数を導入する必要性が生じる。

- (33) 多良間仲筋方言の 4 つのアクセント型 (セリック 2021)
- a. a 型 : (bikidum) = (mai) ... 「男 = INC ...」
 b. b 型 : (baka:ri) = (ma]i) ... 「別れ = INC ...」
 c. c 型 : (mavvu]l) = (mai) ... 「守り神 = INC ...」
 d. d 型 : (u]i)(kjo:) = ([mai) ... 「茴香 = INC ...」

この「環境別の指定」を詳しく見ると、次の通りである。c 型と b1 型は単純名詞・複合語のいずれの環境でも対応するパターンを示している。c 型はどの環境 (単純 1、単純 2、複合語) で

も 1 つ目の韻律語にピッチの下降が実現する。b1 型は単純 2 と複合語の環境では 2 番目の韻律語にピッチの下降が実現する。ただし、文節が 1 つの韻律語から構成される単純 1 の環境の場合は 2 つ目の韻律語がないため、アクセント型によって指定されるピッチの動きが実現できず、その結果、F0 のパターンになる。表層のレベルでは単純 1 と単純 2 に観察される b 型のパターンが異なるが、同じ指定、すなわち「2 番目の韻律語に下降が実現する」というふうに解釈できる。従って、c 型と b1 型は環境を問わず同じ指定を受けていると解釈できる。a 型は単純 2 (F2) と複合語 (F0) の環境において異なる指定があるように見えるが、6 節で詳しく論じるように無指定の型として分析することができるため、単純 2 の環境に現れる下降は別の原理で説明される。しかし、この 3 つの型と異なり、b2 型は環境によって対応しないパターンで実現している。複合語の環境では、ピッチの下降が 2 番目の韻律語に指定されているのに対して、単純名詞の環境では、ピッチの下降が 1 番目の韻律語に指定されている。このように、b2 型は環境によって異なる指定を受けていることが分かる。

以上のように、b2 型は唯一環境別に異なる指定を受けているので、アクセント体系の中で浮いている存在であることが言える。つまり、b2 型を語彙的な例外として処理するという分析も成立する可能性がある。そこで、b2 型を体系の中に納まる 1 つのアクセント型として立てる分析と、b2 型を b1 型の「例外」として処理する分析のそれぞれの妥当性を判断するために「所属語彙」という基準が有効である。具体的に言うと、特殊な振る舞いをする語群が「少数である」及び「顕著な片寄りを示す」という条件を満たせば、その振る舞いを「例外」として記述することができる。逆に、調査を重ねれば重ねるほど新しい所属語彙が見つかっていくことと、顕著な片寄りが見られないことが確認できれば、その特殊な振る舞いをアクセント体系の中で定着したアクセント型として分析することが可能である。

ここで報告している地名には b2 型に所属している語が最も多く、語数として b1 型をはるかに上回っている。しかし、以下の 5.2.2 節で報告する一般名詞の調査では、b1 型が多く見付かるのに対して、b2 型が 1 語も見付かっていない。さらに、b2 型には B 系列の *jamatu* 「大和」が入っているので、b2 型の所属語彙の中に B 系列の語が見つかることが予測されるが、これまで調べられてきた B 系列の名詞はそのほとんどが単純 1 の環境において F0 の音調を示している (特にセリック (2020a:192-193) にある系列別の語彙リストを参照されたい)。現時点では、確認できている b2 型の所属語彙は本節の地名のみとなっている¹⁶。つまり、「少数である」と「意味的な片寄りがある」という条件が満たされているため、b2 型を例外的なパターンとして分析できそうである。ただし、十分な数の語彙が調べられていないため、調査を重ねていくにつれてこれらの条件が成立し続けるかどうかは全く分からない。従って、ここでは b2 型に関する解釈を保留する。ただし、音調の上で対立する a 型、b1 型、c 型の方が皆愛方言のアクセント体系の核心を成していると思われている。

以上、皆愛方言が少なくとも 3 種類のアクセント型を区別していることが分かった。ところ

¹⁶ ただし、*uibi* 「指」は b2 型の所属語彙である可能性がある。残念ながら、十分なデータがないため、その所属をまだ判断できない。

が、アクセント型の認定方法が大きな問題となる。なぜならば、ある名詞のアクセント型を認定するために、単純名詞の環境における音調に加えて、その名詞が前部要素となる、生産的に形成される複合語の音調も調べる必要があるからである。残念ながら、本節で用いた調査パラダイムは地名のアクセント型を認定するのに特化しており、その汎用性が低い。従って、全ての名詞について複合語が生産的に作れるような調査パラダイムを新しく開発しなければならない。次節では、汎用性が高いという条件を満たす新しい調査パラダイムを提案する。

5.2 目的節の調査パラダイム

前節で見たようにアクセント型の認定方法が問題となる。幸いなことに全ての名詞に適用できる調査パラダイムを提案することができる。宮古語では、「目的節」と呼ばれる従属節があり、この従属節は述語（自動詞・他動詞）の名詞形と =ga 「PURP」とによって構成され、「～しに...」の意味を表す(34)。そして、述語が他動詞で、その目的語が表現されている場合は、目的語と述語がそれぞれの句で実現することができる(35a)一方、1つの複合語を形成することもできる(35b)¹⁷。

(34) appɪ = ga ika-di = ti: ...
 遊ぶ.NML = PURP 行く -VOL = QUOT
 「遊びに行こうと...」(セリック 2018:163)

(35) a. fuso =: kaɪ = ga ik-a
 草 = ACC 刈る.NML = PURP 行く -HORT
 「草を刈りに行こう」
 b. fusa + kaɪ = ga ik-a
 草 + 刈る.NML = PURP 行く -HORT
 「草刈りに行こう」
 (調査ノート)

目的語と他動詞の組み合わせは自由度が高いため、目的節を使えば、どの名詞でもそれを前部要素として含む複合語を生産的に作ることが可能である(36)。この調査パラダイムは汎用性が高いだけでなく、対象の名詞を複数の複合語でテストできる点でも優れている。

(36) a. midzɪ + tuɪ = ga ... 「水 + 取る.NML = PURP ...」
 b. midzɪ + ko: = ga ... 「水 + 買う.NML = PURP ...」
 c. midzɪ + vv = ga ... 「水 + 売る.NML = PURP ...」
 d. midzɪ + sɪti = ga ... 「水 + 捨てる.NML = PURP ...」
 等々

¹⁷ 複合語を形成することが多いが、両方の構造が自由に交替できる。

ただし、この調査パラダイムが有効であるためには、目的節において形成される複合語に複合アクセント法則が適用されていなければならない。それを確認するためにまず 5.2.1 節では目的節の調査パラダイムを地名に応用し、その有効性を確認する。そして、5.2.2 節では一般名詞に関する調査結果を報告する。

5.2.1 目的節における地名

使用した枠文を(37)¹⁸に示す。本来は後部要素が a 型の動詞である枠文も調べる必要があるが、地名名詞に合う適切な a 型の他動詞は思いつかなかったので調査していない。調査結果とその要約を表 8 と表 9 に示す。

- (37) (uidzɨ) + (mi:^c = ga) = (mai = du) ɣkɨ-ta:
 上地 + 見る.NMLZ = PURP = INC = FOC 行く -PST
 「上地見物にも行った」

調査結果を整理してみよう。まず、c 型の地名は目的節において一貫して F1 のパターンを示している。これは、他の複合語に見られるパターンと同じであることから、目的節においても複合アクセント法則が成立していると解釈しても矛盾が生じない。b1 型の地名も目的節と複合語に現れるパターンが一致しているため、同様である。

しかし、これに対して、a 型と b1 型はそれぞれ 2 つの異なるパターンが現れる。b2 型の地名から見てみよう。b2 型の地名は F1 と F2 のパターンが観察される¹⁹。F2 は複合語に見られるパターンと同じなので、目的節において F2 が現れるのは複合アクセント法則が適用された結果と見ることができる。これに対して、F1 は単純名詞の環境で観察されるパターンと一致しているため、目的節において F1 が現れる場合、目的節の環境が「単純名詞の環境に準じる」と解釈せざるを得ない。その要因として、複合語が形成されるのにも関わらず、アクセント単位 (=1 つのアクセント型が実現する単位) が前部要素と後部要素で分かれることが考えられる。表層のレベルでは c 型に分類される後部要素のアクセント型の実現の痕跡がないが、同じ文節においてアクセント型によって指定される音調の数に関するような制約が働いている可能性がある。F1 と F2 が現れる違いを(38)に示す ({} はアクセント単位の境界を表す)。

- (38) a. 複合アクセント法則が適用された 1 単位形
 {(jamatu^{b1}) + (mi:^c =]ga) = (mai = du)} ... 「大和 + 見る.NML = PURP = INC ...」
 b. 2 単位形
 {(kaɣ]mata^{b1})} + {(mi:^c = ga) = (mai = du)}... 「狩俣 + 見る.NML = PURP = INC ...」

同じ環境なのにも関わらず、場合によっては 1 単位または 2 単位が形成されるという分析は矛

¹⁸ 過去形の韻律構造はまだ明らかになっていないので、韻律語の表記を省いた。

¹⁹ 一回限りの調査をしているため、観察される音調の「揺れ」は語彙的な違いによるのか、それとも、同じ語の場合でも見られるのかは不明である。

表8 目的節における地名の音調

地名	型	目的節
上地		F3
棚根		F2
平良	a	F2
保良		F3
八重山		F2
宮古		F2
皆愛	b1	F2
伊良部		F2
狩俣		F1
来間		F2
友利		F2
宮国		F1
大和	b2	F2
新城		F1
島尻		F1
池間		F2
川満		F1
カニッツァ		F1
洲鎌		F1
多良間		F1
久松	c	F1
与那覇		F1
砂川		F1
石原窪		F1

表9 目的節における地名の音調 (要約)

型	単純 2	複合語	目的節
a	F2	F0	F2 ~ F3
b1	F2	F2	F2
b2	F1	F2	F1 ~ F2
c	F1	F1	F1

盾しているように思われるかもしれない。しかし、多良間方言について同様の環境で全く同じ現象が起きていることが既に報告されている。セリック (2020b) によると、名詞と動詞の名詞形から成る複合語は2つのパターンを示している。1つ目は、1つのアクセント単位が形成され、複合アクセント法則が適用されるパターンである(39a)。2つ目は、2つのアクセント単位が形成され、複合語のそれぞれの構成要素のアクセント型が実現するパターンである(39b)。1単位形と2単位形の詳しい出現条件についてはよく分かっていないものの、2単位形が出現する要因として、複合語の構成要素の関係が関わっていると考えられる。つまり、複合語化した目的語と述語の名詞形は統語的な関係によって結ばれているため、他の複合語の構成要素と比べて

その独立性が相対的に高く、その結果、2 単位形となりやすいことが想定できる。

- (39) a. 1 単位形: $\{(pu]ni^c) + (bu]^c) = (mai)\}$... 「骨折も...」
 b. 2 単位形: $\{(na]ka^c)\} + \{(tu]^c) = ([mai)\}$... 「仲取りも...」
 セリック (2020b:298) より

では、a 型の地名を見てみよう。a 型の地名は F3 と F2 のパターンが観察される。F3 は 5.1 節で見てきた複合語の環境に出現するパターンとは異なるが、この違いはあくまで文節の構造の違いによる。なぜならば、5.1 節で報告した調査では、対象の複合語が含まれる文節が 2 つの韻律語から構成される(40a)のに対して、本節の調査では、対象の複合語が含まれる文節は 3 つの韻律語から構成される(40b)からである。5.1 節で調べた複合語を類似した粹文、つまり 3 つの韻律語から構成される文節に入れれば、F3 のパターンが出てくる(40c)。

- (40) a. $(uidz_1^a) + (munu = nu) \dots$ 「上地 + 者.GEN ...」
 b. $(uidz_1^a) + (mi: = ga) = (ma]i = dú) \dots$ 「上地 + 見る.NML = PURP = INC = FOC ...」
 c. $(uidz_1^a) + (munu) = (ka]ra = dú) \dots$ 「上地 + 者 = ABL = FOC ...」

それに従って、目的節に現れる F3 のパターンを複合アクセント法則が適用されたパターンであると解釈できる(41a)。

現れるもう 1 つのパターン、すなわち F2 は単純名詞の環境と同じであるが、表層の音調の実現原理が異なっている(単純名詞の環境の実現原理については 6 節を参照されたい)。ここでは、b1 型と同様に 1 単位形と 2 単位形の実現があると仮定すれば、F2 のパターンを次のように説明できる。つまり、目的節の複合語の構成要素がそれぞれ 1 つアクセント単位をなしており、前部要素の a 型は実現する単位が 1 つの韻律語から構成されるため、6 節で見る通り、ピッチの下降がなく高く実現する。それに対して、後部要素のアクセント型が c 型であるため、1 番目の韻律語にピッチの下降が実現する(41b)。ここで、ピッチの下降が現れるのは後部要素のアクセント型によるという解釈である。

- (41) a. 複合アクセント法則が適用された 1 単位形
 $\{(uidz_1^a) + (mi: = ga) = (ma]i = dú)\} \dots$ 「上地 + 見る.NML = PURP = INC ...」
 b. 2 単位形
 $\{(pssara^a)\} + \{(mi: =]ga) = (mai = du)\} \dots$ 「平良 + 見る.NML = PURP = INC ...」

以上見てきたように、目的節において形成される複合語は 1 単位形と 2 単位形で揺れている。つまり、目的節の調査パラダイムは万能ではないということである。しかし、それでも複合アクセント法則が適用された 1 単位形のパターンが出ることもあり、その場合、アクセント型を確実に認定できる。構成要素のアクセント型の組み合わせによって目的節で予測される音調を

表 10と表 11に示す²⁰。

表10 目的節で予測される音調 (2 拍)				表11 目的節で予測される音調 (3 拍～)			
前部	後部	1 単位形	2 単位形	前部	後部	1 単位形	2 単位形
a	a	F3	F3	a	a	F3	F3
	c	F3	F2		c	F3	F2
b	a	F2	F3	b1	a	F2	F3
	c	F2	F2		c	F2	F2
c	a	F2	F2	b2	a	F2	F1
	c	F2	F2		c	F2	F1
c	a	F2	F2	c	a	F1	F1
	c	F2	F2		c	F1	F1

これらの表では、アクセント型が確実に認定できるケースが赤く塗ってある。目的節の複合語において1単位形も2単位形も出現しうる結果、アクセント型の認定を行う際にどの組み合わせでも有効であるわけではない。その原理について少し詳しく説明をしよう。アクセント型を認定するために、まず、単純名詞の音調を元に a・b1 型か b2・c 型の所属情報が得られる。次に、複合語の音調を元に a 型か b1 型、あるいは b2 型か c 型の所属が判断できる。しかし、目的節で形成される複合語は複合アクセント法則が適用された1単位形と2単位形とで揺れるため、1単位・2単位の両方の実現を考慮してアクセント型を確実に認定できる組み合わせに着目する必要がある。例えば、単純環境では F0・F2 (a 型・b1 型) で実現する名詞と a 型動詞の組み合わせにおいて F3 のパターンが観察されたならば、前部要素が a 型であるとはただちには判断できない。なぜならば、b 型 (b1 型) と a 型動詞の組み合わせが2単位として実現する場合、F3 のパターンが出るからである。つまり、b 型 (b1 型) と a 型の2単位形の可能性を排除し切れない。これに対して、単純環境では F0・F2 (a 型・b1 型) で実現する名詞と c 型動詞の組み合わせにおいて F3 が観察されれば、2単位形としての解釈ができず、前部要素が a 型であることが確実に言える。

以上のことから、目的節の調査パラダイムは万能ではないにしても、それを使うことによって一定の結果が得られることが期待できると言える。

5.2.2 一般名詞

調査対象語と調べた枠文は(42)(43)の通りである (系列の情報を上付きの文字で示す)。意味的な制約もあり、各名詞に対して全ての枠文を調べることができなかったが、各名詞に対して少なくとも3つの枠文を調べた。

²⁰ 動詞は2つの対立するアクセントクラスしかない。ここでは、多良間方言との対応に基づき、(目的節に現れる) 動詞の名詞形が a 型と c 型であると仮定しておく。

(42) a. ab 型 (36 語):

ami^A「飴」、isɿ^A「石」、ɣzu^A「魚」 kabɿ^A「紙」、kan^A「蟹」、katçu:^A「鯉」、maɿ^A「米」、midzɿ^A「水」、mnagu:^A「砂」、mutsɿ^A「餅」、taki^A「竹」、tuɿ^A「鳥」、usɿ^A「牛」、ikja^A「鳥賊」、a:^B「粟」、sanim^A「月桃」²¹、sudi^B「袖」、fusa^B「草」、bu:ɣɿ「砂糖黍」、mussu^B「筵」²²、ki:^B「木」、nu:ma「馬」、mami^B「豆」、mugɿ^B「麦」、mm^B「芋」、in^B「犬」、avva^B「油」、mta^B「土」、ko:dzɿ^A「麴」、sani^B「種」、maju^B「眉毛」、dzɿ:^B「土地」、ja:^B「家」、taku^B「蛸」、tçɑ:^B「お茶」、pana^B「花」

b. c 型 (24 語):

funi^C「船」、magu「容器の一種」、uɿ^B「瓜」、bo:^C「棒」、pɿ:^C「針」、kami^C「甕」、nabi^C「鍋」、kuv^C「昆布」、sɿv^C「冬瓜」、funiɿ^C「蜜柑」、a:sa^C「石蓴」、pindza^C「山羊」、tçaban「茶碗」、abasa^C「ハリセンボン」、ga:na「家鴨」、unagɿ^C「鰻」、jumuna^C「鼠」、ka:ra^C「瓦」、katana^C「包丁」、ɣzara^C「鎌」、pasam^C「鋏」²³、guçan^C「杖」、dadifu「木の一種」、o:ɣɿ^C「扇」

(43) 枠文 (X は対象語)

- a. X + fo:^a = ga = mai = du ... 「X+ 食べる.NML = PURP = INC = FOC」
 b. X + ko:^a = ga = mai = du ... 「X+ 買う.NML = PURP = INC = FOC」
 c. X + vv^a = ga = mai = du ... 「X+ 売る.NML = PURP = INC = FOC」
 d. X + mi:^c = ga = mai = du ... 「X+ 見る.NML = PURP = INC = FOC」
 e. X + tuɿ^c = ga = mai = du ... 「X+ 取る.NML = PURP = INC = FOC」

まず、c 型の調査結果を見てみよう。c 型名詞の音調を表 12 に示す。どの枠文でも一貫したパターンが観察される。2 拍名詞は 2 番目の韻律語にピッチの下降が生じる (F2)。3 拍以上の名詞は 1 番目の韻律語にピッチの下降が生じる (F1)。これらのパターンは表 10 と表 11 で予測される通りである。3 拍以上の名詞については、b2 型が紛れても F1 のパターンが実現しうするため、b2 型の可能性は完全に排除できていない。しかし、複合語を多く試しても繰り返し F1 が観察されるとなると、b2 型の可能性が低くなると考えることができる。つまり、ここの 3 拍以上の名詞を c 型に分類しても差し支えがない (なお、そのほとんどが C 系列に所属しているため、b2 型の可能性はそもそも低い)。

²¹ 「五十嵐語彙」では X とされるが、A を再建する。

²² 「五十嵐語彙」では C とされるが、伊江島 muɿɿ^u^b、多良間 mussu^{a~b}、皆愛 mussu^{ab}、与那国 musu^b から B 類である可能性の方が高い。

²³ 琉球祖語では B だが、南琉球祖語では C である。

表12 c型名詞調査結果

拍数	対象語	X + mi: ^c	X + tuŋ ^c	X + fo: ^a	X + ko: ^a	X + vv ^a	
2	uŋ ^B	瓜	F2	F2	F2	F2	F2
	bo: ^C	棒	F2	F2		F2	F2
	pŋ: ^C	針	F2	F2		F2	F2
	kami ^C	甕	F2	F2		F2	F2
	nabi ^C	鍋	F2	F2		F2	F2
	kuv ^C	昆布	F2	F2		F2	F2
	sŋv ^C	冬瓜	F2		F2	F2	F2
	magu	容器の一種	F2	F2		F2	
	funi ^C	船		F2		F2	F2
3	abasa ^C	針千本	F1	F1	F1	F1	F1
	ga:na	家鴨	F1	F1	F1	F1	F1
	unagŋ ^C	鰻	F1	F1	F1	F1	F1
	jumuna ^C	鼠	F1	F1		F1	F1
	karra ^C	瓦	F1	F1		F1	F1
	katana ^C	包丁	F1	F1		F1	F1
	ŋzara ^C	鎌	F1	F1		F1	F1
	pasam ^C	鋏	F1	F1		F1	F1
	guçan ^C	杖	F1	F1		F1	F1
	dadifu	木の一種	F1	F1		F1	F1
	a:sa ^C	石蓴	F1	F1	F1	F1	
	pindza ^C	山羊	F1	F1	F1	F1	
	tçaban	茶碗	F1	F1		F1	
	funiŋ ^C	蜜柑		F1	F1	F1	
o:ŋi ^C	扇	F1			F2	F1	

次に、ab型名詞の音調を表13に示す。観察されるパターンに基づきab型名詞を3つの語群に纏めることができる。第一の語群では、どの枠文でも2番目の韻律語にピッチの下降が生じる(F2)。後部要素がa型の動詞である場合、F2のパターンを2単位形として分析できないため、後部要素に実現する下降が前部要素の特徴によると解釈するほかはない。つまり、これらの語群はb型に分類される。この語群の中にA系列の語がたくさん含まれることに注意されたい。

第二の語群では、F2とF3の両方のパターンが見られる。しかし、F3が現れる環境は後部要素がa型の動詞に限る。この環境ではF3が実現しても2単位形としての解釈が成立しているため、前部要素の所属が判断できない。ただし、taku「蛸」mutsŋ「餅」、kabŋ「紙」は後部要素がa型でもF3の他にF2のパターンも現れるため、(発音の間違いでなければ)b型であると

表13 ab 型名詞調査結果

対象語		X + mi: ^c	X + tuɿ ^c	X + vv ^a	X + ko: ^a	X + fo: ^a
ami ^A	飴	F2	F2	F2	F2	F2
katɕu: ^A	鯉	F2	F2	F2	F2	F2
nu:ma	馬	F2	F2	F2	F2	F2
mami ^B	豆	F2	F2	F2	F2	F2
mugɿ ^B	麦	F2	F2	F2	F2	F2
mm ^B	芋	F2	F2	F2	F2	F2
ki: ^B	木	F2	F2	F2	F2	
mnagu: ^A	砂	F2	F2	F2	F2	
isɿ ^A	石	F2	F2	F2	F2	
taki ^A	竹	F2	F2	F2	F2	
in ^B	犬	F2	F2	F2	F2	
avva ^B	油	F2	F2	F2	F2	
mta ^B	土	F2	F2	F2	F2	
ko:dzɿ ^A	麴	F2	F2	F2	F2	
sani ^B	種	F2	F2	F2	F2	
sanim ^A	月桃	F2	F2	F2	F2	
maju ^B	眉毛	F2	F2	F2	F2	
bu:ɡɿ	砂糖黍	F2	F2	F2		
mussu ^B	筵	F2	F2	F2		
fusa ^B	草	F2	F2		F2	
maɿ ^A	米	F2		F2	F2	F2
dzɿ: ^B	土地	F2		F2	F2	
ja: ^B	家	F2		F2	F2	
a: ^B	粟		F2	F2	F2	F2
sudi ^B	袖		F2	F2	F2	
ikja ^A	烏賊		F2	F2		F2
usɿ ^A	牛	F2	F2	F3	F3	F3
taku ^B	蛸	F2	F2	F2	F3	F3
mutɿ ^A	餅	F2	F2	F2	F3	F2
midzɿ ^A	水	F2	F2	F3	F3	
tɕa: ^B	お茶	F2	F2	F3	F3	
kabɿ ^A	紙	F2	F2	F2	F3	
kan ^A	蟹	F2	F2	F3		F2
tuɿ ^A	鳥	F3	F3	F3	F3	F3
ɿzu ^A	魚	F3	F3	F3		

判断できる。

最後に、第三の語群では一貫して F3 のパターンが実現する。後部要素が c 型である場合、2 単位形としての解釈が成立しないため、これらの語は確実な a 型であると言える。結局、所属が未判定の語は第二語群の usɿ「牛」、midzɿ「水」、tɕa:「お茶」の 3 語のみとなっている。

以上、一般名詞について、単純名詞の環境においては 2 つのパターンしか対立しないのにも関わらず、複合アクセント法則が適用される、生産的に形成される複合語においては 3 つの対立するパターンが現れることが確認できた。つまり、地名と同様に ab 型の中に 2 つの異なるアクセント型 (a 型・b 型) が混在していることが言える。このように、(地名に見られる b2 型の位置付けをさておいて) 皆愛方言のアクセント体系を 3 型のアクセント体系として分析することが一般名詞に関する結果からも強く支持される。

5.3 考察

地名と一般名詞の調査を通じて、皆愛方言は 3 つのアクセント型が区別されることを示した。そこで、歴史的な考察を交えると良い。これまで a 型と認定できた名詞は A 系列 (tuɿ「鳥」、ɿzu「魚」、ja:ma「八重山」) に所属しているか、A 系列の前部要素を持つ複合語に由来する (pssara「平良」 < *pira^A + ra「平たい + 場所」、uidzɿ「上地」 < *ue^A + zi「上 + 地」か「植 + 地」、tanani:「棚根」 < *tana^A + ni:「棚 + 根」)。つまり、皆愛方言に見られる a 型と b 型の区別は古い区別の保持であることが言える。しかし、その反面に、A 系列に所属していながら、b 型に分類される語が多い (ami「飴」、isɿ「石」、ikja「烏賊」等)。この事実から、皆愛方言の (おそらく古くない) 先史において a 型の所属語彙の大部分が b 型に移行したと想定できる。この歴史的な背景を前提に、複合語の音調の共時的体系と b 型化の動機の 2 点について簡単な考察を加えておく。

本節 (5 節) ではもっぱら生産的に形成される複合語を対象にし、これら複合語の音調を元に前部要素のアクセント型の同定を行った。そこで、生産的に形成される複合語で見られる音調と、語彙的に登録されていそうな複合語で観察される音調が一致しているかどうかという疑問が起こる。当然ながら、ある複合語が語彙的に登録されているかどうかを客観的に判断することは難しいが、語彙的な複合語を特定する 1 つの近似法として「話者自身が辞書の項目として立項したいかどうか」という代用の規準を使うことができる²⁴。このように、皆愛方言の語彙的な複合語の音調を検討してみると、非常に興味深い事実が浮上する。つまり、A 系列の語の中に、共時的には b 型化しているのにもかかわらず、それを含む語彙的な複合語は全て本来のパターンを保持している語が見付かる。A 系列に属している isɿ^{b/A}「石」と maɿ^{b/A}「米」は 5.2.2 節で報告した結果に従って、共時的に b 型に分類される。つまり、複合アクセント法則が適用される、生産的に形成される複合語においては F2 (つまり b 型) のパターンで実現している。しかし、この 2 語を前部要素とする語彙的な複合語は全て a 型の音調 (F0・F3) で実現している(44)(45)。

²⁴ 宮古語の場合は収録語が網羅的で、かつ話者自身が項目を決めた『伊良部方言辞典』(富浜 2013) と『多良間方言辞典』(渡久山・セリック 2020) に掲載されているかどうかという具体的な基準になる。

- (44) $is_1^{b/A}$ 「石」を含む語彙的複合語 (「X + Y = GEN ...」における音調を示す)
- a. $is_1 + gu^{F0}$ 「石+岩」
 - b. $is_1 + kak_1^{F0}$ 「石+垣」
 - c. $is_1 + ts_1m^{F0}$ 「石+積み」
 - d. $is_1 + dzajafu^{F0}$ 「石+大工」
- (45) $ma_1^{b/A}$ 「米」を含む語彙的複合語 (「X + Y = GEN ...」における音調を示す)
- a. $ma_1 + gu^{F0}$ 「米+粉」
 - b. $ma_1 + ts_1bu^{F0}$ 「米+粒」
 - c. $ma_1 + go:s_1^{F0}$ 「米+菓子」
 - d. $ma_1 + ta:ra^{F0}$ 「米+俵」

皆愛方言のこのようなデータは「複合アクセント法則」を考えるに当たって大きな意味を持ちうると考えられる。具体的に言うと、(44)と(45)に挙げられている複合語は複合アクセント法則が適用されておらず、その音調が語彙的な情報として登録されていると分析するほかはない。しかし、例えば、多良間方言のように単純名詞において a 型と b 型が合流していない方言であれば、これらの語彙的複合語はその音調が語彙的に登録されているとしても、複合アクセント法則が適用されているように見えてしまう。その結果、これらの方言においては複合アクセント法則の実際の適用範囲が過剰評価されてしまっている可能性が出てくる。皆愛方言は b 型化という歴史的な弾みによって、複合語に関する語彙的情報の在り方を顕在化させている極めて重要なデータを提供してくれると言える。なお、皆愛方言のこの状況は語彙的な複合語の音調だけに基づいて共時的なアクセント型を判断することは適切な調査方法でないことも証明している。

続いて、a 型の所属語彙の大部分が b 型化している動機について次のように考えられる。a 型名詞の b 型化は皆愛方言のアクセント体系の構造からしてそもそも予測される現象である。なぜならば、単純名詞の環境においては a 型と b 型の対立が完全に中和しているため、a 型の習得が困難だと思われるからである。a 型を習得するには当然ながら非中和環境すなわち複合語の環境に頼らざるを得ないが、どの語でも（生産的に形成される）複合語の前部要素として頻繁に出現するとも限らない。逆に言うと、複合語の前部要素になることが稀な語は b 型の語とはほとんど対立しないため、b 型として習得される可能性が高い²⁵。このように、b 型との合流には「複合語の前部要素としての出現度合い」が重要な要因として関わっていると仮定できる。

実はこの仮説の妥当性を実証することができる。宮古語の形容詞の主な修飾用法は名詞語根との複合語化であるため、形容詞は生産的に形成される複合語の前部要素になりやすい典型的な語群である。従って、上の仮説が正しければ、A 系列に所属している形容詞は b 型化せず、B 系列に所属している形容詞とは区別されることが予測される。著者の調査では予測通りの結果が得られているが、形容詞のアクセント体系に関する詳細な分析は別稿に譲る。

²⁵ それに対して、b 型名詞は含まれる文節が 1 つの韻律語から形成される環境を除いて、どの環境でも一貫した位置に下降が実現し、a 型に比べより「規則的」であるため、a 型と混同される可能性は低い。

以上、皆愛方言は共時的に 3 型のアクセント体系を持つことを示した。b2 型の位置付けは難しく、それをアクセント体系の中に加える必要がある可能性があるが、現時点では十分なデータがない。それでは、A. 韻律語の単位がある、B. 3つのアクセント型が対立する、の 2 点を確認することができたので、漸くそれぞれのアクセント型の音韻的な解釈に挑む準備が整った。

6 各アクセント型の音韻的な解釈

本節では、各アクセント型の指定の在り方とその内容について音韻的な解釈を行う。第一に、6.1節では、c 型と b 型はそれぞれ 1 番目と 2 番目の韻律語に指定があるのに対して、a 型は無指定のアクセント型として分析できることを示す。第二に、6.2では、アクセント型の指定の具体的な内容について現時点のデータに基づいた解釈を提示する。なお、本節では、「b 型」は b1 型を指す（ただし、2 拍名詞はそもそも b1 型・b2 型の区別はない）。

6.1 各アクセント型の指定

各アクセント型の実現のまとめを表 14（2 拍名詞）と表 15（3 拍名詞）に提示する。

表14 2 拍名詞の実現

環境	韻律語数	第一韻律語拍数	a 型	b 型	c 型
単純環境 X = 接語 (=..)	1	3 μ ・4 μ	F0	F0	F1
	2	2 μ	F2	F2	F2
		3 μ	F2	F2	F1
	3	2 μ	F2	F2	F2
3 μ		F2	F2	F1	
複合語環境 X+Y = 接語 (=..)	2	2 μ	F0	F2	F2
	3		F3	F2	F2

表15 3 拍名詞の実現

環境	韻律語数	第一韻律語拍数	a 型	b 型	c 型
単純環境 X = 接語 (=..)	1	4 μ +	F0	F0	F1
	2	3 μ +	F2	F2	F1
	3	3 μ +	F2	F2	F1
複合語環境 X+Y = 接語 (=..)	2	3 μ	F0	F2	F1
	3		F3	F2	F1

表層の実現を元にアクセント型の指定を解釈してみよう。c 型名詞は、2 拍の長さを持ちかつ第一の韻律語が 2 拍の長さであるという条件を除いて、一貫して 1 番目の韻律語にピッチの変動が実現している。そのため、1 番目の韻律語にアクセントの指定があると解釈できる。同様

に、b 型名詞はアクセント単位が 1 つの韻律語から構成されるという条件を除いて、一貫して 2 番目の韻律語にピッチの変動があり、そこにアクセントの指定があることがわかる。これに対して、a 型名詞は単純名詞環境と複合語環境とで一貫しない実現を示している。すなわち、単純名詞の環境では、b 型と同じ実現を示しており、2 つ以上の韻律語があれば、2 番目の韻律語にピッチの下降が見られる。しかし、複合語の環境では、2 つの韻律語があってもピッチの下降が実現しない。一方、3 つの韻律語があれば、3 番目の韻律語にピッチの変動が実現する。これらの実現に対して、2 つの解釈が考えられる。第一に、複合語での実現を重視して、a 型は 3 番目の韻律語にアクセントの指定があると解釈する。第二に、a 型は無指定である。ただし、その場合、特定の環境において実現するピッチの変動がアクセント型に依らない現象であると考えなければならぬため、その現象の説明原理を導入する必要がある。

そのうち、第一の解釈は大きな問題を抱えている。その理由は次の通りである。この解釈によると、単純名詞の環境ではアクセント単位が 3 つの韻律語から構成されている場合、3 番目の韻律語のところにピッチの下降が実現することが予測される。しかし、予測に反して、この環境における a 型名詞のアクセントは 2 番目の韻律語に実現する。つまり、第一の解釈を採用すると単純名詞の環境における実現が説明できない。さらに、a 型は、複合語の環境において 2 番目の韻律語に指定がある b 型と対立しているため、2 番目の韻律語に指定があるという解釈も成り立たない。そこで、単純名詞と複合語の環境における実現をよく見ると、「文節において接語によって形成される最初の韻律語にピッチの変動がある」ことが共通していることがわかる。この共通点に対して 2 通りの見方をすることができる。1 つ目では「文節において接語によって形成される最初の韻律語にピッチの変動がある」こと自体が a 型の指定であると解釈する。2 つ目では接語によって形成される最初の韻律語にピッチの変動が現れるのは、無指定である a 型とは無関係で、自動的に挿入される境界音調によると想定する。

1 つ目の見方だと、アクセント型の指定について不整合が生じてしまう。つまり、この見方では、c 型と b 型の指定は「位置」の指定であるが、a 型の指定は「位置」ではなく、文節における一種の「境界」の指定となる。2 つ目の見方だと、a 型と b 型によって指定されている音調と同じ実現（当該韻律語の次末拍の直前におけるピッチの下降）をする境界音調を想定しなければならない。現時点では十分なデータがないため、どの見方がより説明力が高いかを判断することはできない。恣意的ながら、ここでは境界音調の分析を暫時的に採用しておく。それに従って、4.2.3 節で行った各アクセント型の解釈を(46)のように訂正することができる。

- (46) a. c 型は 1 番目の韻律語にピッチの下降が指定されている。
 b. b 型は 2 番目の韻律語にピッチの下降が指定されている。
 c. a 型は無指定である。
 d. 当該の文節においてアクセント型による音調の指定がなければ、接語によって形成される最初の韻律語にピッチの下降を実現させる。

ここでは「ピッチの下降」を下げ核 (H*L) の一種とみなしておく。次節では、各アクセント

型の具体的な解釈について述べる。

6.2 各アクセント型の具体的な解釈

6.2.1 文節頭の高さの解釈

まず、c型の2拍名詞の実現に着目しながら、文節が高く始まることに関する解釈を行う。これまで見てきたアクセント資料は全て対象の名詞を含む文節が高く始まっている。対象の名詞を含む文節は発話頭の位置に立っているが、後続する述語句も全て高く始まっているため(47)、文節が高く始まることは発話頭の環境に限らないことがわかる。なお、句末境界高音調が挿入されていない場合でも、後続する文節が高く始まる(48)ので、後続する文節が高く始まることは先行する文節の(オプションな)句末境界高音調の挿入による結果ではないことも明らかである。

(47) ((15a)に挙げたアクセント資料)

- a. midz₁^{ab} = n]kai = maí zzi^c-]ta: 「水 = DIR = INC 入れる-PST」
- b. mug₁^b = n]kai = maí zzi^c-]ta: 「麦 = DIR = INC 入れる-PST」
- c. nabi^c =]nkai = maí zzi^c-]ta: 「鍋 = DIR = INC 入れる-PST」

- (48) a. ira]v^{b2} = vu [mju:^c-]di 「伊良部 = ACC 見る-VOL」
 b. o:]g₁^c = zu [ka:^a-]di 「扇 = DIR = INC 買う-VOL」

各文節が高く始まることに対して2つの解釈が考えられる。第一に、各文節の頭に高音調が指定されていると解釈する。第二に、デフォルトの高さが高いと想定した上で、文節ごとにピッチがデフォルトの高さにリセットされると解釈する。そのうち、第二の解釈が2拍のc型名詞の実現を説明できず、却下されるべきである。その理由は次の通りである。4.2.3節で見たように、アクセント型によって指定されるピッチの下降(下げ核)は当該韻律語の次末拍の直前に実現する。ただし、2拍のc型名詞に韻律語を形成する2拍の接語が後続すると、1番目の韻律語が2拍という不十分な長さになってしまう結果、c型のピッチの下降が次の韻律語に実現する(49a)。これに対して、c型名詞に1拍の接語が付き、1番目の韻律語が3拍である場合は、十分な長さがあり、下げ核が文節の初頭拍に来るため、1番目の韻律語にピッチの下降が実現すると予測される。しかし、ピッチの下降は予測される次末拍の直前ではなく、末尾拍の直前に実現する(49b)。つまり、下げ核が1拍へ右にずれていると解釈しなければならない。文節の初頭拍については何の指定もなければ、つまり、各文節の頭にピッチがデフォルトの高さにリセットされると解釈を採用すれば、このずれが全く説明できない。

- (49) a. (μμ^c) = (μ]μ = μ) ...
 b. (μμ^c =]μ) = (μμ = μ) ... †(μ]μ^c = μ) = (μμ = μ) ...

逆に、文節の初頭拍に句境界の高音調(%H)が指定されると想定すれば、下げ核のずれを次

のように説明することができる。つまり、c型名詞を含む韻律語が3拍である場合は句境界の高音調と下げ核が同じ拍に結び付くことになる。同じ拍に2つの高音調が結びつきえないという制約を想定すれば、下げ核が次の拍にずれるという現象が説明できる(図2、なお、下げ核が実現した後、低音調が拡張していくと想定する)。

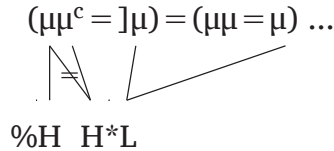


図2 下げ核のずれ

以上のことに従って、各文節の初頭拍に句境界の高音調が挿入されることを想定する。なお、文節頭に指定されるこの高音調については「文節頭高音調拡張規則」を導入する必要がある。すなわち、文節頭に指定される高音調はアクセント型によって指定される下げ核まで右へと韻律語の境界を越えて拡張していく。無核の場合は文節全体が高くなる(図3)。

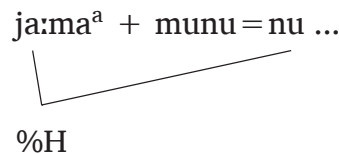


図3 文節頭高音調の拡張規則例

6.2.2 各アクセントの解釈

まず、下げ核の位置指定について述べる。以上見てきたように、c型とb型によって指定されるピッチの下降は当該韻律語の次末拍の直前に実現する。これはつまり、下げ核が指定の韻律語の次々末拍に結び付くことになる。しかし、2拍の接語がb型名詞に付くときのパターンなどからすると、「指定の韻律語の末尾境界から3拍目の拍に結び付く」という記述の方が正確であることが分かる。例えば、(50)に挙げる例において、b型によって指定されている下げ核は2番目の韻律語の末尾境界から3拍目、つまり、1番目の韻律語の末尾拍にある。よって、下げ核の位置は「指定される韻律語の末尾境界から数えて3拍目にある」と記述するべきである。ここで重要なのは下げ核が必ずしも指定される韻律語の中に位置しないことである。それでは、3つのアクセント型の表層の実現が基底の指定に最も近い実現環境を図4に示す。

(50) (kagam^b) = (]kará) ... 「鏡 = ABL ...」

(46)で示した解釈と上の下げ核の定義では、a型やb型の実現は特に問題がないが、c型の短い名詞の実現も説明できるかを見る必要がある。そこで、2つのケースが問題となりうる。まず、c型の2拍名詞に韻律語を形成する2拍の接語が後続する場合、下げ核は1番目の韻律語

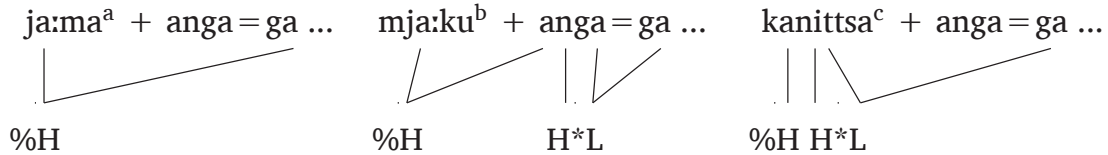


図4 各アクセント型の音韻的解釈

ではなく、2番目の韻律語の末尾境界から3拍目のところに実現する。これについては、明白な動機があると言える。つまり、1番目の韻律語の末尾境界から3拍を数えると拍自体がないため、アクセント型で指定される下げ核は結びつきえないことになる。その解決策として、韻律語を単位とした右方移動が行われ、2番目の韻律語の末尾境界から3拍目の拍に下げ核が実現する(図5)。下げ核のこのような移動は拍を単位としていないことが明らかである。なぜならば、後続の韻律語の長さを増やすにつれて、c型で指定される下げ核が右へとずれていくからである。詳しく言うと、下げ核がもし、拍を単位に移動していたならば、後続する韻律語の長さにもかかわらず、次の拍、すなわち後続する韻律語の1番目の拍に結びつくと予測される。しかし、実際は下げ核の実現する位置が後続の韻律語の長さに従って変動するので、右方移動が韻律語を単位としていると解釈せざるをえない。

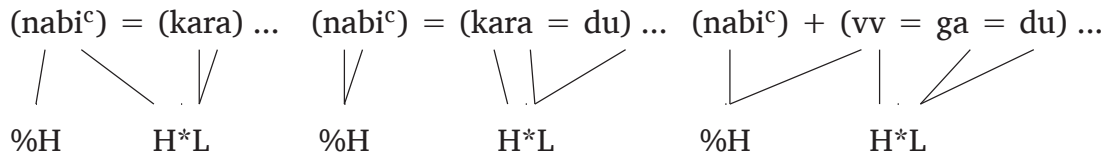


図5 c型名詞における下げ核の右方移動

次のケースはc型名詞が含まれている韻律語が3拍である条件に該当する。このケースについては、前節で詳しく論じた。つまり、c型名詞が含まれている韻律語が3拍であると、文節頭の句境界音調と下げ核が同じ拍に結びつく結果、下げ核が次の拍に移動し、実現する。

以上、各アクセント型の解釈をまとめると、次のようになる。

- c型は1つ目の韻律語に下げ核を持つ。
- b型は2つ目の韻律語に下げ核を持つ。
- a型は無核である。
- 下げ核は指定される韻律語の末尾境界から数えて3拍目に位置する。

さらに、皆愛方言のプロソディーを記述するために、次のような記述を加える必要がある。

- 文節の初頭拍に句境界の高音調が義務的に挿入される。
- 文節の初頭拍に挿入される高音調は下げ核が結びつく直前の拍まで右へと拡張する。
- 文節が無核である場合、接語によって形成される最初の韻律語に下げ核が付与される。
- 高音調と下げ核が同じ拍に結びつくとき、下げ核が次の拍に移動する。

- 下げ核はそれが結びつきえる拍がない場合は次の韻律語に移動する。
- 文節の末尾拍に任意的な高音調が付与される。

なお、皆愛方言の下げ核について、異なる単位（拍・韻律語）に基づく 2 種類の移動を想定しなければならないことが特に重要な意味を持つ可能性がある。

7 おわりに

本研究では皆愛方言のアクセント体系に関する予備的な報告を行い、次の点を明らかにした。すなわち、第一に、宮古語の他の方言と同様に「韻律語」という単位を想定する必要がある。第二に、単純名詞の環境では 2 つの音調しか現れないのにもかかわらず、複合アクセント法則が適用される、生産的に形成される複合語の環境では 3 つの対立する音調が実現することを示した。この結果に従って、皆愛方言は 3 種類のアクセント型が区別されることを論じた。第三に、各アクセント型について現時点のデータに基づいた音韻的な解釈を提示した。今後の課題として形容詞・動詞などのアクセント体系の解明がある。

参考文献

- 青井隼人 (2016) 「南琉球宮古語多良間方言の音声学的・音韻論的構造の諸相」 博士論文 (未公刊), 東京外国語大学.
- 五十嵐陽介 (2015) 「南琉球宮古語多良間方言のアクセント型の記述」 『比較日本文化学研究』 (8), 1-42.
- 五十嵐陽介 (2016a) 「アクセント型の対応に基づいて日琉祖語を再建するための語彙リスト「日琉類別語彙」」 日本語学会 2016 年度春季大会予稿集, 233-238., 日本語学会.
- 五十嵐陽介 (2016b) 「南琉球宮古語池間方言・多良間方言の韻律構造」 『言語研究』 (150), 33-57.
- 五十嵐陽介 (2018) 「3 拍名詞第 4 類における本土日本語と琉球語間の 1 対 2 のアクセント型の対応について」 「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」 研究発表会, 琉球語のアクセント.
- Igarashi, Y., Takubo, Y., Hayashi, Y., & Kubo, T. (2018). Tonal neutralization in the Ikema dialect of Miyako Ryukyuan. In K. Haruo, & G. Mikio (Eds.), *Tonal change and neutralization*. Walter de Gruyter GmbH & Co KG. pp. 83-128.
- 上野善道 (2006) 「日本語アクセントの再建」 『言語研究』 130, 1-42.
- 上野善道 (2012) 「N 型アクセントとは何か」 『音声研究』 16 (1), 44-62.
- 大山成子 (1962) 「琉球方言における二音節名詞のアクセント」 『琉球方言』 4, 3-56.
- セリック・ケナン (2018) 「南琉球宮古語下地皆愛方言一簡略記述・談話資料・語彙集一」 『言語記述論集』 10, pp. 97-249.
- セリック・ケナン (2020a) 「南琉球宮古語史」 博士論文 (未公刊), 京都大学.
- セリック・ケナン (2020b) 「南琉球宮古語多良間仲筋方言における「複合アクセント法則」の再検討」 日本言語学会第 160 回大会予稿集, 293-299.

- セリック・ケナン (2020c) 「南琉球宮古語水納島方言のアクセント体系と基礎語彙」 『琉球の方言』 45, 243-281.
- セリック・ケナン (2021) 「琉球宮古語多良間方言のアクセント体系は四型であって、三型ではない」 第 217 回 NINJAL サロン発表資料.
- セリック・ケナン・青井隼人 (印刷中) 「多良間方言の韻律構造の解明に向けて——動詞進行融合形の音調の記述とその分析——」 『国立国語研究所論』 21, .
- 渡久山春英・セリック・ケナン (2020) 『南琉球宮古語多良間方言辞典』 国立国語研究所.
- 富浜定吉 (2013) 『宮古伊良部方言辞典』 沖縄タイムス社.
- 畑聰一郎 (1983) 「宮古島皆愛集落の成立と解体・再編成: シマ観念の考察」 『人文地理』 35 (1), 66-78.
- 服部四郎 (1959) 『日本語の系統』 岩波書店.
- 服部四郎 (1979a) 「日本祖語について (21)」 『月刊言語』 8 (11), 97-107.
- 服部四郎 (1979b) 「日本祖語について (22)」 『月刊言語』 8 (12), 100-114.
- 松森晶子 (1998) 「琉球アクセントの歴史的形成過程-類別語彙 2 拍語の特異な合流の仕方を手がかりに」 『言語研究』 (114), 85-114.
- 松森晶子 (2000a) 「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発: 沖永良部島の調査から」 『音声研究』 4 (1), 61-71.
- 松森晶子 (2000b) 「琉球の多型アクセント体系についての一考察-琉球祖語における類別語彙 3 拍語の合流の仕方」 『国語学』 51 (1), 93-108.
- 松森晶子 (2010) 「多良間島の 3 型アクセントと「系列別語彙」」 上野善道 (編) 『日本語研究の 12 章』 明治書院 pp. 490-503.
- 松森晶子 (2012) 「琉球語調査用「系列別語彙」の素案」 『音声研究』 16 (1), 30-40.
- 松森晶子 (2013) 「宮古島における 3 型アクセント体系の発見: 与那覇方言の場合」 『国立国語研究所論集』 (6), 67-92.
- 松森晶子 (2014) 「多良間島のアクセント規則を再検討する」 『日本女子大学紀要 文学部』 (63), 13-36.
- 松森晶子 (2015) 「南琉球の三型アクセント体系: その韻律単位に関する考察」 『日本女子大学紀要. 文学部』 (64), 55-92.
- Matsumori, A. (2019). Prosodic Unit, Recursive Structure, and Nature of Accent in Miyako Ryukyuan. *The Linguistic Review*, 36 (1), 51-83.

略号一覧

ABL	ablative	DIR	directional
ACC	accusative	EMPH	emphatic
DAT	dative	FOC	focus
DIM	diminutive	GEN	genitive

HORT	hortative	PST	past
INC	inclusive	PURP	purposive
NOM	nominative	QUOT	quotation
NML	nominal	VOL	volitive
NMLZ	nominalizer		

受理日 2021 年 4 月 13 日

付録：アクセント資料

本付録では、これまで収集した名詞のアクセント資料のうち「X=GEN 話 =ACC ...」の枠文で調べた名詞を掲載する（合計 1351 点）。アクセント資料の書き起こしと対象名詞の意味記述を示す。なお、ピッチの下降の位置が遅れて聞こえるアクセント資料がしばしばあった。聞き取った通りに、つまり、遅れた位置で] の記号を付与したが、これらのアクセント資料については更なる検討が必要である可能性がある。本付録はあくまで皆愛方言の所属語彙の情報を提示するためのものである。

a:]nu panassu ...	粟。
a:]gunu panassu ...	歌。
a:sa]nu panas[su ...	石蓴（あおさ）。
abariganama]nu panassu ...	暴れた髪。
abarija:]nu panassu ...	荒れ果てた家。
aba]sanu panassu ...	ハリセンボン。
aba]sago:ranu panassu ...	ニガウリの一種。
abunu panas]su ...	洞窟。
a:bu]kunu panassu ...	泡。
açi]nu panassu ...	昼食。
açinu panas]su ...	汗。
açimnu panas]su ...	汗疹（あせも）。
ada]nnu panassu ...	阿檀（あだん）。
adana]s̄nu panassu ...	アダンの気根。
adunu panas]su ...	踵（かかと）。
adza]ga panassu ...	兄。
adza]nu panassu ...	黒子（ほくろ）。
adziba:]nu panassu ...	八重歯。
adz]nu panas]su ...	味。
afu]nu panassu ...	ケーキの一種。
afük]nu panassu ...	欠伸（あくび）。

afutanu panas]su ...	(サトウキビなどの) 枯れた、乾燥した葉っぱ。
aganja:]nu panassu ...	東隣の家。
aga]nu panas]su ...	東。
aga]dz]mu]]nu]panassu ...	東地盛。
aga]ts]mma:]nu panassu ...	東積間。
aga]wa:]ranu panas]su ...	上座。
aga]tanu panassu ...	遠い。
agu]nu panassu ...	同級生。
agu]nu panassu ...	顎 (あご)。
aidzu:]nu panas]su ...	野菜の和え物。
akama]nu panas]su ...	赤飯。
akana:]nu panas]su ...	紫蘇 (しそ)。
akanazzunu panas]su ...	魚の一種。
aka]nu panas]su ...	明り。
aka]sa]nu panassu ...	私生児。
aka]ts]nu panas]su ...	血。
aka]ts]nu mts]n]]panassu ...	血管。
akavvanu panas]su ...	赤ちゃん。
akja:]danu panassu ...	仲買人。
ako:]ngi:]nu panas]su ...	木の一種。
ak]na]nu panas]su ...	商い。
amnu panas]su ...	網。
ama]mnu panassu ...	宿借 (やどかり)。
ama]mbuninu panassu ...	踝骨 (くるぶし)。
aminu panas]su ...	雨。
aminu panas]su ...	飴。
amif]nu panas]su ...	雨降り。
ananu panas]su ...	穴。
anissunu panas]su ...	年上。
an]naga panassu ...	母。
an]naujanu panassu ...	両親。
a]gaga panassu ...	年上の女性。
aparagimu]nunu panassu ...	美人。
ara:]nu panassu ...	外。
arabarinu panas]su ...	新しい畑。
araf]kunu panas]su ...	新しい服。
aragurumanu panas]su ...	新車。

aragus _ḡ]kunu panassu ...	新城 (あらぐすく)。
araiçanu panas]su ...	新しい医者。
araja:nu panas]su ...	新築。
araka:]nu panassu ...	新しい井戸。
arakagam]nu panassu ...	新しい鏡。
arakuṭs _ḡ]nu panas]su ...	新しい靴。
aramju:turanu panas]su ...	新婚の夫婦。
aramts _ḡ]nu panas]su ...	新しい道。
aranabinu panas]su ...	新しい鍋。
araraga]manu panassu ...	なにくそ。
arasanag _ḡ]nu panas]su ...	新しい禪。
asaim]nu panassu ...	遠浅。
asammaga panas]su ...	親。
asamunu]nu panassu ...	朝食。
asṭati]nu panassu ...	明後日。
atsa]nu panassu ...	明日。
attsa]nu panassu ...	下駄。
attsanu panas]su ...	端。
atu]nu panassu ...	後。
atuduminu panas]su ...	後添いの妻。
avvamtsu]nu panassu ...	油味噌。
avvanu panas]su ...	油。
avvafaja]nu panassu ...	燃費が悪いこと。
avvafu]ts _ḡ]nu panassu ...	言葉が滑らかで味がある。
baga panas]su ...	私。
ba:]kinu panassu ...	籠の一種。
baça]nu panassu ...	馬車。
baçi]nu panassu ...	間。
baçigama]nu panassu ...	間 (あいだ)。
bakag _ḡ]za]nu panassu ...	キシノウエトカゲ。
bakajuminí]panassu ...	若い嫁。
bakamununu panas]su ...	若者。
bakibun]nu panassu ...	取り分。
bakidama]nu panassu ...	取り分。
bako:mja]:nu panassu ...	奪い合い。
bak _ḡ]da]nu panassu ...	脇。
bambura]nu panassu ...	玩具 (おもちゃ)。

bandzɪnu panas]su ...	盛り。
ban]taga panas]su ...	(聞き手を除いた) 私たち。
bantɕi]ranu panassu ...	ばんしろろ。
banguminu panas]su ...	番組。
barinu panas]su ...	割れ。
basɟ]nu panassu ...	バス。
baso]:nu panassu ...	芭蕉。
batanu panas]su ...	お腹。
batabuni]nu panassu ...	お腹の筋肉。
batsɟ]nu panassu ...	罰。
bidu]nu panassu ...	餌。
bikidum = nu panas]su ...	男。
bikiduɾnu panas]su ...	雄鶏。
bikiinnu panas]su ...	雄の犬。
bikimaju]nu panassu ...	雄の猫。
bikimununu panas]su ...	雄。
bikinu:manu panas]su ...	雄の馬。
bikipavnu panas]su ...	雄の蛇。
bikipindzanu panas]su ...	雄の山羊。
bikiusɟ]nu panassu ...	雄の牛。
bikivvanu panas]su ...	息子。
bju:]nu panassu ...	蜻蛉 (とんぼ)。
bo:]nu panassu ...	棒。
bo:]ɕinu panassu ...	帽子。
bo:tɕirimunu]nu panassu ...	悪戯っ子。
botu]runu panassu ...	ボトル。
bɿ:nigarapɿtunu panas]su ...	いつまでも居座って中々家に帰らない人。
bɿ:ɾɿnu panas]su ...	座る椅子。
bɿ:sɿnu mi:]nu panassu ...	奥まったところ。
bɿt]tapaginu panassu ...	完全に禿。
bu:nu panas]su ...	緒。
bu:gɿnu panas]su ...	砂糖黍 (さとうきび)。
bu:gɿdainu panas]su ...	砂糖黍を納めた金額。
bu:]rjanu panassu ...	同年性。
buba]ga panassu ...	おば。
buduɾnu panas]su ...	踊り。
budza]ga panassu ...	おじ。

bugarino:]sɲnu panassu ...	疲労治し。
buiu nu panas]su ...	有給労働。
buranu panas]su ...	保良。
buranu panas]su ...	法螺貝。
burafɯkjanu panas]su ...	法螺吹き。
burakunu panas]su ...	部落。
buttira]nu panassu ...	チャンプルー。
butunu panas]su ...	夫。
butɯtuɲ]nu panassu ...	一昨日。
ɕa:kənu panas]su ...	未明。
ɕa:ranu panas]su ...	畑の石を集めてそれを石積にしたもの。
ɕi:ninnu panas]su ...	青年。
ɕi:ninadza]ga panassu ...	青年。
ɕi:to:ja:]nu panassu ...	製糖屋、製糖を行う場所、家。
ɕi:dunu panas]su ...	生徒。
ɕibananu panas]su ...	(海辺の) 岩。
ɕiga]tsɲnu panassu ...	四月。
ɕimodʒinu panas]su ...	下地 (しもじ)。
ɕinnu panas]su ...	線。
ɕina]nu panassu ...	二枚貝。
ɕin]ɕiga panassu ...	先生。
ɕiɲɕidzi]nu panassu ...	七時。
ɕiɲɕiga]tsɲnu panassu ...	七月。
ɕiwənu panas]su ...	心配。
ɕiwəgutunu panas]su ...	心配事。
ɕo:gəkko:]nu panassu ...	小学校。
ɕo:ga]tsɲnu panas]su ...	正月。
ɕodʒo]nu panassu ...	処女。
ɕu:]ga panassu ...	祖父。
ɕɯkupəginu panas]su ...	無職。
ɕɯkupəgibikidumnu panas]su ...	無職の男性。
ɕɯkupəgimidumnu panas]su ...	無職の女性。
dadifu]nu panassu ...	木の種類。
dadzɲ]manu panassu ...	皺 (しわ)。
dai]nu panassu ...	値段。
daigəku nu panas]su ...	大学。
danka:nu panas]su ...	相談。

dara]funu panassu ...	嘘。
dara]kanu panassu ...	嘘。
den]shanu panassu ...	電車。
dikibuts]nu panassu ...	優秀な人。
dikija:]nu panassu ...	できる人。
do:bats]nu panas]su ...	蜂の一種。
do:]vnu panassu ...	道具。
dojo:binu panas]su ...	土曜日。
du:]nu panassu ...	体。
du:]ga panassu ...	自分。
du:buni]nu panassu ...	体の骨。
du:kąttinu panas]su ...	自分勝手。
du:]taga panassu ...	私たち。
du:umu]nń panas]su ...	思い込み。
dukjanu panas]su ...	皮膚病の一種。
durunu panas]su ...	泥。
du]nu panas]su ...	友達。
dza:]nu panassu ...	座。
dzaka]nu panassu ...	ジャコウネズミ。
dzavka]ninu panassu ...	グミ。
dzinnu panas]su ...	お膳。
dzimbu]nnu panassu ...	分別。
dzinfuku]runu panassu ...	財布。
dzinmo:]kinu panassu ...	金儲け。
dzinmu]tçanu panassu ...	金持ちな人。
dzo:]nu panassu ...	門。
dzo:futs]nu panassu ...	(屋敷の) 入口。
dzo:wa:ts]k]nu panassu ...	いい天気。
dz:]nu panas]su ...	文字。
dz:]nu panas]su ...	土地。
dz]gu:]runu panassu ...	独楽。
dz]ma]minu panassu ...	落花生。
dz]mu]nu panassu ...	地盛。
dz]nannu panas]su ...	次男。
dz]vnu panas]su ...	芯。
dzu:nu panas]su ...	尻尾。
dzu:dzi]nu panassu ...	十時。

dzu:ga]tsɿnu panassu ...	十月。
dzu:guuja]nu panassu ...	十五夜。
dzu:itçidzi]nu panassu ...	十一時。
dzu:itsɿga]tsɿnu panassu ...	十一月。
dzu:kççimun]unu panassu ...	しょっちゅう忘れ物をする人。
dzu:nidzinú]panassu ...	十二時。
dzu:niga]tsɿnu panassu ...	十二月。
dzu:rukuni]tsɿnu panassu ...	十六日。
dzunçanu panas]su ...	巡查。
dzurinu panas]su ...	酌婦。
ffanu panas]su ...	子供。
ffagama]nu panassu ...	小さい子供。
ffainu panas]su ...	堆肥。
ffajo:mnú panas]su ...	暗闇。
ffammaganu panas]su ...	子供と孫。
ffanasɿnu panas]su ...	出産。
ffatsɿnu panas]su ...	鋤。
ffinu panas]su ...	烏賊や蛸の墨。
ffi]manu panassu ...	来間。
ffimadzɿma]nu panassu ...	来間島。
ffu]nu panassu ...	櫛。
ffuçi:]sanu panassu ...	黒い斑点。
ffuşata]nu panassu ...	黒砂糖。
ffuga:]nu panassu ...	黒肌。
ffuşmda:]ranu panassu ...	(顔などが) まっ黒。
ffutin]kunu panassu ...	煤。
ffutsɿku]mnu panassu ...	痣(あざ)。
fo:mununu panas]su ...	食べ物。
fuçinu panas]su ...	癖。
fuçibamununu panas]su ...	癖のある人。
fuçibapɿtunu panas]su ...	曲者(くせもの)。
fudzɿ]nu panassu ...	籤(くじ)。
fudzɿbɿkɿ]nu panassu ...	籤引き。
fugɿnu panas]su ...	首。
fugɿnu panas]su ...	釘。
fuguɿnu panas]su ...	陰囊。
fujunu panas]su ...	冬。

fukja]ginu panassu ...	お萩。
fuku]nu panassu ...	服。
fukunu panas]su ...	肺。
fukurunu panas]su ...	袋。
funai]nu panassu ...	船酔い。
funi]nu panassu ...	船。
funi]nu panassu ...	蜜柑。
fuj]nu panassu ...	豚小屋。
fura]nu panassu ...	鞍。
fujza:]nu panassu ...	古い家。
fusanu panas]su ...	草。
fusaka]nu panassu ...	草刈。
fusamunu]nu panassu ...	臭いもの。
fusunu panas]su ...	糞。
fusuganama]rjanu panassu ...	糞頭。
fusu]nu panassu ...	葉。
futanu panas]su ...	蓋。
futa:ŋga panas]su ...	二人。
futa:ts]nu panas]su ...	二つ。
futaganu panas]su ...	双子。
futagavvanu panas]su ...	双子。
futainu panas]su ...	額。
futakaranu panas]su ...	二匹。
futakivnu panas]su ...	二軒。
futaku:nu panas]su ...	二個。
futamatanu panas]su ...	(要意味確認)。
futannu panas]su ...	二回。
futati:nu panas]su ...	二年。
futɕiba:]nu panassu ...	虫歯。
futs]nu panas]su ...	向き。
futs]bi:]nu panassu ...	指笛。
futs]kanu panas]su ...	二日 (ふつか)。
ga:na]nu panassu ...	家鴨 (あひる)。
ga:na]nu panassu ...	蝉。
ga:ngu]nu panassu ...	蛭。
ga:ra]nu panassu ...	魚の一種。
gabadza:]runu panassu ...	大きい蟻螂。

gabafuſarikadzanu panas]su ...	加齡臭。
gabaıçanu panas]su ...	老人の医者。
gagamju:turanu panas]su ...	老夫婦。
gadzam]nu panassu ...	蚊。
gadzimunu]nu panassu ...	反抗的な発言。
gagınu panas]su ...	鉤。
gagına]:nu panassu ...	草の一種。
gaitçi]nnu panassu ...	ヒバリ。
gajandanu panas]su ...	蜂の一種。
gajandabats]nu panassu ...	蜂の一種。
gakko:]nu panassu ...	学校。
gakınu panas]su ...	食いしん坊。
gakımunu]nu panassu ...	食いしん坊。
gakumo]nnu panassu ...	学問。
gamma]rjanu panassu ...	悪戯をする人。
gandzu]:nu panassu ...	健康。
gamma]ripıtunu panassu ...	悪戯をする人。
gara]sanu panassu ...	烏。
gara]sabavnu panassu ...	蛇の一種。
genannu panas]su ...	下男。
getsjo:binu panas]su ...	月曜日。
go:]ranu panassu ...	苦瓜。
godzi]nu panassu ...	五時。
godzu:]nu panassu ...	五十。
goga]tsınu panassu ...	五月。
gı:]panu panassu ...	簪 (かんざし)。
gı]kınu panassu ...	薄 (ススキ)。
gu:]nu panassu ...	(海中の) 岩。
guçan]nu panassu ...	杖。
guçi]nnu panassu ...	女性器。
gudunnu panas]su ...	愚鈍。
gumadzi]nnu panassu ...	小銭。
gumi]nu panassu ...	ゴミ。
gumugama]nu panassu ...	ゴム。
gusıku]benu panassu ...	城辺 (ぐすくべ)。
hıçidzi]nu panassu ...	八時。
hıçidzu:]nu panassu ...	八十。

h̄atçiga]tsɯnu panassu ...	八月。
heja]nu panassu ...	部屋。
h̄iko:]kinu panassu ...	飛行機。
h̄ısama]tsɯnu panassu ...	久松。
h̄jaku]nu panassu ...	百。
i:nu panas]su ...	鱒 (えい)。
i:ka:ginu panas]su ...	顔がきれいであること。
ibigu:]nu panassu ...	植え替え。
içanu panas]su ...	医者。
idiba:]nu panassu ...	出っ歯。
idif̄u]tsɯnu panassu ...	出口。
idzɯnu panas]su ...	元気。
if̄ukanu panas]su ...	何日。
ifun]nu panassuga ...	何度。
if̄usanu panas]su ...	争い、戦争。
if̄yta:]ɽga panassuga ...	何人 (なんにん)。
if̄ytinu panas]suga ...	何年。
if̄utsɯnu panas]su[ga ...	幾つ。
ikjanu panas]su ...	烏賊 (いか)。
ɽkɯmusɯnu panas]su ...	生き物。
im]nu panassu ...	海。
imazzunu panas]su ...	新鮮な魚。
imbatanu panas]su ...	海辺。
imbo:nu panas]su ...	漁師。
imça:nu panas]su ...	漁師。
imsanitsɯnu panas]su ...	海神祭。
imdzɯmanu panas]su ...	海辺の村、漁村。
imi]nu panassu ...	夢。
imiço:ga]tsɯnu panassu ...	少正月。
imidzɯ]:nu panassu ...	貧乳。
imi]sɯnu panassu ...	お箸。
imma]radaninu panassu ...	(腿の付け根にある) リンパ腺。
imnaɽn̄ı́ panas]su ...	海鳴り。
innu panas]su ...	犬。
indzu:nu panas]su ...	犬汁。
innuma]ras̄atunu panassu ...	洲鎌にある集落名。
ipuga]nu panassu ...	どれぐらい大きい。

irav]nu panassu ...	伊良部。
iravdzɪma]nu panassu ...	伊良部島。
iravmma]rinu panassu ...	伊良部島出身。
iriju:nu panas]su ...	必要な物。
iru]nu panassu ...	色。
isəkunu panas]su ...	咳。
isarafu]gu[nu]panassu ...	石原窪。
isara]fu[gufu]tsɪ[nu]panas]su ...	石原窪方言。
isara]fugummarinu panassu ...	石原窪出身。
isɪnu panas]su ...	石。
isɪdzajafunu panas]su ...	石大工。
isɪgakɪnɪ panas]su ...	石垣。
isɪku:nu panas]su ...	岩盤。
isɪtsɪmnu panas]su ...	石積み。
itanu panas]su ...	板。
itɛidzi]nu panassu ...	一時。
itɛiga]tsɪnu panassu ...	一月。
itsɪnu panas]su[ga ...	何時 (いつ)。
itsɪban]nu panassu ...	一番。
itsɪbandza:]nu panassu ...	一番座。
itsɪkanu panas]su ...	五日 (いつか)。
itsɪkara]nu panassu ...	五匹。
itsɪkiv]nu panassu ...	五軒。
itsɪku:]nu panassu ...	五個。
itsɪ]nu pɪtunu panassu ...	五人。
itsɪti:]nu panassu ...	五年。
itsɪtsɪ]nu panassu ...	五つ。
itsɪfunu panas]su ...	いところ。
ja:nu panas]su ...	家。
ja:ɛɛu:nu panas]su ...	凶年。
ja:]dinu panassu ...	家族。
ja:dzɪminu panas]su ...	守宮 (やもり)。
ja:fɪ]kɪ[nu]panassu ...	家葺き。
ja:kɪ]sɪnu panassu ...	引っ越し。
ja:manu panas]su ...	八重山。
ja:mafɪtsɪnu panas]su ...	八重山方言。
ja:mu]tunu panassu ...	本家。

ja:]ninu panassu ...	来年。
ja:nu ui]nu panassu ...	屋根。
ja:nu pɿtunu panas]su ...	八人。
jati:nu panas]su ...	八年。
ja:tsɿnu panas]su ...	八つ。
jadunu panas]su ...	戸。
jadubasɿnú]panassu ...	雨戸。
jadujum]nu panassu ...	口喧嘩。
jadumu]janu panassu ...	水字貝。
jafu]nu panassu ...	厄 (やく)。
jagu]inu panassu ...	どなっている声。
jaimandanu panas]su ...	非常にやせている人。
jakadzɿma:]rjanu panassu ...	しょっちゅうあちこちに行く人。
jakaranu panas]sɿ ...	八匹。
jakku]n[nu]panassu ...	薬缶。
jaku:nu panas]su ...	八個。
jam]nu panassu ...	痛み。
jamanu panas]su ...	林。
jamanu panas]su ...	鋤 (すき)。
agai jamadatsinu panas]su ...	下痢。
jamai]n[nu]panassu ...	野良犬。
jamamaju]nu panassu ...	野良猫。
jamamun]nu panassu ...	山桃。
jama]tunu panas[su ...	大和。
jamatudza]ni[nu]panassu ...	日系。
jamatɿfɿ]tsɿnu panassu ...	日本語。
jampɿ]tu[nu]panassu ...	病人。
janabja:]nú panas]su ...	非常に強い日差し。
janadzainí panas]su ...	ずるさ。
janajuminí panas]su ...	悪い嫁。
janaka:ginu panas]su ...	醜い容貌。
janami:nú panas]su ...	怖い目つきで見ること。
janammarinu panas]su ...	ブサイク。
janammarimununu panas]su ...	(顔の) 醜い人。
janasɿmtanú panas]su ...	根性が悪い。
janawa:tsɿ]kɿnu panassu ...	悪天候。
jaɿnu panas]su ...	銛。

jarabi]nu panassu ...	子供。
jaɣaminu panas]su ...	(建物の中に) 侵入する雨。
jarigɔ]nnu panassu ...	ボロボロになった服。
jarija:]nu panassu ...	古い家。
jaʂ]kɔ]nu panassu ...	屋敷。
jatsu]nu panassu ...	お灸 (きゅう)。
jav]vimununu panassu ...	怖い人。
jo:ba:]nu panassu ...	弱い人。
jo:dagama]nu panassu ...	病人。
jo:ɔ]nu panas]su ...	お祝い。
jo:ɔfo:nú]panassu ...	宴。
jodzi]nu panassu ...	四時。
jondzu:]nu panassu ...	四十。
ju:]ga ma:sɔ]nu panassu ...	夜。
ju:nu panas]su ...	お湯。
juvdituna]kanu panassu ...	茹で卵。
ju:furu]nu panassu ...	お風呂。
ju:kanu panas]su ...	四日 (よっか)。
ju:ni:]nu panassu ...	重荷。
ju:ti:nu panas]su ...	四年。
ju:tsɔ]nu panas]su ...	四つ。
jubinú]panassu ...	昨夜。
judanu panas]su ...	枝。
judaɔ]nu panas]su ...	涎。
judarjanu panas]su ...	涎をたらす人。
jugaina panas]su ...	冗談。
jugamaranu panas]su ...	歪んでいる男根。
jugami:nu panas]su ...	視線をそらすこと。
juganara:sɔ]nu panas]su ...	間違った教え。
jugurinú]panassu ...	汚れ。
jukanu panas]su ...	床。
juka:ranu panas]su ...	側。
juka:raba]tanu panassu ...	脇腹。
jukabasɔ]nú]panassu ...	敷居。
jukani:nu panas]su ...	床。
jukaranu panas]su ...	四匹。
jukivnu panas]su ...	四軒。

jukɫnu panas]su ...	斧。
jukunu panas]su ...	横。
juku:]nu panassu ...	休憩。
juku:nu panas]su ...	四個。
jumatanu panas]su ...	十字路。
juminu panas]su ...	嫁。
jumu]nanu panassu ...	鼠 (ネズミ)。
jumu]nunu panassu ...	鼠 (ネズミ)。
junainu panas]su ...	夜。
junakanu panas]su ...	夜中。
juna]panu panassu ...	与那覇 (よなは)。
juna]pafutsɫ[nu]panassu ...	与那覇方言。
juna]pammarinu panassu ...	与那覇出身。
juni]kunu panassu ...	麦粉。
junugu:]nu panassu ...	同類。
jununakanu panas]su ...	世の中。
junu]sɫga panassu ...	ユヌス。
junutɫ]sɫ[nu]panassu ...	同年性。
ju:pagimununu panas]su ...	いつ経っても成功しない人。
juppaɫ]nu panassu ...	小便。
juɫ]nu panassu ...	晩ご飯。
jurarimunu]nu panassu ...	風来坊。
jusara]bi[nu panassu ...	夕。
juta:ɫga panas]su ...	四人。
juvnu panas]su ...	粥。
ka:nu panas]su ...	井戸。
ka:nu panassu ...	皮。
ka:dzukunu panas]su ...	池。
ka:gi]nu panassu ...	容貌。
ka:m]tsɫnu panassu ...	川満 (かわみつ)。
ka:ra]nu panassu ...	瓦。
ka:]raja:nu panassu ...	瓦葺の家。
kabinu panas]su ...	壁。
kabɫnu panas]su ...	紙。
kabɫdzinnu panas]su ...	後世のお金。
kabɫtuɫnu panas]su ...	凧。
kabutɕa]nu panassu ...	南瓜 (かぼちゃ)。

kəçi]:nu panassu ...	手伝い。
kadunu panas]su ...	角 (かど)。
kadzanu panas]su ...	匂い。
kadzammi]nu panassu ...	カザンミ。
kadza]mmipɿtu[nu]panassu ...	カザンミ出身の人。
kadzɿnu panas]su ...	風。
kadzifɿkɿnu panas]su ...	台風。
kadzifɿkɿami]nu panassu ...	嵐。
kadzima:ɿnu panassu ...	2月ごろの風。
kadzɿnu panas]su ...	数。
kəfɿtsɿnu panas]su ...	(屋敷内の) 菜園。
kagi]nu panassu ...	蔭。
kagipɿka]dzɿ[nu]panassu ...	吉日。
kagiwa:tsɿ]kɿnu panassu ...	晴天。
kai]ga panassu ...	あれ。
kaita]ga panassu ...	あれら。
kajanu panas]su ...	茅。
kajo:binu panas]su ...	火曜日。
kəkɿ]nu panassu ...	垣。
kamnu panas]su ...	神。
kama]nu panassu ...	あそこ。
kamaba]kunu panassu ...	蒲鉾 (かまぼこ)。
kamata:]nu panassu ...	あそこら。
kamatsɿnu panas]su ...	頬。
kamda]nanu panassu ...	仏壇。
kami]nu panassu ...	甕 (かめ)。
kaminu panas]su ...	亀。
kamnigo:mma]ga panassu ...	神役のおばあさん。
kamnu ɕo:ga]tsɿnu panassu ...	神の正月。
kamtɿt]tɕanu panas[su ...	占い師。
kannu panas]su ...	蟹。
kananu panas]su ...	匏 (かんな)。
kanagai]nu panassu ...	先日。
kanamaɿ]nu panassu ...	頭。
kanamununu panas]su ...	金属製品。
kambo:nú panas]su ...	風邪。
kaninu panas]su ...	金 (かね)。

kanifugɲń́ panas]su ...	(金属でできている) 釘。
kanit]tsanu panassu ...	洲鎌にある集落名。
kan]ginu panassu ...	鬘 (たてがみ)。
kara]dzɲnu panassu ...	髪。
karajjuka]nu panassu ...	(縁側の) 床。
kara]su[nu panassu ...	麦が入っている味噌。
kari:nu panas]su ...	嘉例。
kariba:nu panas]su ...	枯れ葉。
kaɲma]tanu panassu ...	狩俣 (宮古島北部の集落)。
kąta]nu panassu ...	飛蝗 (ばった)。
kąta:]kinu panassu ...	責任。
kątaffu]nu panas[su ...	すき櫛。
kątabuɲ]nu panassu ...	片降り。
kąta]kanu panassu ...	(雨や風の) よけ。
kątakąɲń́ panas]su ...	魚の一種。
kątami:]nu panassu ...	片目。
kątamusɲ]nu panassu ...	肩。
kątamu]tanu panassu ...	傍ら。
kątana]nu panassu ...	包丁。
kątapąf]fanu panassu ...	障害を持つ子。
kątapagɲ]nu panassu ...	片足。
kątɕu:nu panas]su ...	鯉 (カツオ)。
ke:ro:ka]inu panassu ...	敬老会。
ki:nu panas]su ...	木。
ki:mimnu panas]su ...	茸 (きのこ)。
ki:satsɲnu panas]su ...	警察。
kidamunu]nu panassu ...	薪。
kidzɲnu panas]su ...	傷。
kiffunu panas]su ...	煙。
kina]nu panassu ...	玉杓子。
kinainu panas]su ...	家庭。
kindatinu panas]su ...	地鎮祭。
kinjo:binu panas]su ...	金曜日。
kjo:]tonu panassu ...	京都。
kjo:todaiga]kunu panassu ...	京都大学。
kju:]nu panassu ...	今日。
kju:dzu:]nu panassu ...	九十。

ko:nu panas]su ...	お香。
ko:dzɪnu panas]su ...	麴。
ko:ko]:nu panassu ...	高校。
ko:sokudo:]ronu panassu ...	高速道路。
ko:]sɪnu panassu ...	菓子。
kombi]ninu panassu ...	コンビに。
konçu:nu panas]su ...	今週。
kongetsɪnu panas]su ...	今月。
kɪmunu panas]su ...	心。
kɪmujan]nu panassu ...	心を痛めること。
kɪmukɸku]runu panassu ...	心。
kɪnnu panas]su ...	着物。
kɪnu]nu panassu ...	昨日。
kɪnubututu]ɲnu panassu ...	最近。
kssɪ:]nu panassu ...	煙管 (きせる)。
ku:ko:nu panas]su ...	空港。
ku:mu]janu panassu ...	ゴキブリ。
ku:ɲnu panas]su ...	部屋。
ku:ru]nu panassu ...	輪。
ku:]rugɪ:nu panassu ...	輪切り。
ku:sunu panas]su ...	唐辛子。
kubanu panas]su ...	びろう。
kubadzɪnu panas]su ...	釣瓶。
kubagi:nu panas]su ...	クバの木。
kubinu panas]su ...	(ススキで編まれた) 壁。
kubunu panas]su ...	瘤。
kudzɪ]nu panassu ...	九時。
kudzu]nu panassu ...	去年。
kuga]tsɪnu panassu ...	九月。
kui]nu panassu ...	声。
kui]ga panassu ...	これ。
kuita]ga panassu ...	これら。
kuitçɑ:]nu panassu ...	クイチャー。
kujunnu panas]su ...	暦。
kɸkunuka]nu panassu ...	九日 (ここのか)。
kɸkunuku:]nu panassu ...	九個。
kɸkunuti:]nu panassu ...	九年。

kʷkunu]tsɯnu panassu ...	九つ。
kuma]nu panassu ...	ここ。
kumata]:nu panassu ...	ここら。
kumunu panassu ...	雲。
kundunu panas]su ...	今度。
kunu]ɲu panassu ...	最近。
kunkɯnu panas]su ...	体力。
kʷpa]rjanu panassu ...	どもり。
kʷpi]nnu panassu ...	瓶 (びん)。
kurumanu panas]su ...	車。
kurumanu panas]sʷ ...	車。
kʷsammi]nu panassu ...	背中。
kʷɣɯnu panas]su ...	腰。
kʷɣpuninu panas]su ...	背骨。
kʷtsɯ]nu panassu ...	靴。
kʷtsɯpagi]nu panassu ...	靴擦れ。
kʷtuba]nu panassu ...	言葉。
kʷtusɯnu panas]su ...	今年。
kuv]nu panassu ...	昆布。
kuvvanu panas]su ...	ふくらはぎ。
m:kanu panas]su ...	六日 (むいか)。
mmpu]rjazzunu panassu ...	魚の一種。
mti:nu panas]su ...	六年。
ma:]dʒaga mmnu panassu ...	芋の一種。
ma:]sunu panassu ...	塩。
madu]nu panassu ...	窓。
madɣmununu panas]su ...	幽霊。
maffanu panas]su ...	枕。
maffazzu]nu panassu ...	魚の一種。
magu]nu panassu ...	容器の一種。
magumimga panas]su ...	内側に反り返った耳。
mai]nu panassu ...	前。
maini]tsɯnu panassu ...	毎日。
majunu panas]su ...	眉毛。
majunu panas]su ...	猫。
maka]ɲu panassu ...	椀。
makagan]nu panassu ...	ヤシガニ。

mamaɽnu panas]su ...	周囲。
maminu panas]su ...	豆。
mamigi]:nu panassu ...	豆の木。
mamina:~nu panassu ...	モヤシ。
manatanu panas]su ...	蛙の一種。
manatçanu panas]su ...	俎板 (まないた)。
mandzu:]nu panassu ...	パパイヤ。
mandzu:]gi:nu panassu ...	パパイヤの木。
maninu panas]su ...	畝 (うね)。
manna]kanu panassu ...	真ん中。
maɽnu panas]su ...	米。
maranu panas]su ...	男性器。
maɽda:ranu panas]su ...	米俵。
maɽgo:sɽnu panas]su ...	米のお菓子。
maɽgu:nu panas]su ...	米の粉。
maɽnuɽ:nu panas]su ...	(ご飯の) お握り。
maɽtsɽbunu panas]su ...	米粒。
matsɽ]nu panassu ...	松。
matsɽgi:nu panas]su ...	睫毛。
matsɽgi:nu panas]su ...	松の木。
matsɽkani]nu panassu ...	マツカニ。
mattçanu panas]su ...	店。
mavgam]nu panassu ...	個人の守護神。
mafuɽkja:nu panas]su ...	前。
mdzunu panas]su ...	溝。
mdzu]kunu panassu ...	溝。
mi:nu panas]su ...	目。
mi:bav]nu panassu ...	雌の蛇。
mi:da]tsɽmidumnu panassu ...	独身の女性。
mi:duɽ]nu panassu ...	雌鳥。
mi:gu:]nu panassu ...	穴埋め。
mi:iça]nu panassu ...	目医者。
mi:in]nu panassu ...	雌の犬。
mi:ja:]nu panassu ...	眼医者。
mi:maju]nu panassu ...	雌の猫。
mi:ni]tsɽnu panassu ...	命日。
mi:nu:]manu panassu ...	雌の馬。

mi:nu ka:]nu panassu ...	瞼 (まぶた)。
mi:pin]dzanu panas]su ...	雌の山羊。
mi:tsɿnu panas]su ...	三つ。
mi:usɿ]nu panassu ...	雌の牛。
midumnu panas]su ...	女性。
midumburja]nu panassu ...	(男性の) 浮気物。
midumbu]sɿnu panassu ...	女武士。
midumjara]binu panassu ...	女の子。
midumvva]nu panassu ...	娘。
midzɿnu panas]su ...	水。
midzɿaminu panas]su ...	水浴び。
miga]ga panassu ...	ミガ。
mimnu panas]su ...	茸 (きのこ)。
minnu panas]su ...	耳。
mimbani]nu panassu ...	びんた。
mimgami]nu panassu ...	取っ手の付いている甕 (かめ)。
mina]kanu panassu ...	庭。
minauibinu panas]su ...	小指。
min]nanu panassu ...	水納 (みんな)。
mintamanu panas]su ...	目玉。
mipana]nu panassu ...	顔。
misɿkina]nu panassu ...	杓文字。
mitsa:ɿga panas]su ...	三人。
mja:gun]nu panassu ...	宮国。
mja:kunu panas]su ...	宮古。
mja:kudzɿma =]nu panassu ...	宮古島。
mja:kufɿtsɿ]nu panassu ...	宮古方言。
mja:kumtsu]nu panassu ...	宮古味噌。
mju:]ɿnu panassu ...	甥。
mju:]ɿvvanu panassu ...	甥。
mju:tunu panas]su ...	夫婦。
mju:turanu panas]su ...	夫婦。
mkadzɿnu panas]su ...	百足 (むかで)。
mkaranu panas]su ...	六匹。
mkivnu panas]su ...	六軒。
mmku:nu panas]su ...	六個。
mmnu panas]su ...	芋。

mma]ga panassu ...	祖母。
mmaba]ku[nu]panassu ...	ばくろう。
mmaffa]nu panassu ...	親子 (母と子)。
mma]ganu panassu ...	孫。
mmanu]pa[nu]panassu ...	南の方。
mmarinu panas]su ...	生まれ。
mmaridz]manu panas]su ...	故郷。
mmarjavnu panas]su ...	生まれ損なえ。
mmats]ma:ga panas]su ...	調子者。
m:batunu panas]su ...	鳩。
mbu]nu panassu ...	臍 (へそ)。
mmgama]tçaga panassu ...	福顔。
m:gi:nú]panassu ...	芋づる。
mminu panas]su ...	胸。
mmifuts]nu panas]su ...	胸。
mm]naga panassu ...	皆。
mnnanu panas]su ...	蝸牛 (かたつむり)。
mmni]:nabinu panassu ...	芋用の大型鍋。
mmnu:]nu panassu ...	芋のお握り。
mmts]nu panas]su ...	六つ。
nnagu:nu panas]su ...	砂。
mnakanu panas]su ...	中央。
mokujo:binu panas]su ...	木曜日。
monore:]runu panassu ...	モノレール。
m]:nu panas]su ...	(魚などの) 身。
m]:juminu panas]su ...	新婦。
m]:kanu panas]su ...	三日 (みっか)。
m]:mju:turanu panas]su ...	新婚の夫婦。
m]:nanu panas]su ...	萑 (にら)。
m]:ti:nu panas]su ...	三年。
m]:tina]ti[nu]panassu ...	一昨年。
m]karanu panas]su ...	三匹。
m]kivnu panas]su ...	三軒。
m]ku:nu panas]su ...	三個。
m]matanu panas]su ...	三叉路 (さんさろ)。
mtanu panas]su ...	土。
mtabu]kinu panassu ...	土埃。

mtsɿ]nu panassu ...	道。
mtsɿ]sɿ[nu]panassu ...	味噌汁。
mtsu]nu panassu ...	味噌。
mtsugami]nu panassu ...	味噌瓶。
mtu]bɿnu panassu ...	野苺。
mu:nnu panas]su ...	六回。
mudimunu]ɿnu panassu ...	ひねくれた言葉。
mudzɿfu]ɿnu panassu ...	作物。
mugɿnu panas]su ...	麦。
mujainu panas]su ...	模合。
muku]nu panassu ...	婿。
mun]nu panassu ...	桃。
mumuninu panas]su ...	腿 (もも)。
mununu panas]su ...	物。
munupana]sɿ[nu panassu ...	話 (はなし)。
munugu]:vnu panassu ...	料理のこしらえ。
munugu]tunu panassu ...	物事。
munuju]mjaga panassu ...	おしゃべりな人。
munuɿ]nu panassu ...	言葉。
musɿnu panas]su ...	虫。
mussunu panas]su ...	筵 (むしろ)。
mutinu panas]su ...	分。
mutsɿnu panas]su ...	餅。
mutsɿfɿsanu panas]su ...	草の一種。
mutu]nu panassu ...	木の株。
na:]ga panassu ...	自分。
na:nu panas]su ...	名前。
na:nu panas]su ...	菜 (な)。
na:dzu:nu panas]su ...	葉野菜。
naba]nu panassu ...	垢。
nabi]nu panassu ...	鍋。
nabja:]ranu panassu ...	糸瓜 (へちま)。
nadanu panas]su ...	涙。
nafusanu panas]su ...	砂利。
nagadi:]nu panassu ...	長い手。
nagafɿtsɿ]nu panassu ...	長い口。
nagajunu panas]su ...	ベラの仲間。

naga]manu panassu ...	長間 (ながま)。
nagamunu]nu panassu ...	長いもの。
nagannuts]nu panassu ...	長い命。
naganudu]nu panassu ...	細長い喉。
nagapa]g]nu panas]su ...	長い脚。
nagasa]nu panassu ...	長さ。
nagasamja:]nu panassu ...	長さ比べ。
nagasudi]nu panassu ...	長袖。
nagatçibi]nu panassu ...	長尻。
nagatsanu panas]su ...	翌日。
naginu panas]su ...	長さ。
naha]nu panassu ...	那覇。
nainu panas]su ...	地震。
naimm]nu panassu ...	萎えた芋。
najamgu]tunu panassu ...	悩み事。
naka]nu panassu ...	中。
naka]minu panassu ...	(豚の) 内蔵。
namnu panas]su ...	波。
namadangak]nu panas]su ...	怠け者。
namas]nu panas]su ...	刺身。
namts]k]nu panassu ...	焦げ。
nanadzũ:]nu panassu ...	七十。
nanakara]nu panassu ...	七匹。
nanaku]:nu panassu ...	七個。
nanati]:nu panassu ...	七年。
nana]ts]nu panassu ...	七つ。
nannjo:mm]nanu panassu ...	南洋蝸牛。
nang]nu panas]su ...	苦勞。
nankanu panas]su ...	七日 (なのか)。
nanko]:nu panassu ...	南瓜 (かぼちゃ)。
na]danu panassu ...	肉垂れ。
na]g]p]tunu panas]su ...	びっこ。
nas]kçca]nu panassu ...	末っ子。
nas]kç]çaffanu panassu ...	末っ子。
nats]nu panas]su ...	夏。
ndubo:dz]nu panas]su ...	雲丹 (うに)。
ndza]nu panassuga ...	どこ。

ndzandza]nu panassuba[: ...	どこそこ。
ndzata:]nu panassuga ...	どころ。
ndzi]nu panassuga ...	どれ。
ni:]nu panassu ...	荷。
ni:nu panas]su ...	根。
ni:nivnú]panassu ...	居眠り。
niba]nu panas]su ...	(張っている) 根っこ。
nibu]tanu panassu ...	できもの。
nidzi]nu panassu ...	二時。
nidzu:nu panas]su ...	二十。
niga]ts]nu panassu ...	二月。
nigo]:nu panassu ...	二号。
ninnú]panassu ...	趣味。
ninupa]nu panassu ...	北方。
ningi]nnu panassu ...	人間。
ningi]nnu ɸo:gats]nu panassu ...	人間の正月。
nink]nu panas]su ...	年忌。
nis]nu panas]su ...	北。
nitɕijo:binu panas]su ...	日曜日。
nits]nu panas]su ...	(病気による) 熱。
nja:]binu panassu ...	真似。
nna:]nu panas]su ...	皆愛 (みなあい)。
nna:]mma]rinu panassu ...	皆愛出身。
nnama]nu panassu ...	今。
nna]magatanu panassu ...	さっき。
nnam:]ti[nu]panassu ...	再来年。
nnap]ka]nu panassu ...	稲光。
nnats]dz]nu panassu ...	頭のとっぺん。
nnja]nu panassu ...	大変なこと。
nnu]ts]nu panassu ...	命。
no:]nu panassu[ga ...ga	何。
nu:nu panas]su ...	野。
nu:manu panas]su ...	馬。
nu:madzu]:nu panassu ...	馬の料理、馬肉。
nubari]nu panassu ...	野原。
nuba]rip]tunu panassu ...	野原 (のぼり) 出身の人。
nub:]nu panassu ...	野蒜 (のびる)。

nubu]inu panassu ...	首。
nudunu panas]su ...	喉。
nudza]k]nu panassu ...	久松。
nuku]g]nu panassu ...	鋸 (のこぎり)。
nukʉs]munu]nu panassu ...	残し物。
num]nu panassu ...	蚤。
nununu panas]su ...	布。
nus]nu panassu ...	主。
nus]tunu panas]su ...	泥棒。
nu:z̥z̥u:]nu panassu ...	(裁縫用の) 糸。
nginu panas]su ...	アダンの木。
ngibas]n̥ú]panassu ...	アダンでできた戸。
ngja]nanu panassu ...	にが菜。
ng]nu panassu ...	右。
ng]nu panassu ...	(皮膚の中に刺さっている) 棘。
ng]di:nu panas]su ...	右手。
nkja:nnu panas]su ...	昔。
nkja:nbana]s]nu]panassu ...	昔話。
nkja:np]tunu panas]su ...	昔の人。
nkja]funu panassu ...	海葡萄。
nk]nu panas]su ...	お神酒。
nk]banan̥ú]panassu ...	軒下。
nk]mnu panas]su ...	ニキビ。
o:ba]nu panas]su ...	金蠅。
o:da]nu panassu ...	(草などを入れる) 容器の一種。
o:]g]nu panassu ...	扇。
o:ja:]nu panassu ...	喧嘩。
o:nabanu panas]su ...	苔。
pa:nu panas]su ...	歯。
pa:nu panas]su ...	刃。
pa:nu panas]su ...	葉。
pa:dzu:]nu panassu ...	葉物野菜。
pa:garanu panas]su ...	枯葉。
pa:iça]nu panassu ...	歯医者。
pa:ja:]nu panassu ...	歯医者。
pa:mmanu panas]su ...	年を取ったおばあさん。
pa:n]tunu panassu ...	醜い面。

pa:sɿ:]sɿnu panassu ...	齒莖。
padaka]nu panas[su ...	肌が見えている状態。
pada]razzunu panassu ...	鱗。
padzɿminu panas]su ...	始め。
pagama]nu panassu ...	羽釜。
pagiganamarja]nu panassu ...	禿げた頭。
pagɿ]nu panassu ...	足。
pagɿbzza]nu panassu ...	くるぶしぼね以下の部分。
paikadzɿnu panas]su ...	南風。
pəkanu panas]su ...	墓。
pəku]nu panassu ...	箱。
pama]nu panassu ...	浜。
pambi]nnu panassu ...	天ぷら。
pammainu panas]su ...	飯米。
pananu panas]su ...	鼻。
panadzɿnu panas]su ...	鼻の先。
panapɿginu panas]su ...	鼻毛。
panatssɿnu panas[su ...	鼻血。
paninu panas]su ...	羽 (はね)。
panigaɿ]nu panassu ...	鱭 (ひれ)。
paɿnu panas]su ...	蠅 (ハエ)。
para]nu panassu ...	柱。
paramnu panas]su ...	卵巣。
paɿ]dinu panassu ...	出ること。
paɿdivvanu panas]su ...	分家の子。
pari]nu panassu ...	畑。
parija:]nu panassu ...	農夫。
parimtsɿ]nu panassu ...	田舎の道。
parisɿgu]tunu panassu ...	畑仕事。
parisɿkama]nu panassu ...	畑仕事。
pəsa]mnu panassu ...	鋏。
pəsoko]nnu panassu ...	パソコン。
pəsɿnu panas]su ...	橋。
pətanu panas]su ...	(グラス、器などの) 縁。
pəta]tsɿnu panassu ...	二十歳。
pətsɿnu panas]su ...	蜂。
patsɿkanu panas]su ...	二十日 (はつか)。

pəʔtunu panas]su ...	鳩。
pavnu panas]su ...	蛇。
pi:nu panas]su ...	屁。
pi:pçça]nu panassu ...	屁こき屋。
pssi]nu panassu ...	珊瑚礁。
pssinnnanu panas]su ...	サザエ。
pin]dzanu panassu ...	山羊 (やぎ)。
pinnapʉtunu panas]su ...?	変人。
pira]nu panassu ...	篋 (へら)。
pʉti:]tsʉnu panassu ...	一つ。
pja:kunu panas]su ...	百。
pja:rʉnu panas]su ...	日差し。
pja:rinu panas]su ...	旱魃。
pja:rimununu panas]su ...	間食。
po:]kʉnu panassu ...	箒。
pʉ:]nu panassu ...	針。
pʉ:nu panas]su ...	大蒜 (にんにく)。
pʉ:tsʉkʉ]nu panassu ...	刺青 (いれずみ)。
pʉda]ʉnu panassu ...	左。
pʉda]rʉjanu panassu ...	左利き。
pʉdaʉdi:nu panas]su ...	左手。
pʉdzʉnu panas]su ...	肘。
pʉginu panas]su ...	髭 (ひげ)。
pʉgimuça]nu panassu ...	毛むくじゃら。
pʉgimun]nu panassu ...	桃の一種。
pʉkadzʉnu panas]su ...	日。
pʉkaʉmunu]nu panassu ...	光るもの。
pʉkʉninnu panas]su ...	人間と見なされていない人。
pʉmʉkʉnu panas]su ...	喘息。
pssanu panas]su ...	足の足首以下の部分。
pssaganu panas]su ...	裸。
pssakitanu panas]su ...	洗濯板。
pssapambinnu panas]su ...	宮古島のクレープ。
pssaranu panas]su ...	平良。
pssarafʉtsʉnu panas]su ...	平良方言。
pssʉnu panas]su ...	女性器。
pssʉmanu panas]su ...	昼。

pɯ̌tunu panas]su ...	人。
pɯ̌tuka]ranu panassu ...	一匹。
pɯ̌tukiv]nu panassu ...	一軒。
pɯ̌tuku:]nu panassu ...	一個。
pɯ̌tun]nu panassu ...	一回。
pɯ̌tuɿ]nu panassu ...	一日 (いちにち)。
pɯ̌tuti:]nu panassu ...	一年。
pu:]nu panassu ...	帆。
pu:ɿnu panas]su ...	五穀の祭り。
puinu panas]su ...	大きさ。
pɯ̌karassanu panas]su ...	嬉しさ。
pɯ̌kinu panas]su ...	埃。
pundainu panas]su ...	わがまま。
puni]nu panassu ...	骨。
purimununu panas]su ...	馬鹿 (な人)。
pɯ̌sɿnu panas]su ...	星。
ɿ:nu panas]su ...	西。
ɿ:dinnu panas]su ...	西の空。
ɿ:kɿnu panas]su ...	鱗。
ɿ:mukunu panas]su ...	入り婿。
ɿ:nja:]nu panassu ...	西隣の家。
ɿ:sanu panas]su ...	唾 (おし)。
ɿ:tsɿmma:]nu panassu ...	西積間。
radzi]onu panassu ...	ラジオ。
raiç:nu panas]su ...	来週。
raigetsɿnu panas]su ...	来月。
ɿbɿnu panas]su ...	伊勢海老。
ɿbɿgan]nu panassu ...	伊勢海老。
re:dzo:]konu panassu ...	冷蔵庫。
ɿkɿ]nu panassu ...	息。
roku]džinu panassu ...	六時。
rokudžu:]nu panassu ...	六十。
rokuga]tsɿnu panassu ...	六月。
zzakunu panas]su ...	櫛 (かい)。
zzaɿnu panas]su ...	胞衣 (えな)。
zzara]nu panassu ...	鎌 (かま)。
zzunu panas]su ...	魚。

zzunu mi:nu panas]su ...	魚の目。
zzutssɲnń panas]su ...	魚釣り。
zzuturjanu panas]su ...	漁師。
sa:]ruga panassu ...	蠨螂 (かまきり)。
saba]nu panassu ...	草履。
sabaninu panas]su ...	くり船。
sadz]nu panassu ...	タオル。
sajafunu panas]su ...	大工。
sąkanu panas]su ...	坂。
sąkamanu panas[su ...	坂。
sakamamtsɲnń]panassu ...	坂道。
sąkamtsɲnu panas]su ...	坂道。
sąkinu panas]su ...	酒。
sąkifajanu panas]su ...	毎日酒を飲む人。
sąkigaminu panas]su ...	酒瓶。
sąkinumnu panas]su ...	飲み会。
sąkinumjanu panas]su ...	酒をたくさん飲む人。
sąkɲduminu panas]su ...	先妻。
samu]nu panas[su ...	遊びの一種。
sana]nu panassu ...	傘。
sana]gɲnu panassu ...	禪。
sana]kanu panassu ...	朝十時の休憩。
sançinnu panas]su ...	三味線。
sandzi]nu panassu ...	三時。
sandzu:]nu panassu ...	三十。
saninu panas]su ...	種。
saninnu panas]su ...	月桃。
sanitsɲnu panas]su ...	宮古島の祭りの一つ。
saniwa:]nu panassu ...	種付け用の雄豚。
sanminnu panas]su ...	判断。
sanga]tsɲnu panassu ...	三月。
sa]nu panas[su ...	海老 (えび)。
saranu panas]su ...	皿。
sa]gama]nu panassu ...	海老 (えび)。
sarizzunu panas]su ...	干魚。
sa]nu]panu panassu ...	西方。
saruka]nu panassu ...	サルカケミカン。

sarukajama]nu panassu ...	サルカケミカンの林。
sasab]nu panas[su ...	しゃっくり。
sasa]ginu panassu ...	結婚。
sata]nu panassu ...	砂糖。
senču:nu panas]su ...	先週。
senmongakko]:nu panassu ...	専門学校。
sengets]nu panas]su ...	先月。
s]b]nu panassu ...	貝の一種。
so:nu panas]su ...	竿。
so:]dz]nu panassu ...	掃除。
so:]kanu panassu ...	生姜 (しょうが)。
so:]kinu panassu ...	(野菜や芋などを入れる) 籠の一種。
so:mi]nnu panassu ...	素麺。
so:]minbutturānu panassu ...	素麺チャンプル。
s]:nu panassu ...	お酢。
s]:s]nu panas]su ...	(油と対照的に) 肉。
s]:s]wa:]nu panassu ...	赤身の多い豚。
s]banu panas]su ...	唇。
s]danu panas]su ...	舌。
s]digara]nu panassu ...	抜け殻。
s]digu:]nu panassu ...	抜け殻。
s]diguru]nu panassu ...	抜け殻。
s]dimm]nu panassu ...	水っぽくなった芋。
s]dz]nu panas]su ...	茎。
s]ga]manu panassu ...	洲鎌 (すがま)。
s]gutunu panas]su ...	仕事。
s]ijo:binu panas]su ...	水曜日。
s]kama]nu panassu ...	仕事。
s]k]:nu panas]su ...	海鼠 (なまこ)。
s]manu panas]su ...	島。
s]manu panas]su ...	相撲。
s]madz]:nu panassu ...	島尻 (しまじり)。
s]mafuts]nu panassu ...	方言。
s]mamtsu]nu panassu ...	島味噌。
s]maturjanu panas]su ...	相撲取り。
s]mbju:nu panas]su ...	泥酔する。
s]mnanu panas]su ...	葱 (ねぎ)。

ṣnu]̣nu panassu ...	もずく。
ṣp̣ɔ̣zimununu panas]su ...	耳が聞こえなくなっている人。
ṣp̣uɔ̣ɔ̣nu panas]su ...	帯。
ṣṭanu panas]su ...	下。
ṣṭa:ranu panas]su ...	下、下の方。
ṣṭaba:nu panas]su ...	(サトウキビの) 下部の葉っぱ。
ṣṭa]sanu panassu ...	舅 (しゅうと)。
ṣṭɔ̣dzan]nu panassu ...	放置。
ṣṭugats]nu panassu ...	お盆。
ṣṭu]manu panassu ...	姑 (しゅうとめ)。
ṣṭumu]tinu panas[su ...	朝。
ṣv]nu panassu ...	冬瓜。
ssa]mnu panassu ...	虱。
ssa]nu panassu ...	白蟻。
ssa]rinu panassu ...	発情。
ss]nu panassu ...	巢。
su:nu panas]su ...	野菜。
subanu panas]su ...	蕎麦 (そば)。
subanu panas]su ...	側。
sudinu panas]su ...	袖。
sudzanu panas]su ...	兄。
sudzassunu panas]su ...	年上。
ṣukunu panas]su ...	底。
sunnu panas]su ...	損。
sura]nu panassu ...	茎や枝の先端。
çuri]nu panassu ...	首里 (しゅり)。
ṣu]ti]tṣnu panassu ...	蘇鉄 (そてつ)。
ta:]ga panassuga ...	誰。
ta:nu panas]su ...	田。
ta:ma]nu panas]su ...	田米。
ta:mmnanu panas]su ...	蝸牛の一種。
ta:ranu panas]su ...	俵。
tab]nu panas]su ...	旅。
tagu]nu panassu ...	桶。
tai]raga panassu ...	平良 (たいら)。
taja]nu panassu ...	力。
tajamununu panas]su ...	力持ち。

təkanu panas]su ...	鷓 (さしば)。
təkamm]nanu panassu ...	高瀬貝。
təkaranu panas]su ...	宝。
təkaramunu]nu panassu ...	宝物。
təkinu panas]su ...	竹。
təkʲbo:kʲnu panas]su ...	竹箒。
təkiburaní panas]su ...	竹の笛。
təkunu panas]su ...	蛸 (たこ)。
tamanu panas]su ...	分。
tamanu panas]su ...	玉。
tamannu panas]su ...	魚の一種 (ふえふき)。
tamana:]nu panassu ...	キャベツ。
tama]sʲnu panassu ...	魂。
tamatsʲkʲpʲ]tunu panassu ...	癩癩。
tamu]nunu panassu ...	薪。
tanani:nu panas]su ...	洲鎌にある集落名。
tan]dinu panassu ...	お詫び。
taninu panas]su ...	種。
tani]kunu panassu ...	塊。
taʲnu panas]su ...	松明 (たいまつ)。
tarakinu panas]su ...	世代。
tara]manu panassu ...	多良間。
taramadzʲma =]nu panassu ...	多良間島。
tara]mafʲtsʲnu panassu ...	多良間方言。
tara]ʲnu panassu ...	盥。
təʃkaran munu]nu panassu ...	駄目な人。
tətatsʲkʲ]nu panassu ...	来月。
tətəo]:nu panassu ...	仏壇に (お茶を) 供えること。
tətsʲnu panas]su ...	(家畜の) 小屋。
tətsʲbʲ]:nu panassu ...	座る姿勢と立つ姿勢の間の姿勢。
təa:nu panas]su ...	お茶。
təaba]nnu panassu ...	茶碗。
təi:ga:]nu panassu ...	聾啞者 (ろうあしゃ)。
təibinu panas]su ...	尻。
təibirunnu panas]su ...	肛門。
təikina:nu panas]su ...	野菜の漬物。
təirudainu panas]su ...	大型の膳。

t̚o:]kinu panassu ...	(お茶の) つまみ。
t̚o:]minnu panas]su ...	帳面。
t̚o:]gakko]:nu panassu ...	中学校。
t̚o:]kanu panassu ...	急須。
te:]buru]nu panassu ...	テーブル。
tere:]bi]nu panassu ...	テレビ。
ti:]nu panas]su ...	手。
ti:]t̚m]nu panassu ...	拳。
ti:]da]nu panassu ...	太陽。
ti:]da]n̄]utibana[nu]panas]su ...	太陽の落ちるごろ。
ti:]ga:]ranu panassu ...	塊。
ti:]ga:]nu panassu ...	自慢。
ti:]ma:]nu panassu ...	給料。
ti:]ba:]nu panas]su ...	虹。
ti:]nu panas]su ...	空。
ti:]zo:]nu panassu ...	天井。
ti:]ra:]zanu panas]su ...	巻貝。
ti:]ga] panassuga ...	誰。
ti:]fu:]nu panassu ...	豆腐。
ti:]fu:]ka]ʃ]ganamarjanu panassu ...	豆腐粕頭。
ti:]kjo:]nu panas]su ...	東京。
ti:]kjo:]da]ga]kunu panassu ...	東京大学。
ti:]ta]ga] panassuga ...	誰ら。
ti:]v]vanu panassu ...	台所。
ti:]o:]ri]ga] panassu ...	友利 (ともり)。
ti:]g:]nu panas]su ...	棘。
ti:]g:]k:]nu panas]su ...	血炒め。
ti:]da:]nu panassu ...	乳首のしこり。
ti:]dz:]nu panas]su ...	てっぺん。
ti:]gu:]nu panas]su ...	膝。
ti:]ka:]nu panas]su ...	司。
ti:]ka:]sa:]manu panas]su ...	司。
ti:]ki:]mu:]nu panas]su ...	漬物。
ti:]k:]nu panas]su ...	(天体の) 月。
ti:]mi:]nu panas]su ...	爪。
ti:]na:]nu panas]su ...	綱。
ti:]mfu:]gunu panas]su ...	積窪。

tsɯnu nu panas]su ...	角 (つの)。
tssɯnu panas]su ...	乳。
tssɯfutsɯ]nu panassu ...	乳首。
tsɯtu]nu panas[su ...	お土産。
tu:nu panas]su ...	十。
tu:]dzɯnu panassu ...	手水。
tu:dzɯgani]nu panassu ...	洗面器。
tu:futa:tsɯnu panas]su ...	十二。
tu:itsɯtsɯnu panas]su ...	十五。
tu:ja:tsɯnu panas]su ...	十八。
tu:ju:tsɯnu panas]su ...	十四。
tu:kɯkunutsɯnu panas]su ...	十九。
tu:mmtsɯnu panas]su ...	十六。
tu:mi:tsɯnu panas]su ...	十三。
tu:nanatsɯnu panas]su ...	十七。
tu:pɯti:tsɯnu panas]su ...	十一。
tudzɯnu panas]su ...	妻。
tudzɯmi]nu panassu ...	終り。
tuinu panas]su ...	干支。
tɯkanu panas]su ...	十日 (とおか)。
tɯkafutsɯkanu panas]su ...	十二日 (じゅうにち)。
tɯkai tsɯkanu panas]su ...	十五日 (じゅうごにち)。
tɯkajo:]kanu panassu ...	十八日 (じゅうはちにち)。
tɯkaju:kanu panas]su ...	十四日 (じゅうよっか)。
tɯkammkanu panas]su ...	十六日 (じゅうろくにち)。
tɯkamɯ:kanu panas]su ...	十三日 (じゅうさんにち)。
tɯkanan]kanu panassu ...	十七日 (じゅうしちにち)。
tɯkaranu panas]su ...	十匹。
tɯkɯnu panas]su ...	占い師。
tɯku:nu panas]su ...	十個。
tumu]ɯnu panassu ...	友利。
tuna]kanu panassu ...	卵。
tunaɯnu panas]su ...	隣。
tunara]nu panassu ...	秋の野芥子。
tunubarja[ga panas]su ...	ぼうっとする人。
tungaranu panas]su ...	(女性の) 同級生。
tuɯnu panas]su ...	鳥。

turanupanu panas]su ...	東方。
turipɣuɣnu panas]su ...	冬の時期に風がなくて冷たいこと。
tɯmi:nu panas]su ...	鳥目。
tɯnu ssɿ]nu panassu ...	鳥の巣。
tɯɣnu panas]su ...	年。
tɯtannu panas]su ...	トタン。
tɯtanganinu panas]su ...	トタン。
tɯtanganija:]nu panassu ...	トタン屋根の家。
tɯti:nu panas]su ...	十年。
tɯtubaripin]dzanu panassu ...	ぼんやりとした山羊。
vdamununu panas]su ...	太っている人。
udawa:nu panas]su ...	(比喩的に) デブ。
udinu panas]su ...	腕。
udzɿnu panas]su ...	ウツボ。
udzɿmba]raja:nu panassu ...	掘立柱建物。
ue]tɕiga panassu ...	上地 (うえち)。
ugam]nu panassu ...	大神。
ugamdɣma]nu panassu ...	大神島。
ui]ga panassu ...	それ。
uibi]nu panassu ...	指。
uibigani]nu panassu ...	指輪。
uidzɿnu panas]su ...	上地 (うえち)。
uiɣtunu panas]su ...	年寄り。
uisanu panas]su ...	噂。
uita]ga panassu ...	それら。
uja]ga panassu ...	父。
ujaffa]nu panassu ...	親子。
uja]kimununu panassu ...	富裕な人。
uja]kiɣɣtu:nu panassu ...	金持ち。
ujamma]ga panassu ...	両親。
ukka]nu panassu ...	借金。
ukɣna:]nu panassu ...	沖縄。
uma]nu panassu ...	そこ。
umata:]nu panassu ...	そこら。
uma]tsɿnu panassu ...	火。
umujas]sanu panassu ...	安心。
umuku]tunu panassu ...	知恵。

una]gɽnu panassu ...	鰻 (うなぎ)。
undo:ka]inu panassu ...	運動会。
unu tu]sɽnu panassu ...	その年。
ungɽ]nu panassu ...	恩。
upa:]dzaga panassu ...	長男。
upuba:]kinu panassu ...	大きい箆。
upubari]nu panassu ...	大きい畑。
upɸo:ga]tsɽnu panassu ...	大正月。
upuduɽ]nu panassu ...	大鳥。
upudzin]nu panassu ...	大善。
upudzɽ:]nu panassu ...	巨乳。
upɸfɸuku]nu panassu ...	大きい服。
upugi:]nu panassu ...	大きな木。
upukuru]manu panassu ...	大きな車。
upuiɸa]nu panassu ...	偉い医者。
upuin]nu panassu ...	大きな犬。
upuis]ɽnu panassu ...	大きな椅子。
upuis]ɽnu panassu ...	大石。
upuja:]nu panassu ...	大きな家。
upɸka:]nu panassu ...	大きな井戸。
upukagam]nu panassu ...	大きな鏡。
upɸkɸtsɽ]nu panassu ...	大きな靴。
upumaju]nu panassu ...	大きな猫。
upumami]nu panassu ...	大きな豆。
upumi:]nu panassu ...	大きな目を持つ (こと、人)。
upumin]nu panassu ...	大きな耳。
upumju:tura]nu panassu ...	大きな夫婦。
upum]tsɽnu panassu ...	大道。
upumusɽ]nu panassu ...	大きな虫。
upuna:nu panas]su ...	洲鎌にある集落名。
upunabi]nu panassu ...	大きな鍋。
upuni]nu panassu ...	大根。
upuntu]nu panassu ...	体が大きい。
upunu:ma]nu panassu ...	大きな馬。
upuo:]gɽnu panassu ...	大きな扇。
upɸpav]nu panassu ...	大蛇。
upɸpindza]nu panassu ...	大きな山羊。

upupɔ̃tu]nu panassu ...	大人。
upusanagɔ̃]nu panassu ...	大きな禪。
upusɔ̃ma]nu panassu ...	大きな島。
upɔ̃su]nu panassu ...	海水。
upuusɔ̃]nu panassu ...	大きな牛。
upuwa:]nu panassu ...	大きな豚。
uɔ̃]nu panassu ...	瓜。
ura]dzanu panassu ...	裏座 (伝統的な間取りでは奥の部屋)。
uɔ̃gama]nu panassu ...	赤毛瓜 (あかげうり)。
uru]kanu panassu ...	砂川 (うるか、城辺の集落)。
urukaɔ̃fɔ̃]tsɔ̃nu panassu ...	砂川方言。
usainu panas]su ...	肴。
usɔ̃nu panas]su ...	牛。
ussunu panas]su ...	後頭部。
utɔ̃ki]nu panassu ...	御嶽。
utɔ̃an]nu panassu ...	投網 (とあみ)。
utsudza]nu panassu ...	親戚。
utunu panas]su ...	音。
utu:]nu panassu ...	お通り。
utugaɔ̃]nu panassu ...	顎 (あご)。
utɔ̃tunu panas]su ...	年下のきょうだい。
wa:]bunu panas]su ...	上。
wa:]ɔ̃a:]nu panas]su ...	豚をつぶし、売ることを職業とする人。
wa:]kɔ̃nanu panas]su ...	態度が悪い。
wa:]nu ja:]nu panassu ...	豚小屋。
wa:]padanu panas]su ...	表面。
wa:]ranu panas]su ...	上。
watɔ̃ɔ̃]kunu panassu ...	悪戯。
wa:]tsɔ̃kɔ̃]nu panas]su ...	天気。
vva]ga panassu ...	君。
vva]taga panassu ...	君たち。
wa:]nu panassu ...	輪。
zzigaranu panas]su ...	入れ髪。
zzimununu panas]su ...	入れ物。

漢語福清方言における動詞の部分重複について

陳 学雄

神戸市外国語大学(客員研究員)・auchen516@gmail.com

キーワード：閩東方言、福清方言、部分重複、声調交替、意味分析、語用論的效果

1. はじめに

漢語福清方言(以下福清方言とする)は中国福建省の東南沿岸地域に位置する福清市および平潭県の一部の地域で話されている言語である。方言区分では系統的に閩東方言の下位方言として位置づけられている。

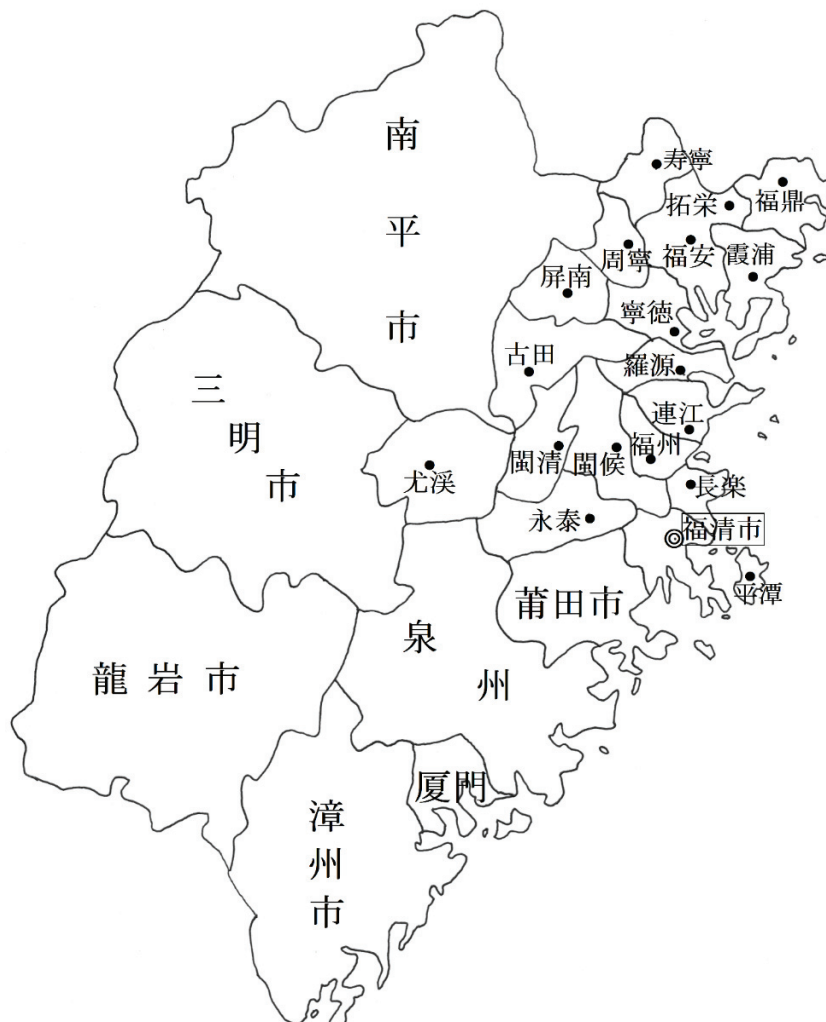


図1 福建省における福清市の位置¹

¹ 陳(2018)より引用。黒点は閩東方言区に属する地域を示す。

福清方言は地域によって、内部差異が存在する。冯爱珍(1993:3)は声調交替規則の違いによって、福清方言を「融城」、「高山」、「江陰」、「一都」の4つの方言グループに分類している。そのうち、「融城」グループは標準福清方言地域とされている。2019年の時点で、福清市の人口は、戸籍人口は139,1万人で、流動人口は33,3万人である²。

多くの漢語方言と同様、福清方言は形態変化がない。重複、複合と接辞の付加などが語形成の主な手段である。重複とは語基の全体または一部を繰り返す形態論的プロセスである。語基の全体をそのまま繰り返すものを完全重複(full reduplication)、これに対して、語基の一部だけを繰り返す操作も存在し、部分重複(partial reduplication)と呼ばれる(斎藤他 2015:155)。

福清方言では完全重複と部分重複と、両方の重複現象が観察される。(1)は完全重複の例である。

- | | | | |
|---------|----------------------------|---|---|
| (1) 名詞： | pue ⁵¹ 〈杯〉「コップ」 | → | pue ⁴⁴ ~pue ⁵¹ 〈杯杯〉 |
| | tsui ⁴³ 〈水〉「水」 | → | tsui ²¹ ~tsui ⁴³ 〈水水〉 |
| 動詞： | pha ²¹ 〈拍〉「殴る」 | → | pha ⁵¹ ~pha ²¹ 〈拍拍〉 |
| | sia ⁵¹ 〈食〉「食べる」 | → | sia ⁴⁴ ~sia ⁵¹ 〈食食〉 |
| 形容詞： | pa ⁵¹ 〈白〉「白い」 | → | pa ⁴⁴ ~pa ⁵¹ 〈白白〉 |
| | ho ⁴³ 〈好〉「いい」 | → | ho ²¹ ~ho ⁴³ 〈好好〉 |

(1)が示すように、語基の全体がそのまま繰り返され、完全重複が行われている。(1)のpue⁵¹〈杯〉「コップ」では、語基pue⁵¹がそのまま繰り返されて、重複形pue⁴⁴~pue⁵¹〈杯杯〉という語形を形成している。重複部pue⁴⁴~の声調が44となっているのは、声調交替が起こっているためである。完全重複現象には名詞、動詞、形容詞の三つの語類が関与する。

(2)は部分重複の語形成の例である。

- | | | | |
|--------|------------------------------|---|--|
| (2) a. | pha ²¹ 〈拍〉「殴る」 | → | ph-i ⁵¹ ~pha ²¹ |
| b. | mε ⁴² 〈卖〉「売る」 | → | m-i ⁴⁴ ~mε ⁴² |
| c. | thia ²¹ 〈拆〉「解体する」 | → | th-i ⁵¹ ~thia ²¹ |
| d. | khui ⁵¹ 〈开〉「運転する」 | → | kh-i ⁴⁴ ~khui ⁵¹ |
| e. | sia ⁵¹ 〈食〉「食べる」 | → | s-i ⁴⁴ ~sia ⁵¹ |

(2)は(1)と異なり、語基の全体ではなく、語基の一部が繰り返されている。福清方言における部分重複は、(2)のとおり、語基の頭子音が繰り返され、母音が繰り返されない。(2a)のpha²¹〈拍〉「殴る」は頭子音phを繰り返されて、母音aが繰り返されていない。(2b)のmε⁴²〈卖〉「売る」は頭子音mが繰り返されているが、母音εが繰り返されていない。(2c)~(2e)においても同様であり、語基の母音は部分重複に関与しない。

² 福清市の公式サイト(<http://fq.fuzhou.gov.cn>)による(最終確認 2021年2月10日)。

もう一つ完全重複との違いは、部分重複は動詞の語形成のみに観察されるということである。名詞と形容詞は部分重複現象に関与しない。

本論文で用いる用語の使い方についてここで説明しておく。本論文では、語基、重複部という用語を次の意味で用いる。

語基という用語は、重複という操作の元となる形を指すのに用いる。そして、重複部という用語は、繰り返されて形成される形を指すのに用いる。例(1)の完全重複に関していえば、重複という操作の元となる形は pue^{51} 〈杯〉の部分であるので、 pue^{51} が語基である。そして、繰り返されて形成される形は $pue^{44}pue^{51}$ の中の pue^{44} の部分であるので、 pue^{44} の部分が重複部である³。

例(2)の部分重複に関していえば、重複という操作の元となる形は pha^{21} 〈拍〉であるので、 pha^{21} が語基である。そして、繰り返されて形成される形は phi^{51} であるが、繰り返される部分は ph の部分だけである。「重複部」という用語の一般的な使い方からいえば ph の部分のみが重複部だが、本論文では繰り返された頭子音 ph と、そこに付加された母音 i を含む全体を重複部と呼ぶ。具体的には、 phi^{51} が重複部である。

実は、福清方言の重複に関わる声調交替を説明するには、語基、重複部という用語に加えて、基体部という用語も導入する必要がある。これは部分重複の全体に関わる問題であり、詳細は 3.2.2 節でおこなう。

以上では福清方言において、完全重複のみならず、部分重複現象も存在することを述べた。本稿の目的は福清方言における部分重複現象について、形態音韻論的分析をおこなう。部分重複の使用場面を提示し、その生起条件を明らかにすることである。

本稿は自然発話データと作例と両方用いる。自然発話データは 2014 年 12 月に筆者が福清市海口鎮で採集した第一次資料⁴である。海口鎮は冯爱珍(1993)の分類では、「融城」グループに属する地域である。より自然なデータを採集するために、インタビュー形式ではなく、福清方言話者が会話する際に、許可を得て録音機を置いて録音させていただいた。作例に関して、インフォーマント⁵に文法性チェックをしていただいた。また、部分重複を用いた例文についても使用場面や意味について確認していただいた。なお、筆者も福清方言の母語話者であり、十分な内省能力を持っている。

本稿は次のような構成である。

2 節では部分重複についての研究の現状について紹介する。3 節では福清方言における部分重複について形態音韻論的分析をおこなう。具体的には重複部の分節音と重複部の声調の実現に分けて記述する。4 節では部分重複の使用場面をいくつかに分け、部分重複を用いた

³ 重複部と語基の間で声調交替が起こっている。具体的には、 $pue^{51} \sim pue^{51} > pue^{44} \sim pue^{51}$ のように交替している。文の中で連続する単語の間、または、複合語の構成要素の間に声調交替が起きることがあり、またそれに伴い、母音が交替することもある。ここに示したのは交替後の語形である。

⁴ 調査協力者は筆者の家族や親戚、それから近所の方々である。どなたも成人するまで福清市以外の地域での長い滞在歴はない

⁵ インフォーマントは 30 代、女性、福清市海口鎮出身である。学歴は中学卒業、成人するまでには福清市以外の地域での長い滞在歴はない。現在は広東省深圳市在住。調査は電話で行った。

言語データを提示する。つづいて部分重複の生起条件を考察する。さらに部分重複の使用による語用論的効果について述べる。5 節では本稿でおこなったことを要約し、今後の課題について述べる。

2. 部分重複についての研究の現状

福清方言に関する研究は全体的に数が少ない。現在までの福清方言研究は、音韻研究に重点を置いている。これらの研究は、音韻変化の解明のための比較言語学的研究に少なからず寄与してきた。しかし、文法に関する研究は極めて少ない。冯爱珍(1993)と林寒生(2002)は、福清方言の文法についても、いくつかの項目を取り上げている。しかし、部分重複には特に言及がない。

福清方言のみならず、漢語諸方言全体においても、部分重複に関する記述がほとんど見られない⁶。福清方言以外では、部分重複に関する記述が見られるのは、3 点だけである。福州方言の部分重複を取り上げた(ア)李如龙(1984)と(イ)陈泽平(1998, 2015)、古田方言の部分重複を取り上げた(ウ)李滨(2014)である。

以下に、福州方言と古田方言における部分重複現象について、重複部の形態、声調および部分重複の意味についての記述を簡単に紹介しておく。

(ア)李如龙(1984)

李如龙(1984)では、動詞の部分重複現象を“特式重叠「特別重複(拙訳、以下同様)”と呼んでいる。単音節動詞 A に対して、特別重複させて aA を形成する。a は重複部である。a と A との間には以下のような関係を有する。

- ・ a の声母は A と同じである。a の韻母は A の韻尾によって決まる。A の韻尾が母音もしくは入声の場合は、a の韻母が i である。A の韻尾が鼻音の場合は、a の韻母が iq である(p17)。
- ・ a の声調は A と同じである。a と A との間で声調交替が起こる。通常の二音節の声調交替規則にしたがう(p17)。
- ・“特式重叠「特別重複)”は、動作が適当である、明確な目的や目標を持たない意味を表わす。動作が一回で完了し、時間が短いことを表わす(p18)。

李如龙(1984)では、“特式重叠「特別重複)”できる動詞は一音節の動詞のみであるとしている。二音節動詞については言及していない。

⁶ 付欣晴(2016)の統計によると、漢語諸方言の重複現象についての論考は 1,700 以上にも上り、膨大な研究の数になっている。付欣晴(2016)は官話のみならず、漢語諸方言における名詞、動詞、形容詞などの重複現象を取り上げている。動詞重複の部分では、官話、晋方言、吳方言、閩方言、粵方言、韓方言、客家方言、湘方言、徽方言の動詞重複をまとめている。しかし、すべてが完全重複に関するものであり、部分重複に関する記述は見当たらなかった。

(イ)陈泽平(1998, 2015)

陈泽平(1998)では部分重複現象を“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”と呼んでいる。一音節動詞と二音節動詞と、両方が“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”することができる。派生した音節の形態、声調および派生の意味について以下のように述べている。

- ・一音節動詞は、“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”して二音節になる。第一音節は一音節動詞の声母に韻母 i をつけて構成した音節で、第二音節は元の動詞の音節である。第一音節と第二音節との間で声調交替が起こる。同じ声調を持つ音節が結合する際の声調交替規則にしたがう(陈泽平 1998 : 116)。
- ・二音節動詞は、動詞原形の第一音節を“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”して、全体で三音節になる。重複形の第一音節は韻母が i で、声母は動詞原形の第一音節の声母と同じである(陈泽平 1998 : 117)。声調は低降調(=21 調)である(陈泽平 2015 : 299)
- ・“簡捷貌「簡潔貌」”は、動作・行為に“干脆「思い切って／いっそのこと」”、“痛快「痛快である」”というニュアンスをもたらす。共通語では、同じ意味を表すのに、一般的に“干脆「思い切って」”“索性「いっそのこと」”などの副詞を用いる必要がある(陈泽平 1998 : 118)。

李如龙(1984)では二音節動詞について特に言及していないが、陈泽平(1998, 2015)では二音節動詞についても取り上げている。重複部の母音に関しては、李如龙(1984)では動詞の音節の韻母によって i もしくは ij になるとしているが、陈泽平(1998, 2015)では音節タイプに関係なく、重複部の母音が一律 i であるとしている。

(ウ)李滨(2014)

李滨(2014)では、古田方言における部分重複の形式を“CD 衍音式「CD 音声派生」”と呼んでいる。C は派生した音節のこと、D は動詞の音節である。C の語形成、声調および CD の意味について以下のように述べている。

- ・一音節動詞の場合は、派生した C の声母は D と同じで、韻母が i である。D の韻母が鼻音終わりの場合、C の韻母は ij でもよい。C の声調は D の声調と同じで、C と D の間で声調交替が起こる(p153)。
- ・二音節動詞の場合では、二音節のうち第一音節の声母と声調をコピーして、C を派生させる。C の韻母は i で、声調は第一音節の声調との間で声調交替が起こる(p153)。
- ・“CD 衍音式「CD 音声派生」”によって、動作・行為が「気苦労がなく、勝手気まま」におこなわれる、というニュアンスが付け加わる。共通語では“随便「適当に」”を用いて表わす。また、一定の文脈では、動作・行為に“干脆「思い切って／いっそのこと」”、“痛快「痛快である」”というニュアンスをもたらす。共通語では、同じ意味を

表すのに、一般的に“干脆「思い切って」”“索性「いっそのこと」”などの副詞を用いる必要がある(pp153-154)。

上述したように、福清方言以外では、部分重複に関する記述が見られるのは、福州方言と古田方言の研究、あわせて三点のみである。大変興味深い現象にもかかわらず、その研究の数があまりにも少ない。

管見の限り、李如龙(1984)が部分重複現象に最も早く注目した研究である。李如龙(1984)によれば、部分重複現象は閩方言、特に閩東方言に多く見られると指摘している。閩南方言である泉州方言にも存在するが、オノマトペからできた単音節動詞に限られると述べている(p19)。

福州方言と古田方言はいずれも閩東方言に属する下位方言である。現在まで福州方言と古田方言しか報告されていないことと、李如龙(1984)の指摘と関連付けて考えれば、部分重複は閩東方言に特徴的な現象である可能性が高い。

本論文では同じ閩東方言に属する福清方言を取り上げ、福清方言における部分重複の言語データを提示し、重複部の形成および部分重複の生起条件を考察して記述する。本研究は、今後閩東方言の重複現象の全体像を探究するうえでも重要な基礎的資料に違いない。

次節から福清方言における部分重複現象について記述する。福州方言と古田方言における部分重複現象との相違点についても述べる。なお、筆者は陳学雄(2018)においても部分重複現象を取り上げているが、簡単な記述に留めている。本稿は陳学雄(2018)の記述を大幅に加筆・修正したものである。

3. 形態音韻論的分析

3 節では、部分重複の形態音韻論的分析を行う。具体的には部分重複の分節音と部分重複の声調の実現に分けて、この順序で記述する。

3.1 重複部の分節音

福清方言の音節構造を端的に表せば、(3)の通りである。

$$(3) \quad \sigma = C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2)/T$$

C は子音、V は母音、T は全体にかぶさる声調を表す。C₁ の位置に現れた子音を頭子音(initial)、C₂ に現れた子音を末子音(final)と呼ぶ。V₂ は主母音である。V₁ は中国語学では介音と呼ぶものである。福清方言では、必ずしもすべての要素が現れるわけではない。したがって、頭子音のない音節も存在する⁷。

⁷ 福清方言の音素目録は、[子音]/p, ph, t, th, k, kh, ʔ; ts, tsh; s, h; m, ŋ; l/、[母音]/i, e, ε, a, y, ø, œ, ɔ, o, u/ である。声調素は/44, 51, 43, 42, 21/である。

部分重複は、語基に一定の操作をほどこして重複部を作り、その重複部を語基の前に付加しておこなう。その操作は具体的には次の(4)のようなものである。

$$(4) \quad C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2) \rightarrow C_1-i \sim C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2)$$

(4)に示されたように、語基である音節 $C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2)$ に対して、まず頭子音 C_1 をコピーする。それから、 C_1 に母音 i を付けて、重複部 $C_1i \sim$ を構成する。構成された重複部 $C_1i \sim$ は動詞の前に配置される。重複部の形成は以下の(5)のとおりである。

- (5) a. pha^{21} 〈拍〉「殴る」 $\rightarrow ph-i^{51} \sim pha^{21}$
 b. $m\epsilon^{43}$ 〈买〉「買う」 $\rightarrow m-i^{21} \sim m\epsilon^{43}$
 c. tau^{44} 〈□⁸〉「言いつける」 $\rightarrow t-i^{44} \sim tau^{44}$
 d. $ti\eta^{44}$ 〈停〉「止める」 $\rightarrow t-i^{44} \sim ti\eta^{44}$
 e. $pua\eta^{51}$ 〈搬〉「運ぶ」 $\rightarrow p-i^{44} \sim pua\eta^{51}$
 f. $kha?^{21}$ 〈□〉「捨う」 $\rightarrow kh-i^{51} \sim kha?^{21}$
 g. $pe?^{44}$ 〈拔〉「抜く」 $\rightarrow p-i^{44} \sim pe?^{44}$

(5)が示すように、部分重複は、まず語基である音節の頭子音をコピーする。例えば、(5a)の pha^{21} 〈拍〉「殴る」に対して、頭子音 ph を、(5b)の $m\epsilon^{43}$ 〈买〉「買う」に対して、頭子音 m を、(5c)の tau^{44} 〈□〉「言いつける」に対して、頭子音 t をコピーする。次に、コピーしたそれぞれの頭子音に母音 i を付加して、重複部 $phi \sim$ 、 $mi \sim$ 、 $ti \sim$ を構成して、動詞の前に配置する。

重複部の母音は、語基が開音節であれ、閉音節であれ、必ず i である。(5a)～(5c)の語基が開音節である。それぞれコピーした頭子音に母音 i を付加している。(5d)と(5e)では、語基が η 終わりである。(5f)と(5g)では、語基が $?$ 終わりである。しかし、それぞれコピーした頭子音に付加する母音はやはり i である($i\eta$ にはならない)。この点は陳澤平(1998, 2015)が記述した福州方言と同様である。ただし、李如龍(1984)が記述した福州方言、李濱(2014)が記述した古田方言とは異なる。

語基は頭子音がゼロである音節の場合、例えば、(6)のような場合は、重複部も頭子音がゼロで、母音 i だけ付加される。閉音節である(6b)と(6c)においても同様である。

- (6) a. ϵ^{51} 〈□〉「(前方へ)押す」 $\rightarrow i^{44} \sim \epsilon^{51}$
 b. $e\eta^{51}$ 〈攪〉「置く」 $\rightarrow i^{44} \sim e\eta^{51}$
 c. $\epsilon?^{21}$ 〈压〉「抑える」 $\rightarrow i^{51} \sim \epsilon?^{21}$

⁸ 漢字が分からないものは「□」で代用する。また、重複部は、「□」で表して、その重複が部分重複であることを明示した。重複部のグロスに語基と同じ漢字を用いた場合、それが部分重複なのか、完全重複なのか、表記からは判別できなくなってしまうためである。

語基が二音節動詞の場合では、(7)のように部分重複が行われる。

- (7) a. $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」→ $t-i^{21}\sim toi^{44}tsiu^{43}$
 b. $kai^{44}sieu^{42}$ 〈介绍〉「紹介する」→ $k-i^{21}\sim kai^{44}sieu^{42}$
 c. $kha^{35}la^{21}$ 〈□□〉「修理する」→ $kh-i^{44}\sim kha^{35}la^{21}$
 d. $tshy^{44}li^{43}$ 〈处理〉「処理する」→ $tsh-i^{21}\sim tshy^{44}li^{43}$
 e. $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」→ $h-i^{44}\sim hiu^{35}se^{21}$
 f. $tuon^{35}lion^{42}$ 〈转让〉「譲渡する」→ $t-i^{21}\sim tuon^{35}lion^{42}$
 g. $huŋ^{35}lo^{21}$ 〈□□〉「申しつける」→ $h-i^{44}\sim huŋ^{35}lo^{21}$
 h. $huan^{44}ŋi^{44}$ 〈翻译〉「訳す」→ $h-i^{44}\sim huan^{44}ŋi^{44}$
 i. $aŋ^{44}pe^{44}$ 〈安排〉「手配する」→ $i^{44}\sim aŋ^{44}pe^{44}$

語基が二音節動詞の場合は、第一音節のみが部分重複に関与し、第二音節は部分重複に関与しない。例えば、(7a)の $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」では、第一音節 toi^{44} 〈□〉の頭子音がコピーされている。第二音節である $tshiu^{43}$ 〈手〉は部分重複に関与しない。(7b)~(7i)においても同様である。

語基が二音節動詞の場合においても、重複部の母音は、語基が一音節動詞の場合と同様、必ず *i* である。また、第一音節の頭子音がゼロの場合、重複部も頭子音がゼロで、母音 *i* のみ付加される。例えば、(7i)の $aŋ^{44}pe^{44}$ 〈安排〉「手配する」に対して、重複部は $i^{44}\sim$ となっている。

重複部のこの頭子音が正確には何に由来するのかについては、3.2.2 節で明らかにする。

3.2 重複部の声調の実現

福清方言においては5つの声調素が存在する。それぞれ、51、44、43、42、21 である。語基が一音節動詞と二音節動詞とでは、重複部の声調の実現が異なる。以下、重複部の声調の実現を2つの場合に分けて考察する。3.2.1 節では語基が一音節動詞の場合を、3.2.2 節では語基が二音節動詞の場合を、それぞれ考察する。

3.2.1. 語基が一音節動詞

語基が一音節動詞の場合においては、重複部の声調は2つのステップを経て実現される。

ステップ1: 重複部を形成する(その際に語基の声調をコピーする)

ステップ2: 重複部と語基の間で声調交替が起こる

動詞 ka^{51} 〈加〉「加える」を例に示せば、語基 ka^{51} に対して、重複部 $ki\sim$ の声調は、具体的には図2のような流れで実現する。

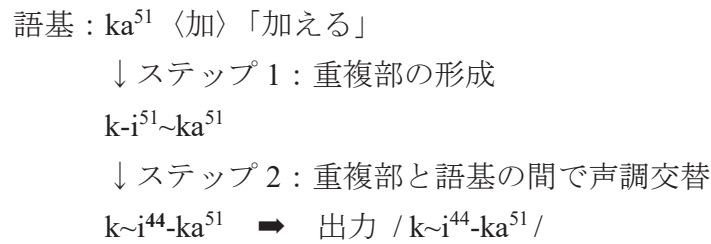


図 2 部分重複の流れ：一音節動詞の場合

図 2 が示すように、語基 ka⁵¹ 〈加〉「加える」の部分重複は、ステップ 1 では、語基 ka⁵¹ の声調 51 がコピーされ、重複部 ki⁵¹~が形成される。つづいてステップ 2 では、重複部 ki⁵¹~と語基 ka⁵¹ の間で声調交替が生じ、重複形 k-i⁴⁴~ka⁵¹ が形成される。

一音節動詞が部分重複される場合、重複部の声調がどのように実現されるかを、以下に具体例を挙げる。ここでもやはりステップ 1 とステップ 2 に分けて提示する。具体例は語基の声調が 51、44、43、42、21 の順に、2 例ずつ提示しておく。

	ステップ 1	ステップ 2
(8) a. kuɔŋ ⁵¹ 〈关〉「閉める」	→ ki ⁵¹ +kuɔŋ ⁵¹	→ ki ⁴⁴ ~kuɔŋ ⁵¹
b. sia ⁵¹ 〈食〉「食べる」	→ si ⁵¹ +sia ⁵¹	→ si ⁴⁴ ~sia ⁵¹
c. pu ⁴⁴ 〈口〉「炙る」	→ pi ⁴⁴ +pu ⁴⁴	→ pi ⁴⁴ ~pu ⁴⁴
d. pue ⁴⁴ 〈賠〉「弁償する」	→ pi ⁴⁴ +pue ⁴⁴	→ pi ⁴⁴ ~pue ⁴⁴
e. tu ⁴³ 〈賭〉「賭ける」	→ ti ⁴³ +tu ⁴³	→ ti ²¹ ~tu ⁴³
f. me ⁴³ 〈买〉「買う」	→ mi ⁴³ +me ⁴³	→ mi ²¹ ~me ⁴³
g. me ⁴² 〈卖〉「売る」	→ mi ⁴² +me ⁴²	→ mi ⁴⁴ ~me ⁴²
h. siɔŋ ⁴² 〈上〉「上がる」	→ si ⁴² +siɔŋ ⁴²	→ si ⁴⁴ ~siɔŋ ⁴²
i. so ²¹ 〈口〉「吸う」	→ si ²¹ +so ²¹	→ si ⁵¹ ~so ²¹
j. tso ²¹ 〈做〉「する」	→ tsi ²¹ +tso ²¹	→ tsi ⁵¹ ~tso ²¹

重複部の声調は、全部で三種類あり、51、44、21 である。福清方言では、音節が結合する際に、しばしば声調交替が起こる。そして、同じ声調を持つ音節どうしが結合する際の規則がある。部分重複における声調交替はその規則にしたがっている。この重複部の声調の実現は、福州方言と古田方言におけるそれと同じである。

3.2.2. 語基が二音節動詞

つづいて語基が二音節の場合についてみる⁹。語基が二音節動詞の場合においては、重複部

⁹ 二音節の動詞は数が少ない。そのため、声調の組み合わせパターンは全部提示することができない。また、第一音節の声調が 44、43、42 の動詞も数が少ない。

の声調の実現はやや複雑である。まず、二音節動詞の部分重複の例(7)をもう一度みてみよう。

- (7) a. $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」→ $t-i^{21}\sim toi^{44}tsiu^{43}$
 b. $kai^{44}sieu^{42}$ 〈介绍〉「紹介する」→ $k-i^{21}\sim kai^{44}sieu^{42}$
 c. $kha^{35}la^{21}$ 〈□□〉「修理する」→ $kh-i^{44}\sim kha^{35}la^{21}$
 d. $tshy^{44}li^{43}$ 〈处理〉「処理する」→ $tsh-i^{21}\sim tshy^{44}li^{43}$
 e. $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」→ $h-i^{44}\sim hiu^{35}se^{21}$
 f. $tuoj^{35}lioj^{42}$ 〈转让〉「譲渡する」→ $t-i^{21}\sim tuoj^{35}lioj^{42}$
 g. $huj^{35}lo^{21}$ 〈□□〉「申しつける」→ $h-i^{44}\sim huj^{35}lo^{21}$
 h. $huan^{44}ji^{44}$ 〈翻译〉「訳す」→ $h-i^{44}\sim huan^{44}ji^{44}$
 i. $anj^{44}pe^{44}$ 〈安排〉「手配する」→ $i^{44}\sim anj^{44}pe^{44}$

(7h)と(7i)では、語基の声調が44で、重複部の声調も44である。(7h)と(7i)だけを見れば、重複部の声調は語基の声調をコピーしたものと思われるかもしれない。しかし、(7a)~(7g)を見れば分かるように、重複部の声調は、語基の声調をそのままコピーしたものではない。例えば、(7a)の重複部 ti^{21} ~の声調は21であり、語基 $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」の構成要素 toi^{44} と $tsiu^{43}$ の声調、44もしくは43から決まるわけではない。

「語基」と「重複部」の用語説明のところで触れたように、福清方言の重複に関わる声調交替を説明するには、「基体部」という用語を導入する必要がある。ここでその作業をおこないたい。「基体部」という用語を導入する前に、二音節動詞の複合と部分重複のプロセスを示す。二音節動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」を例に示せば、以下の図3のとおりである。

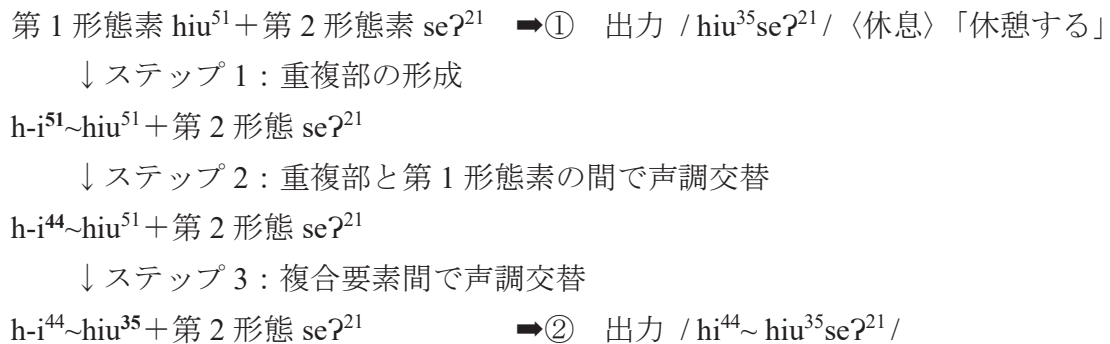


図3 部分重複の流れ：二音節動詞の場合

二音節動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」は、第1形態素 hiu^{51} と第2形態素 se^{21} が組み合わさり、複合動詞が形成される。左から右へ向かう ➡①は、この複合と、声調交替により実現形が出力されるプロセスを表わしている。複合する過程で、第1形態素 hiu^{51} が第2形態素 se^{21} の影響を受ける。その結果、第1形態素 hiu^{51} の声調が51から35に交替し、複合動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」が出力される。

一方、二音節動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」の部分重複は、上から下へ、ステップ1からステップ2、ステップ3を経ておこなわれ、最後に➡②で示すように実現形として出力される。ステップ1では、第1形態素 hiu^{51} から頭子音と声調をコピーし、母音 *i* を付加して、重複部 hi^{51} が形成される。つづいて、ステップ2では、重複部 hi^{51} と第1形態素 hiu^{51} の間で声調交替が生じ、重複部が hi^{44} として実現する。最後にステップ3では、第1形態素 hiu^{51} と第2形態素 se^{21} の間で声調交替が生じ、重複形 $hi^{44}\sim hiu^{35}se^{21}$ が出力される。

福清方言では、音節結合時に必ず声調交替が起こる。二音節動詞に重複が生じる場合、その重複部の声調は語基の二音節をベースに作られるのではない。そうではなく、二音節語基の第1形態素、つまり複合し声調交替が起きる前の形の声調がベースとなり、重複部の声調が決まるのである。

したがって、本稿では、複合動詞が形成される前の第1形態素を基体部と呼ぶ。図3でいえば、第1形態素 hiu^{51} が基体部である。

以上のように、重複部の声調の実現は二音節動詞が結合する前の第一音節の声調によって実現する。つまり、重複部にとっての基体部は、複合する前の第1形態素である(語基の第一音節ではない)。二音節動詞の重複形はまず基体部から重複部を形成する。つづいて基体部(=第1形態素)が第2形態素と結合し、二音節動詞を形成する。そのような順序である。

複合が起き、そのあとで重複が起きるのではなく、まず重複が起き、そのあとで複合が行われるのである。意味的なまとまりは語基の第一音節と第二音節の結合だが、声調交替の形態音韻論に関していえば、重複部と、それに対する第1形態素、つまり基体部がまとまりをなしている。重複部の頭子音は正確には、基体部である第1形態素に由来する。

以下では、語基が二音節動詞の場合における重複部の声調の実現について詳しく見ていく。語基が二音節動詞の場合では、基体部の声調の調値によって、部分重複の声調は、二つの実現パターンが存在する。具体的には、基体部の声調の調値が 51、44、43、42 の場合(パターンIとする)と 21 の場合(パターンIIとする)である。

パターンIにおいては、重複部の声調は2つのステップを経て実現される。

ステップ1: 基体部の声調をコピーする

ステップ2: コピーした声調と基体部の声調の間で声調交替が起こる

以下の(9)では、基体部の声調の調値が 51、44、43、42 である二音節動詞を用いて、パターンIのステップ1とステップ2を提示する¹⁰。

¹⁰ 二音節動詞の漢字表記および日本語の意味は、(9)の表に収まらなかったため、ここに示す。それぞれ $tsoŋ^{44}siu^{51}$ 〈装修〉「内装する」、 $pe^{44}tuei^{42}$ 〈排队〉「列を作る」、 $tuŋ^{21}uaŋ^{51}$ 〈转弯〉「曲がる」、 $tiu^{44}tsa^{51}$ 〈调查〉「調査する」である。

	語基		基体部+第2形態素		ステップ1		ステップ2
(9) a.	tsɔŋ ⁴⁴ siu ⁵¹	←	tsɔŋ ⁵¹ +siu ⁵¹	→	tsi ⁵¹ +tsɔŋ ⁵¹	→	tsi ⁴⁴ +tsɔŋ ⁵¹
b.	pɛ ⁴⁴ tuei ⁴²	←	pɛ ⁴⁴ +tuei ⁴²	→	pi ⁴⁴ +pɛ ⁴⁴	→	pi ⁴⁴ +pɛ ⁴⁴
c.	tuɔŋ ²¹ uaj ⁵¹	←	tuɔŋ ⁴³ +uaj ⁵¹	→	ti ⁴³ +tuɔŋ ⁴³	→	ti ²¹ +tuɔŋ ⁴³
d.	tiu ⁴⁴ tsa ⁵¹	←	tieu ⁴² +tsa ⁵¹	→	ti ⁴² +tieu ⁴²	→	ti ⁴⁴ +tieu ⁴²

パターン I では、重複部の声調は(9)が示すようなステップ1とステップ2を経て、実現される。ステップ1でまず基体部の声調がコピーされる。そして、ステップ2でコピーされた声調と基体部の声調の間で声調交替が起こる。(9a)の例でいえば、ステップ1で、基体部 tsɔŋ⁵¹ から声調 51 がコピーされる。そして、ステップ2で、重複部 tsi⁵¹~の声調 51 と基体部の声調 51 の間で声調交替が生じ、重複部が tsi⁴⁴~として実現する。

また、(9c)の例でいえば、ステップ1で、基体部 tuɔŋ⁴³ から声調 43 がコピーされる。そして、ステップ2で、重複部 ti⁴³~の声調 51 と基体部の声調 43 の間で声調交替が生じ、重複部が ti²¹~として実現する。

パターン I では、重複部の声調はステップ1とステップ2を経て、44 あるいは 21 として実現する。基体部の声調が 51、44、42 の場合は、重複部の声調は 44 として実現する。基体部の声調が 43 の場合は、重複部の声調は 21 として実現する。

以上のようにして作られた重複部が基体部の前に付加され、さらにその基体部と第2形態素の間で声調交替が生じる。このようにして重複形が形成される。以下の(10)には、(9)のステップ2から重複形が形成されるプロセスを示す。

	ステップ2	+	第2形態素	→	重複形
(10) a.	tsi ⁴⁴ +tsɔŋ ⁵¹	+	siu ⁵¹	→	tsi ⁴⁴ ~tsɔŋ ⁴⁴ siu ⁵¹
b.	pi ⁴⁴ +pɛ ⁴⁴	+	tuei ⁴²	→	pi ⁴⁴ ~pɛ ⁴⁴ tuei ⁴²
c.	ti ²¹ +tuɔŋ ⁴³	+	uaj ⁵¹	→	ti ²¹ ~tuɔŋ ²¹ uaj ⁵¹
d.	ti ⁴⁴ +tieu ⁴²	+	tsa ⁵¹	→	ti ⁴⁴ ~tiu ⁴⁴ tsa ⁵¹

次にパターン II についてみる。パターン II は、第1形態素の声調が 21 の二音節動詞の場合である。このパターン II においても、重複部の声調は 44 または 21 として実現する。ただし、パターン II における重複部の声調の実現には、語基の第2形態素の声調も関与する。第2形態素の声調の違いによって、二種類の実現方法が見られる。

まず、第2形態素の声調が 51 または 44 の場合、重複部の声調は 44 として実現する。(11)のとおりである¹¹。

¹¹ (11)に示した動詞は、それぞれ次の意味である。kuɔ⁴⁴tsɔŋ⁵¹ 〈过装〉「組み立てなおす」、kuɔ⁴⁴iu⁴⁴ 〈过油〉「フライしなおす」。

語基		第 1 形態素 + 第 2 形態素	重複形
(11) a. ku ⁴⁴ tsɔŋ ⁵¹ 〈过装〉	←	ku ²¹ + tsɔŋ ⁵¹	→ k-i ⁴⁴ ~ku ⁴⁴ tsɔŋ ⁵¹
b. ku ⁴⁴ iu ⁴⁴ 〈过油〉	←	ku ²¹ + iu ⁴⁴	→ k-i ⁴⁴ ~ku ⁴⁴ iu ⁴⁴

(11)が示すように、第 2 形態素の声調が 51 または 44 の場合は、重複部の声調は 44 として実現する。このように実現するのはなぜだろうか。その理由としては、次の二つの可能性 A、B が考えられる。

可能性 A：重複部 ki~は基体部 ku²¹ 〈过〉の声調 21 をコピーし、重複部 ki²¹~として形成される。つづいて、重複部 ki²¹~と語基の第一音節 ku⁴⁴ の間で声調交替が生じる。つまり、21+44→44+44 の交替プロセスを経て重複部は ki⁴⁴~として実現した。

可能性 B：重複部 ki~は語基の第一音節 ku⁴⁴ 〈过〉の声調をそのままコピーして実現した。

次に第 2 形態素の声調が 43、42 と 21 の場合は、重複部の声調は(12)が示すように、21 として実現する¹²。

語基		第 1 形態素 + 第 2 形態素	重複形
(12) a. toi ⁴⁴ tsiu ⁴³ 〈□手〉	←	toi ²¹ + tshiu ⁴³	→ t-i ²¹ ~toi ⁴⁴ tsiu ⁴³
b. kai ⁴⁴ sieu ⁴² 〈介绍〉	←	kai ²¹ + sieu ⁴²	→ k-i ²¹ ~kai ⁴⁴ sieu ⁴²
c. ku ⁵¹ io ²¹ 〈过去〉	←	ku ²¹ + khio ²¹	→ k-i ²¹ ~ku ⁵¹ io ²¹

(12)が示すように、第 2 形態素の声調が 43、42 と 21 の場合、重複部の声調は 21 として実現する。重複部の声調 21 は第 1 形態素の声調をそのままコピーして作られたものだと考えられる。

3.3. 部分重複の生産性

部分重複は名詞、形容詞の語形成に関与せず、動詞の語形成のみに観察されることはすでに述べた。しかし、すべての動詞が部分重複することができるわけではない。動詞の中では、意志動詞のみが部分重複することができる。非意志動詞は部分重複することができない。

- (13) se⁴² 〈是〉「である」 → *si⁴⁴~se⁴²
 o⁴² 〈有〉「ある、いる」 → *i⁴⁴~o⁴²
 tshø²¹ 〈□〉「嫌う」 → *tshi⁵¹~tshø²¹
 kian⁵¹ 〈惊〉「恐れる」 → *ki⁴⁴~kian⁵¹

¹² (12)に示した動詞は、それぞれ次の意味である。toi⁴⁴tsiu⁴³ 〈□手〉「手伝う」、kai⁴⁴sieu⁴² 〈介绍〉「紹介する」、ku⁵¹io²¹ 〈过去〉「もう一度行く」。

khe²¹ 〈气〉「怒る」→*khi⁵¹~khe²¹
 iɛŋ²¹ 〈厌〉「飽きる」→*i⁵¹~iɛŋ²¹
 tshɛŋ²¹ 〈□〉「冷める」→*tshi⁵¹~tshɛŋ²¹
 iɔŋ⁴⁴ 〈融〉「溶ける」→*i⁴⁴~iɔŋ⁴⁴

意志動詞であれば、部分重複することができる。したがって、福清方言においては、部分重複は語形成の手段として生産性が高いといえる。

4. 部分重複の使用

4節では、部分重複の使用をみる。まず4.1で部分重複を用いた発話例を提示し、使用場面について説明する。次に4.2で部分重複の生起条件について考察する。

4.1. 部分重複の使用場面

部分重複を用いた自然発話データは合計11例あった。この11例は、次のAとBの2つに分けることができる：

- A. 指示型：指示を出す (7例)
- B. 叙述型：行為を述べる (4例)

以下では、A、Bそれぞれについて順に見ていく。

4.1.1. 指示型

Aの指示型には次の4つがある：

- A-1：聞き手が質問したのに対し、話し手が回答する
- A-2：聞き手が議論しているのに対し、話し手が指示する
- A-3：聞き手が躊躇しているのに対し、話し手が提案する
- A-4：聞き手の行動に対し、話し手が異なる提案をする

以下では、それぞれの発話例を提示し、発話場面について若干説明をおこなう。

A-1：聞き手が質問したのに対し、話し手が回答する

(14) 聞き手： tsy⁵¹ liu⁵¹ tœ⁴⁴œ⁴²?
 书 □ □□
 本 投げる どこ
 「本はどこに置く?」

話し手： hi⁵¹~ hieŋ²¹ tsie⁴³ le.
 □ □ 此里
 投げる RDP¹³ 投げる ここ
 「ここに置いて下さい。」

(14)では聞き手が「本はどこに置く?」と質問している。その質問に対して、話し手が行った回答に部分重複が用いられている。動詞 hieŋ²¹「投げる」に対して部分重複が行われている。

(15) 聞き手： ε⁴⁴ eŋ⁵¹ tu⁴⁴uai^{42?}
 鞋 櫻 都位
 靴 置く どこ
 「靴はどこに置く?」

話し手： si⁴⁴~ siu⁴⁴li⁴³ a, i⁴⁴~ eŋ⁵¹ tshia⁵¹ le.
 □ 收□ 啊 □ 櫻 車 里
 RDP 片づける SFP RDP 置く 車 中
 「片づけて車に入れてください。」

(15)では聞き手が話し手に靴を修理に出すように頼んでいる場面で、「靴はどこに置く?」と質問している。その質問に対して、話し手が行った回答に部分重複が二つ用いられている。二音節動詞 siu⁴⁴li⁴³〈收□〉「片づける」と一音節動詞 eŋ⁵¹〈櫻〉「置く」に対して部分重複が行われている。

A-2 : 聞き手が議論しているのに対し、話し手が指示する

(16) 聞き手： ŋ³⁵ŋa⁴² muŋ²¹ me⁴³ seŋ⁴⁴ŋu⁴⁴ yŋ⁵¹. ŋ³⁵ŋa⁴² tsi³⁵a⁵¹
 □□ □ 买 十五 斤 □□ 自家
 1PL とりあえず 買う 十五 500 グラム 1PL 自分
 tshuo⁴⁴le⁴³ ia⁴⁴ lio⁴⁴ sia⁵¹ lo.
 厝底 也 着 食 □
 家 も 必要 食べる SFP
 「私たちはとりあえず 7.5 キロ買おう。自分の家でも食べなければ
 ならないでしょ。」

¹³ 動詞 hieŋ²¹〈□〉「投げる」の部分重複を表す。以下では、動詞の部分重複は RDP のみで記す。本稿の略号は次のとおりである。AGT : 動作主、ASP : アスペクト、BEN : 授与、CL : 類別詞、NEG : 否定、PL : 複数、RDP : 部分重複、SFP : 文末助詞、SG : 単数。

話し手： mɔ⁴⁴ puaŋ⁵¹ sioʔ⁴⁴ sioŋ⁵¹ sioʔ⁴⁴ sioŋ⁵¹ saŋ⁴⁴seʔ⁴⁴ kyŋ⁵¹.
 无 搬 蜀 箱 蜀 箱 三十 斤
 何なら 運ぶ 一 CL 一 CL 三十 500 グラム
 「何なら一箱(運んで→)買ってこようか。一箱は十五キロだ。」

聞き手： tsie³⁵ se⁴² laʔ sia⁵¹ eʔ⁴⁴ lau⁴³?
 此 □ □ 食 会 了
 こんなに 多い SFP 食べる 可能 終わる
 「こんなに多いの?食べ切れる?」

(16)は卵をどれぐらい買うかについて議論する場面の発話である。話し手はお土産用に卵を買わなければならない。自分でも食べるからということで、(16a)のように発話した。それに対して、聞き手は(16b)のように、自分の家でも食べるのであれば、一箱買うように提案している。その提案に対して、話し手は一箱だと十五キロもあって、食べられるかどうかと心配する。そのあと、話し手の心配に対して、十五キロの卵ぐらいは食べられる、問題がないなどと、聞き手を含む人たちが口々に意見を交わした。その直後に話し手が次の発話を行った。

(17) pi⁴⁴~ puaŋ⁵¹ sioʔ⁴⁴ sioŋ⁵¹ tuŋ⁴³ le.
 □ 搬 蜀 箱 转 来
 RDP 運ぶ 一つ CL 帰る 来る
 一箱(運んで→)買ってきてください。

(17)は、話し手が聞き手を含む人たちが議論した後に、行われた発話である。その発話において、動詞 puaŋ⁵¹ 〈搬〉「運ぶ」に対して部分重複が行われている。

A-3 : 聞き手が躊躇しているのに対し、話し手が提案する

(18) uaŋ⁵¹ o⁴² li te⁴³, i⁴⁴~ uaŋ⁵¹ te⁴³ o.
 弯 有□ 底 □ 弯 底 去
 曲がる 可能 入る RDP 曲がる 入る ASP
 「曲がって入ることができるから、曲がって入ってください。」

(18)は聞き手が話し手を車に乗せて、家まで送る場面である。話し手の家の近くまで到着した。家の近くまでに入る通路があるが、しかしその通路が狭くて、運転手(=聞き手)は車が通れるかどうかと心配する。周りを見回してどこか車を止める場所を探している際に、(18)の発話が行われた。その発話において、動詞 uaŋ⁵¹ 〈弯〉「曲がる」に対して部分重複が行われている。

A-4: 聞き手の行動に対し、話し手が異なる提案をする

(19) 聞き手: tɔ⁴⁴ tuŋ⁴³ thai⁴⁴ lyʔ²¹ kian⁴³ sia⁵¹.
 驮 转 □ 汝 团 食
 取る 帰る 殺す 2SG 子ども 食べる
 「持って帰って、殺して子供に食べさせてください。」

話し手: puŋ⁴⁴ tɔ⁴⁴ io mi⁴⁴~ me⁴² a.
 □ 驮 去 □ 卖 啊
 NEG 取る 行く RDP 売る SFP
 「なぜ売りに出さないの?(→売ればいいのか)」

(19)においては、聞き手が捕まえた鳥を話し手に渡して、「持って帰って、殺して子供に食べさせてください」と言っている。それに対して、話し手は「なぜ売りに持っていないの?」「売ればいいのか」と異なる提案をしている。その発話において部分重複が行われている¹⁴。動詞 me⁴² 〈卖〉「売る」に対して部分重複が行われている。さらに、この直後に同じ内容の提案をする発話(20)が行われて、その発話にも部分重複が行われている。

(20) tɔ⁴⁴ hai²¹iau⁴³ mi⁴⁴~ me⁴² a.
 驮 海口 □ 卖 啊
 取る 地名 RDP 売る SFP
 「海口へ持って行って売って下さい。」

4.1.2. 叙述型

Bの叙述型には次の3つがある。

- B-1: 話し手が過去の行為を述べる
- B-2: 話し手がこれからの行為を述べる
- B-3: 話し手が考えを述べる

以下、それぞれの発話例を提示し、発話場面について若干説明をおこなう。

¹⁴ (19b)は反語疑問である。疑問文では部分重複の使用が許容されない。

B-1 : 話し手が過去の行為を述べる

- (21) tuŋ⁴³ le khyʔ²¹ ŋuaʔ²¹ phi⁵¹~ pha²¹ a.
 转 来 乞 我 □ 拍 啊
 帰る 来る AGT 1SG RDP 殴る SFP
 「帰ってきて私に殴られた。」

(21)は、話し手が「子供が帰ってきたとき、その子供を殴った」と、過去の自身の動作・行為について述べている。その理由は、子供が幼稚園へ行く時に、一緒について来てほしいと言ったり、教室に一緒についてほしいと言ったり、何回も同じようなわがままを言っていたからである。(21)の発話において、動詞 pha²¹ 〈拍〉「殴る」に対して部分重複を行っている。

B-2 : 話し手がこれからの行為を述べる

- (22) hy³⁵meŋ²¹ tsai²¹ i³⁵ tso²¹, ŋ²¹ tso²¹, tso²¹ tsie⁴³ toŋ²¹loŋ²¹tsiaŋ⁵¹tsiaŋ²¹
 许面 □ 伊 做 佷 做 做 此 堂堂正正
 あちら 放任 3SG 作る NEG 作る 作る ここ ど真ん中
 le. maŋ⁴⁴tso⁴⁴ keʔ²¹ thi⁵¹~ thia²¹ li⁵¹.
 □ 明早 共伊¹⁵ □ 拆 □¹⁶
 ASP 今度 BEN-3SG RDP 解体する 要らない
 「あちらには作らせてもいいのだが、作らない。ここのだ真ん中に作って。
 今度(燕の巣を)壊しててやろう。」

(22)は燕の巣についての発話である。燕が糞をするから大変だなどの会話の後に、(22)の発話が行われた。掃除しやすいところに巣を作ったのならまだいいが、ど真ん中に巣を作るのだったら「今度壊してやろう」とこれからの自身が取ろうとする行動について述べている。動詞 thia²¹ 〈拆〉「解体する」に対して部分重複を行っている。

B-3 : 話し手が考えを述べる

- (23) khi²¹~ khi⁴³ paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴tiʔ⁴⁴tiʔ⁴⁴ tsiaŋ⁵¹ tsoŋ²¹.
 □ 起 平平直直 正 俊
 RDP 建てる シンプル 却って きれい
 「シンプルに建てたほうが逆にきれいだよ。」

¹⁵ koŋ⁴² 〈共〉と i⁵¹ 〈伊〉の合音である。

¹⁶ 「要らない」を意味する。否定辞と ti⁵¹ 「要る」との合音の可能性はある。

(23)は、話し手がある家を見たときになされた発話である。家を建てる際、「シンプルに建てたほうが逆にきれいだ」と自身の考えを述べている。その発話に動詞 khi⁴³〈起〉「建てる」に対して部分重複を行っている。

(24) i⁴⁴~ ej⁵¹ thəŋ²¹thoŋ⁴³. tsuŋ²¹ŋuaŋ²¹li²⁴ puŋ⁴⁴le⁴² ia⁴⁴ mɛ⁴⁴ ŋai⁴⁴.
 □ 櫻 桶桶 □□日 不是 也 □ 坏
 RDP 置く バケツ こんな日 NEG も NEG 腐る
 「バケツに入れればいい。こんな日は腐らないだろう」

(24)は、卵を買って帰ってきた時の発話である。話し手はその時期の気温から判断して、特別に保管する必要がなく、「バケツに入れればいい」と自身の考えを述べている。その発話に動詞 ej⁵¹〈櫻〉「入れる」に対して部分重複を行っている。

4.2. 部分重複の生起条件

4.1 節では、部分重複を用いた発話例を提示しながら、発話場面について確認した。4.2 節では問題の所在を指摘し、部分重複の生起条件について考察する。

4.2.1. 問題の所在

自然発話データでは、部分重複を用いた場面で、部分重複を用いない発話例も見つかっている。以下の(25)の発話である。

(25) ki²⁴si²⁴ ∅ khi⁴³ paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴ti²⁴ti²⁴ ki tshuo²¹ tsiaŋ⁵¹ tsoŋ²¹.
 其实 起 平平直直 其 厝 正 俊
 実は 建てる シンプル の 家 却って きれい
 「本当のところは、シンプルな家を建てた方が逆にきれいだよ。」

(25)は(23)の発話の直前に行われた発話である。(23)では動詞 khi⁴³〈起〉「建てる」に対して部分重複の形式を用いている。一方、(25)では単純形式を用いている。(25)は(23)に比べて副詞 ki²⁴si²⁴〈其实〉「本当のところ」を用いている。また(23)では、形容詞 paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴ti²⁴ti²⁴〈平平直直〉を用いているが、(25)では名詞句 paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴ti²⁴ti²⁴ki tshuo²¹〈平平直直其厝〉を用いている。しかし副詞の使用などによって、単純形式が選ばれたわけではない。(23)は部分重複の形式を取り除いても文が成立する。

(23)と(25)の例から、動詞の部分重複の有無にかかわらず、文の命題的意味が変わらないことが分かる。部分重複を用いても、命題の内容に特に影響がないようである。

実際、インフォーマントに部分重複の有無と文の成立および意味の関係について確認したところ、(23)だけではなく、4.1 節で提示した部分重複を用いたすべての発話例も、部分重複を取り除いても発話が成立し、かつ文の意味に影響がないことが分かった。

以下に、部分重複を取り除いた作例をいくつか挙げておく。例えば、話し手が聞き手の質問に答えた(15)の場面では、以下の(26)のように裸動詞 $siu^{44}li^{43}$ 〈收口〉「片づける」、 ej^{51} 〈摺〉「置く」だけで、単純形式を用いても発話は成立する。

- (26) \emptyset $siu^{44}li^{43}$ a, \emptyset ej^{51} tshia⁵¹ le. (作例)
 收口 啊 摺 车 里
 片づける SFP 置く 車 中
 「片づけて車に入れてください。」

(17)の発話場面でも、以下の(27)のように動詞 $puanj^{51}$ 〈搬〉「運ぶ」のみで表現することが可能である。

- (27) \emptyset $puanj^{51}$ sio^{44} $sioj^{51}$ tuj^{43} le. (作例)
 搬 蜀 箱 转 来
 運ぶ 一つ CL 帰る 来る
 「一箱(運んで→)買ってきてください。」

躊躇している聞き手に対して提案する(18)の発話の場面でも、以下の(28)のような部分重複の形式を用いない発話も可能である。

- (28) $uanj^{51}$ o^{42} li te^{43} , \emptyset $uanj^{51}$ te^{43} o. (作例)
 弯 有口 底 弯 底 去
 曲がる 可能 入る 曲がる 入る ASP
 「曲がって入ることができるから、曲がって入ってください。」

聞き手の行動に対して異なる提案をする状況でも同様である。(19)および(20)は以下の(29)(30)のように、単純形式で表現しても可能である。

- (29) puj^{44} to^{44} io \emptyset me^{42} a? (作例)
 □ 驮 去 卖 啊
 NEG 取る 行く 売る SFP
 「なぜ売りに持って行かないの?」

- (30) to^{44} hai²¹iau⁴³ \emptyset me^{42} a. (作例)
 驮 海口 卖 啊
 取る 地名 売る SFP
 「海口へ持って行って売って下さい。」

話し手が自身の行動・行為、考えを述べる状況でも同様である。

以上のように、話し手が聞き手に対して指示や提案をする状況、または自身のことを述べる状況における発話は、部分重複を用いることがある。しかし、それは必ずしも必須な要素ではなく、なくても発話は成立し、自然である。さらに、部分重複が使用されない発話でも同様な意味を表すことが分かる。

では、話し手が聞き手に対して指示や提案をする状況、または自身のことを述べる状況における発話においては、常に部分重複の形式を用いられるのか。実際のところではそういうわけではない。

例えば、話し手が聞き手に対して、手荷物を「持ってください」と指示する状況では、以下の(31)の発話が自然であるが、(32)のように部分重複を用いた発話は成立しない。

- (31) tsie²⁴ ŋua²¹ ∅ lieŋ⁵¹ ŋa. (作例)
 此 我 □ 啊
 これ 1SG 持つ SFP
 「これ、私のために持ってください。」

- (32) *tsie²⁴ ŋua²¹ li⁴⁴~ lieŋ⁵¹ ŋa. (作例)
 此 我 □ □ 啊
 これ 1SG RDP 持つ SFP
 「これ、私のために持ってください。」

また、話し手が自身の行動・行為を述べる場合、例えば「私は明日学校へ行く」ことを述べる場合は、以下の(33)の表現になる。(34)のように部分重複の形式を用いた場合、許容されない表現となってしまう。

- (33) ŋua²¹ miŋ²¹lan²¹li²⁴ ∅ khio²⁴ ho²⁴toŋ⁴⁴. (作例)
 我 明旦日 去 学堂
 1SG 明日 行く 学校
 「私は明日学校へ行く。」

- (34) *ŋua²¹ miŋ²¹lan²¹li²⁴ khi⁵¹~ khio²⁴ ho²⁴toŋ⁴⁴. (作例)
 我 明旦日 □ 去 学堂
 1SG 明日 RDP 行く 学校
 「私は明日学校へ行く。」

以上のように、話し手が聞き手に対して指示や提案をする状況、または自身のことを述べ

る状況においては、常に部分重複の形式を用いた発話ができるわけではない。では、部分重複の生起条件はどのようなものだろうか。次節では、部分重複の生起条件について考察する。

4.2.2. 生起条件

部分重複の生起条件は、「複数の選択肢」の存在である。「複数の選択肢」とは、指示や提案をする際の指示内容や提案内容が複数存在することである。または自身のことを述べる場合では、行動の方法や考えが複数存在することである。

以下では具体例を用いて確認してみよう。

- (14) 聞き手: tsy⁵¹ liu⁵¹ tœ⁴⁴œ⁴²?
 书 □ □□
 本 投げる どこ
 「本はどこに置く?」
- 話し手: hi⁵¹~ hieŋ²¹ tsie⁴³ le.
 □ □ 此里
 RDP 投げる ここ
 「ここに置いて下さい。」

(14)を例に説明すれば、聞き手の「本はどこに置く?」という質問に対して、話し手は「ここに置いて下さい」と指示をしたが、その指示以外にも、例えば、「あそこに置いて下さい」「そのまま持ってください」など、複数の指示の選択肢が存在している。

卵を買う(17)の状況では、「ひと箱買ってきてください」と指示しているが、その指示内容のほかに「二箱買ってきてください」など数量に関して多くの選択肢が存在している。

(18)の状況では、提案内容が複数存在するということである。例えば、「曲がって入ってください」という提案のほかに、「そこに止めてください」など複数の提案内容が存在する。

(19)では話し手は聞き手の行動に対して、異なる提案をしているが、その提案内容のほかに、例えば、「売りに出す」「自分で食べる」「人にあげる」など複数の提案内容が存在する。

自身のことを述べる状況でも同じである。例えば、(21)では「子供を殴る」という行動を取ったが、それ以外にも、例えばことばで教え諭すなどの方法が存在する。(22)の状況でも、「鳥の巣を壊す」という行動のほかに、場所を移す方法や巣の下に新聞紙を敷いて床を汚さないようにするなどの方法も存在する。

最後に自身の考えを述べる状況に関して、(23)では、家のデザインにはシンプルなものから豪華なものまで様々なものが存在する。(24)では卵の保管方法や保管場所も複数存在するのである。

以上のように、部分重複を用いるには、「複数の選択肢」の存在が必要である。このような「複数の選択肢」が存在する状況で、初めて部分重複を用いることができる。

このような状況では、単純形式を用いることも可能である。しかし、部分重複を用いると、

発話内容以外にも他の選択肢が存在することを暗示することができる。他の選択肢の存在を暗示することによって、いくつかの語用論的効果をもたらすことができる。

例えば、聞き手の質問に答えたり、または何か提案をおこなう際には、単純形式を用いた場合は、「何々をしてください」という答えや提案しか提示されない。一方、部分重複の形式を用いることによって、指示内容や提案内容のほかに、他の指示内容や提案内容が「多数」存在することをほのめかすことができる。発話した指示内容や提案内容は、たくさん存在する複数の指示や提案の中の一つに過ぎないことが示せる。そこから「とりあえず何々をして下さい」という含みを持たせることができる。部分重複を用いることによって、他の答えや提案の存在をほのめかし、単純形式よりも、聞き手の負担を減らすことができ、聞き手にその行動を取りやすくさせる効果が期待される。

聞き手の行動に対して、異なった提案をする場合でも、単純形式を用いた場合は、違う行動をとるように、という直接的な指示となり、聞き手に自分の考えが否定されたと誤解させてしまいかねない。一方、部分重複の形式を用いた場合は、提案の内容以外にも他の方法の存在をほのめかし、話し手が提案した方法のほうがより望ましいと主張しつつも、聞き手がとった選択肢も保留し、完全に否定せずにする。

自身のことを述べる場合にも、部分重複の形式を用いることによって、その効果は発揮される。自身の行為・行動、考えを単純形式で表わすのに比べ、ほかの行動の方法や考えが存在することをほのめかすことができる。その結果、自身がとった行動・行為は、「とりあえず」のものであり、唯一の最終判断ではないことが示せるし、また、「いっそのこと」おこなったものであって、必ずしも最善の選択ではない、ということも示せる。

5. おわりに

おわりに、本稿でおこなったことを要約し、今後の課題について述べる。

まず本稿では以下のことをおこなった。

- (1) 部分重複の形態音韻論的分析を行った。重複部の分節音と重複部の声調の実現について詳しく分析した。
- (2) 自然会話データを提示し、部分重複の使用場面を考察した。部分重複の生起条件を明らかにした。

つぎに今後の課題について述べる。課題は3つある。

課題(一)：文のタイプが限られている。

課題(二)：動作主の人称が限られており、三人称の場合は考察できていない。

課題(三)：部分重複にはほかの形式も存在するのに、限られた形式しか考察していない。

課題(一)のデータの制約に関しては、実際の発話データを用いたため、聞き手に対する指

示や提案、または話し手が自身のことを述べる表現に限定される。疑問文や否定文においての使用が可能かどうか、今後さらに調査する必要がある。

課題(二)は、動作主が三人称の場合、部分重複の使用が可能かどうか?である。動作主が三人称の場合に、重複形式が用いられている例はなかった。しかし、インフォーマントからは、動作主が三人称の場合でも、部分重複の使用は可能だという報告が得られている。具体的には以下の例文である。

- (35) i⁵¹ si⁴⁴~ sia^{ʔ44} mue⁴⁴.
 伊 □ 食 糜
 3SG RDP 食べる お粥
 「彼はお粥を食べる。」

- (36) tshiu²¹ki⁵¹ khy^{ʔ21} i^{ʔ21} tsi⁵¹~ tso²¹ ɲai⁴⁴ o.
 手机 乞 伊 □ 做 坏 去
 携帯 AGT 3SG RDP する 壊れる
 「携帯は彼に壊された。」

(35)では、主語が三人称となっており、インフォーマントによれば、「彼はお粥を食べる」という意味である。しかし、筆者の内省では、(35)は「彼はお粥を食べる」という意味ではなく、話し手が聞き手に対して、「彼にお粥を食べさせてください(ほかのものではなく、お粥でいいよ)」という指示のように感じられる。また(36)の表現でも、筆者の内省では、部分重複の使用は許容されにくい。

したがって、動作主が三人称の場合における部分重複の使用は、母語話者の間でも判断が異なっており、今後引き続き調査することが必要である。さらに今回は「融城」グループに属する海口鎮のデータを用いたが、今後は調査範囲を広げて、他の方言グループ「高山」、「江陰」、「一都」などの地域における部分重複表現の使用状況を調査し、内部差異があるかどうかについて考察する必要がある。

課題(三)は、部分重複にはほかの形式も存在するのに、限られた形式しか考察していないというものである。部分重複には、(37)に示す派生形式が存在する。動詞 pha²¹〈拍〉「殴る」を例に提示すると、以下のような形式が存在する¹⁷。

- (37) a. ph-i⁵¹~pha²¹
 b. ph-i²¹~pha⁵¹pha²¹
 c. ph-i²¹-lu^{ʔ44}~pha²¹
 d. ph-i⁵¹~pha²¹-ph-i²¹-lu^{ʔ44}~pha²¹

¹⁷ 福州方言と古田方言にも同様な派生形式が存在する。

部分重複の(37a)の形式のほか、(37b)～(37d)の形式も存在する。(37b)の形式は語基 pha^{21} 〈拍〉を全体重複して、部分重複させている。(37c)は重複部 phi^{21} と語基 pha^{21} 〈拍〉との間に $lu?$ が挿入された形式である。(37d)は(37a)の形式と(37c)の形式を組み合わせた形式である。

これらの派生形式についても、今後フィールドワーク調査によって、言語データを収集し、記述していきたいと考えている。

参考文献

- 斎藤純男・田口善久・西村義樹[編](2015)『明解言語学辞典』東京：三省堂
陳学雄(2018)「漢語福清方言の記述言語学的研究」神戸市外国語大学博士論文
陈泽平(1998)《福州方言研究》福州：福建人民出版社
陈泽平(2015)《福州方言的结构与演变》北京：人民出版社
冯爱珍(1993)《福清方言研究》北京：社会科学文献出版社
付欣晴(2016)《汉语方言重叠式比较研究》北京：社会科学文献出版社
黄伯荣[主编](1996)《汉语方言语法类编》青岛：青岛出版社
李滨(2014)《闽东古田方言研究》厦门：厦门大学出版社
李如龙(1984)《闽方言与苗、壮、傣、藏诸语言的动词特式重叠》《民族语文》第1期：17-25
林寒生(2002)《闽东方言词汇语法研究》昆明：云南大学出版社

受理日 2021 年 4 月 13 日

マルマ語版・ミナ「私は学校がすき」

藤原敬介

帝京科学大学

主要語句：マルマ語、パラインサ方言、ミナ、テキスト

1 はじめに

1.1 ミナとは

ミナとは、ユニセフが児童教育のために作成したアニメの題名である^{注1}。ミナという9歳の女の子を主人公として、彼女の日常生活を中心に話が展開する。弟のラジュ、ペットのオウムであるミトゥ、両親、学校の先生などが主な登場人物である^{注2}。話題はこどもたちをとりまく教育や差別から HIV にいたるまで、啓蒙的なものである。

1993年にバングラデシュでバングラ語版が放送されるようになったのを皮切りに、インドでヒンディー語版などが作成され、南アジア諸国（インド、バングラデシュ、パキスタン、スリランカ、ネパール、ブータン）のみならず、東南アジア諸国（ラオス、カンボジア、ベトナム）でも放送されようになった。

2021年1月現在、ミナは全37話が公開されている。漫画、アニメ、ラジオなどの主要メディアでは英語、バングラ語、ヒンディー語、ネパール語、ウルドゥー語の5言語が用意されている。さらに、南アジアのみならず、世界各地の言語にも部分的に翻訳されており、YouTubeなどでアニメを視聴することができる。

本稿であつかうのは、マルマ語 (ISO 639-3 rmz) によるミナの翻案である。マルマ語とは、バングラデシュ・チッタゴン丘陵を中心として、近隣のインド・トリプラ州などではなされるチベット・ビルマ語派ビルマ語群に属する言語である。言語としてはビルマ語アラカン方言とちかい関係にあり、相互理解もある程度可能である。しかし、標準的なビルマ語とは、相互理解が困難であるほどに異なっている。

ミナのマルマ語版については、筆者が確認できた範囲では、2021年1月2日現在第1話と第10話がYouTubeで視聴可能である。

1. 第1話: <https://www.youtube.com/watch?v=b3GrLK6YthU>
2. 第10話: <https://www.youtube.com/watch?v=-S3AYWH1ETg&t=67s>

^{注1} 以下、ミナにかんする情報は Wikipedia の記事 ([https://en.wikipedia.org/wiki/Meena_\(character\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Meena_(character))) 2021年1月2日確認) や *Meena and UNICEF* (<https://www.unicef.org/bangladesh/en/meena-and-unicef>) 2021年1月2日確認) による。

^{注2} ミナは、日本のアニメでたとえば、毒気のない「ちびまる子ちゃん」といったところであろうか。

1.2 資料について

本稿であつかうのは、第 10 話「私は学校がすき」のマルマ語版である^{注3}。

クレジットタイトルから判断すると、マルマ語版はインドで作成されたものである。そして、インド在住のマルマ人が声優をつとめていると推測される。インドのマルマ人はトリプラ州に居住する人が大多数であり、マルマ語の中でもパラインサとよばれる氏族に属する。パラインサがはなすマルマ語は、筆者が長年研究してきているバングラデシュ・チッタゴン丘陵のラジヨストリ地方のマルマ語や、マルマ人の中心地であるバンドルバン周辺のマルマ語とは、相違点が散見される。ただし、相互理解が困難になるほどの相違ではない。

2 表記上の注意

すでにのべたように、本稿であつかうマルマ語はパラインサのマルマ語である。パラインサのマルマ語話者は、バングラデシュではカグラチヨリ地方に居住する。本稿執筆にあたり、バングラデシュのマルマ語パラインサ方言話者から数時間のききとり調査をおこない、パラインサの基本的な特徴を把握するようにつとめた。しかしながら、本稿は基本的にはラジヨストリ地方出身の話者（OCN でしめす）に協力をあおぎ、かきおこしをしている。したがって、パラインサ本来の発音とは異なるかきおこしをしている箇所があるかもしれないことをおことわりしておく。

2.1 音素表記

本稿におけるマルマ語は筆者による音素表記である。本稿であつかうマルマ語パラインサ方言と、筆者が研究してきたマルマ語ラジヨストリ方言あるいはマルマ語バンドルバン方言とでは、個々の語彙の発音や音素配列上の制約に相違があることはあっても、基本的な音素に相違はほぼないとおもわれる。

マルマ語の音素は/p, ph, b, t, th, d, c [tɕ], ch [tɕʰ], j [dʒ], k, kh, g, ʔ*, θ, ʃ [ç], h, m, hm, n, hn, ŋ*, hŋ, r, l, hl, w**, y**; i, e, a, ɔ, o, u, ə/である。*は末子音としてもあらわれうるものを、**は子音連続の第二要素としてあらわれるものをしめす。このほか、閉音節でのみあらわれる二重母音として/ai, ou, oi/がある。声調としては高声調（鋭アクセント記号´でしめす）、低声調（アクセント記号なし）、上昇調（曲アクセント記号˘でしめす）のほか、声門閉鎖音でおわる音節にのみあらわれる促音調（アクセント記号はなく、音節末の声門閉鎖音によってしめす；音調としては上昇調である）が弁別的である。また、音素/ə/は固有の音調をもたず、常に軽声をになう。

^{注3} 筆者は 2012 年以來、大阪大学外国語学部で「チベット・ビルマ語学演習」を担当している。授業では、加藤 [1998, 2015, 2018] をマルマ語に翻案した資料をもちいてマルマ語の初級文法を学習することがおおい。翻案した資料は藤原 [2017] として本誌第 9 号にも掲載された。2020 年度も藤原 [2017] にそって授業をしていたところ、受講生からマルマ語のアニメがネット上にあることをおしえられた。それが本稿であつかうミナの第 10 話である。この動画をのちに授業でもあつかうこととした。本稿で第 10 話をあつかう理由は、上記の事情による。

2.2 連声

筆者の観察によれば、マルマ語では有声交替が観察される。マルマ語における有声交替は、同一音韻語において、声門閉鎖音以外の音に後続する無声阻害音が対応する有声阻害音に交替するというものである。具体的には、 $p > b$ 、 $c > j$ 、 $t > d$ 、 $k > g$ といった有声交替が観察される。典型的には、複合語における後部要素の初頭子音や、附属語である機能語の初頭子音が有声交替をおこす。

3 本文と語釈

(1) 0:00:51 タイトル

ŋa ʔiskul =go khyɔiʔ =ti.

I school =OBJ love =RLS

「私は学校がすき」

注 1 この部分はアニメのタイトルである。Bangla文字で表記されているものを、マルマ語として理解可能なように再解釈して音韻表記した。

注 2 *ʔiskul* はBangla語経由で英語の *school* が借用されたものである。

注 3 RLS の =*ti* は、たとえば (10) などにあるように、動画の中では実際には =*te* であらわれている。

(2) 0:01:06 母

raju, mina, ʔiθəku lá =phö ʔəkhij phrɔ̃ =bya.

PSN PSN school go =PURP time become =PRF

「ラジュ、ミナ、学校に行く時間になったよ」

注 1 *ʔiθəku* は、(1) の *ʔiskul* と比較して、よりマルマ語化した形式である。

注 2 *phrɔ̃* は、バンドルバン地方ならば *phrɔiʔ* と発音される。

(3) 0:01:09 ミナ

ʔəmɔ̃ pyaŋ, raju.↗

very.quickly do PSN

「はやくしなさい、ラジュ」

注 *ʔəmɔ̃* はバンドルバン地方では *ʔəmɔ* と発音され、意味は「とても」である。ここでは「はやく」という意味になっている。

(4) 0:01:14 ミナ

?iθəku ta? =phō ŋa kəgón pyə =re.

school climb =NMLS.FUT I very be.happy =RLS

「学校に行くのは、私はとても楽しい」

(5) 0:01:16 ミナ

naŋ mə- pyə =lɔ́, mithu?↗

you NEG- be.happy =PQ PN

「お前はうれしくないの、ミトゥ」

注 *mithu* は *mithú*とも発音される。

(6) 0:01:17 ミトゥ

[鳥の鳴き声] **iskul!, iskul!**

school school

「ガッコウ、ガッコウ」

(7) 0:01:21 母

θədī =lā lá =li!

attention =COM go =IMP

「気をつけていきなさい」

注 =*lā*はバンドルバン地方では=*nā*と発音される。

(8) 0:01:23 ミナ

lai? =me, dɔ

come =IRLS mother.VOC

「ってきます、お母さん」

注 1 *lai? =me* は、バンドルバン地方では *la-lai? =me* ‘come-CMPL=IRLS’ というのが普通である。

注 2 *dɔ* は *?ədɔ*ともいう。このように、接頭辞 *?ə*が脱落する現象が、本資料では散見される。

(9) 0:01:32 ミトゥ

mina, kəlā! kəlā! kəlā!

PSN watch.IMP watch=IMP watch.IMP

「ミナ、ミテ、ミテ、ミテ!」

注 *kəlā*は *krě=lā* ‘watch=IMP’ が縮約した形式である。命令標識としての=*lā*は共同格標識の=*lā*と同様に、バンドルバン地方では=*nā*で発音される。

(10) 0:01:33 ミナ

ŋa cwĩ =ma twɔʔ =te, mithu yáŋ +θu ʔəmeθe +wiŋ =go krě -khyŋ =re.

I heart =LOC remember =RLS PN that +person elder.sister +house =OBJ watch -want =RLS

「私はおもいだした、ミトゥは、自分のお姉さんの家を見たいのよ」

注 *cwĩ*はバンドルバン地方では *coiʔ* と発音される。

(11) 0:01:37 ラジュ

ʔiŋ, lá +krě -gaiʔ =me.

yes go +watch -VPL =IRLS

「うん、いってみよう」

注 *ʔiŋ, lá, krě-gaiʔ=me* ‘yes, go, watch-VPL=IRLS’ ならば、「うん、いこう、みよう」となる。

(12) 0:01:45 ミナ

krě, tɔiʔ, hɔiʔ, θúŋ, lé!

watch one two three four

「みて、1, 2, 3, 4!」

(13) 0:01:48 ラジュ

ŋá -lúŋ ʔũ!

five -CL:round.object egg

「五個の卵!」

注 1 類別詞の辞順は、マルマ語では通常は「名詞 + 数詞-類別詞」である。しかし、バングラ語のように「数詞-類別詞 + 名詞」という辞順もきかれることがあり、理解される。本資料では、類例はすべて「数詞-類別詞 + 名詞」となっている。

注 2 *lúŋ* は *lóuŋ* のようにもきこえる。

注 3 *ʔũ* は *ʔouʔ* のようにもきこえる。

(14) 0:01:50 ミトゥ

ʔiŋ↗, ŋá -lúŋ ʔũ!

yes five -CL:round.object egg

「ウン、ゴコタマゴ!」

(15) 0:01:55 ミナ

ʔiθəkul!

school

「学校!」

注 「学校」がここでは *ʔiθəkul* のように、語末に *-l* をもって発音されている。

(16) 0:01:57 ミナ

lá, ʔəθu hrī =gǎ lá -hncɔŋ =me =lé?

go who front =ABL go -can =IRLS =CQ

「行こう、誰（どっち）が先にいけるか」

(17) 0:02:04 先生 1

fúmɔŋ↗, ʔaləməri =gǎ ʔouʔ =ko yu -hwǎ =lǎ!

PSN drawer =ABL book =OBJ take -VEN =IMP

「シュモン、タンスから本をとってきて!」

注 1 *fúmɔŋ* はバングラ人の人名。ミナの原作はバングラ語であるから、バングラ人の名前がつかわれている。

注 2 *ʔaləməri* はバングラ語からの借用語。もともとはポルトガル語。

注 3 *ʔouʔ* は *caʔouʔ* という方が普通である。

注 4 *-hwǎ* は、バンドルバン地方では *-khǎ* である。

(18) 0:02:10 先生 1

ʔəbáŋʃe =rǒ naŋ =rǒ ko =ma ko ʔəra =dǒ lə -gaiʔ -li!↗

child =PL you =PL self =LOC self place =ALL go -VPL -go.IMP

「子どもたち、あなたたちは、各自自分の場所にいきなさい」

注 1 *ko=ma ko* は、バンドルバン地方ならば *kǒ=ma ko* または *kǒ=ma kǒ* と発音される。

注 2 *lə-gaiʔ=li* は *lá-gaiʔ=li* が縮約した形式である。

(19) 0:02:14 先生 1

ŋəñŋ ŋǒ ʔərcə puʃtikor ʔəcá =go yu =bɔ phaiʔ =phǒ.

today we more nutritious food =OBJ take =SEQ read =FUT

「今日、私たちはさらに栄養のある食べ物について読みましょう」

注 1 *ŋǒ* は *ŋa=rǒ* ‘I=PL’ の縮約形式である。

注 2 *puʃtikor* はバングラ語からの借用語であるから、マルマ語の音節構造や音素として存在しない形式があらわれている。

(20) 0:02:20 先生 1

mə- hɔʔ, ʔá =lǎ mə- pyaŋ =gě!

NEG- be.right power =COM NEG- do =NEG.IMP

「ちがうわ、力をこめないで」

注 *mə-hɔʔ* はバンドルバン地方では *mə-houʔ* と発音される。

(21) 0:02:22 先生 1

ʔəθaʔ pyaŋ, jɔŋ =de.

slowly do like.this =EMPH

「ゆっくり、このように」

注 1 *jɔŋ* はバンドルバン地方では *yəjɔŋ* あるいは *ʔəjɔŋ* というのが普通である。

注 2 *=de* は近接するものについて語末で強調をあらわす。指示語の *de* ‘this’ と関係する。ここでは音声的には *=deij* あるいは *=diŋ* のようにもきこえる。

(22) 0:02:24 先生 1

jɔŋhlaiʔ pyaŋ!

like.this do

「このようになさい」

注 *jɔŋhlaiʔ* は *jɔŋ* と同義である。 *hlaiʔ* 単独の意味は不明である。

(23) 0:02:27 先生 1

thiʔ hĩŋ =re.

be.right exist =RLS

「いいですか」

注 この表現はベンガラ語 *thik atfe* ‘OK’ (right be) の翻訳借用である。マルマ語らしくいうならば、*kyā=re* (fall=RLS)、*ʔəhmaiŋ* (truth)、*hmaiŋ=re* (be.true=RLS) などとなる。

(24) 0:02:29 先生 1

ʔəgũ ŋa krě =re, naŋ =rō ko =ma ko cwĩ =ma twɔʔ =hŋyɔŋ puʃtikor ʔəcá =go

now I watch =RLS you =PL self =LOC self heart =LOC appear =ESS nutritious food =OBJ

ʔərouʔ thũ!

shape draw

「今私は見ます、みんなが自分の思うように、栄養のある食べ物を描きなさい」

注 1 *krě=re* は、*krě=me* ‘watch=IRLS’ あるいは *krě=ca* ‘watch=NMLS’ としたほうが自然であるようにもおもわれる。もとのベンガラ語では現在形がつかわれているところから、*krě=re* としている可能性がある。

注 2 *ko=ma ko* は、バンドルバン地方ならば *kō=ma ko* または *kō=ma kō* と発音される。

注 3 *=hŋyɔŋ* は、バンドルバン地方ならば *=yɔŋ* と発音される。

(25) 0:02:40 女生徒 1

bah, ʔəfä kyä =re.

ITJ calculation fall =RLS

「よし、計算ができた (よし、きれいにできた)」

注 *bah* はベンガラ語からの借用語で、「よし」という意味である。

(26) 0:02:44 ラジュ

yá =ca gajɔ mə- phrɔ̃ -li.

that =NMLS carrot NEG- become -PAST

「これはニンジンにならなかった」

注 1 yáは yáy ‘that’ の変異形である。

注 2 gajɔ はバングラ語 gajɔr からの借用語である。

(27) 0:02:47 ミナ

chəramǎ ↗ ɲɔ̃ ʔəɔ̃ prɔ̃ =re.

teacher.FEM we mother say =RLS

「先生、私のお母さんがいいました」

(28) 0:02:48 ミナ

ʔəcá ʔəkɔ̃j cá =phɔ̃ lu +grɪ phrɔ̃iʔ =θá mə- lo.

food good eat =FUT man +big become =necessity NEG- need

「よい食べ物を食べるために、金持ちになる必要はない」

注 =θáは動詞に後続して「～する必要」という意味をあらわす小辞であり、否定文での用例しか確認されていない。

(29) 0:02:51 先生 1

naɲ =rɔ̃ ʔəɔ̃ ʔəhmaiɲ prɔ̃ =re, mina.

you =PL mother truth say =RLS PSN

「あなたのお母さんは本当のことをいいましたね、ミナ」

(30) 0:02:54 ミナ

chəramǎ, ʔě =ca phrɔ̃iʔ =te puʃtikor ʔəcá.

teacher.FEM this=NMLS become =RLS nutritious food

「先生、これは栄養のある食べ物です」

注 1 文末の ʔəcáは ʔəca のようにもきこえる。

注 2 原文のバングラ語をそのまま翻訳しているので、「A は B である」というときに、コピュラに相当する部分を A と B のあいだに入れる構文をとっている。

(31) 0:02:57 シュモン

ɲərũcɪ!

pepper.seed

「唐辛子!」

注 1 ɲərũcɪは、バンドルバン地方では ɲərouʔθɪという。

注 2 ɲərũcɪは直訳すれば「唐辛子の種」である。しかし、ここでは「唐辛子の実」のことをさしているようである。

(32) 0:02:58 女生徒 1

daiʔ!

daal

「ダール」

注 *daiʔ* 「ダール」とは、ひよこ豆でつくったスープである。南アジアで愛好されている。バンドルバン地方では *däinj* と発音される。

(33) 0:02:59 男生徒 1

θáŋmənéthí!

papaya

「パパイヤ!」

注 *θáŋmənéthí* はパラインサに独特の語彙である。バンドルバン地方では *pədəgəθí* あるいは *pəgədaθí* という。

(34) 0:03:01 ミナ

rúti!

bread

「パン!」

注 *rúti* はバングラ語からの借用語である。通常は *ruti* と発音される。

(35) 0:03:02 先生 1

bah, ʔəhlă ʔəgũ naŋ =rõ...

ITJ beautiful now you =PL

「はい、きれいですね、君たちは...」

(36) 0:03:04 生徒 2

ʔě =ca ŋá!

this =NMLS fish

「これは魚!」

注 *ʔě* に後続する *=ca* は、本来的には名詞化標識であるけれども、機能的には定辞のようになっている。

(37) 0:03:06 生徒 3

ʔəhmóŋ!

rice

「ご飯!」

(38) 0:03:07 生徒 4

hnaʔpəθí!

banana

「バナナ!」

注 *hnaʔpəθí*は、バンドルバン地方では *nəpyúθí*という。

(39) 0:03:08 生徒 5

ʔəɾə ŋǎ =ma tə- khǔ phəruŋθí, hahaha...

more I.OBL =LOC one- CL:thing pumpkin —

「さらにぼくのところには一個かぼちゃ、ははは」

(40) 0:03:11 ミトウ

phəruŋθí! phəruŋθí! phəruŋθí!

pumpkin pumpkin pumpkin

「カボチャ! カボチャ! カボチャ!」

(41) 0:03:14 先生 1

phrǒ =bya, phrǒ =bya, ʔəɾə mə- hó =gě!

become =PRF become =PRF more NEG- shout =NEG.IMP

「できた、できた、もううるさくしないで」

注 1 *phrǒ*は、バンドルバン地方では *phrɔiʔ* という。

注 2 *mə-hó=gě*は、OCN によると *mə-hɔiʔ=kě*とのことである。

(42) 0:03:16 ミナ

chəramǎ, ʔě =ca =go =lé ŋǒ hnaʔphraɪŋ pyaŋ =phǒʔ?

teacher.FEM this=NMLS =OBJ =too we tomorrow do =FUT

「先生、これを私たちは明日もするのですか」

注 *pyaŋ=phǒʔ*は、*pyaŋ=phǒ=lǒʔ*というのが丁寧である。しかし、ここではイントネーションだけで疑問文にしている。

(43) 0:03:20 先生 1

mə- houʔ, yá =ca =go prǒ =phǒ pyaŋ =ca.

NEG be.right that =NMLS =OBJ say =FUT do =NMLS

「いいえ、そのことをいおうとしていたのです」

(44) 0:03:23 先生 1

ŋa hnaʔphraɪŋ hǐŋ mə- houʔ.

I tomorrow exist NEG be.right

「私は明日いません」

注 *hǐŋ mə-houʔ* は *hǐŋ=phǒ mə-houʔ* の *=phǒ*が省略されたものである。

(45) 0:03:24 先生 1

lɔiŋ -khale =kijũ ʔəlouʔ θaŋ =jɔŋ lá =re.

some -CL:week =for work(n.) learn =PURP go =RLS

「数週間、仕事を学びにでかけます (しばらく研修にいきます)」

注 *lɔiŋ-khale* は、バンドルバン地方では *lɔiŋgə-khale* である。

(46) 0:03:27 先生 1

ŋa mə- laiʔ =θəgrá naŋ =rõ =go ʔəɾɔ tə- yɔʔ chəramă pră =me.

I NEG- come =until you =PL =OBJ more one- CL:man teacher.FEM show =IRLS

「私がこないまで、君たちをさらにもう一人の先生がおしえます」

注 *pră* の原義は「見せる」であるけれども、ここでは「おしえる」という意味である。

(47) 0:03:31 先生 1

ŋa θi =re, naŋ =rõ =ca taiʔ =te.

I know =RLS you =PL =NMLS be.able.to.do =RLS

「私は知ってます、君たちは (勉強が) できる」

注 名詞句に後続する *=ca* は、本来的には名詞化標識であるけれども、機能的には定辞のようになっている。

(48) 0:03:33 先生 1

ʔəθɔiʔ chəramă =go yá =ca pră.

new teacher.FEM =OBJ that =NMLS show

「あたらしい先生に、そのこと (勉強ができるということ) を見せなさい」

注 形容詞的な語は、名詞を前から修飾しても後から修飾してもよい。ただし、本資料では、原文のバングラ語の影響があるせいか、前から修飾する例ばかりである。

(49) 0:03:41 ミナ

krě, hɔciʔ -kɔŋ θá pɔʔ =re, mithu mamu.↗

watch two -CL:animal son hatch(vi) =RLS PN uncle

「見て、二羽生まれた、ミトゥがおじさんだ」

注 1 マルマ語話者によると、声門閉鎖音のあとでは *=te* があらわれるのが通則であるけれども、*=re* があらわれることもあるとのことである。

注 2 筆者は *pɔʔ-li=re* (hatch(vi)-PAST=RLS) から *-li* が脱落した残滓として *=re* があらわれているのではないかとかんがえた。しかし、マルマ語話者によると、その可能性はないという。

注 3 *mamu* はバングラ語からの借用語である。

(50) 0:03:44 ラジュ

hǰ, krě =phǒ, mǝ- hlǎ.

ITJ watch =FUT NEG- be.beautiful

「ああ、見てもかわいくないなあ」

注 *hǰ*は成節的鼻音である。間投詞であり、音素とはかんがえない。

(51) 0:03:47 ミトゥ

wai?!

ITJ

「ウエイッ!」

注 これは鳥の鳴き声であり、怒っている様子をあわす。

(52) 0:03:49 ミナ

mraŋ =lǒ, yǎŋ +θu ʔəmǰ θǐ =re, yǎŋ +θu =kǰǰ ja cá kǒŋ =lé?

see =PQ that +person mother know =RLS that +person =for what food be.good =CQ

「見て、彼のお母さんは知っている、彼のためにどの食べ物がよいか」

注 1 *ʔəmǰ* は、バンドルバン地方では *ʔəmǰ* となる。

注 2 *θu* は、単独で使用されるとき、所有をあらわすばあいには *θū*と変調するのが通則である。しかし、*yǎŋ+θu ʔəmǰ* においては変調しない。もしも *yǎŋ* がなかったとしたら、変調する。

注 3 *ja cá kǒŋ=lé?*は、*ja ʔacá kǒŋ=re=lé?*が省略されたいいかたである。

(53) 0:03:54 ミナ

lǎlai? raju↗, ɡəñǰ kra -hǰǰ mǝ- hǰ?

come.IMP PSN today be.late -can NEG- be.right

「来なさい、ラジュ、今日は遅刻できない」

注 1 *ɡəñǰ* は、*ŋəñǰ* の変異形である。

注 2 *kra-hǰǰ mǝ-hǰ?* は *kra-hǰǰ=phǒ mǝ-hǰ?* が省略されたいいかたである。

注 3 *mǝ-hǰ?* は、バンドルバン地方では *mǝ-hou?* となる。

(54) 0:03:57 ミナ

ɡəñǰ ʔəθǰi? çəramǎ.

today new teacher.FEM

「今日はあたらしい先生よ」

(55) 0:04:04 ミナ

ʔóho, raju, ɡəñǰ kra =me =bya.

ITJ PSN today be.late =IRLS =PRF

「ああ、ラジュ、今日は遅刻してしまう」

(56) 0:04:10 先生 2

naŋ =rō məjɔŋ hiŋ =lé, kuŋθu?

you =PL how exist =CQ everybody

「お前たちみんなどうですか」

(57) 0:04:11 先生 2

ŋa naŋ =rō =ma ʔəθō məsətəmă.

I you =PL =LOC new teacher.FEM

「私は、お前たちにとってあたらしい先生です」

注 1 *măsətəmă* はベンガル語 *maŋtar* に女性接尾辞 *mă* がついたものである。

注 2 *ʔəθō* は *ʔəθoiʔ* の変異形である。

(58) 0:04:14 先生 2

ŋă =go medam khə!

I.OBL =OBJ madame call

「私をマダムと呼びなさい」

注 *medam* は英語からの借用語であり、語末に *-m* があらわれている。バンドルバン地方での発音は *medaŋ* である。なお、南アジアでは一般に目上の女性に対して「マダム」とよぶ。

(59) 0:04:16 先生 2

naŋ =rō ja =hləʔ kra =lé?

you =PL what =approximately be.late =CQ

「お前たちはどれだけ遅れた?」

(60) 0:04:17 先生 2

lá -li, yá =de thəiŋ -khi!

go -go.IMP that =EMPH.this sit -go.and.return

「行って、あっちに座ってなさい」

注 1 *yá* は *yáŋ* の変異形である。

注 2 *=de* はこの方言では指示詞に後続するとき、場所格のように機能する。

(61) 0:04:18 ミナ

chəramă, ŋa =rō...

teacher.FEM I =PL

「先生、私たち...」

(62) 0:04:19 先生 2

dwíŋ nwiŋ!

quietly stay

「静かにしてなさい」

注 1 バンドルバン方言では動詞としては *tíŋ* であり、重複副詞形としては *tədíŋ niŋ!* (quietly stay) という。つまり、*dwíŋ* という形式は副詞であり、本来は語頭音重複があった残滓として、語頭で有声阻害音があらわれているとかがえられる。

注 2 *nwiŋ* は、バンドルバン地方では *niŋ* のように発音される。

(63) 0:04:21 先生 2

thoiŋ!

sit

「座りなさい!」

(64) 0:04:24 先生 2

ŋa lai? =te, naŋ =rǒ =go prǎ =phǒ.

I come =RLS you =PL =OBJ show =PURP

「私がきたのは、お前たちに見せる (教える) ためです」

(65) 0:04:26 先生 2

naŋ =rǒ ná+thoŋ -gai?!

you =PL listen -VPL

「お前たちはよく聞きなさい」

(66) 0:04:28 先生 2

naŋ =rǒ cwǐ khyǎ =bǒ ná+thoŋ!

you =PL heart make.fall =SEQ listen

「お前たちは、心して聞きなさい」

(67) 0:04:30 先生 2

yǎhlo? =mǎge tai? =me.

that.much =COND be.able.to.do =IRLS

「それくらいしたら、できるだろう」

注 *=mǎge* はおそらく *=ma=ge* (=LOC=COND) と分析できる。しかし、場所格に条件標識がつくのは破格である。全体としては *yǎhlo?=ma cho=ge* (that.much=LOC say=COND) 「そのくらいというなら」が縮約した形式と解釈できるかもしれない。

(68) 0:04:31 先生 2

ŋǎ =ma ʔě ʔəhlǎ kyíhŋaʔ!

I.OBL =LOC this beautiful parrot

「私のところにこれほどきれいなオウム!」

(69) 0:04:35 赤いオウム

鳥の鳴き声

(70) 0:04:39 ミトゥ

ʔəhlǎ kyíhŋaʔ!

beautiful parrot

「キレイなオウム!」

(71) 0:04:41 先生 2

ʔeʔ, toiʔ!

ITJ shut.up

「えー、黙りなさい!」

注 *toiʔ* は、ほとんど *tuiʔ* のように聞こえる。

(72) 0:04:44 先生 2

gəniŋ ŋə =rǒ ʔəkunθu puʔtikor chapter θaŋ =phǒ.

today I =PL everybody nutritious chapter learn =FUT

「今日、私たちはみんな栄養の分類を学びます」

注 1 *puʔtikor* は「栄養がある」という意味のバングラ語である。

注 2 *chapter* は英語であるけれども、このアニメのもとになったバングラ語版では *bibhag* ‘division’ である。そこで「分類」と訳した。

(73) 0:04:49 赤いオウム

puʔtikor ʔəcá =go yu =bɔ θaŋ =phǒ.

nutritious food =OBJ take =SEQ learn =FUT

「エイヨウアルタベモノヲマナボウ」

(74) 0:04:50 先生 2

chapter ŋá -khǔ hǐŋ =re.

chapter five -CL:thing exist =RLS

「5 分類あります」

(75) 0:04:53 赤いオウム

ŋá -khǔ khwé =bɔ hǐŋ =re.

five -CL:thing divide =SEQ exist =RLS

「イツツニワカレテアル」

(76) 0:04:57 先生 2

naŋ =rõ kuŋθu ŋa =lã pró!

you =PL everybody I =COM say

「お前たち全員、私と一緒に言いなさい」

注 *kuŋθu* は *ʔəkuŋθu* ともいう。

(77) 0:04:58 先生 2

bitamiŋ↗.

vitamin

「ビタミン」

(78) 0:05:01 生徒

bitamiŋ↗.

vitamin

「ビタミン」

(79) 0:05:02 先生 2

ʔəphaŋ.

astringent

「渋いもの」

注 バングラ語版では「タンパク質」といっている。

(80) 0:05:03 生徒

ʔəphaŋ.

astringent

「渋いもの」

(81) 0:05:04 先生 2

ʔəkhyaŋ

sour

「すっぱいもの」

注 バングラ語版では「炭水化物」といっている。

(82) 0:05:05 生徒

ʔə. ʔə.. ʔə.. ʔə... ʔəkhyaŋ...

s. s.. s.. s... sour

「す、す、す、... すっぱいもの」

(83) 0:05:09 ミトウ

ʔəkhyɔŋʌ!

sour

「スパイモノ!」

(84) 0:05:10 先生 2

ʔoiʔ, dwiŋ nwiŋ, toiʔ -nwiŋ!

ITJ quietly stay shut.up -CONT

「ええい、お黙りなさい、お黙り!」

注 (62) の注を参照。

(85) 0:05:11 先生 2

cəgá mə- prɔ =gě!

language NEG- say =NEG.IMP

「しゃべるな!」

(86) 0:05:14 先生 2

ʔeʌ, yɔʔkəfe!

ITJ little.boy

「おい、少年!」

注 *yɔʔkəfe* は、本来は *yɔʔkyáfe* とすべきである。おそらくバングラ文字で *-ky-* とかかれたものを、バングラ語のように発音したために重子音になっているほか、後続する母音も軽声化している。

(87) 0:05:15 先生 2

thu =ca dō yu =bo laiʔ!

that =NMLS this.side take =SEQ come

「それを、こっちにもってこい!」

注 *dō* は、本来は *də=dō* (this-ALL) というべきである。

(88) 0:05:20 先生 2

ʔəgũ ʔě =ca ʔáləməri =mə!

now this=NMLS drawer =LOC

「今、こいつは、タンスの中!」

注 *ʔáləməri* は *ʔaləməri* と発音されるのが普通である。

(89) 0:05:24 ミナ

medam, chəramă, ʔaləməri =go təge ʔəθe hloiʔ -ră =phǒ.

madame teacher.FEM drawer =OBJ bit slowly open -must =FUT

「先生、タンスはすこしゆっくりあけるべきです」

(90) 0:05:27 先生 2

də =hlɔʔ tə- khũ ʔəgrí!

this =this.much one- CL:thing big

「なんて大口を!」

注 ʔəgríは ʔəgrí cəgá (big language) が省略されたいいかたである。

(91) 0:05:29 先生 2

ŋǎ =go θaŋ =re ʔaləməri hlɔiʔ =phǒ, hm!

I.OBL =OBJ teach =RLS drawer open =FUT ITJ

「私に教えるなんて、タンスを開けるように、フン!」

(92) 0:05:35 先生 2

ná+thɔŋ məməǎfe, ŋa θĩ =phǒ =me, naʔ =ko míŋ =me.

listen little.girl I know =FUT =COND you.OBL.FEM =OBJ ask =IRLS

「きけ、こむすめ、知る必要があれば、お前にきくよ」

注 =me (=COND) は =məge (=COND) の縮約形式である。バンドルバン地方では cho=ge (say=COND) という。

(93) 0:05:39 先生 2

hʔ, rwa =ma phrɔ!

ITJ village =LOC become

「くそ!」

注 文字どおりには「村で生じる」という意味であるけれども、怒りをあらわす慣用表現である。

(94) 0:05:44 先生 2

ŋə =rǒ gũ phaiʔ =cɔŋ rǎ =phǒ.

I =PL now read =for.the.sake.of must =FUT

「ではこれから勉強しましょう」

注 gũは接頭辞がついた ʔəgũが普通である。

(95) 0:05:46 先生 2

ŋaiŋ =me.

be.salty =IRLS

「塩辛い」

(96) 0:05:47 生徒

ŋaiŋ =me.

be.salty =IRLS

「塩辛い」

(97) 0:05:49 先生 2

?əchi.

fat

「脂肪」

(98) 0:05:49 生徒

?əchi.

fat

「脂肪」

(99) 0:05:53 先生 2

wiŋ =ma niŋdɔiŋ lo =re.

house =LOC every.day be.necessary =RLS

「家で毎日必要だ」

(100) 0:05:55 生徒

wiŋ =ma niŋdɔiŋ lo =re.

house =LOC every.day be.necessary =RLS

「家で毎日必要だ」

(101) 0:06:08 父

?əca phrɔi? =lé, mina?

what become =CQ PSN

「どうした、ミナ」

注 ?əca は、*ja* の変異形である。

(102) 0:06:10 ラジュ

yáj +θu =go ?əθɔi? chəramã ché =re.

that +person =OBJ new teacher.FEM scold =RLS

「ミナをあたらしい先生が叱ったよ」

(103) 0:06:12 ミナ

mə- hou?, ŋa tə- khũ =baŋ mə- nále -li.

NEG be.right I one- CL:thing =EMPH NEG- understand -PAST

「いいえ、私は何も理解できなかった」

注 =*baŋ* は否定でよくつかわれる強調の小辞である。

(104) 0:06:15 ミナ

chəramă ɲǒ =go ʔəca pró =lé?

teacher.FEM we =OBJ what say =CQ

「先生が私たちに何をいったか」

注 1 ɲǒは ɲa=rǒ ‘I=PL’ の縮約形式である。

注 2 próがややながく聞こえるのは、本来は=re があったからではないかとおもわれる。

(105) 0:06:18 ミトゥ

ɲaiŋ =me, ʔəchi, ʔəkhɔiŋ, ɲaiŋ =me, ʔəchi, ʔəkhɔiŋ.

be.salty =IRLS fat sour be.salty =IRLS fat sour

「シオカライ、シボウ、スッパイ、シオカライ、シボウ、スッパイ」

(106) 0:06:34 ミトゥ

mina, raju, laiʔ, krě!

PSN PSN come watch

「ミナ、ラジュ、コイ、ミロ!」

(107) 0:06:38 ミナ

mə- houʔ mithu, gəniŋ mə- houʔ.

NEG be.right PN today NEG be.right

「いいえ、ミトゥ、今日はしない」

(108) 0:06:41 ミナ

kra =me mə- houʔ.

be.late =IRLS NEG be.right

「おくれるわけにはいかない」

注 *kra-hnɔiŋ=me mə-houʔ* (be.late-can=IRLS NEG-be.right) というほうが丁寧である。

(109) 0:06:53 先生 2

ń, ń, [せきばらい] cwĩ =ma twɔʔ =te, gəniŋ naŋ =rǒ ʔəɾɔ cwĩ khyă =bɔ

ITJ heart =LOC remember =RLS today you =PL more heart let.fall =SEQ

ná+thɔŋ =me.

listen =FUT

「んんん、あんたたちは、今日は、もっと集中してきくだろう」

注 1 *cwĩ*は、バンドルバン地方では *coiʔ* である。

注 2 *cwĩ=ma twɔʔ=te* は「～であることをのぞむ」という慣用表現である。

mai1 vs *me1* hortative vs fut; *me* がただしいようだ

(110) 0:06:58 先生 2

ʔəgũ ŋə =rõ phaiʔ =phõ.

now I =PL read =FUT

「今、私たちは読みましょう」

(111) 0:07:02 先生 2

ń, ń, nm, wəbwáɪŋ.

ITJ bamboo.lever

「ン、ン、シー、ウブワイン」

注 *wəbwáɪŋ* とは「竹製の梃子（てこ）」のことである。ただし、生徒たちには理解できないので「ウブワイン」と訳すことにする。なお、この単語はバンドルバン地方では *wəbóɪŋ* と発音される。分析的には *wá* 「竹」と *ʔəpɔɪŋ* 「断片」からなる複合語である。

(112) 0:07:07 鳥

wəbwáɪŋ yu =bɔ, phaiʔ =phõ.

bamboo.lever take =SEQ read =FUT

「ウブワイン、マナブ」

(113) 0:07:08 ミナ

medam chəramă, wəbwáɪŋ ʔəca =léʔ

madame teacher.FEM bamboo.lever what =CQ

「先生、ウブワインは何ですか」

(114) 0:07:11 先生 2

ʔé, məmăʃe, tə- khũ =baŋ mə- míŋ =gě!

ITJ little.girl one- CL:thing =EMPH NEG- ask =NEG.IMP

「エーイ、小娘、何も質問するな!」

(115) 0:07:13 先生 2

ń, ń [せきばらい] judú prɔ!

ITJ only say

「ただ言いなさい!」

注 *judú* はバングラ語からの借用語である。

(116) 0:07:18 先生 2

wəbwáɪŋ tə- khũ pəbrɔŋ waiŋ.

bamboo.lever one- CL:thing straight tool

「ウブワインは、一つのまっすぐな道具です」

(117) 0:07:22 生徒

wəbwaɪŋ tə- khũ pəbrɔŋ waɪŋ.

bamboo.lever one- CL:thing straight tool

「ウブワインは、一つのまっすぐな道具です」

(118) 0:07:24 先生 2

ʔě =ca ʔəlɪ waɪŋ ŋaŋ =phõ lo =re.

this =NMLS heavy tool pull =PURP be.necessary =RLS

「それは、重いものを持ちあげるのに必要です」

(119) 0:07:26 生徒

ʔě =ca ʔəlɪ waɪŋ ŋaŋ =phõ lo =re.

this =NMLS heavy tool pull =PURP be.necessary =RLS

「それは、重いものを持ちあげるのに必要です」

(120) 0:07:29 先生 2

ʔě =ca kəgyáɪŋ =lǎ =bɔ luʔ =ca.

this =NMLS hard =COM =SEQ make =NMLS

「それは、硬いものでつくったものです」

注 1 =bɔ は、動詞以外の要素にも後続しうる。

注 2 luʔ は、バンドルバン地方では *louʔ* である。

(121) 0:07:32 ミナ

ʔě =ca ŋõ bwe mə- houʔ.

this =NMLS we book NEG be.right

「これは私たちの教科書じゃない」

(122) 0:07:33 ミナ

cwĩ =ma twɔʔ =te, ʔě =ca ŋá daiŋ bwe.

heart =LOC remember =RLS this =NMLS five class book

「これは五年生の本だと思う」

注 *ŋá daiŋ* は、本来は *ŋá dáɪŋ* というべきである。

(123) 0:07:35 先生 2

ʔe, məməʃe, ʃaiʔʃaiʔ mə- prɔ =gě!

ITJ little.girl in.whispers NEG- say =NEG.IMP

「おい、小娘、ひそひそ言うな!」

(124) 0:07:39 先生 2

raiʔ!

stand

「立て!」

(125) 0:07:40 先生 2

pəbrɔ̃ŋ pyaŋ =bɔ prɔ!

straight do =SEQ say

「簡潔に言いなさい!」

(126) 0:07:42 ミナ

?a., medam chəramã, cwĩ =ma twɔʔ =te, ?ě =ca ŋá daiŋ bwe.

ITJ madame teacher.FEM heart =LOC remember =RLS this =NMLS five class book

「あー、先生、それは五年生の教科書だと思います」

(127) 0:07:47 先生 2

ŋá daiŋ boi?

five class book

「五年生の教科書だって?」

注 1 *boi* はバングラ語からの借用語である。

注 2 (126) では *ŋá daiŋ* であったけれども、ここでは *ŋá daiŋ* とただしくいつている。

(128) 0:07:49 先生 2

douʔkhwã, naʔ =ko yu =bɔ mə- phrɔ̃ =bya.

unhappiness you.OBL.FEM =OBJ take =SEQ NEG- become =PRF

「わるいけど、お前とはもうできない」

(129) 0:07:54 先生 2

thwɔʔ -li!

go.outside -go.IMP

「でていけ」

(130) 0:07:55 先生 2

praŋ =gã raiʔ -khi!

place.outside =ABL stand -go.and.return

「外で立ってろ」

注 *praŋ=gã* は *praŋ=ma* (place.outside=LOC) と同義である。

(131) 0:07:55 ミナ

ye =məge, medam...

this =COND madame

「それなら、先生...」

(132) 0:07:56 先生 2

thwə? -li!

go.outside -go.IMP

「でていけ!」

(133) 0:08:01 先生 2

[せきばらい] **pró!**

say

「言いなさい!」

(134) 0:08:05 先生 2

wəbwáɪŋ tə- khǔ pəbrɔŋ waiŋ.

bamboo.lever one- CL:thing straight tool

「ウブワインは、一つのまっすぐな道具です」

(135) 0:08:08 生徒

wəbwáɪŋ tə- khǔ pəbrɔŋ waiŋ.

bamboo.lever one- CL:thing straight tool

「ウブワインは、一つのまっすぐな道具です」

(136) 0:08:11 先生 2

?ě =ca ?əlí waiŋ ŋaŋ =phǒ lo =re.

this =NMLS heavy tool pull =FUT be.necessary =RLS

「それは、重いものを持ちあげるのに必要です」

(137) 0:08:14 生徒

?ě =ca ?əlí waiŋ ŋaŋ =phǒ lo =re.

this =NMLS heavy tool pull =FUT be.necessary =RLS

「それは、重いものを持ちあげるのに必要です」

(138) 0:08:28 母

ca phrɔ̃ =lé, mina.

what become =CQ PSN

「どうしたの、ミナ」

注 ca は ?əca から接頭辞が消失した形式である。

(139) 0:08:31 ラジュ

yáŋ +θu =go chəramă ca +phai? =ca tɔi? =kă =bɔ lɔi? thou? +lɔi?
 that +person =OBJ teacher.FEM letter +read =NMLS room =ABL =SEQ chase bring.out +chase
 =te.

=RLS

「ミナを先生が教室から追い出したよ」

注 *lɔi? thou?+lɔi?=te* は *lɔi?=phǒ thou?+lɔi?=te* (chase=PURP bring.out+chase=RLS) が本来の形式であったとおもわれる。=*phǒ*を発音しない代償として、直前の *lɔi?* がややながく発音されている。

(140) 0:08:34 タラ

mə- hou? mina, coi? mə- chó =gě!

NEG be.right PSN heart NEG- be.bad =NEG.IMP

「いいえ、ミナ、気を悪くしないで」

(141) 0:08:37 ミナ

krě =me =ye, tarame.

watch =HRT =SFP PSN.FEM

「見てよ、タラ姉さん」

注 *krě=me=ye* は、バンドルバン地方では *krě=mai=ye* (watch=HRT=SFP) という。

(142) 0:08:38 ミナ

?əθɔi? chəramă ca prɔ =lé ŋa tə- khũ =baŋ mə- nále -li.

new teacher.FEM what say =CQ I one- CL:thing =EMPH NEG- understand -PAST

「あたらしい先生が何を言ったか、私は何もわからなかったの」

注 *prɔ*がややながくきこえるのは、本来あるはずの=*re*が発音されていないせいではないかとおもわれる。

(143) 0:08:42 ミナ

ŋə =rǒ wəbwáŋ =go yu =bɔ θaŋ -ră =re.

I =PL bamboo.lever =OBJ take =SEQ learn -must =RLS

「私たちはウブワインについて勉強しないとイケなかった」

(144) 0:08:45 ミナ

wəbwáŋ ?əca =lé, ŋa mə- nále.

bamboo.lever what =CQ I NEG- understand

「ウブワインというのが何なのか、私はわからなかった」

(145) 0:08:48 ミナ

ŋa ʔəɔ ʔiθəku mə- taʔ -khyəŋ =bya.

I more school NEG- climb -want =PRF

「私はもう学校にいきたくなくなった」

(146) 0:08:51 ミトウ

ʔəcaʔ

what

「ナニ?」

(147) 0:08:54 タラ

ŋa θi =re, nəŋ məjə twi =re =lé?

I know =RLS you how feel =RLS =CQ

「私はわかるわ、あなたがどのように感じたか」

注 *məjə* は *məjəŋ* あるいは *bəjəŋ* ともいう。

(148) 0:08:57 タラ

ye məgə =lé ʔiθəku mə- phrũ =gě!

this COND =too school NEG- throw.away =NEG.IMP

「だけど、学校を捨てたらいけないわ」

注 1 *məgə* は *məge* が縮約した形式である。

注 2 *phrũ* は、バンドルバン地方ならば *phrouʔ* のように発音される。

(149) 0:09:00 タラ

naʔ chəramă =lé =gá le -hnoŋ =re.

you.OBL.FEM teacher.FEM =too =TOP change(vi) -can =RLS

「あなたの先生もかわるかもしれない」

注 *le* は、バンドルバン地方ならば *hle* のように発音される。

(150) 0:09:02 タラ

n... wəbwáŋ, ʔɔʔ, twɔʔ -ră =re.

ITJ bamboo.lever ITJ remember -can =RLS

「んー、ウブワイン、あー、思い出した」

(151) 0:09:06 タラ

ŋa ŋá dáŋ =kha phaiʔ -hă =ca.

I five class =time read -VEN =NMLS

「私は五年生の時に勉強したの」

注 *-hă* は、バンドルバン地方では *-khă* である。

(152) 0:09:09 タラ

laiʔ, ŋa naʔ =ko prǎ =me.

come I you.OBL.FEM =OBJ show =IRLS

「きなさい、私があなたに見せてあげるわ」

(153) 0:09:11 タラ

θī =lɔ, minaʔ

know =PQ PSN

「知ってる、ミナ?」

(154) 0:09:12 タラ

pɔʔcũ =ma ʔəcaiʔcaiʔ ʔəlouʔ =ma lu =rǔ ʔě =ca =go ʔəra wəŋ =re.

village =LOC various work(n.) =LOC people =PL this =NMLS =OBJ place enter =RLS

「村でいろいろな仕事で人々が使うの」

注 1 *pɔʔcũ* はパラインサ特有の語彙である。バンドルバン地方では *rwa* という。

注 2 *ʔəra wəŋ* は「有用である・役に立つ」という慣用表現である。ただし、文の主語と述語がかみあわない。原文をそのまま訳すならば「村でいろいろな仕事で、それを人々は役に立つ」となる。*lu=rǔ ʔě=ca=go θúŋ=re* (people=PL this=NMLS=OBJ use=RLS) あるいは、*lu=rǔ=ʔətwɔʔ ʔě=ca=gá ʔəra wəŋ=re* (people=PL=for this=NMLS=TOP place enter=RLS) といえる。

(155) 0:09:21 タラ

krě, məŋɔŋ pyaŋ =bɔ ŋǎ məŋ wəbwáŋ =lǎ =bɔ θəpaŋráŋ phɔ =re.

watch how do =SEQ I.OBL brother bamboo.lever =COM =SEQ tree.root pull.out =RLS

「ご覧、どのようにして、私の兄さんがウブワインで切り株をひっぱりですか」

注 1 *θəpaŋráŋ* < *θoiʔ* ‘tree’ + *ʔəpaŋ* ‘tree’ + *ʔəráŋ* である。

注 2 *məŋ* は、対応するビルマ語では、女性からみた弟である。しかしマルマ語では、女性からみた兄に対しても弟に対しても使用できる。

(156) 0:09:27 タラ

krě, tháŋbóŋ +ʔəhre =lǎ məŋɔŋ pyaŋ =bɔ, kífə =thaʔ =kǎ =bɔ taŋ =bɔ

watch firewood.piece +long =COM how do =SEQ ? =place.above =ABL =SEQ put =SEQ

ʔəpaŋráŋ =ma kaiŋ =bɔ, tháŋbóŋ ʔəɔ tə- raiʔ =kǎ =bɔ hmiʔ =pɔ taŋ

tree.root =LOC prop(v) =SEQ firewood.piece more one- CL:place =ABL =SEQ press =SEQ put

=bɔ.

=SEQ

「ご覧、長い薪でどのようにして、小さい木の上においてつかい棒にして、薪をさらにもう一方から下に押さえつけて、ひっばるの」

注 *kífə* は、おそらく「つかい棒」という意味である。

(157) 0:09:36 タラ

mraŋ =lɔ̌, ʔě =ca =ʔi wəbwaíŋ!

see =PQ this =NMLS =EMPH bamboo.lever

「わかる、これがウブワインよ」

注 ʔě=ca=ʔi の=ʔi はバングラ語で強調をあらわす助詞が借用されたものである。

(158) 0:09:39 タラの兄

ləlaiʔ, ŋǎ =go ku -khəlaiʔ, mina!

come.IMP I.OBL =OBJ help -VEN.CMPL PSN

「きなさい、俺をてつだってよ、ミナ」

(159) 0:09:42 ミトウ

wəbwaíŋ!

bamboo.lever

「ウブワイン!」

(160) 0:09:46 ミナ

krě, mithu, wəbwaíŋ =lǎ taŋ bəjɔŋ pəbrɔ̌ŋ!

watch PN bamboo.lever =COM put how straight

「みて、ミトウ、ウブワインでもちあげるのは、なんて簡単なの!」

(161) 0:09:52 ミトウ

laiʔ! wəbwaíŋ! wəbwaíŋ!

come bamboo.lever bamboo.lever

「コイ! ウブワイン! ウブワイン!」

(162) 0:09:57 ミナ

ʔo, ʔəgũ =ra nále =re.

ITJ now =EMPH understand =RLS

「おー、今やっとわかった」

(163) 0:09:59 ミナ

tarame, naŋ ʔəhlǎ θaŋ -daiʔ =te.

PSN.FEM you beautiful learn -be.able.to =RLS

「タラ姉さん、姉さんは上手に教えられますね」

(164) 0:10:06 先生 2

cwĩ khyǎ =bɔ ná+thɔŋ!

heart let.fall =SEQ listen

「注意して聞きなさい」

(165) 0:10:08 先生 2

[咳払い] **gəniŋ naŋ =rō =lā =bɔ ʔətúŋ raʔ.**

today you =PL =COM =SEQ last day

「今日、お前たちと最後の日です」

(166) 165. 0:10:13 先生 2

ye =məgeʔ naŋ =rō cwĩ khyä =bɔ ná+thɔŋ!

this =COND you =PL heart let.fall =SEQ listen

「だから、お前たちは注意して聞きなさい」

(167) 0:10:15 先生 2

ʔəgũ ŋə =rō máŋniŋra =go pró =phǒ.

now I =PL capital =OBJ say =FUT

「今、私たちは、首都をいしましょう」

注 *máŋniŋra* は、*máj* ‘king’、*niŋ* ‘stay’、*ʔəra* ‘place’ からなる複合語である。

(168) 0:10:20 先生 2

[咳払い] **ŋǎ nɔʔkǎ pró =bɔ lɔiʔ!**

I.OBL after say =SEQ follow

「私のあとから言ってついてきなさい」

(169) 0:10:24 先生 2

dilli khɔŋdɔ =ma máŋniŋra.

Delhi India =LOC capital

「デリーはインドの首都」

注 *khɔŋdɔ* はパラインサ特有のいいかたである。バンドルバン地方では *ʔiŋdiya* という。

なお、*khɔŋ* は「屋根」、*dɔ* は「大きな・偉大な」という意味であるようである。

(170) 0:10:27 生徒

dilli khɔŋdɔ =ma máŋniŋra.

Delhi India =LOC capital

「デリーはインドの首都」

(171) 0:10:30 先生 2

dáká baŋgələdeθ =ma máŋniŋra.

Dhaka Bangladesh =LOC capital

「ダカはバングラデシュの首都」

(172) 0:10:37 先生 2

thú =ca dō yu -hwǎ!

that =NMLS this.side take -VEN

「それをこっちにもってきな!」

注 1 *dō*は、本来は *də=dō* (this-ALL) というべきである。

注 2 *yu-hwǎ*は *yu-khǎ* (take-VEN) の変異形である。

(173) 0:10:40 先生 2

ʔəgǔ!

now

「今すぐ!」

(174) 0:10:45 先生 2

jɔŋ +jaiʔ ʔəpyaʔ +yɔʔkyá mə- mraŋ -phú.

like.this +type broken +man NEG- see -EXP

「こんなクソガキ見たことない」

(175) 0:10:48 先生 2

krě =me naʔ =ko!

watch =IRLS you.OBL.FEM =OBJ

「お前を見てやる!」

注 怒っているときにつかう言い方である。

(176) 0:10:50 先生 2

ʔo, ʔo, ʔo... ʔo, ʔo, ʔo!

ITJ

「オー、オー、オー... オー、オー、オー!」

注 ここでダンスが倒れる。

(177) 0:10:58 先生 2

ŋǎ =go kɔiŋ!

I.OBL =OBJ hold

「私をつかみなさい!」

(178) 0:11:00 先生 2

ŋǎ =go thu!

I.OBL =OBJ pull.up

「私をひっぱりなさい」

注 バングラ語版では「私を外にだして!」といている。

(179) 0:11:01 先生 2

ʔubaba!

ITJ

「うーん!」

(180) 0:11:02 鳥

dilli khəŋdɔ =ma máŋniŋra.

Delhi India =LOC capital

「デリー、インド、シュト」

(181) 0:11:04 女生徒

ʔu, ʔəma lí =re.

ITJ very.well be.heavy =RLS

「うーん、とても重い」

(182) 0:11:05 鳥

dáká baŋgəladɛʃ =ma máŋniŋra.

Dhaka Bangladesh =LOC capital

「ダカ、バングラデシュ、シュト」

(183) 0:11:08 先生 2

ʔoʔoʔo, ŋǎ =go thu! ŋǎ =go thu!

ITJ I.OBL =OBJ pull.up I.OBL =OBJ pull.up

「オー、私をひっぱりなさい! 私をひっぱりなさい!」

(184) 0:11:10 先生 2

ʔě =ca hmrǎŋ! ʔě =ca hmrǎŋ!

this =NMLS raise this =NMLS raise

「これ持ち上げなさい! これ持ち上げなさい!」

(185) 0:11:14 ミナ・ミトゥ

ʔo, wəbwáŋ!

ITJ bamboo.lever

「あ、ウブワイン!」

(186) 0:11:21 先生 2

e, məmǎʃe, ca pyaŋ =lé?

ITJ little.girl what do =CQ

「おい、小娘、何をする!」

(187) 0:11:22 ミナ

təkhyə? tǎiŋ!

one.moment stop

「少し止まって!」

(188) 0:11:23 ミナ

ŋa =rǒ na? =ko thu =me.

I =PL you.OBL.FEM =OBJ pull.up =IRLS

「私たちがあなたをひっぱりだします」

注 バンドルバン地方では二人称敬称として *kobaŋ* がある。しかし、パラインサにはない。したがって、普通の二人称がつかわれている。

(189) 0:11:25 ミトウ

wəbwáŋ! wəbwáŋ! degǔ! degǔ!

bamboo.lever bamboo.lever now now

「ウブワイン! ウブワイン! イマ! イマ!」

(190) 0:11:30 生徒

krě, ?ě =ca pɔ =re.

watch this =NMLS emerge =RLS

「見て、こいつ上にあがる」

(191) 0:11:32 生徒全員

?ɔ, ?ě =ca pɔ =re.

ITJ this =NMLS emerge =RLS

「おー、こいつ上にあがる」

(192) 0:11:34 鳥

dilli khəŋdɔ =ma máŋniŋra.

Delhi India =LOC capital

「デリー、インド、シュト」

(193) 0:11:35 ミナ

?əmó, chəramă =go thu!

quickly teacher.FEM =OBJ pull.up

「はやく、先生をもちあげて!」

(194) 0:11:40 先生 2

?uh, rwai? =re.

ITJ be.freed =RLS

「うー、助かった」

注 *rwai?=re* は、*rwai?=te* というほうが普通である。

(195) 0:11:43 先生 1

bəjɔŋ hĩŋ =lé, ?əmɔi? =rǒ.

how exist =CQ animal =PL

「どうですか、みなさん」

注 *?əmɔi?=rǒ* は、文字通りには「複数の動物」を意味するけれども、ここでは生徒たちをさしている。

(196) 0:11:44 先生 1

ŋa lai? =bya.

I come =PRF

「私は今もどりました」

注 声門閉鎖音のあとで=*bya* といっているのは、直前に本来は=*te* (=RLS) があったからではないかとおもわれる。あるいは、*lai?* が *lái* または *lě* くらいで発音されているという可能性もある。

(197) 0:11:45 先生 1

naŋ =rǒ gəniŋ ca θaŋ -gai? =lé?

you =PL today what learn -VPL =CQ

「みんなは今日何をまなびましたか?」

(198) 0:11:49 ラジュ

ŋǒ gəniŋ wəbwáŋ θaŋ =re.

we today bamboo.lever learn =RLS

「ぼくたちは今日ウブワインを学びました」

(199) 0:11:51 先生 1

wəbwáŋ!

bamboo.lever

「ウブワイン!」

(200) 0:11:52 先生 1

bah, naŋ =rō =gá ?əkóŋ ?əkraɪŋθe.

ITJ you =PL =TOP very effort.person

「あらまあ、みんなはすごい頑張り屋ね」

注 1 *?əkraɪŋθe* < *?əkraɪŋ* 「努力」 + *θe* 「人」であるから「頑張り屋」と訳した。なお、バングラ語版では「かしこい」といつている。

注 2 「ウブワイン」を学ぶのは本来は五年生のはずであるのに、三年生（9歳）の段階で学んだことになるのでほめている、という面もあるとおもわれる。

(201) 0:11:54 生徒

chəramă, kolou? túŋ =bya =ló?

teacher.FEM course.work finish =PRF =PQ

「先生、研修は終わりましたか?」

注 *kolou?* は *ko* と *lou?* 「働く」からなる複合語である。*ko* は、一般的には「自分」を意味する。しかし、ここでは、バングラ語版も参照すれば、*course* の音訳であると解すべきである。したがって「自分の仕事」ではなく「コースの仕事」となる。そこで「研修」と訳した。

(202) 0:11:57 先生 1

?əma hlăpă pyaŋ =bō túŋ =re.

very.well beautiful do =SEQ finish =RLS

「とてもうまく行って終わりました」

(203) 0:12:00 先生 2

n, n, ŋa gũ ?əchúŋ bwai? =re.

ITJ I now end shoot =RLS

「んー、んー、私は今終わりにしました」

注 *bwai?=re* は、バンドルバン地方では *bai?=te* という。

(204) 0:12:05 先生 2

kóŋ niŋ -gai?, mɔi? =rōʌ.

be.good stay -VPL animal =PL

「お元気で、君たち」

(205) 0:12:07 生徒全員

chəramă =lé ?əkóŋ niŋ =li!

teacher.FEM =too good stay =go.IMP

「先生もお元気で」

(206) 0:12:08 先生 2

ʔəɾɔ naʔ =ko kǐjũ taŋ =re, mina↗.

more you.OBL.FEM =OBJ thank put =RLS PSN

「お前にもありがとう、ミナ」

(207) 0:12:10 先生 2

ŋa gəniŋ təphě θaŋ =re.

I today bit learn =RLS

「私は今日すこし学びました」

(208) 0:12:12 先生 2

ŋa =lé gəniŋ ʔəlũ lũ =phǒ lá =re.

I =too today work(n) work(v) =PURP go =RLS

「私も今日仕事をしにいきます」

注 ʔəlũは ʔəluʔ のようにもきこえる。

(209) 0:12:15 鳥

ʔəlouʔ, ʔəlouʔ, ʔəlouʔ, ʔəlouʔ, ʔəlouʔ, ʔəlouʔ.

work(n) work(n) work(n) work(n) work(n) work(n)

「シゴト、シゴト、シゴト、シゴト、シゴト、シゴト」

(210) 0:12:29 ラジュ

krě, mina, θáʔe =rǒ bəjɔŋ hlǎ =léʔ

watch PSN child =PL how be.beautiful =CQ

「見なよ、ミナ、こどもたちが何てかわいいんだ」

(211) 0:12:32 ミナ

təthaiŋ naʔ =hŋyɔŋ =bya, mithu mamu.

completely.same you.OBL.FEM =ESS =PRF PN uncle

「まったくあなたのようなね、ミトウおじさん」

注 1 =hŋyɔŋ は、バンドルバン地方では=yɔŋ または=poij/=boij という。

注 2 mamu はバンングラ語からの借用語である。

(212) 0:12:35 ミトウ

hǎ, hahahahaha...

yes laughter

「ハイ、ハハハハハハ」

注 hǎはバンングラ語である。

(213) 0:12:41 ラジュ

yáŋ +θu =rǒ pyaiŋ =re.

that +person =PL fly =RLS

「こどもたちが飛んでる」

(214) 0:12:46 ミナ

?o, mithu, ?iθəku ŋa kəgón pyɔ =re.

ITJ PN school I very.much be.happy =RLS

「オー、ミトゥ、学校は私にとってとても楽しい」

注 この文は、主語と述語の対応がおかしい。*?iθəku=go lá=phǒ ŋa kəgón pyɔ=re* (school=OBJ go=NMLS.FUT I very.much be.happy=RLS) あるいは *?iθəku=go ŋa kónɡón krɔi?=te* (school=OBJ I very.much love=RLS) というべきである。

(215) 0:12:50 ミトゥ

?iθəkul, ŋa pyɔ =re.

school I be.happy =RLS

「ガッコウ、ワタシ、タノシイ」

記号・略号一覧

/A/	A は音素表記
(A)	A は任意の要素
A B	A と B は条件変異
A < B	A は B に由来する
A > B	A は B に変化する
+	複合語境界
-	接辞境界
=	接語境界
↗	上昇調イントネーション
1, 2	人称 (それぞれ 1 人称、2 人称)
ABL (ABLative)	奪格
ALL (ALLative)	方向格
AUX (AUXiliary verb)	助動詞
CL (CLassifier)	類別詞
CMPL (CoMPLetive)	完遂
COM (COMmitative)	共同格
COND (CONDitional)	条件
CONT (CONTinuous)	継続
CQ (Content Question marker)	補足疑問標識
EMPH (EMPHatic)	強意
ESS (ESSive)	様態格
EXP (EXPeriential)	経験
FEM (FEMinine)	女性形
FUT (FUTure)	未来
HRT (HoRTative)	勧誘
IMP (IMPerative)	命令
IRLS (IRealIS)	非現実法
ITJ (InTerJection)	間投詞
LOC (LOCative)	場所格
NEG (NEGative)	否定
NMLS (NoMinaLiSer)	名詞化標識

OBJ (OBJective)	目的格
OBL (OBLique)	斜格
PL (PLural)	複数
PN (Proper Name)	固有名詞
PRF (PeRFect)	完了
PSN (PerSonal Name)	人名
PURP (PURPositive)	動作目的
RLS (ReaLis)	現実法
SG (SinGular)	単数
SEQ (SEQuential)	継起
SFP (Sentence Final Particle)	文末小辞
TOP (TOPic)	主題
VEN (VENitive)	来辞
VPL (Verbal PLural marker)	動詞複数標識

参考文献

- 加藤昌彦. 1998. 『エクスプレス・ビルマ語』白水社.
加藤昌彦. 2015. 『ニューエクスプレス・ビルマ語』白水社.
加藤昌彦. 2018. 『ニューエクスプレスプラス・ビルマ語』白水社.
藤原敬介. 2017. 「マルマ語会話文資料」『言語記述論集』9: 65-94. <http://id.nii.ac.jp/1422/00000912/>

(附記) 草稿段階で倉部慶太氏から有益なご意見をいただいた。本稿は科学研究費補助金（課題番号 20K00570）による研究成果の一部である。

受理日 2021 年 4 月 13 日

【書評】星泉・海老原志穂・南太加・別所裕介（編）
『チベット牧畜文化辞典（チベット語・日本語）』
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2020年、xl+448pp.

藤原敬介

帝京科学大学

主要語句：アムド・チベット語^{注1}、牧畜文化、辞典編纂、言語調査

1 はじめに

本書は、チベット東北部にあたるアムド地方ツェコ県のメシュルという地域（中国青海省海南チベット族自治州ツェコ県北部のメシュル; p. xv^{注2}）における牧畜語彙を収集し^{注3}、意味分野別にまとめた辞典である。書籍版だけでなく、PDF版、ウェブ版、iOS版が公開されており、おおくの見出し語について音声をきくこともできる^{注4}。

本辞典作成のきっかけとなったのは、共著者の一人である別所裕介氏の提案であった。別所は次のようにのべる。「私たち「チベット牧畜語彙収集プロジェクト」の研究チームが立ち上がる数年前から、現地牧畜社会ではチベット語の伝統知識の継承を目的とする複数の草の根の民間団体が活動していた。その筆頭格である、三江源の中核に位置する青海省ゴロク州の名刹・ラジャ僧院付属の私設学校（小学校から高校までを擁する）では、牧畜語彙に特化した図版入りの小辞典が刊行されていた。牧畜社会で用いられる生活用品や家畜種の写真画像に短いキャプションを付したこの辞典は、現地で幅広く普及し、他地域の私設学校で貴重な母語教育の教材として用いられ、村々の小学校でボランティア活動として実施される児童向けの「チベット語（母語）語彙検定」で、問題作成用に活用されたりしている」（p. xiv）という状況がすでにあった。そして、「現地にすでにあるニーズを汲み上げ、これに側面からの支援を行うことで、彼ら自身が「牧畜の価値」を自らのために定位していく手伝いができるかもしれない」（p. xiv）という問題意識のもと、星泉教授を代表とした「チベット牧畜語彙収集プロジェクト（通称）」（p. v）がたちあがり、2014年から活動を開始していくこととなった。

本書のパイロット版はすでに2018年春にはいちおうの完成をみた。なぜ2018年であったか。それは、プロジェクトの年限や研究報告書作成の都合といったこともあったかもしれないけれども、「祝祭」に参加するためであった。「祝祭」とは、三年に一度開催される国際チベット学会議（Seminar of International Association for Tibetan Studies）であり、2019年にはパリで第15回大会の開催が予定されていた。辞書づくりという、おわりがみえず、根気が必要な作業を

注1 「・」をもちいず、「アムドチベット語」と表記する立場もある。本稿では、本辞典の方針を尊重し、「・」をもちいる。

注2 以下、本稿で本辞典からの記述に即して紹介するばあい、できるだけ該当ページもしめす。

注3 この地が調査地としてえらばれたのは、共著者の一人である南太加氏の故郷であることによる（p. v）。

注4 詳細はチベット牧畜文化ポータル（2021年4月13日確認）を参照。

とにかくもすすめ、形あるものにするためには、目標が必要である。大会に参加し、「チベット
牧畜語彙収集プロジェクト」について発表することは、プロジェクト参加者にとってちょうど
よい目標であった。そして、研究チームは実際に大会に参加し、“Outcomes and Prospects of a
Multimedia Dictionary on Tibetan Pastoral Culture”というパネル発表をおこなった^{注5}。これを
星 [2020] は質疑応答で「祝祭」と表現していた。

パイロット版の発表から二年をへて完成したのが本書である。パイロット版は「全ての語彙
項目をチベット語の辞書順に配列したものであり、チベット語の辞書としては使いやすいもの
であったが、チベット語を知らない読者にも牧畜文化に触れてほしいという編者の意図を十分
に表現できていない配列であった」(p. vi)。書籍版は「辞書順に配列したリストはチベット語
索引として巻末に掲載した上で、本編は収集した語彙を文化項目別に分類・配列した28章立て
の分類辞典として新たに編集しなお」(p. vi) したものである。A5版で500ページほどにまと
められたこの辞典に28章に4893件が立項されている(p. v)。

28章とは、次のとおりである。

1. 宿営地と放牧地
2. 地形・天候・天体
3. 植物と動物
4. 家畜の名称
5. 放牧作業
6. 家畜の個体管理
7. 交尾・出産・去勢
8. 搾乳と乳加工
9. 屠殺・解体
10. 食肉加工と部位名称
11. 糞
12. 毛と皮革
13. 役利用
14. 食文化
15. 服飾文化
16. 住文化
17. 日常の行為と道具
18. 暦と度量衡
19. 人間関係
20. 経済活動
21. 冠婚葬祭

^{注5} 第15回国際チベット学会議の要旨集(2021年4月12日確認)による。

22. 娯楽
23. 宗教的観念
24. 宗教的行為
25. 宗教的存在
26. 法具と呪物
27. 宗教的な場所と建造物
28. 新しい政策・技術・道具

さらに各章は細分化されている。たとえば第1章であれば、「1.1 宿営地（1.1.1 宿営地の種類、1.1.2 宿営地の構成、1.1.3 水汲み場）、1.2 宿営地の移動、1.3 放牧地（1.3.1 放牧地の種類、1.3.2 放牧地の管理）、1.4 草地（1.4.1 草地の日当たり、1.4.2 草地の状態、1.4.3 草地の評価）」(p. 3) となっている。

もとより評者には、全28章をまんべんなく紹介する技量などない。以下、評者にとって気になった点を中心に、本辞典を紹介する。

2 本辞典の内容について

2.1 表記について

本辞典での見出し語の表記は、チベット文字による表記、チベット文字表記のラテン文字転写、音韻表記という三種類がみられる。このうちチベット文字表記とそのラテン文字転写については特に問題がない。だが、音韻表記については注意が必要である。

評者には、前鼻音をふくむ前置子音の表記について、疑問におもえる点があった。アムド・チベット語メシュル方言は、他のアムド・チベット語牧区方言と同様に^{注6}、声調が弁別的ではないかわりに、豊富な頭子音連続がある (p. xxvii)。星 (p. xxxi) によれば、メシュル方言には C_2C_1 という子音連続がある。 C_1 が主子音であり、 C_2 が前置子音である。前鼻音は前置子音の一種である。また、星 (p. xxxii) によれば、前鼻音には二種類ある^{注7}。 $^n/$ は、後続する主子音と同一調音点で実現し、 $^m/$ は、後続する主子音と調音点が異なる。したがって、実際の音声として $[^mb]$ のような音連続があったばあい、本辞典での音韻表記としては $^mb/$ となる。 $^mb/$ はならない。このような解釈は、音韻論的にはありうる解釈である^{注8}。しかし、言語学的な素養がなければ、理解するのはむずかしいかもしれない。

前鼻音については高度に音韻論的な解釈をする一方で、その他の前置子音については、音韻論的な解釈よりも実際の音声を重視している面がある。たとえば星 (p. xxxiv) によれば前置子音 $^{\phi}/$ は無声の主子音の前にのみあらわれる。他方、前置子音 $^{\beta}/$ は有声の主子音の前にのみあらわれる。両者は相補分布している。したがって、両者は一つにまとめて、 $^{\phi}/$ のみを音素とし

^{注6} たとえば鈴木 [2004] や海老原 [2019] を参照。

^{注7} 前鼻音というばあい、同一調音点の子音に先行するものしか前鼻音とみとめない立場もある (鈴木博之氏の教示による)。

^{注8} チベット語の音節構造をめぐる問題については鈴木 [2005] も参照。

てみとめることもできる。同様のことは、前置子音/^β/と/^ʀ/、/^x/と/^ɣ/についてもあてはまる。

前鼻音についておこなったような音韻解釈を、上記の前置子音についておこなわない理由は理解できる。本辞典は現地のチベット人にも容易に利用できることを意図しているからである。相補分布しているから一つの音素にまとめるということは、言語学者だけを相手にしているならばよい。しかし、一般のアムド・チベット語話者に対しては、実際の発音にちかい表記を提示するほうがよいという判断であろう。ただし、そうであるとしたら、/^mb/ではなく/^{mb}/でもよいのではないかという疑問はこのころ。

2.2 分類方法

辞書といえば、各言語での文字配列順に編集されることが現在では一般的である。実際、本辞典のパイロット版もチベット文字の配列順に作成されていた。他方、未記述言語の隣地調査においては、意味分野別に分類された調査票をもちいることが一般的である。そして、その調査結果を公表するばあいにおいても、語彙集であれば意味分野別に配列されたもののほうがむしろおおい。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所がかかわっているものだけでも、たとえば調査票としては東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編 [1966] や *Saya U Aung Kyaw* ほか [2001]^{注9} などがあるほか、辞典や語彙集としても新谷忠彦教授や梶茂樹教授による一連の著作（たとえば *Shintani* [2008] や *Kaji* [1992]）は、ほぼすべて意味分類によって配列されている。『アジア・アフリカの言語と言語学』に発表される基礎語彙資料も同様である（加藤 [2008]、原 [2009]、大塚 [2013] など）。

本辞典も意味分類によって配列されている点では、上述の諸研究とかわるところはない。しかし、本辞典が異彩をはなつところは、既存の言語調査票に依存せず、牧畜文化に特化しているところである。共著者の山口哲由氏によれば、意味項目の選定はマードックほか [1988] を参考としている。だが、それだけではチベット牧畜社会を十分に捕捉することはできない。そこで、「文化項目にかかる先行研究も参照しながら分類した語彙を精査し、抜け落ちていた要素や階層構造などを再検討することにより、さらに次の単語収集をおこなっていった。このように語彙の収集・分類・項目の再検討という作業を繰り返すこと」(p. xx) によって、現在ある 28 章にまとまったということである。

文化項目による配列にはさまざまな利点がある。一例として、山口はヤクと羊の例をあげる。山口による解説を再掲すれば、次のようになる^{注10}。「例えば、「be'u」という語は 0-1 歳のヤクを指すが、チベット語の辞書配列で並べた場合、家畜の呼び方として「be'u : 0-1 歳のヤク」という単語があることしか分からない。しかし、実際には 0 歳から 6 歳までのヤクを年齢に応じて呼び表す体系的な語彙があり、これらの語は家畜の個体を管理する様々な場面で使用される。一方で羊に関しては「生後 10 日までの仔羊」、「生後 10 日-満 1 ヶ月の仔羊」、「生後 1 ヶ月の仔

^{注9} この調査票の作者は新谷忠彦教授である。

^{注10} 原文のチベット文字表記は原則として割愛した。

羊^{注11}、「生後2-4ヶ月の仔羊」、「生後5ヶ月-1歳の仔羊」のように、0歳から1歳までをさらに分ける語がある。仔羊の毛皮の価値は非常に高く、その品質は生後数ヶ月で変化することから、より細かく呼び表す語彙が発達してきたと考えられる。このように家畜の年齢区分に関して、ヤクと羊という項目ごとに見ていくことで牧畜文化の理解に繋がる」という。

ここまでふみこんだ分析をせずとも、ただ項目をながめているだけでもたのしめる。たとえば「ヤク」でいえば、99ページから112ページにかけて、ひたすら「ヤク」の個性について記述される。毛色、角の有無や形状について、豊富な写真とイラストにより、ひとことで「ヤク」といっても、さまざまに分類されていることがわかる。

あるいは「馬」をとってみても、成長段階別の名称 (p. 72)、利用目的による名称 (p. 75)、群れとして見たときの名称 (p. 76)、美称 (p. 76)、品質による名称 (p. 76)、歩き方による名称 (p. 77) といったさまざまな区別があることがわかる^{注12}。

このように、本辞典は牧畜文化に特化したことによって、通常の辞書では記述されることがない区別にまでふみこみ、百科事典的な性格をもっているところに特徴がある。

2.3 語彙

2.3.1 糞

本辞典の語彙にかんして傑作というべきは、星 [2021: 14] もすすめる「糞」だけをあつかった第11章である。なぜ「糞」だけがあつかわれるかということ、「樹木が少ないチベットの多くの地域では、家畜の糞を乾燥させて燃料として利用する」(p. 171) という文化的背景があり、「糞」は重要な資源であるからである。

「糞」にまみれたこの章は、「ヤク糞」からはじまる。そして、「排泄したばかりヤク糞」が生々しい写真とともに紹介される。つづいて「ヤクが出掛けに排泄した糞」があらわれる。解説によると「放牧に出かける前に糞を排泄することがあるが、それはまだ温かく、冬の寒い朝などに加工するのに楽である」とのことである。その後も「春夏の新芽を食べて排泄された湿ったヤク糞」、「冬の終わりや春の始めに土や枯れ草などを舐めて排泄した糞」、「初乳を飲んだヤクの仔畜が排泄した黄色い糞」、「初乳を終えて草を食べ始めるまでのヤクの仔畜の糞」、「0-1歳ヤクの排泄した糞」、「1-2歳の仔ヤクが冬にする糞」、「春夏の青草を食べて排泄された乾燥ヤク糞」、「両手の間で絞り出して加工したヤク糞」、「握って整形した燃料用のヤク糞」などをつづく。

この章をよむだけでも、糞に対する見方がかわってくるだろう。

^{注11} 山口による原文では'phra ma rong のように表記される (p. xxi)。だが、本辞典での当該項目では'phran lug とある (p. 66)。

^{注12} 「馬」だけでもここまで丁寧に分類されているのを見ると、ふだんの調査で「馬」を「馬」としか記録していないことがはずかしくなってくるほどである。

2.3.2 色彩語彙をめぐって

語彙について、特に評者の目についたのは色彩語彙である^{注13}。

たとえば「ヤクの外貌表現（毛色）」(p. 99) をみると、ヤクの毛色には基底色というものがあり、それを重複して使用したり (ser ser「亜麻色の個体」p. 100)、色調をあらわす語と結合したり (ser nag「黒味がかった亜麻色の個体」p. 100)、体の特定の箇所をあらわす語と結合したり (ser ling「亜麻色で角ありの個体」p. 109) することによって、ヤクのさまざまな種類を分類することができる。ここで基底色とよばれるものには、黒、焦茶、亜麻（明るい茶）、薄亜麻、灰、白、白黒まだら、白・亜麻・灰・黒の混じった多色、がある。

他方、「羊・山羊の外貌表現（毛色）」(p. 112) にも、ほぼ同様の説明がある。ただし、こちらでは基底色として、黒、墨色、焦茶、赤茶、亜麻色（明るい茶）、灰茶、灰、白、白茶まだら、白黒まだら、多色、がある。

さらに「馬の外貌表現（毛色）」(p. 118) にも、ふたたび同様の説明がある。ただし、ここでは基底色として、黒^{注14}、濃茶、明るい茶、キャメル、薄いキャメル、灰、白、白地に斑点、多色、がある。

三者を比較すると、ヤクと羊・山羊はよくにているけれども、馬はやや異なることがわかる。

さらに「色」(p. 310) を参照すると、この言語における基本色彩語彙は、白、黒、青（灰色）、赤、黄（亜麻）であると推定される^{注15}。

Berlin & Kay [1969] の研究により、色彩語彙の発展には段階があることが知られている。すなわち、すべての言語に白と黒があり、三色あるならば赤がくわわり、四色あるならば緑または黄があり、五色あるならば緑と黄があり、六色ならば青がはいってくる。

しかしながら、上記のアムド・チベット語メシュル方言における基本色彩語彙には緑がはいっていない^{注16}。またヤク、羊・山羊、馬の事例からは、通常は基本色彩語彙とはいえないような色までも、区別に必要な基底色として使用されていることがわかる。通言語的な観察からみちびきだされた一般化に対して、個別具体的な事例が再考をうながす例といえるだろう。

^{注13} 色彩語彙以外についていえば、たとえば天候のところで「虹」や「天気雨」といった語彙があがっていないことも気になった。牧畜文化とは関係がないということだろうか。

^{注14} ヤク、羊・山羊、馬に共通して「黒」が基底色として使用されている。本辞典を参照すると、「黒」を重複した nag nag という形式が、「[馬][ヤク][羊] 全身が黒い個体」という訳語をあてられて、三回あらわれている。そして「全身が黒い馬を指すことが多いが、ヤクについても、遠くから角の有無が判別しにくい場合、この呼称で呼ぶことがある。」という解説がある。基本となるデータはおなじであるから、「ヤク」の項目 (p. 100) でも、「羊」の項目 (p. 112) でも、「馬」の項目 (pp. 118-119) でもおなじ解説である。「ヤク」と「馬」の項目でこのような解説があるのは問題がない。しかし「羊」についてもおなじ解説であるのは、そもそも黒い羊がいるのかということからして、違和感があるところである。

^{注15} 色彩語彙には、形容詞をあらわす po という要素をふくむものがおおいようである。だが、「色」(p. 310) には po をふくまない語形として ljang khu「緑」もあがっている。

^{注16} ただし、「色」(p. 310) によれば、「青」は草地の色については「緑」をあらわし、ヤクや羊の毛色としては「灰色」をあらわす。おそらく本来的には「青」である。

2.4 言語の選択

すでに提示したいくつかの例からもみてとれるように、本辞典に記載される単語は、とにかく具体的である。これだけ具体的に丁寧に記述できた理由は、調査者たちがチベット語に堪能であるだけでなく、母語である日本語で記述したことがおおきい。私見では、日本語を母語とするものにとっては、日本語で発表することがもっともまちがいがすくない^{注17}。

本辞典は、表紙くらいにしか英語の訳語はない。中国で調査しているにもかかわらず、漢語もでてこない。国際的な学術プロジェクトの成果であるけれども、日本語とチベット語しか使用されていない。「外国人との連名で／英語で論述した／個別のテーマについての報告論文を／量産する」ことが「国際性ある活発な学術活動を展開していると評価される傾向」[池田 2019: 24]がある時代にあって、これだけの成果を日本語とチベット語だけで出版したことの意義はおおきい^{注18}。

もっとも「本辞典は今後、チベット語・英語版、およびチベット語・チベット語版の刊行を予定して」(p. vi) いるとのことである^{注19}。

3 調査の失敗からまなぶ

星 [2020] でかたられ、星 [2021] で活字にもなったように、本辞典の編纂にはおおきな失敗があった。それは、調査を開始してから四年目におとずれた。

それまでの調査によって、牧畜文化全体をみわたせるところまでやってきたと著者たちは感じていた。しかし、まだ手薄な分野があった。伝統的には男性の仕事であったテントづくりに代表される皮革関係の語彙であった。そこで、調査協力者に依頼し、テントづくりにくわしい老人を紹介してもらった。意気揚々と調査にのぞみ、テントづくりに関連してききたいとおもっていたことは十分にききだすことができた。

しかし、調査がおわってから、調査協力者にいわれた一言に頭をなぐられた感じがしたという。「名うでの語り部を紹介したのに、あんな細切れな質問ばかりして、本当にもったいないことをした」と [星 2021: 14]。「思い返せば調査者本位の強引な質問を繰り返していたかもしれない。調査とはいえ、コミュニケーションだという基本をわすれていたのだ」と [星 2021: 15]。

こうした反省にたって、五年目の調査では、自分たちがききたいことだけをきくのではなく、

^{注17} 評者は Huziwara [2016] で少数民族にかんする英語による辞書を出版した。しかし、なれない英語で無理をしたせいもあり、記述にも英語にもかなりのまちがいがあつた。それだけに、はじめから日本語とチベット語にしぼった本辞典の判断はただしいと感じている。

^{注18} 英語なしに出版されているにもかかわらず、ウェブページで公開されていることもあってか、本辞典はすでに国際的にしられた存在となっている。たとえば、Randy LaPolla 教授によるチベット・ビルマ諸語研究にかんする国際的なメーリングリスト (Tibeto-burman-linguistics) でも、話題にあがっていたことがある (2021年4月1日の Kristine Hildebrandt 教授による投稿など)。

^{注19} チベット語版はともかく、英語版をだす予算と労力があるならば、ほかに優先すべきことがあるようにおもえる。現地の人々のことをかんがえれば、一番必要とされているのは、チベット語・漢語版であろう。

相手からの「語り」をひきだすようにつとめたという。その結果、「戦いの際に身につけるフェルト服」(厚手で防刃・防弾の役割を果たす)から「オオカミの落とし穴」(中に山羊を仕込み、食べようとしたオオカミを落とし込む)まで、予想もしなかった単語を大量にあつめることができたとのことである^{注20}。

本辞典では調査中に収集されたであろう「語り」そのものや、牧畜文化にまつわる民話そのものは収録されていない。「チベット牧畜文化民話集」であるとか「チベット牧畜民の語り」といった形式で、将来公開されることも期待される。

4 おわりに

以上、断片的にはあるけれども、『チベット牧畜文化辞典』を紹介した。

本辞典は、共著者として名前があがる四名だけでなく、数おおくの人々にささえられた仕事である。チベット牧畜文化をささえるメシュル地方の人々だけでなく、各種データベースの構築、音声切り出し、XeTeXによる組版を担当したチュラロックス、イラストを作成した漫画家の蔵西氏の貢献がとりわけおおきいように評者には感じられた。

本辞典は、以下にあげるプロジェクトの成果の一部であると謝辞(p. x)にしるされている。

1. AA 研共同利用・共同研究課題「“人間一家畜一環境をめぐるマイクロ連環系の科学”の構築～青海チベットにおける牧畜語彙収集からのアプローチ」(研究代表者: 星泉)
2. AA 研共同利用・共同研究課題「青海チベット牧畜民の伝統文化とその変容～ドキュメンタリー言語学の手法に基づいて～」(研究代表者: 星泉)
3. 科研費基盤研究(B)「チベット牧畜民の生活知の研究とそれに基づく牧畜マルチメディア辞典の編纂」(課題番号 15H03203、研究代表者: 星泉)
4. 文部科学省特別経費「言語の動態と多様性に関する国際研究ネットワークの新展開」(LingDy2)
5. 文部科学省特別経費「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築」(LingDy3)
6. 科研費基盤研究(S)「シナ＝チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論」(課題番号 18H05219、研究代表者: 池田巧)
7. 科研費基盤研究(A)「乳文化の視座からの牧畜論考—全地球的地域間比較による新しい牧畜論の創生」(課題番号 26257014、研究代表者: 平田昌弘)
8. 科研費若手研究(B)「東西方言から見たチベット語の基層の研究」(課題番号 26770137、研究代表者: 海老原志穂)
9. 科研費基盤研究(C)「標高帯モデルに基づく山地農業に対する気候変動の影響解明と計画的適応策の構築」(課題番号 19K06253、研究代表者: 山口哲由)
10. 科研費基盤研究(C)「ネパール・ヒマラヤ地域における中国主導の経済開発と『仏教の

^{注20} 鈴木博之氏によれば、牧畜民が口語でよく使用する謙讓表現(humilific)が本辞典ではふれられていない。牧畜民の謙讓表現について詳細は Tsering Samdrup & Suzuki [2019] を参照。

政治』(課題番号 18K11786、研究代表者: 別所裕介)

11. 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と
 相関型地域研究の推進拠点」共同研究「消滅の危機にあるチベット牧畜文化語彙に関する
 シソーラス辞書の作製」(研究代表者: 山口哲由)

本辞典の出版が可能となったのは、著者たちの日々の努力もさることながら、これだけおおくのプロジェクトと、それに付随する予算があったおかげであることもよくわかる。分野が異なる複数の専門家が協力し、5年以上の長期間にわたって国内外で共同研究をおこない、外部の会社にデータ整理を依頼し、プロの漫画家にイラストをかいてもらえるだけの予算があっただけで成り立ったようにもみえる。

評者がしるかぎりでは、とりわけ少数民族の辞書をつくるような研究者は、たいていはごく少数の調査協力者を相手に、わずかな予算で(時には自費で)調査をおこない、プログラミング言語の心得がない評者のばあいなら、いまだに手作業でデータを整理している^{注21}。

「本辞典が単に、失われつつある言葉の記録と保存にとどまるのではなく、現地の人々と共に歩みながら、社会の隅に追いやられてゆきつつある牧畜という生業体系の知られざる価値までもを含めて発掘していく一助となることを、切に望む次第である」(p. xiv)と共著者の別所はのべている。だが、本辞典のプロジェクトのように、予算面でめぐまれたプロジェクトには、成果を書籍やウェブサイト、スマホのアプリ等の形式で公開するだけでなく、データベースの雛形と、データベースから辞書まで置換するプログラムを公開するところまでも^{注22}、評者としては期待したい。

なお、「本辞典に関連する読み物としては、AA 研広報誌『FIELDPLUS』17号の巻頭特集「チベット牧畜民の「今」を記録する」、および小冊子『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』(3号と4号に牧畜文化特集)^{注23}(p. vi)がある。また、本辞典作成にまつわる体験談が星[2018、2021]にあり、どちらもおすすめである。

本辞典はいちおうの完成をみただけでも、チベット牧畜文化の研究は今もつづいている。本辞典の共著者でもある海老原志穂氏を中心となって、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で2020年から「チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築—民俗語彙の体系的比較にもとづいて—」というプロジェクトがはじまっている。このプロジェクトでは、本辞典の経験をいかしながら、さらに広域のチベット文化圏を射程にいれて、牧畜文化の研究をおこなうようである。チベット牧畜文化研究の今後の進展もたのしみである。

^{注21} たとえば T_LEx のようなすぐれた辞書編纂ソフトはあるけれども、XeTeX と連携させたいというようなことになると、それなりにプログラミング言語の心得がなければならない。

^{注22} ツバル言語文化辞典(2021年4月13日確認)では、本辞典で中心的役割をはたした星教授が辞典編纂アドバイザーとして参加し、チュラロックスの協力のもと、本辞典と同様のウェブサイトが構築されている。このようなデータベース構築のためのプログラムが、たとえば GitHub などで公開されることを期待したい。

^{注23} 星ほか [2016、2017] である。

参考文献

- 池田巧. 2019. 「Book Review: 嘉戎語の絢爛たる接辞の構築を記述してその機能と意味を解析する (長野泰彦著『嘉戎語文法研究』汲古書院)」『東方』458 (2019年4月): 20-24.
- 海老原志穂. 2019. 『アムド・チベット語文法』ひつじ書房.
- 大塚行誠. 2013. 「ビルマ語パロー方言基礎語彙」『アジア・アフリカの言語と言語学』8: 163-200. <http://hdl.handle.net/10108/75670>
- 加藤昌彦. 2008. 「ゲバー語基礎資料」『アジア・アフリカの言語と言語学』3: 169-219. <http://hdl.handle.net/10108/51105>
- 鈴木博之. 2004. 「アムドチベット語チャプチャ・チェルジェ牧民方言の音声分析」『京都大学言語学研究』23: 145-165. <https://doi.org/10.14989/87841>
- 鈴木博之. 2005. 「チベット語音節構造の研究」『アジア・アフリカ言語文化研究』69: 1-23. <http://hdl.handle.net/10108/20212>
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (編). 1966. 『アジア・アフリカ言語調査表 (上)』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 原真由子. 2009. 「バリ語山地方言の語彙資料」『アジア・アフリカの言語と言語学』4: 259-296. <http://hdl.handle.net/10108/61393>
- 星 泉. 2018. 「チベット牧畜語彙の収集と辞典編纂」『チベット文学と映画製作の現在 SERNYA』5: 188-195.
- 星 泉. 2020. 「夏の草原で物語を聴く: フィールドワークの失敗と再挑戦」、リンディフォーラム: ウェビナーシリーズ (6)、2020年12月8日. <https://lingdy.aa-ken.jp/activities/research-events/201208-1dforum> (2021年4月11日確認).
- 星 泉. 2021. 「テントを育てる人とともに作る辞書」『図書』865 (2021年1月号): 12-15.
- 星 泉ほか. 2016. 「牧畜民の暮らしと文化」『チベット文学と映画製作の現在 SERNYA』3: 6-65.
- 星 泉ほか. 2017. 「牧畜民の暮らしと文化 Part 2」『チベット文学と映画製作の現在 SERNYA』4: 6-49.
- マードック、ジョージ P. ほか (編). 1988. 『文化項目分類』国立民族学博物館.
- Berlin, Brent & Paul Kay. 1969. *Basic color terms: their universality and evolution*. Berkeley: University of California Press.
- Huziwara, Keisuke. 2016. *Cak-English-Bangla dictionary: a Tibeto-Burman language spoken in Bangladesh*. Dhaka: A H Development Publishing House.
- Kaji, Shigeki. 1992. *Vocabulaire Hunde*. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA).
- Saya U Aung Kyaw, Caw Caay Hän Mai & Caw Khun Aay. 2001. 『シャン文化圏言語調査票』寮庵汎而学研究所.

Shintani, Tadahiko. 2008. *The Mun language of Funing county : its classified lexicon*. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA).

Tsering Samdrup and Hiroyuki Suzuki. 2019. “Humilifics in Mabzhi pastoralist speech of Amdo Tibetan”, *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42(2): 222–259. <https://doi.org/10.1075/ltba.17008.sam>

(附記) 草稿段階で海老原志穂氏と鈴木博之氏から有益なご意見をいただいた。

受理日 2021 年 4 月 13 日

ナガミーズ語の名詞修飾

村上武則

京都大学大学院博士後期課程

キーワード：名詞修飾、名詞化、補文化、関係節、クレオール

1 はじめに

ナガミーズ語はインド・アール系のアッサム語をドナー言語、チベット・ビルマ系のナガ諸語とコニャク諸語をホスト言語とするクレオール言語と定義される。ナガミーズ語はインド北東部ナガランド州全域に普及し州の全人口に相当する 200 万人以上によって共通語として話され、州内にはナガミーズ語を母語とする者も数万人以上存在していると見られる (Venkatesh 2018)。ナガミーズ語が言語学の研究対象となったのは Sreedhar 1974 が最初であり、M. V. Sreedhar はナガランド州西部先住民のカチャリ人の話すナガミーズ語のみをクレオールであるとして他のナガ系諸民族の話す変種をピジンとして区別しているが (Sreedhar 1974, p. 73)、本稿ではナガ系諸民族の話すナガミーズ語もクレオールであるとの立場を取る。ナガランド州においてナガミーズ語は実質的な共通語として最も広く理解される言語であるにもかかわらず公用語の地位を得ておらず、現在でもその法的位置づけが明らかではない。ナガランド州の公用語は英語であり、ナガミーズ語の中にも英語からの借用語が多数用いられ文中における許容度も高い。ナガミーズ語の口語には複数の民族の変種が確認されており (Sreedhar 1974, pp. [71]-89, [129]-139)、それと連動する形での地域の変種が分布している。本稿で扱う口語のデータは地域的には州都コヒマ付近の南部変種、民族的にはアンガミ・マオ系変種である。

2 ナガミーズ語の基本的特徴

2.1 形態・統語の基本

ナガミーズ語は SOV 型の語順を取り、TAM 標示は動詞接尾辞によって表される。基本的な代名詞と格標識は以下の通りである。

1sg. moi / ami 2sg. toi / tumi / apuni (apni) 3sg. tai (性の区別なし)

複数形は =khan を付加

主格=Ø

属格 =laga, (=la)

与格 =loi, =ke, (=k)

対格 =ke, (=k)

共同格 =logo, =logo=te, (=lo)

所格 =te, (=t)

奪格・具格 =pora

=pora は動作主を標示することも可能であり、これは基層言語における具格動作主標示の影響によるものと考えられる。括弧内の語形は短縮形を表す。

2.2 音韻論の基本

ナガミーズ語の音節構造は (C)(C)(V)V(C)(C) であり、音素は以下の通りである。

母音 /a/([ə]~[a]), /i/, /u/([u]~[ʊ]), /e/([e]~[ɛ]), /o/([o]~[ɔ]~[ʊ])

ヒンディー語の影響で /ə/ と /a/ の対立が新たに導入されつつあると見られるが未だ区別に一貫性が無く、本稿では /ə/ を独立の音素とは見做さず /a/ の異音とする。/u/ と /o/ は頻繁に交代するが、特定の語で最小対を成すため別々の音素として扱う。例. pura 「完全な」、pora 「～で、～から、～によって」(具格、奪格、動作主の標識)

子音 /k, k^h([k^h]~[x]), g, ŋ, tɕ([tɕ]~[tɕ^h]~[tʃ]), dʒ([dʒ]~[dʒ]~[z]), t([t]~[t]), t^h, d, n, p, f([f]~[p^h]), b, m, j, r([r]~[r]~[ɹ]), l, w([w]~[v]~[ʋ]), s([s]~[ɕ]~[ʃ]), h/

/tɕ/ はアッサム語には存在しない音素で、ヒンディー語、ベンガル語あるいはアッサム語の非標準変種から移入されたと考えられる。[x], [t], [ɹ]などはヒンディー語の影響でナガミーズ語の発話中にも実現されるようになったと考えられるが、/k^h/, /t/, /r/ の異音として必ずしも語源的に対応しない位置にまで現れる。アッサム語の /x/ と /h/ はナガミーズ語でいずれも /h/ に対応する。ヒンディー語やアッサム語の有声帯気音 [b^h], [d^h], [g^h], [dʒ^h] に対応する表記 <bh>, <dh>, <gh>, <jh> はナガミーズ語を書く際には綴りとして現れるが、実際の談話中の音声実現は無気音の [b], [d], [g], [dʒ]~[z] または [p^h],

[^h], [k^h], [t^e] などの無声音になり、たとえ個々の話者が有声帯気音を発声可能であってもナガミーズ語において一貫した音素として認められない。本稿では書かれた文章を引用する際には原綴りをそのまま残し、グロスでは音韻表記に基いて有声帯気音を有声無気音 /b, d, g, dz/ として扱う。/i/ と /e/ の交替も頻繁に見られるが、表記 <e> は実際には英語の e-mail の e- [i] のように /i/ を表していることがしばしばある。母音間に挟まれた子音が有声化することも多い。

2.3 方法と凡例

本稿のデータは 2019 年 4 月から 2020 年 1 月の間でのインド北東部ナガランド州およびマニプル州北端部における数度の現地調査によって得られたもの、および 2020 年以降に SNS とメールによって調査を行った結果と、ナガミーズ語のウェブサイト (Nagamese Open Bible Stories、https://door43.org/u/Door43-Catalog/nag_obs/master/ 以下 NOBS と略、数字は章の番号を表す) より抽出した用例に基くものである。インフォーマントの確認を経た作例であるか、または筆者が調査中に遭遇したにもかかわらず音声記録を怠ったり取得源がうる覚えであったりした用例を再構成してインフォーマントに確認したものについては出典を記していない。主な調査協力者は以下の 4 名である。右端の V. S. はナガランド州出身の非ナガ系民族の話者で、それ以外の 3 名はナガ系のマオ人である。調査の媒介言語は主に英語であるが、一部ヒンディー語とマニプリ語とタドゥ語も使用した。

調査協力者	D. Ch. (男)	K. Ch. (男)	D. A. (男)	V. S. (女)
L1	Nagamese	Nagamese	Mao	Thadou-Kuki
L2	Mao	Mao or English	Nagamese or Manipuri	Nagamese
年齢 (±1)	33	30	37	32

グロス中に用いる略号は

Leipzig Glossing Rules (<https://www.eva.mpg.de/lingua/resources/glossing-rules.php>) のものに準じるが、CVBL は *converbial* 「副動詞的接続形」、SEQ は *sequential* 「継起」、AGT は *agentive* 「動作主標示」とする。

3 ナガミーズ語の名詞修飾

ナガミーズ語の名詞修飾は修飾要素が被修飾名詞の前に現れ、以下のようなストラテジーを取る。以下は例文番号、Boruah 2014 の辞書に倣ったナガミーズ語の慣用的な表記、日本語訳、グロス(必要な場合のみ)の順に記す。

3.1 形容詞による修飾

(1) *lal kagoj* 「赤い紙」

lal kagoɕ

red paper

(2) *dangor chua* 「大きなネズミ」

dangor teua

big mouse

語順を逆にした *chua dangor* は名詞句ではなくコピュラ *ase* を省略した文「ネズミが大きい」と解される可能性があり、名詞修飾のあり方としては標準的ではない。

3.2 数詞による修飾

(3) *16 jati khan* 「16 の民族」、複数接語 *=khan* の使用は任意である。

(4) *3 hopta* 「3 週間」

ナガミーズ語の数詞は 1 から 10 まではアッサム語由来の形が、11 以上の数字は 20 (*bis*), 30 (*tis*), ..100 (*ho*) などの語形が単純なものを除き、ほとんど英語で代用される。

数詞はアッサム語の類別詞に由来する *=ta* を伴うことがあり、この *=ta* を伴う形では名詞の後ろにも現れる。

(5) *ekta solution / solution ekta* 「一つの解決法」

3.3 指示詞による修飾

itu 「これ、それ」、*otu* 「あれ」、*kuntu* 「どれ」

(6) *itu manu* 「この男」、(7) *otu maiki* 「あの女」、(8) *kuntu gari* 「どの車」

後置型の修飾も見られるが、その場合文のトピックとして強調を受けてい

ると解釈され、述語部分には現れることは少ない。

(9) *Manu itu criminal ase.* 「この男が犯人です。」

<i>manu</i>	<i>itu</i>	<i>kriminal</i>	<i>ase</i>
man	this TOP	criminal	is

(10) *Criminal tu itu manu ase.* 「犯人はこの男です。」

<i>kriminal</i>	<i>=tu</i>	<i>itu</i>	<i>manu</i>	<i>ase</i>
criminal	TOP	this	man	is

(*Criminal tu manu itu ase.* も可だが非標準的)

3.4 名詞の連続あるいはゼロ属格修飾

民族名、言語名、国名、会社・ブランド名、品種名、地名を表す固有名詞などで名詞の連続あるいはゼロ属格修飾と考えられるものが見られる。

(11) *Meitei jati* 「メイテイ民族」、(12) *Hindi kitab* 「ヒンディー語の本」

(13) *Japan manus* 「日本人」、(14) *Toyota gari* 「トヨタ車」、

(15) *Sakura ful* 「桜の花」、(16) *Eden bagan* 「エデンの園」

これらは英語からの借用表現の固有名詞にも多く見られ、後述するナガミーズ語の *=laga* による属格標示をあえて行わずにそのままの形で用いられる。

(17) *Nagaland police* 「ナガランド警察」(通例 **Nagaland laga police* とは言わない)

(18) *Dzukou valley* 「ヅコウ溪谷」(固有名詞として **Dzukou laga valley* とは言わない)

慣用的に用いられる名詞連続表現として次のようなものがある。これらは中身と容れ物の関係にあることが多い。属格標識 *=laga* の使用は任意であり、単なる属格の省略とも見做しうる。これらは一種の複合語としても解釈が可能である。

(19) *alu bag* 「ジャガイモの(入った)袋」(*alu laga bag* も可)

(20) *pani bottle* 「(飲料)水のボトル」(*pani laga bottle* も可)

(21) *gajor kheti* 「ニンジン畑」(*gajor laga kheti* も可)

3.5 属格標識 =laga を用いた修飾

名詞と名詞の連結において修飾する側の名詞の直後に属格標識の =laga が付加される。

(22) mekuri laga theng 「猫の脚」

<i>mekuri</i>	=laga	<i>t^hey</i>
cat	GEN	leg

(23) professor laga kitab 「教授の本」、(24) tai laga suali 「彼(または彼女)の娘」

以下の例では簡素化のため tai は性の指定の無い限り男性を指すものとする。

この laga はアッサム語の動詞 √lag 「付く」の動名詞形に由来し、一般に所有関係を表す。

=laga には短縮形 =la も存在する。

(25) toi la gari 「君の車」

laga による属格は主要部不在の所有表現を成すことも出来る。

(26) Otu moi laga ase. 「あれは私のだ。」

<i>otu</i>	<i>moi</i>	=laga	<i>ase</i>
that	I	GEN	is

ナガミーズ語の =laga は日本語の「の」と同様に素材や構成要素を表すことも可能である。

(27) aluminium laga thali 「アルミ製の皿」

<i>aluminium</i>	=laga	<i>t^hali</i>
aluminium	GEN	dish

ただし =laga を伴わない aluminium thali も可能である。

代名詞においてアッサム語形に由来する -r を伴う属格形が現れることがあるが、その多くは無意味属格形であり =laga が属格標識として重ねて用いられる。おそらく歴史的には -r 属格形と =laga を用いた属格形の両方が共

存していたであろうと予想されるが、アッサム語由来の *-r* 属格形が単独で属格の機能を果たすことは現代のナガミーズ語では少なくなっているように見られる。3 人称代名詞 *tai* については、アッサム語形由来の *tar* が無意味属格形としても主格形としても用いられることがある。

(28) *mor laga kitab / amar laga kitab / (amar kitab)* 「私の本」

(29) *moi laga kitab / ami laga kitab* 「私の本」

3.6 動名詞による修飾

各動詞の *-a* で終わる不定詞・動名詞形は名詞の前に直接置かれて名詞を修飾することが出来る。これはおおよそ日本語の連体修飾に対応していると考えられる。

(30) *Nagaland te thaka foreigner* 「ナガランドに滞在している外国人」

<i>nagaland</i>	<i>=te</i>	<i>tʰaka</i>	<i>forinar</i>
Nagaland	LOC	staying	foreigner

名詞を修飾する動名詞が目的語を有していることもある。

(31) *sabzi ke morai diya bimar* 「野菜を殺す病気」

<i>sabẓi</i>	<i>=ke</i>	<i>mora</i>	<i>-i</i>	<i>diya</i>	<i>bimar</i>
vegetable	ACC	die	CVBL	giving	disease

受動形の動名詞も同様に名詞を修飾する。

(32) *likhiya kotha* 「書き言葉」 (Aye 2015, p. 56)

<i>likʰiya</i>	<i>kotʰa</i>
written	speech

以下の例では主要部の *professor* を修飾している動名詞 *khawa* が補文化を行っているように見做すことも可能である。

(33) *Kali tumi laga ghor te bhat khawa professor tu TV program te ase.*

<i>kali</i>	<i>tumi</i>	<i>=laga</i>	<i>gor</i>	<i>=te</i>	<i>bat</i>	<i>kʰawa</i>	<i>profesor</i>	<i>=tu</i>
yesterday	you	GEN	house	LOC	rice	eat	professor	TOP

tiwi program =te ase

TV program LOC is

「昨日君の家でごはんを食べた教授がテレビに出ている。」

なお (33) において *khawa* は *kali*「昨日」という時間の指定が無ければ「食べている」(現在)と「食べた」(過去)のどちらの意味にもなりうる。

kowa「言う」を用いた埋め込みにより、文の定動詞部分と何の関係もない内容であっても主語名詞を修飾することが可能である。

(34) *Moi ke 'moribi' kowa maiki tu biya hoishe.*

moi =ke mor -i -bi kowa maiki =tu

I ACC die CVBL IMP saying woman TOP

biya ho -i -se

marriage become CVBL PST

「私に『死ね』と言った女が結婚した。」

補文機能の無い現在時制と過去時制の定動詞形は名詞を修飾することは出来ず、名詞ではなく述語を倒置した文に解される可能性がある。

(35*) **murkho ase manu* (*ase* はコピュラ動詞の現在形)

(35) *murkho manu* 「愚かな男」は可。

*は「愚かだ、男は。」という倒置文ならば成立可だが非常に限定的。

(36*) **pap korise maiki* (*korise* は動詞 *kora*「する」の過去形)

(36) *pap kora maiki* 「悪いことをしている女 / 悪いことをした女」は可。

pap kora maiki

sin doing woman

*は「悪いことをした、女は。」という倒置文ならば成立可だが非常に限定的

以下は属格標識の *=laga* と紛らわしいが、動名詞の *laga*「付く」を用いた名詞修飾である。

(37) *dam laga kitab* 「値段の張る本」、*「値段の本」ではない

dam laga kitab

price requiring book

3.7 動名詞によって補文化された関係節による修飾

Baishya 2013, p. 226 において関係節の例として以下の文が挙げられている。

(38) Apni moi ke kali diya kitab tu bisi dam laga ase.

<i>apni</i>	<i>moi</i>	<i>=ke</i>	<i>kali</i>	<i>diya</i>	<i>kitab</i>	<i>=tu</i>
you	I	DAT	yesterday	giving	book	TOP
<i>bisi</i>	<i>dam</i>	<i>laga</i>	<i>ase</i>			
much	price	requiring	is			

「あなたが私に昨日くれた本はとても値が張る。」

The book you gave me yesterday is expensive.

(39) Apni bisi bhal ase kowa manu tu moi laga dushmon ase.

<i>apni</i>	<i>bisi</i>	<i>bal</i>	<i>ase</i>	<i>kowa</i>	<i>manu</i>	<i>=tu</i>	<i>moi</i>	<i>=laga</i>	<i>dusmon</i>	<i>ase</i>
you	much	good	is	saying	man	TOP	I	GEN	enemy	is

「あなたがとても良いと言った男は私の敵である。」

The man you praised (lit. said) a lot is my enemy.

(40) Apni kali lok pawa manu tu amar laga mama ase.

<i>apni</i>	<i>kali</i>	<i>lok</i>	<i>pawa</i>	<i>manu</i>	<i>=tu</i>	<i>amar</i>	<i>=laga</i>
you	yesterday	encounter	gaining	man	TOP	my	GEN
<i>mama</i>	<i>ase</i>						
uncle	is						

「あなたが昨日会った男は私の叔父です。」

The man you met (lit. found) yesterday is my uncle.

(原文にはインド・アーリア語の借用元の原語に相当する a の母音の長音表記があるが、ナガミーズ語においては音韻的に母音の長短の対立は存在しないので全て a で表記を統一し、また筆者の判断で語の区切りを一部変更した。グロスと例文番号は本稿で使用するための付加的情報であり、原文には存在しない。)

(38)-(40) はいずれも *-a* で終わる動名詞形で節を閉じ、後続する名詞を修飾している。(38) は *kitab* 「本」は修飾節における動名詞の目的語であり、同時に主文の主語に当たる。(39) の動名詞 *kowa* 「言う」を使った埋め込み節による修飾の例では被修飾名詞との間に格関係が存在しており、*manu* 「男」は *kowa* の斜格目的語として (*say about him*) 扱われている。すなわち (38), (40)では対格関係が、(39) では斜格関係が関係節と被修飾名詞との間に想定されている。節内の主語と被修飾名詞が主格関係で一致するものは 前節 3.6 で論じた例に相当する。次に Faquire 2014, p. 26 に述べられた「分詞的關係節 (Participial relative clause)」における格関係の含意の分類に基いて他の格関係を有する修飾の例を見る。

(41) *bisi muslim thaka jaga* 「たくさんムスリムが住んでいる場所」

bisi muslim t^haka dzaga

much muslim staying place

この例では *jaga* 「場所」に(=*te*, 所格) たくさんのムスリムが住んでいるという所格の関係が関係節と被修飾名詞 *jaga* との間に想定されている。

(42) *Puali ke bhat khai diya chamus beka hoise.*

puali =ke bat k^ha -i diya teamus beka

child DAT rice eat CVBL giving spoon twisted

ho -i -se

become CVBL PST

「子供にご飯を食べさせるスプーンが曲がってしまった。」(桐生 2018)

chamus 「スプーン」で(=*pora*, 具格) ご飯を子供に食べさせるという具格の関係が関係節と被修飾名詞 *chamus* との間に存在している。

(43) *Apuni pora kitab diya lora tu Kohima te jaise.*

apuni =pora kitab diya lora =tu kohima =te dza -i -se

you AGT book giving boy TOP kohima LOC go CVBL PST

「あなたが本をあげた少年はコヒマに行った。」

一見 (38) と似ているが被修飾名詞の *lora* 「少年」は節内動詞 *diya* 「与える」の間接目的語であり、関係節との間に与格の関係が存在している。

(44) Otu manu phone beya howa student ase.

otu manu fon beya howa student ase

that man phone bad becoming student is

「あの男が(彼の)携帯電話が壊れた(という)学生だ。」(倉部 2018)

この例では節内主語の *phone* が 被修飾名詞の *student* に所有されている (*student laga phone*) という属格関係が含意されている。しかし動詞を見ると「彼にとって電話が壊れる」事態が生じたという被害の斜格関係が存在しており、(39) と同じタイプに分類することも可能である。

動名詞は主要部不在の名詞句を成すことも可能である。

(45) Moi diya tu comic ase, dictionary nai.

moi diya =tu komik ase diksanari nai

I giving TOP comic is dictionary is not

「私があげたのはマンガで、辞書ではない。」

(46) tumi pora tai ke morai diya pap 「君が彼を殺した(という)罪」

tumi =pora tai =ke mora -i diya pap

you AGT he ACC die CVBL giving sin

この例では節全体が被修飾名詞の *pap* と同格で罪の内容を説明しているに過ぎない。あるいは、*pap* を節の内容の「結果(生じた罪)」であると解釈すると *pap* は 寺村 1975 p. 111 が「外の関係」と分類しているものに相当する。

laga が補文化の動名詞の後に後続することがある。

(47) Isor pora bagan te berai thaka laga awaj 「神が庭を歩いている音」(NOBS 2)

isor =pora bagan =te bera -i t'aka =laga awadz

God AGT garden LOC roam CVBL staying GEN sound

この *laga* が属格標識の *=laga* と同一であるか、それとも動名詞として *thaka* 以前の名詞句の内容が被修飾名詞に対して「付随している (*adhering*)」と述べているのかは正確には判断出来ないが、*laga* を省略しても文意は変わらない。

(48) Isor pora bagan te berai thaka awaj 「神が庭を歩いている音」

この場合は節内の要素ではない名詞を修飾しており、「外の関係」を表す名詞修飾となる。

次も名詞修飾節の表す事態の結果生じたものが主要部名詞となる例である。

(49) Tai jit howa reward tu 1 million dollar ase.

tai dzit howa riword =tu 1 m. d. ase
 he win becoming reward TOP million is

「彼が勝った褒賞は 100 万ドルだ。」

3.8 未来形 -bo を補文標識とするもの

動詞の未来形 -bo が後続する名詞を修飾することも出来る。ただし -bo 形は動名詞と違って定動詞としてもこのままの形で機能するため、名詞修飾に使われる例は動名詞と比して極めて限られている。

(50) olympic player hobo lora 「(将来)オリンピック選手になる少年」

olimpik pleyar ho -bo lora
 olympic player become FUT boy

(51) manus na-kamuribo kutta 「人を噛まない犬」

manus na- kamur -i -bo kutta
 person NEG bite CVBL FUT dog

(52) Dimapur airport te ahibo flight tu IndiGoAir ase.

dimapur eaport =te ah -i -bo filait =tu indigo ea ase
 Dimapur airport LOC come CVBL FUT flight TOP IndiGoAir is
 「ディマプル空港に到着する航空便はインディゴ航空(の便)です。」

この例では未来形 ahibo 「来るだろう」が flight 「航空便」を修飾しているが、名詞句 ahibo flight だけを抽出すると Flight ahibo. 「航空便が到着するだろう。」という文の倒置文と解釈される可能性がある。これも -bo が定動詞として機能する形であることに起因していると思われる。

未来形 *-bo* は 3.7 節に述べた動名詞 と同じく名詞を修飾する関係節構造を取ることが可能である。

(53) *Ami pora dibo kitab poribi.* 「私_Iがあげる本_{book}を読みなさい_{read}。」

ami =pora di -bo kitab por -i -bi
I AGT give FUT book read CVBL IMPR

被修飾名詞 *kitab* 「本」は節内の動詞部分 *dibo* 「あげるだろう」の直接目的語であり対格の関係が存在している。このように *-bo* にも *-a* で終わる動名詞と同じ補文機能があることが分かるが、*-bo* 形は名詞として使われることはない。

(54) *khawa-lowwa* 「食料 (lit. 食べること・取ること)」 **khabo-lobo* は名詞としては不可

また、3.7 節同様に *-bo* によって補文化された節が修飾する名詞との間に主格や対格以外の格関係を持つことも出来る。

(55) *moi laga bura baba laga baba thakibo sorgo tu itu prithibi te nai.* (所格)

moi =laga bura baba =laga baba thak -i bo sorgo =tu
I GEN old father GEN father stay CVBL FUT heaven TOP
itu prithibi =te nai
this world LOC is not

「私のひいおじいさんがいるだろう天国はこの世界には無い。」

(56) *Gas katibo kuthar dibi!* 「木_{tree}が切れる斧_{axe}をくれ！」 (意味的には具格)

gas kat -i -bo kuthar di -bi
tree cut CVBL FUT axe give IMP

gas 「木」を *kuthar* 「斧」が切るので機能的には主格である。

(57) *Apuni paisa dibo maiki tu criminal ase.* (与格)

apuni paisa di -bo maiki =tu kriminal ase
you money give FUT woman TOP criminal is

「あなたがお金をあげようとしている女性は犯罪者だ。」

(58) Kokai policeman hobo lora tu suri korise. (属格)

kokai policeman ho -bo lora =tu suri
 elder brother policeman become FUT boy TOP theft
kor -i -se
 do CVBL PST

「兄が警官になる少年が泥棒をした。」

(59) Kohima te PM ahibo khobor ase. (同格)

kohima =te PM ah -i -bo k^hobor ase
 Kohima LOC PM come CVBL FUT news is

「コヒマに首相が来る(という)ニュースがある。」

ただし引用符として *koikena* 「という」(「言う」の継起形) を *ahibo* の後ろに用いたものの方がより自然な文であると解される。

(60) Kohima te PM ahibo koikena khobor ase. 「コヒマに首相が来るというニュースがある。」

この *-bo* 未来形が後述する *-bo-le* 接続形と同様に思考や意図に関係した名詞を修飾することがある。文中に使われている *khabole* は条件を表す用法で名詞は修飾していない。

(61) Itu maiki gaas te thaka guti dikhikena bisi sundor lagise aru khabole bisi bhal hobo bhabna kurise. (NOBS 3)

itu maiki gas =te t^haka guti dek^h -i -kena
 this woman tree LOC staying fruit see CVBL SEQ
bisi sundor lag -i -se aru k^ha -bo -le
 much beautiful feel CVBL PST and eat FUT SBJV
bisi bal ho -bo babna kor -i -se
 much good become FUT thought do CVBL PST

「この女は木に実が成っているのを見てとても美しいと思い、そして食べたらとても美味しいだろうと考えた。」

ここでは *bisi bhal hobo* 「美味しいだろう」が補文化され *bhabna* 「思考」を修飾し *bhabna* の内容を述べている。

3.9 接続法 -bo-le 形を補文標識とする非実現の名詞修飾

従来接続法の -bo-le 形は条件や目的などを表す複文の従属節に現れるものであるが、補文化の機能を持ち名詞を直接修飾することも可能である。

(62) *Moi gor te jabole mon ase.* 「私は家に行きたい。」

moi gor =te ja -bo -le mon ase
I house LOC go FUT SBJV mind exist

jabole で補文化された節「私は家に行きたい」は *mon*「精神」を修飾する。

この際に *mon*「精神」の所有者である動作主 *moi*「私」はトピック主語として無標の形を取り、所有文に通例現れる属格標示を受けない。

動詞の接続法 -bo-le 形はこの他に「思考 (*babona*)」、「思惑 (*babi*)」、「知恵 (*gyan-budi*)」、「願望 (*icha*)」、「期待、希望 (*asha*)」、「努力 (*kosis*)」、「同意、許可 (*monjur*)」、「命令 (*hokum*)」、「理由、目的 (*nimit*)」、「能力 (*shakti*)」、「権利 (*hak*)」、「方法 (*rasta*)」、「時期、タイミング (*homoi*)」、「決定 (*faisla*)」、「知らせ (*khobor*)」、「*hosa* (真実)」といった抽象名詞と結びつく傾向にあり、未だ実現していない動作に関する補文化が可能である。

(63) *bhal-bia janibole gyan-budhi* 「善悪を知るための知恵」 (NOBS 1)

bal beya dzan -i -bo -le gyan budi
good evil know CVBL FUT SBJV knowledge wisdom

(64) *Aru tai apuni ke pap logote lorai kuribole shakti dibo.* (NOBS 49)

aru tai apuni =ke pap =logo =te lorai
and he you DAT evil SOC LOC fight
kor -i -bo -le sakti di -bo
do CVBL FUT SBJV strength give FUT

「そして彼はあなたに悪と戦うための力を与えるだろう。」

(65) *itu prithibi khotom hobole homoi* 「この世界が終わる時」 (NOBS 50)

itu prithibi khotom ho -bo -le homoi
this world end become FUT SBJV time

(59) の -bo を -bo-le に変えた文も可能で、意味上の違いは特に認められない。

(66) Kohima te PM ahibole khobor ase.

kohima =te PM ah -i -bo -le k^hobor ase

Kohima LOC PM come CVBL FUT SBJV news is

「首相が来るだろうというニュースがある。」

接続法の -bo-le 形によって補文化された節は被修飾名詞の内容を説明する同格の用法を持つ。

一方で接続法 -bo-le 形は動詞で述べられる目的を実現するための道具や手段を表す一般名詞を修飾することも可能である。

(67) English hikabole kitab 「英語を教える(ための)本」

inglis hika -bo -le kitab

English teach FUT SBJV book

(68) Arunachal jabole permit 「アルナーチャル州へ行く(ための)許可証」

arunateal dza -bo -le pamit

Arunachal go FUT SBJV permit

動名詞と未来形と接続法形の名詞修飾の違いは以下の点に見出される。

(69) khawa kutta 「食べる犬」 (khabo kutta 「食べるだろう犬」、この名詞句単独では極めて容認性が低く、「食べるだろう、犬が」という倒置文と解釈される可能性がある)

これらは何かを食べる犬のことで、食用犬については

(70) khabole kutta 「食べるための犬」あるいは

(71) khabole para kutta 「食べるのが可能な犬」となる。

k^ha -bo -le para kutta

eat FUT SBJV possible dog

para を未来形にした

(72) khabole paribo kutta は「(これから何かを)食べられる犬」を指す。

k^ha -bo -le par -i -bo kutta
eat FUT SBJV be possible CVBL FUT dog

(73) Ami khan laga survival nimate tai ami khan ke khabole kutta dise.

ami =k^han =laga sabaibal nimit =(t)e ami =k^han =ke k^ha -bo -le
I PL GEN survival reason LOC I PL DAT eat FUT SBJV
kutta di -se
dog give PST

「私たちの生存のために彼は私たちに食べる(ための)犬を与えた。」

つまり -bo-le が用いられる場合は目的を実現するための動作主体が被修飾名詞とは別に存在し、被修飾名詞とは一致しない。

(52) の -bo を -bo-le 形に差し替えた

(72) Dimapur airport te ahibole flight tu IndiGo Air ase.

dimapur eaport =te ah -i -bo -le filait =tu indigo ea ase
Dimapur airport LOC come CVBL FUT SBJV flight TOP IndiGoAir is

「ディマプル空港へ来る(ための)フライトはインディゴ航空です。」

(52) は空港に到着する航空便について単に述べただけであるが、(72) の場合は具体的な誰かがディマプル空港に来るために搭乗する便について述べているという違いがある。

「外の関係」を表す修飾の場合、節内の動詞部分が未来形または接続法形の場合は、動詞部分の結果として生じる節外の要素を修飾することは出来ない。

(73) mach jola gund 「魚を焼くにおい」

mate dzola gund
fish burning smell

*mach jolabo gund / *mach jolabole gund は不可

gund 「におい」は魚を焼いた結果として現れるものであり、また「におい」を使っても魚をこれから焼くことは出来ないため、*-bo*, *-bo-le* 形による修飾は出来ない。

これに対して「内の関係」(寺村 1975 p. 110) においては、動名詞、未来形、接続法形いずれも名詞を修飾することが可能である。

(74) *mach jola ag* 「魚を焼いている / 魚を焼いた炎」

(75) *mach jolabo ag* 「魚を焼くだろう炎」(この名詞句単独では容認性が低い)

(76) *mach jolabole ag* 「魚を焼くための炎」

以下の例は寺村 1977 p. 34 が「短絡」と呼ぶものに相当すると考えられる。

(77) *gyani hobole kitab* 「(読者が)賢くなる(ための)本」

gyani ho -bo -le kitab
wise become FUT SBJV book

(78) *Itu rasmalai tu morte na hobole mithai ase.*

itu rasmalai =tu mosto na- ho -bo -le mit^hai ase
this rasmalai TOP being fat NEG become FUT SBJV sweets is

「このラスマライは(食べても)太らない(ような)お菓子だ。」

「太らないためのお菓子だ」という解釈も可能である。

動名詞を用いた *gyani howa kitab* (?) 「賢くなる本」、*mosto na-howa mithai* (?) 「太らないお菓子」は接続法形の *hobole* を使用した (77), (78) に比べて話者の間で容認性が大きく下がった。これは被修飾名詞が動詞部分の動作を実現するのが不可能な非生物名詞で、かつ明示されていない動作主に関する動名詞 *howa* に対し被修飾名詞が具格関係を有すると解釈するのが困難であるためと考えられる。翻って *-bo-le* 形は動作主が被修飾名詞とは別に存在することをあらかじめ含意しているため、(77), (78) のような「短絡」表現も理解されると考えられる。

以下の文は被修飾名詞句が前置されているようにも見えるが、主要部内在型の名詞修飾とも考えることが出来る。ここでの *laga* は属格標識ではなく

接続法と共に用いられて「必要・義務」を表す動詞としての動名詞である。

(79) ...itu nimate tai Israel laga manu khan ke kisim-kisim niom khan tai khan manibole laga dise. (NOBS 14, 一部表記の変更を行った。)

itu nimit =(t)e tai idzrael =laga manu =k^han =ke
 this reason LOC he Israel GEN man PL DAT
kisim² niyom =k^han tai =k^han man -i -bo -le
 various order PL he PL follow CVBL FUT SBJV
laga di -se
 requiring give PST

「このために彼(=神)はイスラエルの民に様々な命令(のうち)で彼らが従う必要がある(も)のを与えた。」

laga の後に *niom khan* 「命令」が省略されていると考えることも可能である。

(80) Tai kuthar pora gas katibole tu huru ase.

tai kut^har =pora gas kat -i -bo -le =tu huru ase
 he axe INST tree cut CVBL FUT SBJV TOP small is

「彼が(使う)斧で木を切るための小さい。」

katibole の後に *kuthar*「斧」が省略されていると考えることも可能である。

4 まとめと今後の課題

ナガミーズ語の名詞修飾は基本的に前置型で、形容詞、数詞、指示詞、名詞連続のほか動詞の動名詞形、未来形、接続法形に補文化の機能があり、節を形成して名詞を修飾することが可能である。動名詞形は現在時制および過去時制の、未来形は未来時制の動作事象に基き、その動作主体および動作と何らかの格関係を持つ名詞を修飾する。接続法形は未だ実現されていない動作事象を導く意思、目的、能力、認可、事実などの抽象名詞あるいは道具や手段と結びついた名詞を修飾し、被修飾名詞と節内の動作主は一致しない。

本稿ではナガミーズ語の名詞修飾のパターンがどの程度ホスト言語から影響を受けているのか、またドナー言語のアッサム語およびその近縁言語とど

のような違いがあるのかといったことについて言及するに至らなかった。複数の名詞修飾要素が同時に存在している場合にも、おそらくはその順序に基層言語の影響があると考えられるが十分な調査を行えなかったために本稿中に述べられなかった。また相関指示詞 (correlative) の *jun* や *je* を用いた関係詞文における名詞修飾についても触れることが出来なかった。動名詞と未来形の補文化においても語彙レベルでの被修飾名詞と動詞の組み合わせに関する傾向あるいは制限の有無といった点について未だ調べられていない。これらの課題を念頭に置いて基層言語のナガ諸語と共に今後も調査を進めていくことが求められる。

参考文献

Aye, N. Khashito (2015), *Anglo-Nagamese Grammar : the Lingua Franca of Nagaland : Translated into English and Sümi*, Revised 2nd ed., ATICOS Publications, Dimapur

Baishya, Ajit Kumar (2003) *The Structure of Nagamese : the Contact Language of Nagaland*, Thesis submitted in fulfillment of the requirement for the award of the degree of Doctor of Philosophy, Department of Linguistics, Assam University, Silhar, Boruah, Bhim Kanta (2014), *Dictionary of Nagamese Language : Nagamese-English-Assamese*, Mittal Publications, New Delhi

Faquire, Razaul Karim, (2014), "Revisiting Relative Clauses in Japanese, with Reference to Bangla" 『国立国語研究所論集』 8: pp. 15-31、国立国語学研究所、https://www.researchgate.net/publication/330825404_Revisiting_Relative_Classes_in_Japanese_with_Reference_to_Bangla

Sreedhar, M. V. (1974), *Naga Pidgin : a Sociolinguistic Study of Inter-Lingual Communication Pattern in Nagaland*, Central Institute of Indian Languages, Mysore Venkatesh, Karthik (2018), "Used, but Not Claimed", *The Case of Nagamese ; an Essay*, https://raiot.in/used-but-not-claimed/#_edn7

桐生和幸 (2018) 「メチェ語の名詞修飾表現」、国立国語研究所「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」プロジェクト、文法研究班「名詞修飾表現」、平成30年度第2回研究発表会@神戸大学、配布資料

倉部慶太 (2018) 「ジンポー語における名詞化と名詞修飾節」、同、配布資料 http://crosslinguistic-studies.ninjal.ac.jp/noun/?page_id=274

寺村秀夫 (1975) 「連体修飾のシンタクスと意味—その 1—」 『日本語・日本文化』 第 4 号 pp.71-119、大阪外国語大学研究留学生別科

寺村秀夫 (1977) 「連体修飾のシンタクスと意味—その 2—」 『日本語・日本文化』 第 5 号 pp.29-78、大阪外国語大学研究留学生別科

ウェブサイト

Nagamese Open Bible Stories (NOBS)

https://door43.org/u/Door43-Catalog/nag_obs/master/

(All Weblinks Retrieved on 12. Apr. 2021)

受理日 2021 年 4 月 13 日

言語記述論集 第13号

言語記述研究会

2021年4月30日発行

ISSN 2432-244X